



日本語コーパスを用いた漢語動名詞の記述的分析－ 日本語教育への応用－

陳, 迪

(Degree)

博士 (学術)

(Date of Degree)

2025-03-25

(Date of Publication)

2026-03-01

(Resource Type)

doctoral thesis

(Report Number)

甲第9096号

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/0100496377>

※ 当コンテンツは神戸大学の学術成果です。無断複製・不正使用等を禁じます。著作権法で認められている範囲内で、適切にご利用ください。



博士論文

日本語コーパスを用いた漢語動名詞の記述的分析

－日本語教育への応用－

2025 年 1 月

神戸大学大学院国際文化学研究科

陳 迪

日本語コーパスを用いた漢語動名詞の記述的分析 ー日本語教育への応用ー

所 属 専 攻・コース：グローバル文化・外国語教育コンテンツ論
氏 名：陳 迪
指 導 教 員 氏 名：石川 慎一郎

(要旨)

日本語の語彙には、「努力」「勉強」など、単独で名詞として使われるが、「する」をつけることでサ変動詞としても使われる漢語名詞が存在している。このような語は、名詞と動詞の両方の特徴を有するもので、本研究ではこれらを「漢語動名詞」と呼ぶ。

漢語動名詞は、量・質両面で、日本語語彙の重要な一部となっている。野村（1999）は、基本漢語 3,000 語の 36.3%が、サ変動詞語幹になりうる動態類 2 字漢語名詞、つまり、いわゆる漢語動名詞であると指摘している。しかし、漢語動名詞が全体として高頻度であるとしても、現代日本語の書き言葉・話し言葉において、どのような漢語動名詞が高頻度かつ汎用的に使用されており、かつ、それらがどのような具体的用法を有しているのかといった点については必ずしも明確な指針が得られない。

また、漢語動名詞は、文法的に、際立った特徴を有する。影山（1993）は漢語動名詞を含む動名詞全般を日本語の主要な語彙範疇とみなすことを提案し、名詞・動詞・動名詞の間の複雑な関係性を整理している。影山によれば、動名詞は、単独で主語や目的語として使われるという点や、用途を表す「～用」と共起するという点で名詞との共通性を持ち、尊敬語の「お／ご～になる」、依頼表現の「お／ご～ください」と共起するという点で動詞との共通性を持つとされる。しかし、動名詞はまた、「する」をつけると形態的にサ変動詞になって、文中で述語や連体修飾語として使用できるという点で、名詞とも動詞とも異なる顕著な固有特性を持つ。このことは、動名詞全般、とくにその中核を占める漢語動名詞の特殊な言語特性を示唆するが、主要な漢語動名詞の各々が、現代日本語において、それぞれ、名詞と動詞のはざまでどのような品詞特性、さらにはより広い言語特性を有しているか、という点についてはいまだ全体的な理解が得られていない。

以上で見たように、漢語動名詞は、その語彙としての重要性とは裏腹に、重要漢語動名詞の特定や、その基本的用法の解明という点で、今なお未解明の問題が残されている。こ

のことは、日本語教育にも間接的な影響を与えている。実際、日本語教育、とくに世界の日本語学習者の多数を占める中国語母語の日本語学習者（L1 Chinese learners of Japanese : CLJ）対象の日本語教育において、漢語動名詞が主要な指導項目として取り上げられ、明示的で体系的な指導がなされることはほとんどない。

もっとも、CLJ は豊富な漢字知識を有しているため、母語の知識を応用して漢語の意味を推定することができることから、漢語動名詞の習得は容易であるように見えるかもしれない。しかし、実際に産出した作文を調査すると、CLJ であっても、漢語動名詞に関連する誤用や不自然な用例は極めて多い。こうした現状を改善するためには、高頻度で汎用的に使用される漢語動名詞を特定した上で、それらを多角的に分析し、得られた知見を根拠として、漢語動名詞の効果的な習得を支援する教材や教授システムの開発を行うことが不可欠である。

そこで、本研究は、コーパス言語学の研究理念と研究手法に基づき、現代日本語の大規模コーパスを活用し、日本語学の観点から漢語動名詞の諸特性を詳細に調査・記述・整理した上で、各種の日本語学習者コーパスを活用し、学習者の抱える漢語動名詞の使用上の問題を考究する。これらをふまえ、最終的に、日本語学習者、とくに CLJ の漢語動名詞習得を支援する教材の在り方について基礎的検討を行うことが本研究の主たる目標である。

以上の立場に基づき、本研究は、(1) 重要漢語動名詞の抽出、(2) 形態論・統語論・意味論・語用論・対照語彙論などの一般言語学的観点から見る漢語動名詞の使用特性の解明、(3) 日本語教育における漢語動名詞の使用特性の解明、(4) CLJ を対象とした漢語動名詞指導教材の開発、の 4 点に注目し、これらを全 4 部、全 13 章の中で議論していく。以下、各部・各章の内容について簡潔に要約する。

まず、第 I 部「研究の枠組み」では、本研究の枠組みについて説明する。第 1 章では、漢語動名詞の定義および呼称を確認した上で、現代日本語および日本語教育における漢語動名詞の重要性を概観し、本研究のねらいと構成を説明する。第 2 章では、これまでの漢語動名詞に関する研究を詳しく見ることとする。第 3 章では、本研究で使用したデータと統計手法について概観する。

次に、第 II 部「言語学的視点に基づく漢語動名詞の特性分析」では、頻度論の観点から現代日本語における重要漢語動名詞を抽出した上で、それらの統語的・意味的特性について計量的に調査して考察する。第 4 章では重要漢語動名詞の抽出、第 5 章では漢語動名詞の品詞性、第 6 章では漢語動名詞の連体修飾用法、第 7 章では漢語動名詞の意味記述、に

それぞれ注目して調査する。

第Ⅲ部「中国語を母語とする学習者の漢語動名詞使用傾向の解明」では、CLJ の漢語動名詞の使用実態（誤用率、産出量、語彙難度、特徴語）を調査したあと、対照語彙論の観点から中国語と日本語の漢語動名詞比較を行う。また、学習者の使用実態の分析にあたっては、CLJ の特性を多角的に見るため、日本語母語話者だけでなく、英語母語の日本語学習者（L1 English learners of Japanese : ELJ）および朝鮮語／韓国語母語の日本語学習者（L1 Korean learners of Japanese : KLJ）との比較も行う。第 8 章では学習者による発話・作文中の漢語動名詞の計量的な使用実態を調査する。第 9 章では学習者による日中同形漢語動名詞の使用特徴、第 10 章では中国語と日本語における同形漢語動名詞の対応性を考察し、中国語からの影響を検証する。

第Ⅳ部「中国語を母語とする学習者向けの漢語動名詞指導の展望」では、本研究で得られた知見を実際の日本語教育に応用するため、まず現時点での CLJ における漢語動名詞に関する知識の把握状況を調査し、その後、CLJ 向け教材の開発に向けた準備作業を進める。第 11 章では、CLJ が漢語動名詞にどの程度の知識を持っているかをテストにより調査し、これまでの学習経験や意識についてもアンケートを実施する。第 12 章では、本研究で明らかになった漢語動名詞の各側面の特性をもとに、解説シートおよび問題シートの開発を試みる。

最後に、第 13 章において、本論文の内容についてまとめ、課題と制約、また、今後の研究展望について概観する。

目 次

第I部 研究の枠組み	1
第1章 はじめに	2
1.1 はじめに	2
1.2 用語の定義	4
1.2.1 漢語	4
1.2.2 動名詞	5
1.2.3 漢語動名詞	10
1.3 漢語動名詞研究の意義	10
1.3.1 言語学的意義	10
1.3.2 教育学的意義	13
1.4 本研究のねらいと構成	23
第2章 先行研究	27
2.1 漢語動名詞研究の現状	27
2.2 頻度論から見る漢語動名詞の特性	29
2.3 品詞論から見る漢語動名詞の特性	32
2.3.1 漢語動名詞の品詞用法	32
2.3.2 漢語動名詞の品詞用法の時代的变化	33
2.3.3 現代における漢語動名詞の品詞用法	34
2.3.4 漢語動名詞の品詞特性の判定基準	36
2.4 統語論から見る漢語動名詞の特性	37
2.4.1 日本語全般の連体修飾	37
2.4.2 漢語や漢語動名詞の連体修飾	40
2.5 意味論から見る漢語動名詞の特性	43
2.5.1 類義漢語間の比較	44
2.5.2 語種をまたぐ類義語間の比較	46
2.6 対照語彙論の観点から見る漢語動名詞	47
2.6.1 同形語の種類数や頻度に関する研究	48
2.6.2 同形語の意味に関する研究	48
2.6.3 中国語母語学習者の同形語使用に関する研究	49

2.7	日本語教育学の観点から見る漢語動名詞の特性.....	50
2.7.1	中間言語対照分析.....	50
2.7.2	CLJ の漢語動名詞の使用特性に関する研究.....	51
第3章	データと手法.....	55
3.1	使用するデータ.....	55
3.1.1	母語話者コーパス.....	55
3.1.2	学習者コーパス.....	65
3.2	使用する統計手法.....	71
3.2.1	仮説検定.....	71
3.2.2	対応分析.....	72
3.2.3	主成分分析.....	73
3.2.4	回帰分析.....	73
3.3	対象表現の抽出法.....	74
3.3.1	「少納言」と「中納言」.....	74
3.3.2	「中納言」上での検索設定.....	76
3.4	まとめ.....	81
第II部	言語学的視点に基づく漢語動名詞の特性分析.....	82
第4章	頻度論から見た漢語動名詞ー重要漢語動名詞の抽出.....	83
4.1	はじめに.....	83
4.2	リサーチデザインと手法.....	83
4.2.1	研究目的と RQ.....	83
4.2.2	データ.....	84
4.2.3	手法.....	86
4.3	結果と考察.....	87
4.3.1	RQ1 言語変種別の漢語動名詞全体頻度.....	87
4.3.2	RQ2 変種別最頻出語の重複度.....	88
4.3.3	RQ3 重要漢語動名詞の抽出.....	89
4.3.4	RQ4 重要漢語動名詞の分類.....	93
4.4	まとめ.....	96
第5章	品詞論から見た漢語動名詞.....	97

5.1	はじめに	97
5.1.1	ねらい.....	97
5.1.2	背景	97
5.2	リサーチデザインと手法.....	99
5.2.1	研究目的と RQ.....	99
5.2.2	データ.....	100
5.2.3	手法	100
5.3	結果と考察	104
5.3.1	RQ1 動詞性・名詞性の高い漢語動名詞	104
5.3.2	RQ2 漢語動名詞の分類と区分ごとの統語特性	107
5.3.3	RQ3 漢語動名詞の区分ごとの意味特性	111
5.4	まとめ	116
第 6 章	統語論から見た漢語動名詞ー連体修飾節に注目してー	118
6.1	はじめに	118
6.1.1	ねらい.....	118
6.1.2	背景	118
6.2	リサーチデザインと手法.....	121
6.2.1	研究目的と RQ.....	121
6.2.2	データ.....	122
6.2.3	手法	122
6.3	結果と考察	126
6.3.1	RQ1 3種の構造パターンの典型性	126
6.3.2	RQ2 3種の構造パターンの意味特性	128
6.3.3	RQ3 言語特性による構造パターンの選択	139
6.4	まとめ	143
第 7 章	意味論から見た漢語動名詞ー類義動詞の使い分けに注目してー	145
7.1	はじめに	145
7.1.1	ねらい.....	145
7.1.2	背景	145
7.2	リサーチデザインと手法.....	148

7.2.1	研究目的と RQ.....	148
7.2.2	データ.....	149
7.2.3	手法.....	149
7.3	結果と考察.....	157
7.3.1	RQ1 使用頻度.....	157
7.3.2	RQ2 使用環境.....	158
7.3.3	RQ3 動詞活用形.....	162
7.3.4	RQ4 動詞共起語.....	164
7.3.5	RQ5 語義配列.....	174
7.4	まとめ.....	178
第Ⅲ部	中国語を母語とする学習者の漢語動名詞使用傾向の解明.....	182
第 8 章	中国語母語の学習者による漢語動名詞の全体的使用状況.....	183
8.1	はじめに.....	183
8.1.1	ねらい.....	183
8.1.2	背景.....	183
8.2	リサーチデザインと手法.....	186
8.2.1	研究目的と RQ.....	186
8.2.2	データ.....	188
8.2.3	手法.....	191
8.3	結果と考察.....	193
8.3.1	第 1 課題（発話）.....	193
8.3.2	第 2 課題（作文）.....	213
8.4	まとめ.....	226
第 9 章	中国語母語の学習者による日中同形漢語動名詞の使用特徴.....	228
9.1	はじめに.....	228
9.1.1	ねらい.....	228
9.1.2	背景.....	228
9.2	リサーチデザインと手法.....	229
9.2.1	研究目的と RQ.....	229
9.2.2	データ.....	230

9.2.3	手法	230
9.3	結果の考察	232
9.3.1	RQ1 過剰・過少使用漢語動名詞における同形語	232
9.3.2	RQ2 使用頻度の差	233
9.3.3	RQ3 品詞パターン之差	236
9.3.4	RQ4 コロケーションパターン之差	239
9.4	まとめ	246
第 10 章	中国語と日本語における日中同形漢語動名詞の対応性	249
10.1	はじめに	249
10.1.1	ねらい	249
10.1.2	背景	250
10.2	リサーチデザインと手法	250
10.2.1	研究目的と RQ	250
10.2.2	データ	251
10.2.3	手法	251
10.3	結果と考察	253
10.3.1	RQ1 日本語における同形語比率	253
10.3.2	RQ2 同形語における日中間一致率	254
10.3.3	RQ3 日本語版に出現した同形語の原典版における分散度	259
10.4	まとめ	263
第IV部	中国語を母語とする学習者向けの漢語動名詞指導の展望	265
第 11 章	中国語母語の学習者の漢語動名詞の運用能力と意識	266
11.1	はじめに	266
11.1.1	ねらい	266
11.1.2	背景	266
11.2	リサーチデザインと手法	268
11.2.1	研究目的と RQ	268
11.2.2	調査フォームの開発	268
11.2.3	本調査の協力者	276
11.2.4	手法	277

11.3	結果と考察.....	278
11.3.1	RQ1 漢語動名詞基礎知識の運用能力	278
11.3.2	RQ2 漢語動名詞の応用知識の運用能力	282
11.3.3	RQ3 漢語動名詞習得に対する自己評価および指導に対する意識.....	290
11.4	まとめ.....	293
第 12 章	中国語母語の学習者を支援する漢語動名詞教材の方向性について.....	294
12.1	はじめに	294
12.1.1	ねらい.....	294
12.1.2	背景.....	294
12.2	リサーチデザイン.....	298
12.2.1	研究目的.....	298
12.2.2	研究手法.....	299
12.3	作成された学習シートの内容.....	300
12.3.1	I頻度論学習シート	300
12.3.2	II品詞論学習シート	304
12.3.3	III統語論学習シート	307
12.3.4	IV意味論学習シート	311
12.3.5	V日中同形語学習シート	315
12.4	フィードバックの聴取.....	318
12.4.1	全体評価.....	319
12.4.2	学習シートの具体的な改善提案.....	320
12.5	まとめ	322
第 13 章	本研究で得られた知見および制約と課題	327
13.1	本研究で得られた知見.....	327
13.2	本論文の課題と今後の方向性.....	331
参考文献		334
付録 1	〔第 4 章〕現代日本語重要漢語動名詞リスト（全 200 語）	341
付録 2	〔第 10 章〕『三体』日本語版と中国語原典版における漢語動名詞	344
付録 3	〔第 11 章〕調査フォーム（ベータ版）	358
付録 4	〔第 11 章〕調査フォーム（正式版）	394

付録 5	〔第 12 章〕 学習シートに関するインタビュー	429
謝辞		437

第 I 部 研究の枠組み

第 I 部は、漢語動名詞の用法解明を目指す本論文全体の序として位置付けられる。本研究における漢語動名詞とは、形式的には名詞であるが、「スル」などを付けて動詞として使われる漢語のことである。漢語動名詞について、様々な研究が行われているが、まだ解明されていない点も多く、研究の余地が残されている。言語学的に見ても、日本語教育的に見ても、非常に興味深い研究対象であると考えられる。

第 I 部は、3つの章から構成される。以下、各章の内容について概説する。

まず、第 1 章「はじめに」では、本研究の研究対象の定義、研究の意義、研究のねらいおよび構成について述べる。

第 2 章「先行研究」においては、いままでの漢語動名詞研究の現状および本研究で扱う問題に関する従来の研究を整理し、その課題を指摘する。

最後に、第 3 章「データと手法」では、本研究で使用するデータおよび統計手法について概観する。

第1章 はじめに

1.1 はじめに

本研究では、「努力」「勉強」など、単独で名詞として使われるが、「する」をつけることでサ変動詞としても使われる漢語名詞を分析の主たる対象とする。

サ変可能漢語名詞は、古くから言語学的な関心を引き付けてきた。たとえば、山田（1940）は、『国語の中に於ける漢語の研究』において、このような漢語を「外来語の本義が動詞なるものの転来せるもの」で、「国語にては一種の名詞として取り扱われる」と定義している。サ変可能漢語名詞は、従来の研究や文法体系において、いくつかの呼称が使用されてきたが、本論文では、名詞と動詞の両方の特徴を有する点をふまえ、「漢語動名詞」という呼称を使用する（この点についての詳細は 1.2 節を参照されたい）。

漢語動名詞は、現代日本語語彙の重要な構成要素となっている。ここで、『読売新聞』の最近の記事を見てみよう（<https://www.yomiuri.co.jp/>、2022/10/27 13:17 閲覧）。漢語動名詞には下線を施している。

- (1) 国内最大のサンゴ礁、過去最悪の 92%で白化...台風少なく高水温が影響か---環境省は、沖縄県の西表島と石垣島の間にある国内最大のサンゴ礁「石西礁湖」の 92.8%で白化現象が起きていると発表した。97.0%が白化してサンゴ全体の半分以上が死んだ2016年以来、最悪となった。今年は台風が少なく、海面水温が高い状態が続いたためとみられる。白化は、サンゴと共生する褐色のプランクトンが失われ、白く見える現象。白化が長期間続くと栄養分が足りなくなり、サンゴは死んでしまう。石西礁湖の調査は環境省が 05 年から毎年実施しており、今年は 9 月 24～29 日に 31 地点で白化の状況を調べた。その結果、群体が丸ごと白化して死んでいたサンゴは 17.7%（前年比 15.7 ポイント増）、死んでいないが丸ごと白化していたのは 32.3%（同 29.3 ポイント増）で、部分的な白化を含めると計 92.8%の群体が白化していた。全く白化していないのは 7.2%（同 12.3 ポイント減）にとどまった。環境省自然環境計画課は「大規模な白化を前提に、サンゴの育成などの対策を講じる必要がある」としている。今年 12 月頃に再調査を行い、サンゴの状況を確認する予定だ。

この記事は、句読点や数字を除くと、およそ 270 語（短単位）の短いものであるが、この中に、漢語動名詞は延べで 21 回、異なりで 10 種が出現している（「白化」「影響」「発

表」「共生」「調査」「実施」「計画」「育成」「確認」「予定」)。

ここで注目すべきは、実際の文中において、漢語動名詞がきわめて多様な振る舞いを見せることである。

- a. 単独で主語や目的語として使用されるもの（「白化は」、「白化を」）
- b. 接頭辞や他の名詞と組み合わせて複合名詞として使用されるもの（「再調査」、「白化現象」）
- c. 「する」を伴うサ変動詞として述語や連体修飾語として使用されるもの（「(計 92.8%の群体が) 白化していた」、「(サンゴと) 共生する (褐色のプランクトン)」）
- d. 「する」を伴わない形でサ変動詞の言い切り形として使用されるもの（「過去最悪の 92%で白化」）

とくに、「白化」は、同じ語でありながら、主語・目的語、複合名詞、述語、言い切り形、という 4 種の形態で使用されている。こうした漢語動名詞の多様な用法は、管見の限り、先行研究においてもいまだ十分には整理されていないように思われる。このことは、漢語動名詞が、現代日本語において量的に重要であるのみならず、言語学的にもきわめて重要な分析対象となりうることを如実に示している。

漢語動名詞はまた、日本語教育、とくに、世界の日本語学習者の大半を占める中国人学習者 (L1 Chinese Learners of Japanese : 以下、CLJ) を対象とする日本語教育の観点から見ても興味を引くものである。一般に、CLJ は母語において漢語の知識を豊富に有しているため、日本語の漢語動名詞習得は容易であると思われるが、しかしながら、CLJ の日本語作文の中にも多くの漢語動名詞関連のエラーが認められる。

下記は、誤用タグ付きの学習者作文コーパスである「なたね」(曹・八木・黒田・仁科、2012) に収録されている CLJ の作文実例である。

- (2) 人口の情勢がいい国に進んだ経験を勉強します (→学びます)。
- (3) 西洋の文化を習いながら、片仮名で表示する (→表記する) 外来語がどんどん多くなっている。
- (4) 中国の茶文化はこのようにだんだん形成しました (→形成されました)。

このうち、(2) は漢語動名詞と類義の和語動詞との使い分け知識の不足に起因する誤用、(3) は中国語と日本語の語彙の用法差の理解不足に起因する誤用（中国語ではこの文脈で「表示」が使用可）、(4) は漢語動名詞の自他の理解不足に起因する誤用と考えられる。

これらの誤用は、漢字・漢語の知識を有する CLJ であっても、漢語動名詞の習得が必ずしも容易ではないことを明確に示しているが、管見の限り、日本語教育において、CLJ による日本語の漢語動名詞習得を支援する教材や教授のシステムはいまだ十分には提供されていないように思われる。

以上、漢語動名詞は、日本語において量的・質的にきわめて重要な位置を占めている一方で、現代日本語学においてもその用法の全体像が解明されておらず、かつ、日本語教育学においても、効果的な指導教材や指導法が確立していない。この点をふまえ、本論文は、日本語学・日本語教育学の 2 つの視点から、漢語動名詞の諸相を詳細に検討していくことを目指す。後続の節では、漢語動名詞および関連概念の定義、漢語動名詞研究の言語学的意義および教育学的意義、また、本論文で扱う問題の範囲およびねらいと構成について述べる。

1.2 用語の定義

本論文では漢語動名詞の諸相を検討の対象にするが、議論に先立ち、用語の定義を確認しておきたい。まず、漢語と動名詞という 2 語の概念を概観し、その後、漢語動名詞の定義について確認する。

1.2.1 漢語

漢語動名詞とは、漢語と動名詞の複合概念である。漢語動名詞の定義を考える前提として、これらの 2 語の定義を 3 種の言語学事典（A：『言語学大辞典』（1996）、B：『日本語学大辞典』（2018）、C：『明解日本語学辞典』（2020））から考えてみよう。なお、記述は適宜要約して記載する。本節ではまず漢語について概観する。

表 1 言語学事典における「漢語」の定義

	定義の概要
A	日本では漢字で記されている中国語起源の単語を漢字といい、また、漢字語ともいわれる。漢語は日本語の教養語彙であったから、幕末から明治にかけて日本語が西欧文化と接触したとき、2 字漢語に翻訳してとりいれた。たとえば、「鉄道」、「需

	要」など多くの例が見られる。漢語は、日本語の中で、文法的には名詞として扱われる。それは漢語の母体である中国語が孤立・無構造の言語であって、活用や曲用をしないからである。この漢語を用言化しようとするれば、動詞の場合はスルという動詞をつければよいし、形容詞の場合は形容動詞（－ダ、－ナ）とすればよい。
B	中国から借用した語。広義には、それにならって日本で造った音読みの語（和製漢語）を含む。さらに和製漢語や擬似漢語が多数存在することにより、主としてヨーロッパ諸語を起源とする用語とは区別される。
C	字音語とも言う。漢語は大陸・朝鮮半島経由で伝来した語種と定義される。その意味で漢語は中国からの借用語とも言える。漢語を構成する形態素を我が国で独自に組み合わせたもの（「哲学」など）や、いわゆる和製漢語（おほね→「大根」など）は、借用語ではないが広義の漢語と考えられる。幕末から明治初期に西洋文明を摂取するにあたり、その文物や概念を漢語に翻訳したことで新たに大量の漢語が生まれた。これを新漢語と呼ぶ。

上記の 3 つの言語学事典では、主として起源、種類、文法的用法といった 3 つの観点から漢語の定義を記述している。以上を要約すると、漢語は漢字で表記される字音語で、ここには、もともと中国語から借用したもの（例：「読書」）、日本で独自に漢字を組み合わせで作った和製漢語（例：「哲学」「大根」）、西洋文明における文物や概念を翻訳した新漢語（例：「鉄道」）などが含まれる。ただし、近代以降日本に取り入れられた中国語の音をそのまま用いているもの（例：「餃子」）は通例外来語と扱われ、漢語とは区別される。また、文法的に、漢語は名詞として扱われ、「する」「－ダ」「－ナ」などを付加して用言化することができる。

1.2.2 動名詞

漢語に比べると、動名詞の概念はより曖昧で、定義が困難である。この点をふまえ、ここでは、言語学事典、言語学研究、日本語教育・言語処理の各分野における動名詞の定義や用語の問題を整理しておく。

1.2.2.1 言語学事典における「動名詞」

以下、前節で述べた 3 種の言語学事典を参照しつつ、動名詞の定義について概観を行う。

表 2 言語学事典における「動名詞」の定義

	定義の概要

A	(※「動詞的名詞」の項目として記載する) 名詞的な変化や用法をもつ動詞形。一般に、動詞と名詞の両方の文法的機能をもつ。verbal noun (動詞的名詞) という用語は、狭義、広義ともに使われる。狭義には動詞的名詞 (= 実詞) をさし、不定詞 (infinitive)、動名詞 (gerund) などがある。広義には、動詞的名詞 (= 実詞) および動詞的形容詞 (verbal adjective) を総称したものである。日本語では、いわゆる語法が動詞的名詞をつくる。また、連用形の用法に動詞的名詞に近いものがみられる (本を買いに出かける)。以上の動詞的名詞は、いずれも動詞としての文法的特徴をもったものである。一方、文法的に動詞的性格をもたない完全な名詞形 (動作名詞など) を動詞的名詞と名づけるとすれば、これは、印欧語以外の言語にも非常に広く見いだすことができる (星の輝き [連用形の名詞的用法])。
B	記載なし
C	(※【動詞】と【名詞】の項目の下で関連説明がある。) 【動詞】「勉強する」における「勉強」のように「する」を伴って動詞として使われる語を「動名詞」と呼ぶ場合もある。【名詞】「検索」「賛成」などは、「 <u>検索</u> がはやい」「 <u>賛成</u> が多数だ」のように名詞で用いられるだけでなく、「キーワードで <u>検索</u> する」「案に <u>賛成</u> する」のように「する」をつけてサ変動詞として用いられる。このような名詞を「動名詞」と呼ぶことがある。

まず、注目すべきは、A、B、C のいずれにおいても、「動名詞」という語が項目として建てられていないということである。加えて、A と C には他の項目で「動名詞」への言及があるが、B にはそれも存在しない。また、いわゆる「動名詞」について、A は「動詞的名詞」という別の呼称を使用している。このことは、本研究が扱う漢語動名詞の中核概念である「動名詞」が必ずしも言語学的に明確な概念とはなっていないことを意味する。なお、呼称の問題については 1.2.2.3 で再び扱うことにする。

1.2.2.2 言語学研究における「動名詞」

次に、日本語動名詞に関する言語学分野の先行研究を通じて、動名詞の定義をより詳しく確認する。

Martin (1975) は日本語における「する」を伴って動詞化する表現を verbal noun と呼んでいる。平尾 (1990) では、先行研究をふまえ、verbal noun (動詞的名詞) をサ変動詞の語幹部分と定義しており、2 文字以上の漢語、和語、外来語、混種語など様々なものが含まれていると述べている。なお、「略ス・愛スル」などのような 1 字漢語でできたサ変動詞や「デューダスル・科学スル」などのような一過性の「名詞＋スル」の組み合わせをつくる名詞を verbal noun の対象から除いた。

影山（1993）は Martin（1975）をふまえ、従来の日本語学には見られない語彙範疇（品詞）として、**adjectival noun**（形容名詞）と **verbal noun** を挙げている（p.23）。ここで影山は、後者を「動名詞」と呼んでいる。動名詞は、「形式上は名詞的であるが統語的な機能においては動詞的である」ものと定義されている（p.37）。なお、動名詞は、「散歩」「研究」「徹夜」などの漢語だけではなく、「立ち読み」「夜遊び」「買物」などの和語、「テスト」「カット」などの洋語（外来語）も含まれる（p.26）。さらに、影山は（1）動名詞の独自性、（2）動名詞と純粹名詞との共通点、（3）動名詞と動詞（連用形）との共通点、の 3 つの観点から動名詞の特性を整理した。表 3 は影山の指摘を筆者が要約したものである。

表 3 動名詞の特性（影山 1993、pp.27-30）

動名詞の特性	用例
（1）独自性	①動名詞は「する」との結合可能性がある。通常の名詞は「する」で動詞化できない。 動名詞：研究する、立ち読みする、テストする 名詞：*医者する、*うす味する、*ネクタイする ②「～方法」という複合語はその前要素に動名詞を要求する。 動名詞＋方法：治療方法、取り締り方法、テスト方法 名詞＋方法：*医学方法、自動車方法、コンピュータ方法 動詞（連用形）＋方法：*払い方法、*消し方法、*動かし方法 ③「-人（じん）」は純粹名詞を選択するものに対し、「-人（にん）」は原則的に動名詞を選択するものである。 「-人（じん）」：異国人、知識人、一般人 「-人（にん）」：案内人、看護人、管理人
（2）名詞との共通点	用途を表す「～用」という接辞の付き方 名詞＋用：自転車用、ビル用、鍋もの用 動名詞＋用：料理用、振り込み用、テスト用 動詞＋用：*食べ用、*歩き用
（3）動詞との共通点	①尊敬語「お／ご～になる」や依頼表現「お／ご～ください」の構文で使われる。 お＋動詞連用形になる・お＋動詞連用形＋下さい：お乗りになる、お立ち寄り下さい ご／お＋動名詞になる・ご／お＋動名詞＋下さい：ご乗車になる、ご検討下さい お／ご＋名詞になる・ご／お＋名詞＋下さい：*ご自動車になる、*お医者下さい ②「～上手」という複合語に形成される。 動詞＋上手：聞き上手、話し上手、ほめ上手 動名詞＋上手：物まね上手、運転上手、料理上手 名詞＋上手：*歌上手、*あるた上手、*楽器上手

表 3 より、動名詞は名詞と動詞の二面性を備えていることが確認できる。また、影山は、すべての動名詞自体が動詞と同じく項構造（**argument structure**）を持つとする。格（**case**）に関して、漢語動名詞は一般的に「格あり」だが、和語動名詞には「格あり」と「格なし」の 2 つのタイプがある。純粹名詞は項構造と格を持たない。これらより、動名詞と動詞との共通点は、形態面だけでなく、統語的な機能にも見られることがわかった。

小林（2004）は影山（1993）の立場をふまえ、「動名詞」という名称を用い、語構成の観点から現代日本語における漢語動名詞の特性を考察している。氏は、動名詞を「サ変になり得る名詞」のことと定義している（p.12）。また、動名詞は単独で主語や目的語として使うこともでき、「～する」という形で使うこともできる点で普通の名詞とは異なることと、名詞の特徴と動詞の特徴をあわせて持つことと指摘した（p.17）。

間淵（2016）は、「明六雑誌コーパス」・「国民之友」・「太陽コーパス」・「近代女性雑誌コーパス」・BCCWJ の出版 SC における動名詞の出現を調べた研究であるが、この研究で、間淵は、「近代・現代のいずれかでサ変動詞用法を持つ二字漢語名詞」として「サ変可能名詞」という用語を使用している。

以上、先行研究における日本語動名詞の定義を概観してきた。各種の動名詞の定義を筆者が整理したのが以下の表である。

表 4 先行研究における日本語の動名詞の定義

出典	定義
Martin (1975)	「する」を伴って動詞化する表現
平尾（1990）	サ変動詞の語幹部分（一字の漢語サ変動詞語幹および一過性の「名詞＋スル」の組み合わせをつくる名詞を除く）
影山（1993）	形式的には名詞的であるが、統語的機能には動詞的な語彙範疇
小林（2004）	サ変になり得る名詞
間淵（2016）	近代・現代のいずれかでサ変動詞用法を持つ 2 字漢語名詞

以上をまとめると、動名詞（**verbal noun**）は、(1) 形態的において名詞的で、名詞と同じく単独で主語や目的語として使われること、(2) 統語的な機能において動詞的で、動詞と同じように機能すること、(3) 「～する」という形で使われること、(4) 漢語だけでなく、和語、外来語において動名詞も存在すること、の 4 つの特徴を持つと言える。

1.2.2.3 日本語教育・言語処理における「動名詞」

すでに見たように、「動名詞」は、影山（1993）以来、言語学研究においては確立した用語とみなされているが、前出の言語学事典をはじめ、研究者によっては他の用語を使っている場合もある。この点をふまえ、ここでは、日本語教育と、言語処理の 2 つの分野に注目し、いわゆる動名詞を指す用語を確認しておきたい。

まず、日本語教育において、学校文法や日本語教育文法の品詞体系では、「研究」のように、名詞として使えるとともに「する」をつけると動詞としても使えるものを名詞として扱っている。その語に「する」を付けた形は、学校文法では「サ行変格活用動詞」、日本語教育文法では「Ⅲ類動詞」と呼ばれる（日本語文法学会 2014、pp.440-441）。

次に、言語処理分野において、情報処理振興事業協会（IPA）が定める品詞体系（THiMCO97）では、漢語や外来語、和語名詞などの後ろに「する」「できる」「なさる」「くださる」などを後接させられるものを「名詞・サ変接続」と呼ぶ（『ipadic version 2.7.0 ユーザーズマニュアル』、p.19）。また、「国立国語研究所短単位自動解析用辞書（UniDic）」は IPA 品詞体系を参考して、学校文法の品詞・活用型・活用形を細分化して階層的な品詞体系を設計した。UniDic では、普通名詞のうち、「研究」のように「する」「できる」などが直後に続き、動詞として使われうるものを「名詞・普通名詞・サ変可能」、「心配」のように「する」「な」両者が後続可能なものを「名詞・普通名詞・サ変形状詞可能」と呼んでいる（『UniDic version 1.3.9 ユーザーズマニュアル』、p.15）。

以上をまとめたのが下表である。

表 5 動名詞の呼称

分野		呼称
日本語教育	学校文法	名詞（「する」をつけた形を「サ行変格活用動詞」と呼ぶ）
	日本語教育文法	名詞（「する」をつけた形を「Ⅲ類動詞」と呼ぶ）
言語処理	IPA 辞書	名詞・サ変接続
	UniDic 辞書	名詞・普通名詞・サ変可能、名詞・普通名詞・サ変形状詞可能

以上で概観したように、動名詞は、言語学研究においては一般的に用いられる概念であるが、他の分野では必ずしも確立した呼称とはなっていない。本研究は、言語学・日本語学に基盤を置くため、影山（1993）に倣い、「動名詞」という用語を使用していくことと

する。

1.2.3 漢語動名詞

以上で、漢語および動名詞の定義と呼称を確認してきた。これらを組み合わせたものが、本研究で扱う漢語動名詞となる。

もっとも、漢語動名詞に関して、管見の限り、従来の研究において必ずしも明確な定義があるとは限らない。たとえば、前述の影山（1993）は、和語・漢語・外来語には動名詞という範疇が存在することを指摘したが、漢語動名詞を定義していない。小林（2004）は現代日本語における2字・3字・4字の漢語動名詞の語構成を分析してきたが、漢語動名詞を明確に定義しなく、当該研究において「サ変になり得る名詞」の中での「漢語」に焦点を当てることを述べただけである（p.17）。桑原（2017）は小林（2004）の漢語動名詞を「『する』がついてサ変動詞になり得る漢字熟語のことである」を要約している。

桑原（2017）が要約した定義は正確なものであるが、漢語動名詞の独自性および純粋な名詞・動詞との共通性が表現されていないという点では不足も認められる。そこで、本研究では、桑原氏の定義を拡張し、漢語動名詞を以下のように定義したい。

「漢語動名詞」(Sino-Japanese verbal nouns) とは、形態面において名詞的特徴を、統語面において動詞的特徴を持ち、「する」がついてサ変動詞になり得る漢字で表記される字音語のことである。ただし、1字漢語からできたサ変動詞の振る舞いは特殊であることで、漢語動名詞から除外する。

以上 1.2 節では、本研究の研究対象としての「漢語動名詞」に関わる用語の定義を確認した。以下の節では、漢語動名詞研究の意義に関して、頻度面、また、教育面から議論していく。

1.3 漢語動名詞研究の意義

1.3.1 言語学的意義

1.3.1.1 頻度上の重要性

まず、漢語動名詞の頻度特性についてであるが、各種の国語辞典の収録語調査や、一般的な語彙頻度調査において、現代日本語の主要な語種の中で漢語の異なり語数が最も多い

とされている（野村 1999）。たとえば、国立国語研究所が行った様々な語彙調査において、現代雑誌 90 種を用いた用語用字調査（1962）によると、異なり語数の比率は漢語（47%）>和語（37%）>外来語（10%）>混種語（6%）という順序である。また、「基本語六千」（1984）および BCCWJ（2013）の調査においても同じような順序であり（前者は漢語（46.9%）>和語（45.4%）>外来語（4.5%）>混種語（3.2%）、後者は漢語（43.59%）>和語（32.98%）>外来語（18.60%）>混種語（4.83%））、いずれの調査によると、漢語が最多な語種となっている。

また、野村（1999）は基本的な漢語 3,000 語を抽出したが、これらを品詞タイプによって分類すると、事物類（N）の 2 字漢語（例：「世界」「人間」）（58.1%）>動態類（V）の 2 字漢語（例：「実行」「研究」）（36.3%）の順となり、サ変動詞の語幹になる動態類の漢語語基は全体の 4 割近くを占める。なお、当該調査によると、漢語は他の語種と比較して、動作や作用を表す用言性の名詞が多いことも明らかになった。

このように、漢語動名詞は日本語語彙に占める比率が高く、一般的に高頻度なものである。日本語の語彙体系を研究する上で、その不可欠な一部である漢語動名詞に焦点を当てることは頻度的な意味でも妥当であると言える。

1.3.1.2 言語特性上の重要性

次に、漢語動名詞の言語特性についてであるが、多くの研究がその複雑で特有な性質に言及している。たとえば、前述の影山（1993、pp.27-30）、小林（2004、pp.13-17）は漢語動名詞を含む日本語の動名詞は名詞との共通性を持っているだけでなく（たとえば、単独で主語や目的語として使われること、用途を表す「～用」をつけると主語と目的語として使われること）、動詞（連用形）との共通性も持っている（たとえば、尊敬語「お／ご～になる」や依頼表現「お／ご～ください」の構文で適用すること）と述べている。加えて、動名詞は名詞や動詞とは異なる品詞的な独自性も備えている（たとえば、「する」をつけると形態的にサ変動詞になって、文中で述語や連体修飾語として使用することができること、など）。以上をふまえ、漢語動名詞の複雑な品詞用法に関する研究も行ってきた。たとえば、永澤（2010）と間淵（2016）は、コーパスを用い、漢語動名詞の品詞性の変化について通時的調査を行った。田辺・中條・船戸（2012）、田辺・中條（2014）は漢語動名詞のサ変動詞としての振る舞いと名詞としての振る舞い、および異なる文体において漢語動名詞の品詞特徴の差異について調査した。また、平尾（1990）と影山（1993、

pp.255-321) は、意味論や語構成の観点から、動名詞のサ変動詞形（例：「雑談する」）と構文形（例：「雑談をする」）について詳しく議論している。李（2014）は BCCWJ を用いて高頻度・汎用的漢語動名詞の動詞形と構文形の使用状況を調査している。

加えて、漢語動名詞の議論には、漢語動名詞を多く使用する構文形の検討も重要になるだろう。たとえば、日本語の漢語動名詞の多くは、「発展する可能性」のように、連体修飾節の中で使用される。このとき、当該表現形は、「発展の可能性」や「発展的な可能性」といった形もとりのるわけであるが、こうした漢語動名詞を含む構文の典型性や意味・用法の差異についてはいまだ明らかにされていないことが多い。これらの表現形では、漢語動名詞の後に、「スル」だけでなく、「ナ」や「ノ」が付く場合があるわけであるが、羅（2009）は、辞書において「～ナ」と例示されている二字漢語と「～ノ」と例示されている二字漢語を抽出して、それらの語がどのようなイメージを持つかについて調査した。また、朝日新聞のデータベースを利用して、「～ナ」と「～ノ」の文レベルでの使用傾向と使用意識について調査を行った。その結果、(1)「～ナ」はプラスまたはマイナスのイメージを持つものに対して、「～ノ」は比較的中立的なイメージを持つこと、(2)「柔らかい」語感や「情意的」なイメージがある場合には「～ナ」が選ばれ、「硬い」語感や「客観的」なイメージがある場合には「～ノ」が選ばれる傾向、などが明らかになった。呉人他（2008）は、漢語動名詞を含む表現形に出てくる「～的」に関して、その統語的用法、意味、機能の違いを説明するために、「的」が付く語基の特徴と「的」が付いた結合語が文中でどのように使われているかを分析した。その結果、「的」がとりうる語基の中で体言類の二字漢語が最も多いことがわかった。石（2021）は寺村（1993）が提唱した連体節構造に関する「内の関係」と「外の関係」という概念を基に、新たな視点から漢語動名詞の連体用法「VNノN」の成立条件について考察した。その結果、外の関係「VNノN」は用例全体の96.6%を占めており、一般的に成立可能であることが確認された。これらの研究では、さまざまな連体修飾後接要素の用法や意味機能について調査が行われてきたが、「スル・シタ」に関する詳細な調査は少なく、とくに漢語動名詞に焦点を当てた研究は非常に限られている。

このように、漢語動名詞は概念として曖昧性を含み、かつ、非常に多様な用法を包含する。この点において、漢語動名詞の振る舞いの全体像はいまだ解明されておらず、漢語動名詞の研究にはすぐれた言語学的意義があると言える。

1.3.2 教育学的意義

前節では、漢語動名詞研究の言語学的な意義について概観した。以下では、CLJ を対象とする日本語教育における意義について、5 点を取り上げて考えていく。1 点目として、漢語知識を有する CLJ であっても漢語動名詞の知識には制約があることを述べる。2 点目は、日本語教科書における漢語動名詞の記述が十分でないことを指摘する。3 点目は、辞書における扱いの不十分さを述べる。4 点目として、学習者が受験する日本語試験における漢語動名詞の位置づけを概観する。最後に 5 点目として、CLJ の日本語産出において漢語動名詞に関して多くの問題が残っていることを指摘する。これらはすべて、漢語動名詞の研究の必要性を示唆するものである。

1.3.2.1 CLJ の漢語知識の制約

CLJ は母語において豊富な漢字知識を持っており、日本語漢語の習得という点で、ほかの地域の学習者よりも有利であるとされる。この点に関して、日中両言語で常用される漢字と漢字語彙の重複度が高いことを指摘しておきたい。たとえば、文化庁（1978）は日本語の漢語と対応する中国語を、その関係性に基づき、4 種類（S : Same、O : Overlap、D : Different、N : Nothing）に分類している。3 種類の初級・中級の日本語教科書（計 10 冊）より抽出した 2,000 語に基づく計量的調査の結果、日中両言語において意味が共通する同義の語彙（S 語）は全体の約 67%で、類義の語彙（O 語）は約 4%、両者あわせて全体の約 71%になるという。陳（2002）は、文化庁（1978）・国立国語研究所（1982）・国立国語研究所（1984）・『日本語能力試験出題基準』（国際交流基金、1994）という 4 冊の資料より抽出した 4,600 語と中国大陆の中国語において対応する 2 字漢語の辞書的意味実態を調べた結果、S 語は全体の約 54.5%、O 語は全体の 14.9%を占めることがわかった。これらの調査に基づくと、CLJ が日本語の漢語を学習・使用する際に、母語である中国語の漢字知識から大きな恩恵を受けていることは自明と言える。

一方、河住（2005）は CLJ が産出した漢字語彙の誤用実態を調査し、CLJ の日本語漢語使用については、中国語語彙からの影響と日本語漢語に対する認識不足によって多くの問題が生じうることを明らかにした。とくに、中国語語彙をそのまま日本語語彙として使った誤用、類義の日中同形語の混用や日本語における類義漢語の混用による誤用、漢語の品詞性に対する認識不足による誤用が多いことが確認された。また、李（2016）は、アンケートによって CLJ の漢語動名詞に対する意識を調査したが、その結果、多くの CLJ が

日本語の漢語動名詞の運用能力（知識面と運用面）に自信を持っていないことがわかった。また、CLJ は漢語動名詞の意味、自他の使い分け、分類と用法、名詞と動詞両用という 4 つの側面については指導を受けた経験があるものの、指導の効果は希薄で、学習者の記憶も曖昧なものにとどまっていることも明らかになった。

以上で見たように、日中両言語において意味が完全に、または部分的に共通する漢語が数多く存在することによって、CLJ の日本語漢語習得は総じて有利であると結論できるが、一方で、CLJ の日本語漢語産出には不適切なものも多く、CLJ は漢語動名詞の用法に対する知識が不足している場合が多いことも明らかになった。この理由としては、CLJ が日本語学習においてしばしば参照する教科書・辞書・テストにおいて、漢語動名詞が適切に扱われていないことが考えられる。以下、個々の例を見て行きたい。

1.3.2.2 教科書における漢語動名詞

まず、日本語教科書についてであるが、以下は『新日本語教程（初級 1）』（人民教育出版社）の第 6 課の記載例である（pp.54-55）。

(5) 法子：ごめんください。

園長：こんにちは。見学ですか。わたしはこの幼稚園の園長です。

※見学（けんがく）① [名・他動 3] 参观、参观学习

教科書に記載された漢語動名詞の「見学」について、品詞と意味は示されているが、動名詞としての実際的な用法までは触れられていない。教科書に出てくる漢語については、多くの場合、読み方・アクセント・品詞性・動詞タイプ・中国語訳などが記載されるが、漢語動名詞の品詞特性、自他性およびボイス、類義語との使い分けなどについての知識を体系的に説明することは少なく、紹介される関連用例も限られている。

この点をより詳細に見て行くため、ここでは、世界の日本語教育の現場で広く使われている『みんなの日本語』、「どんな場面で何かできるか」といった「Can-do」に基づいて開発された『いろどり 生活の日本語』、中国の日本語教育でよく使われている『新編日語』（A）、『日語総合教程』（B）、『総合日語』（C）（いずれも第 1 冊）、の 5 種の教科書を取り上げ、漢語動名詞の扱いを検討したい。

まず、『みんなの日本語』と『いろどり 生活の日本語』の場合、例文や会話文、指示

などにおいて漢語動名詞が出現しているが、漢語動名詞の言語特性に関する記述は見られない。

表 6 『みんなの日本語』と『いろどり 生活の日本語』における漢語動名詞

『みんなの日本語』	『いろどり 生活の日本語』
(p.30) きのう勉強しましたか。 ...いいえ、勉強しませんでした。 (p.46) 土曜日何をしましたか。 ...日本語を勉強しました。それから映画を見ました。	(L1-3) 【指示】人と別れるときに、<u>あいさつ</u>をしましょう。 【会話文】①別れる<u>あいさつ</u> じゃあ、また。 —じゃあ、また。 <u>失礼</u>します。 —<u>失礼</u>します。 ②職場での<u>あいさつ</u> お先に<u>失礼</u>します。 —お疲れさまでした。 ③夜の<u>あいさつ</u> おやすみなさい。 —おやすみなさい。 【指示】1のイラストを見て、<u>練習</u>しましょう。

以上より、日本で出版された日本語教科書の場合、初級対象のものであっても、本文に加え、指示文や練習文中で漢語動名詞が出現しており、また、漢語動名詞を含む用例も記載されていることが確認された。しかし、漢語動名詞は独立した指導項目にはなっていない。

次に、CLJ 向けの教科書を見てみよう。ここでは、語種記述、品詞記述、語彙リストの3観点に絞って、記述を検討したい。以下、中国語の原文を日本語に翻訳して示す。1点目として、語種に関する記述をまとめる。

表 7 『新編日語』、『日語総合教程』、『総合日語』における語種に関する記述

	語種に関する記述
A	(p.47) 日本語語彙には出自によって大体3種類がある。①日本語でもともと存在している語彙であり、日本語では「和語」と言う。たとえば：秋（秋）こえ（声）あせ（汗）たかい（高）わたし（私）②漢語語彙、日本語は「漢語」と呼ばれ、中国語を直接に採用するものと、漢字を利用して創造されたものの2種類がある。中国語を直接に採用するもの：学校 先生。漢字を利用して創造されたもの：切手 時計③外来語語彙、日本語では「外来語」と呼ばれ、主に欧米語（多くは英語）から音訳されている。例：ノート インク テレビ ラジオ パン。
B	(p.131) 日本語の語彙には大体3つの種類がある。1つ目は日本語にもともと存在しており、日本語では「和語」と呼ばれているものである。たとえば「わたし、あなた」などである。2つ目は漢語語彙であり、日本語は「漢語」と呼ばれているものである。たとえば「学生、学校」などである。3つ目は外来語語彙であり、日本

	語では「外来語」と呼ばれているものである。たとえば「ワイン、レストラン」などである。
C	記載なし

表 7 からわかるように、『新編日語』と『日語総合教程』では日本語の語種について簡単に紹介しているが、「漢語」の用例では、純粹漢語名詞である「学校」「切手」「学生」などしか提示されておらず、サ変になりうる漢語動名詞については言及されていない。

2 点目として、漢語動名詞の言語特性理解に不可欠な品詞に関わる記述を検討する。

表 8 『新編日語』、『日語総合教程』、『総合日語』における品詞に関する記述

	品詞に関する記述
A	(pp. 48-49) 名詞：物事の名前を表す（例：教室 講堂 建物）名詞、代詞と数詞を総称して体言と呼ばれる。文中で主題、主語、対象語、目的語、補語などとしてことができ、また助動詞と結合して述語とすることもできる。 動詞：物事の存在、動作、役割または状態を表す。語尾に変化がある。（例：ある、いる、行く）動詞、形容詞と形容動詞を総称して用言と呼ばれる。単独または助動詞と結合して述語とすることができる。日本語の動詞は語幹と語尾の 2 部分に分けられる。語尾に変化があり、「活用」と呼ぶ。サ変動詞「する」とカ変動詞「くる」はいずれも 2 つの仮名で構成されている。最初の仮名は語幹や語尾の一部であるが、「練習する」というサ変動詞の「する」は語尾である。サ変動詞の連用形は「し」である。
B	(pp. 131-132) 1.名詞：物事の名前を表す。例：「地図、椅子」……以上の 3 種類の語（名詞、代名詞、数詞）を総称して体言と呼ぶ。文中で主題、主語、対象語、目的語、補語をすることができ、また「です」と述語を構成することができる。 2.動詞：物事の存在、動作、役割の状態などを表す。語尾変化がある。例：「読む、泳ぐ」……以上の 3 つの語（動詞、形容詞、形容詞）を総称して用言と呼ぶ。用言は独立または助動詞と結合して述語とすることができる。日本語動詞も語幹と語尾の 2 部分に分けられる。動詞の語尾変化を活用と呼ばれ、文中での活用形式を活用形と呼ばれている。日本語動詞の活用形は、文法機能に基づいて決定され、大きく 6 種に分けることができる。動詞はその形態と活用規則によって「一段活用動詞、五段活用動詞、サ行変格活用動詞」と「カ行変格活用動詞」に分けられる。サ行変格活用動詞とカ行変格活用動詞は特殊変化動詞に属し、サ変動詞とカ変動詞と略することができる。サ変動詞のほとんどは音読みの漢字語彙や外来語動詞であり、たとえば「無理する」「マックする」などがある。サ変動詞の語尾は「する」、連用形は「し」である。
C	(pp. 40-41) 名詞は主に物事や人の名前を表し、状態、変化、動作を表すこともでき、文中では主に主語、補語、連体修飾語として機能できる。判断助詞を後続して述語とすることもできる。日本語の名詞（代名詞や数量詞も含む）は動詞、形容詞

	と異なり、使用する際に変化はなく、日本語では「体言」、本書では「体詞」と呼ばれている。日本語の動詞は形態や活用によって、まず規則変化動詞と不規則変化動詞に分けられる。前者はまたⅠ類動詞（旧称「五段活用動詞」）とⅡ類動詞（旧称「一段活用動詞」）に分けられ、不規則変化動詞はⅢ類動詞（旧称「カ行変格活用動詞＝カ変動詞」、「サ行変格活用動詞＝サ変動詞」）と呼ばれる。Ⅲ類動詞には「来る」と「する」の 2 語が含まれる。「する」は単独で使われ、音読みの漢字語彙の後ろにつけても使われる。たとえば、「電話する」「勉強する」「運動する」「運転する」などがある。動詞は動作、変化、状態、存在を表す。日本語の動詞は形容詞と同様に活用できる。動詞には語幹と語尾があり、変化できない部分を「語幹」、変化できる部分を「語尾」と呼ぶ。日本語の動詞は時制、テンス、モダリティ、文体、肯定否定などの文法範疇を持つ。最も主要な文法機能は文中で述語をすることであり、連体修飾語をすることもできる。

表 8 からわかるように、3 つの教科書とも、日本語の名詞と動詞の概念を紹介している。しかし、名詞の例では主語や目的語などとして使われる漢語動名詞が提示されていない。サ変動詞の例では漢語動名詞が提示されているが、その複雑な特性や使い方などについては触れられていない。また、『新編日語』と『日語総合教程』は漢語動名詞を「サ変動詞」と呼ぶのに対し、『総合日語』はⅢ類動詞という呼称を使うなど、用語についても統一されていない。

最後に 3 点目として、教科書の章内で、会話文や本文の下部に付された単語リストに注目し、本文に出てきた漢語動名詞がどのように記述されているか概観する。

表 9 各教科書の単語リストにおける漢語動名詞

	単語リスト
A	かいわ（会話）（名・自サ）① 会話／しょくじ（食事）（名）① 用餐／生活（名）①生活／勉強（名詞・他サ）①学习
B	かいわ（会話）① [名] 会話／でんわ（電話）① [名] 電話／うんどう（運動）① [名] 运动／勉強① [名・他サ] 努力学习／勉強しています [連] 在学习／勉強家① [名] 学习很努力的人
C	新生活（しんせいかつ）③ 〈名〉 新生活／新-（しん-）新～／生活①〈名・自Ⅲ〉 生活／会話（かいわ）① 〈名・自Ⅲ〉 会話／解説①〈名・他Ⅲ〉 解説；说明；解释；讲解／練習用（れんしゅうよう）① 〈名〉 练习用；用于练习／練習（れんしゅう）① 〈名・他Ⅲ〉 练习／-用（-よう）用；用于

表 9 にあるように、教科書の単語リストにおいて、漢語動名詞については、読み方・アクセント・品詞性・動詞タイプ・自他性などが記載されている。しかし、やはり、教科書

間の記述のずれも見られる。たとえば、「会話」について、『新編日語』と『総合日語』は名詞とサ変動詞の両用法を示しているが、『日語総合教程』は名詞用法のみが記載されている。また、漢語動名詞の名詞用法では接頭辞や「～用」が付けられるが、このことは『総合日語』でのみ示されており、他の教科書において同様の記述は見当たらない。

以上、5つの日本語教科書における漢語動名詞の取り扱いを3つの観点から確認した。いずれの教科書においても漢語動名詞は出現しているものの、記述には教科書間のずれも大きく、その細かな用法について十分な説明はなされていないことが明らかになった。

1.3.2.3 辞書における漢語動名詞

辞書は、日本語研究、とくに日本語語彙に関する研究の成果を分かりやすくまとめており、学習者が日本語を使って書いたり話したりする際に、大きな助けとなるものである。しかしながら、学習者が参照する辞書の多くは母語話者の向けの国語辞書であり、漢語動名詞の品詞性・頻度・使用ジャンル・用法・用例など、学習者の求める情報のすべてが記述されているわけではない。以下では、日本語学習者がよく参照する『広辞苑』（第7版）、『大辞林』（第4版）、『デジタル大辞泉』（ジャパンナレッジ版、2022/11/07 検索）、『岩波国語辞典』（第8版）、『新明解国語辞典』（第8版）の4種の国語辞書を取り上げ、漢語動名詞の記述実態を見てみよう。ここでは、サンプルとして、「学習」と「規定」という2つの漢語動名詞を例に取り上げる。

表5 国語辞書における漢語動名詞の記述

	学習	規定
広辞苑	①まなびなろうこと。②経験によって新しい知識・技能・態度・行動傾向・認知様式などを習得すること、およびそのための活動。	①規則や規準を定めること。また、その規則や規準。さだめ。「一の用紙」②法令の条文として定めること。また法令の個々の条文。「第三条第一項の一による」→規程。③〔化〕(normal) 溶液の濃度を表す単位の一つ。...
大辞林	(名) スル ①まなびおさめること。勉強すること。「新しい教科を一する」②〔生〕 生後の反復した経験によって、個々の個体の行動に環境に対して適応した変化が現れる過程。... ③〔心〕 過去の経験によって行動の仕方がある程度永続的に変容すること。新しい習慣が形成されること。④〔教〕	(名) スル ①物事のありさまややり方を決まった形に定めること。また、その定め。「一に従う」「概念を一する」②法令の条文として定めること。また、その条文。③〔化〕 溶液濃度の単位。... ④「規定演技」の略。

	新しい知識の獲得、感情の深化、よき習慣の形成などの目標に向かって努力を伴って展開される意識的行動。	
大辞泉	〔名〕(スル) ①学問・技術などをまなびなうこと。「一の手引」「一会」 ②学校で系統的・計画的にまなぶこと。「英語を一する」 ③人間も含めて動物が、生後に経験を通じて知識や環境に適応する態度・行動などを身につけていくこと。… ④人工知能(AI)がデータを読み込み、基準や規則性などを見つけ出すこと。	〔名〕(スル) ①物事を一定の形に定めること。また、その定めた内容。きまり。規程。「一の書式」「概念を一する」 ②法令の条文として定めること。また、法令の個々の条文。「第一条に一するところに従う」 ③化学で、溶液の濃度の単位。…
岩波	〔名・ス他〕 ①ならい学ぶこと。特に、学校などで系統的に勉強すること。「一塾」 ②心理学で、以前の経験を土台にして新しい適応の仕方を習得していくこと。	〔名・ス他〕 物事の仕方や手続き、また概念などを、それに基づいて行為や議論ができるように、はっきり定めること。またその定め。「一の料金を払う」「一量」「法律に一されている」「手続を一する」
新明解	(他サ)〈なにヲ学習する〉〔学校などで〕繰り返しながら(段階的に)基礎的知識を学ぶこと。「学習者・生涯学習」	(他サ)〈なにヲ(なんだト)規定する〉①判断のよりどころとするために、あいまいであった内容のある決まった形に定めること。「前項に規定する通り…／規定量」②行動の是非を判断するよりどころとなるべき個々の規則や条文(を定めること)。「規定を設ける／長期欠席者の扱いは第十三条の規定に従う」

以上より明らかになったことは4点ある。1点目は、語義記述に微細なずれが存在することである。たとえば、「学習」を例にすれば、語義の数は『新明解』では1つしかないのに対し、『広辞苑』と『岩波』では2つ、『大辞林』と『大辞泉』では4つの語義が示されていることである。また、このうち、「まなびなうこと」と「学校で系統的にまなぶこと」という2つの語義に関して、『大辞林』と『大辞泉』は別々に記述しているが、『広辞苑』は記述しておらず、『岩波』と『新明解』は1つの語義として記述している。

2点目は、漢語動名詞の品詞性と自他性に関する記述が必ずしも分かりやすく示されていないことである。品詞性について言うと、「学習」と「規定」はともに名詞・動詞の両方で使われるものであるが、『広辞苑』において、「学習」と「規定」のサ変用法について全く言及されていない。また、『広辞苑』では「規定」のサ変用例が記載されておらず、『広辞苑』、『岩波』、『新明解』では「学習」のサ変用例が記載されていない。自他性について言うと、『広辞苑』、『大辞林』、『大辞泉』の3つの辞書では「学習」と「規定」の自他

性が言及されていない。

3 点目は、辞書における漢語動名詞の頻度情報や産出モード・ジャンル情報が掲載されていないことである。たとえば、「学習」は書き言葉においても話し言葉においても多用されるものであり、使用範囲が広いと思われる。一方、「規定」はより書き言葉的な語であり、一般のくだけた話し言葉において使われることは少ないと思われる。しかしながら、いずれの辞書においても、漢語動名詞の頻度情報と産出モード・ジャンル情報が見当たらない。

4 点目は、辞書における漢語動名詞の使用例が極めて少ないことである。たとえば、『広辞苑』では「学習」の使用例を示しておらず、『大辞林』と『岩波』では、「学習」の使用例を 1 例しか示していない。

以上より、学習者が常用する国語辞書において、漢語動名詞は見出し語に上がっているものの、語義の数や記述、品詞特性や、自他性、また、使用頻度や、典型的に使用される産出モードやジャンル特性の記載は十分とは言えず、あわせて、用例も少ないことが明らかになった。国語辞書を引くだけでは、実際のコミュニケーションにおける漢語動名詞の細かな用法のすべてを理解することは困難であると言えよう。

1.3.2.4 日本語試験における漢語動名詞

最後に、CLJ の学習目標とされる各種の日本語テストについてであるが、漢語動名詞の知識を直接に問う問題は少ない。以下は『日本語能力試験公式問題集第二集』（日本語能力試験公式ウェブサイト <https://www.jlpt.jp/>）に掲載された問題実例である。(7) は N3、(8) は N2 の「文字・語彙」セクションの問題である。

(7) 沸騰

- 1 今日朝からどんどん暑くなり、昼には気温が沸騰した。
- 2 鍋のお湯が沸騰したら、とうふを入れて火を少し弱くしてください。
- 3 昼ごろから具合が悪くなり、夕方熱が沸騰したので病院へ行った。
- 4 このストーブは沸騰するのが早いので、すぐに部屋が暖かくなる。(p.5)

(8) わが社の商品はここでせいぞうされている。

- 1 製増 2 制増 3 制造 4 製造 (p.2)

上記の(7)は漢語動名詞の意味を問う問題、(8)は漢語の読み方と同音異義語の使い分けを問う問題であるが、問われている知識は表層的なもので、現代日本語における漢語動名詞の多様な振る舞い(伴いやすいコロケーション・文型など)レベルでの知識は問われていない。

1.3.2.5 日本語学習者の産出に見る漢語動名詞

すでに述べたように、豊富な漢字知識を備えている CLJ であっても、漢語動名詞の学習は必ずしも容易ではないと言える。本節では、CLJ が漢語動名詞を使用する際に具体的にどのような問題を抱えているのかを詳しく検証するために、学習者作文コーパス「なたね」(曹・八木・黒田・仁科、2012)で収集されたに CLJ の作文における誤用例を見てみよう。なお、修正例はコーパス開発者が付与したものである。

- (9) 完全な安全法規を建立(→確立)のために政府も責任を負うべきである。
- (10) 西洋の文化を習いながら、片仮名で表示する(→表記する)外来語がどんどん多くなっている。
- (11) それから、経済増長(→成長)も人口のせいで、速くなれていません。
- (12) 大人は免疫システムは強いから、サースに遭って、ホルモンを釈放して(→分泌して)、ウィルスと戦いになります。
- (13) イジメられても両親に心配しないために忍耐する(→我慢する)。
- (14) 二週間ぐらい用意した(→準備した)後で、先週私たちやっと B*研究室に見学しました。
- (15) 研究室を見物した(→見学した)感想はどうかと言えば、おもしろくて、勉強にもなりました。
- (16) 人の生命だけでなく、時間も大幅に縮小になりました(→短縮しました)。
- (17) 人口の情勢がいい国に進んだ経験を勉強します(→学びます)。
- (18) そのかわり、全員が自分自身とか、親友などを保護しています(→守っています)。
- (19) 中国の人口の情勢をはっきり分かるのに基づいて、正しい判断をして、人口問題を解きます(→解決します)。
- (20) 「あげる」ということばは目上の人にも目下の人も通用している(→使える)。

- (21) 都市に散歩する時、人々と違う角度からビルを見たり、建築家はビルに注入する
(→注いだ) 靈感を感じたりということは魅力的だと思います。
- (22) しかも、以前の楽器の性能を健在させました (→性能が健在でした)。
- (23) 蛇のロボット 1 だけじゃなくて、2 と 3 号機械もあるそうです。だんだん進歩になる
(→進歩しています)。
- (24) 仕事が忙しくて、家族といっしょの時間が少なく、旅行などの機会もあまりないので 矛盾な (→矛盾した) 気持ちです。
- (25) けれども、それは研究者の給料が少ない原因となりますか、お金がなくても、安心
に (→安心して) 研究できることがわかるから。
- (26) 日本と一緒に考えたり、対策を研究していますし、日本の成功の経験を参考して
(→参考にして)、自分の国へもたらす国もあります。
- (27) 中国の茶文化はこのようにだんだん形成しました (→形成されました)。
- (28) それから、教育を発展しなければなりません (→発展させなければなりません)。
- (29) 今の日本では、茶道は女性が結婚する前のこのみや趣味として習うことが広く 流行
されて (→流行して) いますが、男性でも習っている人も少なくありません。
- (30) 十八世紀の後、楽器の作り方が改良しました (→改良されました)。
- (31) その後、楽隊の発展、作品の必要に基づき、楽器の構成が改変しました (→改変さ
れました改編されました)。
- (32) 世界で有名な音楽作品、「梁山伯と祝英台」。この作品は中国の民間伝説を題材にし
て、創作しました (→創作されました)。
- (33) 私の国の人にとって、餃子を食べる回数から、生活レベルを提高された (→生活レ
ベルが向上した) かどうかとわかることができる。

以上の CLJ が産出した漢語動名詞に関する誤用例は、主として 6 つの種類に分けられる。

まず、(9) ～ (16) の誤用は語の選択に関わるものであるが、(9) ～ (13) は学習者が中国語の影響によって誤った語を選択していると考えられ、(14) ～ (16) は学習者が日本語における類義漢語の混用によって誤った語を選択していると考えられる。次に、(17) ～ (21) の誤用は、学習者が漢語動名詞とそれに相当する和語動詞の間での使い分けが十分理解できていないことが示される。(22) ～ (26) の誤用は、学習者が漢語動名詞の品詞用法に関する知識が不足している問題が反映される。(27) ～ (32) の誤用は、学習者

が漢語動名詞の「する」を中心とする文法的な振る舞いが十分理解できていないためボイスの選択が誤ったものであると考えられる。最後の(33)は、CLJ が中国語の語彙をそのまま日本語の語彙として使用する現象が反映される。

CLJ は、母語である中国語からの影響を受けやすく、漢語動名詞そのものにたいして語彙的にも統語的にも十分理解しておらず、漢語動名詞の使用上には多くの困難を抱えている。学習者はこれらの問題を克服し、より自然な漢語動名詞を使用できるように促していくためには、現代日本語において、とくに重要な漢語動名詞を抽出し、それらを体系的な教授法のもとに指導していくことが不可欠であろう。

以上、1.3.2 節では、CLJ を対象とする日本語教育における漢語動名詞研究の意義について、漢語知識を有する CLJ であっても漢語動名詞の知識には制約があること、日本語教科書における漢語動名詞の記述が十分でないこと、辞書における扱いも不十分であること、日本語試験における漢語動名詞の位置づけも十分ではないこと、CLJ の日本語産出にも問題が見られること、を具体的に指摘した。これらはすべて、漢語動名詞の研究の必要性を強く示すものと言える。

1.4 本研究のねらいと構成

以上、1.2 節および 1.3 節では、現代日本語と日本語教育における漢語動名詞の重要性を確認してきた。以下、本論文のねらいと構成、および、本論文で扱う漢語動名詞に関わる具体的な問題の範囲を示す。

本研究の目的は、漢語動名詞の言語学的特性を解明して、それらを手掛かりとして、CLJ の漢語動名詞使用の問題点を解明し、その解消に向けた提案を行う点にある。まず、言語学的特性についてであるが、一般に、言語学 (linguistics) では、音声学・音韻論・形態論・統語論・意味論・語用論などの側面が研究対象となる。これらの 6 部門は漢語動名詞についても関係するが、本研究では、そのうち、とくに重要な形態論、統語論、意味論、語用論に注目する。また、これらの分析を行う対象を特定するため、頻度論という観点を取り入れ、頻度に基づく重要漢語動名詞の抽出を行う。次に、日本語教育に関わる部分については、CLJ の漢語動名詞の使用特性、および CLJ の漢語動名詞に対する意識に注目する。なお、前者については、CLJ の母語における漢語知識を考慮するため、対照語彙論の知見を取り入れる。

以下、本論文の構成を示す。まず、第 I 部「研究の枠組み」では、本研究の枠組みにつ

いて説明する。第 1 章「はじめに」では、用語の定義、また、言語学的・教育学的な、漢語動名詞研究の意義について述べる。最後に、本研究で取り扱う具体的な問題の範囲およびねらいと構成を紹介する。

第 2 章「先行研究」では、これまでの漢語動名詞に関する先行研究を頻度論、統語論（形態論を含める）、意味論（語用論を含める）、対照語彙論、日本語教育学などの観点から見た漢語動名詞研究にまとめる。

第 3 章「データと手法」では、本論文で使用するデータおよび統計手法について体系的に説明する。

続く第Ⅱ部および第Ⅲ部は、本論文の中核となる部分であり、順に、言語学的視点から、また、教育学的視点から、漢語動名詞の問題を議論していく。

第Ⅱ部「言語学的視点に基づく漢語動名詞の特性分析」では、はじめに、頻度論の観点から、現代日本語における重要漢語動名詞を抽出した上で、それらの統語的・形態的特性、また、意味論・語用論的特性について計量的に調査して考察する。

まず、第 4 章「頻度論から見た漢語動名詞—重要漢語動名詞の抽出」では、頻度論の観点から、多様な書き言葉・話し言葉コーパスデータを用い、現代日本語における高頻度で、かつ、幅広く使用される漢語動名詞の選定を行う。その後、これらを主たるサンプルとして、統語論・意味論などの観点からコーパス調査を行う。なお、抽出された重要漢語動名詞は、現代日本語の典型であるという点で、CLJ のみならず、広く日本語学習者が日本語の漢語を学ぶ際の目標ともなるものである。

第 5 章「品詞論から見た漢語動名詞」では、「*能力の【発揮】をしている [名詞的] / 能力を【発揮】している [動詞的]」など、個々の漢語動名詞ごとに品詞特性の違いがあることを指摘し、動詞性テスト・名詞性テストを通して主要な漢語動名詞の品詞特性をあらためて検討する。また、品詞特性によって分けたグループそれぞれの統語的特徴と意味的特徴を明らかにする。

第 6 章「統語論から見た漢語動名詞—連体修飾節に注目して—」では、漢語動名詞を含む名詞節の 3 種類の構造パターン（「漢語+スル・シタ+名詞」「漢語+ノ+名詞」「漢語+的・的ナ・ナ」）の典型性、およびそれらの選択に影響する言語的要因を解明する。

第 7 章「意味論から見た漢語動名詞—類義動詞の使い分けに注目して—」では、辞書の漢語動名詞記述の例を取り上げ、コーパス調査から得られた知見を盛り込むことで、従来の辞書記述をどのように改善できるか具体的に提案を行う。

第Ⅲ部「中国語を母語とする学習者の漢語動名詞使用傾向の解明」では、CLJ の漢語動名詞全般の使用実態を調査したあと、対照語彙論の観点から中国語と日本語の漢語比較を行う。

まず、第 8 章「中国語母語の学習者による漢語動名詞の全体的使用状況」では、大規模学習者コーパスを利用して、誤用率・産出量・語彙難度・特徴語の 4 点に注目し、CLJ とその他の学習者、また、日本語母語話者 (Japanese native speaker: JNS) が産出した発話・作文における漢語動名詞使用特性の差を量的に検証する。

第 9 章「中国語母語の学習者による日中同形漢語動名詞の使用特徴」では、日中両言語における同形語 (「準備」と“准备”、「確認」と“确认”) を取り上げ、対照語彙論の観点から、それらの意味・用法上の異同を調査・分析し、日本語漢語動名詞に対する中国語からの影響を検証する。

第 10 章「中国語と日本語における日中同形漢語動名詞の対応性」では、CLJ による同形漢語動名詞使用の困難さの原因をさらに探究するため、日本語の小説とその中国語原典版をコーパス化したデータを用い、(1) 日本語版における同形語の使用比率がどのようになるか、(2) 同形語が日中両言語間で一致しているかどうか、(3) 日本語版に出現した同形語が中国語原典版においていくつの、また、どのような語形に対応しているか、の 3 点に注目して調査を行う。

本論文のまとめを兼ねる第Ⅳ部「中国語を母語とする学習者向けの漢語動名詞指導の展望」では、はじめに、初級～超級レベルの CLJ を対象に、漢語動名詞に対する既有知識の現状をアンケートの方式で調査する。その後、CLJ 向けの漢語動名詞教材開発の準備作業として、学習項目と練習問題を含む学習シートの開発を行う。

第 11 章「中国語母語の学習者の漢語動名詞の運用能力と意識」では、学習者が実際に漢語動名詞に対してどのような苦手意識を持っているかを正確に把握するため、漢語動名詞の基礎的・応用的用法の理解度をテストで調査する。また、漢語動名詞習得に対する自己評価および指導に対する意識をアンケートで調査する。

続いて、第 12 章「中国語母語の学習者を支援する漢語動名詞教材の方向性について」では、今回の研究で明らかになった頻度論・品詞論・統語論・意味論の観点を学習者に意識化させるための教材を試行的に作成してみる。さらに、実際の現場での指導経験を持つ現役日本語教師に対するインタビューを実施し、学習シートの改善と、学習者シートを用いた授業の在り方について知見を深める。

最後に、第 13 章「本研究で得られた知見と課題」では、本研究のまとめ、および本研究の制約と課題について述べる。

第2章 先行研究

すでに述べたように、本研究は第Ⅱ部において、頻度論、品詞論、統語論、意味論、語用論、対照語彙論の観点から漢語動名詞の用法を探っていく。ここでは、はじめに漢語動名詞研究の現状を量的に概観した後、各分野における主な先行研究を概観しておく。

2.1 漢語動名詞研究の現状

すでに述べたように、漢語動名詞は古くから言語学的な関心を引き付けてきた（山田1940）。この点を計量的に確認するため、以下では、国立情報学研究所が運営する学術論文や図書・雑誌などを検索することができる電子アーカイブである CiNii Articles を使い、漢語動名詞の研究について、「漢語動名詞」・「漢語サ変」・「漢語動詞」を検索語として調査を行ったところ、以下の結果が得られた。

図1 漢語動名詞に関する研究の年代推移



上図では、漢語動名詞に関する研究の数が増えていることがわかる。ただし、2020 年代でも研究の数は 17 本にとどまっており、たとえば、「オノマトペ」の 93 本や、「副詞」の 95 本や、「外来語」の 46 本と比べると、その数は必ずしも多くない。

また、「漢語動詞」や「漢語サ変」という呼称を用いた研究は 50 年代から出版されているが、「漢語動名詞」という呼称を用いた研究は 1997 年から出現していることも確認された。これは、影山（1993）が「動名詞」という用語を定着させ、かつ、それを日本語の主要な語彙範疇と位置付けたことの影響と考えられる。

次に、漢語動名詞研究がなされる分野について考えてみよう。先ほどと同じ CiNii Articles を使い、2021 年の研究に限定した上で、それぞれのキーワードを含む研究のジャンル分類を概観する。なお、CiNii Articles では、研究の分野別分類は対応していないため、筆者が手作業で分類を行った結果をいかに示す。

図 2 漢語動名詞に関わる研究の分野

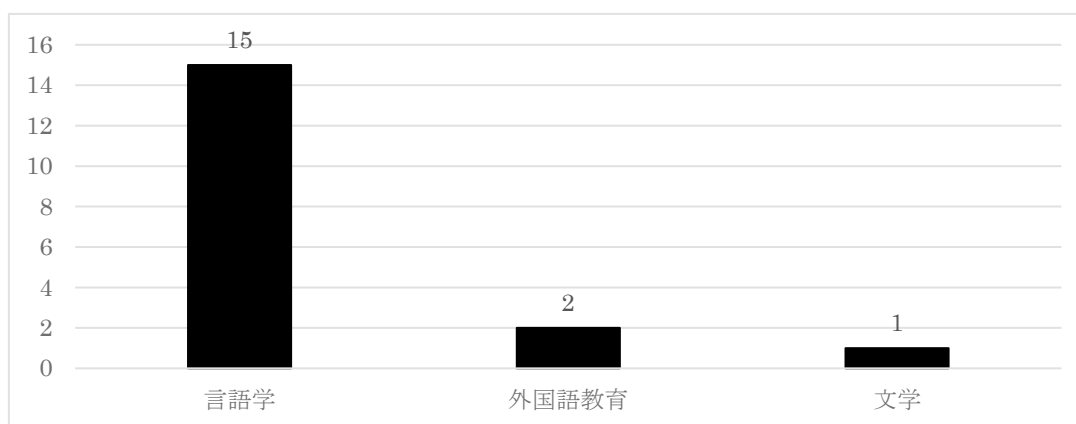


図 2 からわかるように、漢語動名詞に関する研究の大部分は言語学分野でなされている。逆に言えば、外国人日本語学習者の多くが漢語動名詞の習得を困難に感じているという現実があるにもかかわらず、外国語教育、つまり、日本語教育分野での関心は十分に高まっていない。

では、言語学研究は、漢語動名詞のどのような言語的側面に注目しているのでしょうか。以下は、筆者が手作業で分類した結果である。

図 3 言語学分野における漢語動名詞研究の内訳

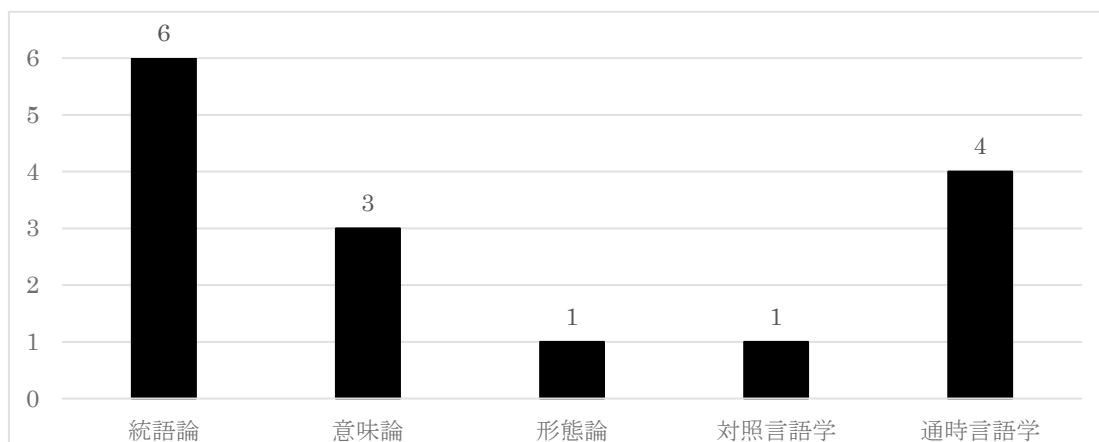


図 3 から見ると、最近の漢語動名詞研究は、主に、統語論・通時言語学・意味論・形態論・対照言語学などに関わり、語用論研究はないことがわかった。また、各分野の中で最も数が多い統語論について言えば、自他性やボイスに注目する研究が多いことも確認された。たとえば、王（2021a）は「影響」を例にして、漢語動名詞の形態論的なボイス（すなわち、サ変動詞とする場合のボイス）と語彙統語論的なボイス（すなわち、漢語動名詞と他の動詞と結合する場合のボイス）を検討している。長谷川（2021）は V-N タイプの 2 字漢語動名詞における包摂関係を有する項の外部表示という言語現象について検討している。王（2021b）、楊（2021a）、楊（2021b）なども、漢語動名詞の自他用法とボイスについて調査・分析している。

2.2 頻度論から見る漢語動名詞の特性

上で見たように、漢語動名詞の研究には様々な観点があるが、最も基本的なものは、頻度に関わる研究である。というのも、無数に存在する漢語動名詞の中で典型的なものを特定することが、あらゆる研究の前提になるからである。先行研究の中にも、漢語動名詞の頻度調査を行ったものは多い。それらは、通時研究に関わるもの、現代日本語研究に関わるもの、日本語教育に関わるものに大別できる。

まず、通時研究に関わるものとして、間淵（2016）は、現代語コーパスとして「現代日本語書き言葉均衡コーパス」（Balanced Corpus of Contemporary Written Japanese、BCCWJ）の出版サブコーパスと、近代語コーパスとして「明六雑誌コーパス」「国民之友コーパス」「太陽コーパス」「近代女性雑誌コーパス」を用い、近代・準近代・現代・準現

代・通時的二字漢語サ変動詞を抽出した。氏は調査対象語選定の抽出域を「二字漢語全体」とした上で、キー条件について、「語種」を「漢語」、「語彙素」の文字数を2文字に設定し、後文脈条件について、「語彙素」を「為る」「出来る」「致す」「奉る」「仕る」「遊ばす」「下さる」「なさる」「申す」に設定した。これにより、いずれかのコーパスにおいてサ変動詞用法を持つと思われる二字漢語サ変可能名詞として約12,000語を抽出した。それらの語の品詞性を一定の条件によって認定し、サ変可能以外の語を削除し、近代・現代コーパスでのサ変動詞用法の有無によって整理類別した。その結果、近代・現代に共通してサ変動詞用法が見られる通時的サ変は2,043語であった。近代ではサ変動詞用法がほぼなかったものの、現代になって新たにその用法を獲得した準現代・現代サ変は82語、近代でサ変動詞用法が認められたものの、現代ではその用法が消失・衰退した近代・準近代サ変は266語であった。

次に、現代日本語研究に関わるものとして、李（2013）は「現代日本語書き言葉均衡コーパス」（BCCWJ）を用いて高頻度・汎用的漢語サ変動詞を抽出した。調査した言語変種はBCCWJの書籍、雑誌、新聞、ブログ、白書、知恵袋の6種であるが、書籍については日本十進分類法（NDC）による10ジャンルをそれぞれ独立した変種とみなし、あわせて15変種のデータに対して調査を行った。調査対象語として、2文字からなる漢語サ変動詞に絞った。具体的には、まず、15変種ごとに高頻度上位50語を抽出し、重複を除いた279語を決めた。次に、15変種のうち1変種しか上位50語に入っていないものを除き、277語を対象として変種別の頻度を調査し、漢語サ変動詞の汎用性を確認した。最後に、主成分分析を用いて15変種の頻度を合成し、高頻度・汎用的な漢語サ変動詞93語を特定した。

また、鄧（2021）は重要漢語を抽出するため、BCCWJと「日本語日常会話コーパス」（CEJC）を用いて調査を行った。BCCWJにおける13の言語変種のうち、韻文を除き、書籍については、「出版・書籍」、「図書館・書籍」および「特定目的・ベストセラー」を合わせて1つの言語変種とみなした。また、CEJCは1つの言語変種とみなし、書籍、雑誌、新聞、白書、教科書、広報紙、Yahoo!知恵袋、Yahoo!ブログ、法律、国会会議録、話し言葉（CEJC）という11変種のデータを調査した。具体的な調査手法については、まず、BCCWJにおけるすべての2文字の漢語を抽出した。次に、それらの漢語に対して各言語変種における頻度と、各言語変種における語の順位を調べた。最後に、各漢語の重要度を「コーパスにおける出現頻度（PMW）×（1/言語変種順位平均値）」で計算し、その値に基づき順位付けを行い、重要漢語2,865語を抽出した。

最後に、日本語教育の要素を加味した研究として、張（2014）は「読売新聞コーパス」の 2000 年に発行されたデータを用い、タグを除き、「茶筌」で形態素解析し、得られた結果を元データ（「第 1 次データ」）として二字漢語動詞を抽出した。ここで言う漢語動詞とは、「漢語動名詞＋する」を指すものである。具体的な抽出手法は、(1) perl で作成したプログラムを利用して「第 1 次データ」から全てのサ変動詞を抽出し、後ろに「する、させる、される、できる」およびその活用形が来る語を「第 2 次データ」とし、(2)「第 2 次データ」で形式の同じものを一つにしてその出現頻度を集計し、得られた異なり語数 36840 語を「第 3 次データ」とし、(3)「第 3 次データ」における外来語のサ変動詞と和語のサ変動詞を除き、漢字が 2 字であるものを抽出し、異なり語数で 4433 語を「第 4 次データ」とし、(4)「第 4 次データ」で音読みにならないものを手作業で除いた。その結果、4383 語の二字漢語動詞を抽出した。さらに、これらの漢語動詞に対して、語構成パターン（AV 型・VN 型・VV 型・MV 型・接辞型・その他）、自他パターン（例内・例外）、語彙レベル（旧日本語能力試験語彙リストにおけるレベル）の情報を付加した。

以下、それぞれの先行研究で抽出された上位 30 語を例として示す。なお、張（2014）では語の順位付けはなされていないため、サンプルとして、「VN 型-例内-4 級・3 級」に分類される二字漢語動詞 18 語を五十音順で選んで表示している。

表 1 先行研究で抽出された語（上位 30 語）

先行研究	単語
間淵（2016） 通時的 2043 語 準現代・現代 82 語 近代・準近代 266 語	（現代サ変）機能、電話、集約、絶句、骨折、妥当、同期、遭難、建国、現像／（準現代サ変）作業、補完、重宝、一望、故障、創業、異動、仲介、視聴、法定／（通時的サ変）利用、使用、存在、説明、理解、表示、確認、紹介、選択、発生
李（2013） 93 語	存在、利用、紹介、説明、使用、確認、理解、表示、発見、発生、注目、指摘、期待、実施、用意、発表、注意、開催、構成、評価、設定、変化、提供、形成、実現、表現、展開、参加、検討、意味
鄧（2021） 2865 語	必要、関係、以上、社会、情報、問題、生活、地域、学校、利用、会社、研究、自分、環境、活動、内容、企業、事業、結果、基本、可能、一般、方法、状況、経済、調査、世界、大学、現在、使用
張（2014） 4383 語	（4 級）結婚、作文、授業、病気／（3 級）見物、講義、失礼、出席、食事、心配、水泳、卒業、退院、暖房、入院、入学、発音、返事

上記を一瞥すると、最上位 30 語と言いながら、選ばれた語はまちまちで、リスト間の重なりがむしろ小さいことがわかる。このことは、使用するデータや手法によって、「重要語」の中身が大きく変わってくることを示唆する。

従来の研究は、様々なデータを駆使して重要な漢語動名詞の特定を試みており、その手法においても、また、最終的に提案されたリストについても、重要な価値を有している。一方で、様々な言語資源が活用できるようになった現在の時点から見ると、それらには、

(1) 話し言葉の分析が少なく、話し言葉コーパスを用いる場合も発話の場面や内容の違いを考慮した調査がなされていない、(2) 書き言葉コーパスについても詳細な変種区分ごとの分析が少ない、(3) 重要語の決定基準は頻度に偏っており、レンジ（全変種のうち、当該語が出現した変種の数・割合）が十分に考慮されていない、といった問題も残されている。

2.3 品詞論から見る漢語動名詞の特性

品詞論という観点からは、漢語動名詞の名詞用法と動詞用法が広く問題にされてきた。本節では、まず、漢語動名詞の有する名詞的特徴と動詞的特徴を整理した研究を概観する。その後、漢語動名詞の有する各種の品詞用法に関して、時代変化を扱った研究と、現代日本語における用法特性を扱った研究をまとめる。先行研究の概観にあたっては、本研究の趣旨に沿って、とくに、各品詞用法の判定基準に注目したい。

2.3.1 漢語動名詞の品詞用法

小林（2004）によれば、漢語動名詞は、動詞的性質と名詞的性質の両方を有する。まず、前者に関して、動名詞は、動詞と同様、時間表現（「目的語＋〔を／に〕＋VN＋〔中／後〕（に）」）内で使用できる（例：データを入力中に、方言を調査後）。また、尊敬語（「お／ご～になる」、「お／ご～ください」）を付加できる（例：ご訪問になる、ご検討ください）。次に、後者に関して、動名詞は、名詞と同様、格助詞の「が」や「を」を後続させて単独で主語や目的語となることができる（例：勉強が～、勉強を～）。また、用途を表す「～用」を付加できる（例：料理用の酒、受験用の本）（pp.13-17）。

従来の研究では、漢語動名詞は、名詞の下位類として扱われることが多かったが、普通の名詞とは 2 つの点で異なる。1 点目は、普通の名詞は「～する」の形で使えないが、動名詞は「する」をつけると動詞として使えることである（例：*騎手する、騎乗する）。2

点目は、名詞には「人（ジン）」が付加されるが、動名詞には「人（ニン）」が付加されることである（例：外国人（ジン）、管理人（ニン））。

2.3.2 漢語動名詞の品詞用法の時代的变化

漢語動名詞は、漢語由来であるが、日本語の漢語の用法は歴史的に変化している。こうした観点から、多くの研究者が近代・現代における漢語全般や漢語動名詞の品詞用法の変化を調査対象としている。ここでは、主要な研究として、永澤（2010）、間淵（2015）、間淵（2016）の3つを概観する。なお、以下では、本論の主たる関心に沿って、それぞれの研究における漢語動名詞の品詞認定の基準を中心に報告する。

まず、永澤（2010）は、「愛情」「圧倒」など、全体で700種の二字漢語全般を対象とした上で、『太陽コーパス』（1895-1928年に刊行された雑誌『太陽』の記事データ1,450万字を収集）を使い、二字漢語の品詞用法を調査した。また、現代日本語における当該語の品詞について、研究者の内省と、新聞用例（朝日新聞『asahi.com』と毎日新聞『毎日.jp』から収集）を根拠として判定を行った。その結果、（1）700種の漢語のうち200超の語に品詞用法の変化が起きていること、（2）品詞用法の変化の87.4%は元来の用法の消失であること、（3）現代まで残る品詞用法は漢字の字義通りの意味から離れる傾向があること、（4）現代までに漢語の名詞用法が大量に消失していること、（5）近現代を問わず、動詞用法を持つ漢語は名詞用法も持つ傾向があること、（6）近代において形容詞用法を持つ語は名詞用法も持っていたが、現代にはその傾向が失われていること、（7）品詞用法を新たに獲得するパターンはほとんどないこと、（8）各品詞用法の変化の内実はそれほど複雑ではなく、一定の傾向を見だせること、などが示された。なお、この研究では名詞を3種に区分した。現代日本語で使用される名詞（名詞-a）は、格助詞（「が」「を」「に」「と」「の」）、係助詞・副助詞（「は」「も」「さえ」「のみ」）が後続し、主語・目的語・補語などとして機能するもの、と定義された。一方、動詞は、補助動詞（「-す」や「-する」（活用形含む））が後続しうるものと定義されたが、「-できる」「-致す」「-くださる」などの可能形や敬語形をとる場合は除外された。

間淵（2015）は、「研究」「発達」など、全体で1,203種の漢語動名詞を対象とした上で、前述の『太陽コーパス』と、現代日本語の書き言葉1億語を収集した『現代日本語書き言葉均衡コーパス（BCCWJ）』を使い、コーパス別に見るサ変用法の有無とその差異、サ変用法比率（サ変動詞用法の使用度数／全用例数）に基づく語の分類、近現代における

サ変用法比率の変遷を調査した。その結果、(1) 現代では近代よりサ変用法が大きく減少していること、(2) このような減少は定着したばかりの漢語が、用法・使用域の増加や変化によって馴染み度が増し、日本語の語彙として確立したためであること、(3) サ変用法比率の変化は、漢語の造語力の変化、別義の派生による使用域の広がりや語義の限定、また、コーパスの性質などに影響を受けている可能性があり、サ変であることを動作性の強さの指標とみなすのは危険であること、などが示された。なお、この研究では、サ変用法を取る二字漢語名詞を収集するにあたり、国立国語研究所の形態論情報データベース（小木曾・中村 2011）で、キーについては、「品詞」が“名詞”かつ「語種」が“漢語”かつ「語彙素」の文字数が 2 文字という条件が入力され、また、後文脈条件については、「語彙素」が「為る」または「出来る」という条件が入力された。

間淵（2016）は、調査対象を変更して、間淵（2015）を再検証した研究である。「議定」「適当」など、全体で 12,000 種の漢語動名詞を対象とした上で、『明六雑誌コーパス』（1874～1875 年に刊行された雑誌データ 11 万語）、『国民之友コーパス』（1887～1888 年に刊行された雑誌データ 56 万語）、『太陽コーパス』、『近代女性雑誌コーパス』（1894～1925 年に刊行された雑誌データ 70 万語）、BCCWJ の出版サブコーパス（2001～2005 年に刊行された出版物データ 3,450 万語）を使い、漢語動名詞サ変動詞用法の近代・現代間での変化を総合的・網羅的に調査した。調査結果は、間淵（2015）とほぼ同一であったが、間淵（2016）においては、サ変率が、動詞性の強さと名詞性（あるいは他の品詞性）の強さを示す可能性が示唆された。なお、この研究では、サ変用法の二字漢語名詞を収集する際、間淵（2015）と同様の条件が設定されたが、後文脈の「語彙素」については、従前の「為る」「出来る」に加え、新たに、「致す」「奉る」「仕る」「遊ぶ」「下さる」「なさる」「申す」という条件が入力された。また、抽出した語の品詞用法の判定については、後続語が格助詞・係助詞・副助詞・ $\emptyset$ （ファイ、空の意）を後接して主格・目的格・補語になる場合や連体修飾を受ける場合に名詞用法であると判断した。

2.3.3 現代における漢語動名詞の品詞用法

現代漢語動名詞の品詞用法については、多くの研究者がサ変用法や構文形の使用状況を調査対象としている。ここでは、主要研究として、田辺・中條・船戸（2012）、田辺・中條（2014）、李（2014）の 3 つを概観する。

田辺・中條・船戸（2012）は、「改革」「実施」など、全 100 種の漢語動名詞を調査対

象とした上で、独自に作成した『新聞コーパス』（1989年9月～2001年12月に刊行された『読売新聞』およびその英語版の *The Daily Yomiuri* の記事を対応付けて作成されたパラレルコーパス）の日本語データを使って個々の語のコロケーション（上位 20 語）を調べ、当該語の分類を行った。コロケーション抽出にあたっては、パラレルコーパス用解析ソフトウェアである ParaConc の **Advanced Collocation** 機能が使用され、コロケーションの検索範囲は中心語の右側 2 語までとされた。この研究では、当該漢語と上位コロケーションの組み合わせを質的に判断することで、当該漢語の用法タイプを判定した。たとえば、「実施」を例にすれば、後続コロケーションが「の」や「を」であれば「実施」は名詞用法で使われているのに対し、コロケーションが「する」や「できる」であれば動詞用法で使われていると判断する。こうした調査の結果、対象となった漢語は、（1）名詞用法中心型（改革、選挙）、（2）動詞用法中心型（実施、強調）、（3）「する」中心型（支援、強化）、（4）「した」首位型（安定、合意）、（5）「され」中心型（指摘、報告）、の 5 つのグループに整理されることがわかった。また、漢語動名詞はサ変動詞としての使用率は動詞的使用率、それ以外は名詞的使用率として、一覧表を作成した。

田辺・中條（2014）は、「協力」「実施」など、26 種のサ変動詞用法を有する漢語動名詞を調査対象とした上で、前述の『新聞コーパス』と BCCWJ の図書館・書籍サブコーパス（1986～2005 に刊行された書籍データ 30,377,866 語）における使用例を比較して、新聞記事における二字漢語動名詞の特徴を考察した。調査の結果、（1）新聞では一般的な書き言葉よりも名詞用法がやや多いこと、（2）名詞用法と動詞用法の頻度や、テンス・アスペクト・ボイスといった文法形式の使用実態は、動詞の意味に影響されるため、一般化は困難であること、などが明らかになった。この研究では、漢語動名詞の用法を判断する際、当該語の後方に「いたす」「なさる」「できる」が続く用法を動詞用法とし、それ以外の用法を名詞用法として認定した。

李（2014）は、「存在する」「利用する」など、高頻度・汎用的漢語サ変動詞 93 種（李、2013）を調査対象とした上で、BCCWJ の書籍（内容別 10 ジャンルをそれぞれ別個のデータとして扱う）、雑誌、新聞、ブログ、白書、知恵袋を含む 15 変種のデータを用いて、漢語サ変動詞の漢語部の動詞形と構文形の使用状況を調査した。その結果、（1）動詞形と構文形の頻度に占める動詞形頻度（卓立性）に注目すると、93 種中 90 種が高い卓立性を持つこと、（2）卓立性が高い語（「反映」「発揮」など）と低い語（「勉強」「確認」など）はそれぞれ共通の特徴を持つこと、（3）漢語サ変動詞の卓立性は漢語部

の頻度や漢語サ変動詞の使用環境に影響されている一方、漢語部の語構成パターンの影響は限定的であること、などが確認された。この研究では、各漢語サ変動詞の漢語部に注目し、「漢語部＋する」（勉強する）を動詞形、「漢語部＋を＋する」（勉強をする）を構文形と認定した。

2.3.4 漢語動名詞の品詞特性の判定基準

従来の研究では漢語動名詞の品詞性について様々な知見が示されたが、同時に、各研究で提唱された漢語の品詞性判定基準も注目に値する。表 2 は、主要研究における漢語の動詞用法・名詞用法の判定基準をまとめたものである。

表 2 先行研究における動詞用法・名詞用法の判定基準

先行研究	動詞用法判定基準	名詞用法判定基準
小林（2004）	～する・～中／後（に）・ご～になる／くださる	～〈格助詞〉・～用
永澤（2010）	～す・～する	～〈格助詞〉・～〈係助詞〉・～〈副助詞〉
間淵（2015）	～する・～出来る	
間淵（2016）	～為る・～出来る・～致す・～奉る・～仕る・～遊ばす・～下さる・～なさる・～申す	～〈格助詞〉・～〈係助詞〉・～〈副助詞〉・～∅
田辺・中條・船戸（2012）	高頻度コロケーションでサ変動詞用法が多いもの	高頻度コロケーションで名詞用法が多いもの
田辺・中條（2014）	～する・～いたす・～なさる・～できる	動詞用法以外のすべての品詞用法
李（2014）	～する	～をする

これらの研究は、いずれも、一定の明示的基準を設けて漢語動名詞の品詞を区分している。しかしながら、先行研究で採用された品詞判定基準は、全体としてみた場合、いくつかの点で再考の余地があるように思える。

1 点目は、各研究が採用した動詞用法の判定基準にずれが見られることである。たとえば、「～する」（活用形含む）を動詞用法の判定基準とすることはすべての研究に共通しているが、間淵（2015）は「～出来る」を、間淵（2016）と田辺・中條（2014）は「～出来る」と「～する」の敬語形をそれぞれ基準に追加している。

2 点目は、名詞性を直接的に判断した研究が極めて少ないことである。たとえば、田辺・中條（2014）では、動詞用法以外のすべての品詞用法を名詞用法と仮認定している。

これに対し、間淵（2016）は、サ変率を根拠として動詞性の強さと名詞性の強さ（あるいは他の品詞性）を議論する工夫を行っているが、名詞性を直接に判定したわけではない。

3 点目は、言語学で提唱されてきた各種の動詞用法・名詞用法の判定基準を網羅的に調査した研究が少ないことである。今回の先行研究の概観の限りにおいては、小林（2004）で報告された判定基準をすべて用いて分類を行った研究はなかった。

2.4 統語論から見る漢語動名詞の特性

漢語動名詞の統語論的特性については、自他性や、構文特性など、さまざまな問題が想定されるが、本論文は、1.3.1.2 節でも触れたように、「発展する状態」など、漢語動名詞が名詞句中で使用される連体修飾構造形に着目し、とくに、「発展の状態」や「発展的な状態」といった他の想定される構造形との比較を行う。そこで、本節においてはまず、日本語全般の連体修飾構造に関わる研究を概観する。その後、漢語や漢語動名詞を取り出して考察を行った研究を概観する。

2.4.1 日本語全般の連体修飾

日本語の文法において、修飾は文成分の重要な機能の一つとされる。日本語記述文法研究会（2003）は、修飾語を「事態の成り立ちをさまざまな観点から限定するもの」と定義しており、連体修飾に関しては「規定語」として、「名詞を修飾し、その語彙的な意味を限定したり説明を加えたりするもの」と定義している。

寺村（1991）は、日本語の文の内部構造を、主要素が名詞である場合と述語詞である場合に基づいて「連体」と「連用」に分けている。寺村は、主従的な結合の構文や意味を考察する際には、その内部構造の形式的な分類と、「主従」関係の意味内容という二つの観点からの分析が必要であると主張している。意味内容によって、連体と連用のそれぞれが主要素にどのように関連するかを「補充」と「修飾」の二つに分け、さらに述語に対して「必須的な補語」と「副次的な補語」を区別する必要があると述べている。また、連体修飾については、形態の視点から以下のように分類した。

- (1) 「名詞+ノ」 私の辞書
- (2) 「名詞+格助詞+ノ」 父からの手紙
- (3) 「副詞+ノ」 しっかりのヨガ

- (4)「その他の形+ノ」 知ってのこと、飲みながらの、～すればの
- (5)「連体詞」 ある日、ある人
- (6)「名詞的形容詞+ナ」 静かな街
- (7)「動詞・形容詞の確言形（基本形とタ形）」 食べたパン、小さい蟻

加藤（2003）は、修飾の定義に意味・構造・機能の 3 つの観点を導入し、多面的に定義している。意味的修飾とは、修飾成分が後続する被修飾成分を限定し、意味に着目してその論理的外延を狭めるものである。たとえば、「赤い花」では「赤い」が「花」を限定し、「その人」では「その」が「人」を限定している。構造的修飾とは、後文を「主要部」と「補部」に分け、補部が主要部に対して有する関係である。たとえば、「美味しい桃」の文法的性質は「桃」と同じであり、「桃」が主要部になっており、「美味しい」が補部である。機能的修飾とは、文において語や句がどういう働きを有しているかという観点からとらえた修飾である。たとえば、「美味しい桃」のように名詞句では、「美味しい」が「桃」を意味的にも、機能的にも修飾している。

また、加藤（2003）は、動詞、形容詞、名詞によって、以下に示すように連体修飾のさまざまな形式を分類している。その中で、「X たる Y」「X なる Y」という形式は、実は「連体詞+名詞」に属するものであり、上記の寺村（1991）の形態的分類における「連体詞」と同じだと言える。

表 3 加藤（2003）による日本語全般の連体修飾の形態的分類

動詞	A.ル形 B.タ形 C.テイル形 D.その他の形式
形容詞	A.イ形 B.タ形 C.その他の形式
名詞	A.「X の Y」 B.「X な Y」 C.「X とした Y」 D.「X した Y」 E.「X たる Y」 F.「X（と）している Y」 G.「X なる Y」 H.その他の形式

段（2024）では、寺村（1991）と加藤（2003）の分類を考察した上で、日本語の連体修飾形態を以下のように修正して整理した。

表 4 段（2024）が整理した日本語全般の連体修飾の形態的分類

動詞	A.ル形 B.タ形 C.テイル形 D.その他の形式
形容詞	A.イ形 B.タ形 C.その他の形式
名詞	A.「X の Y」 B.「X な Y」 C.その他の形式

連体詞	A.指示詞 B.「あり」「いわゆる」など C.「X+した/たる/としている/なる」など D.形容詞からの転換のもの（大きな） E.その他の形式
関係節	述部のような要素を含むもの（たとえば：うまく実行した計画）

また、段（2024）では、連体修飾の意味と機能について整理している。まず、「ノ」によって結びつけられた 2 つの名詞に関して、以下の 3 つの典型的な例を挙げている。また、名詞が名詞を修飾する場合、それは基本的に形容詞の役割を果たすと指摘している。

- (8) 修飾によって集合内で該当する対象が減少し、論理的外延も狭まる：「私の父親」
- (9) 修飾が加わっても意味が全く限定されず、論理的外延も変わらない：「誰かの父親」
- (10) 集合の外側に出る：「偽の父親」

次に、形容詞については、一般的に連体修飾に特化して使用されるものと認識されていると述べている。形容詞が名詞を修飾する場合、物事の形状や性質、特徴を描写する属性形容詞と、喜怒哀楽の感情を表現する感情形容詞に大別されている（寺村、1991）。

最後に、動詞は主に述語を中心に構文を構成するものであり、名詞を修飾する役割は副次的なものであると指摘している。また、連体修飾として用いられる動詞は、基本形に限らず、過去形やタ形なども同様に使用される。

寺村（1993）は、連体修飾構造を構文的に「内の関係」と「外の関係」の 2 つタイプに分類している。「内の関係」とは、主名詞が修飾部の用言に対して補語として機能する関係を指す。たとえば、例（11）において、「さんまを焼く男」は「（ある）男がさんまを焼く」に言い換えられ、主名詞である「男」と修飾語である「さんまを焼く」の間に格関係が成立している。一方、「外の関係」とは、主名詞にどのような格助詞をつけても修飾部に適合しない関係を指す。たとえば、例（12）では、「さんまを焼く匂い」を「（その）匂いさんまを焼く」に言い換えることはできず、主名詞である「匂い」と修飾語である「さんまを焼く」の間に格関係が存在していない。例（12）の文には、「さんまを焼く」と「（ある）匂いがする」という 2 つの叙述内容を含んでいる。

- (11) さんまを焼く男 → （ある）男がさんまを焼く
- (12) さんまを焼く匂い → *（その）匂いさんまを焼く

なお、修飾部は、「内的関係」の連体修飾構造において主名詞を意味的に「付加的」に修飾しているのに対し、「外的関係」においては、主名詞を「内容補充的」に修飾していると述べている。

以上で、日本語全般の連体修飾について、定義、形態的特徴、意味機能特徴、構造分類についてまとめた。以下では、漢語や漢語動名詞を取り出した連体修飾に関わる研究を概観する。

2.4.2 漢語や漢語動名詞の連体修飾

連体修飾に関わる先行研究の中、漢語や漢語動名詞を取り出した研究はさまざま行われてきたが、ここでは主要研究として、羅（2009）、呉人他（2008）、石（2021）、鄧（2022）に絞って概観する。

羅（2009）は、『ふりがな和英辞典』（2001、講談社）において「～ナ」と例示されている二字漢語 25 語と、「～ノ」と例示されている二字漢語 25 語、合計 50 語を日本語母語話者に提示し、それらの語がどのようなイメージを持つかについて調査を実施した。その結果、「～ナ」はプラスまたはマイナスのイメージを持つのに対して、「～ノ」は比較的中立的なイメージを持つことが明らかになった。また、朝日新聞のデータベースから、「不意な」「不意の」「拔群な」「拔群の」「最悪な」「最悪の」「独特な」「独特の」「適度な」「適度の」を含むそれぞれ 1 つの文、合計 10 文を日本語母語話者に提示し、「～ナ」と「～ノ」の文レベルでの使用傾向と使用意識について調査を行った。その結果、「柔らかい」語感や「情意的」なイメージがある場合には「～ナ」が選ばれ、「硬い」語感や「客観的」なイメージがある場合には「～ノ」が選ばれる傾向が見られた。また、「～ノ」を使う場合は中立的に事実を述べるのに対し、「～ナ」を使う場合はその事実に対する強調や、好悪といった話者の感情を反映しているケースが多いことも示された。なお、「～ナ」と「～ノ」の選択に関しては、日本語の母語話者も明確な意識を持たず、感覚的に無意識で使い分けをしている可能性も示唆された。

呉人他（2008）は、「～的」の統語的用法、意味、機能の違いを説明するために、「的」が付く語基の特徴と「的」が付いた結合語が文中でどのように使われているかを分析した。具体的には、『朝日新聞』、『毎日新聞』、『読売新聞』の 3 紙の社説に出現するすべての「的」の用例を抽出して調査を行った。その結果、(1) 語基の種類については、漢語（例：計画的）、和語（例：なし崩し的）、外来語（例：スローガンの）などが見られたが、全体の

89.6%が二字漢語であったこと、(2) 語基の品詞については、体言類（例：近代、化学）、用言類（例：計画、注意）、副言類（例：全然、絶対）、相言類（例：優秀、最後）、結合類（例：積極、合理）と幅広く見られるものの、体言類が 67.5%と最も多かったこと、(3) 「的」が付く結合語の文中での用法に関して、「的な」と「的 φ」の使用率がそれぞれ 38.6%と 21.6%であり、使い分けの傾向として、被修飾語が形式体言や一字漢語の場合、また「的」の派生語の後に限定語が続く場合は「的な」が使われ、派生語と被修飾語の結びつきが強い場合は「的 φ」が使われることが確認された。また、「わたしの的には」「気持ち的には」などのような「的」の新しい用法については、「的」の範囲・カテゴリーを規定する本来の用法の延長線上にあり、意味的に逸脱していないことが示された。

石（2021）は、50 名の CLJ を対象に、「VN {スル／シタ、ノ} N」を選択させる問題（30 問）を用意して、CLJ の「VN ノ N」の使用意識を調査した。その結果、(ア)「スル／シタ」しか使えない場合に「ノ」を選択した CLJ の非正答率は 67.6%であった、(イ)「ノ」と「スル／シタ」両者ともに成立するが、どちらか一方しか選択しなかった非正答率は 62%であった、ことがわかった。このような結果は、多くの CLJ は漢語動名詞の連体修飾用法を使い分けできないことが示唆された。そこで、前述した寺村（1993）が提唱した連体節構造に関する「内の関係」と「外の関係」という概念を基に、新たな視点から漢語動名詞の連体用法「VN ノ N」の成立条件について考察した。石は、「VN ノ N」において、VN と N の間に意味的な格関係が想定できる場合を「内の関係」とし、そうでない場合を「外の関係」と定義している。たとえば、「配達の人」の場合、「人」が「配達」の動作主体であり、「その人が配達する」という意味関係が成立するため、これを「内の関係」とする。一方、「離婚の話」の場合、「離婚」と「話」の間には意味的な格関係が想定できないため、これを「外の関係」と位置づけている。具体的には、BCCWJ のデータを利用して、「(漢語) VN ノ N」の用例を網羅的に収集し、「内の関係」と「外の関係」の定義に従って整理・分類した。その結果、外の関係「VN ノ N」は用例全体の 96.6%を占めており、一般的に成立可能であることが確認された（例：離婚の話、失敗の可能性）。一方、内の関係「VN ノ N」は用例全体の 3.4%を占めており、一般に成立不可であるが（例：*後退の経済、*失敗の婚姻）、語彙的な現象との特殊な場合に成立できることが明らかになった（例：新築の建物、配達の人）。

さらに、各種の漢語動名詞の「VN ノ N」について考察すると、外の関係「VN ノ N」の場合、内容型・基準型・随伴物型の 3 種類に分けられ、内の関係「VN ノ N」の特殊な用

法の場合、VN は主名詞の N の特徴や属性を表し、つまり、形容詞の役割を持っている、のことを指摘した。以下に、石（2021）がまとめた外の関係「VN ノ N」と内の関係「VN ノ N」の類型を示す。

表 5 石（2021）による「VN ノ N」の分類

外の関係 「VN ノ N」	内容型	「VN という N」または「VN に関する N」に相当する 例：離婚の話、自殺の決心、転職の望み、急増の傾向
	時間型	「VN より前、後、時と同時の N」に相当する 例：出発の前、離婚の後、入学の時、出勤の途中、署名の上
	随伴物型	① 因果関係 a. 〈原因→結果〉「VN することによる N」に相当する 例：相談の結果、努力の甲斐、登山の疲れ b. 〈結果→原因〉「N によって VN する」に相当する 例：反対の理由、自殺の原因、デビューのきっかけ c. 〈目的／（反）寄与〉「VN のための（実現を妨げる）N」に相当する 例：攻撃の心構え、考察の手がかり、吸収の妨げ
		② 非因果関係 a. 〈側面〉「VN のある側面 N」に相当する 例：前進の方向、前進の速度、前進の主体 b. 〈範列〉N が VN と範列的な関係にある事態を表す 例：握手の代わり、後退の一方、努力の以外
内の関係 「VN ノ N」	意味的に「ヲ」格の関係を有する	a. 形容詞的要素を含む VN 例：新築の建物、公認の幼稚園 b. 時空関係要素を含む VN 例：上述の例、前記の規定
	意味的に「ガ」格の関係を有する	a. 形容詞的要素を含む VN 例：新着のメール、常駐の大使 b. 時空関係要素を含む VN 例：先行の研究、同行の幹部 c. 仕事・職業を表す VN 例：配達の人、掃除の小母さん
	意味的に「デ／ニ」格の関係を有する	用途を表す VN 例：コピーの機械、駐車場所

鄧（2022）は、BCCWJ のデータを利用して、漢語の連体修飾用法について調査を行った。まず、漢語に後続する「ナ」・「ノ」・「シタ」・「的 φ」・「的ナ」という 5 つの連体修飾標識の使用頻度および許容度を調査した。その結果、漢語全般の場合は、(1) 5 つの標識

のうち、「ノ」の占有比が全体の7割を占め、圧倒的に多く、漢語が他の名詞を修飾する際に「ノ」が典型的な標準形であること、(2)「的 φ」「的ナ」「ナ」の許容性と占有比はいずれも低い、「的 φ」の許容性は3種の標識の中で最も高いが、「的ナ」のほうが多く使用されること、(3)「ノ」と結合できる漢語の数が5つの標識の中で一番多く、約7割に到達すること、などが確認された。また、漢語動名詞に注目すると、重要漢語上位100語のうち、(1)「発生」「参加」「対応」「利用」「使用」「実施」などの5語は「シタ」型、(2)「意味」「関係」「生活」「研究」などの20語は「ノ」型、(3)「説明」「確認」「開発」「理解」などの4語は「ノ」・「シタ」型、(4)「代表」は「的ナ」型、(5)「計画」「自動」は「ノ」・「的ナ」型、(6)「決定」は「ノ」・「シタ」・「的ナ」型であることがわかった。これにより、漢語動名詞が連体修飾語として使用される際に、「シタ」・「ノ」・「的ナ」との結合が多いと言えるだろう。

しかしながら、「安定」の連体修飾パターンを調査した結果、「安定ノ」の占有比はわずか8.31%にとどまり、漢語全般の傾向とは異なることが確認された。なお、「安定ノ」の使用範囲は「安定シタ」に次いで広く、幅広い範囲で使用されるパターンであると考えられる。また、「安定的 φ」の使用頻度が「安定ナ」と「安定ノ」のどちらよりも高いということは、漢語全般の傾向と異なることも確認された。それに、「安定ナ」は物理や化学などの理科の教科書において多用されている一方、「安定的 (ナ)」は白書や法律などのような公的なジャンルで多用されていることがわかった。

以上のように日本語名詞節の構造パターンについては様々な調査が行われてきたが、(1)漢語動名詞に焦点を合わせた研究は少ない、(2)「漢語+スル・シタ+名詞」、「漢語+ノ+名詞」「漢語+的・的ナ・ナ+名詞」の3種の構造パターンの典型性の議論は少ない、(3)その言語的背景についての説明も少ない、などの課題も残されている。

2.5 意味論から見る漢語動名詞の特性

漢語動名詞の意味論的・語用論的特性については、何らかの特定の語を取り上げた議論が多くなされてきた。先行研究の多くは、関連語を広くとりあげて比較し、その使用環境や語義および共起パターンの違いを調査している。本節では、こうした意味論的観点からの単語間比較研究の一例として、類義漢語間の比較（中溝他 2011、小林 2023）、語種をまたぐ類義語間の比較（山下他 2018、朱 2017、陳 2013、鄧 2022）を扱った先行研究を概観する。

2.5.1 類義漢語間の比較

類義漢語間の比較について、中溝他（2011）は、コロケーション習得に特化した教材作成の一助となるため、類義漢語である「進歩」と「向上」のコロケーションの異同を調査した。まず、氏は国語辞典である『広辞苑』と『大辞泉』における 2 語の意味を調査したところ、「進歩」と「向上」の意味は漢字から窺える違いがあるが、実際に使用される文脈によっては同じような意味合いを持ち、辞書的な意味だけでは言葉を選択するのが難しいことがあると指摘している。そこで、現代日本語の書き言葉を代表するとみなされている BCCWJ の 2000 年以降のデータ（「国会議事録」を除く）を用い、「進歩」と「向上」が使用されている文を調査した。調査した結果を踏まえて、学習者に提示すべき内容を以下のように提案した。

表 3 中溝他（2011）での調査結果を踏まえた教材試案

	進歩	向上
スル動詞	可	可
共起する動詞	「進歩」の意図：進歩を図る 「進歩」の開始：進歩を生み出す 「進歩」の達成：進歩がある 進歩を遂げる 「進歩」の停滞：進歩が止まる	「向上」が達成される前の意図や努力を表す動詞と多く共起する 「向上」の意図：向上を図る／が図られる、向上を目指す、向上を目的とする 「向上」への努力：向上に努める 「向上」への貢献：向上に資する、向上に寄与する
修飾語	「名詞＋の」で「進歩」の分野を表す場合が多い（特に技術分野）。 例：技術の進歩、文明の進歩	「名詞＋の」で「向上」する物事やそのレベル・性質を表す。幅広い分野で使用可能。 例：水準の向上、能力の向上、サービスの向上、生活の向上 等
	「進歩」の様態 小・遅：小さな進歩 大・速：急速な進歩、大きな進歩、格段の進歩、飛躍的な進歩	「向上」の様態 小・遅：緩やかな向上 大・速：顕著な向上、急激な向上、飛躍的な向上
熟語など	前接する語 「進歩」の分野などを表す場合が多い 「～的」が使用される場合も多い 例：技術（的）進歩、科学的進歩	前接する語 「向上」する内容や分野における指標などを表す場合が多い 例：生産性向上、性能向上、質的向上
	後接する語 一般：進歩的、進歩性	後接する語 一般：向上心、向上傾向

	専門（特に社会科学）：進歩主義、進歩党、進歩史観	専門（特に施策・運動など）：向上推進（事業）、向上（対）策

このように、日本語教育の現場で、学習者に類義語の意味の異同だけではなく、実際にどのようなパターンでどのように使用されるかに関する詳細な情報を提示することで、学習者がより自然に漢語名詞を使用できるようになると考えられる。

小林（2004、2006、2022、2023）は、国語辞典の記述を精緻化するため、漢語サ変動詞「販売（する）」「建築（する）」「用心（する）」「奨励（する）」などと、その類義漢語を取り上げ、朝日新聞データベースや毎日新聞データベースを用いて一連の意味・用法に関する検証を行った。ここで、小林（2023）を詳しく見てみよう。

小林（2023）は、和語動詞に関する分析に比べ、漢語サ変動詞に関する分析が遅れており、新聞データで出現した漢語サ変動詞の用法が、本来の用法ではなくても、国語辞典で記述されるべきであることを指摘している。氏は国語辞典におけるこのような不十分さを解消するため、毎日新聞データベースを用い、すすめることを表す「奨励（する）」「推奨（する）」「推薦（する）」「推挙（する）」の意味・用法を分析し、『明鏡国語辞典（第三版）』（2021）における意味記述と比較した。その結果は以下のようになった。

表 4 小林（2023）の考察結果

漢語	『明鏡』における記述	小林（2023）の考察結果
奨励	ある事柄をよいこととして強く人にすすめること。	①3 項動詞（例： <u>ソ連軍に抵抗したゲリラ各派が、戦費調達のため農民にケシ栽培を奨励する。</u> ） ②目的語としてのこと（名詞節も含め）・ものがヲ格で標示される
推奨	人・事物などのすぐれていることをあげて、それを人にすすめること。	①3 項動詞（例： <u>ウォール街の花形アナリストが、ある株の「買い」を顧客に推奨していながら...</u> ） ②目的語としてのこと（名詞節も含め）・もの・組織がヲ格で標示される
推薦	ある人や物を適当だとして、他人にすすめること。	①3 項動詞（例： <u>政府は 16 日までに、...駐イラク臨時代理大使を務める蒔田恭雄・駐ヨルダン大使館参事官と上村司・駐サウジアラビア大使館参事官を国連に推薦した。</u> ） ②目的語としての人・もの・こと（名詞節も含め）がヲ格で標示される

		③「推薦」と共起する二格名詞句（人ヲ〈～ニ〉推薦する）には、(1)「～に」は「～として」置き換えるもの、(2)「～で」置き換えるもの、(3)どちらも置き換えられないもの、の3つのタイプが存在する
推挙	ある人を特定の職業・役職・地位などにふさわしいとして推薦すること。	①目的語としての人がヲ格で標示される ②「推挙」と共起する二格名詞句には、特定職業・役職・地位などを表す表現が多い

上表に示したように、小林（2023）では、新聞の実用例から各漢語サ変動詞の格標示をまとめた。しかしながら、漢語サ変動詞はどのような語義が実際の日本語において多用されるか、どのようなコロケーションと共起しやすいか、などについて分析していない。

2.5.2 語種をまたぐ類義語間の比較

語種をまたぐ類義語間の比較について、ここでは質問紙調査に基づく研究とコーパス調査に基づく研究という2つのタイプに分けて概観する。

まず、質問紙調査に基づく研究について、山下他（2018）は、カタカナ語（外来語）の意味と使用に注目し、日本語母語話者（110名）がカタカナ語と類義の漢語あるいは和語を、どのように使い分けているのかについて質問紙調査を行った。調査語彙は、広範囲・高頻度に使用され、定着していると考えられるカタカナ語とその類義漢語・和語14ペアであった。その結果、類義語との使い分けに個人差が見られる語が2ペア（「テストする」と「試験する」、「ストップする」と「停止する」）を除くと、他の12ペアには、(1)カタカナ語に類義語にはないニュアンスが付加されている（例：カットする・切る、サインする・署名する、など）、(2)カタカナ語のほうが類義語より多義的である（例：カバーする・補う、サービスする・奉仕する、など）、(3)カタカナ語が特定の使用に限られ類義語と役割分担している（例：アピールする・訴える、トレーニングする・練習する、など）、という3つの使い分け基準があることが確認された。

朱（2017）は、日本語母語話者（日本人大学生）を対象とし、使用場面による日本語における類義語間の語種の使い分けについて質問紙調査を行った。調査語彙は、先行研究で取り上げた和語・漢語・外来語の3つの語種に類義語が存在し、かつ、使用頻度が高い19組であった（例：旅・旅行・トラベル）。その結果、日本人大学生が、(1)友達同士と話すときに最も多く選択された語種は外来語（42.11%）、(2)大勢の人の前で話すときに最

も多く選択された語種は漢語（57.90%）である、(3) 初対面指導教員と話すときに最も多く選択された語種は漢語（57.89%）である、という使用傾向が確認された。

次に、コーパス調査に基づく研究について、陳（2013）は、「中日新聞」2006 年のデータを用い、「ケア」と「介護」の意味フレームを明らかにした。具体的には、両語と共起する〈直前直後共起語〉および〈文中共起語〉を抽出し、それぞれ「場所」「組織」「経営」「職業・知識・動力」「病状・治療」「受ける人の身体的・生活的な面」「対象者」「種類」「設備・食品」「心理的・精神的」「美容」「実施する人の生活」という 12 種に分類し、それを手掛かりに両語の差異を考察した。

鄧（2022）は、BCCWJ を用い、「ストップ」と「停止」の意味差を、使用頻度・品詞（活用）タイプ・使用ジャンル・共起語の 4 つの観点から考察した。その結果、(1) 「停止」は「ストップ」より 2 倍以上に使用される、(2) 両語ともに名詞用法は動詞用法よりも多く、動詞として使う場合、「停止」は受け身形が多いのに対し、「ストップ」は使役態が多い、(3) 「停止」はより公的文脈で好まれるのに対し、「ストップ」はよりくだけた文脈で好まれる、(4) 名詞として使う場合、「ストップ」は瞬時性を強調するのに対し、「停止」は一定の時間の継続性を許容している、(5) 動詞として使う場合、「ストップ」は「抵抗の大きいもの、または進行中の動作を意図的に止める」という意味を持つのに対し、「停止」は「抵抗の小さいものにとまっている状態」を指すことが多い、などの両語の異なる使用傾向が明らかになった。

類義語間の比較によって漢語動名詞の意味について様々な観点から考察してきたが、(1) 類義語ペアに限られている研究が多く、2 語以上の類義語セットに関する調査は少ない、(2) コーパスデータに基づく調査も書き言葉だけに注目したものが多く、話し言葉と組み合わせて調査したものが少ない、(3) 外来語と漢語間の比較が多く、漢語と和語間の比較が少ない、などの問題点が存在している。

2.6 対照語彙論の観点から見る漢語動名詞

漢語動名詞が、中国語由来の漢語を含むものであることを考えると、日本語漢語動名詞の研究を行う際、中国語との比較の観点が重要になってくる。こうした背景から、対照語彙論的枠組みのもと、特に日中同形語についての研究が数多く行なわれてきた。ここでは、同形語の種類数や頻度に関する研究、同形語の意味に関する研究、中国語母語学習者の同形語使用に関する研究を概観したい。

2.6.1 同形語の種類数や頻度に関する研究

まず、文化庁(1978)は、日本語の漢語と対応する中国語を、その関係性に基づき、4 種類(S: Same、O: Overlap、D: Different、N: Nothing)に分類している。3 種類の初級・中級の日本語教科書(計 10 冊)より抽出した 2,000 語に基づく計量的調査の結果、日中両言語において意味が共通する同義の語彙(S 語)は全体の約 67%で、類義の語彙(O 語)は約 4%、両者あわせて全体の約 71%になるという。

陳(2002)は、文化庁(1978)・国立国語研究所(1982)・国立国語研究所(1984)・『日本語能力試験出題基準』(国際交流基金、1994)という 4 冊の資料より抽出した 4,600 語と中国大陸の中国語において対応する 2 字漢語の辞書的意味実態を調べた結果、S 語は全体の約 54.5%、O 語は全体の 14.9%を占めることがわかった。

松下・陳・王・陳(2020)は、文化庁(1978)と三浦(1984)に基づき、日中同形語の意味対応パターンを表 1 に示したように 6 種類に分類し、「日中対照漢字語データベース」(Version 2.0)を開発した。また、日本語の語彙において、50%が漢語で、漢語の 70%が日中同形語であること、同形語のうち、82%が同形同義であり、18%が同形類義語や同形異義語であることが明らかになった。

表 1 松下・陳・王・陳(2020)の日中同形語の意味対応パターン

意味対応パターン	例
同形同義(日＝中) 日本語と中国語の基本義が同じ	社会
同形異義(日≠中) 日本語と中国語の基本義が異なる	大丈夫
同形類義(日＞中) 日本語のほうが意味が広い(日本語だけに独自義がある)	時間
同形類義(日＜中) 中国語のほうが意味が広い(中国語だけに独自義がある)	会
同形類義(日＞＜中) 共通義があるが、日中両語ともに独自義もある	是非
非同形 (φ) 中国語には当該語が存在しない	病院

2.6.2 同形語の意味に関する研究

次に、日中同形語の意味用法に関する研究について概観する。こうした研究の多くは、主として使用頻度、文法機能、品詞性、共起語などに注目してきた。

何(2016)は、「現代日本語書き言葉均衡コーパス」(BCCWJ)と「国家语委现代汉语平衡语料库」での使用頻度が 50 回以上の同形同義新漢語 101 語を対象とし、CLJ が日中同形同義語の学習における母語からの影響について調査した。各語について、日本語における使用頻度比と中国語における使用頻度比を調査した結果、(1)両言語における使用頻度比の間には有意差がない場合、CLJ は母語から正の影響を受けること、(2)日本語における使用頻度が中国語よりも多い

場合、CLJ は過小使用の可能性があること、(3) 日本語における使用頻度が中国語よりも少ない場合、CLJ は過剰使用の可能性があること、の 3 点が示唆された。

馮(2019)は、『総合日語第一冊』を考察対象とし、そこに含まれるナ形容詞「主要」を例に取り上げ、BCCWJ、「現代汉语語料庫」(BCC コーパス)、「中日対訳コーパス」を用いて調査した結果、(1) “主要”(zhǔyào)のほうが「主要」より表せる意味範疇が広いこと、(2)「主要」が最も多く使用されている機能は連体修飾であるのに対し、“主要”が最も多く使用されている機能は連用修飾であること、(3) 両語と共起しやすい語には差がある、(4)「主要」は基本的に「な」が付くのに対し、“主要”はしばしば“的”を省略すること、が明らかになった。

許(2014)は、『新明解』と『現代汉语词典(第五版)』から日中同形語を抽出し、辞書の記述に基づき、意味、品詞の分類を行った。二字音読み語について品詞性調査を行った結果、(1) 品詞性が対応する同形語(53.64%)、(2) 品詞性にずれがある同形語(34.45%)、(3) 品詞性が完全に異なる同形語(11.91%)の 3 つのグループに分類した。

2.6.3 中国語母語学習者の同形語使用に関する研究

最後に、中国語母語学習者の同形語使用に関する研究について見ておきたい。CLJ の日中同形語の使用について、河住(2005)は、CLJ が産出した漢字語彙の誤用実態を調査し、CLJ の日本語漢語使用については、中国語語彙からの影響と日本語漢語に対する認識不足によって多くの問題が生じうることを明らかにした。とくに、中国語語彙をそのまま日本語語彙として使った誤用、類義の日中同形語の混用や日本語における類義漢語の混用による誤用、漢語の品詞性に対する認識不足による誤用が多いことが確認された。

五味他(2006)は日中同形語の品詞のズレによる誤用について分析し、日本語でサ変動詞として使われる「低下する」のような漢語が、CLJ の作文の中で「低下になる」のような形容詞や名詞として誤用される例が多いことが確認された。また、このような誤用は、「変化」の意味を含む同形語においてとくに顕著であることが明らかになった。

劉(2021)は、日中同形語における S 語、O 語、D 語を含む文の自然性判断テストを実施し、CLJ と非漢字圏の学習者の正答率を比較した。その結果、S 語の場合は CLJ の正答率が非漢字圏の学習者より圧倒的に高いのに対し、O 語と D 語の場合は CLJ と非漢字圏の学習者の間で顕著な差は見られなかった。これは、CLJ が日中同形語を習得する際、同形同義語の習得には正の転移、同形類義語や同形異義語には負の転移が働く可能性があることを示唆している。

過去の研究は日中同形語について様々な観点から考察してきたが、(1) 学習者の過剰・過少使

用語における同形語占有率についての調査は少ない、(2)品詞に関する調査は辞書ベースのものが多く、頻度調査は少ない、(3)同義語については、用法も同じであるとみなされ、コロケーション環境の違いを対象にした調査は少ないなどの課題が存在する。

2.7 日本語教育学の観点から見る漢語動名詞の特性

以上、2.2 節から 2.6 節において、言語学における漢語動名詞の研究を概観してきたが、漢語動名詞はまた、日本語教育学における論点ともなりうる。漢語動名詞の指導や学習に関して問題にすべき点は多いが、1.4 節で述べたように、本論文は、このうち、CLJ の漢語動名詞の使用特性の解明と、CLJ 向けの漢語動名詞の指導教材の開発を行う。以下、はじめに、特定の学習者の L2 使用の問題点を議論する際に広く用いられる中間言語対照分析という方法論について紹介した後、CLJ の漢語動名詞使用に関する研究と、CLJ 向けの日本語学習支援教材に関する研究を概観する。

2.7.1 中間言語対照分析

学習者コーパス研究という手法を援用している。学習者コーパス研究においては、中間言語対照分析 (contrastive interlanguage analysis: CIA) という研究手法が使用される (Granger1996 ; Granger1998)。CIA では、目標言語の母語話者による言語運用 (L1) と学習者による言語運用 (L2) の比較や、異なる母語を持つ学習者による L2 運用の比較を行う。前者は学習者の特有する誤用 (mistake)、過剰使用 (overuse)、過少使用 (underuse) が特定され、学習者の中間言語 (interlanguage) 体系の示差特性を解明することができる。後者は母語環境や学習環境の差を超えた中間言語の一般性を解明することができる。それらをふまえ、L2 指導の内容を改善することができる (石川 2021、pp.217-218)。

ここでは、漢語動名詞に限定せず、母語話者や世界の学習者と比較した際の CLJ の L2 日本語使用の特性を明らかにした CIA 研究の一端を紹介する。

Ishikawa (2017) は、「多言語母語の日本語学習者横断コーパス」(I-JAS) のストーリーライティング (SW) のデータを用いて、中国語母語話者を含む様々な学習者の作文を母語話者の作文と比較し、学習者の L2 日本語語彙の習得過程を検討した。その結果、(1) 学習者の習熟度が向上するにつれて、語彙の産出量が増加し、母語話者より多くなる場合もあること、(2) 助詞・動詞・副詞を過少使用する一方で、名詞・助動詞・接続詞・連体

詞・形容詞を過剰使用する傾向が見られること、(3) 初級から中級レベルでは母語による差が顕著であるが、上級レベルになるとその差は縮小していくこと、などが明らかになった。

李 (2020) は、I-JAS を用いて、CLJ を含む 1,000 名の学習者と、日本語母語話者 50 名の作文データにおける語彙の産出量と語彙特徴を調査している。その結果、学習者の日本語習熟度が上昇するにつれて、異なり語数・TTR 値・漢字比率・内容語の使用率がいずれも上昇し、文の長さも増加することが確認された。とくに、CLJ、韓国語を母語とする日本語学習者、日本国内の教室学習者は、母語話者と同じく高頻度で漢字を使用する一方で、英語やトルコ語を母語とする日本語学習者、ならびに日本国内の自然習得者は、漢字を低頻度で使用する傾向があることが明らかになった。

石川 (2020a) は、I-JAS の「対話」データを用いて中級後半レベル (日本語能力テスト J-CAT の合計スコアが 200~249 点と定義される) の中国語、韓国語、タイ語、ベトナム語を含む 12 種の母語とする学習者の発話における副詞使用の実態を調査した。その結果、(1) 母語話者と学習者の間には副詞使用量の顕著な差が存在し、欧米圏の学習者がアジア圏の学習者よりも副詞を多く使用する傾向があること、(2) 上位 5 種の副詞に限ると、学習者と母語話者の間に大きなずれが見られる一方で、学習者間の差は小さいこと、(3) 学習者は強意副詞や緩和副詞をフィラー的に過剰使用する一方で、間投詞的副詞やくだけた強意詞、漢語由来の副詞、特殊な構造を持つ副詞など、聞き手の注意を引く際立ち度の高い副詞は、母語話者ほど使用できないことが明らかになった。

また、関連研究として、石川 (2020b) は同じく I-JAS の「対話」データを用い、日本語母語話者、中級レベル (J-CAT の合計スコアが 100~249 点の学習者と定義される) の中国語母語話者・韓国語母語話者・英語母語話者の日本語発話における形容詞使用の実態を調査した。その結果、(1) 学習者が発話における形容詞の使用量は母語話者の半分程度であること、(2) 中国語母語学習者は「嬉しい」「ほしい」などのような個人的感情に関わる形容詞や、「若い」「強い」「おいしい」などのような個人の価値評価に関わる形容詞などによって特徴づけられることが確認された。

2.7.2 CLJ の漢語動名詞の使用特性に関する研究

ここでは、CLJ の漢語動名詞の使用特性に関する研究として、5 つの研究を紹介する。

まず、漢語動名詞そのものを研究テーマとした論文として、李 (2016) と張 (2021) に

言及する。

李（2016）は「作文対訳 DB」「なたね」「日本語学習者作文コーパス」「日本語学習者言語コーパス」「華東政法大学作文コーパス」の 5 つの既存の日本語学習者コーパスと、独自に中国の 2 つの大学で収集した大学生学習者の作文データを調査資料として、CLJ による漢語動名詞使用量と、BCCWJ の「特定目的・ブログ」における母語話者による漢語動名詞使用量と比較を行い、量的観点と質的観点をあわせて CLJ が使用している漢語動名詞の使用実態について分析している。量的調査として、CLJ と JNS の漢語動名詞の使用量を比較した結果、(1) 漢語動名詞の使用量は CLJ のほうが多いこと、(2) 漢語動名詞の種類数も CLJ のほうが多いこと、しかし、(3) 日常動詞の使用は CLJ のほうが少ないこと、などがわかった。なお、質的観点の分析により、CLJ の誤用の中では、母語干渉によって生じた混同のパターンが最も多く、文体不統一による生じた接続の誤用と文法範疇の誤用がそれに次ぐことが明らかになった。

次に、張（2021）は「日本語学習者書き言葉コーパス」（日语学习者书面语语料库）を用い、中級（大学 2 年次第 1 学期）と上級（大学 3 年次第 1 学期）の CLJ が産出した漢語動名詞の使用実態を調査・分析している。その結果、(1) 使用した漢語動名詞の総語数は上級 CLJ が中級 CLJ より多いのに対し、種類数は中級 CLJ のほうが多いこと、(2) 語彙の難易度は 2 つの CLJ のグループ間で顕著な差が見られないこと、(3) 2 つのグループの誤用には、非文法的な文の産出、中国語をそのまま日本語として使用することによる生じた誤用の 2 種類があること、などが確認できた。なお、誤用の主要な原因について、漢語動名詞の文法知識の欠如、日本語への理解の不足、日中両言語間のずれに気が付かなかったことなどが考えられる、としている。

このほか、漢語動名詞のみならず、漢語全般を扱った研究も多く存在する。ここでは、李（2006）、胡（2016）、張・玉岡・初（2017）、費（2020）、鄧（2020）、鄧（2021）の 6 つの研究を取り上げたい。

李（2006）は、CLJ の日本語の漢語習得の過程における負の転移と同時に正と転移の実態を見るため、アンケート調査を行った。その結果、(1) CLJ が日中同形語を学習する際、学習年数によって進んでいくが、完全にマスターできるとは言えないこと、(2) CLJ は日本語漢語の学習において、日本語の意味より中国語の意味に従いながら日本語を学習している傾向が見られたこと、など知見が得られた。

胡（2016）は中国語を母語とする初級の日本語学習者を対象とし、CLJ が日本語の漢字

語彙についてどのような問題意識を持っているかを、アンケート調査を実施した。その結果、(1) 中国語と日本語で形態が類似する単語は習得しやすいが、音韻が類似する単語は習得しにくいこと、(2) 初級の CLJ が漢字語彙を学習する際に、無意識に L1 の漢字単語の形態・音韻・意味情報に頼ってしまうことが確認された。

張・玉岡・初 (2017) は中国語を母語とする日本語学習者の音韻表記から書字への転換を必要とする漢字語の書き取りをどのように達成しているかを検討するため、日本語の語彙力を測るテストと 2 字漢字語の平仮名提示での書き取りテストを実施し、(1) 日本語の使用頻度、(2) 中国語での存在有無、(3) 日中音韻的類似性、(4) 学習者による日本語の語彙力の 4 つの要因 (独立変数) から、漢字語の書き取りの正誤 (従属変数) を予測する決定木 (分類木) 分析を行った。その結果、(ア) 全体の正答率は予想を下回る結果であったこと、(イ) 書き取りに最も強く影響した要因は日本語での使用頻度で、次に中国語での存在有無であったこと、(ウ) 中国語でその語が存在するかどうかは、学習者の日本語語彙力や日中間の音韻的類似性が弱い影響を持つことが確認された。

費 (2020) は「北京日本語学習者縦断コーパス」(B-JAS) を用い、CLJ の大学の 4 年間にわたって収集した計 5 回の作文データを調査し、母語が日本語漢語使用に与える影響を分析した。その結果、(1) 漢語使用の割合について、初級は最も高いものの、その作文の流暢性は最も低いこと、(2) 習得段階の上昇につれて、日中同形同義語 (例:「有名」と“有名”)、異形語 (例:「仕事」と“工作”) および同形異義語 (例:「勉強」と“勉強”) の使用は減少していること、(3) 漢語使用の割合と作文レベル (jWriter 評価値) については、習得の初期段階で強い負の相関、上級になると強い正の相関を示し、母語からの影響が習得段階につれて変化していること、が確認された。

鄧 (2020) は I-JAS の「対話」タスクを用い、CLJ、韓国語を母語とする学習者 (KLJ)、英語を母語とする学習者 (ELJ) および日本語母語話者 (Japanese native speaker、以下 JNS) が使用した高頻度漢語の状況を、総語数・総種類数・語彙難度・上位語の 4 点に着目して分析している。その結果、日本語発話において、(1) CLJ の漢語使用は不十分であること、(2) 漢語使用が不十分であるという問題は、CLJ だけでなく KLJ と ELJ にもみられること、(3) 習熟度の上昇につれて、CLJ の漢語使用は JNS に接近しているが、その距離はまだ大きいこと、などが明らかになった。

また、関連研究として、鄧 (2021) は、学習者データとして上述の「日本語学習者書き言葉コーパス」を、母語話者データとして BCCWJ のブログデータを用い、CLJ の作文に

おける日本語漢語の使用量と内容が学習段階の進むにつれてどのように変化するか、また、JNS とのずれがどのように変化していくかについて調査した。その結果、(1) CLJ の漢語使用量について、タイプは若干の上昇が見られるが、トークンは上昇が見られず、JNS とのずれが大きいこと、(2) 漢語使用の内容について、作文のテーマに応じて語彙内容の変化が見られるが、漢語の言語的性質が JNS に近接していないこと、の 2 点が確認された。

以上で概観した研究は、いずれも、CLJ の漢語動名詞の使用実態とその特徴・原因を詳細に調査・分析したもので重要な価値を有している。一方で、(1) 書き言葉に注目するものが多く、話し言葉を調べた研究が少ない、(2) CLJ 内の習熟段階間の比較および JNS との比較は多いが、CLJ 内の習熟度の差と他の母語の学習者との差を同時に見た研究は極めて少ない、(3) 比較研究を行う場合に、産出のトピックがそろっていない、といった課題も認められる。

第3章 データと手法

3.1 使用するデータ

第Ⅱ部において漢語動名詞の言語学的諸特性を議論する際には、「現代日本語書き言葉均衡コーパス」(BCCWJ)と「日本語日常会話コーパス」(CEJC)という二種の母語話者コーパスを使用する。また、第Ⅲ部においてCLJの漢語動名詞使用の問題点を議論する際には「多言語母語の日本語学習者横断コーパス」(I-JAS)という学習者コーパスを使用する。また、第Ⅲ部において日中同形語を対照分析する際に、中国語母語話者コーパス Lancaster Corpus of Mandarin Chinese (LCMC) と The Spoken Chinese Corpus of L1-L1 interaction (TSCC) を使用する。以下では、これらのコーパスに関して概観していく。

3.1.1 母語話者コーパス

3.1.1.1 日本語母語話者コーパス

3.1.1.1.1 「現代日本語書き言葉均衡コーパス」(BCCWJ)

「現代日本語書き言葉均衡コーパス」(Balanced Corpus of Contemporary Written Japanese, BCCWJ)は国立国語研究所が中心となって構築された日本国内ではじめての大規模均衡コーパスである。BCCWJは2011年に公開され、データ量はおよそ1億450万語である。

以下では、国立国語研究所が2015年に出した『現代日本語書き言葉均衡コーパス』利用の手引(第1.1版)の記述に基づき、BCCWJの収集対象、内部構成、収集方法、検索方法の4つの点を概観したい。

まず、1点目の収集対象について、BCCWJ以前の日本語コーパスは、新聞記事など、単一の種類のテキストを収集しただけのものが多く、日本語書き言葉の多様な実態を捉えるという点では課題もあった。そこで、BCCWJは、現代日本語書き言葉の統計的な縮図になるように設計されている。その縮図においては、現代日本語の言語的諸特性の分布が十分に再現され、母集団における分布を高精度に推定できると考えられている。

次に、2点目の内部構成について、BCCWJのサブコーパスおよびレジスター(分野)の構成を表1に示す。

表 1 BCCWJ の内部構成およびサンプル数と語数

SC	SC 総語 数 (万)	レジスター	対象期間	サンプ ル数	NumTra ns 版語数 (万)	非 NumTrans 版語数 (万)
出版 SC (生産実 態)	約 3,500	書籍	2001-2005	10,117	2,855	2,866
		雑誌	2001-2005	1,996	444	450
		新聞	2001-2005	1,473	137	138
図書館 SC (流通実 態)	約 3,000	書籍	1986-2005	10,551	3,038	3,044
特定目的 SC	約 3,500	白書	1976-2005	1,500	488	494
		教科書	2005-2007	412	93	93
		広報紙	2008	354	376	383
		ベストセラ ー	1976-2005	1,390	374	375
		Yahoo!知恵 袋	2004-2005	91,445	1,026	1,030
		Yahoo!プロ グ	2008-2009	52,680	1,019	1,028
		韻文	1980-2005	252	23	23
		法律	1976-2005	346	108	108
		国会会議録	1976-2005	159	510	510
合計				172,675	10,491	10,542

※ 『現代日本語書き言葉均衡コーパス』 利用の手引』（第 1.1 版）により筆者が作成した

表 1 からわかるように、BCCWJ は、書き言葉の生産実態を反映する「出版サブコーパス（出版 SC）」、書き言葉の流通実態を反映する「図書館サブコーパス（図書館 SC）」、およびそのほかの「特定目的サブコーパス（特定目的 SC）」、の 3 つのサブコーパスから構成されている。まず、出版 SC では、2001 年から 2005 年の間に日本国内で出版されたすべての書籍・雑誌・新聞を対象として、ランダムサンプリングされたデータを収集した。出版 SC は、幅広い出版物からデータがとられているので、現代日本語の語彙やコロケーションなどの多様性が反映されていると考えられる。

次に、図書館 SC では、東京都内の公立図書館の所蔵書籍のうち、1986 年から 2005 年の 20 年間に出版された書籍からランダムサンプリングされたデータを収集した。図書館 SC は、書き言葉が書き手と読み手との間で、社会的に流通している実態を捉え、広い意味で社会の需要が反映されているので、より一般的な用語用字を調査するのに適している。

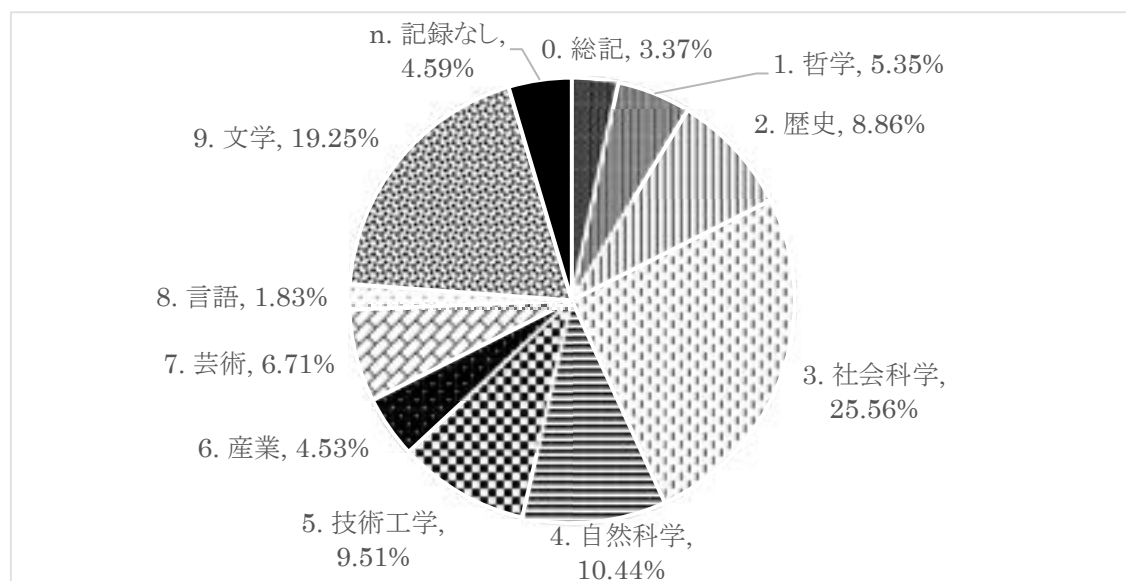
最後に、特定目的 SC では、上記以外のものとして、白書、教科書、広報紙、ベストセ

ラー、Yahoo!知恵袋、Yahoo!ブログ、韻文、法律、国会会議録からデータを収集した。なお、収集データの対象期間はレジスターによって異なる。特定 SC は、出版 SC と図書館 SC で収集しにくいデータを収集するとともに、紙媒体での書き言葉とウェブ上の書き言葉を比較する目的で設計されている。

このように、3つのサブコーパス、13種のレジスターからなる BCCWJ は、多様な現代日本語の「書き言葉の実態」(山崎 2011)を反映する資料と言える。

続いて、3点目の収集方法について、BCCWJ は、British National Corpus (BNC) などの先行する諸外国の均衡コーパスのデータ収集法を参考にするとともに、日本語の特性に応じて独自の均衡的収集法を確立している(石川 2021)。BCCWJ は、主として層化抽出法と無作為抽出法の 2 つの統計手法を用い、それぞれの母集団に対してサンプリングを行った。以下は出版 SC の「書籍」を例として説明する。

図 1 出版 SC「書籍」の NDC 別の構成比率



(<https://clrd.ninjal.ac.jp/bccwj/sampling.html> の表より筆者が作図)

書籍は、日本十進分類法 (NDC) を利用して、図 1 のように内容による 11 層にわけて収集された。また、内容別層化に加え、書籍の出版年 (2001 年から 2005 年) によってさらに 5 層を層別した。このように、「書籍」を 55 層に層別してデータを取ることで、サンプルの偶然の偏りが回避され、母集団に対する推定の精度が向上すると期待される。

次に、層化された「書籍」に含まれるすべてのページに対して、ランダムに 1 ページを

選択し、ページ全体を横縦に等間隔に 10 本の線で区切り、100 個の交点から 1 つをランダムに選択した。なお、サンプルを選択した際に、写真、図表、広告、挿絵などは対象から除いた。

BCCWJ では、利用の目的に応じて長さが異なる 2 種類のサンプルを設計した。それは、固定長サンプルと可変長サンプルである。前者は比較的短く、1,000 文字程度で抽出するサンプルであり、基本語彙リストなどの作成や語彙文字の調査などのような量的研究に適している。後者はテキストでの 1 文字をランダムに指定し、その 1 文字を含む章や節などのようなまとまりを抽出するサンプルであり、文脈の分析や文体の調査などのような質的研究に適している。

最後に、4 点目の検索方法について説明する。BCCWJ は、無償版の 2 種のインターフェースおよび有償版の DVD によって利用することができる。前者は、全文検索専用のインターフェースである「少納言」と形態素解析済みデータ検索用のインターフェースである「中納言」が含まれる。「少納言」は、形態素解析なしのデータに基づいており、文字列検索（テキストに出現した文字列に対する検索）に対応している。「中納言」は、形態素解析データに基づいているため、上記の文字列検索に加え、形態素単位での検索や、短単位（たとえば、「図書館」を「図書」と「館」にわけると長単位（「図書館」は 1 語扱いにする）を切り替えての検索もできる。また、「中納言」を利用して、共起条件を指定して検索することもできる。検索結果をダウンロードすることができ、「中納言」上にあるほかのコーパスの検索結果と比較することや組み合わせて調査することができる。

以上、BCCWJ を構築と検索の 2 つの観点から概観した。BCCWJ は幅広い分野からデータをバランスよく集めることで、現代日本語書き言葉の資料として高い価値を持っていると言える。一方、実際に使用する際に注意すべきは 2 点ある。

1 点目は、言語データの収集期間は統制されていないことである。上記の表 1 に示したように、「白書」「ベストセラー」「法律」「国会会議録」などの収集期間は 1976 年～2005 年であるが、「Yahoo!ブログ」の収集期間は 2008 年～2009 年であり、極めて大きな差が存在する。こうして、ジャンル別のデータを分析する際に、調査対象の収集期間に対する統制が必要だろう。

2 点目は、言語データ間にジャンルの偏りが存在することである。たとえば、表 1 からわかるように、書籍の総語数はおおよそ 6,000 万語、「Yahoo!知恵袋」と「Yahoo!ブログ」はおおよそ 2,000 万語で、この 3 のジャンルだけで BCCWJ 全体の 8 割以上を占めているが、

ほかの 8 つのジャンルの総語数は 2 割にすぎない。このように、BCCWJ を 1 つのまとまりとして調査すると、得られた結果は現代日本語書き言葉の実態を反映することはできず、書籍やネット用語の実態を反映する可能性がある。

3.1.1.1.2 日本語日常会話コーパス (CEJC)

「日本語日常会話コーパス」(Corpus of Everyday Japanese Conversation, CEJC) は国立国語研究所が 2016 年から構築している大規模話し言葉コーパスである。CEJC は様々なタイプの日本語日常会話およそ 200 時間をバランスよく収録したもので、2022 年 3 月に映像を含めたデータ全体が登録者に公開された。以下では、『日本語日常会話コーパス』—設計・構築・特徴— (2022) に基づき、収録する会話の選定、実際の会話収集の方法、データの内容、検索方法の 4 点について、順に概観する。

まず、1 点目の会話選定について、CEJC の構築に先立ち、およそ 250 人の成人を対象として、会話行動調査が行われた。これは、調査対象者が、起床から就寝までの間に、いつ、どこで、誰と、何をしながら、どのような種類の会話を行ったかなどをインタビューで調査したものである。この調査で得られた結果を 1 つの目安として、コーパスで収集する会話データの選定が進められた。

次に、2 点目の会話収集法については、日常場面で当事者たちが自身の動機や目的によって自然に行った会話をバランスよく収録するため、個人密着法と特定場面法という 2 つの収録方法を採用した。個人密着法は CEJC の中核的な収録法で、性別や年齢からバランスを考慮して協力者を選び、収録機材などを貸出した上で、協力者に主体的にデータを収録してもらう方法である。特定場面法とは、仕事に関する会議・会合や中高生の雑談・講義・打合せなど、個人密着法では収録しにくい場면을、調査者が主体となって収録する方法である。特定場面法は CEJC の増補的な収録法である。

続いて、3 点目のデータの内容について、以下、(a) 収集方法別の会話例、(b) 性別・年齢ごとのデータ量、(c) 全体データ量の 3 観点を示す。

まず、(a) として、個人密着法と特定場面法で集められた会話例の一部を示す。

表 2 個人密着法 (A) と特定場面法 (B) で収録された会話一覧の一部

	会話 ID	会話概要	人数	時間	形式	場所	活動	話者間関係性

A	C001_001	飲食店で友人たちと誕生日会	5	31	雑談	公共商業施設	付き合い	友人知人
	C001_003	自宅で友人に仕事について相談	2	46	用談・相談	自宅	休息	友人知人
	C001_004	飲食店で同僚と飲みながら	2	17	雑談	公共商業施設	食事・付き合い	同僚
	C002_008	買い物のため息子と車で移動中	2	20	雑談	交通機関	移動	家族
	K002_004	自営店舗で仕事関係者と仕事の打合せ	2	17	用談・相談	職場	仕事	仕事関係
	K004_013	書店で同僚たちと会議	5	18	会議・会合	職場	仕事	同僚
	K006_021	習字教室で配偶者と習字を習いながら	3	48	授業・レッスン	公共商業施設	仕事・レジャー活動	家族・先生生徒
B	W001_001a W001_001b W001_001c	研究機関で広報に関して打合せ	8 8 8	29 14 7	会議・会合	職場	仕事	同僚
	W005_001	研究機関で中学生たちが職員の講義に参加	9	77	授業・レッスン	公共商業施設	仕事・課外活動	友人知人・先生生徒
	W011_001a W011_001b	自宅で高校生たちがオンラインで雑談	3 3	9 7	雑談	自宅	付き合い	友人知人

表 2 を見ると、CEJC は日常生活における様々な人と多様な形式で行った会話が収録され、現実の JNS が産出した話し言葉を多角的に反映できる価値の高いコーパスと言えるだろう。

次に、(b) として、性別・年齢ごとのデータ量を示す。

表 3 年齢・性別ごとの話者数・発話時間・語数

年齢	男性				女性				計			
	延べ話者数	異なり話者数	発話時間	語数(千語)	延べ話者数	異なり話者数	発話時間	語数(千語)	延べ話者数	異なり話者数	発話時間	語数(千語)
～10歳	9	4	0.5	4.8	3	2	0.2	1.8	12	6	0.7	6.6
10代	19	8	1.3	19.3	4	4	0.3	3.5	23	12	1.6	22.8
20代	31	20	4.0	60.3	28	14	3.1	41.2	59	34	7.1	101.5

30代	23	15	2.8	37.2	37	19	5.1	64.4	60	34	7.9	101.6
40代	30	16	3.3	44.4	51	31	7.6	97	81	47	10.9	141.4
50代	25	14	2.3	32.1	44	30	5.9	81.7	69	44	8.2	113.8
60代	19	11	1.6	23.5	24	17	3.2	38.5	43	28	4.8	62
70代	23	17	2.5	36.1	9	7	0.9	10.8	32	24	3.4	46.9
80歳 ～	4	3	0.2	1.9	6	4	0.6	6.8	10	7	0.8	8.7
不明	0	0	0	0	1	1	0.2	2	1	1	0.2	2
計	183	108	18.4	259.4	207	128	26.9	347.7	390	236	45.3	607.1

表 3 を見ると、まず、CEJC は話者の性別・年齢に大きな偏りが生じないよう協力者の選定や収録方法などを工夫したことがわかる。たとえば、女性の延べ話者数と異なり話者数が男性に比べてやや多いものの、男女比に関しては一定のバランスが取れている。これにより、性別間・年齢間での会話の比較が研究可能になっている。

最後に (c) として全体のデータ量を示す。なお、CEJC のデータは機械的に形態素解析されているが、その一部は、専門家が手作業によって内容を検証している。この部分を「コアデータ」と呼んでいる。

表 4 CEJC データの規模

	コーパス全体	うち「コア」
時間数	200 時間	20 時間
セッション数	461 セッション	52 セッション
会話数	577 会話	52 会話
延べ話者数	1675 名	169 名
異なり話者数	862 名	135 名
語数 (短単位)	約 240 万語	約 20 万語

表 4 を見ると、全体で 240 万語をこえる自然発話の資料は、世界的にも珍しいもので、話し言葉の日本語研究の基礎資料となるものと言えよう。

最後に、4 点目の検索方法について説明する。CEJC は 2018 年 12 月に 50 時間の会話データを、2020 年 3 月に 100 時間の会話データをモニター公開し、2022 年 3 月に全体の 200 時間を対象に本公開した。BCCWJ と同じく、有償版のほか、「中納言」での無償利用も可

能である。

3.1.1.2 中国語母語話者コーパス

3.1.1.2.1 Lancaster Corpus of Mandarin Chinese (LCMC)

Lancaster Corpus of Mandarin Chinese (LCMC) (McEnery & Xiao 2004) は、Richard Xiao が作成した現代中国語均衡コーパスである。該当コーパスは FLOB (Freiburg-LOB Corpus of British English) の構築モデルに従って作成され、データ量はおよそ 100 万語である。LCMC の構築と公開は、コーパスに基づく中国語の研究、および中国語と英語間の対照研究の展開に役立っている。

以下では、McEnery & Xiao (2004) と許 (2007) に基づき、データの収集とデータの利用の 2 点を概観したい。

まず、データの収集について、LCMC は Brown Corpus と FLOB の収集手法に厳密に従っている。具体的には、中国語の書き言葉を想定母集団にし、1989 年から 1993 年まで出版された中国大陸の出版物に限ることを決めた。その後、15 種のカテゴリーごとに現実母集団を確定し、無作為抽出法によってサンプリングを決めた。サンプリングの枠組みを表 5 で示す。そのうち、カテゴリー N の冒険小説 (Adventure and Western Fiction) を、中国語の武侠小説に置き換えた。

表 5 FLOB のサンプリングの枠組み

	カテゴリー		カテゴリー
A	Press	J	Learned (academic writing)
B	Press: Editorial	K	General Fiction
C	Press: Reviews (theatre, books, music, dance)	L	Mystery and Detective Fiction
D	Religion	M	Science Fiction
E	Skills and Hobbies	N	Adventure and Western Fiction
F	Popular Lore	P	Romance and Love Story
G	Belles Lettres, Biography, Memoirs, etc.	R	Humor
H	Miscellaneous non-fiction		

LCMC の具体的な内部構成は表 6 のとおりである。

表 6 LCMC の内部構成

年代 カテゴリー	1989	1990	1991	1992	1993
A		22.7%	72.7%	2.3%	2.3%
B	7.4%	14.8%	51.9%	3.7%	22.2%
C		5.9%	88.2%	5.9%	
D	5.9%	17.6%	41.2%	11.8%	23.5%
E		23.7%	44.7%	10.5%	21.1%
F	6.8%	25%	29.5%	13.6%	25%
G	1.3%	10.4%	64.9%	16.9%	6.5%
H			100%		
J	1.2%	7.5%	72.5%	17.5%	1.3%
K			79.3%	13.8%	6.9%
L		8.3%	62.5%	16.7%	12.5%
M			100		
N	3.4%	13.8%	48.3%	31.1%	3.4%
P	10.3%	6.9%	55.2%	20.7%	6.9%
R			44.4%	22.2%	33.3%

なお、FLOBでは、1つのテキストサンプルの長さが2,000語と決められていた。LCMCの構築にあたっては、漢字：1 英単語＝1：16 の換算方法を採用し、1 サンプルに長さを3,200字とした。選択したテキストの長さが3,200漢字未満の場合、同じカテゴリーの他のテキストを選んで補完した。3,200字を超えたサンプルの場合は、先頭、中央、末尾の各々から合計3,200字を選択した。こうして、合計100万語のデータが収集された。

次に、データの利用について、LCMC は、CQPweb at Lancaster (Corpus Query Processor) というオンラインのシステムで無償に利用することができる。

3.2.1.2.2 The Spoken Chinese Corpus of L1-L1 interaction

The Spoken Chinese Corpus of L1-L1 interaction (TSCC) は、Li (2021) が博士論文の研究の一環として独自に作成したコーパスである。中国語母語話者による自然な中国語の対話が収集されている。データ量はおよそ22万語である。

以下では、Li (2021) に基づき、対象の選定、収集の方法、データの規模およびデータの利用について概観する。

まず、対象の選定について、TSCC は中国語の標準語（普通話）の対話データを収集するため、中国北部出身、かつ大学以上の教育を受けた成人 22 人を対象とした。中国人は、日常生活において、方言と普通話を併用することが多いが、北部方言と普通話の違いは比較的小さく、方言が普通話に与える影響は最小と考えられる。北部出身者に限ったのはこのためである。

次に、データ収集方法について、TSCC は非構造化インタビューを採用した。非構造化インタビューは、研究者の関与を最小限に抑えつつ、予測不可能な方向にインタビューを進めることを可能にし、最大限の柔軟性を提供する。研究者は聞き手としての役割をとる。この方法を使用することで、観察者の関与が及ぼす影響を軽減し、研究で得られるデータの総量を最大化することを目的としている。

続いて、データの規模について、表 7 のとおりである（Li, 2021 の表を筆者が日本語に訳している）。なお、表内の NO1-CO1 などは、発話者のテキストの識別コードである。

表 7 TSCC のデータ規模

Text	参加者発話		インタビュワー (研究者) 発話		全体総 語数
	総語数	前発話中の占有比	総語数	前発話中の占有比	
NO1-CO1	12,958	91.56	1,194	8.43	14,152
NO1-CO2	7,273	90.95	724	9.05	7,997
N02-CO1	6,775	66.77	3,372	33.23	10,147
N02-CO2	7,280	89.97	812	10.03	8,092
N02-CO3	9,427	97.58	234	2.42	9,661
N03-CO1	4,572	76.83	1,379	23.17	5,951
NO04-CO1	9,681	91.62	885	8.38	10,566
N04-CO2	10,508	95.34	514	4.66	11,022
N05-CO1	6,475	95.98	271	4.02	6,746
N06-CO1	5,896	93.01	443	6.99	6,339
NO7-CO1	7,056	76.21	2,203	23.79	9,259
NO08-CO1	5,035	66.25	2,565	33.75	7,600
NO09-CO1	2,881	65.02	1,550	34.98	4,431
N10-CO1	5,215	57.11	3,916	42.89	9,131
N11-CO1	8,428	94.89	454	5.11	8,882
N12-CO1	4,572	56.59	3,507	43.41	8,079

N13-CO1	3,880	59.1	2,685	40.9	6,565
N14-CO1	7,706	72.48	2,926	27.52	10,632
N15-CO1	8,142	74.39	2,803	25.61	10,945
N16-CO1	4,599	75.83	1,466	24.17	6,065
N17-CO1	5,374	49.94	5,387	50.06	10,761
N18-CO1	5,851	70.38	2,462	29.62	8,313
N19-CO1	6,713	77.8	1,916	22.2	8,629
N20-CO1	6,226	75.82	1,986	24.18	8,212
N21-CO1	6,771	51.83	6,294	48.17	13,065
N22-CO1	4,715	66.75	2,349	33.25	7,064
合計	174,009	76.22	54,297	23.78	228,306

最後に、データの利用について、本コーパスはオンライン検索システムが提供されていないが、GitHub 上で収集したデータを公開している。

3.1.2 学習者コーパス

3.1.2.1 主な日本語学習者コーパス

続いて、学習者コーパス (learner corpus) の概観を行いたい。すでに述べたように、本研究で使用するのは I-JAS であるが、これらのデータの独自性を確認する目的で、CLJ のデータを含む他の学習者コーパスもあわせて見ておくことにしよう。なお、学習者コーパスは、通例、縦断コーパス (longitudinal corpus) と横断コーパス (cross-sectional corpus) に区分される。縦断コーパスとは、1 人ないし少数の学習者の産出を継続して収集したコーパスのことであり、横断コーパスとは、ある特定の時期に様々な学習者の産出を一度に収集したコーパスのことである (石川 2021、pp.231-232)。

表 8 主な日本語学習者コーパス

	コーパス	CLJ 人数	その他の母 語の学習者 データ	JNS デー タ	習熟段階	縦断/ 横断	タスク	データ量
話し 言葉	KY コーパ ス (鎌田、 山内、 1999)	30	○ (韓国語・ 英語)	×	○	横断	OPI イン タビュー	90 人分の OPT テー ブを文字 化した言 語資料

	C-JAS (迫田、2013)	3	○ (韓国語)	×	日本語学習約3か月から約3年間まで	縦断	3年間で8回のインタビュー	47本(約46時間)
書き言葉	なたね (曹・八木・黒田・仁科、2012)	115	○ (マラーティー語、ベトナム語、韓国語など)	×	×	横断	作文	285本
	日本語学習者作文コーパス (李、2013)	78	○ (韓国語)	×	○	横断	2種類の作文タスク	304本
	JCK 作文コーパス (金井他、2016)	60	○ (韓国語)	○	N1、またはN1以上	横断	説明文・意見文・歴史文	180本
話し言葉＋書き言葉	Larp at SCU (陳他、2011)	37	×	×	収集期間：2004年3月～2007年5月	縦断	同一のタイトルで作文／作文の内容に沿って日本語で20分インタビュー	1人につき作文33回(しかし、37名の学習者は全33回参加したというわけではない)
	I-JAS (迫田他、2020)	200	○ (韓国語・英語・タイ語・ベトナム語などの12種)	○	J-CAT/SPOT	横断	ストーリーテリング、対話、ロールプレイ、絵描写、ストーリーライティング／メール作文・トピック作文	800万語を超えるデータを集めた

	北京日本語 学習者縦断 コーパス (B-JAS) (布施ほ か、2022 年度中公開 予定)	17	×	×	4年間毎 年 J-CAT ／SPOT を実施	縦断	I-JAS に準 拠した 4 種のタス ク＋トピ ック作文	まだ公開 されてい ない

表 8 からわかるように、CLJ のデータを含む学習者コーパスとして、多くのものが開発されている。これらは、いずれも異なる研究目的に応じて構築されたもので、それぞれ、日本語教育研究における独自の価値を有する。本研究では、(1) 全体のデータ量、(2) 実施したタスクの多様性、(3) 構築年の新しさ、(4) データの相互比較性の 4 つの観点を根拠として、同じインタビューデザインでデータを収集した I-JAS を利用する。

3.1.2.2 多言語母語の日本語学習者横断コーパス (I-JAS)

「多言語母語の日本語学習者横断コーパス」(International Corpus of Japanese as a Second Language: I-JAS) は迫田久美子氏とそのチームが中心となって構築された大規模学習者コーパスである。

I-JAS の開発前の状況として、迫田他 (2016) は、従前の学習者コーパスは、(1) 母語別・学習者環境別のデータ数が少なく、言語の偏りがある、(2) 学習者の背景情報が不足している、(3) 日本語レベルの判定が不十分である、(4) タスクのバリエーションが乏しい、(5) 同一の学習者による発話と作文を備えたデータが少ない、(6) 検索システムを備えたものが少ない、という 6 つの課題が存在すると述べている。これらの課題を解決するために開発されたのが I-JAS である。

I-JAS には多くの特徴があるが、ここでは、迫田他 (2020) に基づき、(a) 幅広い調査対象者、(b) 日本語レベル判定、(c) 多様なタスク設計、(d) データの利用、の 4 点に絞って概観する。

まず、(a) 幅広い調査対象者について、I-JAS では、12 種母語背景を持つ 1,000 人の学習者のデータを収集している。これらは、環境別に、海外の教室環境学習者 (850 人、海外の教育機関で日本語を学ぶ)、国内の教室環境学習者 (100 人、来日して日本の教育機関で日本語を学ぶ)、国内の自然環境学習者 (50 人、就労・結婚などで来日し、生活の中で

日本語を自然に学ぶ)、日本語母語話者(50人、日本在住の一般の日本語話者)の4種に分類されている。海外の教室環境学習者は、12の異なる言語を母語とし、海外17の国と地域の教育機関において体系的日本語を学んでいる学習者である。加えて、年齢比・男女比が統制された日本語母語話者のデータも収集されている。

(b) 日本語レベル判定について、I-JASでは、学習者の言語能力を客観的に判断するため、J-CAT (Japanese Computerized Adaptive Test) と SPOT (Simple Performance-Oriented Test) という2つの言語テストを受験させ、そのスコアをコーパスに包含している。J-CATは、学習者自分で自身の日本語能力の伸長を確認できるテストとして開発されたものであり(今井、2015、p.67)、聴解・語彙・文法・読解の4つのセクションで構成された。J-CATの特徴として、インターネットベースであることや、項目応答理論という精緻なテストモデルに基づくアダプティブテストであることなどが挙げられる(迫田他、2020、pp43-44)。一方SPOTは、90問で構成され、1問あたりの回答時間は4秒と設定されており、10分未満の時間で日本語の運用力を測定することができる。SPOTの特徴として、J-CATと同じようにインターネットベースであることや、短期間で日本語の即時的運用力を測定することが可能であること、コンピュータによる自動採点の仕組みを持っていることなどが挙げられる(迫田他、2020、pp44-45)。2つのテストはいずれも国内外の様々な教育機関での共同利用により信頼性の高いテストと評価されている。言語知識に関する能力を中心に測るJ-CATと言語運用能力を測るSPOTの両方を行っていることで、調査対象者の言語能力を複眼的に捉えられる。以下では、J-CATのレベル判定基準とSPOTの基準に従ってI-JASに収集されたCLJ・KLJ・ELJのレベル分布の調査結果を示す。

表9 J-CATとSPOTによる日本語レベル判定の結果および学習者数

レベル	CLJ	KLJ	ELJ	合計
J-CAT				
初級 (0～100 点)	0	1	11	12
中級前半 (101～150 点)	2	5	31	38
中級 (151～200 点)	32	8	33	73
中級後半 (201～250 点)	76	29	21	126
上級前半 (251～300 点)	76	35	4	115
上級 (301～350 点)	13	20	0	33
日本語母語話者相当 (351～400 点)	1	2	0	3
SPOT				
成績低群 (0～55 点)	1	2	38	41
成績中群 (56～80 点)	160	48	62	270

成績高群（81～90点）	39	50	0	99

続いて、（c）多様なタスク設計に関して、I-JAS では、1 人の学習者に対して、2 種類 4 タスクの非対面の任意作文調査を行ってから、5 種類 8 タスクの対面調査を行った。以下では、それぞれのタスクのデータ量・内容・特徴を表 6 のようにまとめた。

表 10 I-JAS のタスク構成（迫田他 2020 により筆者がまとめ）

タスク	総語数 (形態素)	最小値	最大値	平均値	標準偏差	内容	タスクの特徴
メール (3 タスク)						(1) 教師に奨学金応募のための推薦状の依頼 (2) 教師に期日までにレポートを提出できないことを伝える (3) 以前お世話になった教師から自国の案内を依頼されたが、用があるため対応できないことを伝える	メールを送る相手と自分との上下関係などは同一とし、表現や状況のみを変更することで、相互比較ができる。 同じテーマの作文に使用する表現などが比較できる。しかし、統制が取れていないため、利用する際に留意すべきである。
エッセイ (1 タスク)						私たちの食生活：ファーストフードと家庭料理	
ストーリーテリング 1	167,640	37	1,028	159.66	74.05	5 コマイラスト『ピクニック』を手掛かりにストーリーを話す	日本語能力レベルが低い学習者も発話できる

ストーリーテリング 2	188,810	44	841	179.82	82.46	4 コマイラスト『鍵』を手掛かりにストーリーを話す	
対話	3,168,198	983	7,623	3,017.33	965.29	7 種の話について 30 分会話を行う	自然会話や日常会話に近い
ロールプレイ 1	270,256	64	882	257.39	105.43	日本料理店でのアルバイト場面で出勤日数の変更を依頼する	学習者の日本語による課題遂行能力が観察できる
ロールプレイ 2	267,661	54	830	254.92	112.92	日本料理店でのアルバイト場面で仕事内容の変更依頼を断る	学習者の日本語による課題遂行能力が観察できる
絵描写	331,582	107	1,625	438.02	183.49	イラストを見ながら好きな順序で発話する	動詞活用の習得状況を調査できる
ストーリーライティング 1	107,167	28	328	102.06	36.11	5 コマイラスト『ピクニック』を手掛かりに作文を書く	同種のタスクを口頭産出した場合と文産出した場合の相違点を探る
ストーリーライティング 2	115,086	23	292	109.61	39.01	4 コマイラスト『鍵』を手掛かりに作文を書く	

上表より、タスク別の総語数を見ると、対話タスクのデータ量が最も多く、全体の約 7 割を占めていてことが明かになった。また、ストーリーライティング 1 と 2 を比較する場合、ストーリーライティング 2 のほうが、最小値と最大値が小さいが、平均値や標準偏差はいずれも大きいため、ストーリーライティング 2 のほうが産出量も多く、個人差も大きいということがわかる。

上記の 7 種 12 タスクには、ストーリーテリング、対話、ロールプレイ、絵描写などは話し言葉データを収集するもので、ストーリーライティング、メール文、エッセイは書き言葉データを収集するものである。このように、I-JAS は同じ学習者の発話データと作文データの両方を備え、今までにない価値が高い学習者コーパスと言えるだろう。

最後に、(d) データの利用に関して、I-JAS は発話書き起こしデータや作文といった産出テキストデータはオンライン版とダウンロード版という 2 種の使用形態がある。オンライン版については「中納言」を利用して検索することができる。ダウンロード版については、I-JAS のテキストデータを総体としてダウンロードし、各自のコンピュータ上で自由に分析することができる。データを格納したフォルダ内では、「対面調査（プレインテキスト）」と「非対面調査（プレインテキスト）」という 2 種類のデータが含まれる。なお、「対面調査（音声ファイル）」や「作文アンケートデータ一覧」といった付属データもダウンロードできる。

3.2 使用する統計手法

すでに述べたように、本研究はコーパス言語学の研究理念と研究手法に基づき漢語動名詞の諸特性を調査・分析する。コーパスから得られた言語データを量的に記述・分析するため、統計的アプローチが不可欠である。そこで、本節では、本研究において使用する仮説検定、対応分析、主成分分析、回帰分析について、それぞれ紹介しておく。なお、様々な統計分析ツールが開発されたが、本研究では、関西学院大学の清水裕士氏開発した HAD（清水、2016）というソフトウェアを利用する。

3.2.1 仮説検定

仮説検定（statistical hypothetical test）とは、複数の頻度データに実質的な差（有意差）があると言えるかどうかを客観的に判定するために行う統計手法である（石川他 2010、p.55）。仮説検定には、カイ二乗検定、 t 検定、分散分析などがあるが、そのうち、3 つ以上の平均値を比較する際に使用するのは分散分析（ANOVA : analysis of variance）である。分散分析は、要因のタイプ（被験者内要因（within）と被験者間要因（between））、比較するデータ群の数（2 つの場合は t 検定と同じ、3 つ以上の場合は伝統的な ANOVA）、要因の数（一元配置（one-way）、二元配置（two-way）、三元配置（three-way）など）および要因内の水準の数（各要因の内部区分）によって様々なタイプに分けられる。また、

何らかの要因の主効果が有意であった場合、データ群の間でどこに差があるかを調べるには、事後検定 (post-hoc test) として多重比較 (multiple comparison) を行う必要がある。事後検定では、検定も何度も繰り返すことにより、有意水準 α が名目の値よりも大きくなってしまふ弊害が生じる可能性があり、その弊害を緩和するため Holm 法 (p 値の小さいものから順に 10、9、8... 1 で割る) などを使う。

本論文では、3 つの章で仮説検定を使用する。まず、第 8 章では、学習者発話・作文における漢語動名詞使用総語数・多様性・語彙難度の差に関して、学習者の習熟度 (初級・中級・上級) と母語 (CLJ・KLJ・ELJ・JNS) という要因の影響が有意であるかどうかを確認し、あわせて、有意である場合にどこに差があるかを検証するため、 t 検定と一元配置の ANOVA を用いる。次に、第 9 章では、CLJ と JNS が日中同形語の使用頻度の差、および両言語の L1 コーパスにおける使用頻度の差を検証するため、カイ二乗検定を使用する。最後に、第 11 章では、漢語動名詞基礎知識・応用知識の理解度について、学習者の学年 (1 年生・2 年生・3 年生・M/D) という要因の影響が有意であるかどうかを検証するため、一元配置の ANOVA を使用する。また、留学経験 (留学あり・留学なし) という要因の影響が有意であるかどうかを検証するため、 t 検定を用いる。

3.2.2 対応分析

対応分析 (correspondence analysis) とは、頻度表における行・列の関係を組み替え、頻度表に含まれる情報を少数の成分 (次元) にまとめることで、行・列を整理する多変量解析手法である (石川 2010、p.245)。対応分析によって、データが視覚的に散布図上に布置することができ、直観的に関係を解釈することが可能になる。また、対応分析において、変数とケースの区別は行わず、列方向に入るデータの集合を第 1 アイテム、行方向に入るデータを第 2 アイテムと呼ぶ。クラスター分析や因子分析などのほかの分類手法と比べて、対応分析は、(1) 変数とケースといったデータの性質の違いが問題にならないこと、(2) 2 つのカテゴリーを同時に分類することが可能であるということ、(3) 分析の主目的がデータの合成や分析ではなく、カテゴリーの整理と分類そのものにあること、(4) 因子分析などと比べると、分析者は人為的に選択するオプションが少なく、分析結果が比較的安定しているということ、などのメリットを持つとされている (石川 2010、p.248)。

本論文では、3 つの章で対応分析を使用する。まず、第 4 章では、選定された重要漢語動名詞について、ジャンル別の傾向を探るため、重要漢語動名詞 200 語を第 1 アイテム、

72 種の変種を第 2 アイテムとする頻度表を作成して対応分析を実施する。次に、第 5 章では、重要漢語動名詞の品詞用法を区分するため、200 種の漢語動名詞を第 1 アイテム、「スル」付加基準・時間表現付加基準・尊敬表現付加基準・格助詞付加基準・係助詞付加基準・「用」付加基準の合致率を第 2 アイテムとする対応分析を実施する。また、第 7 章では、類義関係を持っている 5 語と抽出された目的語（名詞）・修飾語（副詞）との関係进行分析するため、それぞれについて、共起目的語上位 50 語および共起修飾語上位 20 語を抽出し、語とジャンルの組み合わせを第 1 アイテム（全 10 種）、上位目的語（500 語中、重複を除いた 160 語）・上位副詞（175 語中、重複を除いた 61 語）を第 2 アイテムとする頻度表を作成して対応分析を実施する。

3.2.3 主成分分析

主成分分析（principal component analysis: PCA）とは、手元にある多量のデータを 1 つにまとめようとする際に、個々の変数が持つ元の情報をできるだけ保存しながら、効率よく合成・圧縮し、少数の成分に圧縮する統計手法の 1 つである。変数が数多くある場合、主成分分析を使うことで、変数の分散と各々のデータ間の相関関係も加味しながら、全体のデータ情報を効率よく代表する値を取り出すことができる。通例、変数の合成には平均化の手法を取るが、主成分分析を行うことで、平均以上に、個々の変数の情報を生かした合成が可能になる。あわせて、取り出された成分を切り口として、変数やケース間の関係を概観することも可能となる（石川他 2010、p.193）。

本論文の第 8 章では、学習者の習熟度情報の合成の目的で主成分分析を使用する。I-JAS には、J-CAT の 4 技能別（聴解・語彙・文法・読解）のスコアと SPOT のスコアという 5 種のスコアが存在するが、これらはそれぞれ性質の異なるもので、単純な平均では個々のテストの情報がうまくいかせない恐れがある。そこで、平均に変えて主成分分析を行うことで、5 種のテスト情報をバランスよく合成し、個々の学習者の習熟度の推定をより妥当な形で行うことを目指す。

3.2.4 回帰分析

回帰分析（regression analysis）とは、原因となる変数と結果となる変数の間の関係を量的に分析する統計手法である（石川他 2010）。ここで、原因となる変数を説明変数（X）、また、結果となる変数を目的変数（Y）と呼ぶ。回帰分析の特徴としては、説明変数と目

的変数の関係の有無や強弱を検討できるだけでなく、両者の因果の関係を数式でモデル化できることなどが挙げられる。

回帰分析は、説明変数の数によって 2 種類に分けられる。説明変数が 1 つだけの場合は単回帰分析 (simple regression analysis) と呼ばれ、その回帰式は $Y=aX+b$ の形式となる。また、説明変数が 2 つ以上の場合は重回帰分析 (multiple regression analysis) と呼ばれ、回帰式は $Y=aX_1+bX_2+cX_3...+e$ の形式となる。とくに、重回帰分析においては、説明変数の選択手法として「全変数法」・「変数増減法」・「変数減増法」の 3 種類が存在する。手元のデータをすべて使用してモデルを作成したい場合は「全変数法」を用い、有効性の高い変数のみを使用して統計的に最も妥当性の高いモデルを作成したい場合には「変数増減法」などが用いられる。「変数増減法」は、選択する変数の数を事前に固定せず、変数を増減させながらシミュレーションを行い、統計的に最も妥当性の高いモデルを作成するため、ステップワイズ法 (stepwise method/stepwise forward regression) とも呼ばれる。

なお、説明変数は通常、連続変数として数値で表されるが、時には連続的な数値ではないものを扱う場合もある。このような場合には、カテゴリーや名義変数を数値に変換するために、「カテゴリーの数-1」個の新たな変数を作成し、各対象がそのカテゴリーに該当すれば 1、そうでなければ 0 という値を与える処理を行う。このような処理を経た一群の変数をダミー変数と呼ぶ。

本論文の第 6 章では、漢語動名詞が名詞節内での連体修飾用法について分析する際に重回帰分析が使用される。なお、変数の選択手法については、ステップワイズ法を使用する。

3.3 対象表現の抽出法

本論文では、漢語動名詞を研究対象とするため、「漢語名詞+する」の接続例を検索する必要がある。すでに述べたように、BCCWJ は「少納言」と「中納言」という 2 つのオンラインインターフェースにて使用できるが、本研究では「中納言」を使用する。以下、その根拠と、実際の検索式について述べる。

3.3.1 「少納言」と「中納言」

2 つのインタフェースで実行できる検索は異なっている。「少納言」の場合は、文字列検索のみに対応するため、入力された検索条件と全く同じ結果しか得られない。図 2 は「少納言」の出力結果である。

図2 「少納言」で「する」を検索した結果の一部

51	た。この修正運動自体は失敗に終わったが、国際人権保障のアメリカへの波及を防ごうと	する	、その後のアメリカ外交の姿勢に影響を与えてきた。比較的最近の動きを見ると、一九九
52	ンフィールドへ陸送された。XFY-1型ボゴ機を輸送したトレーラーは、露西から発生	する	振動を完璧に吸収する機能を備えた。米海軍航空局自衛の特装車だった。一九五四年一
53	証券化支援業務の創設等を内容とする「住宅金融公庫法及び住宅融資保険法の一部を改正	する	法律案」が閣議決定され、第156回通常国会に提出されました。衆議院においては、
54	分に辟易する。おまけに、なんで俺があいつを助けなきゃならないんだ、という羽住に対	する	天の邪鬼な気持ちも心の片隅に降参っていた。心の中で素直が偉かばかり葛藤している
55	性質＝相互依存、脱れ縁、相手への執着・許しと叱責＝自分自身に関すること、他人に関	する	こと、特定の団体や国家に対する思い、政府や公的機関に対する思いなど・クレアセンシ
56	レジット・サラ金業者への多くは残元本の一部カットにも応じますが、数年間で分割返済	する	場合は、クレジット・サラ金業者の多くは残元本カットにはほとんど応じません。しか
57	」にかかわるホスピタリティやサービスのあり方が大変重要である。これらは、直接接客	する	フロント関連業務だけに限られるものではなく、観光事業関係者に広く求められる。観光
58	も大事な勉強と思ってます。しかし、なんでしょうねえ～水路を覗き込んだ時のドキドキ	する	感じYABA！っすねえ～！

一方、「中納言」では、短単位である「為る（する）」を指定することで、「する」を含む用例のほか、「した」「された」「しました」「して」などのような「する」の活用形を含む使用例も同時に検索できる。以下は、「中納言」の出力例である。

図3 「中納言」で短単位検索を用いた「する」の検索結果の一部

サンプル ID	開始 位置	通 番	前文脈	キ ー	後文脈
OW1X_00060	68280	46590	は、従業員数は年々増加しており、 輸送量が五十年度まで漸減	し	たことにより低下しては 増加し
LBp3_00023	1580	1030	ように思われ、(「庶せでさえいねば」 美しい)」という間違っ(た情報)に翻弄	さ	れた結果)のよう)に言わ れ)も
LBd3_00009	40850	26840	いつでも解除を申しうる)ことをみとめ るが、相手(方)に対して損害を賠償	ず	べきことを主張するが、 ば、有償委託で
PB34_00164	420	310	応用(する)ために、#第1)章)「統計学)の 具体を説く#1)対象を数値化)	する	とは、#「私(たち)が統計 れ)た
OW4X_00122	27490	17950	五十一年(回り)、今後中(小)企業)におい ては、物流(コスト)の(上昇)に対応)	する	ため、(共同化等)により 資(を)行い、効率
OC04_00581	380	240	では中学と高校時代)のことも聞か)れ る)の(で)しょうか? また、自己(PR)と	し	て、失敗)や困難を(乗り越 え)大学(生)中に力
PB11_00093	45010	29390	の自己(理解)の(に)例(も)この(方法)を用 いて、(どちらも)たった一(回)で(全治)	し	ました。#「このよう)に 驚くほどよく

これにより、活用形を問わずすべての「する」が取り出せたと言えるが、上記に明らか
なように、この中には「漸減した」のような漢語動名詞もある一方で、「PR とした」のよ
うに、本研究の対象以外のものも含まれている。これらを除去するため、本研究では、
「中納言」上で検索条件をより細かく設定することとした。その詳細は、以下の節で示す。

3.3.2 「中納言」上での検索設定

すでに述べたように、短単位で「為る」を設定するだけでは、漢語動名詞だけを取り出
すことはできない。そこで、本研究では、漢語動名詞に限った抽出を行うため、キーを、
語種が「漢」、かつ、品詞の大分類が「名詞」と設定した。さらに、後方共起として、語
彙素の「為る」を設定した。検索条件設定画面は以下のとおりである(図4)。

図4 入力した検索条件


短単位検索


前方共起条件の追加

① キー

--

▼

1

▼

語

▼

☐
キーの条件を指定しない
①

語種

▼

が

漢

▼

AND

品詞

▼

の

大分類

▼

が

名詞

▼


短単位の条件の追加

① 後方共起1

キーから

▼

1

▼

語

▼

☐
キーと結合して表示
①

語彙素

▼

が

為る


短単位の条件の追加

以上の設定により、以下のような結果が得られる。

77

図 5 BCCWJ の検索結果の一部

サンプル ID	開始位置	連番	前文脈	キー	後文脈
OC06_06845	4400	2680	十[万円]以上高くつく[項目]です。 # 目[を] [画]にし[て]。 [耳]を[聞き]ま[し]て	確認	[(し)]て[ください]。 # この[手]の[車]を[が]必要[で]プロ[の]査定
OY14_46791	14670	10200	だ[と]。 # [富士子]を[殺]して[欲しい]と[言い]出[し]た。 # 案元[を]掲載[し]。 自分[を]	利用	[(しよう)]と[した]の[で]殺[し]た。 # [決]断[っ]て[から]は[種]。
OP26_00002	219670	138850	、[住宅]政策[の]基本的な[方向]を[定]め[た]「[千葉]市[住]生活[基本]計画」[を]	策定	[(し)]ま[し]た。 # [開]覧[場所]= [住宅]ユニティ[センター] [3]階 [2]。 [各]
PB13_00329	55580	33950	退み立[て]て[いく]際[に]は[様]づか[の]約束[事]が[あ]ります。 # ◆[現在]影[で]	表現	[(する)]こと—「[私]は[...]
OM21_00010	79620	49740	庁[で]具体的な[事業]計画[を]作成[中]で[ご]ざいます。 # 私[ども]は[事業]計画[が]	提出	[(さ)]れ[た]段階[で]精査[さ]して[いた]た案[と]して[実施]できるもの
OB4X_00153	21420	13840	。 # その[中]で[、]結[ら]は[自分]の[生涯]設計[を]行い。 [仕事]を[自主]的[に]	選択	[(し)]。 自己[を]研鑽[する]ことが[でき]業[から]の[自由]の[第 一]歩

これにより、図 3 で示した「する」用例の中から、漢語を前項とするものだけが適切に抽出される。

本研究では、BCCWJ だけでなく、CEJC、I-JAS についても同じ条件で抽出を行った。まず、CEJC については、以下のような結果が得られる。

図 6 CEJC の検索結果の一部（用例部分）

会話 ID	開始位置	連番	コ	前文脈	キー	後文脈
K009_008 ▶	11510	7000	0	てないよ[ね] # うん # たぶん # だ[だ]から[治]ちゃん[それ]ゆう[ん]だ[よ]ね # うん # 親父[は]	理解	[(しよう)]と[し]ねえ[って] # せ見[て]ね[こう]やっ[て]しゅべ
T002_012 ▶	46270	26570	0	乗る時[は]や[だ]な[って]思[っ]て # あー # そう[だ]ね # で[喜]く時[は]いい[けど] # うーん #	発声	[(する)]時[は]ちよっと[なん]い[から] # はい # そう[だ]ね ; 四[階]
K005_027 ▶	98400	57240	0	結構[マ]あの[あ]い[は]結構[回る]の[ね] # うーん # うーん # 面白い[よ] # ただ[ソ]あの[持]た[せ]て	質問	[(し)]ながら[持]た[せ]てる[と] [た]みたい[な]感じ[だ]と[ノー]
T015_014 ▶	18010	10490	0	あー # で[も]それ[は]あの[き]っといい[です]よ[ね] # いい[よ] # いい[です]よ[ね] # で[そんな]こと	自慢	[(する)]話[し]ても[ない]し # 2 時[で]ゆう[話]しても[なく]て
T009_006 ▶	32120	18450	1	うん[さん]うん # 入れ[ちゃう]って[感じ] # あー # 好き[な]と[こ]座[って]ください # 集合[時間]を[結構]ハ[き]き[ち]り	指定	[(し)]ない[と]き[つ]く[ない] # そ ; # あ # 開場[時間]知[っ]て[知]を

「中納言」の CEJC 検索では、個々の用例ごとに、詳細な話者情報・文脈情報が表示される。以下は、図 6 の 5 例の情報である。

図 7 CEJC の用例の話者・発話環境情報

品詞 ◆	形 式 ◆	場 所 ◆	活 動 ◆	話 者 ラ ベ ル ◆	年 齢 ◆	性 別 ◆
名詞-普通名 詞-サ変可能	雑談	自宅	食事	IC03_紀 世子	55-59 歳	女性
名詞-普通名 詞-サ変可能	雑談	公共商業施 設_飲食店	休息	IC02_母	70-74 歳	女性
名詞-普通名 詞-サ変可能	用談・相 談	室内_友人 知人宅	その他	IC06_昌 美	35-39 歳	女性
名詞-普通名 詞-サ変可能	雑談	公共商業施 設_飲食店	食事・付き 合い	IC02_平 川	65-69 歳	男性
名詞-普通名 詞-サ変可能	会議・会 合	学校	課外活動	IC03_笹 岡	20-24 歳	男性

図 6 および図 7 からわかるように、個々の用例の会話形式（雑談、用談・相談、会議・会合など）、場所（自宅、公共商業施設、室内、学校など）、活動（食事、休息、付き合い、課外活動など）や、話者の年齢・性別などの情報が得られる。本研究では、こうした背景条件別に頻度調査を行うことにした。

次に、I-JAS について見てみよう。CEJC の場合は、用例画面で個々の話者情報などが示されたが、I-JAS ではあらかじめ、話者情報を絞って検索をすることができる。以下は、調査対象者の言語環境・調査地とタスクを選択する画面の一部である（図 8）。

図 8 I-JAS の言語環境・調査地およびタスク

言語環境・調査地およびタスク ⑨

言語環境	海外														日本国内			
	中国語			韓国語	タイ語	ベトナム語	インドネシア語	英語		ドイツ語	フランス語	スペイン語	ロシア語	ハンガリー語	トルコ語	国内教室環境	国内自然習得	日本語母語話者
	中国D有	中国D無	台湾					D有	D無									
人数	50人	50人	100人	100人	50人	50人	50人	57人	43人	50人	50人	50人	50人	50人	50人	100人	50人	50人
調査地ID	CCH	CCM	CCS CCT	KKR KKD	TH	VN	ID	EGB EUS	EAN ENZ	GDE GAT	FFR	SES	RRS	HG	TR	JJC JCE	JJN	JJJ
ST1	☒	☒	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
ST2	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
I	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
RP1	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
RP2	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
D	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
SH1	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
SH2	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
全て	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐

画面の上部には学習者の母語や、学習環境（海外教室環境、国内環境）が示されている。また、行部分には、ST1（ストーリーテリングの第1課題「ピクニック」）、ST2（同第2課題「鍵」）、I（対話）、RP1（ロールプレイ第1課題「依頼」）、RP2（ロールプレイ第2課題「断り」）など、タスクがすべて示されている。

ここでは、タスクをストーリーテリング1、学習者は台湾を除く中国語母語話者全体（D（絵描写課題）への参加学生・非参加学生の両方を含む）と設定して、用例を検索すると、以下のような結果が得られる。

図 9 I-JAS で検索した結果の一部

連番	発話番号	話者	前文脈	キー	後文脈	語彙集	品詞	調音
1250	00060	K	ー、 あーF ₁ 、 あF ₁ そのR ₁ うち 犬 は ー、 んーF ₁ 、 そのR ₁ ー、 す い ません、	弱強	(し) て い ます#あーF ₁ い い で ず よ、 はい#あF ₁ そのR ₁ うち 犬 はそのR ₁ ー、 あーF ₁ 、	弱強	名詞-普通名詞-サ変可能	中国語(中)
510	00070	K	ました#このR ₁ 二人 は 地図 を 見 ながら どっ か に、 ど こ か に 行 く か な ー と	相談	(し) て い る うち、 家 、 のF ₁ 犬 の は 二人 が うーF ₁ 、 いつのX ₁ 、 家 の 犬 が いつ	相談	名詞-普通名詞-サ変可能	中国語(中)
560	00050	K	ケン が それ を ー バ スケ ット に い れX ₁ 、 入 れY ₁ 、 ま しY ₁ 、 たY ₁ 、 #それ か ら 二 人 で 地 図 で 場 所 を	確認	(し) て い る 聞Y ₁ 、 そのR ₁ 、 二 人 が 携 っ て い る 犬 が 不 注 意 で バ スケ ット に、	確認	名詞-普通名詞-サ変可能	中国語(中)
460	00040	K	あーF ₁ あーF ₁ 二 人 あーF ₁ さん ど X ₁ 、 あーF ₁ 、 サ ンド イ ッ チ を 作	確認	(し) て ー あーんF ₁ 、 確 認 し て ー 選 ー、 うF ₁ 、 め、 う ちX ₁ 、	確認	名詞-普通名詞-サ変可能	中国語(中)

上記の検索結果画面では、このほか、各学習者の 2 種のテストスコアの情報なども表示される。

3.4 まとめ

以上、本章では、本研究が使用するデータ、統計手法、対象表現の抽出法について紹介してきた。3.1 節「使用するデータ」については、母語話者コーパスとして、日本語については、「現代日本語書き言葉均衡コーパス」(BCCWJ)と「日本語日常会話コーパス(CEJC)」を、中国語については、Lancaster Corpus of Mandarin Chinese (LCMC)とThe Spoken Chinese Corpus of L1-L1 (TSCC)を紹介した。学習者コーパスとしての「多言語母語の日本語学習者横断コーパス」(I-JAS)と「北京日本語学習者縦断コーパス」(B-JAS)を紹介した。3.2 節「使用する統計手法」については、仮説検定・対応分析・主成分分析を紹介した。3.3 節「対象表現の抽出法」については、「中納言」を使用する理由、および「中納言」を用いて BCCWJ、CEJC、I-JAS における漢語動名詞の検索設定を紹介した。

第Ⅱ部 言語学的視点に基づく漢語動名詞の特性分析

すでに第Ⅰ部「研究の枠組み」では、本研究の枠組みについて説明した。第1章「はじめに」では、漢語動名詞の定義および呼称を確認し、現代日本語および日本語教育における漢語動名詞の重要性を概観した上で、本研究のねらいと構成を説明した。第2章「先行研究」では、これまでの漢語動名詞に関する研究を頻度論、形態論・統語論、意味論・語用論、対照語彙論、日本語教育学などの観点から詳しく概観した。第3章では、本研究で使用したデータと統計手法について概観した。

漢語動名詞の研究には様々なアプローチが存在するが、その基本になるのは伝統的な枠組みを踏まえて漢語動名詞の用法の特性を詳しく見ていくことであろう。この点を踏まえ、第Ⅱ部では形態論・統語論・意味論・語用論などの観点から、漢語動名詞の問題を扱っていく。その際、重要になるのはどのような漢語動名詞を対象に議論をするかという点であり、この点を解明するために、まず、冒頭において、現代日本語における重要漢語動名詞の中核となる語彙の特定を行う。その後、特定された語彙を分析サンプルとして、それぞれの観点についての調査を進めていく。

第Ⅱ部は4つの章から構成される。以下、各章の内容について概観する。

まず、第4章「頻度論から見た漢語動名詞」では、現代日本語の大規模な書き言葉・話し言葉コーパスデータを用いて高頻度・広範囲で使われる漢語動名詞を選定する。

第5章「品詞論から見た漢語動名詞」では、個々の漢語動名詞について、動詞性テスト・名詞性テストを通して品詞特性を検討する。

第6章「統語論から見た漢語動名詞」では、漢語動名詞を含む名詞節の構造パターンの特性を解明する。

最後に、第7章「意味論から見た漢語動名詞」では、類義漢語・和語動詞を比較し、コーパス調査から得られた知見を盛り込むことで、従来の辞書記述をどのように改善できるか具体的に提案を行う。

第4章 頻度論から見た漢語動名詞－重要漢語動名詞の抽出

4.1 はじめに

筆者の予備調査によれば、BCCWJには、8,500種以上の漢語動名詞が含まれている。これらはいずれも日本語の語彙の一部をなしているわけであるが、この中には広範囲で、かつ、高頻度で使用されるものもあれば、極めて限定的な範囲で、ごくわずか使用されるものも含まれている。同じ漢語動名詞の中によく使うものとそうでないものが混在しており、それらを区別せず、「漢語動名詞」と一般化していることは、日本語学の分析手法における課題であると同時に、日本語学習者にとっては習得上の問題点となりうる。

そこで、本章では、頻度論の観点から漢語動名詞を検討し、現代日本語における典型的な漢語動名詞の抽出を行いたい。

4.2 リサーチデザインと手法

4.2.1 研究目的と RQ

2.2 節からわかるように、過去の重要漢語動名詞の抽出研究は大きな成果を挙げたものの、(1) 話し言葉の分析が少ない、(2) 書き言葉の詳細な変種別の分析がなされていない、(3) レンジ情報が十分に活用されていないといった点で、不足も認められる。そこで、本研究では、(1') 話し言葉コーパスを全面活用し、(2') 書き言葉・話し言葉コーパスの詳細変種別に分析を行い、(3') レンジと頻度を組み合わせた新しい重要度指標を採用した上で、高頻度・広範囲で使用される重要漢語動名詞の抽出を試みたい。なお、本章で選ばれた語は、後続の言語学的分析において調査サンプルとなる。この点も含め、本章では200語程度の重要漢語動名詞の抽出を目指すこととした。

重要漢語動名詞の抽出にあたっては、事前に、書き言葉・話し言葉を含む幅広い変種間での漢語動名詞頻度のずれや、各変種で多用される漢語動名詞の内容的一致度を見ていくことが不可欠になるだろう。そこで、本章では以下の研究設問を設定した。

RQ1 漢語動名詞全体の頻度は変種間でどの程度異なるか。また、漢語動名詞が多い変種・少ない変種にはどのような共通性があるか？（言語変種別の漢語動名詞全体頻度）

RQ2 各変種の最頻出漢語動名詞はどの程度の変種間重複度を有するか？（変種別最頻出語の重複度）

RQ3 高頻度かつ高レンジの漢語動名詞はどのようなものであるか？（重要漢語動名詞の抽出）

RQ4 高頻度かつ高レンジの漢語動名詞は出現環境の点でどのように分類されるか？（重要漢語動名詞の分類）

4.2.2 データ

すでに述べたように、本研究では書き言葉・話し言葉を含む現代日本語の多様なジャンル差に配慮して漢語動名詞の使用実態を解明するとともに、汎用的な重要漢語動名詞を抽出していく。そこで、本研究では、「現代日本語書き言葉均衡コーパス（BCCWJ）」と「日本語日常会話コーパス（CEJC）」を主たるデータとして利用する。以下、本研究で使った基本データとしての各変種およびその総語数を示す。なお、個々の変種の総語数については、『現代日本語書き言葉均衡コーパス』短単位語数表（Version 1.1）」と「CEJC短単位語数表」（ver202209）を参照する。

表1 本研究で使った 72 変種の基本データ

変種	総語数	変種	総語数
書籍・総記	1,752,604	知恵袋・インターネット,PC と家電	1,166,139
書籍・哲学	3,826,239	知恵袋・ビジネス,経済とお金	408,553
書籍・歴史	6,815,084	知恵袋・職業とキャリア	379,506
書籍・社会科学	15,694,683	知恵袋・ニュース,政治,国際情勢	439,212
書籍・自然科学	5,226,786	知恵袋・スポーツ,アウトドア,車	800,557
書籍・技術工学	4,752,183	知恵袋・暮らしと生活ガイド	1,047,234
書籍・産業	2,579,106	知恵袋・健康,美容とファッション	2,369,297
書籍・芸術美術	4,765,710	知恵袋・子育てと学校	932,555
書籍・言語	1,205,702	知恵袋・マナー,冠婚葬祭	332,404
書籍・文学	24,082,837	知恵袋・教養と学問,サイエンス	947,806
雑誌・総合	3,859,027	知恵袋・地域,旅行,お出かけ	460,022
雑誌・教育学芸	524,537	知恵袋・Yahoo! JAPAN	1,407,240
雑誌・政治経済商業	187,737	ブログ・ビジネスと経済	430,174
雑誌・産業	44,655	ブログ・コンピュータとインターネット	105,458
雑誌・工業	639,325	ブログ・生活と文化	1,247,526
雑誌・厚生医療	76,807	ブログ・エンターテインメントと趣味	3,743,547
白書・国土交通	654,715	ブログ・家庭と住まい	671,792
白書・外交	358,150	ブログ・政治	197,689

白書・安全	1,302,641	ブログ・健康と医学	378,401
白書・教育	85,516	ブログ・学校と教育	179,454
白書・環境	337,420	ブログ・科学	112,180
白書・福祉	738,446	ブログ・出会い	35,028
白書・科学技術	509,009	ブログ・地域	592,396
白書・経済	1,233,799	ブログ・芸術と人文	756,723
白書・農林水産	420,652	ブログ・Yahoo!サービス	4,534,707
教科書・国語	162,316	新聞	1,061,729
教科書・数学	104,231	法律	1,206,077
教科書・理科	312,834	国会会議録	5,596,623
教科書・社会	290,266	広報紙	4,620,337
教科書・外国語	28,100	話し言葉・自宅	509,777
教科書・技術家庭	87,565	話し言葉・職場	485,619
教科書・芸術	69,838	話し言葉・学校	79,793
教科書・保健体育	22,274	話し言葉・施設	809,590
教科書・情報	41,333	話し言葉・室内	387,479
教科書・生活	1,357	話し言葉・屋外	70,651
知恵袋・エンターテインメントと趣味	1,086,481	話し言葉・交通機関	78,253

表 1 に示したように、本研究は BCCWJ と CEJC を内容によって 72 変種に分類した。具体的には、まず、BCCWJ は新聞、雑誌、書籍、白書、教科書など 13 種の大ジャンルに区分されており、ジャンルによってはさらに詳細な下位区分がある。本研究では、(1) 「韻文」を除外する、(2) 「出版・書籍」と「図書館・書籍」、「特定目的・ベストセラー」を書籍にまとめる、(3) 「書籍」は日本十進分類法 (NDC) による 10 種の内容区分 (総記、哲学、歴史、社会科学、自然科学、技術工学、産業、芸術美術、言語、文学) でわけ、(4) 「雑誌」は 6 変種、「白書」は 9 変種、「教科書」は 10 変種、「Yahoo!知恵袋」は 13 変種、「Yahoo!ブログ」は 13 変種の内容区分にわけ、(5) 内容的な下位区分のない「新聞」「法律」「国会会議録」「広報紙」などはそのまま 1 変種とみなす、という方針をとる。これにより、本研究が調査対象とする書き言葉の内容変種は 65 種となる。

次に、CEJC の会話データは、会話のメタ情報 (「形式」「場面」) と、話者の属性情報 (「性別」「年代」) によってジャンルに分けられている。本研究は、「場面」情報を会話内容の分類基準とみなし、CEJC のデータを「自宅」「職場」「学校」「施設」「室内」「屋外」「交通機関」という 7 種にわけて調査する。

以上より、本研究で調査対象となるのは、書き言葉と話し言葉を合わせて 72 種の内容変種である。なお、漢語動名詞の頻度情報の取得には、「中納言」を使用する。データの採

集は 2022 年 7 月に実施した。

4.2.3 手法

この節では、研究設問順に研究手法を具体的に述べる。RQ1（言語変種別の漢語動名詞全体頻度）では、まず、72 種の内容変種ごとに、中納言の短単位検索を用い、「する」を伴い、サ変動詞として機能する用法を持つ 2 文字の漢語動名詞の抽出を行う。2 文字の漢語動名詞に絞った理由としては、2 文字の漢語が日本語の漢語語彙の中心的な位置を占めているためである。実際、3 文字以上の漢語のほとんどは 2 文字の漢語が語基になっている（例：再検討、全面停止）。また、1 文字の漢語は和語の複合要素との結合が高く、ほかの漢語とは文法的振る舞いが大きく異なっている（例：愛する、信ずる）（間淵、2016）。中納言の検索条件として、キーは「語種」が「漢」、「品詞」の「大分類」が「名詞」、後方共起は「語彙素」が「為る」と設定する。このように、漢語動名詞でありうるものを広く拾える一方、研究対象である 2 字漢語動名詞以外のものまで拾ってしまうという問題もある。たとえば、副詞と「する」が結びついた「（騒音を）結構する」、助数詞とする「（二）時間する（と）」、二字漢語以外を含む「（一）段落する」など、である。そこで、抽出されたすべての連鎖について、再度、「Web 茶まめ」で形態素解析を行い、漢語成分の品詞を確認した上で、対象以外ものは除去する処理を加えた。その後、変種ごとに出現するすべての漢語動名詞の総頻度を調査した上で、100 万語あたりの調整頻度（PMW）に換算して比較を行う。このことにより、漢語動名詞が多い変種・少ない変種を特定し、どのような共通性があるか考察する。

次に、RQ2（変種別最頻出語の重複度）では、まず、72 変種の各々において頻度 1 位となる延べ 72 語を抽出し、重複を除く。この作業により、異なり語数は 36 語となった。次に、36 語の各々について、全 72 種のうち、いくつの変種で 1 位になっているかを調べ、比率値を計算する。

続いて、RQ3（重要漢語動名詞の抽出）では、まず、粗頻度が 1 の単語を削除する。これは、「孤語」については偶然の出現である可能性が否定できないためである。次に、該当する漢語の数が 20 語未満となった 1 変種（「教科書・生活（5 語）」）を除く。その後、残った 71 変種からそれぞれ高頻度上位 20 語、延べ 1420 語を抽出する。重複を除くと、異なり語数は 363 語となった。続いて、363 語に対して、「平均頻度×レンジ比率（当該語が出現する変種数/全変種数）」という式で重要度を計算し、その値に基づき順位付けを行

う。最終的に上位 200 語を重要漢語動名詞のサンプルとして抽出する。

重要度の計算の例として、「推進」と「確認」という 2 つの漢語動名詞を取り上げる。

「推進」の場合、71 変種における平均頻度は 99.17、出現する変種数は 48 である。ゆえに、重要度は $99.17 \times (48/71) = 67.04$ となる。「推進」の頻度順位は 5 位であったが、この調整により順位は 13 位に下がった。次に、「確認」の場合、71 変種における平均頻度は 83.18、出現する変種数は 68 である。ゆえに、重要度は $83.18 \times (68/71) = 79.67$ となる。

「確認」の頻度順位は 10 位であったが、調整により順位は「作成」を上回り、6 位に上昇した。

最後に、RQ4（重要漢語動名詞の分類）では、選定された漢語動名詞について、ジャンル別の傾向を探るため、重要漢語動名詞 200 語を第 1 アイテム、72 種の変種を第 2 アイテムとする頻度表に対して対応分析を実施する。

4.3 結果と考察

4.3.1 RQ1 言語変種別の漢語動名詞全体頻度

書き言葉・話し言葉コーパスにおける 72 の内容変種別に漢語動名詞全体の出現頻度を調べ、100 万語あたりの調整頻度（PMW）に換算したところ、以下の結果を得た（上位 10 種と下位 10 種を示す）。

表 2 言語変種別漢語動名詞の使用頻度

上位 10 変種		下位 10 変種	
変種	PMW	変種	PMW
教科書・情報	30,992.19	ブログ・家庭と住まい	6,649.38
法律	22,011.03	教科書・数学	6,188.18
白書・外交	21,178.28	教科書・生活	5,158.44
白書・農林水産	20,651.27	話し言葉・職場	3,592.40
白書・環境	19,293.46	話し言葉・自宅	3,027.61
白書・教育	19,002.29	話し言葉・施設	2,820.33
白書・安全	18,958.41	話し言葉・室内	2,541.61
教科書・社会	18,899.91	話し言葉・学校	2,468.28

教科書・保健体育	18,811.17	話し言葉・屋外	2,360.94
教科書・理科	18,249.30	話し言葉・交通機関	2,268.76

表 2 から分かるように、漢語動名詞の使用頻度は変種別間において一定の異なりがある。まず、72 の変種のうち、漢語動名詞の使用頻度が最も高い変種は「教科書・情報」（PMW：30,992.19）、最も低い変種は「話し言葉・交通機関」（PMW: 2,268.76）であった。変種間での漢語動名詞の頻度差は最大約 13.66 倍に達する。これにより、漢語動名詞の使用量が内容変種によって大きく異なることが確認された。

次に、72 の変種のうち、漢語動名詞が多い変種と少ない変種を整理したい。漢語動名詞が最も多い 10 変種は、書き言葉である教科書・法律・白書の 3 ジャンルに集中していた。これらはいずれも、伝達内容に重点があるもので、大量の情報を一方向的かつ効率的に伝達するジャンルでは漢語動名詞の出現頻度が上昇すると言える。一方、漢語動名詞が最も少ない 10 変種には、話し言葉の全変種と、低学年向けの教科書、ブログなどのジャンルが含まれる。これらはいずれも、読み手を意識して内容をわかりやすく伝えるもので、情報を双方向的に伝達し、読み手・聞き手との共感醸成を重視するジャンルでは漢語動名詞が出現しにくいと言える。

4.3.2 RQ2 変種別最頻出語の重複度

各変種の最上位語（36 種）について、変種間での重複度（72 種中、いくつの変種で最上位語になっているか）を調査したところ、以下の結果を得た。

表 3 変種別最頻出語の重複度の内訳

重複度	語数・漢語動名詞
11.11% (8/72)	1 語（実施）
9.72% (7/72)	1 語（利用）
8.33% (6/72)	1 語（紹介）
5.56% (4/72)	3 語（参加、存在、勉強）
4.17% (3/72)	2 語（結婚、表示）
2.78% (2/72)	5 語（購入、使用、説明、発表、表現）

1.39% (1/72)	23 語 (妊娠、移動、演奏、加入、改善、開催、確認、感染、規定、計算、検討、交代、撮影、失礼、整理、増加、卒業、挑戦、投票、導入、放送、輸出、落札)

表 3 より、重複度は最高でも 1 割程度にとどまることが明らかになった。また、72 変種中、1 変種でしか最上位語になっていない語は 23 種で、異なり語数 36 種の 6 割以上を占めることもわかった。これにより、漢語動名詞は、最上位語に限っても、想像以上に変種間の開きが大きいたことが改めて確認された。このことは、重要漢語動名詞抽出において、言語データをかたまりとして処理するのではなく、できる限り細かい変種ごとに頻度調査を行い、重要語を抽出しようとする本研究の方向性が妥当であることを傍証するだろう。

4.3.3 RQ3 重要漢語動名詞の抽出

漢語動名詞の出現が少なかった 1 変種を除く 71 変種 (書き言葉 64 種・話し言葉 7 種) について、それぞれ高頻度上位 20 語、合計 1420 語を選び、重複を除いた異なり 363 語に対して、71 変種における平均頻度とレンジ比率を掛け合わせて「重要度」を計算した。以下は、5 語 (利用・実施・使用・対応・紹介) の処理のサンプルである。表の末尾には、書き言葉 64 種の平均 (W)、話し言葉 7 種の平均 (S)、全体平均 (SW)、レンジ、重要度指標を示している。

表 4 重要漢語動名詞上位 5 語のデータ処理

順位	1	2	3	4	5
漢語 VN	利用	実施	使用	対応	紹介
雑誌厚生医療	182.3	143.2	117.2	52.1	182.3
雑誌工業	395.7	23.5	286.2	240.9	176.8
雑誌産業	313.5	89.6	201.6	156.8	268.7
雑誌政治経済商業	85.2	133.2	47.9	85.2	63.9
雑誌教育学芸	57.2	3.8	40.0	19.1	106.8
雑誌総合	86.3	25.1	96.1	29.3	118.9
白書国土交通	241.3	1501.4	74.8	456.7	45.8
白書外交	39.1	1016.3	19.5	142.4	14.0
白書安全	186.5	1245.2	171.2	231.8	26.1
白書教育	58.5	1192.8	46.8	818.6	46.8
白書環境	151.2	1718.9	151.2	201.5	14.8
白書福祉	195.0	950.7	40.6	193.7	27.1

白書科学技術	707.3	803.5	312.4	231.8	31.4
白書経済	84.3	393.1	42.2	156.4	18.6
白書農林水産	368.5	1878.0	76.1	537.3	7.1
書籍総記	308.7	40.5	293.3	129.5	140.4
書籍哲学	47.3	12.5	24.6	39.5	86.0
書籍歴史	109.9	45.8	51.8	24.2	87.6
書籍社会科学	136.9	110.7	90.4	89.1	85.8
書籍文学	40.0	3.6	11.9	7.0	41.3
書籍自然科学	166.5	91.1	214.5	89.9	123.8
書籍技術工学	294.0	94.9	313.3	92.0	114.3
書籍産業	275.3	99.7	145.4	76.8	111.3
書籍芸術美術	71.8	11.1	93.8	34.0	109.7
書籍言語	68.8	24.1	116.1	70.5	96.2
教科書国語	73.9	0.0	24.6	37.0	141.7
教科書数学	374.2	0.0	48.0	316.6	0.0
教科書理科	594.6	9.6	89.5	35.2	3.2
教科書社会	323.8	65.5	41.3	31.0	96.5
教科書外国語	71.2	0.0	35.6	0.0	462.6
教科書技術家庭	536.7	79.9	251.2	91.4	45.7
教科書芸術	85.9	0.0	229.1	28.6	71.6
教科書保健体育	44.9	44.9	179.6	134.7	0.0
教科書情報	3000.0	169.4	290.3	217.7	145.2
知恵袋 YahooJAPAN	236.6	5.0	110.9	113.7	24.9
知恵袋地域旅行	345.6	26.1	73.9	30.4	80.4
知恵袋教養	80.2	6.3	141.4	29.5	50.6
知恵袋マナー	87.2	0.0	75.2	24.1	90.3
知恵袋子育てと学校	57.9	12.9	107.2	19.3	22.5
知恵袋健康	46.4	1.3	109.3	21.1	70.9
知恵袋暮らし	137.5	2.9	206.3	37.2	91.7
知恵袋スポーツ	89.9	7.5	199.9	42.5	33.7
知恵袋ニュース	72.9	29.6	29.6	20.5	31.9
知恵袋職業	73.8	29.0	50.1	44.8	179.2
知恵袋ビジネス	210.5	9.8	107.7	41.6	68.5
知恵袋インターネット	254.7	6.9	650.9	253.8	58.3
知恵袋エンターテインメント と趣味	33.1	2.8	68.1	19.3	91.1
ブログビジネスと経済	162.7	44.2	39.5	41.8	111.6
ブログコンピュータ	199.1	9.5	237.1	104.3	227.6
ブログ生活文化	73.8	28.9	82.6	20.8	150.7

ブログエンターテインメント と趣味	38.5	19.5	53.4	14.7	122.9
ブログ家庭と住まい	38.7	4.5	47.6	25.3	125.0
ブログ政治	111.3	101.2	35.4	50.6	80.9
ブログ健康と医学	44.9	15.9	68.7	15.9	137.4
ブログ学校と教育	50.2	33.4	44.6	16.7	89.2
ブログ科学	213.9	26.7	71.3	53.5	115.9
ブログ出会い	28.6	28.6	28.6	85.7	314.0
ブログ地域	70.9	50.6	45.6	11.8	226.2
ブログ芸術と人文	43.6	2.6	44.9	7.9	113.7
ブログ yahoo サービス	51.2	19.9	59.1	26.5	113.6
新聞	102.7	154.5	32.0	78.2	169.5
法律	111.9	247.1	220.6	19.9	4.2
国会会議録	66.3	161.0	30.6	166.7	17.0
広報紙	209.9	338.5	104.3	49.1	181.6
話し言葉室内	8.4	0.0	0.0	2.8	16.9
話し言葉職場	19.2	0.0	2.7	35.6	43.8
話し言葉自宅	6.1	0.0	2.0	10.2	22.3
話し言葉施設	9.4	0.0	1.3	16.0	32.1
話し言葉交通機関	26.1	0.0	0.0	39.1	26.1
話し言葉学校	0.0	0.0	0.0	14.5	29.0
話し言葉屋外	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
W（書き言葉 64 種平均）	205.0	210.1	116.3	102.9	98.5
S（話し言葉 7 種平均）	9.9	0.0	0.9	16.9	24.3
SW 平均頻度	185.8	189.4	104.9	94.4	91.2
レンジ比率	1.0	0.8	0.9	1.0	1.0
重要度	180.5	157.4	99.0	91.8	87.4

全ての語について、以上のような「重要度」計算を行い、最終的に上位 200 語を本研究における漢語動名詞の分析サンプルとして定めた。個々の語の、書き言葉 64 種の平均（W）、話し言葉 7 種の平均（S）、全体平均（SW）、レンジ、重要度指標の情報は本論文末尾の表で示す。

表 5 重要漢語動名詞 200 語（順位順に記載）

利用 実施 使用 対応 紹介 確認 増加 発生 表示 作成 説明 参加 推進 発表 存在 理解 表現 期待 活用 注意 設定 設置 開催 減少 変化 購入 提供 比較 検討 結婚 選択 指定 展開 判断 入力 用意 検索 質問 確保 工夫 実現 評価 計算 開始 変更 発見 登録 注目 拡大 規定 導入 決定 相談 完成 指摘 勉強 構成 提出 移動 改善 保存 整備 解決 開発 整理 考慮 低下 安定

促進 維持 把握 登場 上昇 予想 成立 終了 反映 成功 形成 発展 販売 記載 報告 採用 記録
重視 発揮 意識 安心 認識 処理 撮影 配慮 練習 意味 削除 実行 生活 該当 集中 主張 達成
心配 無視 活躍 交換 連絡 観察 成長 分析 充実 強化 対処 継続 掲載 設立 適用 強調 経験
活動 失敗 支援 想像 努力 発達 提案 追加 発行 取得 学習 独立 調整 電話 更新 増大 卒業
加入 推移 吸収 代表 貢献 回答 我慢 調査 発売 一致 接続 派遣 希望 分解 保護 出席 分類
指導 反応 納得 悪化 解消 運転 印刷 進行 相当 準備 経過 違反 出品 反対 記入 感染 提示
証明 落札 到着 防止 放送 否定 演奏 改正 請求 応援 入院 出発 苦労 訪問 通過 死亡 収集
表明 注文 策定 支給 制定 就職 批判 感謝 施行 所属 支配 共有 合格

以下は、上位 5 語のコーパス用例である。なお、a は書き言葉、b は話し言葉用例である。当該の漢語動名詞は【】記号で示す。

- (1a) ブラウザー翻訳の上下対訳を【利用】すると、表示レイアウトを崩さずに原文と日本語を同時に表示できる。(雑誌・工業、PM35_00179)
- (1b) いや、だからそういう生体のそういう機能を色々なあの工学的に【利用】してるわけですよ (話し言葉・学校、T006_001)
- (2a) さらに、農協におけるホームヘルパー及び介護活動コーディネーターの養成を引き続き【実施】したほか、農協高齢者介護活動の本格的実施のためのマニュアルの策定、モデルプランの作成に対して新たに支援した。(白書・農林水産、OW5X_00090)
- (2b) こっちは雪の時にえっとわたしが勝手に判断して強行【実施】をしたら遅刻して、全員ね (話し言葉・施設、T009_021b)
- (3a) 誤解の無いように申し上げておきますが、ウチはあくまでも、このようなサンプル動画を、ネット技術の研究目的で【使用】しています。(ブログ・家庭と住まい、OY05_02259)
- (3b) でプラス大会参加者もコートを【使用】してもらってあーのまあ会員さんと一緒にテニスやるってゆう雰囲気味わってもらいたい (話し言葉・職場、S001_018)
- (4a) 緊密な連携・協力を保ちながら、児童のニーズに【対応】し得るネットワークシステムを形成していくことが必要である。(出版・書籍、PB53_00587)
- (4b) じゃああのニッ日程はいくつか候補出していただければそれにあの先方を【対応】させるようにあのしますわ (話し言葉・自宅、K010_004b)
- (5a) フェントン・ブレスラーの『遺言状のたのしみ』(石神力訳) という本には幽明界を異にした人間の悲喜劇が興味深く【紹介】されている。(書籍・社会科学、

LBe3_00023)

(5b) きょう翔子さんて【紹介】したらさえー最初すぐ思い出せなかったけど（話し言葉・室内、S001_015）

上位 5 語はいずれも書き言葉でも話し言葉でも使われる。漢語動名詞は一般的に書き言葉的で、話し言葉での使用は制約されると考えられがちだが、上記の用例は、漢語動名詞が話し言葉でもごく普通に使用されることを示している。とくに (2b) の「実施」などは、直観では話し言葉での使用に向かないと思われる語だが、実際には自然な形で使用されている。このことから、今回の分析では、日本語の書き言葉・話し言葉の両面において一般的に使用される漢語動名詞が選定されていると考えられる。

4.3.4 RQ4 重要漢語動名詞の分類

重要漢語動名詞 200 語を第 1 アイテム、72 変種は第 2 アイテムとする頻度表を作成し、対応分析を実施したところ、以下の結果を得た。

図 1 対応分析の結果

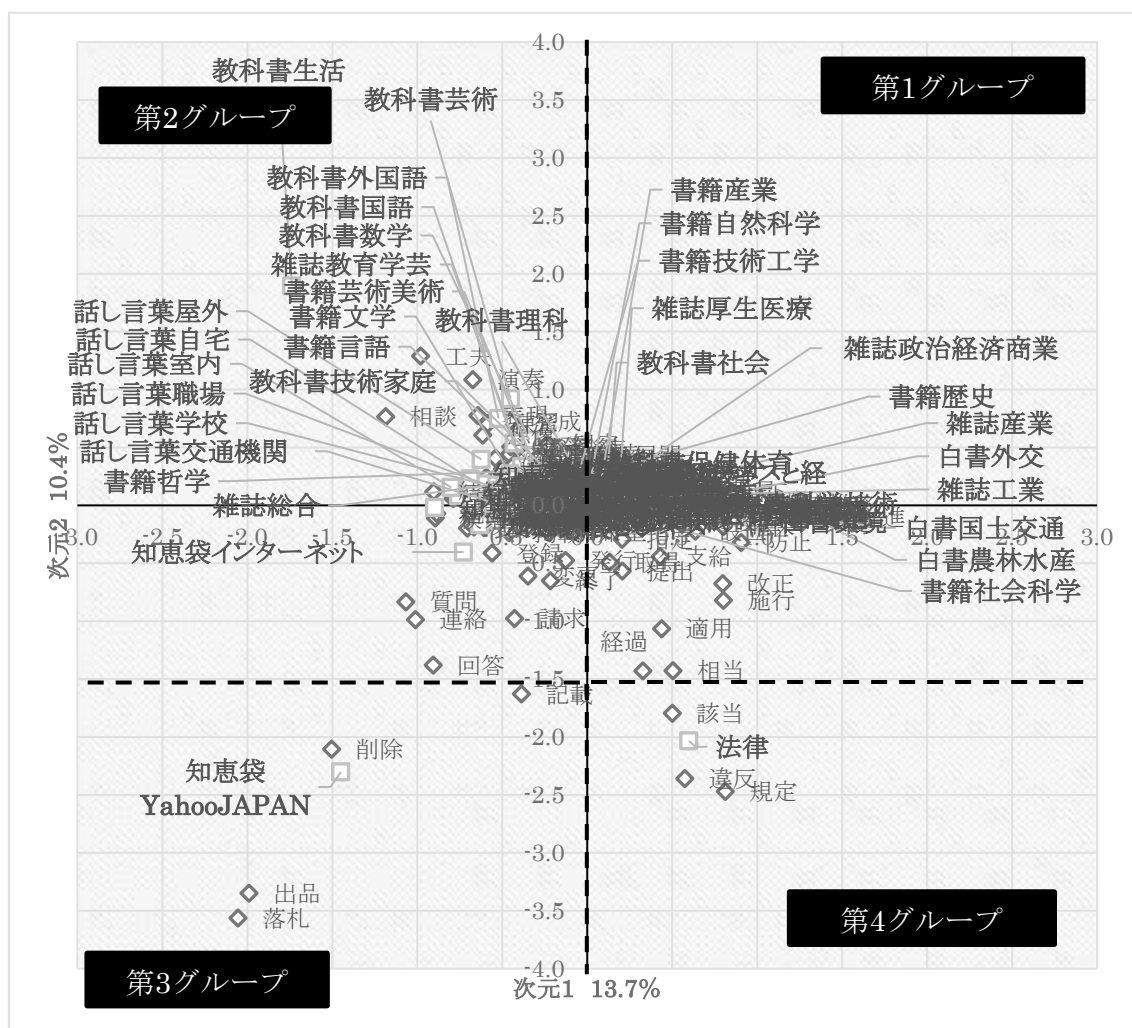


図 1 からわかるように、第 1 次元の寄与率は約 13.7%、第 2 次元の寄与率は約 10.4%、全体的説明力は約 24.1%で、決して高いとは言えないが、今回の分析では、第 1 アイテム（変数）が 200 個で非常に多く、もともと情報が拡散している状況であった。したがって、2 の次元で全体の分散の約 4 分の 1 が説明できていることは、一定の有効な情報集約がなされているものとする。

以下では筆者の判断でまとまりを判断し、4 つのグループの指定を行っている。まず、第 1 次元によって全体は左右に 2 分割された。右側には、全体から離れて法律ジャンルを除き、白書・国会会議録・広報紙・新聞・社会科学や産業に関わる書籍・雑誌など、フォーマルで、かつ、社会科学的（経済・政治など）なジャンルが布置されている。これを第 1 グループと称する。一方、左側には、全体から離れて知恵袋 Yahoo! JAPAN ジャンルを

除き、社会科学的以外の書籍・雑誌など、および教科書、ブログや知恵袋、話し言葉といったインフォーマルで雑多なジャンルが集まっている。ここで扱われる内容は、芸術・趣味・ファッション・学校・ビジネス・スポーツ・出会いなど、幅広い。これを第 2 グループと称する。

また、第 3 象限の下部には、知恵袋 Yahoo! JAPAN 分野と漢語動名詞「出品」「落札」「削除」「記載」の 4 語が布置されており、第 3 グループと称する。第 4 象限の下部には、全体から離れて法律分野と漢語動名詞「違反」「規定」「該当」の 3 語が布置されており、第 4 グループと称する。下記は分野別の漢語動名詞のリストを示す。

表 6 分野別重要漢語動名詞

分野	特徴語
[1] 社会科学	推進、推移、策定、実施、促進、増加、減少、整備、増大、支援、防止、強化、施行、確保、改正、低下、開催、配慮、設置、上昇、拡大、設立、反映、開始、達成、貢献、派遣、活用、制定、継続、対処、把握、維持、提供、重視、支給、対応、考慮、指導、導入、表明、決定、検討、形成、調査、予想、充実、悪化、実現、比較、発生、指摘、進行、提出、指定、発展、期待、訪問、開発、成立、解消、発揮、注目、展開、構成、取得、改善、死亡、保護、代表、記録、処理、集中、適用、相当、経過 (76 語)
[2] 一般	相談、質問、連絡、工夫、回答、結婚、検索、電話、我慢、入力、表示、納得、演奏、購入、勉強、保存、印刷、表現、到着、出席、入院、想像、注文、放送、更新、用意、応援、心配、練習、運転、交換、無視、苦勞、登録、準備、注意、感謝、失敗、発売、記入、計算、卒業、撮影、移動、掲載、説明、完成、出発、経験、選択、反応、請求、安心、確認、就職、学習、合格、紹介、証明、接続、実行、整理、意識、登場、設定、変更、理解、生活、収集、調整、活躍、否定、共有、通過、成長、追加、発見、使用、所属、作成、観察、感染、批判、加入、意味、利用、終了、提示、反対、判断、発表、強調、解決、分解、参加、採用、成功、分析、発行、販売、提案、支配、発達、活動、主張、存在、独立、報告、努力、吸収、希望、認識、分類、評価、一致、変化、安定 (117 語)
[3] オンラインショッピング	落札、出品、削除、記載 (4 語)
[4] 法律	規定、違反、該当 (3 語)

表 5 からわかるように、200 種の重要漢語動名詞は [1] 社会科学、[2] 一般、[3] オンラインショッピング、[4] 法律の 4 つの分野別グループに分けられる。そのうち、グループ [2] 一般における漢語動名詞は 117 種であり、およそ全体の 59% に占める。一般に、漢語動名詞は書き言葉・フォーマル的なジャンルで多用されると思われるが、重要漢語動

名詞には、むしろ話し言葉や一般的なジャンルと強く結びつく漢語動名詞が多用されると言えるだろう。

4.4 まとめ

以上、本章では、BCCWJとCEJCに含まれる言語データを72の変種に分類し、変種ごとに漢語動名詞の出現状況を網羅的に調査し、多様な現代日本語における漢語動名詞の使用実態を解明するとともに、高頻度で、かつ、広範囲で使われる重要漢語動名詞200語を抽出した。

RQ1（変種別の漢語動名詞全体頻度）では、現代日本語書き言葉・話し言葉の各変種間における漢語動名詞の頻度の差は大きく、約13.66倍になる場合もあること、また、漢語動名詞は大量の情報を効率的に伝達することを優先する変種で多く、話し言葉や、低学年向けの教科書などのような双方向的に情報を伝達し、読み手・聞き手間の共感醸成を重視する変種で少なくなることが確認された。

RQ2（変種別最頻出語の重複度）では、変種別の最上位漢語動名詞の重なり度合いは想像以上に低いことが確認された。

RQ3（重要漢語動名詞の抽出）では、上記をふまえ、「平均頻度×レンジ比率」という尺度に基づき、重要漢語動名詞200語を抽出した。

RQ4（重要漢語動名詞の分類）では、対応分析を実施して、分野別の主要漢語動名詞のリストを作成した。

なお、本研究で抽出された重要漢語動名詞200語は、日本語学における漢語動名詞研究の具体的なサンプルとして使用できるのみならず、日本語教育への応用も考えられる。実際、200語の中には、初級の日本語学習者が学校場面や学習場面で遭遇しやすい「質問」「相談」「練習」「出席」といった語のほか、「撮影」「応援」「電話」「運転」などの日常生活に関わる語、「工夫」「我慢」「批判」「削除」などの基本的な行為にかかわる語が含まれている。これらの語が選ばれていることは、本リストが日本語教育においても一定の価値を有することを示唆する。この方向性については、本論文の第Ⅲ部においてさらに考えていく。

第 5 章 品詞論から見た漢語動名詞

5.1 はじめに

5.1.1 ねらい

第 4 章で、重要漢語動名詞を抽出したわけであるが、すべての語が同じように動詞として使用できるわけではない。語によって、名詞として多く使用するもの、動詞として多く使用するもの、両者の使用度がほぼ同じであるもの、といった違いが存在する可能性がある。この点は、日本語学において漢語動名詞の振る舞いを論じる際の制約になるとともに、日本語学習者にとっても習得上の壁となりうるものである。

そこで、本章では、すでに選定した 200 種の重要漢語動名詞を対象として、その動詞性と名詞性を検証し、品詞特性に基づいて漢語動名詞を分類し、分類ごとの意味的特性を明らかにする。

5.1.2 背景

第 4 章では、多様な現代日本語における漢語動名詞の使用実態を解明するとともに、高頻度で、かつ、広範囲で使われる重要漢語動名詞 200 語を抽出した。以下、これら 200 語を手掛かりとして、形態論・統語論、意味論・語用論の観点からその振る舞いを検討していく。

まず、本章で扱うのは形態論および統語論に係る漢語動名詞の品詞性の問題である。実際、漢語動名詞の品詞用法の多様性は、しばしば、日本語学習者の習得上の課題ともなっている。以下の例を見てみよう（すべて筆者による作例）。

- (1) *能力の【発揮】をしている [名詞的]
- (2) 能力を【発揮】している [動詞的]
- (3) 心の【準備】が整いました [名詞的]
- (4) *心を【準備】しました [動詞的]
- (5) 日本語の【学習】を頑張ってください [名詞的]
- (6) 日本語を【学習】したことがありますか [動詞的]

上例のうち、(1) と (4) は許容されない。つまり、漢語動名詞には、動詞優先型（「発揮」）、名詞優先型（「準備」）、動詞・名詞併用型（「学習」）の 3 種の区分が

存在することになるが、日本語教育の現場ではこうした点の指導はほとんど行われていない。そのため、漢語の知識を有する中国人日本語学習者であっても、日本語漢語動名詞の習得は容易ではない。以下は「日本語学習者作文コーパス」（林・李・宮岡・柴崎・趙、2012）における中国人学習者の作文実例である。なお、修正例はコーパス開発者が付与したものである。

(7) 自分の会話力やイヤリング（→ヒアリング）が【上達】になるだ（→上達する）と思う。（CG038）

(8) いま、ぼくは日本語 N1 試験を【準備】しています（→の準備をしています）。（CG050）

(7) について、日本語では「上手になる」は言えるが、「*上達になる」とは言えない。これらはともに中国語に存在しない語彙であり、中国人学習者は、おそらくは、日本語の類義語である、「上手」において「上手になる」という表現が許されることを根拠として、「*上達になる」という表現をしたものと思われる。この場合、学習者は、対象言語におけるルールを過剰般化（*overgeneralization*）したとみなせる。一方、(8) について言えば、日本語の「準備」は動詞用法と名詞用法で意味が変化する。サ変動詞化させて、「試験を準備する」と言えば、通例、試験の問題を作ったり会場準備を行ったりするなど、試験運営側の準備が含意される。一方、「準備」を名詞として扱い、「試験の準備をする」と言えば、試験対策のために勉強することが含意される。しかし、中国語の「準備」（中国語：「准备」）には、こうした意味の変化はなく、「準備」を動詞、「試験」を目的語として使用しても、試験対策のために勉強するという意味が生じる（中国語：「我准备考试」）。この場合、学習者は母語のルールを対象言語に誤って適用したことになり、母語からの否定的転移（*negative transfer*）が起こっていると言える。この点に関して、張（2021）は、中国人中上級学習者による漢語動名詞の誤用では、品詞選択の誤りが最も多いとしている。

このような漢語動名詞の品詞用法制約は、主要な日本語教科書ではほとんど触れられていない。また、学習者が日本語学習の一助とする国語辞書においても十分な情報が提供されているとは言い難い。下記は、『広辞苑』（第 7 版）、『岩波国語辞典』（第 8 版）、『新明解国語辞典』（第 8 版）、『明鏡国語辞典』（第 3 版）の 4 種の辞書（見出し項目

および用例)における漢語動名詞 3 種の品詞記述をまとめたものである。なお、『広辞苑』と『新明解』は、見出し部において、名詞については、品詞記載を省略する方針を取っている。

表 1 辞書における漢語動名詞の品詞性のずれ

辞書	上達		準備		学習	
	見出し	用例	見出し	用例	見出し	用例
『広』	名詞	名詞・動詞	名詞	名詞	名詞	NA
『岩』	名詞・動詞	名詞	名詞・動詞	名詞	名詞・動詞	名詞
『新』	名詞・動詞	名詞	名詞・動詞	名詞・動詞	名詞・動詞	名詞
『明』	名詞・動詞	名詞	名詞・動詞	名詞	名詞・動詞	名詞・動詞

3 つの語はともに名詞・動詞の両方で使用できるものであるが、辞書によっては、見出しまたは用例において、そのことが必ずしもわかりやすく示されているとは言えないことがわかった。たとえば、『広辞苑』は「上達」にのみ、『新明解』は「準備」にのみ、『明鏡』は「学習」にのみ、それぞれ動詞用例を記載している。しかし、これらが、当該語の動詞性をふまえたものであるのかどうかははっきりしない。

母語話者の言語直観を有さない学習者の視点から言えば、日本人向けの国語辞書の記述を参考にして、漢語動名詞の品詞特性を知ることは容易ではない。

以上の状況に鑑みれば、日本語教育においては、学修上重要な漢語動名詞を特定するだけでなく、それらの品詞用法特性を明らかにして、学習者に明示的に伝えていくことが必要となろう。本章では、第 4 章で抽出した重要漢語動名詞 200 語の品詞特性の解明を試みたい。

5.2 リサーチデザインと手法

5.2.1 研究目的と RQ

2.3 節ですでに述べたように、過去の研究は漢語動名詞の動詞用法と名詞用法を認定する上で、様々な判定基準を考案したわけであるが、動詞用法の判定基準にはずれ幅が大きく、名詞用法を直接的に判定した研究は少ない。また、先行研究で言及された判定基準を網羅的に採用した調査も少ない。そこで、本研究では、200 種の重要漢語動名詞を対象として、先行研究で言及された基準を幅広く取りこんだ動詞性判定テストと名詞性判定テ

トを実施し、動詞性・名詞性を組み合わせて直接判定することで新たな漢語動名詞の品詞区分を提案する。また、区分ごとの漢語動名詞の言語的特性を解明し、新しい日本語教育基礎資料とする。上記をふまえ、本研究は以下の3つの研究設問を設定した。

RQ1 動詞性・名詞性の高い漢語動名詞はなにか？（動詞性・名詞性の高い漢語動名詞）

RQ2 動詞性・名詞性を統合的に評価した場合、漢語動名詞はどのように区分できるか？
（漢語動名詞の分類と区分ごとの統語特性）

RQ3 区分ごとの漢語動名詞にはどのような意味特性の違いがあるか？（漢語動名詞の区分ごとの意味特性）

5.2.2 データ

本章では、「現代日本語書き言葉均衡コーパス」(Balanced Corpus of Contemporary Written Japanese : BCCWJ) と「日本語日常会話コーパス」(Corpus of Everyday Japanese Conversation : CEJC) を利用する。すでに述べたように、BCCWJ は、国立国語研究所が中心となって開発した現代日本語の書き言葉の大規模コーパスである。BCCWJ は「新聞」「雑誌」「書籍」「白書」「教科書」など、13 種の大ジャンルに区分されており、ジャンルによってはさらに詳細な下位区分がある。CEJC は、国立国語研究所が開発した話し言葉コーパスで、40 名の調査協力者の3 か月の自然会話 200 時間分の会話データを収録している。CEJC の会話データは、形式別に「雑談」「用談・相談」「会議・会合」「授業・レッスン」の4 ジャンルに区分されている。両コーパスとも、国立国語研究所が開発・運営するコーパス検索インタフェースである「中納言」上でアクセスする。

2 つのコーパスには、様々なジャンルデータが含まれるが、本章では、BCCWJ の13 ジャンルのうち、体言止めの多用など、特殊な品詞使用がなされている可能性のある「韻文」を除く12 ジャンルと、CEJC の4 ジャンルを組み合わせた16 種の日本語ジャンルデータを資料として、重要漢語動名詞 200 種の動詞的用法と名詞的用法の頻度を調査する。

5.2.3 手法

5.2.3.1 動詞性・名詞性判定テスト

漢語動名詞の動詞性・名詞性は、何らかのテストによって決定される必要がある。先行研究では、様々なテストが考案されてきたわけであるが、本研究では、過去の研究で採用

された項目を幅広く取り込み、以下のテスト内容を決定した。両テストはそれぞれ 3 つの判定基準を内包する。

表 4 本研究の動詞性・名詞性判定テストの項目

	動詞性判定テスト	名詞性判定テスト
基準 1	「スル」付加（～する（敬語形含む）、～出来る）	格助詞付加（格助詞「が・を・に…」の後続）
基準 2	時間表現付加（～中、～後）	係助詞付加（係助詞「は・も…」の後続）
基準 3	尊敬表現化（ご～になる／くださる）	「用」付加（～用）

なお、本研究では、過去の研究で扱われた基準を広く取り込むことを目指したが、動詞性判定テストにおける「奉る・仕る・遊ばす・申す」後続基準と、名詞性判定テストにおける副助詞後続基準は採用しなかった。この点について説明したい。

まず、間淵（2016）が動詞性判定で採用した「奉る・仕る・遊ばす・申す」後続基準についてであるが、BCCWJ を検索したところ、「漢語動名詞＋奉る」が 4 例、「漢語動名詞＋仕る」が 63 例、「漢語動名詞＋遊ばす」が 27 例、「漢語動名詞＋申す」が 28 例、が確認されたものの、多くは現代日本語として違和感の残るものであった。下記は用例の一部である。

- (9) 一万石ほど、ご返納【奉る】つもりはないか（出版・書籍、PB29_00071、『黒船擾乱』、笹沢左保（著））
- (10) 慶喜が、薩土越宇の四藩をふくむ諸藩の意見を「取捨【仕り】候は、私の任に御座候」と言い放ったことである（図書館・書籍、LBs2_00093、『徳川慶喜』、家近良樹（著））
- (11) このたびは上公御隠居【遊ばされ】、誠に恐れ入った次第。（図書館・書籍、LBf2_00008、『幕末の水戸藩』、山川菊栄（著））
- (12) ほんとうの親でもない私が、これほど一生懸命にお世話【申して】、あなたを大切な人と思っているのが（特定目的・ベストセラー、OB2X_00146、『円地文子の源氏物語』、紫式部（著）/円地文子（訳））

(9) ～ (12) は、いずれも、歴史小説や、歴史をテーマにした文献内での用例であり、狭義の現代日本語の用例としては特殊なものだと思われる。この基準を加えた場合、他の基準のウェイトが低減すると思われることから、今回は採用しないこととした。

次に、永澤（2010）および間淵（2016）が名詞性判定で採用した、（漢語が補語となる場合の）副助詞後続基準についてであるが、同じく、BCCWJ で検索したところ、以下のよう、副助詞が名詞ではなく動詞に後続する事例がいくつか確認された。

(13) 形を工夫し【さえ】すれば、肉まんだって、ほら、このとおり。（出版・書籍、PB55_00045）

(14) 民訴法百六十九条（新百三条）などを準用する【のみ】で（図書館・書籍、LBm3_00048）

(15) ただ、それがこの世のどこかに存在する【だけ】でいい。（図書館・書籍、LBr7_00065）

この基準を加えた場合、上記のような用例が分析対象から外れてしまうため、これも今回は採用しないこととした。

5.2.3.2 手順

まず、RQ1（動詞性・名詞性の高い漢語動名詞）では、本研究で決定した判定基準に基づき、「中納言」上で、以下の検索条件で検索を実施した。

表 5 各品詞判定基準の検索条件

	動詞性判定テスト	名詞性判定テスト
基準 1	「スル」付加（～する（敬語形含む）、～出来る） → キー：語彙素が漢語動名詞、後方共起：語彙素が“為る 出来る 致す 為さる”	格助詞付加（格助詞「が・を・に…」の後続） → キー：語彙素が漢語動名詞、後方共起：品詞が“助詞-格助詞”
基準 2	時間表現付加（～中、～後） → キー：語彙素が漢語動名詞、後方共起：語彙素が“中後”	係助詞付加（係助詞「は・も…」の後続） → キー：語彙素が漢語動名詞、後方共起：品詞が“助詞-係助詞”
基準 3	尊敬表現化（ご～になる／くださる） → キー：語彙素が漢語動名詞、前方共起：語彙素が“御”、(2) 後	「用」付加（～用） → キー：語彙素が漢語動名詞、後方共起：語彙素が“用”

	方共起 1:語彙素が“に”、後方共起 2:語彙素が“成る” (2) 後方共起:“下さる”	

順位化の方法として、まず、第 1 基準に関して、個々の語について、全用例数と、そのうち、当該基準を満たす用例数を求め、基準合致率を計算する。そして、基準合致率の高いものから、対象語全体を並べ替え、順位を決定する。その後、第 2 基準、第 3 基準について、同じ作業を繰り返す。最後に、個々の語について、3 つの基準に基づく合致率順位の和を計算する。そして、順位和の低いものから全体を並べ替え、最終的な順位を決定する。ここでは、「掲載」を例に説明したい。この語は、動詞性判定テストにおいて、第 1 基準の合致率は 65.99%で全 200 語中の順位は 16 位であった。また、第 2 基準の合致率は 1.4%で順位は 28 位であった。第 3 基準の合致率は 0%で順位は 65 位であった（※0%の語は多数あるため、すべて 65 位となる）。これらの順位和は $16+28+65=109$ となる。最後に、順位和で 200 語すべてを並べ替え、最終順位（この場合は 6 位となる）が決定される。

RQ2（漢語動名詞の分類と区分ごとの統語特性）では、重要漢語動名詞の品詞用法を区分するため、個々の語について、全用例数と、そのうち、当該基準を満たす用例数を求め、基準合致率を計算する。

RQ3（漢語動名詞の区分ごとの意味特性）では、各区分に含まれる各漢語動名詞の意味特性を『分類語彙表』（増補改訂版）に基づき調査する。『分類語彙表』では、体・用・相の各類の中に、大きな意味的まとまりとして「抽象的關係」、「人間活動の主体」、「人間活動・精神および行為」、「生産物及び用具」、「自然物及び自然現象」といった 5 つの部門を設け、各部門の内部は「事柄」、「類」、「存在」などのような中項目に分かれた。さらに同じ中項目に属する単語はいくつかのグループ（段落）に細分された。本研究では、表 6 に示したように、部門を大分類、段落を小分類として採択する。

表 6 『分類語彙表』の枠組み

大分類	小分類
抽象的關係	理由・目的・証拠、異同・類似...
人間活動の主体	男女、夫婦、相手・仲間...
人間活動・精神および行為	感覚、表情・態度、学習・習慣・記憶...
生産物及び用具	産物、資材・ごみ、飾り...
自然物及び自然現象	光、気象、物質の変化...

ここで注意すべきは、漢語動名詞が多義である場合の扱いである。本研究では、『デジタル大辞泉』（以下、『大辞泉』）（ジャパンナレッジ版、2022年7月に検索）における当該語の第1語義の意味分類を選ぶことにする。たとえば、「反応」には、(1) ある働きかけに応じて起こる物事の動き、(2) 生体が刺激に応じて活動を起こすこと、(3) 物質の相互作用によって別の物質を生じること、の3つの語義がある。また、『分類語彙表』における「反応」の意味特性は、「抽象的關係－作用・変化」、「人間活動・精神および行為－感覚」、「自然物及び自然現象－生理」、「自然物及び自然現象－物質の変化」の4種である。この場合、第1語義に合致するものとして、「抽象的關係－作用・変化」を選ぶ。

5.3 結果と考察

5.3.1 RQ1 動詞性・名詞性の高い漢語動名詞

2種の品詞判定テストを行った結果、各品詞判定基準の合致率の順位和の上位20位の漢語動名詞、すなわち動詞性の高い漢語動名詞と名詞性の高い漢語動名詞がそれぞれ抽出された。以下、表7と表8に示した。なお、括弧中の数字は各品詞テストの順位を示した。

表7 動詞性の高い漢語動名詞

V 順位	VN	動詞テスト結果 (%)				名詞テスト結果 (%)			
		スル	時間	尊敬	順位和	格助詞	係助詞	「用」	順位和
1	確認	65.7(18)	0.6(54)	1.3(8)	80	15.4(132)	0.1(47)	1.6(147)	326
2	活躍	57.0(40)	4.3(7)	0.1(33)	80	21.4(99)	0.0(87)	3.4(67)	253
3	到着	57.3(39)	2.7(10)	0.0(46)	95	9.8(182)	0.0(87)	1.8(133)	402
4	検討	50.6(66)	2.5(11)	0.1(24)	101	27.9(55)	0.1(53)	1.8(135)	243
5	記入	61.8(27)	0.4(71)	0.7(10)	108	13.5(145)	0.1(38)	0.8(181)	364
6	掲載	66.0(16)	1.4(28)	0.0(65)	109	18.8(113)	0.0(87)	2.9(83)	283
7	開催	59.8(32)	2.4(13)	0.0(65)	110	8.8(188)	0.0(87)	0.9(180)	455
8	提出	64.4(20)	0.3(73)	0.2(19)	112	13.9(142)	0.2(23)	1.3(165)	330
9	成立	60.4(30)	2.0(17)	0.0(65)	112	21.4(98)	0.0(87)	1.9(125)	310
10	通過	65.5(19)	1.3(30)	0.0(65)	114	9.0(186)	0.0(87)	2.8(87)	360
11	購入	54.2(46)	0.8(46)	0.1(25)	117	12.0(165)	0.0(87)	1.7(139)	391
12	出席	58.9(35)	0.3(76)	0.6(11)	122	12.5(160)	0.0(87)	1.4(161)	408
13	入力	59.5(33)	0.6(52)	0.0(42)	127	13.0(155)	0.6(9)	1.3(164)	328

14	使用	50.6(65)	1.1(38)	0.1(26)	129	11.3(172)	0.0(80)	1.5(157)	409
15	実施	60.0(31)	1.1(34)	0.0(65)	130	13.4(148)	0.0(87)	0.6(190)	425
16	参加	44.5(90)	0.9(43)	1.3(7)	140	11.5(170)	0.0(87)	1.7(137)	394
17	考慮	83.4(6)	0.4(70)	0.0(65)	141	11.3(172)	0.0(80)	1.5(157)	409
18	完成	52.2(56)	1.5(26)	0.0(65)	147	11.8(166)	0.0(87)	1.2(173)	426
19	表明	68.9(13)	0.1(94)	0.1(41)	148	14.9(135)	0.0(87)	1.1(174)	396
20	採用	58.9(36)	0.5(60)	0.0(54)	150	13.8(143)	0.0(87)	1.4(160)	390

表 8 名詞性の高い漢語動名詞

N 順位	VN	名詞テスト結果 (%)				動詞テスト結果 (%)			
		格助詞	係助詞	「用」	順位和	スル	時間	尊敬	順位和
1	練習	37.1(19)	5.2(23)	1.0(2)	44	21.1(172)	2.1(23)	0.0(54)	249
2	記録	36.9(21)	6.2(16)	0.4(12)	49	34.3(124)	0.1(130)	0.0(54)	308
3	活動	55.1(3)	5.8(21)	0.1(29)	53	6.8(198)	0.6(62)	0.0(54)	314
4	生活	49.2(7)	4.4(41)	0.6(6)	54	9.8(195)	0.0(141)	0.0(54)	390
5	連絡	36.5(24)	5.5(22)	0.3(15)	61	24.7(161)	0.1(128)	0.0(54)	350
6	電話	49.7(6)	3.7(52)	0.2(18)	76	49.6(8)	0.2(24)	3.7(60)	92
7	回答	37.8(16)	7.5(8)	0.0(55)	79	6.4(199)	2.0(24)	0.0(40)	263
8	準備	39.8(14)	6.0(18)	0.0(64)	96	17.1(184)	1.6(27)	0.0(48)	259
9	勉強	33.7(32)	6.0(19)	0.1(47)	98	40.4(102)	1.4(38)	0.0(54)	194
10	規定	55.6(2)	8.9(3)	0.0(94)	99	28.3(145)	0.3(87)	0.0(54)	286
11	分析	32.9(35)	4.3(42)	0.1(24)	101	21.0(173)	0.1(122)	0.0(51)	346
12	放送	28.6(53)	4.4(39)	0.6(9)	101	12.9(191)	1.1(42)	0.0(54)	287
13	反応	45.9(10)	11.2(1)	0.0(94)	105	20.9(174)	0.1(124)	0.0(54)	352
14	努力	54.3(4)	7.0(10)	0.0(94)	108	9.5(196)	0.1(115)	0.0(54)	365
15	意味	57.0(1)	6.6(14)	0.0(94)	109	11.4(194)	0.0(171)	0.0(54)	419
16	変化	48.7(9)	8.0(7)	0.0(94)	110	26.1(155)	0.0(142)	0.0(54)	351
17	交換	28.5(54)	4.0(45)	0.3(13)	112	28.9(143)	0.4(71)	0.0(54)	268
18	意識	51.6(5)	6.6(13)	0.0(94)	112	20.1(177)	0.0(166)	0.0(54)	397
19	評価	37.7(17)	7.3(9)	0.0(88)	114	30.1(140)	0.0(171)	0.0(41)	352
20	経験	49.2(8)	6.7(12)	0.0(94)	114	14.1(188)	0.1(111)	0.0(54)	353

表 7 と表 8 から、「確認」をはじめとする動詞性の高い語と、「練習」をはじめとする名

詞性の高い語の存在が示された。ここで注目すべき点は2つある。

1つ目は、動詞性の高い語だけが「スル」と結合するわけではないことである。BCCWJの「新聞」において、「確認する」と「練習する」の頻度を比較したところ、前者が126回であるのに対し、後者は29回であった。後者に関しても、「振り付けを練習する (PN2l_00001)」「春からずっと練習してきたプレー (PN4j_00002)」「仲間と楽しく練習している (PN3j_00012)」など、「スル」との結合はごく一般的に観察される。

2つ目は、動詞性の高い語は、名詞性の高い語に比べ、格助詞と結合して主格や目的格になる場合が少なく、また、その多様性も限定されているということである。ここで、「確認が」と「練習が」という2つの主格表現をBCCWJの「新聞」で観察したところ、前者については「確認ができる」「確認が取れる」「確認がおりた」のように、後続表現の種類はおよそ3種類程度にとどまる。一方、後者については、「練習ができる」「練習が進んでいる」「練習が始まった」「練習が続いた」などを含め、後続表現は7種類に及ぶ。

加えて、上記の結果は、本研究で採用した動詞性・名詞性判定テストの妥当性についていくつかの知見を示している。ここでは2点に注目したい。1点目について言うと、「スル」付加という観点のみに基づいて漢語動名詞の動詞性を判定するのは適切ではないということである。たとえば、「考慮」の「スル」付加の合致率は約83%で6位であるが、時間付加は0.35%で70位、尊敬付加は0%で65位となり、順位和が141となって、全体順位は17位に低下する。逆に、「確認」の「スル」付加の合致率は約66%で18位であるが、時間付加0.6%で54位、尊敬付加は1.3%で8位となり、順位和が80となって、全体順位は1に上昇する。

2点目について言うと、動詞性比率から間接的に名詞性を推定する方法には問題があることである。以下では、本研究の枠組みによって、先行研究に対してどの程度異なる結果が得られたのか検証する。表9は、本研究で得られた上位5語をサンプル語として、それらの順位が、先行研究（田辺他 2011）の動詞性判定（サ変率のみに基づく判定）および名詞性判定（動詞比率から間接的に推定した名詞比率に基づく判定）基準あればどのようになっていたかを示した結果である。

表9 本研究と先行研究の動詞性・名詞性判定基準の比較

動詞順位の変動例			名詞順位の変動例		
語	本研究の順位	サ変率に基づく 5語の順位	語	本研究の順位	推定名詞比率に基 づく5語の順位

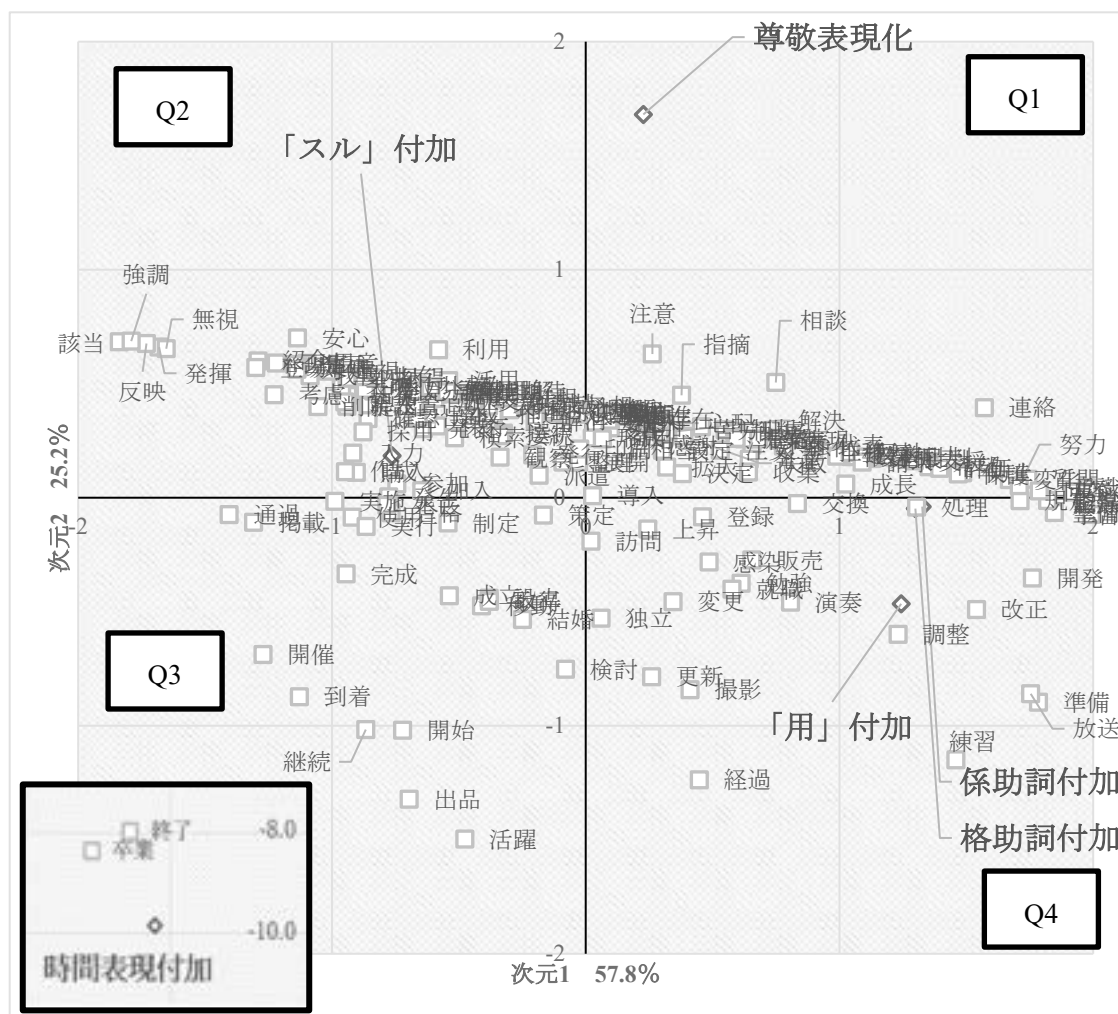
確認	1	18	練習	1	28
活躍	2	40	記録	2	12
到着	3	39	活動	3	3
検討	4	66	生活	4	1
記入	5	27	連絡	5	29

上記に示すように、従来の基準と今回の基準で、「活動」以外の個々の語の順位が大きく変動することが示された。動詞性判定については、間淵（2015）も指摘するように、サ変率だけで、動詞性（あるいは名詞性）の強さを計ることは問題が多いと言えるだろう。名詞性判定については、動詞性比率のみを直接に求め、名詞性比率はその残余とみなす間接推定法にも問題があると言えるだろう。

5.3.2 RQ2 漢語動名詞の分類と区分ごとの統語特性

200種の漢語動名詞を第1アイテム、6つの品詞用法判定基準の合致率を第2アイテムとする対応分析を実施した結果、以下のような散布図が得られた。次元1と次元2の寄与率はそれぞれ57.8%と25.2%となり、全体の約83%が説明できる。なお、時間表現付加は第3象限において他と離れた位置に布置されているため、別途記載している。

図 1 対応分析の結果



全体は、2 つの次元（軸）によって 4 つの象限にわかれる。判定基準を手掛かりに考えると、第 1 象限（Quadrant 1 : Q1）は尊敬表現化と関連が深い。尊敬表現は一般には動詞標識とされるが、「ご指摘になる」という用例に見られるように、漢語その自体を考えれば本質的には名詞的な語群であるため、動詞的性質を包含した名詞群（動詞的名詞）と言える。第 2 象限（Q2）は、「強調する」「無視する」など、「スル」付加と関連が深い。これはもっとも典型的な動詞性を持つ動詞群（動詞的動詞）と言えよう。第 3 象限（Q3）は、「進行中」「卒業後」など、時間表現付加と関連する。時間表現は一般には動詞標識とされるが、実際には、「進行」や「卒業」という内容は、話者が当該の行為の外の視点に立ち、行為を客体化して呼称しているもので、名詞的な動詞群（名詞的動詞）と言える。第 4 象限（Q4）は、「運転が」「準備は」「練習用」など、格助詞・係助詞・「用」付加と密

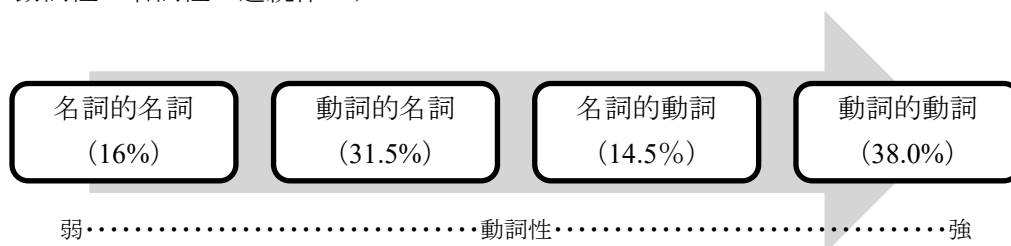
接に関連しており、典型的な名詞群（名詞的名詞）と言える。これらを本研究では、新しい動名詞の区分として提案したい。

表 10 動詞用法判定テストと名詞用法判定テストを統合した新しい品詞分類

	象限	主な統語的特性	漢語動名詞
I 名詞的 名詞	Q4	格助詞・係 助詞付加、一部は 「用」後続できる	生活、調査、電話、運転、経過、練習、準備、放送、撮影、更新、調整、独立、改正、演奏、変更、失敗、就職、勉強、開発、感染、販売、訪問、上昇、登録、学習、整備、意味、処理、交換、記録、規定、指導、活動（32 語）
II 動詞的 名詞	Q1	尊敬表現付加	注意、相談、指摘、連絡、確保、構成、対応、説明、悪化、分類、促進、支配、感謝、存在、増大、心配、安定、相当、苦勞、増加、判断、解決、配慮、失敗、形成、提案、認識、適用、充実、表現、代表、計算、強化、注文、設定、推移、反対、違反、報告、改善、工夫、批判、分析、発展、発達、支援、請求、希望、拡大、評価、収集、防止、決定、保護、質問、変化、成長、努力、意識、回答、反応、経験、導入（63 語）
III 名詞的 動詞	Q3	時間表現付加	卒業、終了、発売、入院、進行、施行、落札、活躍、出品、開始、継続、到着、検討、開催、結婚、移動、取得、設立、成立、完成、実行、制定、掲載、使用、策定、通過、合格、死亡、実施（29 語）
IV 動詞的 動詞	Q2	「スル」付加（敬語 形・可能形含む）	安心、強調、該当、反映、發揮、無視、利用、紹介、否定、用意、提示、集中、登場、対処、重視、我慢、共有、納得、把握、活用、比較、一致、表明、吸収、記載、理解、分解、発見、期待、維持、注目、提供、考慮、実現、出席、証明、所属、支給、記入、貢献、減少、設置、予想、表示、提出、削除、追加、想像、主張、指定、応援、成功、達成、推進、低下、出発、増加、解消、保存、発表、採用、選択、接続、検索、印刷、入力、発行、観察、整理、展開、作成、購入、派遣、参加、加入、発生（76 語）

以上の 4 つのタイプは、動詞性の強弱の点で、段階的な位置づけにある。4 つのタイプの関係性と、全 200 種に占める各々の比率をまとめると、以下のようになる。

図 2 動詞性・名詞性の連続体モデル



上記より、動名詞が名詞と動詞にまたがる性質を有すること、いわゆる名詞と認定されるものは 2 割未満にとどまることが確認された。以下、BCCWJ と CEJC における具体的用例を見る。(16) ～ (17) は名詞的名詞、(18) ～ (19) は動詞的名詞、(20) ～ (21) は名詞的動詞、(22) ～ (23) は動詞的動詞の実例で、用例中、当該の漢語動名詞は【】記号で示す。

- (16) 私たちの日常生活でも、先にふきんや台所スポンジ、野菜類の細菌汚染について見たように、無数ともいえる細菌類に囲まれた【生活】をしています。(BCCWJ、図書館・書籍、LB14_00044)
- (17) と相澤さん座談会でイイッティ最初の大島の【調査】を挙げていたんですけど(CEJC、会議・会合、W001_001b)
- (18) お忘れ物なさいませんようにご【注意】ください(CEJC、雑談、K012_007a)
- (19) この辺、何か郵政大臣は、文部省なり科学技術庁あたりと御【相談】になって、やるべき方向を見出すべきだと思うんですね。(BCCWJ、特定目的・国会会議録、OM21_00010)
- (20) その【卒業】後どうゆう活動されてるか(CEJC、会議・会合、T003_017)
- (21) ☆チケットは、市民会館・ぴあ・ローソン・クラモトレコードで【発売】中！(BCCWJ、特定目的・広報紙、OP77_00002)
- (22) 発生予防対策を【強調】したが、実際問題として発生を完全に予防することが困難である(BCCWJ、特定目的・白書、OW1X_00575)
- (23) ゴールデンウィークぐらいまではさ【安心】できない(CEJC、雑談、C002_008)

まず、(16) と (17) における「生活」と「調査」は、格助詞「を」をつけて、動詞「する」「挙げる」の目的語として機能しているので、もっとも典型的な名詞用法である

と言える。次に、(18) と (19) における「注意」と「相談」は、いずれも尊敬表現の中で使われていることで、動詞的性質を備えている名詞であると考えられる。(20) と (21) における「卒業」と「発売」は、時間表現である「中／後」が付加できることで、動詞性を有するが、「卒業」は「その」という連体修飾語で修飾することができることで、このような漢語動名詞は名詞性も備えていると考えられる。(22) と (23) における「強調」と「安心」は、「する」あるいは可能形である「できる」をつけて述語として機能していることで、もっとも典型的動詞用法であると言える。

こうした用例からも明らかなように、同じ漢語動名詞であっても、その用法には多様性がある。品詞特性の観点から漢語動名詞を分類することで、そうした用法理解の手掛かりが得られるであろう。

5.3.3 RQ3 漢語動名詞の区分ごとの意味特性

前節で、漢語動名詞を品詞性の観点から 4 区分に分けた。では、各グループには意味的な違いはないのであろうか。この点を確認するため、『分類語彙表』に基づき、意味の大分類・小分類で整理したところ、以下の結果を得た。なお、大分類に関して、「人間」は「人間活動・精神および行為」を、「抽象」は「抽象的關係」を、「自然」は「自然物および自然現象」を示す。小分類については上位 3 種を選び、筆者の判断で、変化・認知・活動という 3 つのレベルに区分して整理する。

表 11 品詞区分別漢語動名詞の意味分類

名詞的 <-----> 動詞的			
I 名詞的名詞	II 動詞的名詞	III 名詞的動詞	IV 動詞的動詞
大分類			
人間 (72%)	人間 (60%)	抽象 (55%)	人間 (66%)
抽象 (25%)	抽象 (38%)	人間 (41%)	抽象 (32%)
自然 (3%)	自然 (2%)	自然 (3%)	自然 (2%)
小分類 (上位 3 種、数字は順位を示す)			
レベル 1 : 変化			

1. 作用・変化 (例：働く、反応、 変える、反発、転 移)【抽象的 変化 】	1. 作用・変化 (例：働く、反応、 変える、反発、転 移)【抽象的 変化 】 3. 増減・補充 (例：増大、減少、 加熱、加える、付け る)【増減的 変化 】	1. 成立(例：完 成、熟成、仕上げ、 出来上がり、独立) 【 変化の完遂 】	φ
レベル 2：認知			
1. 学習・習慣・記 憶(例：習う、練 習、磨く、学習、独 学...)【学習的 認 知 】	2. 注意・認知・了 解(例：注意、用 心、配慮、気づき、 注目)【一般的 認 知 】	φ	1. 注意・認知・了 解(例：注意、用 心、配慮、気づき、 注目)【一般的 認 知 】
レベル 3：活動			
2. 書き(例：書 写、執筆、表記、登 録、記載)【記録の 活動 】 2. 技術・設備・修 理(例：設ける、準 備、飾る、処理、片 付ける)【整備的 活 動 】	φ	2. 動き(例：始 動、主動、駆動、運 動、波動)【一般的 活動 】 2. 行為・活動 (例：する、受け る、取り組む、振る 舞う、行動)【一般 的 活動 】	2. 見る(例：発 見、拝見、閲覧、観 察、見回す)【視覚 的 活動 】

注：例は『分類語彙表』から引用したものである。

大分類について言うと、一部のずれはあるものの、人間＞抽象＞自然というパターンは共通であるように考えられる。むしろ、重要なのは小分類である。表 11 からわかるように、上位 3 種の小分類に注目すると、I から IV へ、変化、認知、活動という 3 つのレベルにおいて意味が変化している可能性が認められる。

まず、第 1 レベルについて、グループ I では、「働く」や「変える」のような抽象的变化の含意を持つ語が多い。グループ II では、抽象的变化を含意する語のほか、「増大」や「減少」のような増減を含む変化を表す語も多い。グループ III では、「完成」や「熟成」のような変化の完遂を表す語が多い。また、グループ IV の上位 3 種の小分類には変化を表す語がないが、すでに述べたように、4 つの区分は動詞性・名詞性の強弱によって連続体モデルになることで、φ は一つ前のグループの状態が継続しているものと考えられ、グループ IV は完遂した状態の継続を含意するものと言える。実際、グループ IV では変化の完遂を含意する漢語動名詞 2 語が出現している(「作成」「設置」)。これより、I から IV へ、「一

一般的で抽象的变化→増減を含む抽象的变化→変化の完遂→(変化の完遂)」のような意味が変化している可能性があると思われる。BCCWJ におけるそれぞれの区分での漢語動名詞の具体的用例を見てみよう。なお、当該語は【】記号で示し、当該語が所属する品詞区分は[]で示す(以下同)。

- (24) 結婚で改姓のある場合は、できるだけ早く知らせてもらえるよう、社員に提示しています。ウチの場合は、社内の書類の改姓手続きだけなら、大した作業ではありませんが、給料の振込の際、本店への電算処理の依頼と、本人の口座の名義の【変更】との兼ね合いがあるので、そこだけは変更時期に注意を要します。(特定目的・知恵袋、OC11_01452) [名詞的名詞]
- (25) 業種別では、デジタル家電販売が好調を持続しているほか、アジア向け輸出の【増加】などにより自動車も堅調で、大企業の製造業を中心に収益が改善。(出版・新聞、PN4d_00029) [動詞的名詞]
- (26) このダムの工事は、地元の農夫が土を運び、あるいは鳶の仕事まで身につけて【完成】させた。大正十五(千九百二十六)年三月に起工した工事は、昭和五(千九百三十)年に【完成】した。(図書館・書籍、LBe9_00024) [名詞的動詞]
- (27) 確認事務を受託した法人は、警察署長の指示に基づき、巡回計画書を【作成】し、警察署長の認可を受けた上で、計画に従い、駐車監視員を巡回させます。(出版・書籍、PB46_00114) [動詞的動詞]

以上の用例の下線部はどれも物事の変化(またその完遂)を表している。(24)は結婚によって口座の名義を変え改めること、(25)は自動車をアジア向けの輸出の量が増えること、(26)はダムの工事の継続状態が変化し、昭和五年にそれが完了したこと、(27)は巡回計画書の作成という状況が変化し、それが完成したことをそれぞれ意味する。名詞的名詞は一般的で抽象的变化、動詞的名詞は増減を含む抽象的变化、名詞的動詞と動詞的動詞は変化の完遂を含意することがわかる。

次に、第2レベルについて、グループⅠでは、「習う」や「練習」のような学習的認知の含意を持つ語が多い。グループⅡとグループⅣでは、「注意」や「用心」のような一般的認知行為を表す語が多い。また、グループⅢはグループⅡの意味の継続であり、一般的認知行為を含意すると考えられる。実際、グループⅢでは一般的認知行為にまとめられる

「決心・解決・決定・迷い」（「制定」）や「思考・意見・疑い」（「検討」）に属する漢語動名詞も出現している。これより、ⅠからⅣへ、「学習的認知行為→一般的認知行為→（一般的認知行為）→一般的認知行為」のような意味が変化している可能性があると考えられる。

(28) 前田は家庭教師二人に来てもらって、明けても暮れても熱心にロシア語の【学習】を始めた。(特定目的・ベストセラー、OB1X_00077) [名詞的名詞]

(29) これは、談合行為を反復して行っていた事業者に対し、従業員などに、当該行為が違法であることを明白に【認識】させ、違反行為を繰り返させないようにすることを狙った措置です。(図書館・書籍、LBj3_00128) [動詞的名詞]

(30) こういうような場合には、その段階での金利や物価や交通量等の状況を適切に把握して、機構の償還状況や、国、地方の支援措置の可能性などを総合的に【検討】した上で適切に判断する、こういうことになるかと思います。「名詞的動詞」

(31) 引き落とし金融機関によって違うようです。URLより 【確認】 してみてください。(特定目的・知恵袋、OC03_00008) [動詞的動詞]

以上の用例の下線部はいずれも人間の認知行為を表している。(28) はロシア語という外国語を身に付けるための学習的認知行為、(29) は違法行為をよく知る・理解するという認知行為、(30) は様々な状況をよく調べて、それ（償還計画）がいいかどうかを考える認知行為、(31) は「引き落とし金融機関によって違う」という事実をはっきり認める行為である。これより、名詞的名詞は学習的認知行為、動詞的名詞と名詞的動詞、動詞的動詞は一般的認知行為を含意することがわかる。

最後に、第3レベルについて、グループⅠでは、「書写」や「執筆」のような記録の活動と「設ける」や「準備」のような整備的活動、すなわち、具体的で細かい作業と言える活動の含意を持つ語が多い。グループⅢでは、「する」や「取り組む」、「振る舞い」のようなより日常的で頻繁に行っている一般的活動を表す語が多い。グループⅣでは、「発見」や「観察」のような視覚的活動、つまり、人間の感覚器官が外界の物事を捉え、それが何であるかを区別する知覚的活動を表す語が多い。また、グループⅡはグループⅠの意味の継続であり、細かい作業的活動を含意すると考えられる。実際、グループⅡでは細かい作業的活動にまとめられる「扱い・操作・使用」（「適用」）や「測定・計算」（「計算」）に属

する漢語動名詞も出現している。これより、ⅠからⅣへ、「具体的で細かい作業的活動→（具体的で細かい作業的活動）→抽象的で一般的活動→知覚的活動」のような意味が変化している可能性があると考えられる。

(32) 平成十三年度の典型7公害の苦情のうち、直接処理した苦情件数について、苦情の【処理】のための防止対策の有無、防止対策を講じたものについてはその内容及び対策の実施までに要した期間をみると、次のとおりとなっている。（特定目的・白書、OW6X_00357）[名詞的名詞]

(33) 帯分数のかけ算やわり算は、帯分数を仮分数になおして、真分数と同じように【計算】します。（特定目的・教科書、OT11_00013）[動詞的名詞]

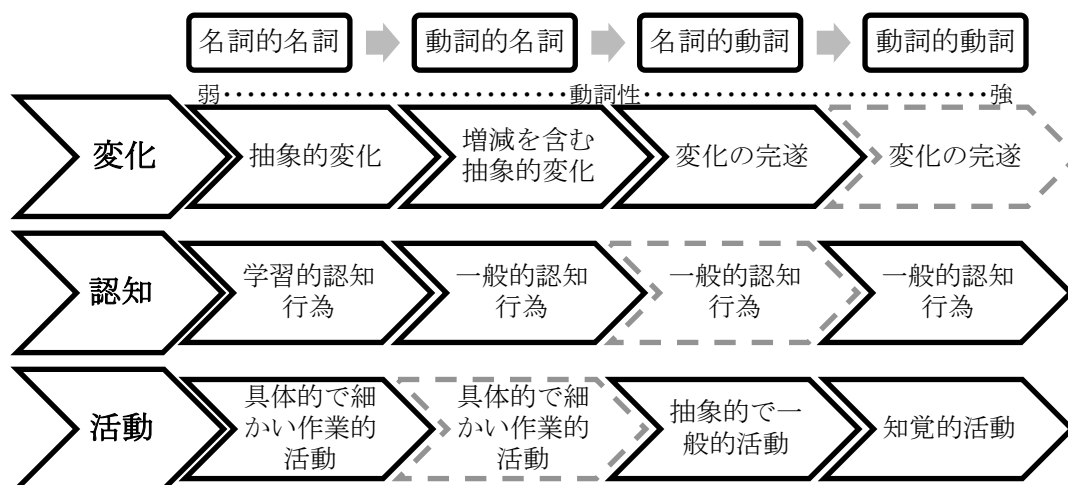
(34) 円滑な労働移動とは、失業を経ないということだけでなく、個々の能力を十分発揮できるような転職先への【移動】をも意味する。（特定目的・白書、OW5X_00176）[名詞的動詞]

(35) 同見学会では、河内浦城跡公園などを見学した後、恐竜の足跡の化石を【観察】。参加した子どもたちは、市の学芸員の説明を聞きながら、熱心に【観察】していました。（特定目的・広報紙、OP95_00001）[動詞的動詞]

以上の用例の下線部はいずれも人間の活動を含意するが、(32) はどのような対策を講じるか、どのように対策を実施するかなどの具体的な作業を通して苦情を処理する活動、(33) は帯分数を仮分数になおすという細かい作業を通して帯分数のかけ算やわり算をする活動、(34) は転職という抽象的で一般的な活動、(35) は子供たちが学芸員の説明を聞きながら、化石を理解しようと自分の目でよく見るという知覚的活動である。これより、名詞的名詞や動詞的名詞は具体的で細かい作業的活動、名詞的動詞は抽象的で一般的活動、動詞的動詞は知覚的活動を含意することがわかる。

以上より、ⅠからⅣへ、つまりは名詞性の強い漢語動名詞から動詞性の強い漢語動名詞にかけて、以下のような意味拡張のパターンが存在している可能性がある。

図 3 品詞区分別漢語動名詞の意味拡張パターン

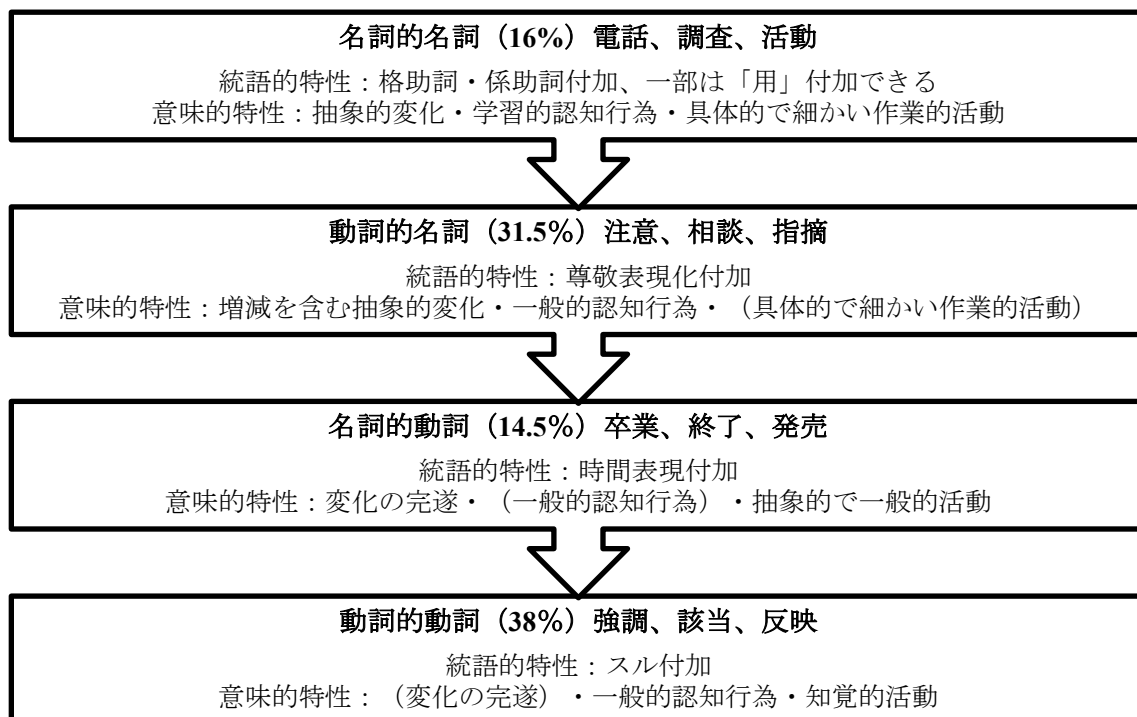


RQ3 からわかるように、各タイプの意味特性については重なりも多いものの、全体的に見れば、漢語動名詞の動詞性が高まるにつれて、典型的な意味が、変化、認知、活動の 3 つのレベルで、図 3 のような段階的に変化している可能性が示唆される。

5.4 まとめ

以上、本研究では、書き言葉・話し言葉のコーパスデータを用い、動詞性判定テストと名詞性判定テストによって、重要漢語動名詞 200 種の品詞用法別の頻度を調査した。3 つの RQ を通して、漢語動名詞が 4 群に区分されること、それらが異なる統語的・意味的特性を有する可能性が示唆された。以下は知見をまとめた図である。

図 4 名詞性・動詞性テストを統合した漢語動名詞の品詞分類の枠組み



日本語教育の観点で言えば、漢語動名詞は数も多く、体系的に教えることが難しい。しかし、本研究で得られたような分類枠を用い、グループ別の特性を理解させ、グループを代表する漢語動名詞とその用例を示すようにすれば、学習者が理解しにくい漢語動名詞の品詞用法をある程度効率的に指導できるのではないかと考えられる。

教育的援助の一例としては、本研究で得られた知見を身に着けるための学習タスクの開発が考えられる。たとえば、図2や図3を提示した上で、表10からいくつかの漢語動名詞を選択し、学習者個人で、あるいはペアによる相談で、個々の漢語動名詞がそれぞれのグループに入るかを推測させるようなタスクを行うこともできる。こうしたタスクを通して、学習者は、漢語動名詞が一つのかたまりではないこと、品詞性と意味が混ざり合う形で、いくつかの内部的なグループに分かれることを、体験的に理解することができるだろう。

しかしながら、今回の調査には課題も多く残されている。たとえば、意味タイプの判別は筆者が単独で行ったため、母語話者の協力を得て妥当性の検証を行う必要がある。また、語の造語年などを含めた調査も必要であろう。今後、調査の範囲を広げ、漢語動名詞の品詞性をさらに多角的に検討していく予定である。

第 6 章 統語論から見た漢語動名詞一連体修飾節に注目して一

6.1 はじめに

6.1.1 ねらい

第 4 章では、頻度論の観点から、重要漢語動名詞 200 語を抽出した。また、第 5 章では、品詞論の観点から、漢語動名詞の品詞性の問題を論じた。本章では、統語論に注目する。すでに、1.3.1.2 節でも触れたように、統語論に関しては、品詞性やその時代的变化、サ変動詞としての振る舞いと名詞としての振る舞いの関係性、サ変動詞形と構文形の関係性、自他特性など、多くの問題が議論されてきたが、本章は、このうち、先行研究で取り扱われることが相対的に少ない漢語動名詞を含む連体修飾節に注目し、「発展する可能性」「発展の可能性」「発展的な可能性」といったその変異形間の関係性の解明を目指す。

漢語動名詞は単独で使用するのみならず、修飾語として他の名詞と結合することで名詞節を形成する場合も多い。その際、「スル（シタ）」「ノ」「的（ナ）」を後接して動詞型・名詞型・形容詞型などの構造パターンで使用される。しかしながら、すべての漢語動名詞がすべての構造パターンで使用されるわけではない。漢語動名詞が名詞節内で使用する際に、どのような構造パターンが許容されるのか、それらの構造パターンの決定に関わる言語的要因にはどのようなものがあるのかは必ずしも明らかではない。

そこで、本章では、第 4 章で抽出した重要漢語動名詞 200 語を調査対象とし、コーパスデータを用いて、3 種の構造パターンの典型性の差を確認した後、各パターンの選択に影響する言語要因を調査する。

6.1.2 背景

奥津（1974）によると、日本語の連体修飾構造は、同一名詞連体修飾構造と付加名詞連体修飾構造の 2 種類に分類される。さらに、付加名詞連体修飾構造は、同格名詞連体修飾構造と相対名詞連体修飾構造の 2 種類に細分される。寺村（1992）で述べられている内の関係は奥津氏の同一名詞連体修飾構造に、外の関係は付加名詞連体修飾構造に相当する。以下の例を見てみよう。

- (1) 赤い花 (=花が赤い)
- (2) 椅子の前
- (3) 面接を受けた経験

(1) では、修飾語「赤い」と被修飾語「花」の間には、格関係を形成し、同一名詞連体修飾構造や内の関係連体修飾構造と呼ばれている。(2) では、被修飾語の「前」に対して、修飾語の「椅子の」が空間の基準点を示す。この場合、「前」は相対的な概念を表す相対名詞であるため、相対名詞連体修飾構造と呼ばれている。(3) では、修飾語の「面接を受けた」と被修飾語の「経験」が、意味的に同格の関係にあり、同格名詞連体修飾構造と呼ばれている。つまり、修飾語と被修飾語が同じ事柄を指している。(2) と (3) では、修飾語と被修飾語の間には格関係がなく、付加名詞連体修飾構造や外の関係連体修飾構造と呼ばれている。

論理的に言えば、漢語動名詞は名詞と動詞の両面性を持っているため、「漢語+ノ+名詞」(名詞型) と「漢語+スル・シタ+名詞」(動詞型) の 2 種類の構造で名詞を修飾し、連体修飾節となることができる。以下は、「現代日本語書き言葉均衡コーパス」(Balanced Corpus of Contemporary Written Japanese : BCCWJ) からの用例である。

- (4) むこうも準備の都合があるので、早ければ早いほどいいです。(OC11_01708, 特定目的・知恵袋)
- (5) 幾多の機会があり、それを取るために準備する時間があまりにもたくさんあるのが人生です。(OY14_29757, 特定目的・ブログ)
- (6) また、世界の各国は、何らかの形で地域の安定の維持・回復に貢献することが求められてきている。(OW4X_00315, 特定目的・白書)
- (7) 景気の波が大きく、それが人々の安定した生活を脅かすとすれば、波の振幅はできるだけ小さいことが望ましい。(PB13_00270, 出版・書籍)

上記のうち、(4) と (6) では「漢語+ノ+名詞」が選択されているが、(5) と (7) では「漢語+スル・シタ+名詞」が選択されている。

このように、漢語動名詞の多くは名詞型または動詞型の表現形をとるわけであるが、語によっては、これ以外に、「的(ナ)」の形(形容詞型)を用いることもある。「準備」と「安定」に関して BCCWJ には下記のような用例も存在する。

- (8) …私はむしろ、経済構造を推進するための、その準備的発想において補正予算を

- 組むということが一つ。(OM65_00007, 特定目的・国会会議録)
- (9) 対外的には調和のとれた国際関係を形成し、世界経済の安定的発展のために我が国にふさわしい貢献をしていくことにあります。(OM35_00005, 特定目的・国会会議録)
- (10) …各種の施策を組み合わせまして養鶏業の安定的な発展を図ってまいりたいと考えておるわけでございます。(OM21_00010, 特定目的・国会会議録)
- (11) 逆に、水の信号が安定な条件の場合には、トラックが水になってしまうというわけである。(PB15_00437, 出版・書籍)

上記の用例から見ると、「準備」と「安定」は、「漢語+的・的ナ・ナ+名詞」(形容詞型)の構造においても名詞が修飾されることがわかった。

以上より、漢語動名詞は、連体修飾節内で名詞を修飾する際に、動詞型、名詞型、形容詞型という 3 種類の構造パターンが可能であることが確認された。しかしながら、漢語動名詞は必ずしも常に 3 つの構造パターンで使用されるわけではない。たとえば、BCCWJにおいて、「準備」は例(8)に見られるように「準備的」の形として使用されることがあるが、「準備的な」や「準備な」といった用例は確認されなかった。

こうした漢語動名詞を含む連体修飾節の用法は、日本語教育の観点からも、重要なトピックとなる。実際、中国語を母語とする日本語学習者(L1 Chinese Learners of Japanese: CLJ)にとって、漢語動名詞の連体修飾節の習得は必ずしも容易ではない。以下は「多言語母語の日本語学習者横断コーパス」(International Corpus of Japanese as a Second Language: I-JAS)からのCLJと日本人母語話者(Japanese Native Speaker: 以下、JNS)の用例である。

- (12) 公園に着いたあと、朝準備の食べ物を食べるつもり時… (CCT22-SW1)
- (13) その中に、せっかく準備の食べ物は全部食べられました。(CCT22-SW1)
- (14) お昼の時間になり、朝二人で準備したサンドイッチを食べようと… (JJJ05-SW1)

上記の 3 つの用例から見ると、同じ意味であっても、CLJは「ノ」を選択している(例(12)と(13))のに対し、JNSは「スル」を選択している(例(14))。実際に、BCCWJを調査すると、「準備」が「漢語 VN ノ N」の構造として使われる例は少なくない

が、Nには、事柄の構成部分（「段階」「一環」など）・状況の変化（「急増」「減少」など）などを表す名詞が多いのに対して、具体的な事物（「食べ物」「資料」など）がほとんどない。すなわち、「準備」は「漢語 VN ノ N」の構造で連体修飾語として使われる場合、修飾される名詞の性質や特徴を規定することができない。しかし、中国語は語形変化がないため、名詞・動詞・形容詞を問わず、連体修飾の場合には一括して“的”が使われる。CLJの漢語動名詞の連体修飾用法には誤用が多いのは、母語干渉によるのではないかと考えられる。

上記をふまえると、漢語動名詞では、語によって、異なる名詞修飾構造パターンを選択する可能性が存在し、CLJは母語からの干渉によって誤用を生じやすいことがわかった。したがって、本章では、コーパスデータを用い、動詞型（「漢語+スル・シタ+名詞」）、名詞型（「漢語+ノ+名詞」）、形容詞型（「漢語+的・的ナ・ナ+名詞」）という3種の構造パターンの典型性を調査した上で、構造パターンの選択に影響を及ぼす要因を探索する。

6.2 リサーチデザインと手法

6.2.1 研究目的と RQ

すでに述べたように、漢語動名詞が連体修飾節内で何らかの名詞を修飾する場合、動詞型・名詞型・形容詞型の3つの構造パターンが存在するが、その典型性や、各パターンの選択要因は従来必ずしも明らかにされていない。本研究では、BCCWJのデータを用い、これらの解明を目指す。この目的を踏まえ、以下の2つのリサーチクエスチョンを設定した。なお、本研究では、後述するように、いわゆる典型性を許容度と占有比の2つの観点で定義する。

RQ1 動詞型・名詞型・形容詞型の各構造パターンの典型性（許容度・占有比）にはどのような違いがあるか？（3種の構造パターンの典型性）

RQ2 個々の構造パターンはどのような形態的・意味的特性を持つか？（3種の構造パターンの意味特性）

RQ2 個々の構造パターンの出現に影響する言語特性としてどのようなものがあるか？（言語特性による構造パターンの選択）

6.2.2 データ

本研究では、日本語コーパスとして前述の BCCWJ と CEJC を、中国語コーパスとして LCMC を使用する。BCCWJ と CEJC のデータはコーパス検索アプリケーション『中納言』を利用して検索し、LCMC は、CQPweb (Corpus Query Processor) というオンラインのシステムで利用して検索する。

6.2.3 手法

本節では、まず、漢語動名詞を含む各タイプの構造パターンの抽出手法について紹介する。本研究では、コーパス検索アプリケーション『中納言』を利用して、BCCWJ から重要漢語動名詞 200 種の 3 型の名詞節構造パターンを抽出して分析する。なお、キーを漢語動名詞に設定する場合、「再利用すること」や「住所確認のため」などのような、接頭辞が付くものや複合名詞の用例を抽出する可能性もある。本研究では、漢語動名詞そのものの用法について分析するため、これらの用例を対象外とする。抽出の詳細は表 2 のように示す。

表 1 名詞節構造パターンの抽出

構造パターン	検索条件及び抽出例
漢語スル・シタ+名詞	【漢語スル+名詞】 前方共起 1：キーから 1 語 品詞の大分類が「助詞」 キー：語彙素が「利用 実施 使用...」 後方共起 1：キーから 1 語 語彙素が「為る」AND 活用形の大分類が「連体形」 後方共起 2：キーから 2 語 語彙素が品詞の大分類が「名詞」 抽出例：「(ノンフィクションを) 利用する場合」 【漢語シタ+名詞】 前方共起 1：キーから 1 語 品詞の大分類が「助詞」 キー：語彙素が「利用 実施 使用...」 後方共起 1：キーから 1 語 語彙素が「為る」AND 活用形の大分類が「連用形」

	後方共起 2：キーから 2 語 活用型の小分類が「助動詞-タ」 AND 活用形の小分類が「連体形-一般」 後方共起 3：キーから 3 語 品詞の大分類が「名詞」 抽出例：「(サービスを) 利用したとき」
漢語ノ+名詞	前方共起 1：キーから 1 語 品詞の大分類が「助詞」 キー：語彙素が「利用 実施 使用...」 後方共起 1：キーから 1 語 品詞の大分類が「助詞」 AND 語彙素が「の」 後方共起 2：キーから 2 語 品詞の大分類が「名詞」 抽出例：「(社内食堂の) 利用の仕方」
漢語的・的ナ・ナ+名詞	【漢語的+名詞】 前方共起 1：キーから 1 語 品詞の大分類が「助詞」 キー：語彙素が「利用 実施 使用...」 後方共起 1：語彙素が「的」 後方共起 2：品詞の大分類が「名詞」 抽出例：「(世界経済の) 安定的発展」 【漢語的ナ+名詞】 前方共起 1：キーから 1 語 品詞の大分類が「助詞」 キー：語彙素が「利用 実施 使用...」 後方共起 1：語彙素が「的」 後方共起 2：書字形出現形が「な」 後方共起 3：品詞の大分類が「名詞」 抽出例：「(経済の) 安定的な運営」 【漢語ナ+名詞】 前方共起 1：キーから 1 語 品詞の大分類が「助詞」 キー：語彙素が「利用 実施 使用...」 後方共起 1：書字形出現形が「な」 後方共起 2：品詞の大分類が「名詞」 抽出例：「(化学平衡の) 安定な状態」

次に、RQ 順に研究手法を具体的に述べる。

RQ1 (3 種の構造パターンの典型性) では、すでに述べたように、許容度と占有比とい

う 2 つの側面から、3 種の名詞節構造パターンの典型性を判断する。まず、許容度については、重要漢語動名詞 200 種の中、動詞型・名詞型・形容詞型、それぞれ当該タイプを取りうる語種の比率を調査する。たとえば、200 種の漢語動名詞のうち、200 種が「漢語スル・シカ+名詞」の動詞型構造パターンで使用されるため、動詞型の許容度は 100%ということになる。

次に、占有比については、3 タイプの構造パターンの後接要素それぞれの出現頻度を調査し、総頻度における占有比を、いずれかの型の総出現頻度を 3 タイプ全体の総出現頻度で割ることで計算する（例：動詞型の占有比＝「漢語スル・シタ+名詞」の出現頻度/（「漢語スル・シタ+名詞」の出現頻度+「漢語ノ+名詞」の出現頻度+「漢語的・的ナ・ナ」の出現頻度））。

RQ2（3 種の構造パターンの意味的特性）では、まず、それぞれの型ごとに高頻度で共起する被修飾名詞上位 20 語をリストアップし、その意味特性を質的に観察する。ただし、形容詞型については、「的」「的ナ」「ナ」という 3 つの後接要素がありうるため、これらを区別して同様の調査を行う。

RQ3（言語特性による構造パターンの選択）では、3 種の構造パターンの占有比を目的変数とし、どのような説明変数が目的変数に影響を及ぼしているについて重回帰分析を用いて各型の言語要因を検討する。説明変数について、本研究では言語要因を幅広く考察するため、12 観点から全 30 種の変数を収集し、表 3 で示す。

表 3 説明変数

変数性質	説明変数	詳細
量的変数	書き言葉頻度	個々の漢語動名詞について BCCWJ の各変種での平均頻度
	話し言葉頻度	個々の漢語動名詞について CEJC での各変種での平均頻度
	中国語頻度	中国語書き言葉コーパス LCMC での出現頻度を調査し、PMW に調整する。
	メディアジャンル頻度	個々の漢語動名詞について、BCCWJ 内の 13 ジャンル中、メディア性が強い「新聞」「雑誌」という 2 ジャンルにおける出現頻度を調査する。
	文書ジャンル頻度	個々の漢語動名詞について、BCCWJ 内の 13 ジャンル中、政治・社会に関する公的な文書である「白書」「法律」「国会会

		議録」という 3 ジャンルにおける出現頻度を調査する。
	カジュアルジャンル の頻度	個々の漢語動名詞について、BCCWJ 内の 13 ジャンル中、カジュアル性が強い「ブログ」「知恵袋」という 2 ジャンルにおける出現頻度を調査する。
	語義数	個々の漢語動名詞について、『新明解』『大辞林』『岩波国語辞典』における語義数を調査して、平均値を求める。
ダミー 変数	意味分類	個々の漢語動名詞について、『分類語彙表』に準じて語義分類を調査する。「抽象的關係」「精神および行為」「生産物および用具」「自然物および自然現象」の 4 カテゴリーごとに合致の有無をコード化する。
	自他性	個々の漢語動名詞について、上述の 3 つの辞書における自他性を調査し、2 種以上に出現する品詞性を用いる。「自動詞」と「他動詞」の 2 つのカテゴリーごとに合致の有無をコード化する。
	語構成要素の 品詞性	個々の漢語動名詞について、漢語を構成する 2 つの漢字の品詞性を調査する。「動詞・動詞 (VV)」「動詞・接尾辞 (Vs)」「動詞・名詞 (VN)」「動詞・形容詞 (VA)」「接頭辞・動詞 (sV)」「名詞・動詞 (NV)」「名詞・名詞 (NN)」「副詞・動詞 (MV)」「形容詞・動詞 (AV)」「形容詞・名詞 (AN)」の 10 カテゴリーごとに合致の有無をコード化する。
	品詞性	個々の漢語動名詞について「名詞的名詞」「動詞的動詞」の 2 つのカテゴリーごとに合致の有無をコード化する。
	中国語品詞性	個々の漢語動名詞について、『現代漢語詞典』(第 7 版)に基づき、中国語における対応する語の品詞性を調査する。「名詞」「動詞」「形容詞」「副詞」「介詞(動作の時間・場所・原因・対象などの意味関係を表す品詞)」の 5 つのカテゴリーごとに合致の有無をコード化する。

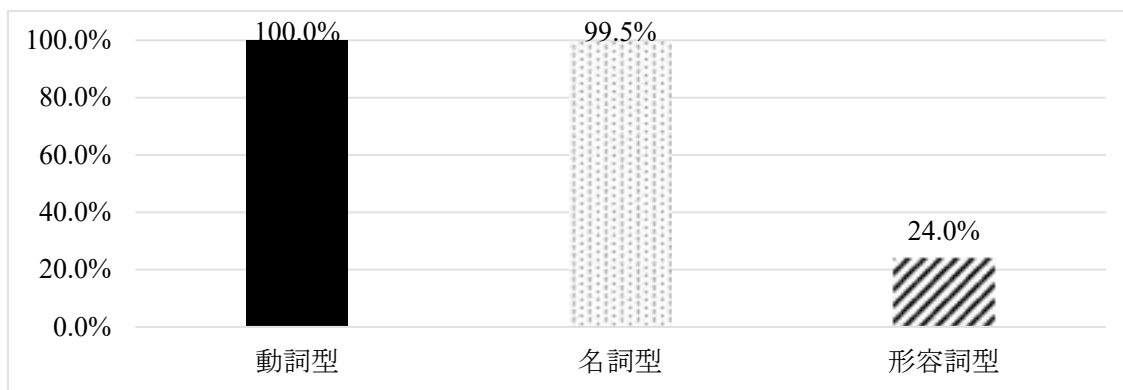
6.3 結果と考察

6.3.1 RQ1 3種の構造パターンの典型性

本節では、3種の構造パターンの典型性を許容度（当該形で出現するか否か）と占有比（頻度の上で全体のどれだけを占めるか）の2つの観点から確認していく。

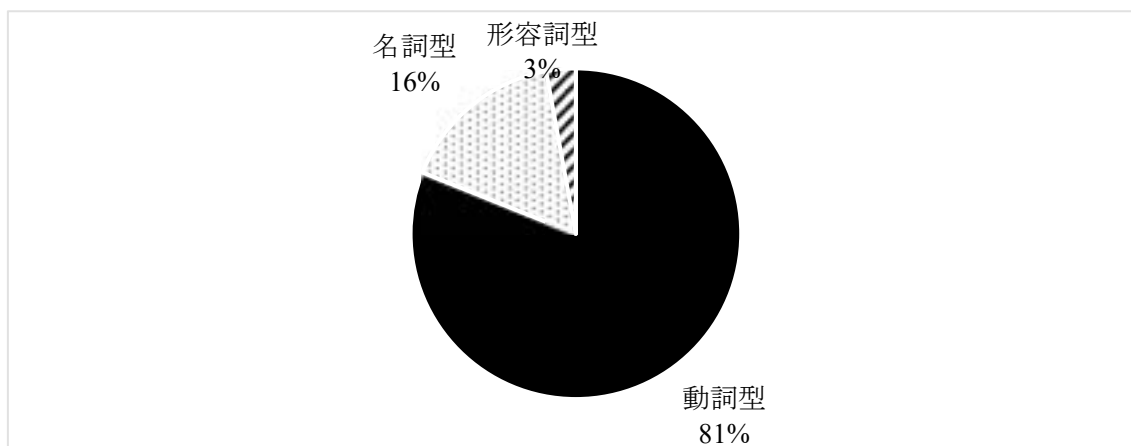
まず、重要漢語動名詞 200 種の中の各々について、BCCWJ で、動詞型・名詞型・形容詞型で 1 回以上使われているかどうかを確認した。その結果、200 種中、各タイプで使われる語種の比率（許容度）は図 1 のようになった。

図 1 各タイプの許容度



次に、200 種の語の総出現頻度（147,855 回）に占める各タイプの占有比を調べたところ、図 2 のようになった。

図 2 各タイプの占有比



動詞型・名詞型・形容詞型という3種の構造パターンの典型性に関して、図1と図2を確認すると、許容度・占有比をあわせた典型性の点で、動詞型は高く、名詞型が中程度で、形容詞型は低いことが示された。これらの3点について以下詳しく見ていこう。

まず、1点目として、動詞型に注目する。動詞型は200種の漢語動名詞のすべてにおいて1回以上確認された。また、頻度に基づく占有比を見ても、全体の81%と圧倒的に多い。このことは、漢語動名詞が、統語上動詞と名詞の両方の性質を持っているとされるものの、その本質がむしろ動詞にあることを強く示していると言えるだろう。影山(1980、1993)も言うように、漢語動名詞は形態的には名詞であるものの、機能的には動詞と同価であり、今回の結果は修飾構造の点で漢語動名詞がすぐれて動詞的であることを傍証する。

2点目として、名詞型に注目する。漢語動名詞200種中、「重視」と「無視」を除く198種で名詞型が1回以上確認されたことに示されるように、名詞型の許容度は高い。しかし、占有比に注目すると、その比率は16%であり、動詞型の約4分の1程度にとどまっている。これらをあわせて考えれば、名詞型の典型性は、動詞型よりかなり劣るというべきであろう。すでに述べたように、漢語動名詞の本質が動詞であり、名詞として使用することは、不可能ではないとしても、必ずしもその本質的な用法ではないことが示唆された。

最後に、3点目としては形容詞に注目しよう。形容詞型の許容度は、他の2種と異なり、24%ときわめて低い。また、占有比では全体のわずか3%にとどまっている。これらをあわせて考えると、3つの構造パターンのうち、形容詞型の典型性は著しく低いというべきであろう。これは、漢語動名詞が動詞または名詞の特性をもつ(影山1993;小林2004)ことの自然な結果であると考えられる。

ここで注目すべきは、頻度は多くはないものの、形容詞型を許容する漢語動名詞が200語中、2割程度存在したことである。以下はその例である。

表4 200種中形容詞型を許容する漢語動名詞(39語)

比較、代表、安定、決定、継続、批判、否定、心配、相当、追加、安心、指導、支配、集中、意識、選択、経験、記録、分析、発達、活動、独立、発展、経過、保存、希望、意味、想像、調整、準備、解消、努力、交換、構成、反対、保護、共有、説明、促進

上記を概観すると、漢語動名詞の中でも、瞬間的・具体的な動作よりも抽象的またはより長期間にわたる動作・状態に関連するもの(「比較」「安定」「継続」「意識」「発展」など)、評価的な意味を持つもの(「批判」「否定」「支配」「促進」「選択」など)が、形容詞

型をとれるのではないかと考えられる。そもそも、「形容詞+名詞」という結合において、形容詞は名詞のありようを修飾・説明する働きを担う。このとき、形容詞には安定的な意味状態が求められる。その都度目まぐるしく変化するものであれば説明には使いにくい。このことから、形容詞型をとる漢語動名詞が、瞬時に動く具体的・動作的な語ではなく、長期間にわたって持続するような含意を持つ語になりがちであると考えられることができるだろう。

6.3.2 RQ2 3種の構造パターンの意味特性

上記で、3種の構造パターンの典型性に大きな違いが存在することが示唆された。では、それぞれの意味特性にはどのような違いが存在するのであろうか。以下、パターン別に概観していく。

6.3.2.1 動詞型の意味特性

まず、動詞型構造パターンに高頻度で共起する被修飾名詞上位20語をリストアップした結果、表5のように示す。

表5 動詞型構造パターンに高頻度で共起する名詞（共起頻度を1万語あたり調整済み）

順位	名詞	調整頻度	順位	名詞	調整頻度
1	事	2081.92	11	上	90.28
2	為	906.67	12	後	77.51
3	物	518.12	13	際	76.01
4	場合	369.78	14	訳	74.76
5	時	321.39	15	方法	70.58
6	必要	170.20	16	他	46.97
7	者	148.43	17	法律	45.80
8	人	126.99	18	結果	38.05
9	方	103.87	19	日	37.21
10	所	98.20	20	前	35.54

上表をふまえ、4つの点を指摘したい。1点目は、20語中15語が一文字の名詞になっているということである。これは、一文字名詞が名詞型では20語中11語、形容詞型では20

語中 3 語であることと比べると、圧倒的に高い比率になっている。影山（1993）や肥爪（2017）が指摘するように、二文字以上の名詞が具体的で限定的な意味を持つのに対し、一文字名詞は、しばしば、意味が抽象的で希薄であるとされる。今回の場合で言うと、上位語である「事」「為」「物」「時」「者」などはいずれもこれに該当する。つまり、動詞型の構造パターンは頻度としては多いものの、その大半は、緊密な修飾構造を形成する名詞句ではないことが確認された。このことは、漢語動名詞を含む名詞修飾構造の多くが典型的な名詞句とは少し異なる働きをしている可能性があることが示された。

2 点目は、1 点目とも関連するが、上記の一文字名詞の中には、「事」や「物」といった形式名詞、また、「前」や「後」といった相对名詞が多いということである。それらは、具体的な意味を示すというよりも、文法的・機能語的なものと言える。ここで、それぞれの名詞タイプについての定義と範囲を確認しておこう。

まず、形式名詞については、以下のような定義と分類がなされている。

表 6 形式名詞の定義と範囲

出典	定義	範囲
松下 (1928)	形式名詞は形式的意義ばかりで実質的意義の欠けている概念をあらわす名詞である。形式名詞は実質的意義を控除して形式的意義だけを表すものであるから、実際に説話の中に用いる場合には他語を以て其の控除した実質的意義を補充しなければ意義が具備しない。	第一種：（事物の類を示す形式名詞）もの、こと、の、譯、筈、かた 第二種：（名詞と並列的に用いる形式名詞）：など、なぞ、なんど、なんか、等
佐久間 (1940)	先行する句または節を受け得るものを「吸着語」と呼び、それらのうち、名詞的なものを形式名詞としている。	【人・物】ひと、かた、ぶん 【事柄】こと、よし、むね 【様子・有り様】ふう、なり、ざま、とおり 【程度】ほど、くらい、だけ、ばかり 【理由・所存】わけ、はず、つもり 【時】とき、おり、あいだ、節、ついで 【場所】ところ、うしろ、あたり
小池他 (1997)	名詞の中の一つ。形式体言とも呼ばれる。自立語でありながらその意味内容が抽象的で実質的意味に乏しく、独立して出現することが形式名詞とは何かなく、常に修飾語を伴う。類似の語に準体言・不完全名詞・吸着語	ひと、もの、こと、ところ、はず、ついで、つもり、ため、くせ、あいだ、ゆえ、かぎり、あまり、件、都度、途端

	がある。これに対し実質的意味を持つものを実質名詞という。	
佐藤他 (2014)	名詞の分類の一つ。実質的意味をもたず、具体的な内容を補う成分を伴って用いられる語をいう。	ところ、こと、ため、とき、もの、はず、まま

続いて、形式名詞については、以下のような定義と分類がなされている。

表 7 相対名詞の定義と範囲

出典	定義	範囲
松下 (1930)	他物に対して相関係してのみ具備的に考えられ、単独に考えては意味の具備しない概念を表す語である。	上、下、前、後、向こう、手前、そば、外、隙間、親、
寺村 (1980)	被修飾名詞にたちうる名詞は相対的な概念を表す名詞。	空間・時間的な相対性をもつもの：上、下、前、後、翌日、前日、帰り、隣り、背後、中、反面、一方 因果関係を表すもの：原因、結果、報酬、罰、跡、傷アト、惰性、残り、オツリ、拍子、勢い(原文ママ)、酬イ、タタリ
加藤 (2014)	名詞の中で相対的な意味を表すもの。基準に対して相対的な意味関係を構成することがきる。	時間：先、前、後 空間：先、前、後ろ、上、下、東、西、南、北、右、左 その他：部下、兄、昨日、明日

以上をふまえると、まず、形式名詞に関して、松下（1928）の定義によると今回の全 20 例の 25%が、小池他（1997）および佐藤他（2014）の定義によると 30%が、佐久間（1940）の定義によると 35%の名詞が形式名詞にあたると思われる。

また、相対名詞に関して、松下（1930）、寺村（1980）および加藤（2014）の定義によると今回の全 20 例の 15%が相対名詞にあたると思われる。

以上の二種を合計すると、20 語中、意味の希薄な形式名詞、および相対的概念を表す相対名詞の占有率は 40%～50%に達する。以下の形式名詞と相対名詞を含む用例を見てみよう。なお、連体修飾構造は下線で、被修飾名詞は【】記号で示す。

(15) ある学生が、二年間続けて私のゼミに参加した【こと】がある。(LBs3_00024、図書館・書籍)

(16) 二人は怒声をあげていたのでサイレンの音に気づかなかったが、消防隊員が到着し

た【ところ】だった。(LBq9_00054、図書館・書籍)

- (17) 起業家が会社を設立する【前】の研究段階から、投資を受けることができます。

(LBm3_00143、図書館・書籍)

形式名詞が被修飾語として修飾される場合、具体的な意味を持つ名詞句を形成するよりも、むしろ文法的な機能を果たすことが多い。たとえば、(15)では、「(ゼミに) 参加したこと (がある)」は、ゼミに参加したという過去の経験を伝えるために文法的に要請された構造形であり、「こと」の部分が独自の意味を担っているわけではない。(16)では、「(消防隊員が) 到着したところ」は、消防隊員が到着したという出来事がちょうど完了したばかりであることを表すために要請された文法的な構造形であり、「ところ」が明確な場所を表す働きを担っているわけではない。また、相対名詞が被修飾語として修飾される場合、前の連体修飾部分がある時点や地点の基準点を示す。たとえば、(17)では、「会社を設立する前」となるが、このとき、「前」は何らかの明確な時点を示しているのではなく、基準点となる「会社を設立する」時点との関係性を示しているに過ぎない、独自の意味はやはり希薄である。

3 点目は、動詞型に共起する二文字以上の名詞の中にも、「場合」「結果」「方法」「必要」などのように、動詞型と結合することで機能的な表現となる名詞が多いということである。以下の用例を見てみよう。

- (18) その結果付属中学の人気も下降し、早い話、「御三家」と慶応附属の両方に合格した【場合】、これまでなら慶応を選んでいた親が、「御三家」の方を選ぶのではないかと、というおそれが生じる。(LBc9_00139、図書館・書籍)

- (19) 柳田が昭和五年に指摘した「食物の個人的自由」は、いわば時代を先取りしたものであり、食物の個人的自由が柳田の予想をはるかにこえた形で進行した【結果】、家族のあり方にさまざまな波紋を投げかけている。(LBj3_00121、図書館・書籍)

- (20) これら佚書は、存在しないのであるから、それに基づいて上代の国語を、言語を調べるといふ訳にはいかないのは当然であるが、当時の人々の言語活動という点からは、更に完璧な書目リストを作成する【必要】がある。(LBb8_00007、図書館・書籍)

- (21) こういったようなことから、前からの高潮やそういったものと、後ろからの洪水を

両方同時に解決する【方法】として、あの干拓堤防しかないんだ、こういうような結論に達したと聞いております。(OM64_00001、特定目的・国会会議録)

(18) では、「場合」は、特定のケースにはっきり言及するものというよりも、「～した場合」という決まり文句で、ある種の条件節の標識になっている。(19) では、「～した結果」という前節内容の結果や結論を表す決まり文句の一部として使われる。(20) では、「～する必要」は、前に来る動詞に依存し、何か達成するために避けられないことを示している。具体的な行為を説明するというよりも、その行為が行われるべき理由や必要性を強調するために使われる。(21) では、「～する方法」は、行為の内容を説明するというよりも、手段を提示するための標識として機能している。

なお、上記の例から考えると、動詞型の連体修飾構造において、形式名詞や相対名詞、または動詞型と結合することで機能的な表現となる名詞が被修飾語として用いられる場合、いずれも格関係が成立せず、6.1.2 節で概観した枠組みに基づくと、寺村(1993)の言う「外の関係」連体修飾構造になると言える。なお、(16) については、「ところ」に形容詞が付いている場合は格関係を仮定することができるが、形容詞をも伴わない「ところ」だけでは、格関係を認めることは難しいであろう。動詞型が漢語動名詞を含む連体修飾構造パターンの大半を占める点をふまえれば、当該構造の修飾構造は主として「外の関係」であると言えるだろう。石(2022)は、「VN ノ N (いわゆる名詞型)」を取り上げ、その構造の 9 割以上が「外の関係」であると指摘している。しかし、今回の結果は、動詞型であっても「外の関係」が中心となることを示したと言える。

最後に、4 点目は、動詞型のパターンが、新情報を含む主要部が後ろに置かれるという日本語全体の特徴(正宗 2003)に合致していないということである。たとえば、「私が書いた本」「赤い花」等であれば、いずれも後半部にウェイトがある。実際、前半部を除いても文構造の上では成り立つ(たとえば、「私が書いた本が売れた」→「本が売れた」、「赤い花を見た」→「花を見た」)。しかし、今回の場合では、たとえば、(15) の「私のゼミに参加したことがある」の場合、前の修飾節を除くと「ことがある」だけでは文として成立しない。(16) の「消防隊員が到着したところだった」の場合、修飾節を除くと「ところだった」では成立しない。このことも、以上の 3 点と同様、被修飾部の意味の希薄性を示す。

以上の 4 点から、動詞型の構造パターンにおける大部分の被修飾名詞が実質的な意味を

持たず、形式化された名詞が多いことが明らかになった。日本語の連体修飾節では、実質的な意味を持つ名詞が被修飾語として用いられる場合、名詞句を構成する役割を果たすが、一方で、形式化された被修飾名詞は多様な文法的機能を担って使用されるという特徴がある（中島 2014）。これにより、漢語動名詞を含む動詞型修飾構造パターンは、典型的な名詞句を構成して文中で主語や目的語の役割を果たすよりも、主として文法的な機能を担うのではないかと考えられる。

6.3.2.2 名詞型の意味特性

次に、名詞型構造パターンに高頻度で共起する被修飾名詞上位 20 語をリストアップした結果、表 8 のように示す。

表 8 名詞型構造パターンに高頻度で共起する名詞（共起頻度を 1 万語あたり調整済み）

順位	名詞	調整頻度	順位	名詞	調整頻度
1	為	951.90	11	促進	107.83
2	中	418.25	12	対象	105.72
3	上	236.71	13	方	100.24
4	適用	233.76	14	結果	95.61
5	仕方	231.66	15	問題	94.35
6	下	160.90	16	気持ち	84.66
7	際	157.95	17	方法	80.03
8	日	151.63	18	事	74.55
9	時	127.62	19	方向	67.81
10	場	111.20	20	他	59.39

上表から気づく点は 3 つある。1 点目は、20 語中 11 語が一文字名詞であるということである。これは、動詞型よりやや少ないものの、形容詞型と比べると高い比率になっていると言える。また、上位 3 種（「為」「中」「下」）はいずれも意味が抽象的で希薄な一文字名詞である。これにより、名詞型の大半が典型的な名詞句も形成していないことが明らかになった。名詞型の構造パターンの頻度は動詞型に次いで多いが、多くの漢語動名詞を含む名詞修飾構造パターンは名詞句としての機能を果たしていないことが改めて確認された。

次に、2 点目としては、上記の一文字の名詞中には、形式名詞や相対名詞が多いという

ことである。すでに述べたように、それらの名詞は、具体的な意味を示すというよりも、文法的・機能語的なものと言える。ここで、表 6 と表 7 を参照して、それぞれの占有率を確認しておこう。

まず、形式名詞に関して、松下（1928）および小池他（1997）およびの定義によると今回の全 20 例の 10%が、佐久間（1940）および佐藤他（2014）の定義によると 15%が形式名詞にあたると思われる。

また、相対名詞に関して、松下（1930）および加藤（2014）の定義によると今回の全 20 例の 10%、寺村（1980）の定義によると 15%が相対名詞にあたると思われる。

以上の二種を合計すると、20 語中、意味の希薄な形式名詞、および相対的概念を表す相対名詞の占有率は 20%～30%に達する。動詞型に比べて少ないものの、形式名詞や相対名詞を修飾することが、名詞型の構造パターンの特徴であると言えるだろう。

以下の形式名詞と相対名詞を含む用例を見てみよう。なお、連体修飾構造は下線で、被修飾名詞は【】記号で示す。

- (22) 当時は、国務省からコーネル、イエールなどの大学に、東南アジア諸言語の学習の
【ため】、委託学生として常に何人かを送り込んでいたのだ。(LBb2_00026、図書館・書籍)
- (23) 恋愛の相談の【時】、妙に人間の本性が出る気がしませんか？（OC09_06992、特定目的・知恵袋）
- (24) では、医師と相談の【上】、本人に知らせるという方向を取ることに意思がまとまった。(LBn9_00065、図書館・書籍)

(22) では、「東南アジア諸言語の学習のため」が、学生を東南アジアの大学に送り込んだという目的を提示するために文法的に要請された構造形であり、「ため」の部分が独自の意味を担っているわけではない。(23) では、「恋愛の相談の時」は、恋愛の相談という状況が進行していることを提示するために文法的に要請された構造形であり、「時」は明確な時点を表す働きを担っているわけではない。(24) では、「医師と相談の上」となるが、このとき、「上」は何らかの明確な位置や時点を示しているのではなく、基準点となる「医師と相談」という状況との関係性を示しているに過ぎない、独自の意味はやはり希薄である。

最後に、3 点目は、名詞型に共起する二文字以上の名詞の中にも、「適用」「仕方」「促進」「対象」などのように、それ自身の意味が希薄で、修飾要素がなければ単独では実質的な意味を持たないものが多いということである。以下の用例を見てみよう。

- (25) その本邦外の地域に在った期間は、前項の規定の【適用】については、本邦に在留した期間とみなす。(OL3X_00003、特定目的・法律)
- (26) 人の成長の【仕方】を知っていれば、これは当たり前のことです。(LBk4_00036、図書館・書籍)
- (27) 次に、特定商業集積の整備の【促進】に関する特別措置法案につきまして御説明申し上げます。(OM45_00006、特定目的・国会会議録)
- (28) 彼らの保護の【対象】となっていることに感動していた。(PB19_00036、出版・書籍)

(25) では、「適用」は、適用される対象が明確に示されていなく、前に「前項の規定の」がなければ、具体的にどの規定が適用されるのかが欠けており、文の意味が不明確になる。(26) では、「仕方」は、何の方法やプロセスを指しているわけではなく、前に「人の成長の」がなければ、具体的に何の方法について話しているのかが不明確になり、文の意味が成立しにくくなる。(27) では、「促進」だけでは意味が十分に成立しなく、前に「特定商業集積の整備の」がなければ、具体的に何を進めるのかが不明確になり、文全体としての意味が不完全となる。(28) では、「対象」は、何の対象であるかを明確にするために、その前に具体的な修飾語が必要であり、「彼らの保護の」がなければ、文の意味が不明確になる。

すでに述べたように、漢語動名詞を含む名詞修飾構造では、「外の関係」が多く見られる動詞型が大多数を占めていることから、漢語動名詞を含む連体修飾構造全体においても、「外の関係」が優勢であると推測される。名詞型の用例を検討したところ、(28)を除くすべてが「外の関係」に該当することが確認された。この結果は、石(2022)の調査で示された、漢語動名詞を含む「VN / N」構造の 9 割以上が「外の関係」であることを改めて裏付けるものである。

以上の 3 点から、名詞型の構造パターンは動詞型とほぼ同様の意味的特性を持っており、被修飾名詞の多くが実質的な意味を持たず、形式化された名詞が多いことが明らかになっ

た。これにより、漢語動名詞を含む名詞型修飾構造パターンも、主に文法的な機能を担う可能性が高いと考えられる。また、名詞型の構造パターンについても、新しい情報を含む主要部が後ろに置かれるのではなく、前にある修飾語に重心が置かれることが確認された。

6.3.2.3 形容詞型の意味特性

最後に、全体に占める数や比率は低いが、形容詞型構造パターンに注目し、高頻度で共起する被修飾名詞上位 20 語をリストアップした。結果を表 9 のように示す。

表 9 形容詞型構造パターンに高頻度で共起する名詞（共起頻度を 1 万語あたり調整済み）

順位	名詞	調整頻度	順位	名詞	調整頻度
1	物	739.70	11	存在	70.22
2	供給	166.20	12	地位	67.88
3	役割	156.84	13	見解	60.86
4	事	138.11	14	自由	58.52
5	影響	124.06	15	例	56.18
6	発展	124.06	16	観測	51.50
7	違い	119.38	17	取り引き	46.82
8	安定	93.63	18	意味	46.82
9	立場	93.63	19	研究	44.48
10	意見	79.59	20	証拠	44.48

ここで注目すべきは、共起する 20 語中、一文字名詞になっているものが、3 語のみで、他はすべて意味が相対的に充足した二文字以上の名詞になっているということである。実際、四文字語（取り引き）は形容詞型にしか出現していない。また、形式名詞の数は 2 語（「物」「事」）、相対名詞の数は 0 語となっている。このことは、形容詞型の構造パターンにおいては、動詞型や名詞型と比べ、構文要素としての名詞部の意味の充足性が高く、結果として、連体修飾構造としてみれば、より安定的・典型的なものになることを示している。形容詞型は、新情報を含む主要部が後ろに置かれるという日本語全体の特徴に合致しているということが確認された。

(29) 畜産経営の安定を図り、畜産物の安定的【供給】を確保していくためには、大家畜

経営にとっては、草地開発を積極的に進め、粗飼料生産基盤の拡充を図っていくとともに… (OW2X_00028、特定目的・白書)

(30) 学校経営の推進者として指導的な【役割】を果たすよう、経営の企画力と豊かな指導力を身につける時期。(LBd3_00038、図書館・書籍)

(31) そうして、私は当時、マルクスの考えから相当な【影響】を受けることになった。(LBf1_00027、図書館・書籍)

(29) では、「畜産物の安定的供給」において、被修飾語である「供給」に意味の重心が置かれており、文全体で主要な名詞として機能している。「安定的」は、供給の性質を強調する修飾語であり、それがなくても「供給」は単独で十分な意味を持ち、文の主語としての役割を果たすことができる。(30) では、「役割」は行うべき責任や役目を示す名詞であり、文の主要な名詞の一つである。「指導的な」は「役割」の意味を具体化しており、それがなくても文の意味も成立している。(31) では、「影響」は単独で他者からの作用を意味し、「相当な」がなくても、文の意味は成立している。

以上で、形容詞型全体の特性を議論したが、形容詞型については、3つの内部構造によって、意味的特性に違いが存在する可能性もある。そこで、続いて、「的」「的ナ」「ナ」を区別し、それぞれの型で頻出する名詞をリストアップする。

表 10 「漢語+的+名詞」に高頻度で共起する名詞（共起頻度を1万語あたり調整済み）

順位	名詞	調整頻度	順位	名詞	調整頻度
1	発展	107.68	11	最近	39.79
2	供給	100.66	12	拡大	37.45
3	安定	93.63	13	楽	35.11
4	役割	60.86	14	支出	32.77
5	自由	58.52	15	取り引き	30.43
6	存在	51.50	16	人物	28.09
7	立場	51.50	17	確保	28.09
8	地位	46.82	18	変更	25.75
9	観測	44.48	19	改善	25.75
10	安全	39.79	20	研究	25.75

表 11 「漢語+的ナ+名詞」に高頻度で共起する名詞（共起頻度を 1 万語あたり調整済み）

順位	名詞	調整頻度	順位	名詞	調整頻度
1	物	477.53	11	見解	37.45
2	違い	103.00	12	証拠	32.77
3	影響	100.66	13	動き	30.43
4	役割	93.63	14	態度	28.09
5	供給	65.54	15	要因	25.75
6	意見	63.20	16	差	23.41
7	事	60.86	17	人々	21.07
8	例	56.18	18	瞬間	21.07
9	意味	46.82	19	関係	21.07
10	立場	42.13	20	地位	18.73

表 12 「漢語+ナ+名詞」に高頻度で共起する名詞（共起頻度を 1 万語あたり調整済み）

順位	名詞	調整頻度	順位	名詞	調整頻度
1	物	262.17	11	部分	16.39
2	事	77.25	12	量	16.39
3	人	28.09	13	エネルギー	14.04
4	数	25.75	14	期間	14.04
5	時間	23.41	15	電子	14.04
6	場合	21.07	16	ダメージ	11.70
7	訳	18.73	17	状態	11.70
8	金額	18.73	18	被害	11.70
9	制限	16.39	19	額	11.70
10	方	16.39	20	時	9.36

表 10～表 12 から、3 つの表現形の意味的充足度を比較してみよう。まず、一文字名詞の少なさという点で言えば、3 種は、「的」（1 語）＜「的ナ」（4 語）＜「ナ」（9 語）という順序関係になる

次に、形式名詞の少なさという点で言えば、3 種は、「的」（0 語）＜「的ナ」（2 語）＜「ナ」（6 語）という順序関係になる。なお、相対名詞に関しては、いずれも 0 例で差はない。

以上を総合的に解釈すると、形容詞型は 3 つの構造パターンで最も意味充足度が高いこ

とに加え、さらにその中にある3つの表現型で言うと、「的」が最も意味充足度が高く、以下、「的ナ」「ナ」の順になることが確認された。

6.3.3 RQ3 言語特性による構造パターンの選択

RQ1 では動詞型、名詞型、形容詞型を比較した場合、典型性（許容度・頻度）の点では動詞型>名詞型>形容詞型となることが示された。また、RQ2 では、被修飾名詞の意味的充足度（重さ）、言い換えれば、漢語動名詞を含む修飾部の意味的補助性（軽さ）の点で、形容詞型>名詞型>動詞型となることが示された。以上は頻度および意味の観点からの議論であったが、では、動詞型・名詞型・形容詞型の各々は、どのような言語特性によって選択されているのであろうか。この点をふまえ、RQ3 では、各型を選好する漢語動名詞の言語特性を分析する。

6.3.3.1 動詞型における漢語動名詞の言語特性

すでに述べたように、動詞型構造パターンの許容度と占有比がいずれも高く、3種類の中で最も典型的使用されている。では、漢語動名詞そのものが持つ言語特性が「スル・シタ」の選択にはどのような影響を与えているのだろうか。本節では、「スル・シタ」の占有比を目的変数として、ステップワイズ投入法の重回帰分析を行った結果、次のような回帰式が得られた（ $p<.001$, $R^2=.322$ ）。

$$\begin{aligned} \text{「スル・シタ」の占有比} = & 0.842 + 0.063 * \text{抽象的關係} + 0.001 * \text{書き言葉平均頻度} + 0.088 * \\ & \text{動詞的動詞} - 0.415 * \text{生産物および用具} - 0.052 * \text{名詞的名詞} - 0.254 * \text{AN} - 0.062 * \text{中国} \\ & \text{語動詞} - 0.030 * \text{語義数平均} - 0.036 * \text{自動詞} \end{aligned}$$

モデルは有意であり、説明力は32.2%である。モデルに採用された説明変数は、全30種変数中、9種であった。説明変数の分散の差を考慮した標準偏回帰係数に注目すると、寄与度の強いものから順に、以下のようになる。

意味分類タイプ→漢語動名詞の語構成要素の品詞性→日本語での品詞性→中国語での品詞性→自他性→語義数→書き言葉での頻度

このうち、係数が 0.05 を超えるものは、(a) 意味分類タイプ、(b) 漢語動名詞の語構成要素の品詞性、(c) 日本語での品詞性、(d) 中国語での品詞性の 4 種であった。これらについて以下個別に見ていこう。

まず、(a) 「分類語彙表」に基づく漢語動名詞の意味分類タイプについては、「抽象的關係」(例：「対応」「増加」「発生」「作成」など) はいくぶん許容する一方で、「生産物および用具」(例：「電話」) を許容しないことが確認された。

次に、(b) 漢語動名詞の語構成要素の品詞性については、AN (例：「安心」) というパターンは許容しないことが確認された。

(c) 日本語での品詞性については、「動詞的動詞」(例：「利用」「紹介」「確認」「発生」など) は許容する一方で、「名詞的名詞」(例：「表示」「変更」「登録」「規定」など) は許容しないことが確認された。

最後に、(d) 中国語での品詞性については、中国語で動詞として使われる漢語動名詞(「練習」「生活」「充実」など) は許容しないことが確認された。

以下は、動詞型構造パターンを選択する漢語動名詞の用例である。なお、連体修飾構造は下線で、漢語動名詞は【】記号で示す。

(32) 公然たる敵よりは、漠然たる味方に【対応】することの方が難しいものである。

(LBh9_00099、図書館・書籍)

(33) 保険料の未払い期間に応じて、介護サービスを【利用】したときの自己負担額が 1 割から 3 割に増えます。(OP30_00002、特定目的・広報紙)

上記の用例では、「対応」の意味分類タイプは「抽象的關係」であり、中国語においてはよく動詞として使われている。「利用」は、日本語において動詞性が高いということが確認された。語構成要素に関しては、これら 2 つの漢語動名詞には形容詞の構成要素は含まれておらず、「対応」と「利用」の語構成要素の品詞パターンはいずれも VV であることが確認された。

以上をまとめると、動詞型構造パターンを選択する漢語動名詞は、抽象的な意味を持ち、動詞的な構成要素によって成り立ち、日本語において動詞性が高いといった特性があることが確認された。

6.3.3.2 名詞型における漢語動名詞の言語特性

次に、「ノ」の占有比を目的変数として、ステップワイズ投入法の重回帰分析を行った結果、次のような回帰式が得られた ($p<.001$, $R^2=.337$)。

$$\begin{aligned} \text{「ノ」の占有比} = & 0.175 + 0.412 * \text{生産物および用具} + 0.082 * \text{名詞的名詞} + 0.048 * \text{自動詞} \\ & + 0.046 * \text{中国語動詞} - 0.075 * \text{動詞的動詞} - 0.066 * \text{抽象的關係} - 0.001 * \text{書き言葉平均} \end{aligned}$$

モデルは有意であり、説明力は33.7%である。モデルに採用された説明変数は、全30種変数中、7種であった。説明変数の分散の差を考慮した標準偏回帰係数に注目すると、寄与度の強いものから順に、以下のようになる。

意味分類タイプ→日本語での品詞性→自他性→中国語での品詞性→書き言葉での頻度

このうち、係数が0.05を超えるものは、(a) 意味分類タイプ、(b) 日本語での品詞性、の2種であった。これらについて以下個別に見ていこう。

まず、(a)「分類語彙表」に基づく漢語動名詞の意味分類タイプについては、「生産物および用具」(例:「電話」)は許容する一方で、「抽象的關係」(例:「対応」「増加」「発生」「作成」など)を許容しないことが確認された。

次に、(b) 日本語での品詞性については、「名詞的名詞」(例:「表示」「変更」「登録」「規定」など)は許容する一方で、「動詞的動詞」(例:「利用」「紹介」「確認」「発生」など)は許容しないことが確認された。

以下の用例を見てみよう。

(34) タバコに火をつけぼんやり目を休めているうち、戸田からの【電話】のことが急に気になってきた。(LBg9_00125、図書館・書籍)

(35) S l i d e S h o w T o G oでの編集は、3つの【表示】のうち「アウトライン表示」、「コメント表示」で可能である。(PB55_00155、出版・書籍)

上記の用例では、「電話」の意味分類タイプは「生産物および用具」であり、日本語において「名詞的名詞」として使われる。「表示」の品詞性は「名詞的名詞」であることが

確認された。

以上をまとめると、名詞型構造パターンを選択する漢語動名詞は、日本語において名詞性が高いといった特性があることが確認された。

6.3.3.3 形容詞型における漢語動名詞の言語特性

「的・的ナ・ナ」の占有比を目的変数として、ステップワイズ投入法の重回帰分析を行った結果、次のような回帰式が得られた ($p=.007$, $R^2=.069$)。

$$\text{「的・的ナ・ナ」の占有比} = 0.136 \cdot \text{AN} + 0.040 \cdot \text{MV} + 0.030 \cdot \text{中国語形容詞} + 0.015 \cdot \text{語義数平均} - 0.007$$

モデルは有意であり、説明力は 6.9%のみであるが、全 30 種の説明変数中、4 種が選ばれた。説明変数の分散の差を考慮した標準偏回帰係数に注目すると、寄与度の強いものから順に、以下のようになる。

漢語動名詞構成要素の品詞性→中国語での品詞性→語義数

このうち、係数が 0.05 を超えるものは漢語動名詞構成要素の品詞性のみである。すなわち、AN (例:「安心」) は許容し、MV (例:「共有」「相当」「代表」など) はいくぶん許容することが確認された。以下の用例を見てみよう。

- (36) いずれにしても香港の街も、竹村にとって【安心】な場所ではなくなったことの証だ。(LBn3_00105、図書館・書籍)
- (37) ある社会的場面に参加する個人が相互的推論や解釈によって【共有】的關係を作り出し、社会化過程へ共時的に関与すると考えられる。(PB41_00017、出版・書籍)

上記の用例では、「安心」の語構成要素の品詞パターンは AN で、「共有」は MV である。すなわち、漢語動名詞の語構成要素間は修飾関係である場合は、形容詞型の構造パターンを選択しやすいのではないかと考えられる。

以上、RQ3 では、重回帰分析を用いて、漢語動名詞の言語特性が動詞型・名詞型・形容

詞型の構造パターンの選好にどのような影響を与えるかを分析した。上記の 3 つの回帰式をまとめると、特定の要素が 3 種の構造パターンの判定標識になっている可能性が示唆された。以下、表 13 のようにまとめた。

表 13 3 種の構造パターンの判定標識

判定標識	高い	低い
意味分類タイプは「生産物および用具」	名詞型	動詞型
語構成要素の品詞パターンは「AN」	形容詞型	動詞型
日本語での品詞性「動詞的動詞」	動詞型	名詞型

6.4 まとめ

以上、本研究では、BCCWJ データを用いて、日本語漢語動名詞が名詞節内で取りうる 3 つの構造パターンの関係について量的な調査を行い、以下の結果を得た。

まず、RQ1（3 種の構造パターンの典型性）について、許容度については、動詞型が 100%、名詞型が 99.5%、形容詞型が 24.0%であり、また、占有比については、動詞型が 81%、名詞型が 16%、形容詞型が 3%であることが確認された。

次に、RQ2（3 種の構造パターンの意味特性）について、(1) 動詞型および名詞型の構造パターンは、名詞句を形成するというよりも、むしろ文法的な機能を担っていること、(2) 文法的機能を担うことが、漢語動名詞を含む連体修飾構造の全体的な意味特性であると言えること、(3) 形容詞型は主に名詞句を構成する役割を果たしていること、(4) 動詞型と名詞型の意味重心は漢語動名詞を含む修飾語に置かれている一方、形容詞型では、意味重心が被修飾語にあること、などが確認された。

最後に、RQ3（言語特性による構造パターンの選択）については、回帰分析により以下の結果を得た。

表 14 各構造パターンの選択要因

構造パターン	回帰式
動詞型	「スル・シタ」の占有比=0.842+0.063*抽象的關係+0.001*書き言葉平均頻度+0.088*動詞的動詞-0.415*生産物および用具-0.052*名詞的名詞-0.254*AN-0.062*中国語動詞-0.030*語義数平均-0.036*自動詞
名詞型	「ノ」の占有比=0.175+0.412*生産物および用具+0.082*名詞的名詞+0.048*自動詞+0.046*中国語動詞-0.075*動詞的動詞-0.066*抽象的關係-0.001*書き言葉平均
形容詞型	「的・的ナ・ナ」の占有比=0.136*AN+0.040*MV+0.030*中国語形容詞+0.015*語義数平均-0.007

これらの回帰式から、(1) 意味分類タイプでの「生産物および用具」、(2) 語構成要素品詞パターンの「AN」、(3) 日本語での品詞性「動詞的動詞」、という特定の要素が3種の構造パターンの判定標識になっている可能性が示唆された。

本章で得られた知見は、一般に、並列的に理解されがちな3つの構造パターンが実際には等価でないこと、また、各々の選択は偶然ではなく、何らかの言語的な手掛かりによって説明されうることなどを示す点で一定の意義を持つと思われる。こうした知見は、記述的観点に基づく日本語学研究だけでなく、海外学習者向けの日本語教育にも一定の有用性を持つと言えるだろう。

第7章 意味論から見た漢語動名詞―類義動詞の使い分けに注目して―

7.1 はじめに

7.1.1 ねらい

第4章では、漢語動名詞の頻度論の観点から重要漢語動名詞 200 語を抽出した。また、第5章と第6章では、統語論の観点から、漢語動名詞の品詞性および連体修飾用法の問題を論じた。本章では、新たに意味論の観点をふまえ、漢語動名詞の意味記述の問題を扱う。

語の意味を論じる場合、通例、何らかの 1 語を取り上げて、その意味記述の妥当性の検証や精緻化を試みる。しかし、語の意味というものは、関連するほかの語の意味との差によって決定されるものである。すなわち、1 語だけを取り上げて、漢語動名詞の意味を議論するよりも、類似した語義を持つ複数の語を取り上げて、その意味を体系的に検証するほうがより妥当性の高いアプローチとなろう。また、類義の漢語動名詞間での比較だけでなく、類義の和語を含めた、より幅広い枠組みの中で、それぞれの意味を論じていくほうが、各語の意味をより深く議論できると考えられる。また、こうした議論でえられた知見は、日本語学における漢語動名詞の意味論的理解を深めるだけでなく、教育的な応用も期待できる。

そこで、本章では、第4章で抽出した重要漢語動名詞 200 語中最も重要度の高い語であった「利用」(1 位)を軸に、その類義漢語である「使用」(3 位)と「活用」(19 位)、さらに、『類義語使い分け辞典』(研究社、1998)において、「使用」の類義語とされる「使う」、また、「利用」および「活用」の類義語とされる「用いる」を取り上げる。分析においては、(1) 使用頻度、(2) 使用環境、(3) 動詞活用形、(4) 動詞共起語、(5) 語義配列、などの外国人学習者向けの辞書や教材にとって必要とされる情報に焦点を当て、コーパスデータを活用して、漢語と和語をまたぐ 5 種の類義語の意味用法の比較を行い、学習者向けの新たな漢語動名詞の語釈を試みる。

7.1.2 背景

類義語の意味の差を明らかにしようとする場合、様々な論点がありうる。この点を考えるために、A:『類義語使い分け辞典』、B:『大辞林』、C:『新明解』の 3 種の辞書における「利用」と「用いる」の語義記述を 1 例として見てみよう。なお、A は複数の語義を並列的に記載しているため、以下では筆者が意味を区分し、それぞれに数字を付している。

表1 既存辞書における「利用」と「用いる」の意味記述と用例

	利用	用いる
A	①「利用する」は「廃物利用」など、本来の使用目的ではない使い方をし、役立てるという意味。 ②「人〔相手の無知・人の名刺・父親の肩書き〕を利用する」など、特に自分のためにだけ役立たせるという意味にも用いられる。 ③「公共施設・交通機関・自動販売機・キャッシュコーナー・コンピュータプログラム・システム・ネットワーク」などに使われ(る)。 ※「用いる」の漢語的表現で日常語。	①「用いる」は「ベテラン選手を使うより、特に能力のある新人を用いる方がチームを強化できる・この料理には砂糖より蜂蜜を用いると、おいしさがいっそう引き立ちます・部下の提案を用いて販売ルートを開拓する・彼の新しい実験方法を用いたおかげで、目覚ましい研究成果が出た」など、すべての場合で「使う」に置き換わる。 ②特に・わざわざ何かに役立たせるためといったニュアンスは、「使う」では表すことができない。 ※「用いる」は文章語。
B	①物の機能・利点を生かして用いること。また、単に用いること。「出張に新幹線を利用する」「火力を利用する」「臨時窓口をご利用ください」「廃物利用」 ②自分の利益になるようにうまく使うこと。手段・方便として用いること。「機会を利用する」「地位を利用する」「縁故関係を利用して出世する」	①あることをするための道具・手段・材料として使う。「運搬に車を用いる」「ローマ字を用いて日本語を書き表す」「ボディにプラスチックを用いたカメラ」 ②人の能力を評価してある職・地位につかせる。登用する。「重く用いる」女はただ心ばせよりこそ世に用ゐらるるものに侍りけれ/源氏物語乙女 ③(「意を用いる」などの形で)心を働かせる。「材質には十分意を用いております」心を用ゐる事少しきにして/徒然草二一 ④必要とする。多く否定の形をとる。疑ふことを用ゐない/伊沢蘭軒鷗外 ⑤他人の意見を取り上げる。尊重する。俊寛僧都は天性不信第一の人にて、是を用ゐず/平家物語二
C	①本来そのためにあるわけではないものを、うまく使って△何か(自分)に役立たせること。「廃物を利用する/親の肩書きを利用する」 ②そのものの持つ利点を積極的に生かして使って、恩恵を受けること。「水力を利用する/飛行機を利用して九州へ飛ぶ」	〔「ゐる」は、率いる意〕役に立つものとして使う。「世に(広く)用いられる/下剤を用いる/意を用いる〔＝特別に配慮(して努力)する〕/新人を用いる〔＝能力を認めて△登用する(ポストに就かせる)〕/新戦法を用いる〔＝よいものとして、採用する〕」

各辞書は、「利用」および「用いる」の用法について多彩な情報を提供しているが、学習者の視点から見ると、そこには課題も認められる。それらは主として 5 点に整理できる。

1 点目は、使用頻度の問題である。上記の例について言えば、A には、「(利用は)「用いる」の漢語的表現で日常語」「『用いる』は文章語」という記載があることから、使用頻度は、「利用」>「用いる」ではないかと推測されるが、こうした情報は他の辞書にはない。また、A にも、関連する 5 語全体の頻度順位は記されていない。学習者が 5 語を使い分けようとした場合、各語の頻度は最も重要な手掛かりになるが、この情報は既存の辞書には記載されていない。

2 点目は、使用環境の問題である。すでに述べたように、A には、「利用」は「日常語」、「用いる」は「文章語」という記載があるが、この情報だけでは、2 語が書き言葉と話し言葉のいずれにおいて多く使用するのか、あるいはかたい文脈とくだけた文脈のいずれにおいて多く使用するのかは明らかでない。また、B と C はこうした情報は一切記載していない。学習者がこれらの語をそれぞれ正しく使用している場合に、重要になるのは、どういった場合に何が使えて、どういった場合に何が使えないのかという情報であるわけだが、こうした点は既存の辞書には十分に紹介されていないように思われる。

3 点目は、動詞活用形の問題である。「利用」「活用」「使用」は名詞としても使えるわけだが、5 語の使い分けという枠組みの中で、すべてを動詞として考えると、それらをどのような活用形で使えるのかが極めて重要になってくる。上記で示される「利用」の用例について言えば、A には「利用する」のような動詞の終止形しか記載されていない。一方で、B と C において「利用する」のような終止形が多く見られるが、「ご利用ください」のような動詞の命令形や、「利用して」のような動詞の連用形なども記載されている。母語話者向けの国語辞書では、スペースの節約のために動詞の用例が終止形で現れることが多いが、実際には各動詞がどのような活用形で主に使われているのかについての情報は必ずしも明確ではない。学習者が日本語動詞を使う場合、各動詞はどのような標準的な活用パターンを持っているのかについての情報が重要であるわけだが、こうした点は既存の辞書用例には十分に記載されていないと思われる。

4 点目は、動詞共起語の問題である。上記の例について言えば、「廃物を利用する」はすべての辞書で紹介されているが、「システムを利用する」は A だけ、「機会を利用する」は B だけで記載されている。5 語の使い分けを考える上では、どの語がどの目的語と相性が

いいのかわ知る必要があるが、こうした情報は既存の辞書用例には必ずしも明確ではない。

5点目は、語義配列の問題である。3つの辞書は語義の数にも、また、その配列にも違いがみられる。たとえば、「利用」に関して、「火力・水力といった天然資源を利用する」という用法について考えてみたい。A については完全に一致する用例はないものの、意味から考えれば、「本来の使用目的ではない使い方をし、役立てる」という点で語義①がこれにあたる。また、B については、同様の用例（火力を利用する）があり、同じく語義①が相当する。一方、C については同様の用例（水力を利用する）が配置されるのは語義③となっている。このことは、同じ語義・用法の配列順序が、辞書によって一致していないことを示す。もちろん、各辞書は、複数語義の記載順に関してさまざまな立場（たとえば、意味の展開に沿った配列や歴史的配列など）を取っており、必ずしも先に出てくる語義がより重要であるというわけではないが、多くの学習者は語義の配列順序を語義の重要度の判断の手掛かりとしているため、語義配列のズレは問題となりうる。

以上で見たように、国語辞書や用法辞典の記述は、想定読者である日本語母語話者には十分なものであるかもしれないが、学習者の視点からすると、情報が十分でないという問題点も存在する。そこで、本章では、「利用」「使用」「活用」「使う」「用いる」の5語について、(1) 使用頻度、(2) 使用環境、(3) 動詞活用形、(4) 動詞共起語、(5) 語義配列の5観点についてコーパスを活用し、現代日本語におけるその標準的な使い方を解明し、学習者向けにどのような情報を提供すべきであるのかを明らかにすることを目指す。

7.2 リサーチデザインと手法

7.2.1 研究目的と RQ

すでに述べたように、既存の国語辞書等には、外国人学習者の視点で見た場合、(1) 使用頻度、(2) 使用環境、(3) 活用形、(4) 共起語、(5) 語義配列、などの点で、必ずしもほしい情報のすべてが掲載されていないという問題があるように思われる。これらの情報を増補していく上で、コーパスを活用した類義語の比較研究が必要であることは言を俟たない。

もちろん、2.4 節でも示したように、類義語の比較に基づく漢語動名詞の意味についての研究は、すでに多くなされている。しかし、それらは、(1) 類義語ペアに限られている研究が多く、2 語以上の類義語セットに関する調査は少ない、(2) コーパスデータに基づく調査は書き言葉だけに注目したものが多く、話し言葉と組み合わせて調査したものが少

ない、(3) 外来語と漢語間の比較が多く、漢語と和語間の比較が少ない、などの問題点が存在している。これらの点をふまえ、本章では、書き言葉・話し言葉の両面を考慮し、上述した 5 観点に注目して、漢語と和語をまたぐ 5 種の類義語の意味用法の比較によって、学習者向けの新たな漢語動名詞の語釈を試みる。そこで、本章では以下の 5 つの研究設問を設定した。

RQ1 各語はどの程度使用されるのか？（使用頻度）

RQ2 各語はどのような環境で使用するのか？（使用環境）

RQ3 各語はどのような動詞活用形で使用するのか？（動詞活用形）

RQ4 各語はどのような共起語を有するのか？（動詞共起語）

RQ5 各語の語義はどのような重要度順になっているのか？（語義配列）

7.2.2 データ

本章では、辞書調査とコーパス調査という 2 種の調査を行う。まず、辞書調査の場合、『研究社類義語使い分け辞典』『広辞苑』『大辞林』『岩波』『新明解』『大辞泉』『明鏡』という 7 種の辞書を用いて調査・比較する。

コーパス調査の場合、書き言葉の BCCWJ と話し言葉の CEJC を用いる。それぞれのコーパスの詳細は 3.1.1 節を参照されたい。なお、すでに述べたように、2 つのコーパスには、様々なジャンルデータが含まれるが、本章では、BCCWJ の 13 ジャンルのうち、特殊な用法が含まれる「韻文」を除く。また、言語的に類似した特徴を持つ「出版・書籍」・「図書館・書籍」・「特定目的・ベストセラー」を「書籍」として 1 つのジャンルとみなす。すなわち、BCCWJ の 10 ジャンルと（新聞、雑誌、書籍、白書、知恵袋、ブログ、法律、国会会議録、広報紙、教科書）と、CEJC の 4 ジャンル（雑談、用談・相談、会議・会合、授業・レッスン）を組み合わせた 14 種の日本語ジャンルデータを資料として、5 語の意味用法を調査・比較する。

7.2.3 手法

7.2.3.1 本章での検索条件

すでに述べたように、本章では、類義の関係にある漢語の「利用」「使用」「活用」と、和語の「使う」「用いる」について、コーパスを用いて 5 観点から意味・用法を調査する。

なお、調査にあたっては、漢語動名詞については多様な品詞用法と活用型が存在することを、和語動詞については多様な活用型が存在することを、それぞれ考慮する必要がある。

このうち、前者について、本研究では、和語動詞を比較対象にすることから、漢語動名詞についても、サ変動詞用法のみを議論の対象とすることにする。なお、本論文第 5 章の調査（表 2）より、「利用」「使用」「活用」の 3 語とも、サ変動詞の使用率がほぼ過半数を超えることを確認している。

表 2 「利用」「使用」「活用」の品詞別使用率

品詞	利用	使用	活用
サ変動詞使用率	47.71%	50.60%	58.23%
名詞使用率	16.20%	12.75%	21.09%

漢語サ変動詞用法の認定にあたっては、間淵（2016）を参照して、後方共起条件を、語彙素が「為る・出来る・致す・為さる・下さる」となることとする。検索結果を確認したところ、現代日本語用法以外のものは認められなかった。

また、和語動詞の認定にあたっては、活用型を手掛かりとして、現代日本語に含まれないものは、除外する方針を取る。これにより、「使う」について、「下一段-ア行」（「使える」）と「文語四段-ハ行」（「使ふ」「つかふ」「遣ふ」「費ふ」）、「用いる」について、「文語下二段-ワ行」（「用う」）、「文語上一段-ワ行」（「用ゐる」）、「文語上二段-ハ行」（「用ふ」）、「文語上二段-ヤ行」（「用ゆ」）などは除外される。

以上をふまえて、本章での検索条件は表 3 のようにまとめられる。

表 3 本章での検索条件

調査対象		検索条件
漢語	利用 使用 活用	キー：語彙素が「利用／使用／活用」 後方共起：語彙素が「為る 出来る 致す 為さる 下さる」
	使う	キー：語彙素が「使う」 活用型「下一段-ア行」と「文語四段-ハ行」を除く
和語	用いる	キー：語彙素が「用いる」 活用型「文語下二段-ワ行」「文語上一段-ワ行」「文語上二段-ハ行」「文語上二段-ヤ行」を除く

7.2.3.2 手順

本節では、研究設問順に研究手法を具体的に述べる。前述のように、本章では、(1) 語義頻度、(2) 一般性、(3) 使用環境、(4) 活用形、(5) 共起語の 5 観点に注目して、コーパス調査を行い、類義の漢語と和語を相互に比較することで、それぞれの語義のニュアンスを立体的にとらえ、既存辞書の記述に代わる、学習者向けの新たな類義語の使い分けと用例の選定を目指す。

RQ1（使用頻度）では、BCCWJ と CEJC をあわせて、両コーパスにおける 5 語の出現頻度をそれぞれ調査し、100 万語あたりの調整頻度（PMW）に換算して比較する。

RQ2（使用環境）では、語の日常語性を 2 種類の観点から調査する。まず、書き言葉（written : W）と話し言葉（spoken : S）の頻度差に注目し、話し言葉（CEJC）頻度を、書き言葉（BCCWJ）頻度で割ることで、語の口語性を表す S/W 率を計算する。次に、書き言葉に絞って、くだけたジャンル（casual : C）とかたいジャンル（official : O）の頻度差に注目し、くだけたジャンル頻度（ネット上のテキストを含む知恵袋とブログ）をかたいジャンル頻度（編集者による校閲がなされ、標準的な表現がなされている新聞と書籍）で割って、語のくだけ度を表す C/O 率を計算する。なお、使用頻度について、100 万語あたりの調整頻度（PMW）に換算する。

RQ3（活用形）では、BCCWJ と CEJC のデータを用い、関連 5 語の活用パターンを抽出して比較する。日本語動詞の活用分類には、いくつかの枠組みがあるが、本章では、BCCWJ と CEJC に採用された分類の枠組みに基づき調査を行う。

表 4 BCCWJ・CEJC の活用分類

大分類	小分類 (漢語サ変)	例	小分類 (和語)	例
意志推量形		利用しよう、利用できよう		使おう
仮定形	仮定形一般	利用すれ（ば）、利用できれ（ば）	仮定形一般	使え（ば）
終止形	終止形一般	利用する、利用できる、利用なさる、利用す（べき）	終止形一般	使う
未然形	未然形一般	利用し（ない・なければ）、利用でき（ない・なければ）	未然形一般	➤ 使わ（ない・ず・ざる・ん） ➤ 使われ ➤ 使わせ
	未然形サ	➤ 利用さ（れる）		

		▶ 利用さ（せる） ▶ 利用せ（ん・ぬ・ず・ざる） ▶ 利用せ（られ）		
	未然形・セ			
命令形		利用しろ、利用ください、利用せよ		使えよ 使え
連体形	連体形・一般	利用する（体言）、利用できる（体言）、利用なさる（体言）	連体形・一般	使う（体言）
	連体形・省略	利用す（体言）		
連用形	連用形・一般	利用し（て・た・ます...）、利用でき（ます・たら）	連用形・一般	使い（て・た）
	連用形・イ音便	利用ください（ました・まして・ませ）	連用形・ウ音便	つこう（て）
	連用形・促音便	利用なさっ（て・た）	連用形・促音便	使っ（て・たり）

BCCWJ・CEJC の活用分類枠組みには、大分類と小分類がある。そのうち、注意すべきは「未然形」である。漢語サ変動詞の「未然形」には、「未然形・一般」「未然形・サ」「未然形・セ」が包含されるが、「未然形・一般」は否定表現が後続され、「未然形・セ」は否定表現以外に助動詞「られ」も後続され、使役受身というボイスになる。また、「未然形・サ」は、助動詞「れる」と「せる」が後続され、受身と使役という 2 種のボイスになる。一方、和語動詞の「未然形・一般」には、否定表現、受身を表す「れる」と使役を表す「せる」が後続される 3 種がある。そこで、本章では、「未然形」について、3 種の漢語動名詞は「未然形・一般」・「未然形・される」・「未然形・させる」・「未然形・セ」の 4 種の活用形に、2 種の和語動詞は「未然形・一般」・「未然形・れる」・「未然形・せる」の 3 種の活用形に分けて調査を行うこととした。他の活用形の小分類は統語的には区別がないため、すべては大分類のみを調査する。

なお、調査した各語の活用パターンが、今回の 5 語のみの傾向なのか、和語動詞全般・漢語動名詞全般の傾向なのかについての考察が必要である。そこで、以下、BCCWJ を用いて事前調査を行った。調査した結果は参照データとして示す。

表 5 和語動詞全般・漢語動詞全般の活用傾向

活用タイプ	和語動詞全般	漢語動詞全般
連用形	56%	53%

連体形	17%	16%
終止形	13%	8%
未然形・（さ）れる	5%	14%
未然形・一般	6%	3%
意志推量形	1%	1%
未然形・（さ）せる	1%	3%
仮定形	1%	1%
命令形	1%	0%
已然形	0%	
未然形・せ		1%

RQ4（共起語）に関して、一般的に、動詞の意味用法は、主として目的語（何を～するか）・修飾語（どのように～するか）で決まると考えられる。そこで、5 語の各々について、高頻度に共起する目的語（名詞）と修飾語（副詞）を調査する。その後、全体の傾向を概観するために、対応分析を実施する。以下、具体的な手法を説明する。

まず、5 語の各々について、「中納言」の短単位検索機能を用い、以下のような検索条件を設定し、C および O のジャンルごとに共起目的語としての名詞と、共起修飾語としての副詞を抽出した。

キー：「品詞」の大分類が「名詞」

後方共起 1（キーから 1 語）：語彙素が「を」

後方共起 2（キーから 2 語）：語彙素が「利用|使用|活用|使う|用いる」

後方共起 3（漢語の場合、キーから 3 語）：語彙素が「為る|出来る|致す|為さる|下さる」

キー：「品詞」の小分類が「副詞」

後方共起 1（キーから 1 語）：語彙素が「利用|使用|活用|使う|用いる」

後方共起 2（漢語の場合、キーから 2 語）：語彙素が「為る|出来る|致す|為さる|下さる」

次に、抽出された名詞・副詞と 5 語との関係を分析するため、それぞれについて、共起

名詞上位 50 語および共起副詞上位 20 語（「用いる_C」は 6 語、「活用_C」は 9 語）を抽出し、語とジャンルの組み合わせを第 1 アイテム（全 10 種）、上位目的語（500 語中、重複を除いた 160 語）・上位副詞（175 語中、重複を除いた 61 語）を第 2 アイテムとする頻度表を作成して対応分析を実施する。

RQ5（語義配列）に関しては、辞書により、語義の数や語義内容が異なっているため、比較の単位がそろわないという問題がある。そこで、本研究では、辞書の語義ではなく、用例に注目し、そこから複数の語義タイプを独自に制定することとする。

具体的には、まず、7 冊の辞書（A：『研究社類義語使い分け辞典』、B：『広辞苑』、C：『大辞林』、D：『岩波』、E：『新明解』、F：『大辞泉』、G：『明鏡』）における 5 語の用例をすべて書き出し、似た用例を組み合わせる。そして、その各々に独自のラベルを張り、これを語義タイプとみなす（表 4）

表 6 関連 5 語の辞書での元用例および語義タイプ

	元用例	本研究で使用する語義区分 (語義タイプ)
利用	人〔相手の無知・人の名刺・父親の肩書き〕を利用する・縁故関係を利用して出世する・親の肩書きを利用する・特権を利用する・立場を利用した卑劣な行為・親愛の情を利用した詐欺事件・地位を利用して私利をはかる	①【悪用】人・社会的な役割などを個人の利益や不正な行動のために使う。
	廃品利用・廃物利用・廃物を利用して作る・廃物を利用する・遊休地を利用する	②【有効利用】通例その目的では使用されない身の周りのものや状況などを独創的なアイデアなどによって役立つように使う
	出張に新幹線を利用する・臨時窓口をご利用ください・飛行機を利用して九州へ飛ぶ・遊園地を利用する・いつも地下鉄を利用する・無線 LAN が利用できる喫茶店・年間 500 万人が利用するサイト・バス〔図書館・介護サービス〕を利用する	③【サービス利用】施設・交通機関・サービスなどの機能を生かして役に立つように使う
	火力を利用する・水力を利用する・風力を利用した発電	④【資源利用】天然資源などを主として工業的手段によって人類の役に立つように使う
	機会を利用する・カラーピーマンはピザのトッピングに利用されている	⑤【単純利用】状況や物などの利点を生かして、利益や成果を得るために使う
使用	午前中第一会議室を使用する・がんの治療に使用される薬・コークスが燃料に使用される・部品として使用する・燃料にガスを使用する・集会に講	①【全般使用】物事・場所・状況などを具体的な目的のために使う

	堂を使用する・使用中・使用料・使用済み・会議室を使用するには許可がいる・ストロボの使用は御遠慮ください・日本語「電話」を使用する	
	使用者・使用人	②【労力使用】賃金を支払い、他人を労務に服させる
活用	変格活用・五段に活用する	①【文法活用】文法用語
	遊休施設の活用をはかる・資源の活用・資料を活用する	②【機能活用】事物を持っている機能などを最大限に生かして効果的に使う
	余暇を活用する・空間を活用する	③【状況活用】休憩や空き時間などを効果的に使う
	学んだ知識を活用する・人材を活用する	④【能力活用】人が持っている知識や能力などを様々な可能性を生み出すように使う
使う	車を使って通う・卵を使った料理・扇子を使う	①【一般使用】事物をある目的のためにあやつる
	頭を使う・気を使う・神経を使う・体[全身の筋肉]を使う・取材には足を使え	②【身体使用】ある目的のために身体(一部)を働かせる
	仮病を使う・居留守を使う・色目を使う・賄賂を使う	③【悪用】巧みによそおって偽りの状況を作り出す
	時間を有効に使う・紙をむやみに使う・金を使う	④【消費】時間や金銭などをある目的のために消費する。または、無駄に費やす。
	弁当を使う・産湯を使う・手水を使う	⑤【特定行為】特定のものをを用いて特定の行為をする
	手品を使う・トリックを使う・英語を使う	⑥【技術使用】技術や外国語などをうまくあやつる
	此の心知りて汝使へと勅のりたまひし・人を使って事業を始める・人を使う・事務所ではアルバイトを二人使っている・人に使われる	⑦【労力使用】人を雇って働かせる
用いる	お金を用いる・兵を用いる・運搬に車を用いる・申し込みには所定の用紙を用いる	①【一般使用】事物を手段・道具として使う
	人を用いる・要かならず臣の翼たすけを用ゐる・重く用いる	②【任用】人の能力を評価して、職や地位につけ仕事をさせる
	部下の提案・意見を用いる	②【採用】意見などを採用する
	意を用いる	④【意図的行為】特定の目的や意図を込めて行為をする
	紛争の解決に暴力を用いる・賄賂を用いて上司に取り入る	⑤【悪用】巧みによそおって偽りの状況を作り出す
	彼女の成功は言を用いない(＝言をまたない)	⑥【必要としない】否定表現と結びつき、「必要としない」を表す

以上により、「利用」については 5 種、「使用」については 2 種、「活用」については 4 種、「使う」については 7 種、「用いる」については 6 種の語義タイプが抽出された。これらは、7 種の辞書に掲載されたすべての用例を説明できるものとなっている。

次に、辞書と、コーパスにおいて、これらの各語義がどのような順位になっているかを調べていくことになる。まず、辞書については、元の語義とは異なる新しい語義区分の枠組みを採用したため、語義の記載順の情報をそのまま使うことはできない。そこで、語義タイプごとに、7 冊中に出ている用例の総数を調べ、その数が多いものから順に新たな順序付けを行う。たとえば、ある語に 3 の語義タイプがあるとして (①～③) に、7 冊の辞書での用例総数が、①=8 例、②=3 例、③=12 例であったとすれば、辞書における 3 つの語義の受容性は 1 位=③、2 位=①、3 位=②とみなされる。

一方、コーパスにおける順位に関しては、BCCWJ と CEJC の 2 種のコーパスにおける出現頻度調査を行う。本来は、関連 5 語を含むすべてのコーパス用例を取り出し、質的にその意味を検証する必要があるが、今回は、便宜的措置として、各々の語を含む 200 例を抽出し、それらを語義タイプ別に分類し、各々の頻度を得る。

なお、200 例の抽出にあたっては、本来は、書き言葉・話し言葉の各々から 100 例を取ることが望ましい。しかし、事前調査を行ったところ、CEJC のサイズは小さく、関連語の出現頻度は「使う」を除くと、1～32 例であった。そこで、バランスの点で課題は残るものの、CEJC の用例は原則としてすべて採用し、200 例に不足する数を BCCWJ 側から取ることとする。なお、「使う」については CEJC 用例が 100 を超えていたため、CEJC/BCCWJ から各 100 例を取る。なお、「使う」のすべての用例とほかの 4 語の BCCWJ での用例抽出にあたっては、各用例に番号を割り振った上で、Excel の乱数関数を用いて乱数を発生させ、指定数の用例を選定する。

表 7 BCCWJ と CEJC における 5 語の用例数および本研究で使う用例数

コーパス	利用	使用	活用	使う	用いる
CEJC	32/32	6/6	17/17	100/1889	1/1
BCCWJ	168/16582	194/12577	183/4317	100/61459	199/12663
サンプル数	200	200	200	200	200

以上の準備を終えた後、すべての用例を上述の語義タイプ別に分類し、頻度調査を行う。最後に、個々の語義タイプについて、用例数に基づく辞書順位と、頻度に基づくコーパス

順位を比較する。また、高頻度の語義タイプの分布について、関連 5 語間にどのような違いがあるかを考察する。

7.3 結果と考察

7.3.1 RQ1 使用頻度

学習者が類義語を使い分ける上で最も重要なことは、どの語が最も一般的・標準的に使用されるかという基本的な情報である。そこで、書き言葉・話し言葉のデータを合算して 5 語の頻度 (PMW) を調査したところ、図 1 の結果が得られた。

図 1 5 種の類義語の使用頻度



図 1 に示されるように、「使う」>>「利用」>「使用」≒「用いる」>「活用」という順序関係が認められた。ここでは 3 点について言及したい。まず、1 点目は、同じ和語でありながら、「使う」の頻度がきわめて高いのに対し、「用いる」がほとんど使用されていないことである。この点に関して、『岩波』には、「用いる」は『『使う』より文語的』という記述があり、使用環境の狭さが「用いる」の頻度の低さに繋がっていると考えられる。

次に、2 点目は、3 種の漢語が「用いる」とほぼ近い頻度になっているということである。このことは、学習者がしばしば感じている「和語は平易な日常語、漢語は難度の高い専門語」という区分が必ずしも妥当ではないことを示す。

最後に、3 点目は、漢語の中に、「利用」>「使用」>「活用」というはっきりした順序が認められたことである。この点に関して、『類義語使い分け辞典』には、「利用」が日常語であるのに対し、「使用」は文章語であると述べている。つまり、「使用する／使う」のペアではより日常語的な「使う」が選択されるのに対し、「利用する／用いる」ペアではかたい和語の使用が避けられるため、結果的に、漢語である「利用」の頻度が高まっている

ものと推定される。また、「活用」の頻度の低さは、意味の狭さからくると言えるだろう。この点に関して、『明鏡国語辞典』によれば、「使用」は「物や人を使うこと」、「利用」は「役に立つように使うこと」を意味するのに対し、「活用」の定義はより特殊で、「その物や人が持っている機能・能力を十分に生かして使うこと」となっている。

以上より、5 語の使用頻度については、(1)「使う」の頻度が圧倒的に高いこと、(2) 同じ和語でも「用いる」の頻度はきわめて少ないこと、(3) 3 種の漢語について言えば、「利用」>「使用」>「活用」という頻度の順で少なくなり、とくに「活用」の頻度はきわめて低いこと、などの知見が得られた。

7.3.2 RQ2 使用環境

5 語の使い分けを議論する場合、最も重要になるのは、話し言葉で多く使うのか、書き言葉で多く使うのか、という点と、くだけた文脈で多く使うのか、かたい文脈で多く使うのか、という点の 2 点である。そこで、まず、最初の観点について、関連 5 語の口語性の強さを示す S/W 率を調査した結果、以下のようになった。

図 2 5 語の S/W 率

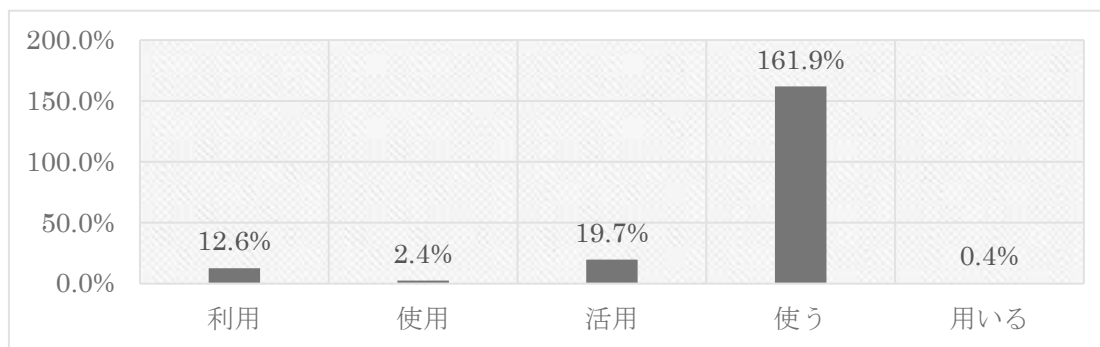


図 2 に示されるように、関連 5 語の口語性に関しては、「使う」>>「活用」>「利用」>「使用」>「用いる」という順序関係が認められた。ここでは 3 点に言及したい。まず、1 点目は、「使う」の S/W 率は著しく高く、5 語の中で「使う」のみが書き言葉よりも話し言葉で多く使われるということである。これにより、「使う」は口語的な語と考えられる。以下、日常会話における「使う」の実例を示す。

- (1) お砂糖使ってるって書いたからつい買っちゃったんだけど (CEJC、雑談、

K005_006)

- (2) わたしなんかドコモ使ってるだけで六千円くらいなんでこんなに使うのってゆうくらい (CEJC、雑談、T023_020)

上記の (1) は、プリンを買う場面で、(2) は Wi-Fi の料金プランを使用する場面であり、いずれも口語的な場面であることが確認される。

2 点目は、同じ和語でも、「用いる」の S/W 率がきわめて低く、書き言葉で多用されるということである。既に述べたように、一般的に和語は日常的な概念に関連すると考えられるが、今回の結果はこれを支持しなかった。以下、書き言葉における「用いる」の実例を示す。

- (3) 放射能の量を表わすには、ベクレルという単位を用いる。(BCCWJ、図書館・書籍、LBe4_00020)
- (4) 両者とも同義に考えられるものであり、ここではタイムリー・ディスクロージャーの用語を用いている。(BCCWJ、出版・書籍、PB53_00589)

上記 (3) は放射性物質による食品汚染に関する書籍の内容で、(4) 経済に関する専門書の内容であり、いずれも書き言葉的な場面であることと確認される。

3 点目は、3 種の漢語の S/W 率は、「活用」>「利用」>「使用」という順序が認められたことである。しかし、どれも口語性が低く、これら 3 語はすべて文章語的な語と考えられる。以下、書き言葉における 3 語の実例を示す。

- (5) 生物が、A T P の化学エネルギーを利用して、タンパク質や多糖などの複雑な化学物質を合成すること。(BCCWJ、図書館・書籍、LBpn_00019)
- (6) 万延元年からの歴史を持つ「七代佐藤養助」の稲庭干うどんを取り寄せて使用しており、同商品の販売も行っている。(BCCWJ、出版・書籍、PB3n_00127)
- (7) 貴重な金属資源を国内外に発掘、活用することは国の重要な戦略課題であろうかと思ひます。(BCCWJ、特定目的・国会会議録、OM54_00001)

上記の (5) は生物に関する事典における内容で、(6) は和食の名店を紹介する書籍の

内容で、(7) は金属資源に関する国会会議での発言の記録であり、いずれも書き言葉的な場面であることが確認される。

次に、くだけた文脈で多く使うのか、かたい文脈で多く使うのか、という 2 つ目の観点について、くだけ度を示す C/O 率を調査した結果、以下ようになった。なお、C/O 率とは、書き言葉データにおける、Casual : C (Yahoo!知恵袋、Yahoo!ブログ) と Official : O (書籍、新聞) の比率を表す。

図 3 書き言葉における 5 語の C/O 率

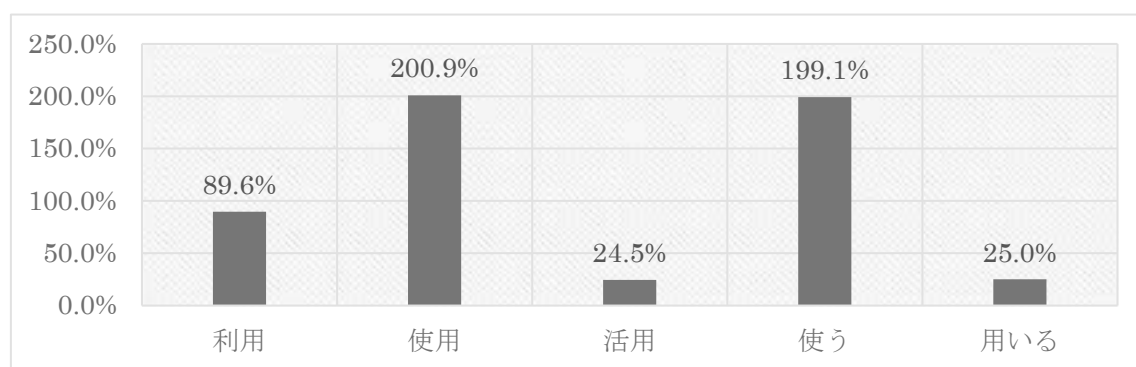


図 3 に示されるように、書き言葉に限って、5 語のくだけ度に関して、「使用」≒「使う」>「利用」>「用いる」≒「活用」という順序関係が認められた。ここでも 3 点に言及したい。まず、1 点目は、「使う」の C/O 率は 200%を超え、非常に高いということである。つまり、「使う」はかたい文脈よりもくだけた文脈において多く使われていることがわかった。

(8) オレンジ系の洗剤を使ってみたいかが？ (BCCWJ、特定目的・知恵袋、OC08_00460)

(9) 賞味期限のもやしを使って、野菜炒めとラーメン？作って (BCCWJ、特定目的・ブログ、OY14_10180)

上記の (8) は灯油の匂いを消す方法に関する質問に回答する場面で、(9) は自分の日常生活を記録する場面であり、いずれもくだけた場面であることが確認される。

次に、2 点目は、同じ和語でも「用いる」の C/O 率はきわめて低いということである。

「使う」はくだけた文脈で多用されているのに対し、「用いる」はかたい文脈で使われやすいことがわかった。

(10) 欧米では脳死患者から提供された臓器を用いた移植が広く行われていますが、日本の場合には脳死患者からの移植はまだ始まったばかりで、その数も十数例にとどまっています。(BCCWJ、出版・書籍、PB24_00048)

上記の(10)は医学の論文における内容で、「用いる」はかたい場面で使われることが確認される。

最後に、3点目は、3種の漢語 C/O 率は、「使用」>「利用」>「活用」というはっきりした順序が認められたことである。また、「使用」の C/O 率が「使う」と同様にきわめて高く、かたい文脈よりもくだけた文脈で好まれることがわかった。一方、「利用」については、C/O 率が 100%に近く、くだけた文脈においてもかたい文脈においても同じように使われることが確認された。これに対し、「活用」は C/O 率が約 24.5%で、かたい文脈で使われることが一般的であると考えられる。

(11) ってことはSONY製のパソコンを使用されてるのですか？(BCCWJ、特定目的・知恵袋、OC02_05210)

(12) レシピはもちろん、使用する素材や調味料の紹介もしています。(BCCWJ、特定目的・ブログ、OY03_02891)

(13) 楽しそうなので置いてありますが、どう操作するのか意味がわかりません。楽しく利用している方教えてください。(BCCWJ、特定目的・知恵袋)

(14) 他人に利用されやすいので、やはり「犠牲」になってしまいがちな生きグセの持ち主といえるでしょう。(BCCWJ、出版・書籍、PB11_00071)

(15) ARPA-NETの場合とは異なり、コンピュータは軍関連機関や大学，研究機関以外に民間の企業などでも活用されていた。(BCCWJ、出版・書籍、PB35_00107)

上記の(11)は知恵袋でコンピューターウイルスに関する質問で、(12)は料理に関するブログ記事で、(13)パソコンのアプリの操作方法に関する質問であり、はいずれもくだけた場面であることが確認される。一方、(14)は心理テストに関する書籍の内容で、

(15) 情報リテラシーに関する書籍の内容であり、いずれもかたい場面であることが確認される。

以上、関連 5 語の使用環境について考察してきた。その結果をふまえ、既存の辞書や文法書における関連語の記述の問題点を考えてみたい。たとえば、類書の中で多くの情報を記載している『類義語使い分け辞典』を見ると、以下の記載がある。

「利用」:「用いる」の漢語的表現で日常語

「使用」:「使う」の漢語的表現で文章語

これらの記述は大筋において妥当なものであるが、(1) 漢語は書き言葉で好まれる、(2) 語種と使用環境のかたさやくだけ度の関係は様々であって、漢語はかたく、和語はくだけている、とは言いきれない、というような情報をあわせて記載することで、記述の全体的妥当性はさらに向上するであろう。

7.3.3 RQ3 動詞活用形

動詞として 5 語を使う場合、それぞれをどのような活用形で使うかが重要になる。関連 5 語の動詞活用のパターンを調査したところ、以下の結果が得られた。なお、下表には、6.2.3.2 で述べたように、漢語動詞全般、和語動詞全般の 2 種類のベースライン情報をあわせて記載している。

表 6 5 語の動詞活用形

語	連用形	連体形	未然形 (さ) れる	未然形 一般	終止形	未然形 (さ) せる	仮定形	命令形	意志推 量形
利用	47% (-6)	23% (+7)	12% (+1)	3% (0)	8% (0)	1% (-2)	1% (0)	4% (+4)	1% (0)
使用	43% (-10)	25% (+9)	19% (+6)	4% (+1)	7% (-1)	1% (-2)	1% (0)	0% (0)	0% (-1)
活用	53% (0)	21% (+5)	9% (-4)	1% (-2)	9% (+1)	2% (-1)	2% (+1)	1% (+1)	2% (+1)
使う	47% (-9)	13% (-3)	22% (+17)	9% (+3)	6% (-7)	9% (+8)	1% (0)	0% (-1)	1% (0)
用いる	48% (-8)	14% (-2)	26% (+21)	2% (-4)	8% (-5)	2% (+1)	1% (0)	0% (-1)	0% (-1)
漢語	53%	16%	13%	3%	8%	3%	1%	0%	1%

全般									
和語 全般	56%	17%	5%	6%	13%	1%	1%	1%	1%

まずは、これまでの分析と同様、語による違いがあるかどうか見ていきたい。上表によると、どの語であっても、連用形が約 50%、連体形が 15%～25%程度、未然形-されるが 10%～20%程度となっており、出現する活用形のタイプ自体は、5 語すべてにおいてははっきりした差がないことがわかった。

しかし、高頻度 3 種の活用形には一定の差が見られ、「使う」と「用いる」という 2 種の和語については、連用形>未然形-れる>連体形、「利用」「使用」「活用」という 3 種の漢語動詞については、連用形>連体形>未然形-されるの順序であった。このことは、動詞活用形という点では、5 語それぞれに違いがあるのではなく、和語と漢語という 2 区分に分けられることが確認された。

ただ、漢語動詞全般、和語動詞全般をベースラインとして比較すると、各語について、とくに使われやすい活用形があることもわかる。上記と同じく高頻度 3 種の活用形に限って言うと、(1) 連用形については、「活用」で使われやすく（例 (16) (17)）、「使用」で使われにくい、(2) 連体形については、「使用」（例 (18) (19)）と「利用」（例 (20) (21)）で使われやすく、「使う」で使われにくい、(3) 未然形-（さ）れるについては、「用いる」（例 (22) (23)）と「使う」（例 (24) (25)）で使われやすく、「活用」で使われにくい、ことがわかった。すなわち、以下のような使い方が相対的に標準的だと考えられる。

- (16) お昼ごはんは買っておいいた菓子パンをかじって時間を有効活用します。(BCCWJ、特定目的・ブログ、OY14_32112)
- (17) 今後これらの新しい技術を活用し、より一層効率的かつ効果的につくり育てる漁業を推進していく必要がある。(BCCWJ、特定目的・白書、OW3X_00198)
- (18) 以上のことから、個人や集団で使用する電波を利用した補聴援助システムについて、制度化を図った。(BCCWJ、特定目的・白書、OW6X_01164)
- (19) また、トレーサとして温感液晶という特殊なものを使用することにより、流れ場と温度場を同時に観察することもできる。(BCCWJ、出版・書籍、PB25_00065)
- (20) これでもまだあなたには I E を利用する理由が残っているだろうか。(BCCWJ、出

版・雑誌、PM55_00099)

(21) 衣類や小物類の収納には、キャスターつきの樹脂製の衣装ケースを利用するのがおすすめ。(BCCWJ、図書館・書籍、LBo5_00017)

(22) 巻線の導体には丸鋼線、平角銅線などが用いられ、電流の小さい場合には主に丸鋼線を用いる。(BCCWJ、出版・書籍、PB45_00173)

(23) 仏事に用いられる香は、大別すると塗香と焼香の二種類があります。(BCCWJ、出版・書籍、PB51_00083)

(24) それで、最も広く使われる酵素源は微生物です。(BCCWJ、図書館・書籍、LBt4_00030)

(25) 残念なことに、このことばは罰と同じ意味で使われるようになってしまったようだ。(BCCWJ、出版・書籍、PB51_00132)

以上で、5 語の動詞活用形について、(1) 2 種の和語と 3 種の漢語間には違いが存在する、(2) それぞれについてはとくに使われやすい活用形がある、の知見が得られた。

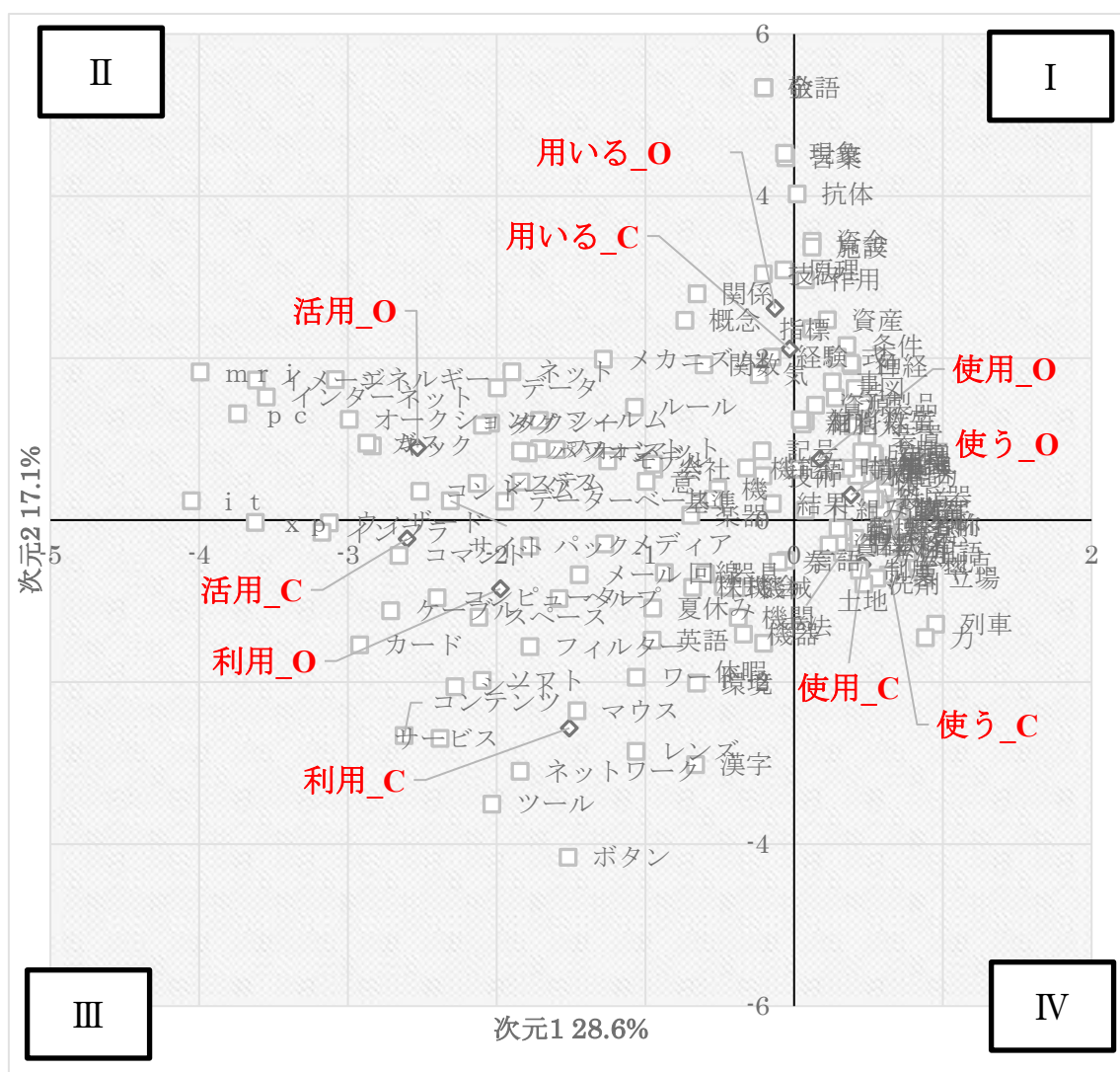
7.3.4 RQ4 動詞共起語

5 語の使い分けについて、これまで、使用頻度・使用環境・動詞活用形の観点から考察してきたが、あわせて重要になるのは、これらの 5 語はどのような共起語と使われやすいのかという点である。また、動詞の共起語のうち、意味的に重要なものは目的語になる名詞と修飾語になる副詞であることから、以下、それぞれに分けて議論を進める。

7.3.4.1 共起する目的語

5 語とジャンルの組み合わせを第 1 アイテム (全 10 種)、高頻度共起目的語名詞を第 2 アイテム (上位 160 種) とする対応分析を実施したところ、図 4 が得られた。次元 1 と次元 2 の寄与率はそれぞれ 28.6% と 17.1% となり、全体の 45.6% が説明できる。

図 4 5 語と共起する目的語名詞による散布図



まず、次元1に注目すると、「使用／使う」とそれ以外が左右に分割されている。このことは、類義語グループの中で、「使用／使う」の2語が他と異なる特殊なまとまりを持っていることを示す。次に、次元2に注目すると、「用いる_C」と「利用_O」の例外を除くと、OとCが上下に分離されている。このことは、個々の語の違いよりも、OとCという文脈の違いが目的語名詞に影響を及ぼしていることを示す。

次に、右上の象限を第1象限、左回りで2、3、4象限と呼ぶとすると、第1象限にはかたい文脈中での「使用／使う」ペアが入る。第2象限には「用いる_O/C」と「活用_O」が入る。「用いる」はC/Oともに同一象限にあることから、C/O差の少ない語だと言えるだろう。第3象限には、「利用_O/C」と「活用_C」が入る。「用いる」同様、「利用」もC/O

差は少ない。一方、「活用」は C/O の違いによって象限が移動しており、C/O 差がとくに顕著な語と言える。最後に第 4 象限にはくだけた文脈における「使用／使う」ペアが入る。

以上をふまえると、個々の語の用法を議論する場合、「利用」と「用いる」は C/O を一体的に扱い、そのほかの語については C と O をわけて考えるべきだということになる。この点をふまえ、「使用」「活用」「使う」の C/O あわせて 5 種、また、これらに「利用_C/O」と「用いる_C/O」をくわえた全 8 種について、特徴的な共起目的語名詞を整理しておこう。

ここでは、当該語の座標を中心として、横軸・縦軸ともに±1 の範囲に入るものを特徴的共起語とみなす。このルールに基づいて抽出された語は以下の通りである。なお、統計分類上、特徴語とされても、実際のコーパスで出現が確認されないものもある。これらについてはあらかじめ削除している。

【利用_O/C】差、立場、袋、サービス、現象、道路、性質、列車、休暇、機会、会社、反応、施設

【使用_O】物、エネルギー、ツール、車、名前、文字、敬語、ワード、レンズ、機能、フィルム、ウィザード、薬、電気、火、英語、シート、素材、システム、字、道具、フォント、器具、ボタン、言葉、コンピューター、関数、漢字、物質、コマンド、材料、色、数字、資金、語、機械、燃料、フィルター、票、石、名、文、兵器、式、機器、表現、名称、用語、装置、術、商標

【使用_C】券、xp、ネット、pc、タクシー、時間、スペース、ソフト、ガス、パソコン、ケーブル、粉、洗剤、カード、メール、マウス、電話、人、製品、機、水、金、タグ、物、エネルギー、ツール、車、名前、文字、敬語、ワード、レンズ、フィルム、ウィザード、薬、電気、火、英語、シート、素材、システム、字、道具、フォント、器具、ボタン

【活用_O】コンテンツ、ネットワーク、情報、作用、関係、仕組み、条件、資産、技術、フォーマット、利点、環境、メカニズム、イメージ、ルール、資源、知識、インフラ、資料

【活用_C】休暇、機会、施設、土地、制度、コンテンツ、ネットワーク、情報、作用、関係、仕組み

【使う_O】パソコン、メディア、ケーブル、粉、洗剤、カード、メール、マウス、電話、人、製品、機、水、金、タグ、物、頭、エネルギー、ツール、車、名前、文字、敬

語、神経、ワード、レンズ、フィルム、ウィザード、薬、手、電気、火、英語、シート、素材、システム、字、道具、フォント、器具、ボタン、言葉、コンピューター、関数、漢字、物質、コマンド、材料、色、数字、資金、語、機械、燃料、フィルター、体、票、石、名、文、兵器、式、機器、表現

【使う_C】券、xp、ネット、pc、ソフト、ガス、気、パソコン、ケーブル、粉、洗剤、カード、メール、マウス、電話、人、製品、機、水、金、タグ、物、頭、エネルギー、ツール、車、名前、文字、敬語、神経、ワード、レンズ、フィルム、ウィザード、薬、手、電気、火、英語、シート、素材、字

【用いる_O/C】名称、用語、装置、術、商標、方法、記号、法、技法、言語、手法、率、モデル、基準、概念、指標、定理、細胞、図

ここで、各語と共起する特徴目的語名詞の傾向をまとめる。まず、「利用_O/C」は、公共施設（「道路」「列車」）・社会的活動（「サービス」「会社」）・社会的人間関係（「立場」）、および社会的状況（「機会」）などとの関係性が深く、いずれも社会の場面で使われることが多い。

次に、「使用」は、かたい場面では言語（「ワード」「言葉」「漢字」「英語」）や道具（「ツール」「器具」）のような抽象的・総称的手段と、くだけた場面では日常生活に関わる具体的事物（「小麦粉」「洗剤」）との関係性が深い。

「活用」は、かたい場面では人や物に帰属する価値（「コンテンツ」「関係」「資源」「知識」）と、くだけた場面では価値を有する状況や場所（「休暇」「機会」「施設」）と関連が深い。

「使う」の意味範囲は「使用_O」に準じるが、固有の用法として「人」や人間の体の一部（「頭」「神経」「手」「体」）と結びつく。最後に、「用いる_O/C」は、言葉（「言語」）や何かを作るための指示（「方法」「基準」）などのような抽象的・社会的媒介と関連する。

以上の観察は、個別語に基づくものであるが、これらを全体的なモデルとして理解する必要があるだろう。その場合、社会・個人と、抽象・具体という 2 観点による整理が適切だと考えられる。

表 7 目的語名詞の意味範疇による 5 語の用法差異

社会的場面<=====>個人的場面
利用 ———— 用いる ———— 活用 ———— 使用 ———— 使う
抽象的<=====>具体的
用いる——活用 O——活用 C——利用——使用 O/使う O——使用 C/使う C

以下、BCCWJ における具体的な用例を示す。

- (26) 今回お会いする場所は、初日（1 月十日-土曜）は岐阜県美濃加茂にあります道の駅日本昭和村、翌日（1 月十一日-日曜）は美濃加茂 I C から 高速道路を利用して 伊勢湾岸道路上の刈谷ハイウェイオアシスでのんびりすることになりました。（特定目的・ブログ、OY14_27265）
- (27) ときに長時間話せる 機会を利用し、いろいろな角度から質問し、彼の価値観、人生観、人間観、信念などのホンネ部分をちょっとでも出させてしまうのが有効だ。（図書館・書籍、LBm3_00169）
- (28) 実はこのシステムは、この顧客から資金を横領するという明確な目的のもとで設計されたものであり、問題の会計士は管理者およびサービスセンターの所有者としての 立場を利用して、計画をまんまと成功させました。（出版・書籍、PB30_00088）

まず、上記の 3 つの用例を見ると、「利用」は社会的場面で多用されていることがわかる。たとえば (26) では、公共施設としての「高速道路」が持っている機能（長距離を比較的短時間でいどうできる）を生かして使うことで恩恵（「のんびりすることになりました」）を受けている。(27) では、自分の目的（彼の価値観、人生観などのホンネ部分を出せる）を達するために、彼と「長時間話せる」という社交的活動を手段としてうまく使っている。(28) では、会計士は自分の利益（「顧客から資金を横領する」）を実現するために、自分の「管理者およびサービスセンターの所有者」という立場を方便として悪用している。

- (29) バスクでは、すでに見たとおり現実問題として バスク語を使用する 人口が減少し、バスク語を使える教育者の数も少数であることから、段階的にバスク語の普及を図っていく方式が導入された。（図書館・書籍、LBj3_00046）
- (30) 汚れがひどく 洗剤を使用する 場合は、洗浄してよく乾燥させたあと全体に薄く油を

塗ってから保存して下さい。(特定目的・知恵袋、OC08_00572)

次に、上記の 2 つの用例を見ると、「使用する」は、かたい場面で抽象的な物事と、くだけた場面で具体的なものと関連することがわかる。たとえば (29) では、言語（「バスケット」）という抽象的なものがある目的（コミュニケーション）のために使われる。(30) では、「洗剤」という個人の日常生活でよく使われている具体的なものを、ある目的（汚れを除く）のために用いられる。

(31) ザックは、船内で教えられた知識を活用してヌバ人たちの役に立てる一方、反抗する者は念力で片っぴしから叩き伏せた。(図書館・書籍、LBa9_00102)

(32) 下記のような格安の旅行代理店の情報を活用してください。(特定目的・知恵袋、OC13_00925)

続いて、(31) と (32) を見ると、「活用する」はかたい場面においてもくだけた場面においても、抽象的なものとの関連が深いということがわかる。たとえば (31) では、ザックは、自分が持っている能力（「船内で教えられた知識」）の肯定的な価値を十分発揮してヌバ人を助けた。(32) では、書き手が、最も安い価格で旅行を楽しむという目的を達成するために、「格安の旅行代理店の情報」を積極的に使用することを提案した。また、「旅行」は一般的に個人的な活動であるため、「活用する」は社会的場面だけでなく、個人的場面でも多用されていることが確認された。

(33) 同じ位置で、どのトラックを採用するか困った場合には、フェーダーツールを使って、複数のトラックを同時に表示してみるといい。(出版・書籍、PB15_00119)

(34) よく薄力粉を使う（パスタの）レシピが紹介されますが、私は本格派で強力粉を使います。(特定目的・知恵袋、OC08_06880)

上記の 2 つの用例を見ると、「使う」は、「使用する」と同じように、かたい場面で抽象的な物事と、くだけた場面で具体的なものと関連することがわかる。たとえば、(33) では、「どのトラックを採用するか」を決定するという目的のために、フェーダーツールという抽象的なものを手段として使用している。(34) では、パスタを作るために「強力粉」

という日常生活に常用されているものを原料として使用している。また、これらの用例は、いずれも社会的活動よりも個人的活動の方に関連すると思われる。

(35) 本論では混乱を避けるため、現代のスラヴ諸語に特有の動詞の *vid* を指す場合には、わが国のロシア・スラヴ語学で伝統的に用いられている〈体〉という用語を用いる。(出版・書籍、PB18_00056)

(36) 表示の真偽の確認には、独立行政法人農林水産消費安全技術センター等による、DNA分析などの科学的手法を用いた検査も活用しています。(特定目的・ブログ、OY11_07702)

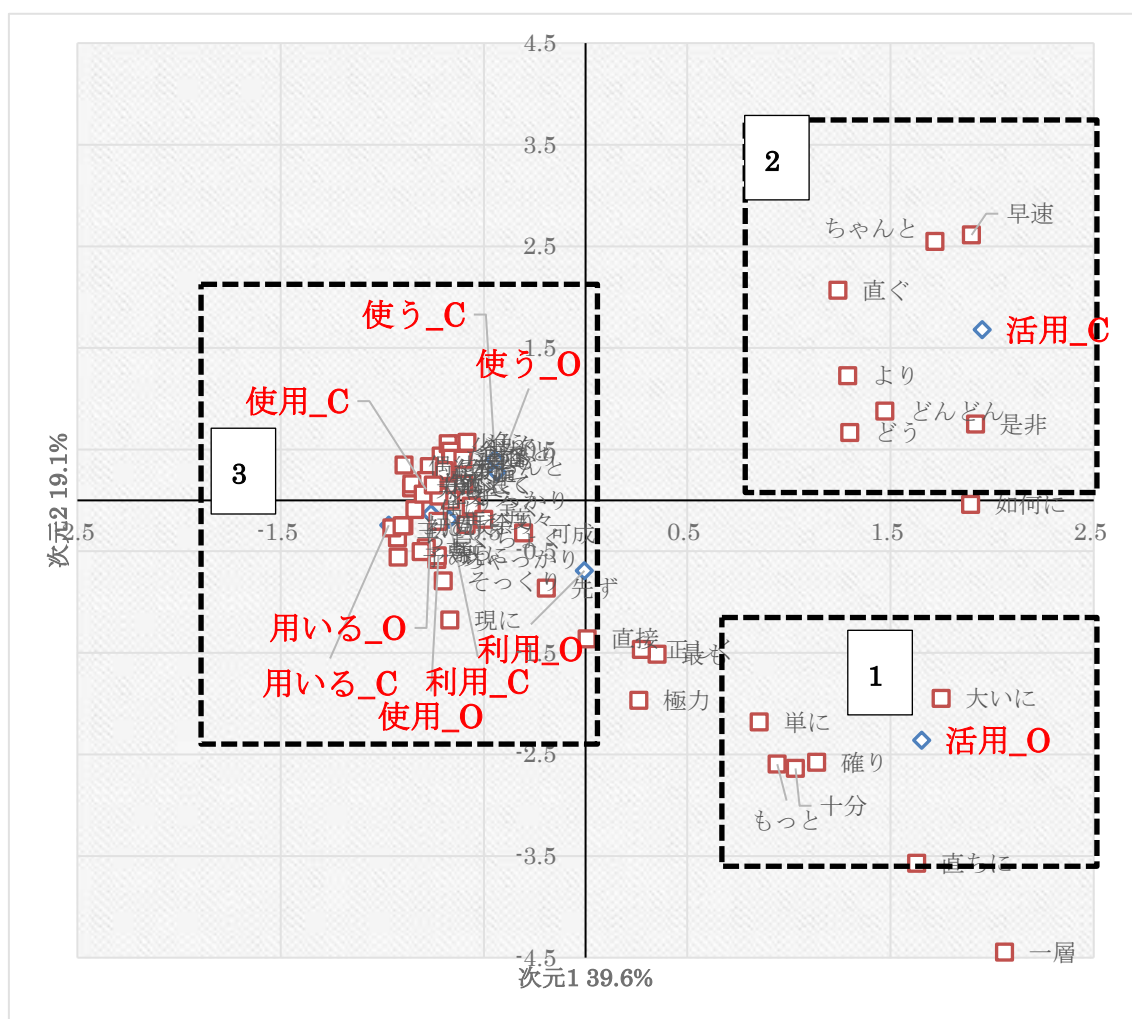
(35) と (36) を見ると、「用いる」は、かたい場面においてもくだけた場面においても、抽象的・社会的なものとの関連が深いということがわかる。たとえば、(35) では、論文において概念の混乱を回避するために、専門用語を特定することを手段として使われている。(36) では、「表示の真偽」を確認するため、「DNA 分析など」をその手段として使われる。

以上より、(1) 文脈のかたさが目的語に影響しうる、(2) 意味が類似していても各語の具体的な使用場面は異なる、という知見が得られた。学習者に指導する際に、これらの情報と各語の特徴目的語を組み合わせる必要があると考えられる。

7.3.4.2 共起する修飾語

5 語とジャンルの組み合わせを第 1 アイテム (全 10 種)、高頻度共起修飾語副詞を第 2 アイテム (上位 61 種) とする対応分析を実施したところ、図 5 が得られた。次元 1 と次元 2 の寄与率はそれぞれ 39.6% と 19.1% となり、全体の 58.8% が説明できる。

図 5 関連 5 語と共起する修飾語副詞による散布図



まず、次元 1 に注目すると、「活用_O/C」とそれ以外が左右に分割されている。このことは、類義語グループの中で、「活用_O/C」が他の語と異なる特殊なまとまりを持っていることを示す。次に、次元 2 に注目すると、「活用」だけが明らかに上下に分離されている。他の語はすべて原点からの ± 1 の範囲に集中している。このことから、使用ジャンルのかたさが、「活用」以外の 4 語に影響を及ぼしていないと言えるだろう。すでに RQ2 で述べたように、「使用」と「使う」はくだけ度が高く、「活用」と「用いる」はくだけ度が低く、「利用」はくだけた文脈においてもかたい文脈においても使われているという全般的な特徴があるが、副詞の共起パターンについて言うと、「活用」は O/C の差によって分けられるが、他の 4 語は O/C 差がほぼないということがわかった。

これにより、上記の散布図は、第 4 象限に位置するグループ 1 (活用_O)、第 1 象限に位

置するグループ 2 (活用_C)、第 2 象限と第 3 象限にまたがるグループ 3 (利用_O/C、使用_O/C、使う_O/C、用いる_O/C) の 3 つに分けられる。

以下、それぞれのグループ別に共起特徴副詞を整理する。整理する際に、「活用_O」と「活用_C」については、当該語の座標を中心として、横軸・縦軸ともに±1 の範囲に入るものを特徴的共起語とみなす。他の語については、8 種の座標の値を平均して、グループの座標を中心として、横軸・縦軸ともに±1 の範囲に入るものを特徴的共起語とみなす。このルールに基づいて抽出された語は以下の通りである。

第 1 グループ：【活用_O】

十分、もっと、確り（しっかり）、単に、大いに

第 2 グループ：【活用_C】

是非、どんどん、より、直ぐ、ちゃんと、早速

第 3 グループ：【利用_O/C】【使用_O/C】【使う_O/C】【用いる_O/C】

きちんと、すっかり、ずっと、そっくり、たっぷり、ちゃっかり、ちよくちよく、もう、一見、一番、可成（かなり）、敢えて、既に、偶に、偶々、決して、結構、現に、再び、暫く、屢（しばしば）、主に、初めて、少し、色々、先ず、専ら、全く、全然、大して、沢山、度々、当然、必ず、又、未だ、勿論、猶（なお）、予め、余り、良く、逆も（とても）

以下、各グループの特徴副詞の傾向をまとめる。まず、第 1 グループについて、かたい文脈における「活用」は、動きの程度を強調する副詞（「十分」「もっと」「しっかり」「大いに」）などとの関連性が深い。

次に、第 2 グループについて、くだけた文脈における「活用」は、動きの程度を強調する副詞（「どんどん」「より」「ちゃんと」）と共起するとともに、相手に何かをしてほしい時に使う、誘いや勧めの意味を持つ副詞（「是非」「早速」）との共起も多い。

最後に、第 3 グループについては、事態の反復を表す副詞（「偶に」「偶々」「結構」「再び」「しばしば」「初めて」「度々」「又」「余り」「良く」「猶」「全然」など）との関連が最も深い。また、時間の順序性を表す副詞（「未だ」「予め」）、使用した物事の量を強調する副詞（「たっぷり」「沢山」）、程度を表す副詞（「きちんと」「すっかり」「かなり」「決して」）、などとも関連する。

以上の傾向から見ると、「活用」は、その動きの程度を強調しているのに対し、他の語は、動きの頻度や繰り返しをより強調していることが明かになった。以下、BCCWJ における具体的な用例を示す。

- (37) 小泉首相は前任者とは比較にもならない有利な立場を、当初から十分活用できることになった。(図書館・書籍、LBp3_00166)
- (38) 各商品の相場、動向については、こちら↓で調べることができます。ぜひ活用してみてください。(特定目的・知恵袋、OC14_06629)
- (39) 産直品の良さを実感できるし、玄関まで持ってきてくれるのも嬉しい(^-^) これからもずっと利用していきたいと思っています☆(特定目的・ブログ、OY14_40280)
- (40) わが国で、鉄筋コンクリートが初めて使用されたのは、横浜岸壁のケーソン（千八百九十）といわれ、京都に橋（千九百五）、神戸に倉庫（千九百六）が造られてからしだいに普及した。(出版・書籍、PB45_00147)
- (41) それは香港や日本の杏仁豆腐であって、本来の大陸の杏仁豆腐は油をたくさん使う中華料理の最後に食べるものなので、さっぱりしているものなんだそうです。(特定目的・ブログ、OY14_06934)
- (42) 古代においては中国の、明治においては西洋の、外国から来た舞踊的なものと呼んでいて、日本古来のものについては、舞踏という言葉はけっして用いられなかった。(図書館・書籍、LBh2_00078)

上記の用例を見ると、まず、「活用」はかたい文脈で「活用」の程度を強調する副詞、くだけた文脈で勧誘を表す副詞との関連が深いということがわかった。たとえば、(37)では、動きの程度を強調する「十分」が「活用」を修飾しており、小泉首相が有利な立場を最大限に生かせることを強調している。(38)における「ぜひ」は、相手に対して積極的、かつ、強く勧める際に使用される副詞であり、聞き手に対して行動を促している。この場合、「ぜひ活用してみてください」という表現は、「こちら」にあるリンクを用いて、商品の相場や動向について調査することが有益であるという強い勧めの意味を含んでいる。

次に、「利用」「使用」「使う」「用いる」は、事態の反復を表す副詞・物事の量を表す副詞・程度を表す副詞との関連が深いということがわかる。(39)における「ずっと」は、

話し手はサービスの良さを実感し、今後もこのサービスを繰り返して利用し続けるという強い意向を表している。(40)における「初めて」は、「鉄筋コンクリート」が、昔は使われていなかったが、「横浜岸壁のケーソン」に初めて使われ、その後広く普及し、今後はこれを継続的に使われることが示唆されている。(41)では、数量を表す「たくさん」を使うことで、中華料理の油分が豊富であることが強調され、大陸の杏仁豆腐が、香港や日本の杏仁豆腐と異なり、よりさっぱりとした味わいを持っている特徴が示唆されている。

(42)における「けっして」は、否定の程度を強調するという意味を持っている。つまり、日本の伝統的な「舞踊的なもの」に関して「舞踏」という言葉が使われていなかったことが、はっきりと述べられている。

以上、本節では、5 語と共起する目的語・修飾語について調査・分析してきた。各語はそれぞれ独自の典型的な共起パターンを持っている一方、ある程度共通の特徴も持っていることが確認された。外国人日本語学習者向けの辞書や教材において、各語独自の共起パターンを提示した上で、共通の特徴や傾向なども提示すれば、学習者がこれらの語の意味用法を学ぶのに役立つだろう。

7.3.5 RQ5 語義配列

以上で、5 語の使い分けに関して、使用頻度・使用環境・動詞活用形・動詞共起の特徴を明らかにしてきた。これらを手掛かりすることで 5 語の使い分けはより平易になると考えられるが、どの語を使うかが決まったとしても、その語をどの意味・用法で使うか、という問題はいまだ解決されていない。

実際、手法のセクションで述べたように、各辞書に出現する用例を筆者が手作業で分析したところ、「利用」は 5 種、「使用」は 2 種、「活用」は 4 種、「使う」は 7 種、「用いる」は 6 種、というように、どの語にも細かな用法の差が認められた。しかし、これらがどの順で多く用いられるのかははっきりしない。この点をふまえると、各語についてどの語義がより高頻度であるかを明らかにすることはきわめて重要な課題となる。

そこで、各語に対して 200 例検証を行ったところ、各語義の頻度順について表 8 の結果を得た。なお、いずれの語についても、累計で 80%になる高頻度語義を太字で記載する。

表 8 5 語の語義頻度順

利用	使用	活用	使う	用いる

1 サービス利用 (38.0%) 2 単純利用 (35.5%) 3 悪用 (12.5%) 4 有効利用 (10.0%) 5 資源利用 (4.0%)	1 全般使用 (99.0%) 2 労力使用 (1.0%)	1 機能活用 (82.0%) 2 能力活用 (10.5%) 3 状況活用 (4.5%) 4 文法活用 (3.0%)	1 一般使用 (85.0%) 2 身体使用 (5.5%) 3 消費 (4.0%) 4 労力使用 (3.0%) 5 技術使用 (1.5%) 6 悪用 (1.0%) 7 特定行為 (0.0%)	1 一般使用 (97.5%) 2 悪用 (1.5%) 3 任用 (0.5%) 4 意図的行為 (0.5%) 5 採用 (0.0%) 6 必要としない (0.0%)

以下、わかったことをまとめる。まず、「利用」については、辞書における語義記載は 2～3 種で、用例に基づく語義の延べ数は 5 種であったわけだが、今回の調査では上位語義は「サービス利用」「単純利用」の 2 種に絞られることが明かになった。

(43) たとえ早目に入院してしまったため、一旦帰宅しなければならない時でもタクシーを利用するのがふつうだからです。(BCCWJ、図書館・書籍、LBr3_00117、サービス利用)

(44) 国産小麦粉を利用したパンを給食に利用するということは、国内産小麦の実需を確保しまして自給率の向上のために大きく寄与するものと私は高い評価をしているところであります。(BCCWJ、特定目的・国会会議録、OM61_00009、単純利用)

上記の (43) では、「タクシー」というサービスを利用することが述べられており、(44) では、「小麦粉」という食品材料を単純に食品に利用することが述べられている。

次に、「使用」については、辞書における語義記載は 1～2 種で、用例に基づく語義の延べ数は 2 種であったわけだが、今回の調査では上位語義は「全般使用」の 1 種に絞られることが明かになった。

(45) 実家で生ゴミ処理機を使用しているのですが、頻繁に壊れて悪臭を漂わせています。(BCCWJ、特定目的・知恵袋、OC08_05001、全般使用)

上記の (45) では、「生ゴミ処理機」という機械を日常で使用しているということが述

べられている。

「活用」については、辞書における語義記載は 2 種で、用例に基づく語義の延べ数は 4 種であったわけだが、今回の調査では上位語義は「機能活用」の 1 種に絞られることが明かになった。

- (46) 下水道や合併浄化槽、農業集落排水施設の高度処理技術の一層の開発・普及を図るとともに、植生の水質浄化機能を活用した安価な水質浄化技術や、小規模処理事業場に適用が可能な、安価で汎用性のある排水処理施設の開発を推進する。(BCCWJ、特定目的・白書、OW5X_00109、機能活用)

上記の(46)では、排水処理施設の植生の水質浄化という価値がある機能を生かして使用しているということが述べられている。

「使う」については、辞書における語義記載は 3~8 種で、用例に基づく語義の延べ数は 7 種であったわけだが、今回の調査では上位語義は「一般使用」の 1 種に絞られることが明かになった。

- (47) 次に妻と子供の姿を夫が撮り、そんなことを繰り返すうちに、フィルムを数本も使ってしまったという。(BCCWJ、図書館・書籍、LBo1_00011、一般使用)

上記の(47)では、家族の写真を撮るために、数本のフィルムを手段として普通に使用しているということが述べている。

「用いる」については、辞書における語義記載は 1~5 種で、用例に基づく語義の延べ数は 6 種であったわけだが、今回の調査では上位語義は「一般使用」の 1 種に絞られることが明かになった。

- (48) テレビ会議システムを用いての遠隔研修会は、物理的な距離という障壁をクリアでき、地域保健活動における継続教育のための有効な手段であることが明らかになった。(BCCWJ、出版・書籍、PB44_00199、一般使用)

上記の(48)では、テレビ会議システムというものを物理的な距離を解消するため、手

段として使用しているということが述べられている。

以上より、5 語の各々につき、実際に高頻度に使用される語義はどれか、が明らかになった。これらは、5 語の使い分けに次いで学習者が知るべき情報であるといえるだろう。

なお、こうした情報が明らかになれば、辞書においても、重要度の高い語義にはより多くの用例を示し、重要度の低い語義の用例数は減らすといった対応が考えられるだろう。この方向性を示すために、既存辞書の用例数を調査したところ、以下の結果を得た。

表 9 辞書用例とコーパス頻度に見る関連 5 語の語義タイプの順位

語	語義タイプ（コーパス順位別）	辞書用例数
利用	1、サービス利用	6
	2、単純利用	2
	(3、悪用)	9
	(4、有効利用)	2
	(5、資源利用)	3
使用	1、全般使用	12
	(2、労力使用)	2
活用	1、機能活用	5
	(2、能力活用)	4
	(3、状況活用)	5
	(4、文法活用)	7
使う	1、一般使用	27
	(2、身体使用)	20
	(3、消費)	17
	(4、労力使用)	13
	(5、技術使用)	14
	(6、悪用)	18
	(7、特定行為)	15
用いる	1、一般使用	17
	(2、悪用)	2
	(3、任用)	5
	(4、意図的行為)	8
	(5、採用)	8
	(6、必要としない)	2

まず、「利用」について、辞書が最も多くの用例を載せているのは、3 番目の「悪用」という意味であるが、コーパスではこの意味は 10%程度にすぎない。こうして考えると、「単純利用」の用例数は少なすぎるのに対し、「悪用」の用例数は多すぎる。

次に、「使用」について、辞書では、最も多い用例は第 1 語義、コーパスで最も頻度が高い用例と重なっており、妥当性が高いと考えられる。ただし、「労力使用」について、コ

一パスにおいて 1%しか出現していないので、これに関する用例が必要であるかどうかは再検討されるべきだろう。

「活用」について、最も用例の多い「文法活用」という語義は、コーパスにおいて 3%程度にすぎない。こうして考えると、1 番目の「機能活用」の用例は少ないのに対し、「文法活用」の用例数は多すぎると言えるだろう。

「使う」について、辞書では、最も多い用例は第 1 語義の「一般使用」で、妥当性が高いと考えられる。ただし、コーパスにおいて、2 番目の「身体使用」は 5%程度、6 番目の「悪用」は 1%程度にすぎない。こうして考えると、この 2 つの語義の用例が多すぎると考えられる。

「用いる」について、最も多い用例は第 1 語義の「一般使用」で、妥当性も高いと言えるわけだが、コーパスにおいて、4 番目の「意図的行為」は 0.5%程度にすぎなく、5 番目の「採用」はほぼ出現していない。これにより、「意図的行為」と「採用」の用例数は多すぎると言えるだろう。

以上で、本章での調査結果によって、より適切な用例を提示することができるだろう。

7.4 まとめ

以上、本章は、書き言葉・話し言葉データを組み合わせ、(1) 使用頻度、(2) 使用環境、(3) 動詞活用形、(4) 動詞共起語、(5) 語義配列という 5 つの観点から、5 種類の類義語の用法の解明を試みた。

もっとも、コーパス調査で得られた情報は細かく、全体像を見通しにくいのも事実である。コーパス言語学では、得られた知見を、しばしば、辞書のような形でまとめることが行われる。そこで、本章のまとめに代えて、今回の分析で得られた知見を辞書項目の形（表 5）で整理しておきたい。なお、下表中の星のマークは当該用法の出現頻度を概念化したものである。最も多いものには 5 つの★を与え、☆は★の 1/2 の意味合いで、頻度データに基づいて星の数を決定している。

表 5 新たな辞書記述の提案

利用する	【口語】★★【文章語】★★★★☆ 【かたい文脈】★★★ 【くだけた文脈】★★★

	<公共施設・人間関係・状況>などがある目的、特に社会的活動のために役立てる。社会的な場面で多用。 ①施設・交通機関・サービスなどの機能を生かして役に立つように使う ★★★ [タクシーを利用して会場に行く/定期券に利用されているカード/こちらの施設を利用ください/通販を利用される方] ②状況や物などの利点を生かして、利益や成果を得るために使う★★★ [機会を利用する/休暇を利用する/ツールを利用する] ③人・社会的な役割などを個人の利益や不正な行動のために使う。★☆ [職務的立場を利用する] ④通例その目的では使用されない身の周りのものや状況などを独創的なアイデアなどによって役立つように使う★☆ [廃物を利用する] ⑤天然資源などを主として工業的手段によって人類の役に立つように使う★ [風力を利用する設置] 【活用】連用・連体・受身 【置換】ほぼ置換不能。
使用する	【口語】★☆【文章語】★★★★★ 【かたい文脈】★☆ 【くだけた文脈】★★★★★ ある目的のために、<物・道具・言語>などを材料・手段として役立てる。個人的な場面で多用。 ①物事・場所・状況などを具体的な目的のために使う★★★★★ [新しい表現を使用します/日本語を使用するコミュニケーション/この素材はよく使用されている/このツールを使用してください/洗剤を使用する場合/この素材が幅広く使用されている] ②賃金を支払い、他人を労務に服させる☆ [人を使用する] 【活用】連体・連用・受身 【置換】基本的に「使う」との置き換えが可能。ただし、「気・頭・神経・体」など、人間の一部と共起できない。
活用する	【口語】★【文章語】★★★★☆ 【かたい文脈】★★★★☆ 【くだけた文脈】★☆ <手段・情報・機能>などを効果的に役立てる。かたい文脈では社会的な場面で、くだけた文脈では個人的な場面で多用。 ①事物を持っている機能などを最大限に生かして効果的に使う★★★★☆ [資源を活用して開発する/市民力を活用した観光戦略/この成果は日常生活で活用されている/早速活用してください/店の情報を活用してください/鹿肉を活用するレシピ] ②人が持っている知識や能力などを様々な可能性を生み出すように使う★☆ [英語力を活用する] ③休憩や空き時間などを効果的に使う★ [休暇を活用して勉強する] ④文法用語★ 【活用】連用・連体・受身 【置換】かたい文脈で使われる場合に「用いる」との置き換えが可能。ただし、「活用」のほうが積極的なニュアンスを持つ。

使う	【口語】★★★★★【文章語】★★ 【かたい文脈】★☆☆ 【くだけた文脈】★★★★★ ある目的のために、＜物・人間の一部分＞を材料・手段として役立てる。個人的な場面で多用。 ①事物をある目的のためにあやつる。★★★★★ [日本語を使って授業する/野菜をこすときに使う道具/この洗剤は広く使われる/よく使う薬] ②ある目的のために身体（一部）を働かせる。★☆☆ [神経を使う/気を使う] ③時間や金銭などをある目的のために消費する。または、無駄に費やす。★ [お金を使う] ④人を雇って働かせる。★ [人を使う] ⑤技術や外国語などをうまくあやつる。☆☆ [英語が使われる社会] ⑥巧みによそおって偽りの状況を作り出す。☆☆ [立場を使う] 【活用】連用・受身・連体 【置換】基本的に「使用する」との置き換えが可能。ただし、「気・頭・神経・体」など、人間の一部分と共起する場合、置き換え不能。
用いる	【口語】☆☆【文章語】★★★★★ 【かたい文脈】★★★★★ 【くだけた文脈】★☆☆ ＜手段・情報・機能＞などの抽象的なものを役立てる。社会的な場面で多用。 ①事物を手段・道具として使う。★★★★★ [仏事に用いられる香/用いる材料/この音がジャズでよく用いられる/英語を用いて話す/最新技術を用いて生産する/デジタル回線で用いる形式/統計表で用いられる用語] ②巧みによそおって偽りの状況を作り出す。☆☆ [立場が用いられる] ③人の能力を評価して、職や地位につけ仕事をさせる。☆☆ [人を用いる] ④特定の目的や意図を込めて行為をする。☆☆ [意を用いる] 【活用】連用・受身・連体 【置換】かたい文脈での「活用」との置き換えが可能。

以上より、コーパスから得られた言語事実を積み上げることで、漢語動名詞の意味を深く掘り下げることができるだけでなく、漢語動名詞と密接に関係している和語動詞の意味の理解を深め、それらの振る舞いを従前以上に精緻に記述できることが示唆された。

こうした記述は、将来、国語辞書のさらなる改善につながる可能性がある。もちろん、既存の国語辞書は、母語話者向けに、特殊で興味深い語義や目につく用法の紹介を重視しているわけだが、国語辞書がコーパス知見を取り込むことで、さらに記述の厚みを増していくことが期待できる。こうしたコーパス準拠（corpus-based）のアプローチは、日本語研究、日本語辞書開発にも一定の意義を持つものであると同時に、日本語教育への貢献と

なることが期待される。

第Ⅲ部 中国語を母語とする学習者の漢語動名詞使用傾向の解明

以上、第Ⅱ部「現代日本語における漢語動名詞の特性」では、はじめに、日本語母語話者コーパスを利用し、頻度論の観点から、現代日本語における重要漢語動名詞を抽出した。また、抽出された語彙をサンプルとして、漢語動名詞の品詞性、統語的特性（連体修飾節の構造パターンの解明）、意味特性（類義の漢語動名詞および和語の振る舞いの差異）などを主として計量的観点から調査してきた。

これらより、現代日本語における漢語動名詞の振る舞いについて多くの知見が得られたわけである。次に、課題とすべきは、こうした漢語動名詞の振る舞いを学習者が正しく認識し、使用できているかどうかという点である。第Ⅲ部では、とくに中国語を母語とする日本語学習者に対象を限定し、学習者による漢語動名詞の理解や使用実態の解明を行っていく。とくに中国語を母語とする学習者に対象を絞ったうえで、漢語動名詞の全般的な使用状況、学習者にとってとくに課題となり得る日中同形の漢語動名詞の使用状況、さらには、学習者の日本語漢語動名詞使用に大きな影響を及ぼすと考えられる中国語と日本語における漢語動名詞の差異、これらの点について明らかにすることを目指す。

第Ⅲ部は3つの章から構成される。以下、各章の内容について概観する。

第8章「中国語母語の学習者による漢語動名詞使用傾向の解明」では、大規模学習者コーパスを利用し、漢語動名詞の誤用率・産出量・語彙難度・特徴語に注目し、JNS および他の L2 日本語学習者との比較によって、CLJ の発話・作文における漢語動名詞の使用特徴を調査して考察する。

第9章「中国語母語の学習者による日中同形漢語動名詞の使用特徴」では、CLJ の過剰・過少に使用した日中両言語における同形漢語動名詞を取り上げ、それらの意味・用法上の異同を調査・分析し、中国語からの影響を検証する。

最後に、第10章「中国語と日本語における日中同形漢語動名詞の対応性」では、対照語彙論の観点から、ベストセラーとなった日本語小説とその中国語版をコーパス化したデータを用いて、日本語における漢語動名詞と中国語表現との対応関係について、同形語比率・日中間一致率・原典版における分散度の3つの側面から調査する。

第 8 章 中国語母語の学習者による漢語動名詞の全体的使用状況

8.1 はじめに

8.1.1 ねらい

世界の日本語学習者の中で、漢字を共有する中国語母語とする日本語学習者（CLJ）は日本語漢語の習得に有利であり、漢語使用上の問題は大きくないという見解が一般に示されている。

しかし、(1) CLJ が世界の他の学習者よりも日本語漢語動名詞を正確、かつ自然に使用できているのか、(2) CLJ が JNS と同じく、正確で自然な日本語漢語動名詞使用を行えているのか、(3) 上級者だけでなく初級者や中級者も正確で自然な日本語漢語動名詞使用を行えているのか、といった点は必ずしも明らかではない。

そこで、本章においては、漢語動名詞使用の誤用率・産出量・語彙難度・特徴語という 4 点を主たる分析の観点とした上で、(1') CLJ、韓国語を母語とする日本語学習者（KLJ）、英語を母語とする日本語学習者（ELJ）間の国際比較、(2') CLJ 全体と JNS の比較、(3') CLJ の各習熟度段階別の比較を順に行い、CLJ の高頻度漢語動名詞使用の実態を探っていくこととした。

8.1.2 背景

第Ⅱ部では、大規模日本語母語話者の書き言葉と話し言葉コーパスを用い、現代日本語における重要漢語動名詞 200 語を抽出した上で、その言語的特性に関して調査・分析してきた。しかし、CLJ 向けの漢語動名詞の指導教材や指導システムを開発するためには、母語話者（JNS）の使用実態を把握するだけでは不十分で、CLJ の漢語動名詞の使用実態の解明も不可欠であろう。そこで、本章では、学習者コーパスを用いて、CLJ が産出した漢語動名詞の実態について調査する。

CLJ の漢語動名詞使用実態の調査に関して、留意すべき観点が 4 つある。1 点目は、話し言葉と書き言葉を区別して調査を行うべきだということである。というのも、話し言葉と書き言葉の産出プロセスが異なるため、学習者が話す活動と書く活動から生じる言語的特徴に違いがあると考えられるからである。たとえば、口頭コミュニケーションでは常に即時反応が求められるため、学習者が母語に頼ることがあり、書き言葉よりも漢語動名詞を過剰に使用する可能性がある。ゆえに、片方だけの調査で、CLJ の漢語動名詞使用の実態を語ることは適切ではないだろう。そこで、本章では、発話と作文の両方を見ることに

した。

2 点目は、漢語動名詞使用の実態を調査するにあたっては、出現頻度だけでなく、それ以外の要素（難度や特徴的な過剰・過少使用）も組み込んだ分析を行うべきだということである。以下は、I-JAS に含まれるストーリーライティングタスク 2（SW2、『鍵』）の産出実例である。JNS 作文と CLJ 作文は、ともに同じ漫画を描写したものである。(1) は JNS の用例で、(2) は CLJ の用例である。なお、漢語動名詞は【】で示す。

- (1) ようやく【帰宅】したケンが鍵を持っていないことに気づきました。しかたないので、2 階で寝ているマリを呼んで開けてもらおうと思いました。しかしマリはケンが鍵を持っていると思いこみ、ぐっすりと眠っていました。何度呼んでもマリは顔を出してくれないので、ケンは梯子を持ってきて、マリの部屋の窓から入ろうと思いました。梯子を中段まで昇ったところで、パトロール中の警官に呼び止められました。「私はこの家の主人で決して怪しい者ではありません」と【抗弁】していると、騒ぎに目をさましたマリがケンの身柄を【証明】してくれました。警官は「紛らわしいことはしないように」と一言【注意】して、一件【落着】しました。(JJJ50)
- (2) ある晩、ケンさん【残業】していました。残業をしたあと、彼は家にかえりました。でも、彼は家に帰えた（帰った）とき、マリさんもう寝てしまいました。ケンさんは家の外で大声で呼びましたが、マリさんは聞こえませんでした。しかたがないと思って、ケンさんは、梯子を窓の前に運び（運び）ました。ケンさんは窓を通して（通って）家に入りたかったです。ちょうど（ちょうど）ケンさんは梯子にのぼったとき、ある警官が見られてしまいました。警官はケンさんを降る（降りろ）と【命令】しました。ケンさんは事実を警官さんに話しました。警官さんは笑ってしまいました。そのとき、マリさんは起きて外を見にきました。最後、ケンさんは家に入りました。(CCH31)

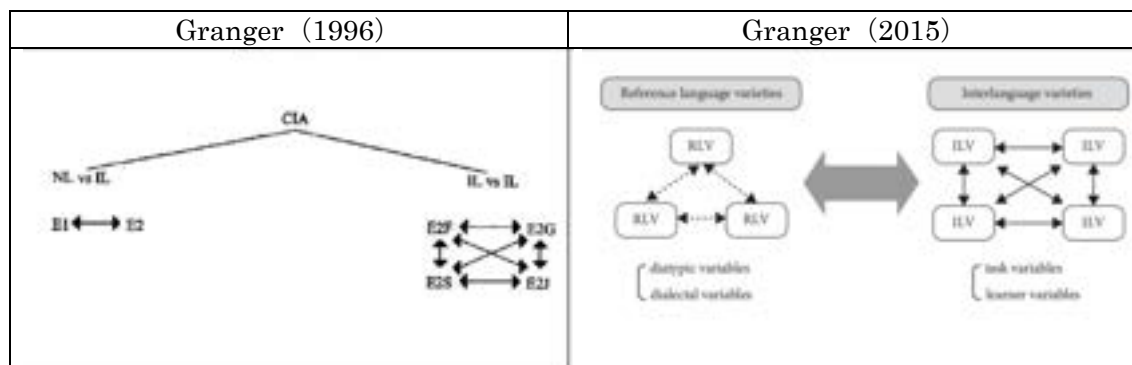
(1) と (2) を比較すると、CLJ の漢語動名詞の産出量が圧倒的に少ないことに気が付く。しかし、CLJ と JNS の差はそれだけにとどまらない。たとえば、語の難度に関して、JNS は「抗弁」「(一件) 落着」などのような難度の高い漢語を産出しているのに対し、CLJ は「残業」や「命令」といった難度レベルが低い漢語しか使えていない。また、こうした難度に関わる問題に外に、CLJ が無意識的に過剰・過少に使用している漢語が存在す

る可能性もある。そこで、本章では、(a) 産出量（トークン・語彙多様性）に加え、(b) 語彙難度、(c) 特徴語、の指標を同時に分析することとした。

3 点目は、CLJ の習熟度をわけて調査すべきだということである。上記の CLJ 用例は、中級下の学習者によるものである。このことをふまえれば、上記で見られた CLJ 特性は、CLJ 全体に波及するものではなく、このレベルの学習者の固有特性になっている可能性もある。そこで、本章では、異なる習熟度段階の CLJ の漢語動名詞使用実態を比較し、習熟度の上昇につれて、漢語動名詞使用がどのように段階的に変化するかを検討する。

最後に 4 点目は、CLJ の特性を多角的に把握すべきだということである。第 1 章でも述べたように、Granger (1996) は、中間言語対照分析 (contrastive interlanguage analysis: CIA1) モデルを提唱し、目標言語の母語話者による言語運用と学習者による言語運用の比較や、異なる母語を持つ学習者による L2 運用の比較を行うことによって、学習者全体の特徴と、特定の L1 背景を持つ学習者の固有特性を分析することが可能であることを示した。また、Granger (2015) は、CIA が母語話者モデルに依存しているという批判を受け、「母語話者言語 (NL : native language)」という用語を、「参照言語変種 (RLV : reference language varieties)」という用語に置き換え、新たな CIA2 モデルを発表した (表 1)。ただ、いずれのモデルであっても、学習者といわゆる母語話者の比較と、母語を異にする学習者間の比較が、CIA の構成要素であることは変わらない。この点をふまえ、本章では、CLJ と JNS 間の比較だけではなく、韓国語母語の日本語学習者 (KLJ) および英語母語の日本語学習者 (ELJ) との比較も行うこととする。なお、I-JAS の JNS データは年齢や性別の異なる 50 人からなっており、Granger (2015) で言う多様性を一定の範囲で考慮したものになっている。

表 1 Granger が提唱された CIA モデル



以上で述べたように、本章は、(1) 書き言葉・話し言葉の同時分析、(2) 3 観点調査（産出量・難度・特徴的過剰過少使用）、(3) 習熟度別調査、(4) 学習者・母語比較と、母語の異なる学習者の同時分析、という 4 つの理念に基づき、CLJ の漢語動名詞使用の特徴をより多角的に観察していく。

8.2 リサーチデザインと手法

8.2.1 研究目的と RQ

すでに述べたように、本章においては、漢語知識を有する CLJ の日本語漢語動名詞使用能力の実態を検証するという目的のもと、(1) CLJ が世界の他の学習者よりも日本語漢語を正確、かつ自然に使用できているのか、(2) CLJ が JNS と同じく、正確で自然な日本語漢語動名詞使用を行えているのか、(3) 上級者だけでなく初級者や中級者も正確で自然な日本語漢語動名詞使用を行えているのか、という 3 点の解明を目指す。ここでは、漢語使用の正確性と自然さを示す指標として、誤用率・産出量・語彙難度・特徴語の 4 観点に注目しつつ、発話と作文のそれぞれを独立した 2 つの研究課題とした上で、以下の 3 つの研究設問を設定する。

第 1 課題 発話における漢語動名詞の使用実態

RQ1 CLJ、KLJ、ELJ の間で 4 指標（誤用率・産出量・語彙難度・特徴語）に差はあるか？（国際比較）

RQ2 CLJ と JNS 間で 3 指標（産出量・語彙難度・特徴語）に差はあるか？（NS 比較）

RQ3 CLJ の異なる習熟度間で 4 指標（誤用率・産出量・語彙難度・特徴語）に差はあるか？（習熟度比較）

第2課題 作文における漢語動名詞の使用実態

RQ1 CLJ、KLJ、ELJ の間で4指標（誤用率・産出量・語彙難度・特徴語）に差はあるか？（国際比較）

RQ2 CLJ と JNS 間で3指標（産出量・語彙難度・特徴語）に差はあるか？（NS 比較）

RQ3 CLJ の異なる習熟度間で4指標（誤用率・産出量・語彙難度・特徴語）に差はあるか？（習熟度比較）

ここで、分析に先立ち、先行研究の知見をふまえた仮説を示しておきたい。

まず、RQ1（国際比較）では、（国際比較）について言うと、豊富な漢字知識を有する CLJ の誤用率は低い、また、同じく漢字知識を持つ KLJ の漢語動名詞の使用は CLJ と似ているが、漢字知識を持たない ELJ の漢語動名詞の使用は CLJ との差が大きいと予想される。

次に、RQ2（NS 比較）では、(a) 産出量について、豊富な漢字知識を有する CLJ 全体は、日本語においても JNS より漢語動名詞を多く、かつ、多様に産出しているのではないかと考えられる（李、2016）。(b) 語彙難度について、CLJ は母語からの影響を受け、JNS が多用している日常的な漢語動名詞を少用しており（李、2016）、または日本語で存在していない漢語動名詞を使用している可能性があるため、CLJ 全体が産出した漢語動名詞の語彙難度は JNS より高いのではないかと予想される。(c) 特徴語について、過剰使用語には日中同形語が多く、過少使用語には中国語に存在しない語が多いのではないかと考えられる。

最後に、RQ3（習熟度比較）では、(a) 誤用率について、CLJ は習熟度の上昇につれて、日本語知識が豊かになり、誤用が減少していると予想される。(b) 産出量について、CLJ は習熟度の上昇につれて、使用した漢語動名詞の総語数は増加していると予想される。ただし、初中級レベルの CLJ は母語にある漢語をそのまま日本語として使用しがちで、習熟度の上昇につれて和語の使用量が増加し、漢語の使用率が減少していく可能性があるため、習熟度の上昇に伴い CLJ が使用した漢語動名詞の多様性が減少していると推定される（張 2021）。(c) 語彙難度について、習熟度の上昇につれて、使用した漢語動名詞の難度は徐々に増加しているが、レベル間に顕著な差が見られないのではないかと考えられる（鄧 2020、張 2021）。(d) 特徴語について、習熟度が上昇しても、CLJ だけが多く使用する特

徴語の問題は解消せず、漢語使用の点で CLJ は JNS に接近していかないものと予想される（鄧 2020）。

8.2.2 データ

8.2.2.1 コーパスとタスク

すでに 3.1 で述べたように、本章は「多言語母語の日本語学習者横断コーパス」(I-JAS)を使用する。なお、I-JAS で行わせている 12 種のタスクのうち、第 1 課題では、発話データ量が最も多く（総語数は 3,168,198 語）、自然会話や日常会話に最も接近する「対話」というタスクのデータを絞って、第 2 課題では、学習者と母語話者の同じテーマの作文における語彙使用を比較できるストーリーライティング (SW) のデータを絞って分析を行う。コーパスの概要はすでに 3.1.2.2 で述べたが、具体的なタスクの中身はまだ紹介していない。そこで、本節で、今回の分析に使用したデータに関するタスクの細部を見ておこう。

まず、第 1 課題で用いる対話タスクは学習者と日本語母語話者である調査実施者が自然な会話を 30 分程度で行うものであり、発話データの主要なタスクである。当該タスクは学習者間のデータを比較するため、統制された 7 種のトピック（全 15 の話題）を設定し、それに沿って会話をできる限り自然に進めるようにした。具体的な流れは以下の表 1 のようになる。

表 2 I-JAS の「対話」タスクの流れ

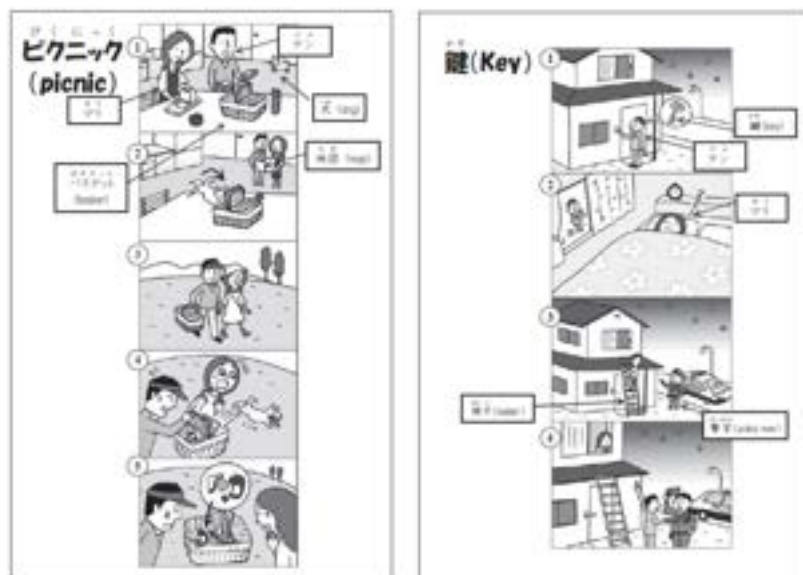
トピック	話題の内訳
(1) ウォーミングアップ	天候などリラックスする雰囲気作り／昨日の 1 日の出来事
(2) 日本について	日本語学習の動機・日本に対する関心事／日本語サブカルチャー（ドラマ・映画・本など）
(3) 学習者の出身地について	出身地について／出身地の料理や食べ物や有名な産物／出身地の有名な観光地、推薦できる観光スポット
(4) 出身地の話題から過去の体験について	出身地の誕生日（伝統的行事）の祝い方
(5) 過去の体験について	幼少期の体験／これまで通った学校の好きだった先生の話／恐怖体験（幸福体験）の話
(6) 過去から将来へ	将来の進路や夢について／議論「都会に住むか、田舎に住むか」／議論「お金が大事か、時間が大事か」

(7) クールダウン	明日や今後の予定などを聞いて、激励の言葉を述べる

表 2 に示したように、7 種のトピックには、学習者本人に関わる過去、現在、未来についてだけでなく、意見陳述や反論などができるようなトピックも設定した。なお、JNS に「日本について」というトピックに関して、質問したのは「日本語学習の動機・日本に対する関心事」という話題ではなく、「趣味」や「今熱中していること」である。学習者と母語話者のデータにはこのような違いがあるが、1 つの話題にしか触れていないため、対話タスクのデータは一定の統制性があると考えられている。

次に、第 2 課題で用いる SW タスクでは、「ピクニック」に関する 5 コマ漫画 (SW1) と「鍵」に関する 4 コマ漫画 (SW2) を見た後、指示された冒頭文 (SW1:「朝、ケンとマリはサンドイッチを作りました。」; SW2:「ケンはずちの鍵を持っていませんでした。」) に続け、漫画に沿って作文する (図 1)。なお、この漫画は先に行ったストーリーテリングと同じ資料であるため、参加者はあらかじめストーリーの内容を十分に理解した上で作文できると考えられる。

図 1 I-JAS のストーリーライティングタスクで用いる漫画 (迫田ほか 2020)



8.2.2.2 ターゲットデータ

すでに述べたように、本章では、CLJ の高頻度使用漢語動名詞の特徴は、CLJ に特有の

ものであるか、あるいはその他の学習者にも共通して認められるのかという点を確認していく。ここで考慮すべきは、CLJ 以外に、どのような学習者を対象にするか、という点である。I-JAS には 12 種類の母語背景を持つ学習者のデータが収録されているわけだが、この中には、学習者数の少ないものも多い。そこで、本研究では、世界の日本語学習者の大部分をカバーできるように比較対象を定める方針を取った。

表 2 は、国際交流基金（2018）の学習者調査による日本語学習者の分布情報をまとめた結果である。なお、英語圏については、I-JAS がデータを収集している 4 か国（アメリカ、イギリス、オーストラリア、ニュージーランド）に絞って人数を計算した。

表 3 日本語学習者の分布

母語	学習者数	比率
中国語（中国、台湾を含む）	1,174,784	30.50%
韓国語（韓国）	531,511	13.80%
英語（英米豪 NZ）	624,884	16.22%
その他	1,520,595	39.48%

以上より、中国語・英語・韓国語の上位 3 種で、世界の日本語学習者の約 6 割を占めることがわかった。そこで、本研究では、これら 3 種の学習者を調査のターゲットとする。

なお、CLJ、ELJ、KLJ の 3 種の学習者を相互比較することには、漢字文化を有するアジア圏の日本語学習者（CLJ、KLJ）と、漢字文化を持たない非アジア圏の日本語学習者（ELJ）の直接的な比較が行えるという点で、研究上も意義を持つものである。

8.2.2.3 学習者習熟度の分類

3.1 節ですでに述べたように、I-JAS は学習者の言語能力を客観的に判断するため、言語知識に関する能力を中心に測る J-CAT と言語運用能力を測る SPOT という 2 つの言語テストを行っている。I-JAS の学習者データを利用した過去の研究では、J-CAT の総合スコアに基づき習熟度段階を分類したものが多かったが、本研究は、学習者の日本語能力をより多面的に見とる観点から、J-CAT と SPOT の両方のスコアに基づいて、学習者の習熟度分類を行いたい。

J-CAT には、4 技能別（聴解・語彙・文法・読解）のスコアがある。また、SPOT は単一のスコアである。これら 5 種のスコア情報を合成するには、通例、平均を用いるわけで

あるが、平均には、個々の変数が持つ単位情報と分散情報を無視して、すべての変数の重みを機械的に同列に扱うという問題点がある。5 種のスコアが持つ元の情報をできるだけ保存しながら、それらを効率よく合成するため、本研究は J-CAT と SPOT のスコアを主成分分析にかける。その結果、第 1 主成分はすべてのスコアにプラスの負荷量がかかっており、寄与率は 74.4% で分散の大半を説明することができることが確認された。各変数の主成分負荷量について、SPOT が 0.905、J-CAT の語彙が 0.877、聴解が 0.867、文法が 0.849、読解が 0.812 となった。これにより、本研究は学習者の習熟度を以下のように分類した。

表 4 本研究の学習者習熟度分類

習熟度	主成分得点	SPOT 平均スコア	J-CAT 総合平均スコア	CLJ	KLJ	ELJ	合計
初級	≤ -1	50.65	119.78	1	5	37	43
中級下	$-1 \sim 0$	63.60	178.51	33	9	41	83
中級上	$0 \sim 1$	73.82	234.28	102	33	20	155
上級	≥ 1	82.45	290.50	64	53	2	119

表 4 に示したように、本研究は、主成分得点に基づき、調査ターゲットの CLJ・KLJ・ELJ を初級・中級下・中級上・上級の 4 つの習熟段階に分類した。各習熟度の学習者の SPOT 平均スコアと J-CAT 総合平均スコアを算出して、3.1.2.2 の表 6 (SPOT によるレベル分類および J-CAT によるレベル分類) に対照することができる。なお、RQ2 習熟度を比較する際に、1 名のみの CLJ 初級を除き、中級下・中級上・上級の 3 つのグループを対象にする。RQ3 国際比較する際に、該当学習者数が相対的に多い中級上レベルを対象にする。

8.2.3 手法

個々の RQ の検討に先立ち、「中納言」の検索システムを用いて各群が使用した漢語動名詞を抽出する。具体的な検索条件として、キーを語種が「漢」、かつ、品詞の大分類が「名詞」、さらに、後方共起として、語彙素が「為る・出来る・致す・為さる・下さる」と設定する。

RQ1 (国際比較) では、まず、誤用率について、CLJ・KLJ・ELJ の中級上のデータを絞って、学習者の漢語動名詞に関する純粋な誤用の率 (純粋誤用率) と、純粋な誤用とまでは言えないものの、漢語動名詞使用にあたって語法的に問題が認められる率 (不適切使用率) を調査し、これら 2 つをあわせた比率を広義の誤用率とみなす。以下は、純粋誤用

と、不適切使用の実例である。

(3) あの、時は一、(人名1) 先生、私の生活を、とても【関心】しました (CCH24)

(4) 公務員のテストを【準備】しているので毎日勉強しています (CCH02)

たとえば、(3) について言うと、日本語の「関心」は一般名詞であり、サ変動詞用法を持っていないが、CLJ はサ変動詞として誤って使用してしまった。こうした漢語品詞の誤用や、意味的誤用などは純粹誤用と認められる。(4) について言うと、「テストを準備している」は明らかな誤用ではないが、一般的にテストを受ける側ではなく、テストの問題を作る側の視点からの用法である。こうした誤用は不適切使用と認められる。

次に、CLJ・KLJ・ELJ 中級上の個々人について、使用された漢語動名詞のトークン数、タイプ数、語彙多様性 (タイプをトークンの平方根で割る Guiraud の R 値)、語彙難度を調査し、トークン・R 値・語彙難度に対して群ごとの平均値を求める。なお、語彙難度の推定に関しては、日本語文章難易度判別システム「jReadability」(李、2017) を使用する。これは、個々の語について、「日本語教育語彙表」の 6 つのレベルと級外レベルを表す 1～7 の難度値を出力するものである。最後に、すべての学習者が JNS に対して有意に多用する特徴的漢語動名詞を抽出する。特徴度の指標は、対数尤度比統計量 (log-likelihood ratio : LLR) を使用することとし、有意水準 5% に相当する統計量 3.84 を満たすものを、特徴的に過剰使用または過少使用されている語とみなす。なお、本研究は探索的手法に基づくものであることから、特徴語の可能性のあるものをより広く集めて観察できるよう、多重比較補正はあえて行わないこととする。特徴語の抽出と統計量の計算は、多言語対応のコーパスコンコーダンスである AntConc (3.5.9) の Keyword List 機能を使用する。

RQ2 (NS 比較) では、まず、すべての CLJ、および JNS の個々人について、使用された漢語動名詞のトークン数、タイプ数、語彙多様性 (R 値)、語彙難度を調査し、トークン・R 値・語彙難度に対して群ごとの平均値を求める。次に、すべての CLJ が JNS に対して有意に多用する特徴的漢語動名詞を抽出する。なお、CLJ が過剰・過少に使用した漢語動名詞における日中同形語の使用率を調査する際に、日中対照漢字語データベース (松下他、2020) を用い、調査対象語それぞれに対して、日中意味対応タイプを検索する。なお、当該データベースに収録されていない漢語について、中国語母語話者である筆者の判断でタイプを決める。

RQ3（習熟度比較）では、RQ1の手順と同様に、まずは、CLJの中級下・中級上・上級の誤用率を調査する。次に、3群が使用した漢語動名詞のトークン数・R値・語彙難度に対し群ごとの平均値を求める。最後に、各群がJNSに対して有意に多用する特徴的漢語動名詞を抽出する。

8.3 結果と考察

8.3.1 第1課題（発話）

8.3.1.1 国際比較

8.3.1.1.1 誤用率

まず、CLJ・KLJ・ELJ 中級上レベルが産出した純粋誤用率および不適切使用率を調査した結果、図1を得た。

図1 CLJ・KLJ・ELJの誤用率

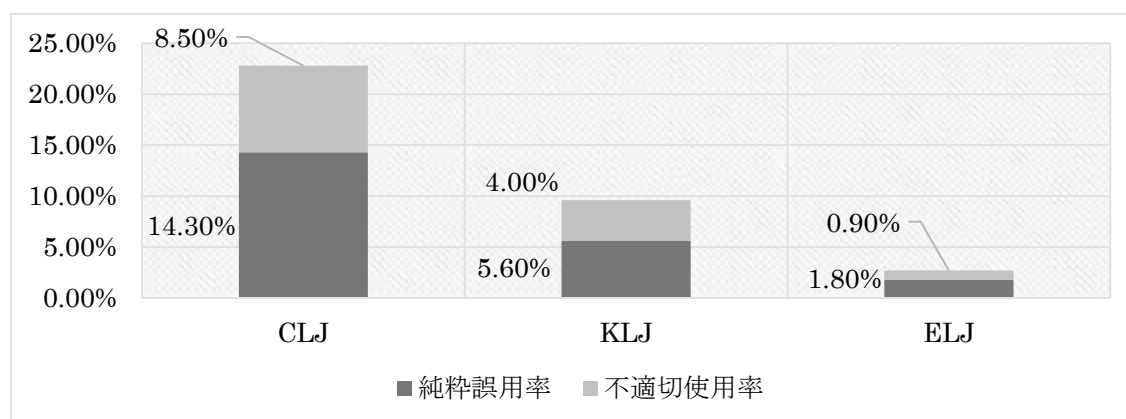


表1に示されるように、両者を加えた広義の誤用率についてはCLJ（22.8%）>KLJ（9.6%）>ELJ（2.7%）という順序関係になり、CLJが産出した誤用は圧倒的に多いということがわかった。また、純粋誤用率について、CLJ>KLJ>ELJ、不適切使用率について、CLJ>KLJ>ELJという順序関係になって、CLJの誤用率は圧倒的に多いということがわかった。

仮説では、豊富な漢語知識を有するCLJの誤用率は低いと考えたが、実際には、CLJが最も多く誤用することがデータから示された。また、同じく漢字知識を持つKLJの漢語動名詞の使用実態はCLJと似ていると予想されたが、今回の結果はこの仮説を支持しなかつ

た。CLJ の持つ母語の漢語知識は、肯定的な影響よりも、むしろ、負の影響を及ぼしているのではないかと考えられる。

以下、3つの学習者グループが産出した純粋誤用の例を見てみよう。

- (1) 病気、心臓病とかそのがん、は一、うん【解決】しにくいと思いうので〈うん〉、すうーんその人が〈うん〉強いだと思います (CCT41)
- (2) 彼女は、んと、学校を、ちょっと休憩、一年も、【休憩】した。私は、自分のせいと、おもい、と思いますからー (CCS30)
- (3) があると、なんかお金より時間があると、自分が、何かー【目標】したものを、その接する？さ接する機会がいっぱい、ありますから#<C>なるほどねー (KKD02)
- (4) 【戦役】したんですけど〈うんうん〉、そこ行っても一学んだのは大人は大人〈うーん〉、(KKD23)
- (5) 国語を勉強しながら、また【演技】しないといけないので (EAU15)
- (6) 私の友達を、【絵画】します。(EAU30)

(1) ～ (6) は、すべてが漢語動名詞の誤用だと考えられる。たとえば、(1) での「心臓病を解決する」は「心臓病を治療する」、(2) での「学校を休憩する」は「学校を休学する」というべきであろう。(3) (4) (6) は、動詞として使えない漢語を誤ってサ変動詞として使ってしまった誤用例である。(5) の「演技」は、「学習」や「練習」の誤りと思われる。

次に、不適切使用の例を見てみよう。

- (7) でも私は観光地としては上海は【推薦】しません (CCM05)
- (8) 健康の、んー健康のことを【注意】して、【注意】する (CCH33)
- (9) なんかその【広告】する会社とかを一調べてみてー (KKR30)
- (10) その高校を【進学】するために (EAU20)

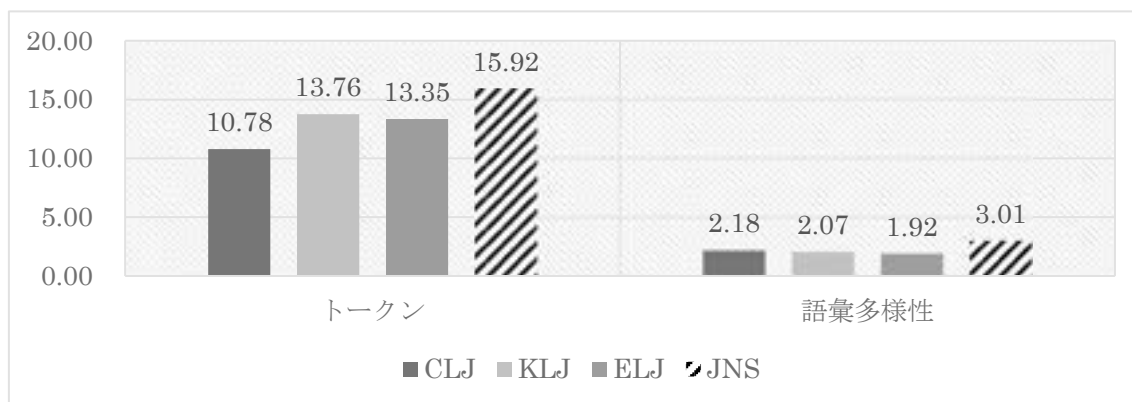
(7) については、明らかな誤用ではないが、話し言葉の場合、「上海は推薦しません」とりも、「上海は(を)お薦めしません」のほうがより適切だろう。(8) については、「健康のことを注意して」ではなく「健康に注意する」、(9) については、「広告する会社」で

はなく「広告会社」、(10)については、「高校を進学する」ではなく「高校に進学する」と修正すべきだと考えられる。

8.3.1.1.2 漢語動名詞の産出量および難度

中級上レベルの CLJ、KLJ、ELJ の個々人について、発話における使用された漢語動名詞の産出量（トークン・語彙多様性）・語彙難度を調査し、トークン・R 値・語彙難度に対して群ごとの平均値を求めた結果、図 2・図 3 を得た。なお、JNS の 3 指標は参照として示す。

図 2 中級上レベルの CLJ・KLJ・ELJ の発話におけるトークン・語彙多様性

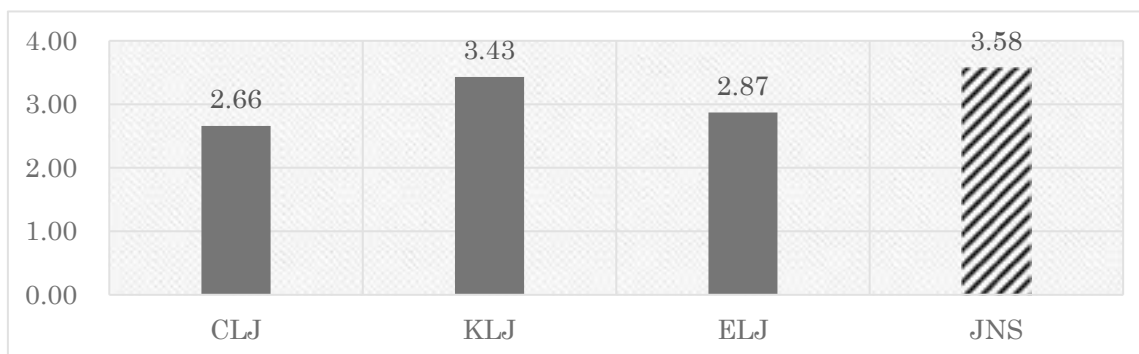


まず、図 2 に示されるように、産出した漢語動名詞のトークンについて、KLJ>ELJ>CLJ という順序関係になった。ANOVA を行った結果、母語要因の主効果が有意であることが確認された ($F(2, 152) = 3.185$, $\eta_p^2 = .040$, $p = .044$)。また、多重比較により、CLJ と KLJ の両群間には有意差があったが、他の群間には有意差がなかった。語彙多様性について、CLJ>KLJ>ELJ という順序関係になった。ANOVA を行った結果、母語要因の主効果が有意ではなかった ($F(2, 152) =$, $\eta_p^2 = .022$, $p = .184$, ns.)。仮説では、同じ漢字知識を持つ KLJ の漢語動名詞の使用は CLJ と似ているが、漢字知識を持たない ELJ の漢語動名詞の使用は CLJ との差が大きいと予想されたが、今回の結果はこの仮説を支持しなかった。なお、3 つの学習者グループはいずれも JNS 水準に到達していないことも確認された。

これにより、学習者の母語は漢語動名詞の産出量には一定の影響を及ぼしているが、その影響は必ずしも顕著的ではないことが明かになった。発話における漢語動名詞の総語数

と多様性の不足は、CLJ だけではなく、日本語学習者全般に共通する課題と言えるだろう。

図 3 中級上レベルの CLJ・KLJ・ELJ の発話における語彙難度



次に、図 3 に示されるように、語彙難度について、 $KLJ > ELJ > CLJ$ という順序関係になった。ANOVA を行った結果、母語要因の主効果が有意であることが確認された ($F(2, 152) = 17.194$, $\eta_p^2 = .190$, $p < .001$)。また、多重比較により、CLJ と ELJ の両群間には有意差がなかったが、他の群間には有意差があった。なお、KLJ の語彙難度は JNS に接近しているが、CLJ と ELJ はいずれも JNS とのズレが大きいということがわかった。このような結果は、CLJ の漢語使用が KLJ と似ているが、ELJ との差が大きいという仮説が支持されなかった。豊富な漢字知識を持つ CLJ は、漢字知識を持たない ELJ と同じように、JNS より簡易な漢語動名詞を使用していることが確認された。

以下は、CLJ・KLJ・ELJ の同じトピックの実例を見てみよう。

- (11) えー、午後は〈うん〉、あの一えージェズ（ジャズ）ダンスを、【勉強】しました、だから〈へー、勉強とゆうのは？〉あー〈習ってるんですか？〉うー、はい...そこで、ジャズダンスを【勉強】しました...えー、んー正直に言ってあの一〈うんうん〉、あー最初の時は、うー、日本語一、【勉強】したくなかったです...あの一、うー、んー〈はい〉、科学とか（とか）〈はい〉、あの一物理とか、あそれだけを【勉強】しました〈んー〉うー日本、うーん、す、だから、大学に入った時は〈はい〉あ経済とか金融を、えー【せんめん（専門）】したいですが、えーその（連体詞）時あの一、大学入学試験の点数は、えーちょっと低いな（過剰使用）ので〈へー〉、えーはい、えー【大学名 1】に、あー日本語、を【勉強】させました...えーでも、あー日本語、

を、【勉強】するの（過剰使用）間は、あーだんだん日本語への興味は深くなって
 〈うん〉、あの一、う一、将来は、もう、大学院生になってあ日本語を【研究】、し
 たいな（過剰使用）ので、...やっぱり人は、あ一、他（ほか）の人と、あ一【接触】
 しなければならないと思います〈あーそうですか {笑}〉...あ一、中学生の時、は、
 え一、英語の、先生、に、には、あーからはいろいろな、ことを【勉強】しました
 〈へー〉...あ一彼女ーはえー自分の子供、を、えーあまり、あーあまり、【かいしん
 （関心）】しないで、え、私たち、えす、そわ、あ一、八一、八十一め（名）〈ふー
 ん〉、になった、えー【大学名1】に来ました、あ日本語を【勉強】します {笑}
 （CCH06）

- (12) あ、あれ、あれは一、もう【結婚】してる一、夫婦、ふたつつ（二つ）の夫婦が一、
 まあ、これ日本語で何（なん）て言います、かぜ、これ、けこ、【結婚】した一、男
 と【結婚】した女が、ま互いに、愛をする？、そんなふ、ふりゅん（不倫）？...そ
 れを【説明】する過程が、まあ、あ一納得力あるように【説明】したらまあ、愛す
 る一んだから、〈うん〉まああんな形の、愛もあるんだって、【納得】できるよう
 なる映画もあるんですけどー...【美化】しようとする、その（連体詞）気がして一、
 説得力も全然ないしー...あ一はいまあ、日本語ー日本語は一、でも難しいけど一、
 他（ほか）の言語ーに比べたらちょっと韓国人には一、〈うーん〉【勉強】すること
 が、他（ほか）の言語と比べたらあんまり難しく一、ないので一、〈うん〉まあ【勉
 強】しよう...学院みたいなところで、【勉強】一し、しました...まあ、ちょっと学生
 一、学生を、ん一、あ一、先生、の種類は多く、ありますけどー {笑} まあ、学生
 として【緊張】、するようにな 〈うんうんうんうん〉、なる？ 〈うんうん〉 そんな先
 生、は一...お一、これ一、これが【理解】できるんだ、ゆう、ってゆう、そんな気
 持ちになってー（KKR51）

- (13) 漢字、を【練習】、〈うーん〉する、チャンスがないです〈あーそうですかー、へー、
 日本語を一、【勉強】しようと思ったのはどうしてですかー？〉あの一、中学校から
 〈うん〉【勉強】しています。あの一、シアトルの普通の、あの一、公立、〈うん〉
 中学校で、日本語【勉強】できます。...中学校一年生でした、〈うーん〉から、うー
 ん理由はわかりません、たぶん 〈うん〉、姉はフランス語を【勉強】して、〈うん〉
 兄一は、スペイン語を【勉強】して...そして一、〈うーん〉うーん、中学校【卒業】
 した後（あと）一、〈うん〉あの一先生と、〈うん〉あのクラスメイト一、と、あの

他の一、〈うん〉その、中学校の他の先生、〈うん〉たとえば、あの理科の先生とか
 〈うん〉、あの一、と一緒に、たぶん十五人で、〈うん〉二週間、日本へ、【旅行】し
 ました。...あの一、めっちゃ安い値段で、〈うんうん〉あの一、ゆいろ（いろいろ）
 一な、〈うん〉【観光】できます...まあ、いい、いい【体験】できます、時間あると
 いい【体験】できます（EUS32）

（11）～（13）の実例について言うと、延べ語数は 12 語・12 語・11 語、R 値は 1.51・
 2.02・1.80 であることが確認された。用例を観察すると、いずれの学習者も、特定の語を、
 過剰に反復していることがわかる。たとえば、（11）では「勉強」が 8 回で、（12）では
 「結婚」が 3 回で、（13）では「勉強」が 5 回で繰り返したことが確認される、日本語を用
 いて発話する際に、語彙の多様性が足りないことは学習者の共通している問題点であるこ
 とが明かになった。

8.3.1.1.3 特徴漢語動名詞

中級上レベルの CLJ・KLJ・ELJ が JNS に対して特徴的に過剰使用、または過少使用
 されている語を抽出したところ、表 4 と表 5 の結果を得た。なお、CLJ・KLJ・ELJ 頻度
 と JNS 頻度は 10 万語あたりの調整頻度である。

表 4 中級上レベルの CLJ・KLJ・ELJ の発話における過剰使用語

LLR 範囲	CLJ 29 語	KLJ 36 語	ELJ 11 語
100≤	勉強（123.56）	勉強（161.35）	勉強 （161.65）
50≤			
10≤	準備（21.4）、交流 （19.72）、喧嘩 （13.51）、卒業 （13.45）、参加 （12.05）、留学 （11.79）	入学（14.25）、準備（13.1）	卒業（17.23）、 翻訳（13.41）、 留学（13.29）、 運転（12.02）
3.84≤	感謝（8.74）、了解 （6.55）、体験 （6.55）、入学 （6.55）、完成 （6.55）、挑戦 （6.55）、自習	売買（8.12）、翻訳（8.07）、交換 （6.09）、交流（6.09）、企画 （6.09）、編入（6.09）、適応 （6.09）、連絡（6.09）、説明 （5.71）、利用（5.65）、結婚 （5.12）、努力（4.99）、卒業	体験（8.31）、 観光（8.31）、 演技（5.54）、 移民（5.54）、 通訳（5.54）、 電話（4.39）

	(6.55)、心配 (6.45)、結婚 (6.19)、旅行 (6.17)、理解 (5.89)、交換 (5.45)、接触 (5.45)、注文 (5.45)、重視 (5.45)、緊張 (5.37)、利用 (5.06)、到着 (4.36)、恋愛 (4.36)、管理 (4.36)、選択 (4.36)、離婚 (4.18)	(4.78)、休学 (4.06)、会議 (4.06)、作用 (4.06)、加工 (4.06)、合併 (4.06)、審査 (4.06)、廃校 (4.06)、招待 (4.06)、挑戦 (4.06)、料理 (4.06)、注文 (4.06)、演技 (4.06)、競争 (4.06)、討論 (4.06)、調査 (4.06)、貯金 (4.06)、選択 (4.06)、反対 (4.02)、発表 (4.02)、離婚 (4.02)	

表 5 中級上レベルの CLJ・KLJ・ELJ の発話における過少使用語

LLR 範囲	CLJ 40 語	KLJ 22 語	ELJ 7 語
-100≦			
-50≦			
-10≦	熱中 (-49.18)、集中 (-13.93)	熱中 (-25.64)	熱中 (-16.45)
-3.84≦	尊敬 (-9.68)、予約 (-8.7)、工夫 (-8.7)、成仏 (-8.7)、指導 (-8.7) 浪人 (-8.7)、発言 (-8.7)、矛盾 (-8.7)、移住 (-8.7)、移動 (-8.7)、脱出 (-8.7)、設計 (-8.7)、調整 (-8.7)、購入 (-8.7)、骨折 (-8.7)、制覇 (-6.95)、復帰 (-6.95)、応募 (-6.95)、成人 (-6.95)、検索 (-6.95)、赴任 (-6.95)、生活 (-6.28)、入院 (-6.09)、上京 (-5.21)、便乗 (-5.21)、割愛 (-5.21)、帰省 (-5.21)、想定 (-5.21)、支配 (-5.21)、洗濯 (-5.21)、演奏 (-5.21)、発展 (-5.21)、解説 (-5.21)、評価 (-5.21)、運動 (-4.82)、乾燥 (-4.37) 活動 (-4.37)、表現 (-4.37)	練習 (-8.16)、生活 (-7.72)、尊敬 (-7.38)、用意 (-7.25)、研究 (-7.25)、運転 (-5.43)、予約 (-4.52)、参加 (-4.52)、工夫 (-4.52)、想像 (-4.52)、成仏 (-4.52)、指導 (-4.52)、活躍 (-4.52)、浪人 (-4.52)、発言 (-4.52)、矛盾 (-4.52)、移住 (-4.52)、設計 (-4.52)、調整 (-4.52)、購入 (-4.52)、骨折 (-4.52)	入院 (-4.65)、用意 (-4.65)、研究 (-4.65)、生活 (-4.57)、解決 (-4.07)、進学 (-4.07)

表 4 と表 5 よりわかることが 3 点ある。1 点目は、過剰使用語について、KLJ (36 語) >CLJ (29 語) >ELJ (11 語) という関係になっており、過少使用語について、CLJ (40

語) >KLJ (22 語) >ELJ (7 語) という関係になっていることである。このことから見ると、CLJ と KLJ はともに逸脱的な漢語動名詞を多用しているのに対し、ELJ は極めて少ないということが確認された。これは、学習者の漢語動名詞使用は、L1 や各地域の日本語教育が影響していると考えられる。

2 点目は、CLJ・KLJ・ELJ の過剰使用語には、共通している漢語動名詞が存在していることである。たとえば、「勉強」「卒業」(CLJ・KLJ・ELJ)、「準備」「交流」(CLJ・KLJ)、「留学」「体験」(CLJ・ELJ)、「演技」「翻訳」(KLJ・ELJ) などがそれらに該当する。このうち、すべての学習者が JNS より過剰使用している「勉強」や「卒業」、または CLJ と ELJ が JNS より過剰使用している「留学」や「体験」、KLJ と ELJ が JNS より過剰使用している「演技」や「翻訳」などは、そもそも JNS 相手の発話には話題として出てこないことから、インタビュー条件の違いによって過剰使用になったものだと考えられる。一方で、CLJ と KLJ が共通して過剰に使用している「準備」と「交流」は、トピックよりも L1 によるものであるのではないかと考えられる。

8.3.1.2 NS 比較

8.3.1.2.1 漢語動名詞の産出量および語彙難度

まず、すべての CLJ (CLJ_all) および JNS の個々人について、発話における使用された漢語動名詞の産出量 (トークン数・語彙多様性) を調査し、群ごとの平均値を求めた結果、図 4 を得た。

図 4 CLJ_all と JNS の発話におけるトークン数・語彙多様性

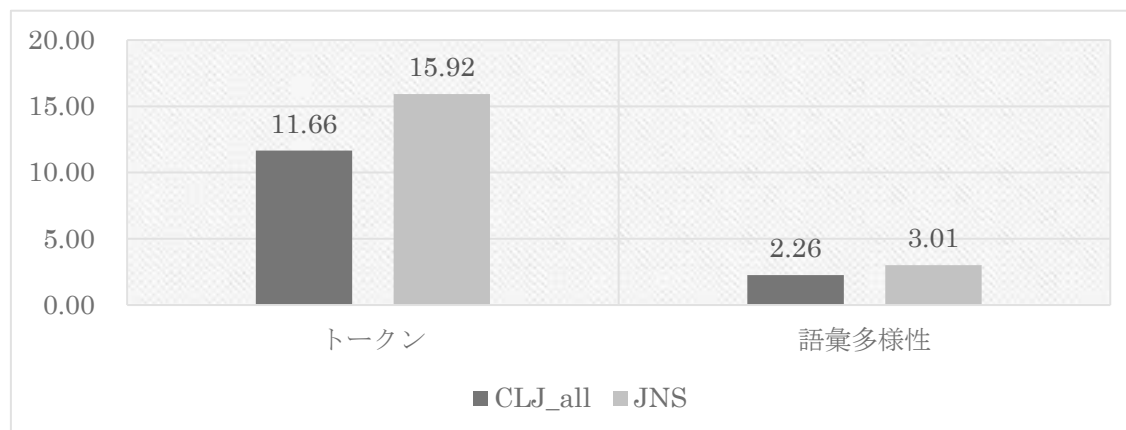


図 4 から、発話における漢語動名詞の産出量について、CLJ_all が使用した漢語動名詞のトークン数と語彙多様性は JNS より少ない傾向が見られた。 t 検定を行った結果、両群間の差は有意であることが確認された（トークン数： $t(248) = 12.890$ 、 $r = .49$ 、 $p < .001$ 語彙多様性： $t(248) = 43.080$ 、 $r = .149$ 、 $p < .001$ ）。

以上より、CLJ が発話における産出した漢語動名詞の総語数と多様性について言うと、JNS には到達していないと言える。また、ここで考慮すべきなのは、以上で抽出した CLJ が産出した漢語動名詞の中で、誤用や不適切な漢語使用も含まれているということである。それでは、これらのような語彙的誤用を除いた場合、CLJ と JNS 間の差はどのように変化しているのか。これについて調査した結果、以下の図 5 が得られた。

図 5 CLJ_all と JNS の発話におけるトークン・語彙多様性（誤用を除いた場合）

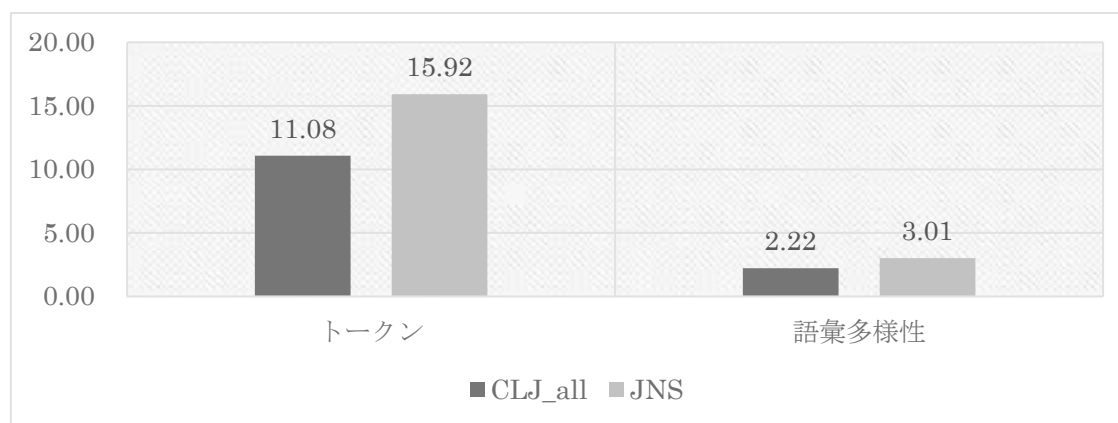


図 5 から、誤用を除いた場合、CLJ_all が産出した漢語動名詞のトークンと語彙多様性は同じように JNS より少ないという傾向が見られた。 t 検定を行った結果、両群間の差は有意であることが確認された（トークン： $t(248) = 19.834$ 、 $r = .63$ 、 $p < .001$ 語彙多様性： $t(248) = 48.383$ 、 $r = .256$ 、 $p < .001$ ）。

以上より、CLJ が発話における産出した漢語動名詞の総語数と多様性が JNS に到達していないということがあらためて確認された。仮説では、CLJ は豊富な漢字知識をもっているため、JNS より漢語動名詞を多く、かつ多様に産出しているのではないかと予想されたが、今回の結果はこの仮説を支持しなかった。このことより、CLJ が日本語を用いて発話する際には、意識的に漢語動名詞の使用を回避しているのではないかと考えられる。その原因について言うと 3 点が考えられる。1 点目は、CLJ が日本語漢語の使用環境に関する

知識の不足により、発話において漢語よりも和語の方が多用されている可能性がある。2点目は、CLJ が日本語漢語の品詞用法に関する知識の不足により、サ変動詞用法を持つ漢語を名詞や形容詞と誤用している可能性がある。3点目は、CLJ が整った句の単位で発話できず、一つの漢語を何回も繰り返して使用している可能性がある。

次に、すべての CLJ および JNS の個々人について、発話における使用された漢語動名詞の語彙難度を調査し、群ごとの平均値を求めた結果、図 6 を得た。

図 6 CLJ_all と JNS の発話における語彙難度

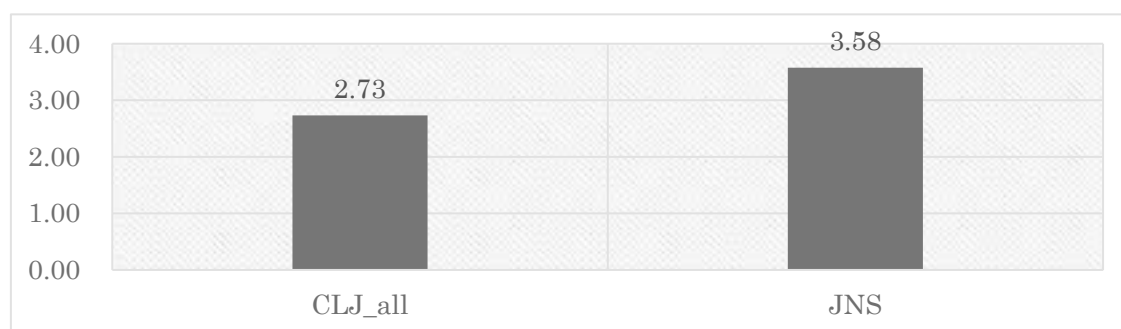


図 6 から JNS は CLJ_all より高い傾向が見られた。また、 t 検定を行った結果、両群間の差は有意であることが確認された ($t(248) = 86.724$, $r = .26$, $p < .001$)。CLJ が発話においてより平易な漢語動名詞を使用しており、母語話者的な漢語使用と一致しているわけではないことが明かになった。仮説では、CLJ は JNS より難度が高い漢語動名詞を使用していると予想されたが、今回の結果はこの仮説が支持されなかった。このことから、豊富な漢字知識を有する CLJ であっても、難度が高い日本語漢語動名詞の使用はうまくできないのではないかと考えられる。

以下、CLJ (11) と JNS (12) の同じトピック (「日本について」) における事例を見てみよう。漢語動名詞には【】を付す (以下同)。なお、〈〉には調査者の発話である。

- (11) 〈えっと日本語は、あっといつから勉強を、なさいましたか?〉あ大学一入った後 (あと)、【勉強】し始めます...本格的に日本語を【勉強】したいという〈うんうんうんうん〉、なんですけどから、(学科名 1) に入りました...あの、印象的なドラマは、何 (なに) ですか?〉あ一番印象が残っているのは、うーなん、なん、ある (連体詞) ジャニーズの、ジャニーズの芸能人の【えんじ (演技)】したのは、たぶ

ん十年前かな？ある（連体詞）先生と、あー先生と学生と一緒に【恋愛】したこと、【恋愛】したラブストーリー、なんですけどあも（もう）名前はちょっと忘れちゃって〈ふーん〉、松嶋菜々子？〈はいはいはい〉松嶋菜々子【えんじ（演技）】したの、ドラマ、でまじよ、まほ、『まじょう（魔女）の条件』？とか？〈あーそうなんですか〉なま、名前はちょっと忘れちゃって〈うんうん〉うんあの（連体詞）時はとても小さいですから、先生はどうして学生と一緒に【恋愛】することは、ありえないんですよこの（連体詞）ードラマにはまっちゃってー（CLJ、CCS41）

- (12) 本、古本で〈はい〉一万円ぐらいなんですけどそれを【購入】して〈はい〉ようやくそれおととい届いたので〈はい〉【開封】してみたんですが、〈はい〉古本、屋さんのその情報とゆうのが、ちょっとあの、【掲載】されている、ネットに【掲載】されてるものから買ったんですが、〈はい〉ただ情報があまり良なくて...それを何とか（なんとか）こう、そ【掃除】しながらこう磨いたりとゆうのをやっていました...本棚はとりあえずそうですね、部屋中、ろっ最低六、六つ棚はあるんですが、実家にもえー、別に本棚を【用意】していて〈あー〉一部屋ちゃんと【確保】していますんで〈はい〉かなりの数があります〈...簡単にちょっとストーリー教えていただいてもいいですか〉要するに、ええとロシアの〈はい〉、えーシベリアのそのえー【流刑】されて〈うん〉、えー、あの一なんとかそっから出てきてってゆう、えーすまずその白い、大地を舞台にしてるのと、で後半部分は石油を【発掘】するとゆうとこに持っていくんですが...すえー、それをまあ赤い、えー不毛地帯とゆうような、形で【形容】、しておりました...で、お話としてはそのふ、えーその（連体詞）主人公が、えー、えー、きん近畿商事とゆうですね関西にある、えー、ま繊維メーカーのあの一繊維の、から始まった、えー商社に入って、そこからだんだんこう一人間的にもその商社マンとして【成長】しながら〈うんうんうん〉、えーその一、...いろんなものを【解決】しながら、えー国益も考えながらその、えーと大きな仕事を成し遂げ成し遂げていくと〈うん〉、まあそういったお話になっています（JNS、JJJ05）

上記の実用例において、CLJ の使用した漢語動名詞の延べ語数は 7 語、異なり語数は 3 語、R 値は 1.13 であり、JNS の使用した漢語動名詞の延べ語数は 12 語、異なり語数は 11 語、R 値は 3.18 である。これにより、CLJ が発話における使用した漢語動名詞の総語数お

よび語彙多様性は JNS には到達しているということがあらためて確認された。

また、語彙難度について、CLJ の使用した漢語動名詞の平均難度は 3 であり、JNS は 4.2 である。詳細に観察すると、JNS は発話において、「購入」「掃除」「用意」「成長」「解決」などのような日常生活に関連する漢語のほか、「発掘」「流刑」「掲載」のような難度が高く、書き言葉的な漢語動名詞も使用していることがわかった。このことより、実際の対話において、JNS は更に難度が高く、文章語的な漢語動名詞も多用しているということが確認された。一方、CLJ は、「勉強」「演技」「恋愛」などのような日常生活との関係性が深い漢語動名詞だけを使用している。これにより、CLJ は発話において難度が高い漢語動名詞をうまく使用できないということがあらためて確認された。

8.3.1.2.2 特徴漢語動名詞

以上より、発話において、CLJ の漢語動名詞の産出量および語彙難度はともに JNS に到達しておらず、不適切な漢語使用も多く見られていることがわかった。以下、CLJ は、JNS に対してどのような逸脱した語を産出しているかについて考察する。このことを確認するため、CLJ が JNS に対して特徴的に過剰使用、または過少使用されている語を抽出したところ、表 6 と表 7 の結果を得た。

表 6 CLJ_all が発話における過剰に使用した漢語動名詞

LLR 範囲	特徴語 28 語
100 $\leq$	勉強 (133.85)
50 $\leq$	
10 $\leq$	卒業 (19.31)、交流 (18.32)、準備 (15.6)、喧嘩 (14.67)、参加 (14.35)、留学 (10.06)
3.84 $\leq$	感謝 (9.43)、自習 (8.25)、旅行 (7.72)、恋愛 (7.66)、心配 (6.93)、緊張 (6.59)、入学 (6.48)、翻訳 (6.38)、体験 (5.89)、注文 (5.89)、管理 (5.89)、了解 (5.3)、交換 (5.3)、挑戦 (5.3)、選択 (5.3)、感動 (4.88)、完成 (4.71)、注意 (4.71)、授業 (4.12)、接触 (4.12)、理解 (3.84)

表 7 CLJ_all が発話における過少に使用した漢語動名詞

LLR 範囲	特徴語 71 語
-100 $\geq$	
-50 $\geq$	熱中 (-77.37)
-10 $\geq$	成仏 (-13.71)、浪人 (-13.71)、発言 (-13.71)、矛盾 (-13.71)、脱出 (-13.71)、購入 (-13.71)、骨折 (-13.71)、入院 (-13.11)、尊敬 (-11.69)、

	生活 (-11.55)、制覇 (-10.96)、復帰 (-10.96)、成人 (-10.96)、検索 (-10.96)、赴任 (-10.96)、集中 (-10.81)
-3.84≧	乾燥 (-8.88)、工夫 (-8.88)、移住 (-8.88)、設計 (-8.88)、上京 (-8.22)、便乗 (-8.22)、割愛 (-8.22)、帰省 (-8.22)、想定 (-8.22)、演奏 (-8.22)、解説 (-8.22)、予約 (-6.5)、活動 (-6.5)、表現 (-6.5)、調整 (-6.5)、一致 (-5.48)、優先 (-5.48)、克服 (-5.48)、再現 (-5.48)、出社 (-5.48)、分散 (-5.48)、反省 (-5.48)、和解 (-5.48)、外食 (-5.48)、完食 (-5.48)、対抗 (-5.48)、引退 (-5.48)、待機 (-5.48)、感激 (-5.48)、掲載 (-5.48)、正座 (-5.48)、没頭 (-5.48)、独立 (-5.48)、率先 (-5.48)、申告 (-5.48)、看病 (-5.48)、着服 (-5.48)、移入 (-5.48)、脱走 (-5.48)、自立 (-5.48)、葛藤 (-5.48)、融合 (-5.48)、衝突 (-5.48)、逆転 (-5.48)、達成 (-5.48)、録画 (-5.48)、開通 (-5.48)、麻酔 (-5.48)、経験 (-5.22)、移動 (-4.87)、運動 (-4.76)、支配 (-4.3)、洗濯 (-4.3)、開催 (-4.3)

表 6 と表 7 からわかることが 2 点ある。まず、1 点目は、過剰使用語と過少使用語を比較すると、過少使用語のほうが圧倒的に多いことである。仮説では、CLJ の過剰使用語は過少使用語より多いと予想されたが、今回の結果はこの仮説が支持されなかった。すでに述べたように、CLJ が発話する際に意識的に漢語動名詞の使用を回避している可能性があると考えられるが、この可能性があらためて確認された。

2 点目は、過剰使用語における日中同形語の量が過少使用語よりも多いということである。以下、日中対照漢字語データベース（松下他、2020）を用いて調査した結果である。

図 4 過剰使用語・過少使用語における日中同形語と非同形語

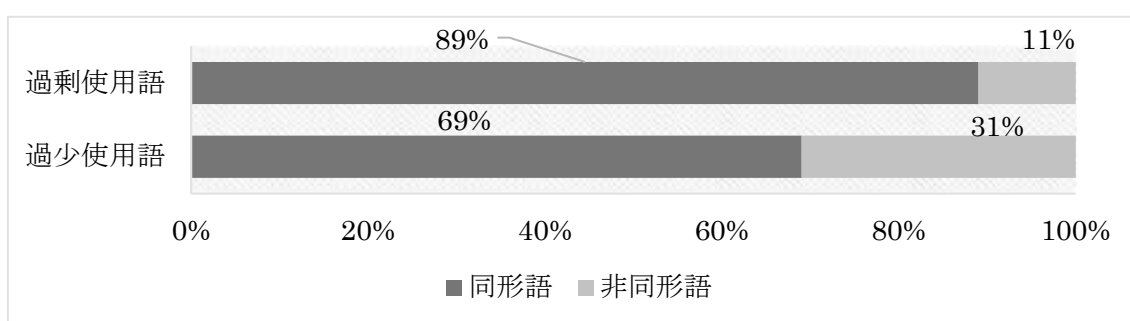


図 4 から見ると、日中同形語の占有率について、過剰使用語は約 89%、過少使用語より約 20 ポイント多いということがわかった。仮説では、過剰使用語には日中同形語が多く、過少使用語には中国語に存在しない語が多いことと予想されたが、今回の結果はこの仮説を支持した。これにより、(1) CLJ は、「了解」「交流」などのような意味が類似、あるいは

は同等の日中同形語を過剰に使用しており、一方、「移住」「脱出」などのような中国語において存在しない語を過少に使用している、(2) 過少使用語における多くの日中同形語には、品詞用法のズレがある語（「葛藤」「一致」）や、使用環境のズレがある語（「割愛」）などのような語が存在する、などのことが確認された。以下、CLJとJNSの実例を示す。

(13) 日本の文化、が〈うん〉、あー【了解】したいでっす (CCH10)

(14) 私、あー、先生と【交流】しながら、私は、私の日本語は下手と思います
(CCH15)

(15) 安藤桃子さんが高知に【移住】したんですよ (JJJ23)

(16) 特急、新幹線で止まらない駅からどうやって【脱出】するのかとかそういう感じになってるんですけど (JJJ26)

(17) ちょっと大事な面白い部分はちょっと【割愛】してるんですけど (JJJ45)

(18) 自分がうまく出せないってゆうのもあって一その中ではけっこう【葛藤】しましたね (JJJ16)

また、上記の実例から見ると、CLJは日中同形語を過剰に使用しているだけでなく、同形語の使用には不適切なものも少なくない。たとえば、(13)では、「日本の文化を理解する」を「日本の文化を了解する」に、(14)では、「先生と会話する」を「先生と交流する」に誤用しており、いずれも中国語の意味をそのまま日本語として使ってしまう誤用例だと言える。(15)での「移住」、通常、ある場所から別の場所に居住地を変えることを指し、中国語にはこの漢語が存在しないため、CLJは漢語より難度が低い「引っ越す」のほうを多用するのではないかと考えられる。(16)での「脱出」は、危険な状況や拘束から逃れることを指し、中国語で同じ意味を表す際に、「逃离」や「逃脱」といった表現が使われ、CLJが母語の漢字からの影響を受け、「逃げる」を使用するのではないかと考えられる。

(17)では、「割愛」が、ドラマ内容の面白い部分を意図的に省略していることを指している。中国語では一般的にかたい場面や書き言葉において多用されるため、CLJが会話する際に少用すると考えられる。(18)では、「葛藤」が、自分がうまく表現できないことに関して複雑な感情や意見の対立があったと表している。中国語の「葛藤」は日本語と基本的な意味において類似しているが、名詞として使われることが多く、品詞用法にはズレが大きいいため、CLJがこれを少用するのではないかと考えられる。以上より、CLJに対して

日中同形語の意味用法の使い分けについて丁寧に指導することが必要である。一方で、JNS が日常会話で多用されている、中国語には存在していない漢語についても学習者に提示することも重要だと言えるだろう。

8.3.1.3 習熟度比較

8.3.1.3.1 誤用率

まず、CLJ 中級下、CLJ 中級上、CLJ 上級が産出した純粋誤用率および不適切使用率を調査した結果、図 7 を得た。

図 7 CLJ 中級下・CLJ 中級上・CLJ 上級の純粋誤用率および不適切使用率

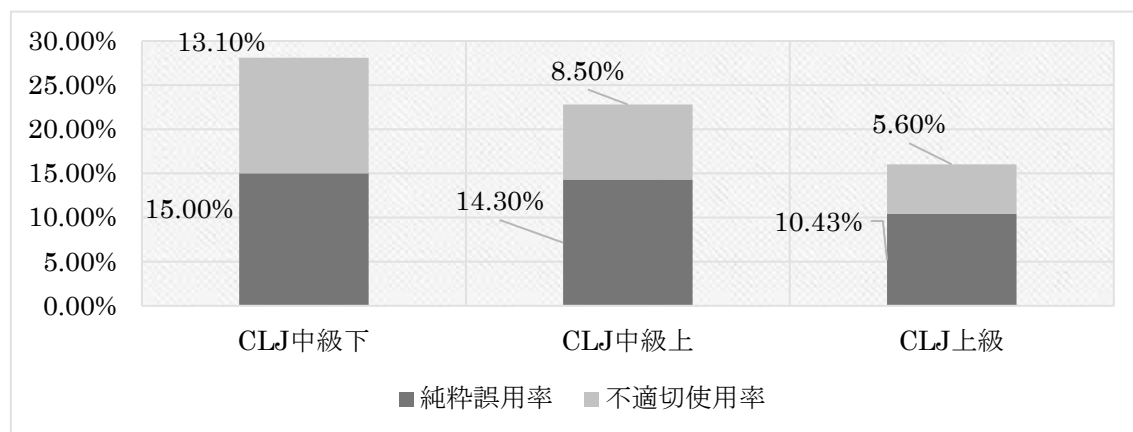


図 7 に示されるように、両者を加えた広義の誤用率については、中級下（28.1%）>中級上（22.8%）>上級（16.03%）という順序関係になり、習熟度の上昇につれて CLJ が産出した広義的誤用が減少していることがわかった。また、習熟度の上昇につれて、不適切使用率の減少は顕著的であるのに対し、純粋誤用率の減少は遅いということが確認された。これにより、CLJ が習熟度の上昇につれて、日本語の知識も豊富になり、日本語の助詞や日本語表現に関する不適切な使用が明らかに減少している。しかし、母語からの影響を受けて、中国語をそのまま日本語として使用する誤用や、日本語漢語の品詞性に関する誤用がまだ見られるのではないと考えられる。

8.3.1.3.2 漢語動名詞の産出量および難度

CLJ 中級下、CLJ 中級上、CLJ 上級の個々人について、発話における使用された漢語動

名詞の産出量（トークン・語彙多様性）・語彙難度を調査し、トークン・R 値・語彙難度に対して群ごとの平均値を求めた結果、図 8・図 9・図 10 を得た。なお、JNS の 3 指標は参照として示す。

図 8 中級下・中級上・上級 CLJ の発話におけるトークン

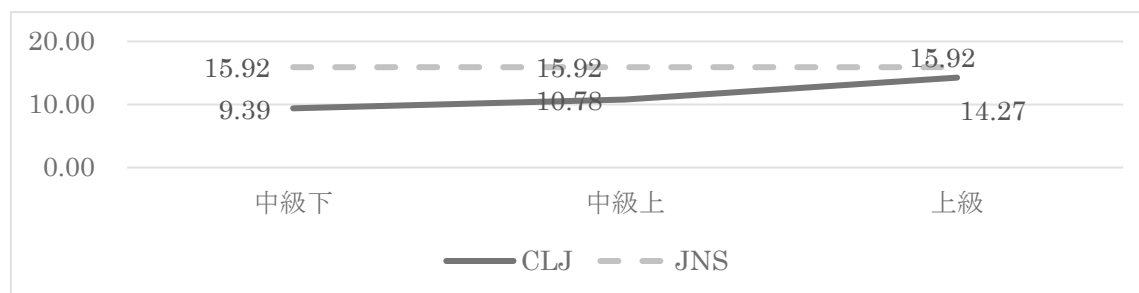
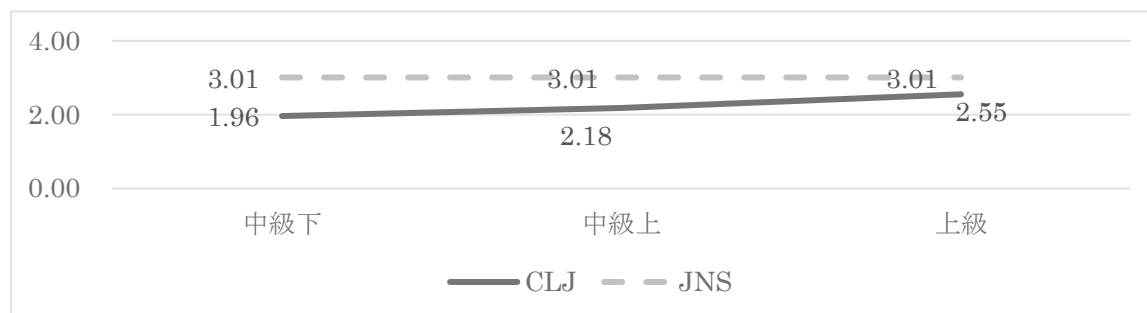


図 9 中級下・中級上・上級 CLJ の発話における語彙多様性



まず、図 8 に示されるように、CLJ が習熟度の上昇につれて、産出した漢語動名詞のトークンは上昇している傾向が見られる。ANOVA を行った結果、習熟度要因の主効果が有意であることが確認された ($F(2, 196) = 7.765$ 、 $\eta_p^2 = .073$ 、 $p = .001$)。また、多重比較により、中級下と中級上の 2 群間には差が有意ではなかったが、他の群間には差が有意であった。

次に、図 9 に示されるように、CLJ が習熟度の上昇につれて、産出した漢語動名詞の語彙多様性が上昇している傾向が見られる。ANOVA を行った結果、習熟度要因の主効果が有意であることが確認された ($F(2, 196) = 11.497$ 、 $\eta_p^2 = .105$ 、 $p < .001$)。また、多重比較により、中級下と中級上の 2 群間には差が有意ではなかったが、他の群間には差が有意であった。

以上より、発話において、習熟度の上昇に伴い、CLJ の漢語動名詞使用の総語数と語彙多様性の上昇は遅れ、上級になっても JNS 水準に到達していないことが確認された。仮説では、習熟度の上昇に伴い、使用する漢語動名詞の総語数は増加しており、一方で和語の使用も増加し、漢語の語彙多様性は減少していると予想されたが、今回の結果はこの仮説を支持しなかった。

図 10 中級下・中級上・上級 CLJ の発話における語彙難度

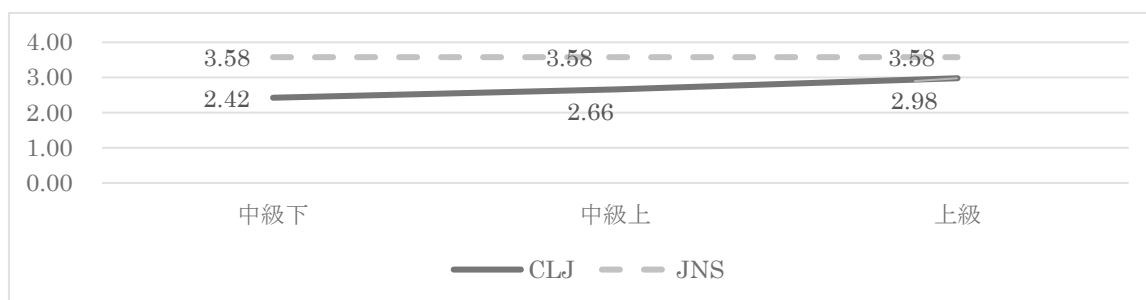


図 10 に示されるように、CLJ が習熟度の上昇につれて、産出した漢語動名詞の語彙難度が上昇している傾向が見られる。ANOVA を行った結果、習熟度要因の主効果が有意であることが確認された ($F(2, 196) = 10.635$, $\eta_p^2 = .098$, $p < .001$)。また、多重比較により、すべての群間には有意差があった。つまり、習熟度の上昇に伴い、CLJ が発話における使用した漢語動名詞の難度は顕著に増加していることが確認された。仮説では、使用した漢語動名詞の難度は徐々に増加しているが、習熟度レベル間に顕著な差が見られないと予想されたが、今回のデータがこれを支持しなかった。

以下、この点をさらに掘り下げるため、中級下 (17)・中級上 (18)・上級 (19) CLJ の同じトピックの実際の発話を見てみよう。

- (17) あー、しち、小さい時、は、あー、ち、あー、たたぶんたぶん、あー妹と、け、えー【喧嘩】【喧嘩】して、していました...妹とあーけいあー【けいけん (喧嘩)】、えー【けいけん (喧嘩)】、しな、あしない、しないのです...国語先生は、あー、あーわた私私に私、にあー作文をすあー作るも作ることをあー【指導】します (うんうん)【指導】しました (うん)、...私は大学に、あー入る入る時、あーは入った時、あー日本語、日本語を、あー日本語日本語を、えー選択えせん【選択】しないで、

え、あー、おー、ほう、あほう、あー法律法律をせん【選択】して、あー経済を経済を〈あー〉【選択】して、で、あーが、...あー日本語を【勉強】し、えしている時〈うん〉んー日本日本語日本語が、あーおもしろ面白い、ことが、あーわかりました、あーそれから、あー今、あー、あーた、あーたの、あーたのし、あー、たの楽しくて、えー日本語を【勉強】しています（中級下、CCH21）

- (18) えー、午後は〈うん〉、あの一えージェズ（ジャズ）ダンスを、【勉強】しました、だから〈へー、勉強とゆうのは？〉あー〈習ってるんですか？〉うー、はい...そこで、ジャズダンスを【勉強】しました...えー、んー正直に言ってあの一〈うんうん〉、あー最初の時は、うー、日本語一、【勉強】したくなかったです...あの一、うー、んー〈はい〉、科学とか（とか）〈はい〉、あの一物理とか、あそれだけを【勉強】しました〈んー〉うー日本、うーん、す、だから、大学に入った時は〈はい〉あ経済とか金融を、えー【せんめん（専門）】したいですが、えーその（連体詞）時あの一、大学入学試験の点数は、えーちょっと低いなので〈へー〉、えーはい、えー【大学名1】に、あー日本語、を【勉強】させました...えーでも、あー日本語、を、【勉強】するの間は、あーだんだん日本語への興味は深くなって〈うん〉、あの一、うー、将来は、もう、大学院生になってあ日本語を【研究】、したいな（過剰使用）ので、...他（ほか）の人と、あー【接触】しなければならないと思います〈あーそうですか{笑}〉...あー、中学生の時、は、えー、英語の、先生、に、には、あーからはいろいろな、ことを【勉強】しました〈へー...彼女一はえー自分の子供、を、えーあまり、あーあまり、【かいしん（関心）】しないで、え、私たち、えす、そわ、あー、八一、八十一め（名）〈ふーん〉、になった、えー【大学名1】に来ました、あ日本語を【勉強】します{笑}（中級上、CCH06）

- (19) 〈あの日本語の勉強は好きですか？〉好きーと、い、とはいえない...でも、まい〈うんうん〉、え、日本人と〈うん〉【交流】する、ことは〈うんうん〉ほんとに面白いと思いますけどえ、実は〈うん〉、大学に入った前に、日本語、を【勉強】するなんか全然、えー全然、えーそんな、趣味がないです...えー、大学に入って、学校に、せーはかが、学校に【ぶんはい（分配）】されたんです、【ぶんはい（分配）】〈分配？された〉本当にせんたの、自分、が【選択】す、〈はい〉ではない...一年生の時〈うんうん〉全然日本語を【勉強】するなんか、全然やだと思って、やだだったと思いますけど...でも二年生の時〈うん〉、あー一年間を日本語【勉強】してあー、

あー、えー、次第に、日本語、が好きにな、なりましたと思います...もしこの（連体詞）試験が、えー【失敗】したら、自分のえー未来は何（なに）をするの、と考えて〈うーん〉自分は、え、ときどき自分は実力があっても〈はい〉えーこの（連体詞）運があります。もし、こ、あの（連体詞）時、うー、運が悪、かったら自分は【落第】しましたら〈うんうん〉、何（なに）をするの全然わからないです...〈どうやってその（連体詞）ストレスを発散しましたか？〉どうやって、【発散】してなかったです{笑}...班長【担当】し、いたしまして〈へー〉、あーいろいろなことがあります〈大学のクラスのあのー代表？班長というのは〈はい〉どうやって選ぶんですか？〉えー、自分は、あー、えー、【講演】して、他（ほか）の学生、に、あー、【投票】、【投票】して（上級、CCH12）

まず、上記の実例では、CLJ の習熟度が中級下・中級上・上級と変化するにつれて、延べ語数は 11 語→12 語→14 語、R 値は 1.21→1.51→3.02 のように上昇していることが確認された。用例を観察すると、中級下と中級上の CLJ の発話において、発話は整った句にならず、漢語（「喧嘩」「選択」「勉強」など）を反復して使うことで自分の意志を相手に伝達しており、また、不適切な使用も少なくない（「ジャズダンスを勉強する」）ことがわかった。一方、上級の CLJ は、発話の流暢性がまだ十分ではないが、相対的には自分の意志を整える句で表現できるようになったので、漢語の多様性は増加しているのではないかと考えられる。

次に、CLJ の習熟度が中級下・中級上・上級と変化するにつれて、漢語の平均難度は 2.8→2.9→3.7 のように上昇していることが確認されたが、難度が高い漢語動名詞の誤用（「関心する」「学校に分配される」）も見られる。このことより、一見、CLJ は習熟度の上昇につれてより難しい漢語が産出できるようになったが、問題点はまだ存在していると言えるだろう。

8.3.1.3.3 特徴漢語動名詞

CLJ の中級下・中級上・上級が JNS に対して特徴的に過剰使用、または過少使用されている語を抽出したところ、表 11 と表 12 の結果を得た。

表 11 中級下・中級上・上級 CLJ の発話における過剰使用語

LLR 範囲	中級下 22 語	中級上 29 語	上級 26 語
100≦	勉強 (106.55)	勉強 (123.56)	
50≦			勉強 (63.32)
10≦	恋愛 (15.81)、自習 (10.52)、選択 (10.52)、旅行 (10.42)	準備 (21.4)、交流 (19.72)、喧嘩 (13.51)、卒業 (13.45)、参加 (12.05)、留学 (11.79)	卒業 (15.89)、交流 (15.12)、翻訳 (11.7)、喧嘩 (11.53)、参加 (10.36)
3.84≦	卒業 (8.62)、成長 (8.1)、入学 (7.88)、奉仕 (7.88)、復習 (7.88)、授業 (7.88)、参加 (6.88)、料理 (5.25)、治療 (5.25)、演技 (5.25)、管理 (5.25)、統一 (5.25)、転勤 (5.25)、心配 (4.83)、感動 (4.71)、関係 (4.44)、電話 (4.01)	感謝 (8.74)、了解 (6.55)、体験 (6.55)、入学 (6.55)、完成 (6.55)、挑戦 (6.55)、自習 (6.55)、心配 (6.45)、結婚 (6.19)、旅行 (6.17)、理解 (5.89)、交換 (5.45)、接触 (5.45)、注文 (5.45)、重視 (5.45)、緊張 (5.37)、利用 (5.06)、到着 (4.36)、恋愛 (4.36)、管理 (4.36)、選択 (4.36)、離婚 (4.18)	感謝 (8.8)、感動 (7.8)、準備 (7.06)、緊張 (6.35)、注文 (6.28)、留学 (5.49)、主催 (5.02)、交換 (5.02)、体験 (5.02)、出演 (5.02)、暗記 (5.02)、検査 (5.02)、注意 (5.02)、管理 (5.02)、約束 (5.02)、自習 (5.02)、計算 (5.02)、放送 (4.81)、発表 (4.29)、心配 (3.9)

表 12 中級下・中級上・上級 CLJ の発話における過少使用語

LLR 範囲	中級下 6 語	中級上 40 語	上級 30 語
-100≦			
-50≦			
-10≦	熱中 (-17.87)	熱中 (-49.18)、集中 (-13.93)	熱中 (-43.32)、入院 (-12.27)
-3.84≦	尊敬 (-8.87)、生活 (-5.4)、入院 (-5.05)、用意 (-5.05)	尊敬 (-9.68)、予約 (-8.7)、工夫 (-8.7)、成仏 (-8.7)、指導 (-8.7)、浪人 (-8.7)、発言 (-8.7)、矛盾 (-8.7)、移住 (-8.7)、移動 (-8.7)、脱出 (-8.7)、設計 (-8.7)、調整 (-8.7)	生活 (-9.01)、乾燥 (-7.66)、成仏 (-7.66)、浪人 (-7.66)、発言 (-7.66)、矛盾 (-7.66)、移住 (-7.66)、脱出 (-7.66)、購入 (-7.66)、骨折 (-7.66)

集 中 (- 5.05)	8.7)、購入 (-8.7)、骨折 (-8.7)、制覇 (-6.95)、復帰 (-6.95)、応募 (-6.95)、成人 (-6.95)、検索 (-6.95)、赴任 (-6.95)、生活 (-6.28)、入院 (-6.09)、上京 (-5.21)、便乗 (-5.21)、割愛 (-5.21)、帰省 (-5.21)、想定 (-5.21)、支配 (-5.21)、洗濯 (-5.21)、演奏 (-5.21)、発展 (-5.21)、解説 (-5.21)、評価 (-5.21)、運動 (-4.82)、乾燥 (-4.37) 活動 (-4.37)、表現 (-4.37)	制覇 (-6.12)、復帰 (-6.12)、成人 (-6.12)、期待 (-6.12)、検索 (-6.12)、赴任 (-6.12)、上京 (-4.59)、便乗 (-4.59)、割愛 (-4.59)、反応 (-4.59)、帰省 (-4.59)、想定 (-4.59)、演奏 (-4.59)、解説 (-4.59)、退職 (-4.59)、開催 (-4.59)、尊敬 (-4.53)、経験 (-4.05)

表 11 と表 12 からわかることが 3 点ある。1 点目は、習熟度の上昇につれて、逸脱的な漢語動名詞の量はまずは増加、その後は減少しているが、総体的見れば多いということである。このことから、CLJ は上級になっても、発話においてまだ適切な漢語動名詞をうまく使用することができないということが確認された。

2 点目は、各習熟度レベルの過剰使用語には、日中同形語の占有率はそれぞれ 72%・86%・78%であり、いずれも半数を超えていることである。このことは、CLJ が、上級になっても、母語である中国語からの影響を強く受けていると言えるだろう。

3 点目は、各習熟度レベルの過少使用語には、中国において存在しない漢語の占有率はそれぞれ 43%・43%・50%であることである。このことは、CLJ が上級になると、JNS が日常会話で多用されている漢語についてはまだうまく発話できないのではないかと考えられる。

8.3.2 第 2 課題 (作文)

8.3.2.1 国際比較

8.3.2.1.1 誤用率

まず、CLJ・KLJ・ELJ 中級上レベルが産出した純粋誤用率および不適切使用率を調査した結果、図 11 を得た。

図 11 CLJ・KLJ・ELJ の誤用率

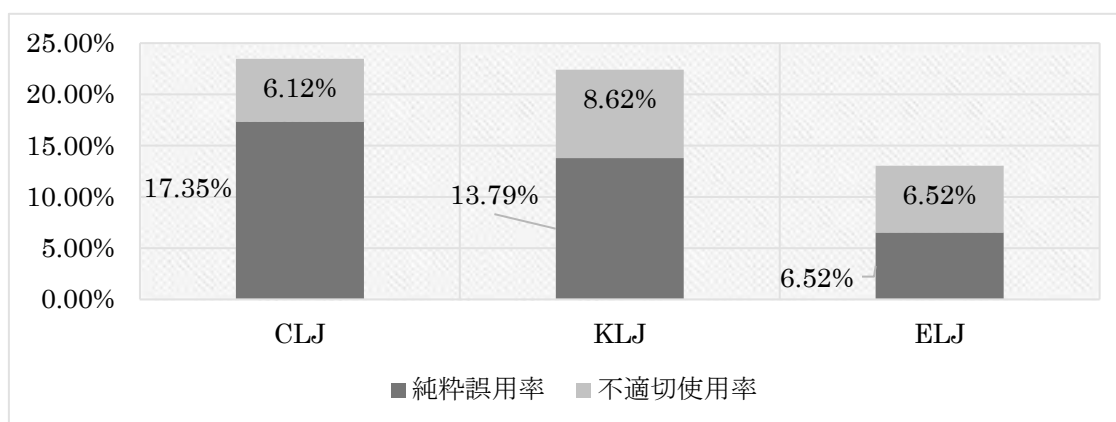


図 11 に示されるように、両者を加えた広義の誤用率については CLJ (23.46%) > KLJ (22.41%) > ELJ (13.04%) という順序関係になり、CLJ が産出した誤用は多いということがわかった。また、純粋誤用率については CLJ > KLJ > ELJ、不適切使用率については CLJ > KLJ > ELJ という順序関係になって、いずれも CLJ のほうが多いということがわかった。

仮説では、豊富な漢語知識を有する CLJ の誤用率は低いと考えたが、実際には、CLJ が最も多く誤用することがデータから示された。また、同じく漢字知識を持つ KLJ の漢語動名詞の使用実態は CLJ と似ていると予想されたが、今回の結果はこの仮説を支持しなかった。CLJ の持つ母語の漢語知識は、肯定的な影響よりも、むしろ、負の影響を及ぼしているのではないかと考えられる。

以下、3 つの学習者グループが産出した純粋誤用の例を見てみよう。

- (20) ケンとマリはそのことは全然【注意】していないでした。(CCH13、SW1)
- (21) でもその時、警官が来て泥棒だと【誤解】しました。(KKR50、SW2)
- (22) その時、隣さんの犬はたぶん食べ物の匂いに【吸引】したため、こっそりランチのバスケットを入りました。(EAU40、SW1)

(20) ～ (22) は、すべてが漢語動名詞の誤用だと考えられる。たとえば、(20) での「注意していないでした」は「気づかなかった」、(2) での「泥棒だと誤解しました」は「泥棒だと勘違いしました」、(22) 「食べ物の匂いに吸引した」は「食べ物の匂いに惹かれ

た」、というべきであろう。

次に、不適切使用の例を見てみよう。

(23) 目的地を【到着】したら、家の犬が飛んでびっくりしました。(CCH32、SW1)

(24) 二階の窓が開いていることを見て、ケンは梯子を【利用】して入るとしました。
(KKR50、SW2)

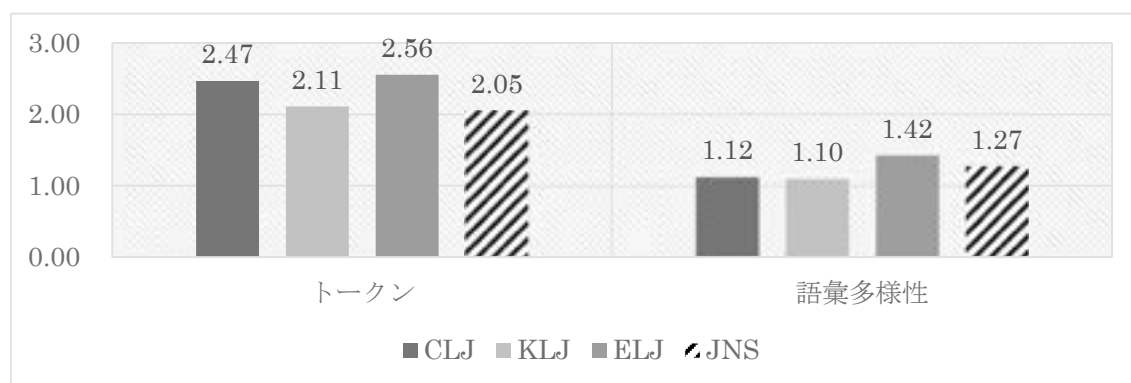
(25) 公園で【散歩】してピクニックをしようと思って行きました。(EAU38、SW1)

(23) については、「目的地を到着」ではなく「目的地に到着」、(25) については、「公園で散歩して」ではなく「公園を散歩して」と修正すべきだと考えられる。(24) については、明らかな誤用ではないが、このような個人的な場面では「利用する」を「使う」や「使用する」のほうがより適切だろう。

8.3.2.1.2 漢語動名詞の産出量および語彙難度

中級上レベルの CLJ、KLJ、ELJ の個々人について、発話における使用された漢語動名詞の産出量（トークン・語彙多様性）・語彙難度を調査し、トークン・R 値・語彙難度に対して群ごとの平均値を求めた結果、図 16・図 17 を得た。なお、JNS の 3 指標は参照として示す。

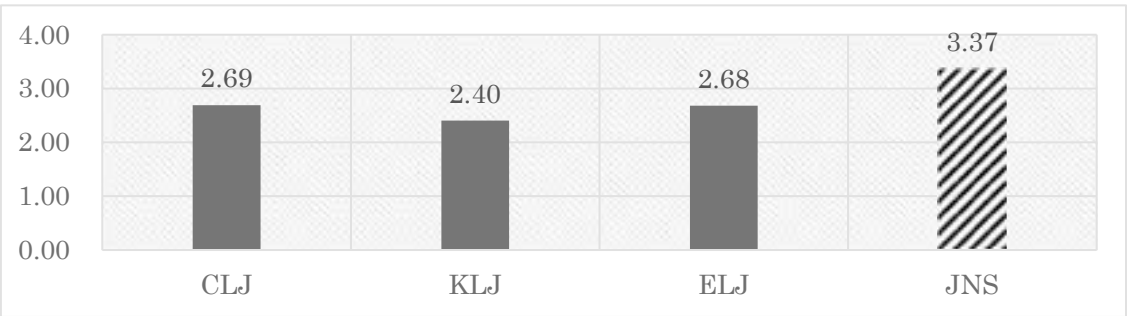
図 12 中級上レベルの CLJ・KLJ・ELJ の作文におけるトークン・語彙多様性



まず、図 12 に示されるように、産出した漢語動名詞のトークン数について、ELJ>CLJ>KLJ という順序関係になったが、ANOVA を行った結果、母語要因の主効果が

有意でなかった ($F(2, 152) = .887, \eta_p^2 = .012, p = .414, ns.$)。語彙多様性について、 $ELJ > CLJ > KLJ$ という順序関係になったが、ANOVA を行った結果、母語要因の主効果が有意ではなかった ($F(2, 152) = .553, \eta_p^2 = .007, p = .576, ns.$)。つまり、学習者が漫画を見てストーリーを描写した際に、意識的に漢語動名詞の使用を回避しているという問題点は、 CLJ だけではなく、3 つの学習者グループの共通している問題点だと言えるだろう。

図 13 中級上レベルの $CLJ \cdot KLJ \cdot ELJ$ の発話における語彙難度



次に、図 13 に示されるように、語彙難度について、 $CLJ > ELJ > KLJ$ という順序関係になった。ANOVA を行った結果、母語要因の主効果が有意であることが確認された ($F(2, 152) = 3.467, \eta_p^2 = .054, p = .034$)。多重比較により、 KLJ と ELJ の両群間には有意差があったが、他の群間には有意差がなかったことが確認された。また、いずれの学習者グループが JNS 水準に到達していない。つまり、作文における平易的な漢語動名詞を多用しているのは CLJ だけでなく、すべての学習者の問題点だと考えられる。

8.3.2.1.3 特徴漢語動名詞

中級上レベルの $CLJ \cdot KLJ \cdot ELJ$ が JNS に対して特徴的に過剰使用、または過少使用されている語を抽出したところ、表 13 と表 14 の結果を得た。

表 13 中級上レベルの $CLJ \cdot KLJ \cdot ELJ$ の作文における過剰使用語

LLR 範囲	CLJ 7 語	KLJ 4 語	ELJ 3 語
10 ≤	準備 (11.75)	誤解 (12.42)	

3.84≤	発見（8.66）、解決（5.76）、誤解（5.76）、出発（4.93）、討論（4.93）、散歩（4.1）	準備（9.38）、利用（6.1）、失望（4.05）	散歩（9.38）、準備（9.21）、喧嘩（4.63）

表 14 中級上レベルの CLJ・KLJ・ELJ の作文における過剰使用語

LLR 範囲	CLJ 6 語	KLJ 2 語	ELJ 1 語
-10≤	帰宅（-22.69）、確認（-17.52）、納得（-11.16）	確認（-15.73）	
-3.84≤	安心（-6.65）、落着（-6.65）、理解（-4.68）	帰宅（-9.57）	相談（-4.74）

表 13 と表 14 に示されるように、まず、過剰・過少に使用する漢語動名詞の総語数が母語によってかなり大きく異なっていることがわかった。これにより、L1 からの影響や各地域の日本語教育の影響が存在していると言える。

次に、CLJ・KLJ・ELJ の過剰使用語には、共通している漢語動名詞が存在していることである。たとえば、「準備」（CLJ・KLJ・ELJ）、「誤解」（CLJ・KLJ）などがそれらに該当する。このうち、「準備」はすべての学習者が JNS より過剰使用しているが、CLJ の特徴度が最も高いということは、ほかの学習者よりも L1 からの影響を受けているのではないかと考えられる。

8.3.2.2 NS 比較

8.3.2.2.1 漢語動名詞の産出量および難度

まず、すべての CLJ（CLJ_all）および JNS の個々人について、作文における使用された漢語動名詞の産出量（トークン数・語彙多様性）を調査し、群ごとの平均値を求めた結果、図 14 を得た。

図 14 CLJ_all と JNS の作文におけるトークン数・語彙多様性

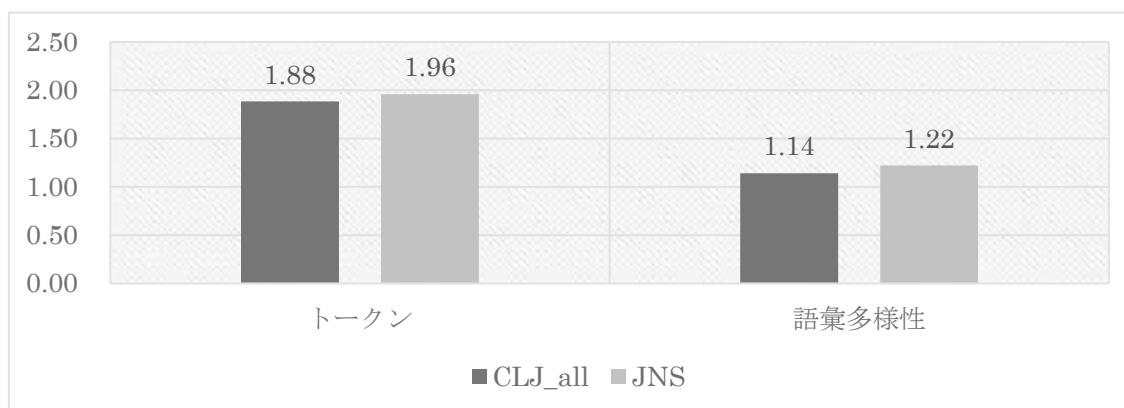


図 14 から、漢語動名詞の産出量について、JNS が使用した漢語動名詞のトークン数と語彙多様性は CLJ_all より多い傾向が見られたが、 t 検定を行った結果、両群間の差は有意でなかったことが確認された（トークン数： $t(248) = .129$ 、 $r = .001$ 、 $p = .719$ 、ns. 語彙多様性： $t(248) = .672$ 、 $r = .003$ 、 $p = .413$ 、ns.）。

以上より、CLJ が作文における産出した漢語動名詞の総語数と多様性は JNS 並みだと言える。ただし、ここで考慮すべきなのは、以上で抽出した CLJ の産出した漢語動名詞の中で、誤用も含まれているということである。それでは、誤用を除いた場合、CLJ の漢語動名詞の産出量は JNS との間には差があるのだろうか。これについて調査した結果、以下の図 15 を得た。

図 15 CLJ_all と JNS の作文におけるトークン数・語彙多様性（誤用を除いた場合）

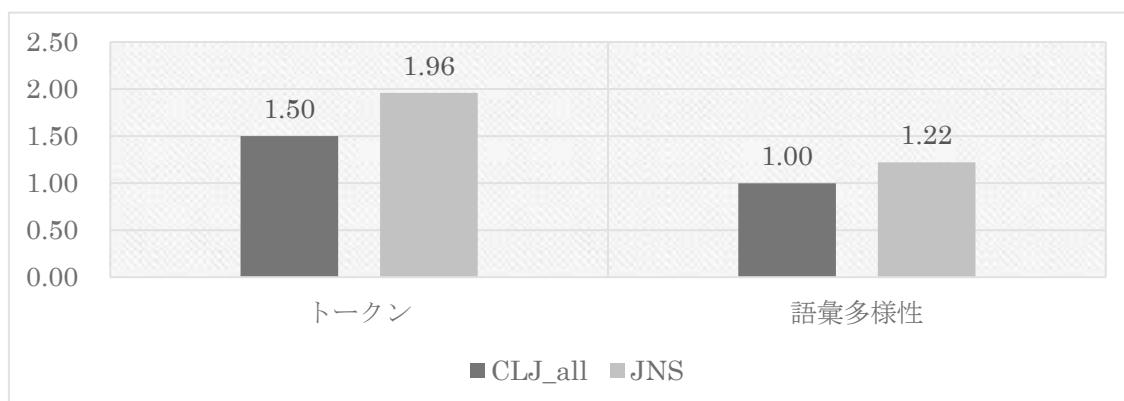


図 15 から、JNS が産出した漢語動名詞のトークン数と語彙多様性は CLJ_all より多い傾向が見られた。 t 検定を行った結果、両群間の差は有意であることが確認された（ト

クン : $t(248) = 4.686$ 、 $r = .025$ 、 $p = .031$ 語彙多様性 : $t(248) = 4.663$ 、 $r = .049$ 、 $p = .032$ 。

以上より、誤用を除いた場合、漢語動名詞の総語数においても、種類数においても、CLJ は JNS に到達していないことが明らかになった。仮説では、作文の場合、CLJ は JNS より数多く、かつ、多様に漢語動名詞を産出していると予想されたが、今回の調査結果はこの仮説が支持されなかった。その原因としては 2 点が考えられる。1 点目は、CLJ の漢語動名詞の産出量は文体に影響される可能性があるからである。多くの先行研究（胡（2012）、李（2016）など）では、論説文やメール文を主要データとして調査し、CLJ が作文において漢語や漢語動名詞を JNS よりも多く産出しているという傾向が見られたが、今回使用した漫画を描写したデータにおいて、CLJ が意識的に漢語動名詞の使用を回避している問題点が示された。2 点目は、多くの先行研究は CLJ が作文において JNS よりも漢語や漢語動名詞を多く産出していることが示されたが、CLJ の漢語使用には語彙レベルの誤用が多い可能性を考慮していなかったからである。

次に、すべての CLJ および JNS の個々人について、作文における使用された漢語動名詞の語彙難度を調査し、群ごとの平均値を求めた結果、図 16 を得た。

図 16 CLJ_all と JNS の作文における語彙難度

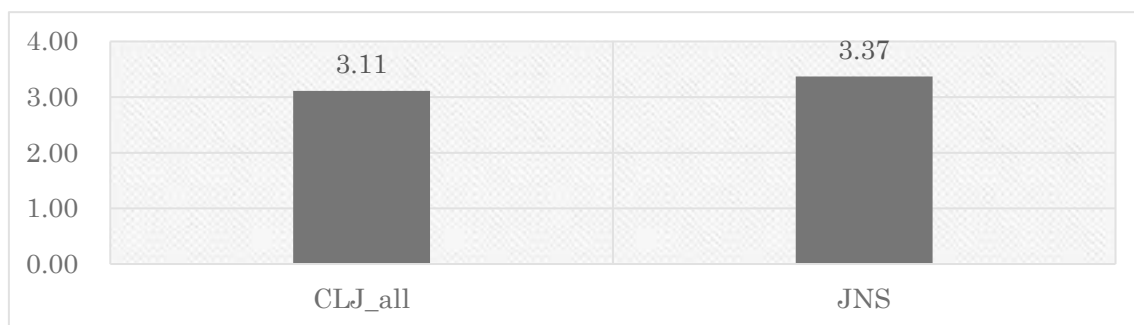


図 16 から JNS は CLJ_all より高い傾向が見られた。また、 t 検定を行った結果、両群間の差は有意であることが確認された ($t(248) = 9.222$ 、 $r = .115$ 、 $p = .003$)。CLJ が作文においてより平易な漢語動名詞を使用しており、母語話者的な漢語使用と一致しているわけではないことが明らかになった。仮説では、CLJ は JNS より漢語が高い漢語動名詞を使用していると予想されたが、今回の結果はこの仮説が支持されなかった。このことから、豊富な漢字知識を有する CLJ であっても、難度が高い日本語漢語動名詞の使用はうまくで

きないのではないかと考えられる。

以下、CLJ (26) と JNS (27) の作文の実例を見てみよう。漢語動名詞には【】を付す(以下同)。

(26) ある日、ケンが残業で夜遅く帰りました。終電でやっと家に着くと、自分が鍵を忘れてしまったことに気づきました。家にいるマリに声をかけようとしても、彼女はもう二階の部屋で寝込んでしまいました。ケンは仕方がないので、梯子を使って二階に登ろうとしました。その時ある警官が周りを経て、ケンが【注意】されました。ケンは【緊張】しながらも警官に【説明】しました。二人の大声が二階にいるマリを覚めさせました。マリがケンと一緒に警官に【説明】して、警官からの了解を得ました。(CCS56、SW2)

(27) 夜、ケンは家に帰って来ましたが、鍵がないので家に入れません。二階にいるマリを呼びましたが、深夜0時という時間であり、マリは寝ていて気づきません。ケンは梯子を【用意】して、開いている二階の窓から入ることを試みました。しかし、【通報】されたのか、通りかかったのか、ケンは警官に不審行動を見咎められました。ケンが警官に事情を【説明】すると、警官はケンが不審者でないと【納得】しました。マリも騒ぎにか目を覚まし、外の状況を【確認】しました。(JJJ18、SW2)

上記の実用例において、CLJ の使用した漢語動名詞の延べ語数は4語、R値は1.50であり、JNS の使用した漢語動名詞の延べ語数は5語、R値は2.24である。これにより、作文での漢語動名詞産出量について、CLJ と JNS 間の差異が大きいことが確認された。

語彙難度について、CLJ の使用した漢語動名詞の平均難度は2.5であり、JNS は3.4である。詳細に観察すると、CLJ は作文において「注意」「説明」「緊張」などの初級後半～中級前半レベルの漢語を使用しているのに対し、JNS は、「用意」「説明」「確認」などの中級前半レベルの漢語と、「通報」「納得」などの中級後半レベルの漢語を多様に使用している。これにより、CLJ は作文において難度が高い漢語動名詞をうまく使用できないということがあらためて確認された。

8.3.2.1.2 特徴漢語動名詞

以上より、CLJ は一般的に日本語漢語の習得に優位性を持っていると認められたが、実

際の作文においては、JNS に対して逸脱した漢語動名詞を産出した可能性があると言える。このことを確認するため、CLJ が JNS に対して特徴的に過剰使用、または過少使用されている語を抽出したところ、表 15 で示した結果を得た。

表 15 CLJ_all の作文における過剰に使用する漢語動名詞

LLR 範囲	過剰使用語 6 語
10 $\leq$	準備 (15.84)
3.84 $\leq$	発見 (6.11)、返事 (5.64)、出発 (4.69)、解決 (4.21)、誤解 (4.21)

表 16 CLJ_all の作文における過少に使用する漢語動名詞

LLR 範囲	過少使用語 5 語
-10 $\leq$	帰宅 (-32.37)、確認 (-15.75)
-3.84 $\leq$	落着 (-9.53)、納得 (-8.48)、理解 (-8.18)

表 15 と表 16 からわかったことは 3 点ある。1 点目は、CLJ の作文における使用した特徴漢語動名詞には、日中同形語が多いということである。以下、日中対照漢字語データベース（松下他、2020）を用い、過剰使用語と過少使用語における同形語・非同形語の使用率それぞれを調査した結果である。

図 17 過剰使用語・過少使用語における日中同形語・非同形語

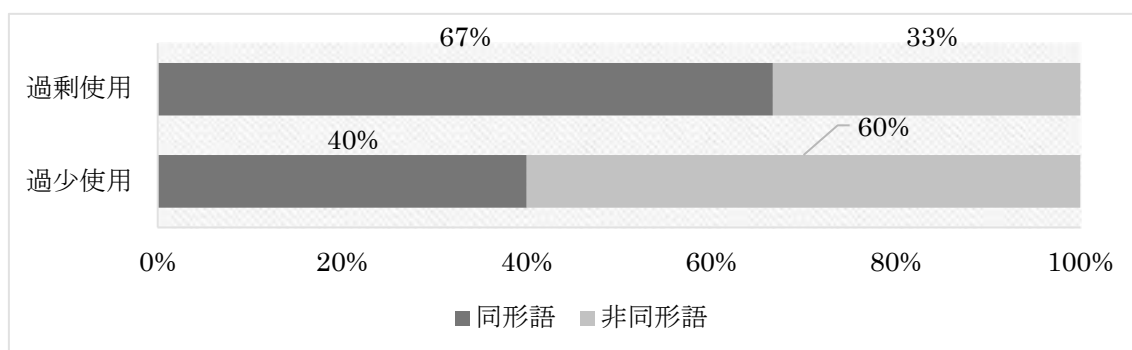


図 17 から見れば、過剰使用語における同形語の使用率は 67%、過少使用語における同形語の使用率より 27 ポイントで多いということがわかった。つまり、CLJ は、意味が同等・類似の日中同形漢語（「準備」「出発」「解決」「誤解」）を過剰に使用していることが確認された。また、CLJ は、日中同形語であってもコロケーションや使用場面の異なる漢

語（「確認」「理解」）や、日本語的な慣用熟語（「(一件) 落着」）、漢字の意味から語の意味が理解できない漢語（「納得」）などを JNS のように使用できていないことである。

以上より、中国語の語彙や漢字からの影響は、CLJ の漢語動名詞の過剰使用に関連している可能性が高いと考えられる。一方、CLJ はコロケーションや慣用熟語に関する日本語知識が不足しているため、作文を書く際に適切な日本語表現を選択できない可能性があると言える。

8.3.2.3 習熟度比較

8.3.2.3.1 誤用率

まず、CLJ 中級下、CLJ 中級上、CLJ 上級が産出した純粋誤用率および不適切使用率を調査した結果、図 18 を得た。

図 18 CLJ 中級下・CLJ 中級上・CLJ 上級の純粋誤用率および不適切使用率

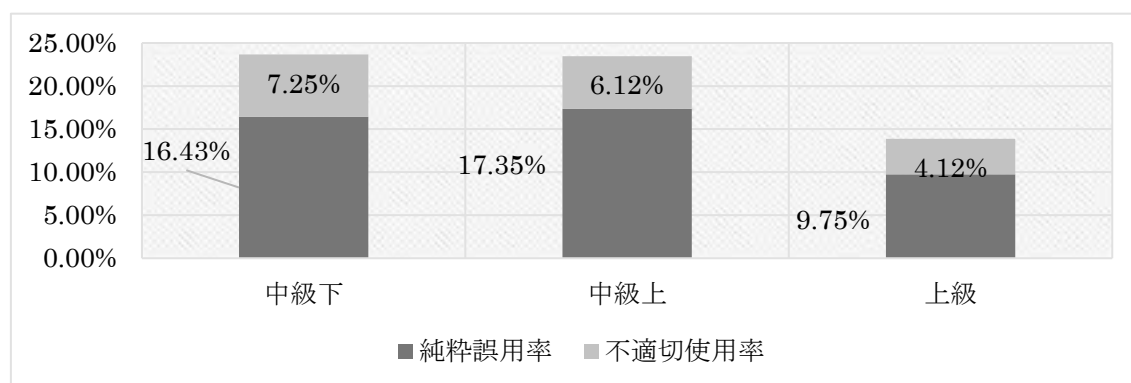


図 18 に示されるように、両者を加えた広義の誤用率については、中級下（23.68%）≒ 中級上（23.47%）> 上級（13.87%）という順序関係になり、習熟度の上昇につれて CLJ が産出した広義的誤用が減少しているが、その減少は遅いということがわかった。また、習熟度の上昇につれて、不適切使用率および純粋誤用率の減少も遅いということが確認された。これにより、CLJ が習熟度の上昇につれて、日本語の知識も豊富になり、全体的にみれば産出した誤用が少なくなったが、母語からの影響はまだ強いのではないかと考えられる。

8.3.2.2.2 漢語動名詞の産出量および語彙難度

次に、CLJ 中級下、CLJ 中級上、CLJ 上級の個々人について、作文における使用された漢語動名詞の産出量（トークン・語彙多様性）・語彙難度を調査し、トークン数・R 値・語彙難度に対して群ごとの平均値を求めた結果、図 19・図 20・図 21 を得た。なお、JNS の 3 指標は参照として示す。

図 19 中級下・中級上・上級 CLJ の作文におけるトークン数

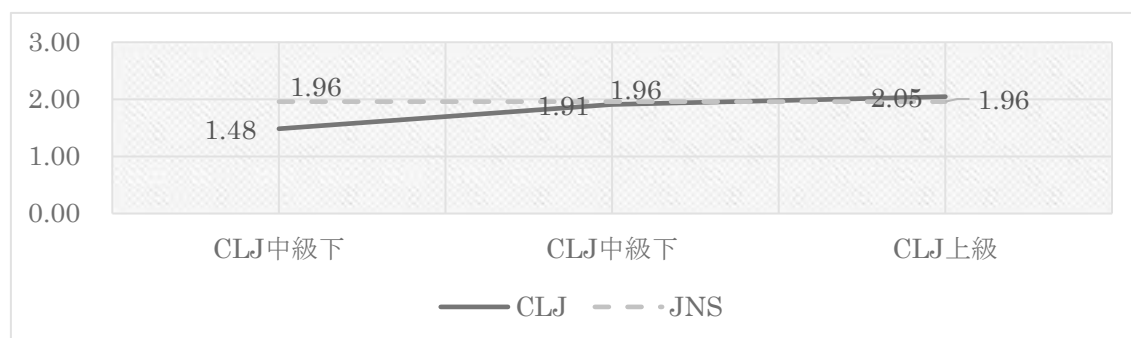


図 20 中級下・中級上・上級 CLJ の作文における語彙多様性

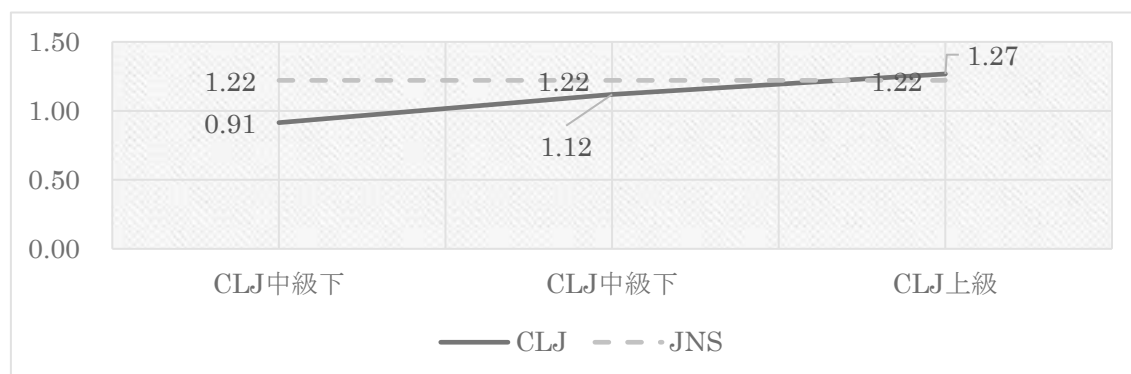


図 21 中級下・中級上・上級 CLJ の作文における語彙難度

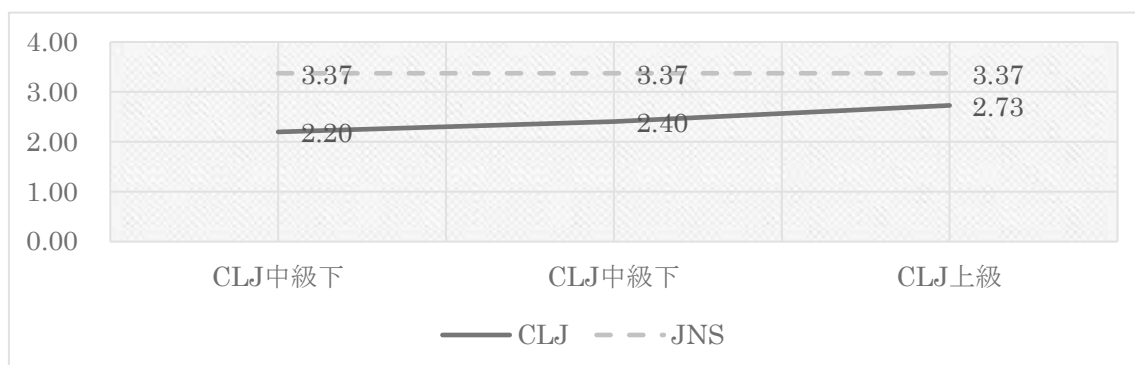


図 19～21 から、CLJ が習熟度の上昇につれて、産出した漢語動名詞のトークン・語彙多様性・語彙難度ともに徐々に上昇しており、上級になると、産出量は JNS を上回る傾向が見られる。まず、トークンについて、ANOVA を行った結果、習熟度要因の主効果が有意でなかったことが確認された ($F(2, 196) = 1.584$, $\eta_p^2 = .016$, $p = .208$, ns)。次に、語彙多様性について、ANOVA を行った結果、習熟度要因の主効果が有意であることが確認された ($F(2, 196) = 3.005$, $\eta_p^2 = .030$, $p = .049$)。また、多重比較により、中級下と上級間の差は有意であるが ($p = .047$)、他の群間には有意差が見られなかった。最後に、語彙難度について、ANOVA を行った結果、習熟度要因の主効果が有意でなかったことが確認された ($F(2, 196) = 2.096$, $\eta_p^2 = .021$, $p = .126$, ns.)。

以上より、CLJ は習熟度の上昇につれて、作文において産出した漢語動名詞の総語数の変化が見られなかったが、上級になるとより多様な漢語動名詞を使用できるようになったことが明かになった。ただし、CLJ は上級になっても、平易な漢語動名詞を多用している可能性もある。仮説では、CLJ は習熟度の上昇につれて、産出した漢語動名詞の総語数が増加しているが、語彙多様性が減少し、語彙難度の明らかな変化が見られないことと予想されたが、今回の調査結果はこの仮説が一部支持された。

以下、CLJ の中級下・中級上・上級の作文実例を見てみよう。

- (28) ケンは仕事を終わったら家に帰りました。門の前にうちの鍵を持っていないのが気づきました。そして、ケンは家の外にマリを大きい声で呼んでいました。でも、マリはまた起きていませんでしたので、ケンの声を全部聞こえませんでした。しょうがないので、ケンは梯子を運んで家に置いていました。ケンは梯子に登って家に入

と思いました。ケンは何をしようかと思ったときに警官に【発見】されました。事実が分からないので、警官はケンを叱りました。ケンは何をしようかと思ったときに警官によく【説明】しました。警官は最後に分かりました。マリは起きてから門を開けてケンを入りました。(CCH29、SW2)

(29) 彼は外から大声を出して、寝ているマリを起こしたかったが、マリはケンのことを気付かなかったです。仕方なく、ケンは庭にある梯子を使って二階まで登ろうとしたときに、通りかかった警官に【発見】され、不審者だと思われました。ケンは警官に事情を【説明】したが、信じてもらえませんでした。幸いマリは外の声を聞こえて、窓からケンを呼んだので、誤解は無事に解けました。(CCS40、SW2)

(30) ある日、ケンが残業で夜遅く帰りました。終電でやっと家に着くと、自分が鍵を忘れてしまったことに気づきました。家にいるマリに声をかけようとしても、彼女はもう二階の部屋で寝込んでしまいました。ケンは仕方がないので、梯子を使って二階に登ろうとしました。その時ある警官が周りを経て、ケンが【注意】されました。ケンは【緊張】しながらも警官に【説明】しました。二人の大声が二階にいるマリを覚めさせました。マリがケンと一緒に警官に【説明】して、警官からの了解を得ました。(CCS56、SW2)

上記の実用例において、CLJ が習熟度の上昇につれて使用した漢語動名詞の延べ語数は2語→2語→4語、R値は1.41→1.41→1.50である。これにより、作文での漢語動名詞産出量について、CLJ は習熟度の上昇につれて増加が遅いということが確認された。

語彙難度について、CLJ が習熟度の上昇につれて使用した漢語動名詞の平均難度は2→2.5→3である。これにより、CLJ は上級になっても、作文において難度が高い漢語動名詞をうまく使用できないということがあらためて確認された。

8.3.2.2.3 特徴漢語動名詞

また、CLJ が習熟度の変化につれて特徴的に過剰使用・過少使用する漢語動名詞はどのような変化があるかについて確認したところ、表18と表19に示した結果を得た。

表 18 中級下・中級上・上級 CLJ の作文における過剰使用語

LLR 範囲	中級下 5 語	中級上 7 語	上級 3 語
10≤	準備 (27.1)	準備 (11.75)	
3.84≤	利用 (4.45)、研究 (4.45)、解釈 (4.45)、返事 (4.45)	発見 (8.66)、解決 (5.76)、誤解 (5.76)、出発 (4.93)、討論 (4.93)、散歩 (4.1)	準備 (7.42)、返事 (6.82)、用意 (4.45)

表 19 中級下・中級上・上級 CLJ の作文における過少使用語

LLR 範囲	中級下 3 語	中級上 6 語	上級 4 語
-10≤	確認 (-13.93)	帰宅 (-22.69)、確認 (-17.52)、納得 (-11.16)	帰宅 (-17.59)
-3.84≤	帰宅 (-8.47)、納得 (-4.14)	安心 (-6.65)、落着 (-6.65)、理解 (-4.68)	理解 (-6.89)、落着 (-5.15)、確認 (-4.16)

表 18 と表 19 からわかることが 2 点ある。1 点目は、過剰使用語が習熟度の上昇につれて、まずは増加、上級になると減少していることである。過少使用語も同じような傾向であることが確認された。このことから、習熟度の上昇に伴い、CLJ の日本語表現力が向上しているため、より多様な日本語語彙を使用することができると考えられる。

2 点目は、中級下と中級上の過剰使用語において、意味が類似、および同等の日中同形語が多く現れるが、上級になると、日中同形語の過剰使用が明らかに減少し、「準備」しか見られない。このことは、CLJ が上級になると、母語からの影響が少なくなると言える。

8.4 まとめ

以上、漢語使用の正確性と自然さを示す指標として、誤用率・産出量・語彙難度・特徴語の 4 観点に注目し、CLJ が発話及び作文における漢語動名詞の使用実態について調査してきた。その結果、以下のような知見が得られた。

まず、RQ1 (国際比較) について、(1) 発話においても作文においても、CLJ の誤用率が最も多い、(2) 漢語動名詞の総語数・多様性・語彙難度の不足は、CLJ だけではなく、日本語学習者全般に共通する課題である、(3) 学習者の漢語動名詞使用は、L1 や各地域の日本語教育が影響しているが、共通している漢語動名詞も存在している、の 3 点が明らかになった。

RQ2 (NS 比較) について、(1) CLJ が日本語を用いて発話・作文する際には、意識的に漢語動名詞の使用を回避している可能性がある、(2) 豊富な漢字知識を有する CLJ であっても、JNS より平易な日本語漢語動名詞を多用している、(3) CLJ は日中同形語を過剰に使用しているのに対し、中国語において存在していない漢語を過少に使用している、の 3 点が明らかになった。

RQ3 (習熟度比較) について、(1) 習熟度の上昇に伴い、CLJ の誤用率の減少が遅い、(2) 発話の場合、習熟度の上昇に伴い、CLJ の漢語動名詞使用の総語数と語彙多様性の上昇は遅れ、上級になっても JNS 水準に到達していない、(3) 作文の場合、習熟度の上昇に伴い、CLJ の総語数の変化が見られなかったが、上級になるとより多様な漢語が使用できる、(4) CLJ は習熟度の上昇につれて、より難しい漢語が産出できるようになったが、問題点はまだ存在している、(5) CLJ は上級になっても、JNS に対して過剰・過少に使用する漢語動名詞も少なくない、の 5 点が明らかになった。

本章の分析においては、(1) CLJ が世界の他の学習者よりも日本語漢語動名詞を正確、かつ、自然に使用できているのか、(2) CLJ が JNS と同じく、正確で自然な日本語漢語動名詞使用を行えているのか、(3) 上級者だけでなく初級者や中級者も正確で自然な日本語漢語動名詞使用を行えているのか、という 3 つの疑問を議論の出発点としたわけであるが、(1') CLJ が世界の他の学習者に比べ、日本語漢語動名詞の誤用や不適切な使用が多い傾向にある、(2') CLJ が JNS の水準に到達しておらず、正確で自然な日本語漢語動名詞使用をうまく行なえない、(3') 習熟度のレベルに関わらず、CLJ は正確で自然な日本語漢語動名詞使用をうまく行なえない、という結論が得られたことになる。

この点をふまえると、どのような指導が今後、CLJ には必要になるのだろうか。ここで、CLJ 向けの日本語漢語指導の方向性について考えてみたい。まず指摘すべきは、漢語知識を有する CLJ の漢語習得は他の学習者より有利と思われる一方、CLJ 上級と JNS の差は大きく、JNS の漢語使用に到達する見込みは薄いことである。

この問題の解決策には、日本語学習者全般にあてはまるものと、とくに CLJ にあてはまるものがある。前者に関しては、使用できる漢語動名詞の数と種類を増やし、語彙難度をあげていくことが重要である。また、後者に関しては、JNS と比較する場合に、CLJ が過少使用する、(1) 構形成態素を日本で独自に組み合わせた漢語 (和製漢語)、(2) 現代中国語で動詞として使えない漢語、(3) 自然物及び自然現象を表す漢語、などに多く触れさせることが必要だろう。

第9章 中国語母語の学習者による日中同形漢語動名詞の使用特徴

9.1 はじめに

9.1.1 ねらい

第8章では、中国語を母語とする日本語学習者（CLJ）による発話と作文を調査したところ、CLJは「卒業」「交流」「参加」「準備」「発見」「返事」「出発」「解決」などを過剰に使用し、「熱中」「発言」「矛盾」「帰宅」「確認」「納得」「理解」などを過少に使用することがわかった。

ここで、過剰・過少使用語の内容を見ていくと、日中同形語が多いことに気が付く。たとえば、上述の発話の過剰使用上位5語のうち、「交流」「準備」「喧嘩」「参加」の4語が同形語である。また、過少使用については「成仏」「発言」「矛盾」が同形語に相当する。この点をふまえると、母語における同形語の知識があることで「L1 干渉」、つまり「否定的な転移」が生じ、そのことが、L2における過剰・過少使用の原因になっているのではないかと考えられる。

この仮説を検証するため、本章では、まず、第8章で抽出したCLJの過剰・過少使用漢語動名詞における同形語の使用率および同形語の種類を調査し、その語、サンプル語を取り上げ、使用頻度・品詞パターン・コロケーションの3つの観点から、日中両言語における同形語の使用実態を比較することとした。

9.1.2 背景

日中両言語において、多くの同形語が存在している。たとえば、文化庁(1978)は、日本語の漢語と対応する中国語を、その関係性に基つき、4種類(S: Same、O: Overlap、D: Different、N: Nothing)に分類している。3種類の初級・中級の日本語教科書(計10冊)より抽出した2,000語に基づく計量的調査の結果、日中両言語において意味が共通する同義の語彙(S語)は全体の約67%で、類義の語彙(O語)は約4%、両者あわせて全体の約71%になるという。陳(2002)は、文化庁(1978)・国立国語研究所(1982)・国立国語研究所(1984)・『日本語能力試験出題基準』(国際交流基金、1994)という4冊の資料より抽出した4,600語と中国大陆の中国語において対応する2字漢語の辞書的意味実態を調べた結果、S語は全体の約54.5%、O語は全体の14.9%を占めることがわかった。松下・陳・王・陳(2020)は、文化庁(1978)と三浦(1984)に基つき、日中同形語の意味対応パターンを表1に示したように6種類に分類し、「日中対照漢字語データベース」(Version 2.0)を開発した。また、日本語の語彙において、50%が漢語で、漢語の70%が日中同

形語であること、同形語のうち、82%が同形同義であり、18%が同形類義語や同形異義語であることが明らかになった。

このことは、中国語を母語とする日本語学習者(L1 Chinese learners of Japanese:CLJ)の日本語習得を促進している一方、課題も存在する。CLJ と日本語母語話者(Japanese native speaker:JNS)の同形語使用を観察すると、CLJ には、(1)一部の語を過剰、または過少使用する、(2)同じ語を異なる品詞として使用する(例:体力が回復する／？体力が回復になる)、(3)同じ語を異なる共起環境で使用する(例:景気が回復する／？動作が回復する)などの傾向が認められる。これらの点をふまえると、母語における同形語の知識があることで「L1 干渉」、つまり「否定的な転移」が生じ、そのことが、L2 における過剰・過少使用の原因になっているのではないかと考えられる。

以上の仮説を検証するために、さまざまな研究を行ってきたが、先行研究において、母語話者コーパス・学習者コーパス・書き言葉コーパス・話し言葉コーパスを組み合わせた調査は極めて少ない。そこで本研究では、多元的コーパスセットを組み合わせ、CLJとJNSの同形語使用パターン、および L1 における同形語の使用パターンを比較し、CLJ の同形語使用の問題点と、中国語からの L1 干渉の実態を明らかにすることを目指す。

9.2 リサーチデザインと手法

9.2.1 研究目的と RQ

すでに述べたように、本章は、CLJ の日本語漢語使用における問題の一部が、母語知識に起因するのではないかという仮説を探る目的のもと、CLJ 作文で最も顕著に過剰使用される「準備」と、最も顕著に過少使用される「確認」という 2 種の同形語に注目し、中国語におけるそれらの対応語である“准备”および“确认”の用法調査を行う。

比較にあたっては、頻度・品詞別用法・コロケーションの 3 観点を立てる。これらの各々につき、まず、I-JAS における JNS と CLJ の差異を確認する。その後、一般日本語コーパス（書き言葉：BCCWJ、話し言葉：CEJC）および一般中国語コーパス（書き言葉：Lancaster Corpus of Mandarin Chinese、話し言葉：The Spoken L1 Corpus）で各語の使用状況の差異を確認する。これにより、I-JAS で観察される CLJ/JNS の差異が、それぞれの母語である日本語・中国語の差異に起因するものであるかどうかを確認できることになる。この目的に沿って、以下の研究設問を設定する。

RQ1 CLJ が JNS に対して過剰・過少に使用する同形語にはどのようなものがあるか？
(過剰・過少使用漢語動名詞における同形語)

RQ2 過剰・過少使用される同形語について、CLJ は JNS と同様の頻度で使用しているか。また、L1 日本語と L1 中国語の差は影響しているか？(使用頻度の差)

RQ3 過剰・過少使用される同形語について、CLJ は JNS と同様の品詞パターンで使用しているか。また、L1 日本語と L1 中国語の差は影響しているか？(品詞パターンの差)

RQ4 過剰・過少使用される同形語について、CLJ は JNS と同様のコロケーションパターンで使用しているか？また、L1 日本語と L1 中国語の差は影響しているか？(コロケーションの差)

9.2.2 データ

上記で述べたように、本章では、はじめに I-JAS で CLJ と JNS の差を確認した後、日本語・中国語の書き言葉・話し言葉コーパスを調査することで、CLJ/JNS 差の原因を検討する。

まず、I-JAS については、話し言葉として対話タスクのデータを、書き言葉としてストーリーライティング (SW1、SW2) のデータを利用する。

次に、日本語母語話者コーパスについては、話し言葉として、CEJC のすべてのジャンルのデータを、書き言葉として BCCWJ のデータを利用する。

最後に、中国語母語話者コーパスについては、話し言葉として The Spoken Chinese Corpus of L1-L1 (TSCC、Li 2021) のデータを、書き言葉として Lancaster Corpus of Mandarin Chinese (LCMC) のデータを利用する。

9.2.3 手法

RQ1(過剰・過少使用漢語動名詞における同形語)では、まず、CLJ が JNS に対して特徴的に使用している漢語、すなわち有意に過剰、または過少に使用する漢語を抽出する。特徴度の指標は、対数尤度比統計量(log-likelihood ratio:LLR)を使用することとし、有意水準 5%に相当する統計量 3.84 を満たすものを、特徴的に過剰使用または過少使用されている語とみなす。なお、本研究は探索的手法に基づくものであることから、特徴語の可能性のあるものをより広く集めて観察できるよう、多重比較補正はあえて行わないこととする。特徴語の抽出と統計量の計算は、多言

語対応のコーパスコンコーダンスである AntConc (3.5.9) の Keyword List 機能を使用する。次に、日中対照漢字語データベース(松下ほか 2020)を利用し、抽出された CLJ の過剰使用および過少使用の漢語動名詞における同形語の各意味対応タイプの占有率を計算する。なお、データベースで収録されていない語については、中国語母語話者である筆者より判断する。

RQ2(使用頻度の差)では、まず、I-JAS における JNS と CLJ の書き言葉・話し言葉に使用されるサンプル語の頻度をそれぞれ調査する。次に、L1 日本語コーパスにおけるサンプル語の使用頻度と、L1 中国語コーパスにおけるそれに対応する同形語の使用頻度をそれぞれ調査する。すべての頻度情報について 100 万語あたりの調整頻度 (PMW) に換算して比較する。

RQ3(品詞パターン)の差)では、まず、I-JAS における JNS と CLJ の書き言葉・話し言葉に使用されるサンプル語の品詞用法の種類とその使用率を調査する。次に、L1 日本語コーパスにおけるサンプル語の各品詞用法の使用率と、L1 中国語コーパスにおけるそれらと対応する同形語の各品詞用法の使用率をそれぞれ調査する。各語の品詞用法を判断する際に、以下のような基準を設定する。

表 2 品詞用法の判断基準

L1	品詞	基準
日	名詞	動詞の主語や目的語として機能する。 格助詞付加(格助詞「が・を・に...」の後続)
	動詞	述語として機能する。 「スル」付加(～する(敬語形を含む)、～出来る)
中	名詞	・動詞の主語や目的語として機能する。なお、数量詞(“一个(苹果)”“一种(方法)”)の付加・形容詞や他の名詞の修飾(“正式准备”“一切准备”)などを補足基準とした。 ・“进行・有・作・加以・给以・受到・予以”などのような「准谓宾动词」の目的語として機能する。 ・複合語の場合、複合語の統語機能および当該語が複合語内での統語機能によって品詞用法を判断する。例えば、“有心理准备”の場合、名詞“心理”は“准备”を修飾し、“心理准备”は動詞“有”の目的語として機能するため、名詞“心理”は“准备”を修飾するため、ここの“准备”は名詞と判断する。
	動詞	・述語として機能し、“着・了・过”などの助詞が接続できる。 ・“不”を付加して否定形になれる。

RQ4(コロケーションパターンの差)では、まず、書き言葉・話し言葉を問わず、I-JAS における JNS と CLJ の使用するサンプル語のコロケーションパターンをまとめ、各パターンにおける共起語を抽出する。次に、I-JAS から抽出したコロケーションパターンをもとに、L1 日本語コーパスにおけるサンプル語と共起する語を抽出する。さらに、L1 中国語コーパスにおける対応する中国語のコロ

ケーションパターンおよび共起語を抽出し、それらを日本語と比較する。

9.3 結果の考察

9.3.1 RQ1 過剰・過少使用漢語動名詞における同形語

まず、CLJ が JNS に対して過剰・過少に使用する語における同形語を抽出して、その占有率を調査したところ、図 1 の結果を得た。

図 1 過剰・過少使用語における日中同形語占有率

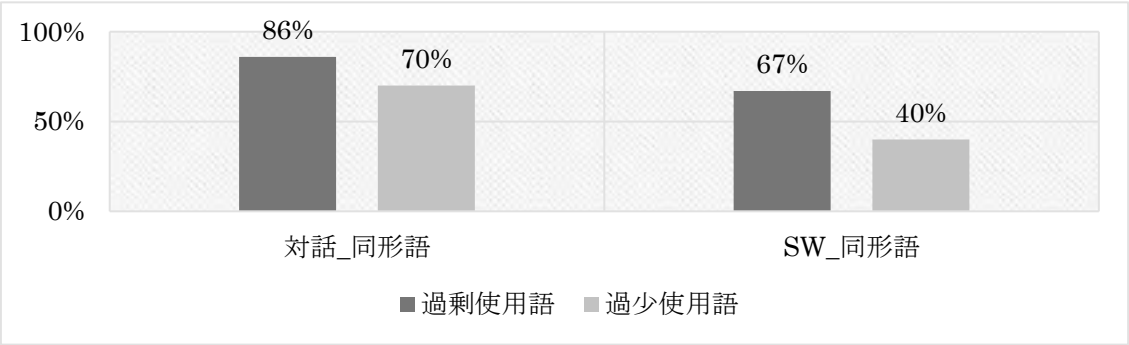


図 1 から見ると、2 点を指摘したい。まず、1 点目は、CLJ の過剰使用語における同形語の占有率は、過少使用語よりも多いということである。学習者にとって、L1 知識が生かせる語を優先的に選択するため、結果としてそれらは過剰使用されるのに対し、L1 に存在しない語については選択優先度が下がり、結果として出現頻度が下がっているものと考えられる。

次に、2 点目は、対話における同形語の占有率は SW よりも高いということである。その原因について考えると、発話をする場合、音声情報の即時処理が求められ、学習者の脳内の L2 メンタルレキシコンから単語を検索して取り出す際に、L1 と同形の語へのアクセスがより容易であるのではないかと考えられる。

以下、CLJ の過剰・過少に使用する語においてどのような同形語が存在するかについて具体的に見てみよう。なお、括弧には各タイプの比率を示す。

表 3 過剰・過少使用語における日中同形語

意味対応タイプ	過剰使用 (LLR 順)	過少使用 (LLR 順)
対話		
同形同義 (日＝中)	交流、準備、参加、留学、感謝、自習、恋愛、緊張、入学、翻訳、体	発言、矛盾、購入、骨折、尊敬、生活、成人、検索、赴任、集中、乾

	験、管理、交換、挑戦、選択、感動、完成、接触、理解(79%)	燥、演奏、解説、予約、活動、一致、優先、克服、再現、分散、反省、和解、対抗、引退、感激、独立、率先、申告、自立、融合、達成、開通、麻酔、経験、移動、運動(76%)
同形異義 (日≠中)	勉強、喧嘩(8%)	工夫、待機、没頭、看病、葛藤(10%)
同形類義 (日>中)	旅行、注意(8%)	割愛、調整、衝突、逆転(8%)
同形類義 (日<中)		設計(2%)
同形類義 (日><中)	了解(4%)	表現、上京(4%)
SW		
同形同義 (日=中)	準備、出発、解決、誤解(100%)	確認、理解(100%)

表 3 からわかるように、過剰使用語であれ過少使用語であれ、同形同義語の数が最も多い。多くの先行研究(陳 2003; 李 2006; 劉 2021)では、CLJ にとって同形同義語が最も習得しやすいことを示唆したが、今回の結果はこれを支持していない。その原因について考えると、先行研究で調査された同形同義語には「特徴」や「歴史」などの名詞が含まれており、動詞や形状詞と比べて、品詞用法がより単純であるためである。今回の調査対象はサ変動詞として使用できる漢語動名詞に絞っており、その品詞用法が複雑であるため、L1 中国語において意味が同じであっても、具体的な用法には大きなずれが存在する可能性があるのではないかと考えられる。

そこで、以下の RQ では、上記の過剰・過少に使用する同形同義語の中で、SW で過剰使用度が 1 位になる「準備」と、同じく過少使用度が 1 位になる「確認」の 2 語をサンプルとして取り上げ、中国語における両語の対応語となる“准备”(zhǔnbèi)および“确认”(quèrèn)の使用頻度・品詞パターン・コロケーションの 3 観点から具体的に調査を行うこととした。

9.3.2 RQ2 使用頻度の差

まず、I-JAS と L1 コーパスを用いて「準備／准备」の使用頻度をそれぞれ調査した結果、図 3 を得た。

図 3 「準備／准备」の使用頻度 (PMW 調整済み)

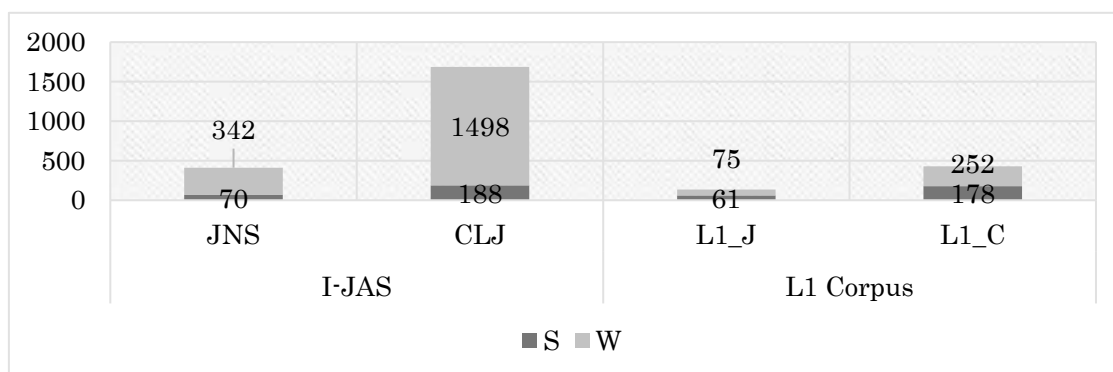


図 3 からわかるように、I-JAS に見られる JNS と CLJ の関係は、L1 における日本語 (L1_J) と中国語 (L1_C) の関係を反映したものと考えられる。具体的に 2 点が確認された。まず、1 点目は、書き言葉と話し言葉を区別しない場合、「準備／准备」の使用頻度について、I-JAS では CLJ > JNS の関係となり、L1 コーパスでは L1_C > L1_J の関係となることである。カイ二乗検定を行った結果、いずれも有意差があった (I-JAS: $\chi^2=28.11$, $df=1$, $p<.001$, OR=3.32; L1 コーパス: $\chi^2=392.26$, $df=1$, $p<.001$, OR=0.32)。これにより、CLJ が「準備」を JNS に対して過剰に使用することは、L1 における“准备”の使用頻度に影響されるのではないかと考えられる。何 (2016) は日本語における同形語の使用頻度が中国語よりも少ない場合、CLJ は過剰使用の可能性が有ることを示唆したが、今回の結果はこれを裏付けると言えるだろう。

次に、2 点目は、話し言葉だけに注目すると、I-JAS では CLJ_S > JNS_S の関係となり、L1 コーパスでは L1_C > L1_J の関係となることである。また、書き言葉においても同様の関係が観察される。カイ二乗検定を行った結果、いずれも有意差があった (I-JAS (S): $\chi^2=14.01$, $df=1$, $p<.001$, OR=2.69; L1 コーパス (S): $\chi^2=15.38$, $df=1$, $p<.001$, OR=0.43; I-JAS (W): $\chi^2=8.87$, $df=1$, $p=.003$, OR=4.38; L1 コーパス (W): $\chi^2=401.91$, $df=1$, $p<.001$, OR=0.30)。これにより、「準備」の使用頻度に見られる L1 干渉は、当該語の使用環境に依存しないことが示唆される。つまり、話し言葉と書き言葉の両方において、CLJ は L1 干渉を受けて「準備」を過剰に使用することが確認された。

次に、I-JAS と L1 コーパスを用いて「確認／确认」の使用頻度をそれぞれ調査した結果、図 4 を得た。

図 4 「確認／確認」の使用頻度 (PMW 調整済み)

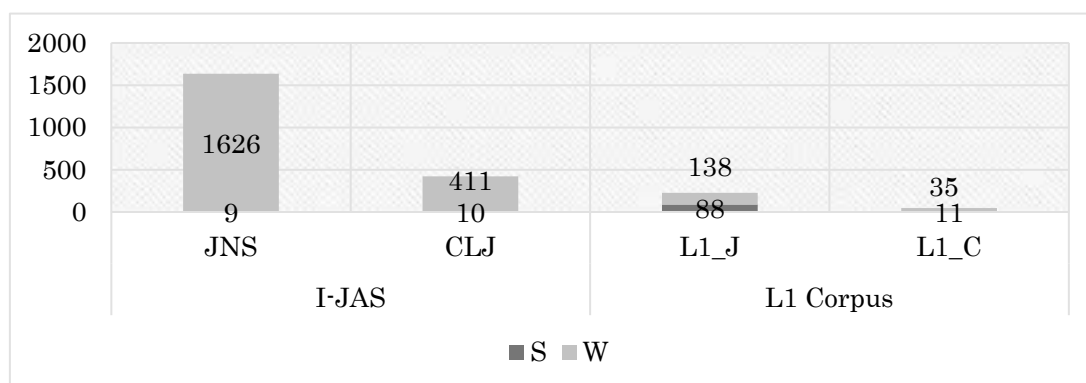


図 4 からわかるように、「準備」と同様に、I-JAS に見られる JNS と CLJ の関係は、L1 における L1_J と L1_C の関係を反映したものと考えられる。ここでも 2 点が確認された。まず、1 点目は、書き言葉と話し言葉を区別しない場合、「確認／確認」の使用頻度について、I-JAS では $CLJ < JNS$ の関係となり、L1 コーパスでは $L1_C < L1_J$ の関係となることである。カイ二乗検定を行った結果、いずれも有意差があった (I-JAS: $\chi^2 = 7.47$, $df = 1$, $p = .006$, $OR = 2.34$; L1 コーパス: $\chi^2 = 96.73$, $df = 1$, $p < .001$, $OR = 0.22$)。これにより、CLJ が「確認」を JNS に対して過少に使用することは、L1 における「確認」の使用頻度に影響されるのではないかと考えられる。何 (2016) は日本語における同形語の使用頻度が中国語よりも多い場合、CLJ は過少使用の可能性があることを示唆したが、今回の結果はこれを裏付けると言えるだろう。

次に、2 点目は、話し言葉だけに注目すると、I-JAS では $CLJ\_S > JNS\_S$ の関係となるが、L1 コーパスでは $L1\_C < L1\_J$ の関係となることである。一方、書き言葉の場合には、I-JAS における関係が L1 コーパスにおける関係と一致している。ただし、カイ二乗検定を行った結果、CLJ_S と JNS_S の間で有意差がなかったが (I-JAS(S): $\chi^2 = 0.00$, $df = 1$, $p = 1$, ns, $OR = 1.19$)、他の群間には有意差があった (L1 コーパス(S): $\chi^2 = 12.33$, $df = 1$, $p < .001$, $OR = 15.31$; I-JAS(W): $\chi^2 = 18.07$, $df = 1$, $p < .001$, $OR = 0.25$; L1 コーパス(W): $\chi^2 = 76.67$, $df = 1$, $p < .001$, $OR = 3.96$)。これにより、「準備」と同じように、「確認」の使用頻度に見られる L1 干渉は、当該語の使用環境に依存しないことが示唆される。つまり、話し言葉と書き言葉の両方において、CLJ は L1 干渉を受けて「確認」を過少に使用することが確認された。

以上、使用頻度の観点から CLJ の同形語使用における L1 干渉について考察してきた。その結果、日中両言語における同形語の使用頻度のズレが存在する場合、L1 干渉が生じる可能性があることが確認された。以下、同形語の品詞パターンの差について調査する。

9.3.3 RQ3 品詞パターン之差

まず、各コーパスデータを用いて「準備／准备」の品詞用法の使用率を調査したところ、図 5 を得た。

図 5 「準備／准备」の品詞用法

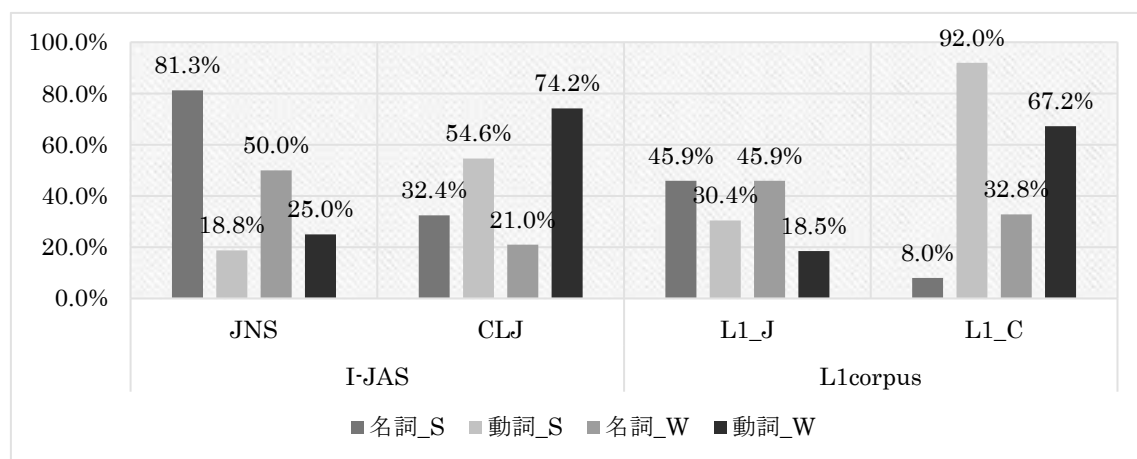


図 5 からわかるように、I-JAS に見られる JNS と CLJ の品詞使用パターンは、L1 における品詞使用パターンを反映したものと考えられる。ここでは 3 点について言及したい。1 点目は、話し言葉と書き言葉を問わず、「準備」の品詞使用パターンについて、CLJ は動詞用法を多用しているのに対し、JNS は名詞用法を多用していることである。「準備」の品詞用法について、CLJ は JNS のように使用することができなく、問題点が存在する可能性が示唆された。以下、I-JAS における「準備」に関する実用例を示す。

- (1) ケンとマリはピクニックに行く準備をしていました。(JJJ35-SW1)
- (2) その時に、私はピアノの準備をしていてあともう一人歌う人がいたんですけど(JJJ30-I)
- (3) ピクニックの前に、ケンさんとマリさんはサンドイッチとりんごを準備しています。(CCH12-SW1)
- (4) 今私は公務員の試験を準備しています(CCS10-I)

上記の(1)と(2)は JNS の実例であり、(3)と(4)は CLJ の実例である。(1)と(3)はいずれも「ピクニックのために食べ物の準備」に関する描写であるが、JNS は「準備」を動詞の「する」の目的語として使用しているのに対し、CLJ は「準備」に「する」を付けて「サンドイッチとりんご」の述語として

使用している。なお、(3)を中国語に翻訳すると、“在去野餐之前，小健和玛丽准备了三明治和苹果”となり、“准备”は動詞として使われている。CLJ が日本語で発話する際に「準備」をサ変用法で使用しているのは、母語の影響を受ける可能性が示唆されている。(2)と(4)はいずれも「ある行為・活動の準備」に関する発話であるが、JNS は「準備」を名詞として使用しているのに対し、CLJ は「準備」に「する」を付けて「仕事」の述語として使用している。なお、(4)を中国語に翻訳すると、“现在我在准备公务员考试”となり、“准备”は動詞として使われている。上記の用例によると、同じの行動を表すにもかかわらず、JNS は「準備」の名詞用法を好む一方で、CLJ は「準備」のサ変動詞用法を好む傾向があることが確認された。また、CLJ のこの使用傾向は、L1 干渉を受けている可能性があると考えられる。

2 点目は、話し言葉と書き言葉を問わず、“准备”の動詞用法が名詞用法より多いのに対し、「準備」の名詞用法が動詞用法より多いということである。つまり、日中両言語において、「準備／准备」の品詞用法にはズレが存在することが明かになった。CLJ が「準備」のサ変動詞用法を好む傾向になるのは、L1 からの干渉によるものと考えられる。五味他(2006)は、日中両言語における二字漢語動名詞の品詞用法のズレが、CLJ の誤用の原因になることと指摘したが、今回の結果はこれを裏付けると考えられる。

3 点目は、話し言葉においても書き言葉においても、「準備／准备」の品詞使用パターンが一致しているということである。これにより、使用環境は「準備」の品詞使用パターンに影響を与えないことが確認された。

続いて、「確認／确认」の品詞用法の使用率を調査したところ、図 6 を得た。

図 6 「確認／确认」の品詞用法

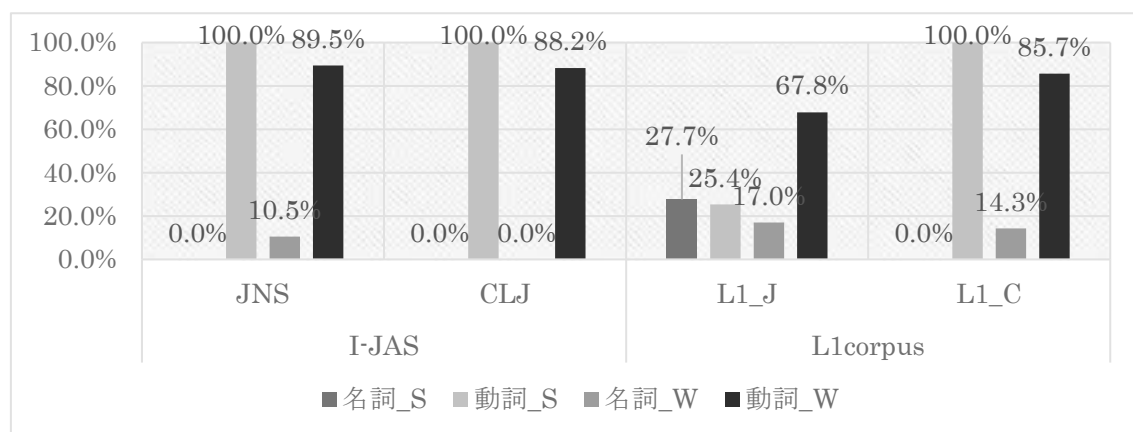


図 6 からわかるように、I-JAS に見られる JNS と CLJ の品詞使用パターンは、L1 における品詞使用パターンを反映したものと考えられる。ここでは 3 点について言及したい。1 点目は、話し言葉と書き言葉を問わず、「確認」の品詞使用パターンについて、CLJ は JNS と同じ、動詞用法を圧倒的に多用しているということである。以下、I-JAS における「確認」に関する実用例を示す。

(5)しかし、ピクニックに行く場所を確認するためにケンとマリと一緒に地図を見ていると...(JJJ21-SW1)

(6)ケンさんは地図を持って、マリさんと行く場所を確認しました。(CCT48-SW1)

(5)と(6)では、同じコマの漫画を描写しており、JNS と CLJ はいずれも「行く場所を確認する」という表現を使用していることがわかった。なお、(6)を中国語に翻訳すると、“小健拿着地图, 和玛丽一起确认了要去的方”となり、“确认”は動詞用法であることがわかった。したがって、CLJ は日本語の「確認」を使用する際に、L1 中国語からの正の転移が生じることがあり、結果として品詞用法に関する不適切な使用が少なくなる可能性があると推測される。

2 点目は、話し言葉と書き言葉を問わず、“确认”と「確認」の品詞使用パターンが一致しており、いずれも動詞用法が名詞用法より多いということである。つまり、CLJ が「確認」を使用する際に品詞用法に関する誤用が少ないのは、L1 からの正の転移を受けているからと言えるであろう。

3 点目は、「確認」の品詞使用パターンは使用環境によって差異が生じるのに対し、“确认”の品詞使用パターンは使用環境に影響されないということである。書き言葉において、「確認」の動詞用法がより多用されている一方、話し言葉においては「確認」の名詞用法と動詞用法の使用率がほぼ同等であるが確認された。JNS が対話において「確認」の名詞用法を使用していないのは、対話タスクのテーマによる可能性があると考えられる。一方で、L1 中国語の場合、“确认”の名詞用法が話し言葉でほとんど使用されないこととわかった。このようなズレが存在するため、CLJ が話し言葉で「確認」の名詞用法を過少に使用する可能性があると推測される。

以上、品詞使用パターンの観点から CLJ の同形語使用における L1 干渉について考察してきた。日中両言語における同形同義語の品詞使用パターンにはズレが存在する場合、L1 干渉が生じる可能性がある一方、日中両言語における品詞使用パターンが一致している場合、正の影響を及ぼす可能性があることが確認された。

9.3.4 RQ4 コロケーションパターンの差

まず、I-JAS における JNS と CLJ が使用した「準備／準備する」のコロケーションパターン及び共起語を調査し、表 3 のようにまとめた。

表 3 I-JAS における「準備」のコロケーションパターン

語	パターン	共起語	
		JNS	CLJ
準備	～＋格助詞＋動詞	をする、が進む	をする、を終える、*をできる、を始める、が終わる、がある
	名詞＋の＋～	給食、ピアノ、仕事	試験、論文、アルバイト、メス、大賞、ピクニック、コンテスト、食べ物、N1(日本語能力試験)、会場、バーベキュー、スーツケース
	動詞の連体形＋～	寝る、ピクニックに行く	
	～＋ノ＋名詞		食べ物、時間、ため
	～＋ナ＋名詞		こと
	～＋ガ＋形容詞		ない
準備スル	～の連体形＋名詞	サンドイッチ	食べ物、後、サンドイッチ、ランチ、食事、果物、林檎
	名詞＋ヲ＋～		食べ物、ピクニック、試験、いろんなこと、ケーキ、食材、果物や飲み物、誕生日のカード、展覧会、服装、テスト、歓迎会、ご飯、サンドイッチとりんご、論文、脚本、将来の仕事、出し物、職場の仕事
	...ために＋～		ピクニックに行く、ピクニックする、日本語第八級の

表 3 からわかるように、「準備／準備スル」のコロケーションパターンについて、CLJ は JNS と同じパターンを使用することもあれば、異なるパターンを使用することもある。ここで 2 点について説明したい。

1 点目は、「準備」という動作の対象を表現する際に、JNS は「名詞＋ノ＋準備」と「動詞の連体形＋準備」の 2 つのパターンで使用するのに対し、CLJ は「名詞＋ノ＋準備」と「名詞＋ヲ＋準備スル」、「...ために＋準備スル」の 3 つのパターンで使用することである。とくに注目すべきは、「名詞＋ノ＋準備」と「名詞＋ヲ＋準備スル」の 2 パターンである。JNS が後者を使用していないのは、

そもそも「準備」をサ変動詞としての使用頻度が極めて低いためである。では、CLJ はこれらの 2 パターンをどう使用しているのだろうか。以下、I-JAS における CLJ の実用例を見てみよう。

- (7) 私はその試験の準備をしています。(CCH07-I)
- (8) これまでは私は大学院の試験を準備しています、でも合格しなかった。(CCM11-I)
- (9) 食べ物の準備をしましたあと、この二人は地図を見て...(CCH39-SW1)
- (10) そのあと、二人は食べ物を準備します。(CCM53-SW1)
- (11) あー、それから、Nー[日本語能力試験 1 級]の準備を、準備しています、し、していました
(CCH37-I)
- (12) 高級日本語の授業の準備をしていました、あー、その一、テキストの文章を見ました(CCH37-I)
- (13) 最近はんー中国の公務員のテストを準備してるので...公務員のテストを準備しているので毎日勉強しています(CCH02-I)
- (14) ダンスをできる人を選んで、えーみんな一緒に出し物を準備していました(CCH02-I)

上記の用例を見ると、CLJ は「名詞＋ノ＋準備」と「名詞＋ヲ＋準備スル」の 2 パターンをうまく区別できていない可能性があると考えられる。たとえば、(7)と(8)では動作の対象がいずれも「試験」、(9)と(10)では動作の対象がいずれも「食べ物」であるが、CLJ はこれらを異なるパターンで使用している。そのうち、(8)の用法は不自然な日本語であることがわかった。さらに、(11)～(14)から見ると、実際には 1 つのパターンしか使用しておらず((13)は不自然な日本語である)、多くの CLJ が多様なコロケーションパターンをうまく使いこなせていないことが明らかになった。

2 点目は、「準備」が連体修飾語として機能する際に、JNS は「準備スルの連体形＋名詞」で使用するのに対し、CLJ は「準備＋ノ＋名詞」と「準備＋ナ＋名詞」の 2 つのパターンで使用するものである。論理的に考えると、「準備」は漢語動名詞として、動詞と名詞の両面性を持つため、「準備＋ノ＋名詞」の構造と「準備スル＋名詞」の構造で連体修飾語となることができる。しかし、動名詞が名詞として連体修飾語となる場合、何らかの制約が存在する(石, 2021)。また、中国語において、動詞であれ名詞であれ、連体修飾語として機能する際にはいずれも「的」(日本語では「の」あるいは「な」と対応する)を後続して使用する。これによって、CLJ が「準備＋ノ＋名詞」と「準備＋ナ＋名詞」の 2 パターンを使用することは、L1 干渉を受けるのではないかと言えるだろう。

以下、I-JAS から抽出したコロケーションパターンをもとに、L1 日本語コーパスにおける「準備」

の共起語を抽出し、その意味的特徴を表 4 のようにまとめた。なお、「...ために＋準備スル」というパターンの出現頻度が極めて低いため、すべての共起語をリストアップしたが、他のパターンにおける共起語は共起頻度順上位 10 語をリストアップした。なお、括弧内の数字は共起頻度を示す。

表 4 L1 日本語コーパスにおける共起語

語	パターン	共起語	特徴
準備	～＋格助詞＋動詞	をする(956)、を進める(254)、が出来る(209)、を整える(150)、が・の整う(132)、を始める(117)、を行う(75)、に取り掛かる(61)、に掛かる(52)、に入る(47)	何らかの行動やプロセスの開始・遂行に関連する
	名詞＋ノ＋～	ため(201)、心(128)、夕食(46)、食事(39)、明日(34)、事前(29)、出発(25)、(結婚)式(25)、旅行(25)、(研究会)会(23)	特定の人間活動や、時間に関連する
	動詞連体形＋～	迎える(102)、行く(41)、言う(27)、対する(23)、出掛ける(17)、なる(15)、受け入れる(15)、出来る(11)、送る(9)、出る(9)	移動・変化・何らかの反応に関連する
	～＋ノ＋名詞	ため(123)、段階(14)、時間(13)、都合(12)、時(7)、(外貨準備の)急増(7)、一環(6)、減少(4)、遅れ(4)、こと(4)	事柄の構成部分・時間の流れ・状況の変化に関連する
	～＋ナ＋名詞		
	～＋ガ＋形容詞	ない(13)、早い(3)、忙しい(1)、悪い(1)、遅い(1)、細かい(1)	物事の状態に関する評価や判断に関連する
準備スル	～連体形＋名詞	こと(39)、もの(36)、ため(16)、必要(13)、書類(5)、作業(3)、段階(3)、訳(3)、心構え(3)、時(2)	何らかの目的を達成するための必要な要素・理由・態度に関連する
	名詞＋ヲ＋～	もの(17)、こと(5)、凶器(5)、金(5)、食事(5)、仕事(4)、体制(4)、具(4)、原稿(4)、手段(4)	何らかの目的を達成するために役立つ事物・ツールに関連する
	...ために＋～	参加する、(機会を)取る、年金給付の、予備審査の、同僚の、二人の、新郎新婦の、登山の、お茶を入れる、子の、非難する、利用しやすくする、なんの	人間関係や、社会的な活動などに関連する

ここで指摘したいことは 2 点ある。1 点目は、「準備」の対象を表現する際に、「名詞＋ノ＋準備」と「動詞連体形＋準備」、「名詞＋ヲ＋準備スル」、「...ために＋準備スル」の 4 パターンが使用できることである。ただし、「名詞＋ノ＋準備」における名詞は、「夕食・食事・明日・事前・出発・結婚式・旅行・研究会」などのような人間活動を表す名詞が多いのに対し、「名詞＋ヲ＋準備スル」における名詞も人間活動を表す名詞が多いが、「もの・凶器・お金・具・原稿」などのような具体的な事物や

ツールを表す名詞もある。

2点目は、「準備」が名詞を修飾する際に、「準備スルの連体形＋名詞」と「準備＋ノ＋名詞」の2パターンで使うことができるが、「準備＋ナ＋名詞」というパターンが存在しないことである。ただし、「準備＋ノ＋名詞」における名詞は、「時間・都合・時」などのような時間に関わる名詞や、「段階・一環」などのような進行中の事柄の構成部分を表す名詞、「急増・減少・遅れ」などのような状態の変化に関わる名詞が多い。一方で、「準備スルの連体形＋名詞」における名詞は、「必要・段階・訳・心構え」などのような抽象的な理由や態度に関わる名詞以外、「もの・書類」など、具体的な事物も多い。

続いて、L1 中国語コーパスにおける「准备」のコロケーションパターンおよび共起語を抽出し、その意味的特徴を表5のようにまとめた。なお、中国語のデータ量が少なく、「動詞＋准备(名)」、「名詞＋准备(名)」、「准备(名)＋名詞」の3パターン以外では共起語がほぼ1回しか出現されなかった。そのため、ここでは上記の3パターンのみが共起頻度を示す。

表5 L1 中国語コーパスにおける共起語

語	パターン	共起語	特徴
准备(名)	動詞＋～	做(19), 作(9), 有(9), 无(9), 进行(2)	物事存在や、行動・プロセスの遂行に関連する
	名詞＋～	思想(11), 心理(6), 精神(1)	人間の内面的な世界に関連する
	～＋名詞	工作(11), 阶段(5)	進行中の事象や活動に関連する
	動詞句＋的＋～	睡觉, 收复失地, 赔本, 应付突然情况, 搬家, 抗敌	日常生活や、特定の人間活動に関連する
	名詞句＋的＋～	心理素质上, 道德素质上, 身体素质上	人間の資質や能力に関連する
准备(動)	～＋動詞句	走, 动身, 跟你联系, 注射, 绕个圈, 泡茶待客, 自己来打开, 针对老刘的话发表自己的意见, 把他们送到家, 离开这儿	特定の人間活動に関連する
	～＋名詞	资料, 见面礼, 纸和笔, 东西, 午餐, 被褥, 电视机, 住房	何らかの目的を達成するための具体的な事物

ここで指摘したいことは3点ある。

1点目は、中国語と比べて、日本語の場合、名詞としての「準備」は目的語として使用する際に、

存在を表す「ある」(中国語の“有”)がほとんど使用されていないことである。BCCWJ で調べた結果、「準備」と「がある」との共起が極めて少ないことがわかった。これにより、表 3 に示した CLJ が「準備がある」(中国語に翻訳すると“有准备”となる)を多用しているのは L1 からの干渉が存在する可能性があることが確認された。

2 点目は、「準備」という動作の対象を表現する際に、日本語は中国語よりも特定の人間活動に関連する名詞との共起が多いことである。中国語の場合、「准备+名詞」というパターンにおいて、「資料(資料)・见面礼(プレゼント)・紙和笔(紙とペン)・东西(もの)」などのような具体的な事物に関わる名詞が多い。これは CLJ が「名詞+ヲ+準備スル」を過剰に使用している原因ではないかと考えられる。

3 点目は、中国語の“准备”は、日本語の「準備」と対応する以外にも、助動詞としての用法が存在することである。たとえば、「准备(動)+名詞」の場合、“准备”は「準備」というよりは、発話者の意志や計画を表す「～ようと思う」や「つもりだ」という表現に近い意味を持っている。たとえば、下記の(15)の下線部を日本語に翻訳する場合、「あなたに連絡しようとしているところです」となり、「あなたに連絡する準備をしています」に翻訳すると不自然に感じられるであろう。

(15) 没有，我连早饭都吃过了，正准备跟你联系。(LCMC, L20)

(日本語訳:いいえ、朝ごはんもすでに食べました。今、あなたに連絡しようとしているところです。)

以上、学習者コーパスと L1 コーパスを用いて「準備/准备」のコロケーションパターン及び共起語について考察してきた。次に、I-JAS における JNS と CLJ が使用した「確認/確認する」のコロケーションパターン及び共起語を調査し、表 6 のようにまとめた。

表 6 I-JAS における「確認」のコロケーションパターン

語	パターン	共起語	
		JNS	CLJ
確認	名詞+ノ+～	行き先、目的地	
	～+格助詞+動詞	をする	
確認スル	名詞+ヲ+～	行き先、状況、場所、ピクニック場、予定、中身、目的地	バスケットの中、路線、中身、場所、地図、位置、道

表 6 を見ると、「確認／確認スル」のコロケーションパターンについて、CLJ は「名詞＋ノ＋確認」と「確認＋格助詞＋動詞」の 2 パターンを使用していないことがわかった。これは、RQ3 で示唆されたように、CLJ が L1 の影響を受けて「確認」を動詞用法のみで使用するものと一致している。また、「確認」を動詞として使用する場合、CLJ は JNS と同じパターンで使用しているだけでなく、パターンにおける共起名詞の意味範疇も類似している。

(16) ケンさんは地図を持って、マリさんと行く場所を確認しました。(CCT48-SW1)

(17) マリは、作ったサンドウィッチをバスケットに詰めると、地図を見て公園の場所を確認しました。(JJJ27-SW1)

(18) 二人は地図で行き先の確認をしていました。(JJJ06-SW1)

(16)～(18)はいずれも地図を見てピクニックをする場所の位置を確かめる場面を描写している。JNS は、「場所を確認しました」と「行き先の確認をしていました」という 2 つのパターンで表現できるのに対し、CLJ は「場所を確認しました」しか使用していない。同じ場面を描写する際に、CLJ は JNS のように多様な表現をうまく産出できないことが明かになった。

以下、I-JAS から抽出したコロケーションパターンをもとに、L1 日本語コーパスにおける「確認」の共起語を抽出し、その意味的特徴を表 7 のようにまとめた。なお、括弧内の数字は共起頻度を示す。

表 7 L1 日本語コーパスにおける共起語

語	パターン	共起語	特徴
確認	名詞＋ノ＋～	こと(49)、内容(41)、状況(29)、入金(26)、事実(20)、車両(20)、パスワード(13)、大臣(13)、関係(13)、住所(12)	特定の状態・事実や、権限を持つ人に関連する
	～＋格助詞＋動詞	をする(439)、を行う(201)、が出来る(167)、を取る(71)、を受ける(69)、が取れる(47)、を求める(28)、を致す(27)、に行く(16)、に・と成る(15)	特定の行動の実行や、移動・変化に関連する
確認スル	名詞＋ヲ＋～	こと(778)、内容(116)、状況(76)、位置(55)、有無(47)、状態(47)、安全(44)、事実(37)、存在(33)、点(32)	特定の状態や事実に関連する

表 7 から見ると、各パターンで共起する名詞や動詞の意味的特徴が異なることが明かになった。ここで注意すべき点は、「名詞+ノ+確認」と「名詞+ヲ+確認スル」という 2 つパターンにおける共起名詞の意味的特徴はほとんど一致しているが、前者は「大臣」のような権限を持つ人を表す名詞と共起することもできる。なお、中国語のデータ量が極めて少なく、各共起語の共起頻度がほぼ 1 回しかないため、ここでは共起頻度を省略する。

表 8 L1 中国語コーパスにおける共起語

語	パターン	共起語	特徴
確認(名)	名詞+~	价值	物事の価値に関連する
	動詞+~	予以	「確認」という行動を表す動詞
	動詞句+~	对这种能力的, 对安拉的 “启示”及其基本信条的	何らかの物事に対する態度に関連する
確認(動)	~+名詞	职责, 所有权, 使用权, 主权, 合法性	責任・権利に関連する
	~+動詞句	拥有主权, 美元升值过速, 终止和取消特别助学金, 所发生的经济活动符合国家财经规章制度	何らかの事実に関連する

ここで指摘したことが 2 点ある。

1 点目は、日本語の場合、「確認」を名詞として使用する際に、抽象的な状態や事実などを表す名詞と共起しているのに対して、中国語の場合には、常に物事の価値や態度に関わる名詞・動詞句と共起していることである。

2 点目は、中国語の“确认”は動詞として使用する際の共起語の意味範疇は、日本語の「確認／確認スル」のコロケーションパターン及び共起語の意味範疇と類似していることである。すなわち、CLJ が日本語の「確認」を使用する際に、L1 からの正の転移が生じることがあり、不適切なコロケーションが少なくなる可能性があるのではないかと考えられる。

以上、コロケーションパターンの観点から CLJ の同形語使用における L1 干渉について考察してきた。同形同義語であっても、日中両言語におけるコロケーションパターンと共起語の意味範疇にもズレが存在することが確認された。また、両言語でコロケーションパターンと共起語の意味範疇が類似する場合、正の転移が生じる可能性があることも確認された。

9.4 まとめ

以上で、本章では、CLJ の過剰・過少に使用する漢語動名詞における同形語を抽出した上で、頻度・品詞別用法・コロケーションの 3 観点に注目し、多様なコーパスデータから同形同義語の使用状況の差異を調査し、以下のような知見が得られた。

まず、RQ1(過剰・過少使用漢語動名詞における同形語)について、(1)CLJ が L1 知識を生かせる同形語を過剰に使用していること、(2)作文よりも対話の方で同形語を過剰に使用していること、(3)CLJ にとって、複雑な品詞用法を持つ同形同義の漢語動名詞を習得することが最も困難であること、の 3 点を確認した。

次に、RQ2(使用頻度の差)について、(1)同形同義語であっても、日中両言語での使用頻度には違いが存在すること、(2)L1 中国語における同形同義語の使用頻度が L1 日本語より多い場合、CLJ は過剰に使用する可能性があること、(3)L1 中国語における同形同義語の使用頻度が L1 日本語より少ない場合、CLJ は過少に使用する可能性があること、の 3 点を確認した。

続いて、RQ3(品詞用法の差)について、(1)同形同義語であっても、日中両言語で品詞用法には違いが存在すること、(2)品詞パターンが両言語間で異なる場合、CLJ の L2 使用に負の転移が生じる可能性が高いこと、(3)一方、品詞パターンが両言語間でほぼ同じ場合、CLJ の L2 使用に正の転移が生じる可能性が高いこと、(4)ただし、L2 知識も同形語の品詞使用に影響を与えること、の 4 点を確認した。

最後に、RQ4(コロケーションパターンの差)について、(1)同形同義語であっても、日中両言語でコロケーションパターンと共起語には違いが存在すること、(2)L1 における同形同義語のコロケーションパターンや共起語の範囲が L2 より広い場合、CLJ が過剰に使用してしまう可能性があるのに対し、(3)L1 における同形同義語のコロケーションパターンや共起語の範囲が L2 より狭い場合、CLJ が過少に使用してしまう可能性がある、の 3 点を確認した。

以上で、過剰使用語である「準備/准备」と過少使用語である「確認/确认」をサンプル語として、日中同形同義語の基本的な用法上の差異を確認することができた。残された課題は、こうした情報をどう CLJ に提示してくのか、ということであろう。一つの方法は、コーパスから得られた情報をコンパクトにまとめた解説シートを作成し、学習者に学ばせることである。

以下は、「準備」と「確認」についての解説シートの試案である。

表 9 「準備」の解説シート

意味	[名詞・他サ]いざという時に備えて(起こりうる条件を予想して)同じ状況で軽く試みたり、必要な物をそろえておいたりすること。 (『新明解国語辞典』第八版) ※中国語の「准备」の意味とほぼ同等。
注意	【頻度】中国語の“准备”に比べ、日本語の「準備」は4割ほど少ない。 【品詞】中国語の“准备”は動詞用法>名詞用法だが、日本語の「準備」は名詞用法>動詞用法 【コロケーション】 ☆ 準備するの連体形＋名詞:準備すること、準備する必要、準備する心構え ☆ 名詞＋ヲ＋準備する:必要なものを準備する、お金を準備する、食事を準備する ☆ ～ために準備する:研究会に参加するために準備する、機会を取るために準備する ☆ 準備＋格助詞＋動詞:準備をする、準備を進める、準備を整える ☆ 名詞＋ノ＋準備:心の準備、夕食の準備、食事の準備 ☆ 動詞連体形＋準備:迎える準備、行く準備、出掛ける準備 ☆ 準備＋ノ＋名詞:準備の段階、準備の時間、準備の一環、準備の減少 ☆ 準備＋ガ＋形容詞:準備がない、準備が早い、準備が忙しい 【用法注意】中国語の“准备做某事”を表す場合、日本語で「準備する」ではなく「～ようと思う」や「つもりだ」に対応していることに注意してください。例:我准备一个人回家→1人で家に帰ろうと思います。

表 10 「確認」の解説シート

意味	[名詞・他サ]確かにそうであることを認めること。 (『新明解国語辞典』第八版) ※中国語の“确认”の意味とほぼ同等。
注意	【全体頻度】中国語の“确认”に比べ、日本語の「確認」は9倍ほど多い 【品詞】中国語の“确认”は日本語の「確認」と同じく動詞用法>名詞用法 【コロケーション】 ☆ 名詞＋ヲ＋確認する:特定のことを確認する、内容を確認する、状況を確認する、位置を確認する、事実を確認する ☆ 名詞＋ノ＋確認:内容の確認、状況の確認、入金の確認、事実の確認 ☆ 確認＋格助詞＋動詞:確認をする、確認を行う、確認を取る、確認を受ける

今回の分析で明らかになったように、同形同義語であっても、その頻度・品詞・コロケーションが日中間で大きく食い違い場合が存在することが示された。こうした点を日本語教育に取り込み、明示的に学習者に示していくことは、豊富な漢語知識を持ちながらもうまく日本語漢語が使っていない CLJ、とくに上級の CLJ を強力に支援することになるだろう。こうした可能性については、今後

の日本語教育においても広く検討されていくべきであろうと考える。

第 10 章 中国語と日本語における日中同形漢語動名詞の対応性

10.1 はじめに

10.1.1 ねらい

第 8 章では、中国語を母語とする日本語学習者（CLJ）による発話および作文における漢語動名詞の使用実態について調査を行った。その結果、CLJ が過剰に使用する漢語動名詞のうち、67%～86%が日中同形語であり、一方で過少に使用する漢語動名詞のうち、40%～70%が日中同形語であることが明らかになった。また、第 9 章では、CLJ の発話であれ作文であれ、同形同義語の比率が最も多いということが確認された。

このことは、CLJ にとっての日本語漢語動名詞使用の問題の源泉が、日中同形語、とくに、その中でも言語間の一致度が高いと思われる同形同義語（例：「確認」と“确认”、「準備」と“准备”など）にあるのではないかという仮説を抱かせる。仮に、同形語、とくに同形同義語が、日中 2 言語間で一見類似していながら、それぞれ異なる振る舞いをするのであれば、CLJ に対しては、表層の類似性の下に隠れたこうした差異を意識化させる指導が必要となろう。

この点を科学的に検証するには、本論文のこれまでの章で試みたように、日本語や中国語の大規模コーパスを観察するだけでは不十分である。というのも、内容や目的の異なる雑多なテキストの集成の中で、同形語の振る舞いの差が観察されたとしても、それは内容の差の反映となってしまうからである。

この意味において、日中 2 言語における同形語の振る舞いの差の研究を行うには、完全に同一の内容を持つ翻訳テキストの比較が必要になるだろう。そこで、本章では、日本でもベストセラーになっている中国の SF 小説を取り上げ、日本語版に出てくる漢語動名詞を網羅的に抽出し、それが、中国語原典版でどのような表現になっていたか、計量的な調査を試みる。

本章では、CLJ による同形漢語動名詞使用の困難さの原因を探るため、(1) 日本語版にどの程度の漢語動名詞が使われているか、そのうち同形語、とくに、同形同義語がどの程度の比率を占めるか、(2) 同形語、とくに同形同義語が使われている場合、中国語原典版でも同じ語が使われているか、(3) 日本語版の漢語動名詞は、中国語版では、何種類の表現に起因するのか、といった点に注目する。これらの言語事実は、CLJ 向けの日本語教育にも有効な支援になると考えられる。

10.1.2 背景

2 種の言語において、同一の内容がどのように異なる形で表象されているかを調べることは、応用言語学の初期において広く実践された対照分析とも関連している。Lado (1957) は、学習者の母語 (L1) と学習対象言語 (L2) を比較し、その相違点を明らかにすることで、学習上の問題を予測できるという対照分析仮説 (Contrastive Analysis Hypothesis) を提唱した。この仮説に基づき、L1 と L2 の言語構造を対照し、母語との違いを特定することで、L2 習得の難易度を予測し、学習者への効果的な支援を行うことが可能であると考えられてきた。

この点を踏まえると、日本語版と中国語原典版における漢語動名詞を比較し、同じ語が使用される場合と、そうでない場合を明らかにしたり、日本語版において 1 つの語が中国語原典版の何種の語に由来するのかを明らかにしたりすることは、中国人日本語学習者の支援にも重要なことと言えるだろう。

そこで、本章では、日本のベストセラーとなった長編 SF 小説と、その中国語原典版をそれぞれ独自にコーパス化し、漢語動名詞の調査を行う。日本語原文の小説ではなく中国語原文の小説をデータとして使用する理由は、日本語における漢語動名詞が中国語原文にどのように対応しているかを調査する方が、CLJ の視点に沿った形で問題を捉えやすいと考えられるためである。

10.2 リサーチデザインと手法

10.2.1 研究目的と RQ

すでに述べたように、本章では、ベストセラーとなった長編 SF 小説とその中国語原典版をコーパス化して比較し、日本語の漢語動名詞がどのような中国語表現から訳されているのかを明らかにすることを目的とする。この目的に沿って、以下の 3 つの研究設問を設定する。

- RQ1 日本語版に出現する漢語動名詞は全体で何種か、そのうち、日中同形語の占有率、また、同形同義語占有率はどの程度か？ (日本語における同形語比率)
- RQ2 日本語版に出現する同形漢語動名詞全体、また、それらの個々の語について、中国語原典版で使用されていた語との一致率は、どの程度か？ (同形語における日中間一致率)

RQ3 日本語版に出現する同形漢語動名詞に関して、中国語原典版における語形のばらつき度（分散度）はどの程度か？（日本語版に出現した漢語動名詞の原典版における分散度）

10.2.2 データ

すでに述べたように、本章では近年の日本の SF 小説界で稀に見るベストセラーとなった長編 SF 小説『三体』をデータとして取り上げる。これは、早川書房（2024）によれば、日本国内でシリーズ累計 100 万部を売り上げており、現代日本で広く受け入れられ、広く読まれている小説の一つである。

実はこの作品のオリジナルは中国語で、作者は劉慈欣氏である。日本語版『三体』は、大森望氏などの翻訳によって 2019 年に早川書房から刊行され、現在までに、シリーズで全 6 冊が刊行されている。元となる中国語版は、2008 年中国で刊行された後、中国国内で数百万部以上の販売を記録しており、これまでに 40 カ国以上で翻訳され、全世界で累計 3000 万部以上を売り上げている。

『三体』は、60 年代後半から 70 年代前半の中国で宇宙からの信号を受信した科学者が、異星文明「三体文明」と接触したことをきっかけに、地球の未来を揺るがす物語である。三体文明による侵略計画に対し、人類が生存をかけて奮闘する姿が、科学的なリアリズムと哲学的テーマを交えて描かれている。内容的に、中国文化や中国の習慣はほとんど描かれず、世界的なテーマが中心となっている。

本研究では、日本語版『三体』（立原透耶監修、大森望・光吉さくら・ワン チャイ訳、2019 年、早川書房）の第二部『三体』内の「4〈科学境界〉四十数年後」と、その中国語版《三体》（刘慈欣著、2008 年、重庆出版社）の第一章《科学边界》と、それを OCR ツールで電子化し、テキストデータ化することで、『三体』の日本語版コーパスと中国語原典版コーパスを構築した。当該コーパスに含まれる漢語動名詞のデータについては、付録 2 に示す。

10.2.3 手法

RQ1（日本語における同形語比率）では、まず、『三体』日本語版に対して web 茶まめを用いて形態素解析を行い、すべての二字漢語動名詞を抽出する（語種が「漢」、品詞が「名詞・普通名詞・サ変可能」および「名詞・普通名詞・サ変形状詞可能」）。

次に、日中対照漢字語データベース（松下他 2020）を用い、抽出した漢語動名詞における日中同形語に当てはまるものを判断する。

RQ2（同形語における日中間一致率）では、まず、抽出した各漢語動名詞について、『三体』日本語版コーパスから用例を取り出し、原典版コーパスから対応する用例をすべて抽出する。次に、日本語版の同形漢語動名詞全体のうち、原典版で同一語が使用されている数を調べ、全体としての一致率を計算する。仮に、日本語版の同形語の総頻度が 100 回で、原典版で同一語の総使用頻度が 80 回であれば、全体一致率は 80%となる。続いて、2 回以上出現している同形漢語動名詞に注目し、個別に一致率を計算する。たとえば、日本語版において、ある同形漢語動名詞が 10 回使用されており、原典版で同一語が 6 回使用されているとすれば、当該語の一致率は 60%となる。一致率が高い漢語動名詞は、それだけ習得しやすいと推測できる。

RQ3（日本語版に出現した同形語の原典版における分散度）では、分散度という指標を導入する。これは、日本語における漢語動名詞が元の中国語版でどの程度分散していたかを表す指標であり、この値が高ければ、日中 2 言語間の乖離度が大きく、習得がより困難であることを示唆する。分散度については、張（2020）が提唱した「枝分かれ率」の計算方法を参照し、語彙密度指標の 1 つである Herdan の C 値（中国語原典版でのタイプ数を自然対数に変換し、それを日本語版でのトークン数を自然対数に変換した値で割る）を援用して計算することとする。

たとえば、日本語版で「出席」のトークンは 8 回である。中国語原典版では、元の表現は 6 種（“参加”、“与会”、“与”、“经过简单的介绍”、“所有人”、“汪淼看到了史强”）となっている。通常の語彙密度指標の計算であれば、タイプをトークンで割るため、 $6 \div 8$ となるわけだが、今回は、それぞれを自然対数に変換してから計算するため、 6 の自然対数 (1.792) $\div$ 8 の自然対数 (2.079) $= 0.86$ と計算される。一方、日本語版で「教授」のトークン数は 9 回である。中国語原典版では、元の表現は 2 種（“教授”“您”）となっている。それぞれを自然対数に変換してから計算するため、 2 の自然対数 (0.693) $\div$ 9 の自然対数 (2.197) $= 0.32$ と計算される。つまり、「教授」の分散度は「出席」より低く、学習者にとって習得しやすい可能性があると推測できる。

10.3 結果と考察

10.3.1 RQ1 日本語における同形語比率

まず、『三体』日本語版コーパスに出現する漢語動名詞の数を調べたところ、タイプ数で 130 種（トークン数は 279 回）であった。

「日中対照漢字語データベース」（松下他 2020）を用い、抽出した漢語動名詞のうち、日中同形語が占める数を調査したところ、タイプ数全体の 83.1%、トークン数の 89.6%が同形語であることを確認した。なお、非同形語は、以下のものに限られた。単語の後の数字は出現頻度を示す。

工事（3）、乱暴（2）、挨拶（2）、検証（2）、返事（2）、連絡（2）、一喝（1）、
判明（1）、制限（1）、感心（1）、承知（1）、接続（1）、施設（1）、発見（1）、
示唆（1）、納得（1）、紹介（1）、要望（1）、解明（1）、返答（1）、追放（1）、
魅了（1）

今回の分析により、日本語の漢語動名詞における同形語の高い比率が改めて確認された。8 章および 9 章で明らかになったように、CLJ の使用する漢語動名詞の多くは同形語であるわけだが、この背景として、両言語における同形語の多さが影響していると思われる。

ここで、同形語に絞って、その意味関係に基づき、同形同義語（日＝中）、同形類義語（日＞中）、同形類義語（日＜中）、同形類義語（日＞＜中）、同形異義語（日≠中）の 5 種類に区分して、再分析を行ったところ、表 1 の結果を得た。

表 1 日中同形漢語動名詞の種類

種類	タイプ数 (比率)	トークン数 (比率)	漢語動名詞（頻度）
日＝中	86 (79.6%)	201 (80.4%)	科学（26）会議（16）教授（9）組織（8）研究（8） 自殺（8）理解（7）説明（5）経験（5）加速（4） 司令（4）存在（4）接触（4）参加（4）実験（3） 想像（3）交流（3）戦争（3）反応（2）完成（2） 建設（2）影響（2）感謝（2）戦闘（2）洞察（2） 発言（2）確認（2）会話（1）上下（1）交換（1） 代表（1）休憩（1）体现（1）使用（1）共通（1） 冷凍（1）判別（1）利用（1）動揺（1）印刷（1） 反対（1）叱責（1）問答（1）困惑（1）好感（1） 実施（1）延期（1）強調（1）従事（1）徹夜（1） 思考（1）惨殺（1）意識（1）憶測（1）招聘（1）

			拷問 (1) 指名 (1) 指示 (1) 挙手 (1) 排除 (1) 提供 (1) 提唱 (1) 提案 (1) 撮影 (1) 攻撃 (1) 散乱 (1) 散歩 (1) 服用 (1) 武装 (1) 沈黙 (1) 混乱 (1) 獲得 (1) 発展 (1) 睡眠 (1) 禁煙 (1) 終了 (1) 結論 (1) 署名 (1) 自嘲 (1) 記憶 (1) 許可 (1) 誤解 (1) 調査 (1) 警備 (1) 随行 (1) 電話 (1)
日>中	10 (9.3%)	23 (9.2%)	出席 (8) 伝導 (3) 共有 (3) 行動 (3) 収納 (1) 進行 (1) 始末 (1) 意味 (1) 注意 (1) 着火 (1)
日≠中	7 (6.5%)	15 (6.0%)	議論 (4) 作業 (2) 質問 (2) 認定 (1) 担当 (1) 予定 (1) 提示 (1)
日<中	2 (1.9%)	8 (3.2%)	関係 (7) 設立 (1)
日><中	3 (2.8%)	3 (1.2%)	配置 (1) 一覧 (1) 取材 (1)

以上より、日本語版に出現する漢語動名詞は全体で 130 種であること、そのうち、日中同形語の占有率が 83% (タイプ基準) で、一般の日本語漢語における同形語占有率 (70%) よりいくぶん高いこと、また、同形同義語占有率は 80% で、これは一般日本語漢語における同形語占有率 (82%) とほぼ同等であることが示された。

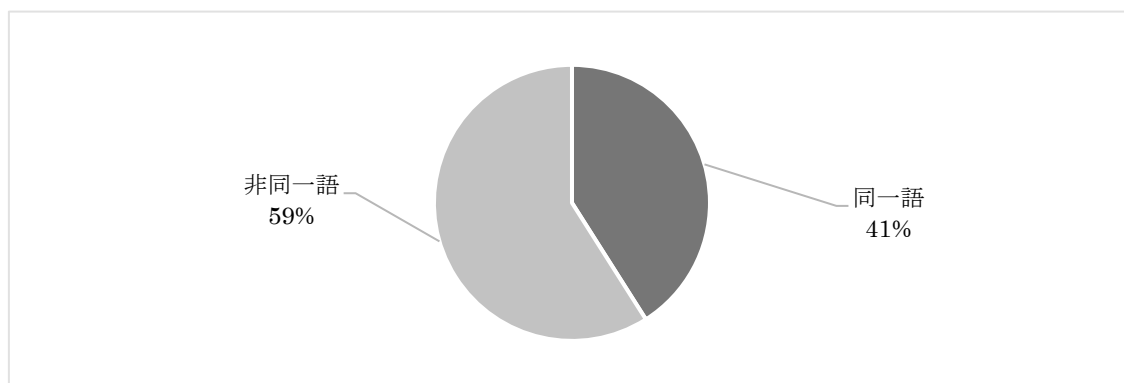
SF 小説という特定のジャンルテキストであっても、一般的な日本語における傾向がほぼ同様に再現されていることが確認された。

10.3.2 RQ2 同形語における日中間一致率

以上で示したように、日本語版に出てくる漢語動名詞の大半が同形語であったわけだが、本当に、中国語原典版において当該の同形語が使用されていたかどうかははっきりしない。そこで、日本語版で抽出した 130 種の漢語動名詞について用例を書き出し、それに対応する中国語の原文を抽出して分析資料とする (付録 2)。

この資料に基づき、日本語版で出現した同形語全体に対して、原典版で同一語が使われていたものと、違うが使われていたものの数を調べた結果、図 1 を得た。

図 1 日本語版同形語のうち、原典版で同一語になっていたものと、そうでないものの比率



以上より、同形語の一致率は41%であったことになる。RQ1では、日本語版に出現した漢語動名詞の多くが同形語であり、その過半数が同形同義語型であったことが示されたが、実際には、それらの約6割は、中国語原典版とはずれていることが示された。このことは、中国語における漢語と、日本語における同形の漢語の使用環境がそもそも大きく異なっていることを示す。両言語の漢語使用の間には、表面的な類似性ととともに、意味レベルでは大きな乖離が存在する可能性が示唆された。このことが、CLJが同形語において逸脱的な使用をしてしまう一因になっているのではないかと考えられる。

続いて、2回以上出現する同形語を取り出し、個別に、一致率を計算したところ、表2を得た。なお、表中の「意味関係」は、すでに述べた「日中対照漢字語データベース」(松下他 2020)に基づき、同形同義語(日=中)、同形類義語(日>中)、同形類義語(日<中)、同形類義語(日><中)、同形異義語(日≠中)に分類する。

表 2 個別語の一致率

漢語	トークン	意味関係	一致率	漢語	トークン	意味関係	一致率	漢語	トークン	意味関係	一致率
加速	4	=	1.00	会議	16	=	0.50	議論	4	≠	0.00
接触	4	=	1.00	参加	4	=	0.50	司令	4	=	0.00
想像	3	=	1.00	反応	2	=	0.50	伝導	3	>	0.00
交流	3	=	1.00	発言	2	=	0.50	共有	3	>	0.00
戦争	3	=	1.00	影響	2	=	0.50	作業	2	≠	0.00
教授	9	=	0.93	関係	7	<	0.43	質問	2	≠	0.00
科学	26	=	0.92	経験	5	=	0.40	完成	2	=	0.00

存在	4	=	0.75	研究	8	=	0.38	建設	2	=	0.00
組織	8	=	0.71	理解	7	=	0.14	戦闘	2	=	0.00
実験	3	=	0.67	出席	8	>	0.00	洞察	2	=	0.00
行動	3	>	0.67	説明	5	=	0.00	確認	2	=	0.00
自殺	8	=	0.63	担当	4	≠	0.00	感謝	2	=	0.00

表 2 を見ると、同じ同形語でも、単語により、一致率には 0～100% と、大きな差があることが示された。以下は、一致率が高い語と低い語の一例である。

表 3 一致率が高い語と低い語

一致率	漢語動名詞
一致率 100%	加速、接触、想像、交流、戦争
一致率 0%	出席、説明、担当、議論、司令、伝導、共有、作業、質問、完成、建設、戦闘、洞察、確認、感謝

一致率が高い同形語には、(a) 両言語で共通する定型的な文脈で使用されるもの（例：「加速器／加速器」「学术交流／学术交流」「〈科学フロンティア〉との接触／与科学境界的接触」）や、(b) 意味範囲が非常に限られるもの（例：「想像の中で／在想象中」「戦争／战争」）が含まれている。一方、一致率が低い同形語には、(c) そもそも両言語で意味用法が一致していないもの（「出席／参加・与会」、「担当官／情報官员」、「議論／讨论・研讨会」、「超伝導／超导」、「共有／介绍・对等」、「作業／工作」、「質問／问题」、(d) 中国語において動補構造のもの（説明／说清、完成／建成）、(e) 専門用語や固有名詞の一部になっているもの（司令センター／作战中心、戦闘地域／战区）、(f) 内面的な思考や判断を表すもの（洞察力／观察力、確認／确定・发现）が含まれている。ここで注目すべきは、各種の同形語のうち、高い一致率が予想された同形同義語であっても、一致率が 0% になるものが、「説明」「司令」「完成」「建設」「戦闘」「洞察」「確認」の 7 種も存在するという点である。この点を詳しく議論するために、以下に、同形同義語を含む日本語版用例と、その原典版を示す。

表 4 同形同義漢語動名詞の対訳例

漢語	日本語版	原典版

説明	自分のような新参者に対して、将軍がくわしい背景説明をするつもりがなさそうだという点だった。	首长好像并没有打算向他这样的新人介绍来龙去脉
	これ以上の説明資料はお渡しできない	我们不可能给你们介绍更多的背景资料。”
	プロジェクトのチーフ・エンジニアが彼女に随行し、下にも置かぬ態度でなにやら説明している。	因为总工程师陪同着她，在向她介绍着什么，一副很尊敬的样子。
	しかし、その理由をひとことで説明することはむずかしい。	但原因本身在这里很难说清
	〈科学フロンティア〉の現状について、くわしく説明していただきたい」	能进一步介绍一下它的情况吗？
司令	そんなやつがどうして作戦司令センターに入れたんだ？」	“这种人怎么能进作战中心？”
	作戦司令センターとはいったいなんだろう？	作战中心？那是什么？
	ここがあのだ士官の言う作戦司令センターなのかどうかはわからないが	汪淼不知道这是否就是那名军官所说的作战中心
	警察は作戦司令センターの設立当初から関わっている。	警方从作战中心成立之初就一直参与
完成	二百億元を投じたこの加速器が完成したら	这个投资二百亿的加速器建成后
	世界に三台しかない、最新の高エネルギー粒子加速器の完成後、実験によって得られた結果に関係するもので	有一些相关的具体信息与世界上三台新的高能加速器建成后取得的实验结果有关
建設	構図の中心となる要素は、彼らがいままさに建設工事を進めている超伝導コイルだった。	构图的主体就是他们正在安装的超导线圈
	良湘の高エネルギー粒子加速器建設現場で、丁儀と会ったことがある。	汪淼这才想起自己在良湘的高能加速器工地中也见过丁仪
戦闘	地球上のあらゆる戦闘地域の中でも、	在全球各战区
	“戦闘地域、”というただならぬ言葉に、汪淼は困惑した。	“战区”这个不寻常的术语令汪淼迷惑
洞察	汪淼はあっさり考えを見抜かれたことに動揺しつつも、史強の持つ鋭い洞察力に感心した。	在迷惑的同时，汪淼对史強的观察力留下了些印象。
	だが、洞察力はたしかにずば抜けている。	但确实是个狠角色。
確認	それを確認しようとしている。	试图确定
	しかし、新興宗教流のマインドコントロールや、違法薬物の使用などの犯罪的行為は確認できなかった。	但没有发现诸如邪教精神控制或使用违法药物这类的犯罪行为。

まず、「説明」と「完成」について、中国語ではいずれも動補構造の動詞であり、「説明」の「明」と「完成」の「成」は結果を伴う状態を示している。このような場合、中国語で

は文脈や物事の種類に応じて多様な動詞が選ばれ、「動詞+結果補語」（例：说清、建成）の形で動詞句として表現されるのが一般的である。一方で、日本語では漢語が単独で名詞や動詞として使用されることが多く、中国語よりも広範で抽象的な意味を持つ特徴がある。このような両言語における表現の違いは翻訳にも影響を及ぼし、中国語では特定の行為を示す多様な動詞句が、日本語ではより抽象的で包括的な意味を持つ単語に置き換えられる傾向があるのではないかと考えられる。

次に、「建設」について、中国語の“建设”は日本語よりも抽象的な表現であるため、具体的な場面や動作を強調する必要がある場合、日本語の「建設」に対応して“安装”や“工地”など、より具体的な表現が選ばれることが多い。なお、この傾向は、「説明」に対応する“介绍”や“背景（资料）”にも同様に見られると考えられる。

「司令」と「戦闘」についてであるが、これらは軍事関連の用語であり、固有名詞の一部（例：「作戦司令センター」「戦闘地域」）として使用される場合が多い。しかし、対応する中国語の固有名詞“作战中心”や“战区”には、これらに対応する日本語の 2 語が直接的には現れていないことが確認された。

最後に、「洞察」と「確認」は、いずれも内面の思考や判断を表す漢語動名詞であるが、対応する中国語は文脈や状況によって異なる表現が選ばれる場合が多い。「洞察」に関しては、中国語では具体的な動詞や形容詞を用いて描写されることが一般的であり、“观察力”や“看透”などのような表現が使われることが多い。一方、「確認」に関しては、中国語では“确定”や“发现”など、文脈に応じた多様な表現が選ばれることが確認された。このような違いは、日本語がより抽象的で包括的な漢語を用いるのに対し、中国語では具体性を重視し、状況に応じた語彙を選択する傾向によるものであると考えられる。

以上、RQ2 の分析より、日本語版に出現する同形漢語動名詞全体について言うと、中国語原典版で使用されていた語との一致率は 41%で、想定以上に低い比率であることが確認された。また、個々の語について一致率を調査したところ、一致率が高い語としては「加速、接触、想像、交流、戦争」などが、低い語としては「出席、説明、担当、議論、司令、伝導…」などが存在すること、また、一致率が高い語には、(a) 両言語で共通する定型的な文脈で使用されるもの、(b) 意味範囲が非常に限られるものが含まれることが特徴として考えられるが、一致率が低い語には、(c) そもそも両言語で意味用法が一致していないもの、(d) 中国語において動補構造のもの、(e) 専門用語や固有名詞の一部になっているもの、(f) 内面的な思考や判断を表すものが含まれることが特徴とすることが示された。

さらに、同形同義語でありながら、一致率が 0%になった 7 種の語の用例分析により、日中両言語において (1) 動詞構造の違い、(2) 抽象性と具体性の違い、(3) 固有名詞における構造の違い、(4) 文脈依存性の違い、などの要因が一致率の低さに寄与していることが確認された。

RQ2 の分析は、日中 2 言語間では、同形語が多い一方、その振る舞いは大きく異なっていることを示す。こうした情報は、一般に、日本語教育では教えられておらず、このことが、CLJ の日本語漢語動名詞の逸脱した使用につながっている可能性がある。

10.3.3 RQ3 日本語版に出現した同形語の原典版における分散度

これまでの分析により、日本語版の漢語動名詞のうち、約 8 割が同形語であること、しかし、その同形語のうち、中国語原典版で一致した語が使われていた一致率は 4 割程度と低いことが示唆された。では、これらの同形語は、元の中国語原典版では、何種の語形として表現されていたのであろうか。

この点を確認するため、RQ3 では、日本語版における同形漢語動名詞が元の中国語原典版でどの程度分散していたかを表す分散度という指標を導入する。日本語版における同形漢語動名詞に対応する語が、原典版で 1 種ないしごく少数の種類であったとすれば分散度は小さく、言語間の乖離度は低いことになる。一方、当該の漢語動名詞が原典版で多数の種類に分かれていたとすれば、分散度は大きく、言語間の乖離度も大きいことになる。

まず、2 回以上出現する漢語動名詞の各々について分散度を計算した結果、表 5 を得た。なお、「x」は、中国語原典版において直接対応する表現が存在せず、文脈やニュアンスに基づいて翻訳されたものであることを示す。

表 5 分散度

漢語	日本語 トークン	中国語 タイプ	分散 度	対応する中国語表現 (回数)
理解	7	7	1.00	正常 (1) 【理解できる】，谅解 (1)，说不清 【理解しえない】 (1)，概括性【理解しやすい】 (1)，了解 (1)，理解 (1)，明白 (1)
担当	4	4	1.00	官员【担当官】 (1)，办过【担当した】 (1)， 情报官员【担当官】 (1)，联系人【担当者】 (1)
伝導	3	3	1.00	x【超伝導部門】 (1，纳米构建部分)，超导 (1)，那 (1)

反応	2	2	1.00	认出【反応した】（１），反应（１）
建設	2	2	1.00	安裝【建設工事を進めている】（１），工地【建設現場】（１）
洞察	2	2	1.00	观察（１），狠角色【洞察力はたしかにずば抜けている】（１）
発言	2	2	1.00	发言（１），x【警察を代表して発言しているつもりか？】（１，你能代表警方吗）
確認	2	2	1.00	确定（１），发现（１）
出席	8	6	0.86	参加（１），与会【出席者】（２），与【出席している】（２），x【出席者の簡単な紹介があり】（１，经过简单的介绍），x【出席者】（１，汪淼看到了史强）
研究	8	6	0.86	研究（３），x【研究センター】（１，超导中心），科学家【研究者】（１），x【物理学研究の最前線】（１，现代物理学的发展），实验室【研究室】（１）
関係	7	5	0.83	关系（３），方面【公安関係】（１），有关【関係する】（１），联系【関係ある】（１），x【警察関係者数名】（１，几名警官）
参加	4	3	0.79	参加（２），在这儿【参加している】（１），到【参加している】（１）
議論	4	3	0.79	讨论【議論】（２），尽力【もう議論は出つくした】（１），研讨会【議論】（１）
説明	5	3	0.68	介绍（３），背景【説明資料】（１），说清【説明すること】（１）
経験	5	3	0.68	经验（２），变故【人生が一変するような経験】（２），经历（１）
組織	8	4	0.67	组织（４），黑道势力【ある組織】（１），另一帮【べつの組織】（１），机构【組織】（１）
自殺	8	4	0.67	自杀（５），寻了短见【自殺した】（１），寻短见【自殺したり】（１），x【わたしなら自殺しかねないと？】（１，那你是说我会？）
共有	3	2	0.63	对等【等しく共有される】（２），介绍（１）
実験	3	2	0.63	实验（２），验证（１）
行動	3	2	0.63	行动（２），做【この行動】（１）
会議	16	5	0.58	会议（８），会（５），刚才【会議で】（１），x【その会議に汪教授をお連れするよう】（１，首长让我们来邀请您），x【さっさと会議を終わりにしてくれ】（１，快他妈的结束吧）
存在	4	2	0.50	存在（３），有【存在した】（１）
教授	9	2	0.32	教授（８），您【教授】（１）
科学	26	2	0.21	科学（２５），学者【科学者】（１），
完成	2	1	0.00	建成【加速器の完成】（２）

影響	2	1	0.00	影响（2）
感謝	2	1	0.00	感激（2）
戦闘	2	1	0.00	战【戦闘地域】（2）
質問	2	1	0.00	问题（2）
想像	3	1	0.00	想象（3）
交流	3	1	0.00	交流（3）
接触	4	1	0.00	接触（4）
司令	4	1	0.00	x【作戦司令センター】（4，作战中心）
作業	2	1	0.00	工作（2）
加速	4	1	0.00	加速（4）

表 5 を見ると、同じ同形語でも、単語により分散度には 0～100%と、大きな差があることが示された。学習者にとって、多くの場合、分散度が 100%のものは習得が困難であり、0%のものを習得は比較的容易であると言えるかもしれない。

以下は、日本語版における同形語のうち、分散度が高い語と低い語の例である。

表 6 分散度が高い語と低い語

分散度	同形語
分散度 100%	理解、担当、伝導、反応、建設、洞察、発言、確認
分散度 0%	完成、影響、感謝、戦闘、質問、想像、交流、接触、司令、作業、加速

分散度が 100%の同形語には、(a) 内面的な思考や判断を表すもの（「理解」「洞察」「反応」「確認」）、(b) 具体的な行為を表す一方で、使用場面や文脈が幅広いもの（「担当」「建設」「発言」）、が含まれる。これらの語は、文脈によって抽象的な意味が拡張される傾向があり、それに伴い対応する中国語の表現が多様化している。

たとえば、日本語の「理解」は、感情的共感、知識の把握、行動の理解など、多くの意味をカバーする包括的・抽象的な漢語である一方、中国語では、状況やニュアンスに応じて、それぞれに対して、「理解」「谅解」「明白」「了解」などの動詞や、「还算正常」「说不（不）清」「有概括性」などの多様な表現が選択される（表 7）。

表 7 「理解」の対訳例

日本語版	中国語原典版

軍人のほうが武装警察ならまだしも <u>理解</u> できるが、この二人は陸軍士官だった。	如果那两个军人是武警 <u>还算正常</u> ，但这是两名陆军军官。
この点は、会議に参加している専門家のみなさんにもご <u>理解</u> いただきたい。	这也请到会的专家学者们 <u>谅解</u>
われわれのような物理学の素人には、そもそも <u>理解</u> しえないことかもしれない。	也可能对我们这些非专业人士根本就 <u>说不清</u> 。
彼女の <u>がいちばん簡潔で、たぶんいちばん理解しやすい</u>	她的最简短，也最有 <u>概括性</u> 。
われわれの <u>理解</u> するところによれば	据我们 <u>了解</u>
どうかご <u>理解</u> いただきたい。	希望您能 <u>理解</u> 。
ようやく、帰っていいと言われたのだと <u>理解</u> した。	才 <u>明白</u> 他该离开了。

一方、分散度が 0% の同形語には、(c) 専門用語または固有名詞の一部になっているもの（「戦闘」「司令」「加速」）、(d) 具体的で限定的な意味を持つもの（「質問」「作業」「感謝」「接触」「想像」「交流」）、および (e) 日中両言語において頻出する固定的な表現（例：「完成」「影響」）が含まれる。これらの語は、両言語間で語彙的な対応関係が明確であり、翻訳時に大きな分岐が生じにくいのが特徴である。

なお、RQ2 の分析により、日本語版の「完成」「感謝」「戦闘」「質問」「司令」「作業」は、中国語原典版では同形語ではなく、違う語が使われていることから、これらは CLJ にとって習得困難な語であるという可能性が示された。しかし、RQ3 の分析によれば、これらの語の翻訳分散度は 0% で、中国語では 1 種の表現に固定されており、対応関係が非常に明確である。つまり、これらの語については、見かけ上の難しさに比べると、実際には習得の負担はさほど高くないかもしれない。

以上、RQ3 の分析より、日本語版に出現する同形漢語動名詞について、翻訳の分散度を調査した結果、分散度が高い語としては「理解」「担当」「伝導」「反応」「建設」「洞察」「発言」「確認」などが、低い語としては「完成」「影響」「感謝」「戦闘」「質問」「想像」「交流」「接触」「司令」「作業」「加速」などが挙げられることが確認された。また、分散度が高い語には、(a) 内面的な思考や判断を表すもの、(b) 具体的な行為を表すもののうち、使用場面や文脈が幅広いものが含まれることが特徴として示された。一方、分散度が低い語には、(c) 専門用語または固有名詞の一部になっているもの、(d) 具体的で限定的な意味を持つもの、(e) 日中両言語において頻出する固定的な表現が含まれることが特徴として明らかになった。

RQ3 の分析により、日本語で使用される同形語の中には、元の中国語における分散度が

高いものも、低いものも混在していることが示された。前者は、文脈に応じて多様な意味や使用法が派生しやすく、それだけ習得は困難となる。一方、後者は、対応関係が明確であるため、習得は比較的容易である。CLJ にとっての漢語動名詞の習得難度を考える際には、RQ2 で調べた日中一致度という観点と、RQ3 で調べた分散度という概念を統合して議論していくことが重要であろう。

10.4 まとめ

以上、本章では、ベストセラーとなった長編 SF 小説『三体』とその中国語原典版をコーパス化したデータを用いて、日本語における漢語動名詞と中国語表現との対応関係について調査してきた。

RQ1（日本語における同形語比率）では、(1) 日本語版に出現した 130 種類の漢語動名詞のうち、日中同形語の割合が 83%であり、一般的な日本語の漢語における同形語の割合（70%）をやや上回っていること、(2) 同形同義語の割合が 80%であり、一般的な日本語における傾向とほぼ一致していることが確認された。

RQ2（同形語における日中間の一致率）では、(1) 日本語版に出現した同形漢語動名詞全体のうち、中国語原典版で使用されていた語との一致率は 41%と、予想以上に低い割合であること、(2) 一致率が高い語には、(a) 両言語で共通する定型的な文脈で使用されるものや、(b) 意味範囲が非常に限定されているものが含まれること、(3) 一致率が低い語には、(c) そもそも両言語で意味や用法が一致していないもの、(d) 中国語において動補構造を持つもの、(e) 専門用語や固有名詞の一部として使用されるもの、(f) 内面的な思考や判断を表すものが含まれること、(4) 日中両言語における動詞構造の違い、抽象性と具体性の違い、固有名詞の構造の違い、文脈依存性の違いといった要因が、一致率の低さに大きく影響を与えていることが明らかになった。

RQ3（日本語版に出現した漢語動名詞の原典版における分散度）では、(1) 分散度が高い語には、(a) 内面的な思考や判断を表すものや、(b) 具体的な行為を表すものの中でも、使用場面や文脈が幅広く多様な意味や用法が派生しやすいものが含まれること、(2) 分散度が低い語には、(c) 専門用語または固有名詞の一部として使用されるもの、(d) 具体的に限定的な意味や使用場面を持つもの、(e) 日中両言語において頻繁に使用され、表現が固定的であるものが含まれること、が確認された。

ここで、RQ2 と RQ3 の結果を組み合わせることで、日中同形漢語動名詞の習得難度を、

一致率と分散度の両面から包括的に分析することが可能である。一致率が高く分散度が低い語は、CLJ にとって比較的習得しやすいと考えられる一方で、一致率が低く分散度が高い語は習得に困難を伴う傾向があることが示唆される。このような分析結果を表 8 のように CLJ に提示することで、効率的かつ効果的な学習支援の実現に寄与する可能性がある。

表 8 一致率と分散度によって分類された日中同形漢語動名詞

分散度	一致率		
		高	中
	低	加速、接触、想像、交流	
	中	戦争	研究、関係、参加、経験、組織、自殺、共有、実験、行動、会議、存在、教授、科学
	高		
			低
			司令、作業、質問、完成、戦闘、感謝
			出席、説明、議論、
			担当、伝導、建設、洞察、確認

本章では、日中対照を通じて、日本語の漢語動名詞、とくに同形語と中国語との対応関係を検討してきた。得られた知見は、日本語教育現場において有益な情報を提供する可能性がある。ただし、今回使用したデータは SF 小説の一章に限られており、データ量が十分ではないため、全体の傾向に偏りが生じている可能性は否定できない。今後さらにデータを収集し、より厳密な調査を行う余地が残されている。

第Ⅳ部 中国語を母語とする学習者向けの漢語動名詞指導の展望

以上、第Ⅱ部「現代日本語における漢語動名詞の特性」では、日本語母語話者コーパスを利用し、頻度論の観点から、現代日本語における重要漢語動名詞を抽出した上で、それらの形態的・統語的特性、また、意味論・語用論的特性について計量的に調査して考察してきた。これにより、漢語動名詞そのものの特性や、母語話者の漢語動名詞の使用上の特徴などを解明した。さらに、第Ⅲ部「中国語を母語とする学習者の漢語動名詞使用傾向の解明」では、より効果的な指導アプローチを模索するため、中国語を母語とする学習者（CLJ）の漢語動名詞の使用実態、そしてL1である中国語がどのような影響を及ぼすか、について調査した。

第Ⅳ部では、上記の調査から得られた知見を、実際の日本語教育に生かす方向性について考えたい。そのためには、現在の中国語母語の学習者の実態を正確に把握し、かつ使用する教材を考える必要がある。こうした観点に基づき、以下、まず初級～超級レベルのCLJを対象に、漢語動名詞に対する知識の把握状況および意識の現状を調査フォームの形式で調査する。その後、CLJ向けの漢語動名詞教材開発の準備作業として、学習項目と練習問題を含む学習シートの開発を行う。

第Ⅳ部は2つの章から構成される。以下、各章の内容について概観する。

第11章「中国語母語の学習者の漢語動名詞の運用能力と意識」では、中国の四つの大学で日本語を学ぶ学習者を対象として、漢語動名詞の基礎知識の理解度、漢語動名詞の応用知識の理解度、漢語動名詞習得に対する自己評価および指導に対する意識の3つの観点から調査フォームを実施する。

第12章「中国語母語の学習者を支援する漢語動名詞教材の方向性について」では、本研究で得られた知見を学習者に意識化させるための教材を試行的に作成してみる。さらに、実際の現場での指導経験を持つ現役日本語教師に対するインタビューを実施し、学習シートの改善と、学習者シートを用いた授業の在り方について知見を深める。

第 11 章 中国語母語の学習者の漢語動名詞の運用能力と意識

11.1 はじめに

11.1.1 ねらい

第Ⅲ部の第 8 章および第 9 章においては、中国語を母語とする学習者（CLJ）の漢語動名詞使用傾向について、発話・作文における漢語動名詞の全般的使用、また、とくに日中同形語の使用について概観してきた。

これらをまとめると、CLJ は日本語の漢語動名詞をうまく使用できているというわけではない実態が浮かび上がってきた。こうしたコーパスから得られた現状を考えると、そもそも CLJ がどの程度で漢語動名詞についての知識を所有しているのかという点について、直接的に確認する必要が生じるであろう。

従来、コーパス研究や学習者コーパス研究では、学習者の産出したデータそのものを分析することが主流とされてきた。しかし、こうして集められた言語資料に加え、(i) 当該項目に対する学習者の運用能力、また、(ii) 当該学習項目に対する学習者の意識や態度のデータがあれば、分析はさらに深められると言えるだろう。こうした観点から、本章においては、CLJ を対象とする漢語動名詞の運用能力テストと、漢語動名詞に関する学習経験や意識アンケートを一体的に実施することとしたい。

11.1.2 背景

学習者コーパス研究では、自然な産出課題を与えて、学習者に L2 で産出を行わせ、そうして得られたデータを解析することで、研究者が関心を持っている文法事項や語彙がどのように使われているか議論することが多い。このようなアプローチは、自然な環境で産出された言語を調べることができるというメリットがある一方で、研究者が直接知りたい文法項目や語彙について、十分な量のデータが出てこないというデメリットもある。この点を補うために、研究者が知りたい語彙や文法項目に限って学習者に産出をさせたり、文法問題に答えさせたりするといった調査を行うこともある。こうしたタスクは誘導型タスク（elicitation task）と呼ばれることもある。

こうしたタスクが古くから行われてきた英語教育研究を紹介する。まず、Hussein（1990）はアラビア語母語英語学習者 200 名のコロケーションの運用能力を調査するために、英語のテキストの中で、コロケーションを含む部分を空欄にし、当該空欄に入るのに適切なコロケーションを 4 つの中から 1 つ選ばせるというように、コロケーション知識を

直接問うタイプの問題を用意して回答させた。その結果、全体の正答率は 48.4%にとどまって、選択された誤用表現のうち 49.4%は母語の負の転移によるものだと確認された。

Bahns and Eldaw (1993) はコロケーション指導の必要性を検証するため、ドイツ語を母語とする英語学習者を対象として、翻訳タスクとクローズタスクを実施した。具体的には、英語の「動詞+名詞」のコロケーションを直訳したドイツ語のフレーズをドイツ語の文に組み込み、その文を学習者に翻訳させた。その結果を英語母語話者が評価し、自然な英語表現であれば正解とした。また、クローズタスクでは、適切な文脈の中で「動詞+名詞」の名詞のみを提示し、学習者が適切な動詞を補う形式の問題を設定した。調査した結果、学習者がコロケーションの共起語の誤用が一般の語彙項目の 2 倍であり、コロケーション知識の発展は語彙知識に比較して遅れており、言語教育においてコロケーション教育を軽視した可能性が存在することが確認された。二つの研究は、「コロケーション応用能力」という明確な項目に限って、学習者の言語能力の実態を調査したものと言える。

また、日本語教育研究においても同じように、内容を絞ったテストや調査が行われてきた。たとえば、石 (2021) において、「VN / N」という項目に注目して、この表現を学習者が使えるかどうかを明らかにするために、「VN {スル/シタ、ノ} N」を選択させる問題を用意し、「適切な語句として成り立つと思うものを一つまたは複数選んでもらう」という設問を与え、テストとして回答させた。その結果、「スル/シタ」しか使えない場合に「ノ」を選択した誤答率は 67.6%で、「ノ」「スル/シタ」の両者ともに成り立つが、どちらか一方しか選択しなかった誤答率は 62%であった。半数以上の学習者が「VN {スル/シタ、ノ} N」を正しく使用できないことが確認された。

さらに、言語知識に対するテストだけでなく、当該項目に関する学習者の意識調査を組み合わせた研究も存在する。たとえば、李 (2016) では、漢語サ変動詞知識に対象を絞り、はじめに、「サ変化できる漢語」、「漢語サ変動詞の一般性」、「漢語サ変動詞の活用形・内部構成性・自他性・語彙的排他性・共起語」などの項目について 8 問のテストを行わせて、学習者の能力の実態を調べた。その後、「漢語サ変動詞についてどのような指導を受けたか」「受けた漢語サ変動詞の指導について学習者がどのような感想を持っているか」「漢語サ変動詞について学習者がどのような指導を受けたいと思っているか」といった設問を用意し、学習者の漢語サ変動詞に対する学習経験や学習実態を調査する項目を同時に調査した。その結果、漢語サ変動詞の基礎知識に関しても応用知識に関しても、理解度は 6 割以下にとどまらず、学年進行に伴う理解度の上昇も見られないことが明らかになった。また、

従来の漢語サ変動詞の指導にはいくつかの問題があり、より効果的かつ多面的な指導法が求められていることが確認された。

以上により、特定の項目を絞って、学習者の反応を引き出すことの重要性が確認された。とくに李（2016）のアプローチに示されたように知識を測るテストと意識を図るアンケートを同時に実施することは極めて重要な方向性であると考えられる。

11.2 リサーチデザインと手法

11.2.1 研究目的と RQ

これまでの章で行った学習者コーパス調査の結果をより深く解釈するため、本章は、本研究で明らかになった漢語動名詞の基礎的・応用的用法に関して、CLJ がどの程度の知識を持っているのかをテストで調査するとともに、当該学習者がこれまでの漢語動名詞の学習を自分なりにどのように捉えているか、漢語動名詞の学習についてどのような経験や意識を持っているのかをアンケートで調査することを目指す。このねらいをふまえて、以下の3つのリサーチクエスチョンを設定した。

RQ1 CLJ は漢語動名詞の基礎知識（一般性・成立性）についてどの程度把握しているか？

RQ2 CLJ は漢語動名詞の応用知識（品詞用法・名詞修飾用法・類義語の使い分け・日中同形語の使い分け）についてどの程度把握しているか？

RQ3 CLJ は漢語動名詞の知識についてどのような自己評価をしているか？また、漢語動名詞学習と指導に対してどのような意識を持っているか？

11.2.2 調査フォームの開発

11.2.2.1 調査フォーム（ベータ版）の開発

正式調査に先立ち、まず第Ⅱ部と第Ⅲ部で得られた知見から尋ねるべき内容を試行的に抽出し、調査フォーム（ベータ版）を作成した。調査フォームは、(1) 漢語動名詞の基礎知識に関するテスト（基礎知識テスト）、(2) 同じく応用知識に関するテスト（応用知識テスト）、(3) 漢語動名詞の運用能力に対する自己評価アンケート（運用能力自己評価）、(4) これまでの漢語動名詞指導に対する意識を問うアンケート（学習意識調査）、の全4つのセクションから構成される。

以下、各セクションについて簡潔に紹介したい。なお、調査協力者の中には日本語の初学者も含まれているため、全ての協力者が調査フォームの質問の意味を正しく理解できるように、本調査フォームは実施時にすべて中国語で行った。以下に表示されている調査フォーム内容は、筆者が翻訳した日本語版である。

まず、基礎知識テストでは、漢語動名詞の一般性と成立性（サ変できるかどうか）について、学習者の理解度を問う。具体的には、具体的には、まず「漢語動名詞の一般性」に関して、漢語動名詞のうち、現代日本語において高頻度・広範囲で使用されているものと、低頻度・狭範囲で使用されるものを混ぜて提示し、学習者がどの漢語動名詞を一般的で使用されやすいと認識しているかを調査する。高頻度・広範囲で使用されている漢語動名詞は、第4章で抽出した重要漢語動名詞上位100語から選んで問う。低頻度・狭範囲で使用される漢語動名詞は、72変種において、いずれの変種においても上位20語に含まれなかった漢語動名詞を抽出して問う。以下はその内容である。

1. 漢語動名詞の一般性

あなたは次の語が今の日本語でどのくらい多く使われていると思いますか、あなたの判断を選んでください。

- (1) 利用する (2) 浸透する (3) 実施する (4) 感染する (5) 証明する
(6) 感覚する (7) 所属する (8) 発展する (9) 貢献する (10) 終了する
(11) 捕獲する (12) 工夫する (13) 配慮する (14) 落札する (15) 変質する
(16) 支配する (17) 策定する (18) 修飾する (19) 推進する (20) 維持する

{①一般的で多く使われる ②それほど多く使われていない}

次に、「漢語動名詞の成立性」では、二字漢語は「する」を付けてサ変できるかどうかについて問う。なお、学習者が知らないため判断できないという状況を回避するため、すべての漢語は中国語にも存在するものに限定する。以下はその内容である。

2. 漢語動名詞の成立性

以下に挙げる語の中で、日本語として存在すると思うものには○を、存在しないと思うものには×を付けてください。

- (1) 意見する (2) 需要する (3) 独創する (4) 革命する (5) 修訂する
(6) 集中する (7) 問題する (8) 対応する (9) 意味する (10) 適當する
(11) 習慣する (12) 相当する (13) 生活する (14) 低下する (15) 原因する

以上が、漢語動名詞の基礎知識に関する調査である。

続いて、応用知識テストでは、漢語動名詞に関わる応用的な知識を問うこととする。この点について、コーパス調査によって明らかになった品詞用法・連体修飾用法・類義語の使い分け・日中同形語の使い分けの4つに注目する。

まず、「品詞用法の理解度」では、重要漢語動名詞 200 種から 15 種を選び、品詞用法を「名詞的名詞」「動詞的名詞」「名詞的動詞」「動詞的動詞」の4項目を設け、当てはまるものを選んでもらう。

3. いわゆる漢語動名詞は、少なくとも動詞と名詞の両方の性質を持っています。以下の語について、現代日本語に使用する際にそれぞれの品詞性の強さはどのようになると思いますか？

- (1) 活躍 (2) 卒業 (3) 回答 (4) 注意 (5) 活動
(6) 連絡 (7) 調査 (8) 相談 (9) 該当 (10) 反映
(11) 指摘 (12) 発売 (13) 練習 (14) 準備 (15) 記録

{①名詞的名詞…②動詞的名詞…③名詞的動詞…④動詞的動詞}

次に、「名詞修飾用法の理解度」では、重要漢語動名詞から 5 種を選び、各語を含む連体修飾構造内で後接できる要素を選んでもらう。

4. 漢語動名詞は、「する・した」「の」「的」「的な」「な」を後続して名詞を修飾することができます。ただし、すべての漢語動名詞はこれらを後続して使われるわけではありません。以下の各語について、どちらが自然であるか選んでください。

- (1) 予備審査のために準備 () 書類

- (2) 現代の禅の言説を構築するのに決定 () 役割を果たしたのは西田と京都学派である。
- (3) 最近のデータ分析によると、都市部における健康志向の食品に対する需要が増加 () 傾向にあり、市場への新たな影響をもたらしていることが確認されました。
- (4) 「高松産ごじまん品」とは、高松市内で生産された安全・安心 () 農産物のことです。
- (5) 私の理解 () 範囲で、注目すべき成果を列挙してみよう。
- (6) 調査 () 結果から見ると、消費者の意識に変化が見られ、環境に配慮した商品への関心が高まっていることが明らかになった。

{①する・した ②の ③的 ④的な ⑤な}

つづいて、「類義語の使い分けの理解度」について、第7章で調査した類義語セット（利用・使用・活用・使う・用いる）をサンプルとして、類義語の使用頻度・使用環境・活用形・共起語などの知識について問う。

5. 日本語には、多様な類義語が存在しています。類義語は意味に類似していますが、使用頻度、使用環境、活用形、共起語などに違いがあります。下記の類義語セットについて、以下の問題を回答してください。

[利用、使用、活用、使う、用いる]

- (1) 上記の 5 語について、もし日本語での使用頻度に基づいて順序付けするなら、どのように並べますか？

- (2) 上記の 5 語について、話し言葉で多く使われますか、それとも書き言葉で多く使われますか？

{①話し言葉で多用 ②話し言葉でやや多用 ③話し言葉と書き言葉の両方で多用 ④書き言葉でやや多用 ⑤書き言葉で多用}

- (3) 上記の 5 語については、くだけた場面で多く使われますか、それともかたい場面で多く使われますか？

{①くだけた場面で多用 ②くだけた場面でやや多用 ③くだけた場面とかたい場面の両方で多用 ④かたい場面でやや多用 ⑤かたい場面で多用}

(4) 上記の 5 語について、動詞として使う場合、それぞれどの形で最も多く使われますか？

a. 利用する：①終止形：利用する ②連用形：利用し／利用して ③連体形：利用する＋名詞 ④未然形－される：利用される

.....

(5) () に適切な名詞、[] に適切な副詞を入れてください。

a. () ／ () を [] 利用する

.....

最後に、筆者が収集した日中対訳データ（日本語の小説『舟を編む』およびその中国語訳版）を使用し、中国語の文を問題として提示し、4 つの日本語の語を選択肢として示す。学習者には、下線が引かれた中国語に対応する適切な日本語の選択肢を選んでもらう。

6. 以下の中国語の文中の下線部に対応する日本語を選んでください。

(1) 再遇到今天这样教授无理取闹的情况，马缔一定应付不来，绝对需要一位在对外交涉方面协助马缔的人才。

①処理する ②対処する ③対応する ④応付する

(2) “核对例句”的环节需要一一检查例句是否符合释义、从原著上引用时是否准确无误。

①核对する ②対照する ③認識する ④確認する

(3) 那么，‘しま（shima）’这个词又怎么解释？

①説明する ②理解する ③解釈する ④明白する

(4) 他和丽美的关系，用“冤家”来形容最恰当不过了。

①表示する ②表明する ③形容する ④表現する

(5) 我很期待下次的样品。

①希望する ②期待する ③期望する ④願望する

(6) 你给朋友准备了什么生日礼物?

①準備する ②考慮する ③装備する ④用意する

(7) 证实是否为本人。

①証明する ②証拠する ③確認する ④認識する

(8) 马缔立即为“真心”一词制作了新的词例收集卡。

①制作する ②製作する ③整備する ④作成する

以上が、漢語動名詞の応用的知識に関する調査である。

運用能力自己評価では、上記の基礎知識と応用知識について、協力者に自己評価させる。以下で示したように、「全く理解していない」、「あまり理解していない」、「どちらとも言えない」、「少し理解している」、「十分に理解している」に 5 項目を設け、当てはめるものを選んでもらう。

1. 現代日本語において、様々な漢語動名詞が存在します。これらは使用頻度によって一般的に使われるものと、あまり使われないものに分けられます。この点について、あなたは自分がどの程度理解していると思いますか？
2. 現代日本語の漢語動名詞は、その品詞性によって、より一般的に動詞として使われるものと、より一般的に名詞として使われるものに分けられます。この点について、あなたは自分がどの程度理解していると思いますか？
3. 現代日本語の漢語動名詞が名詞を修飾する際に、後に続く要素には「する」「の」「的」「的な」「な」などがあります。これらの要素をどのように選択すべきかについて、あなたは自分がどの程度理解していると思いますか？

4. 現代日本語には多くの類義語が存在し、これらの類義語は語種（漢語・和語・外来語など）、意味、使用頻度、使用環境、コロケーションなどの違いがあります。この点について、あなたは自分がどの程度理解していると思いますか？
5. 現代日本語の漢語動名詞には、中国語にも存在するものが多く、日中同形語と呼ばれます。日中同形語を正しく使い分けることについて、あなたは自分がどの程度理解していると思いますか？

{①全く理解していない ②あまり理解していない ③どちらとも言えない ④少し理解している ⑤十分に理解している}

学習意識調査では、協力者はこれまで実際にどのような指導をうけてきたか、またはこれからの指導についてどのような希望を持っているかについて問う。

1. 上記の漢語動名詞に関する知識について、これまでに指導を受けたことがありますか？
2. もし指導を受けたことがある場合、それはどのような指導でしたか？また、その指導についてどのように感じましたか？
3. あなたが受けた漢語動名詞の指導はどのようなものですか？具体的に2～3文で書いてください。

また以上の調査フォームはベータ版として位置付けられるもので、学習者の回答実態を見て改善を検討していることから、調査フォームの末尾に「調査フォーム自体の評価」の項目も設けた。

1. 上記の漢語動名詞に関する質問に対するご自身の回答に、どれほど自信がありますか？
2. どの質問に答える際に、最も自信がなかったと感じましたか？
3. この調査フォームの中で、理解できない、または理解が難しいと感じた質問の表現はありましたか？

以上の内容を、中国で常用されるアンケートアプリ「問巻星」を用いて調査フォームを開発した。また、すでに述べたように、調査フォームの内容はすべて中国語で示す。中国語版の調査フォーム内容およびすべての回答データは付録 3（ベータ版）に参照されたい。

11.2.2.2 調査フォーム（正式版）の開発

日本に留学している上級・中級学習者 4 名をサンプルとして、開発したベータ版調査フォームの回答を依頼した。

4 名を対象とするサンプルテストの結果、(1) 回答所要時間は約 15～20 分で、およそ妥当であること、(2) 正答率は 54%～58% で、点数の開きが想定よりも小さいという課題はあるものの、総じて難しすぎたりすることはなく、ほぼ妥当なレベルになっていること、が確認された。

ただし、アンケートの設計の詳細については多くの改善要望が寄せられた。これらをふまえ、適切な修正を加え、正式版調査フォームを作成することとした。以下は、改訂内容を整理したものである。

表 4 調査フォーム（ベータ版）の評価および改訂方針

協力者の評価	改訂方針
前のページに戻るといったボタンが欲しい。	前のページに戻るといったボタンを設置する。
応用知識の「類義語の使い分け」におけるコロケーションの問題について、「() に適切な名詞、[] に適切な副詞を入れてください」という指示が、「二つの目的語名詞に合わせる副詞を入れてください」と誤解されやすい。	コロケーションに関する問題を以下のように 2 問に分けた。 (1) () に適切な目的語名詞を入れてください。例：(日本語) / (ピアノ) を練習する (2) () に適切な副詞を入れてください。例：(もっと) / (しっかり) 練習する
漢語動名詞の品詞用法の問題の選択肢がわかりにくい。	選択肢を以下のように改訂する。 ①名詞的名詞→名詞性が高い ②動詞的名詞→名詞性がやや高い

	③名詞的動詞→動詞性がやや高い ④動詞的動詞→動詞性が高い
協力者が難しいと思う問題： (1) 類義語コロケーションの問題 (2) 連体修飾用法の問題	問題の順番を調整する。連体修飾用法の問題とコロケーション問題を含む類義語の問題を最後に置く。
他の問題点： (1) 一般的に、日本語学習者は日本語の授業で漢語動名詞の使い方を教わるはずだが、協力された 5 人の中で、指導を受けた経験があると答えた人はなかった。 (2) 協力者によると、「指導」という言葉を聞くと、専門的な指導があるかのように見えるとのことである。	聞く方を調整： (1) 日本語の授業で「努力する」「勉強する」などの漢語を学んだことがありますか？または、教科書や参考書でそのような語の解説や例文を見たことがありますか？ (2) もし学んだことがある場合、先生や教科書・参考書はそれらの使い方をどのように説明していましたか？その説明についてどう思いますか？

以上の方針に基づき、改訂を行い、正式フォームを完成させた。中国語版の調査フォームおよびすべての回答データは付録 4（正式調査）に参照されたい。

11.2.3 本調査の協力者

協力者は、中国西北地区にある 4 つの国立大学の日本語学科で日本語を学ぶ学部生 52 名と、日本に留学している修士課程および博士課程の学生 7 名である。最終的に収集した有効回答数は、学部生 42 名、留学生 7 名、合計 49 名となった。

学年については、一年生が 9 名、二年生が 17 名、三年生が 16 名、留学している修士および博士課程の学生が 7 名であった。また、学部生 42 名のうち、日本に留学した経験があるのは 1 名（3 カ月）であった。本研究では、学年別と留学経験別の 2 つの側面から考察するため、学年別の比較では一年生（9 名）・二年生（17 名）・三年生（16 名）・修士および博士課程（M/D、7 名）の 4 グループに、留学経験別の比較では留学なし（41 名）・留学あり（8 名）の 2 グループに分けて考察する。

習熟度については、日本語能力試験の合格級を基準にすると習熟度については、日本語能力試験の合格級を基準とすると、一年生と二年生の中には試験を受けた学生がおらず、三年生では 3 級が 1 人、2 級が 9 人、1 級が 2 人、M/D では 2 級が 2 人、1 級が 5 人と

なった。

調査の時期は 2024 年 5 月であった。調査フォーム調査はアンケートアプリ「問巻星」を利用して行った。

11.2.4 手法

本節では、リサーチクエスチョン順に調査結果の分析方法を説明する。

RQ1（漢語動名詞の基礎知識についての理解度）では、まず、漢語動名詞の一般性について、CLJ の回答の正答率を求めて分析する。その際、協力者全体と学年別、留学経験別の調査をそれぞれ行う。まず、学年差があるかどうかについては一元配置分散分析（ANOVA）で検証した。その後、多重比較（Holm 法）により各学年間に差があるかどうかを検証した。また、留学経験については、経験の有無で差があるかどうかを t 検定で検証した。その後、個別語の正答率を求めて分析する。

次に、漢語動名詞の成立性についても上記と同じような手法で分析する。

RQ2（漢語動名詞の応用知識についての理解度）では、CLJ が漢語動名詞の品詞用法、連体修飾用法、類義漢語および類義和語との使い分け、日中対訳などの応用知識についてどの程度理解しているか分析する。

まず、「漢語動名詞の品詞用法」においては、第 5 章で得られた知見に基づいて正答率を求めて、協力者全体と学年別、留学経験別の調査をそれぞれ行い、学年差があるかどうかについては ANOVA で、留学経験差があるかどうかについては t 検定で検証した。その後、個別語の正答率を求めて分析する。

次に、「漢語動名詞の名詞修飾用法」においては、第 6 章で得られた知見に基づいて正答率を求めて、上記と同じような手法で分析する。

続いて、「類義語の使い分け」については、第 7 章で得られた知見に基づいて、類義語セットである「利用・使用・活用・使う・用いる」の使用頻度の差・使用環境の S/W（話し言葉/書き言葉）差・使用環境の C/O 差（カジュアルジャンル/オフィシャルジャンル）・活用形の差について、正答率を求めて、協力者全体と学年別、留学経験別の調査をそれぞれ行い、学年差があるかどうかについては ANOVA で、留学経験差があるかどうかについては t 検定で検証した。また、類義語セットのコロケーションについては、まず、それぞれの語の共起語（目的語および副詞）、協力者が書いた語のリストを作成する。次に、母語話者による自然な漢語動名詞の共起語の傾向を探り、協力者の回答と比較する。母語話者

が漢語動名詞と共起する目的語および副詞を確認するため、BCCWJ を検索してリストを作成した。その結果から上位 10 語に注目して比較する。なお、共起する目的語の検索結果には、「もの」「こと」「それ」「これ」などの引用や代名詞、人名、数詞などが多く含まれていたが、本研究ではそれらの語を除外した。

最後に、「日中同形語の使い分け」については、日本語の小説である『舟を編む』とその中国語訳本のデータから、重要な漢語動名詞を含む文を抽出して調査を行う。中国語に対応する日本語の正答率を求め、協力者全体と学年別、留学経験別の調査をそれぞれ行い、学年差があるかどうかについては ANOVA で、留学経験差があるかどうかについては t 検定で検証した。

RQ3（漢語動名詞習得に対する自己評価および指導に対する意識）では、まず、漢語動名詞の基礎知識と応用知識のそれぞれについて協力者が自分の理解度をどの程度評価するかの調査結果に対して、「全く理解していない」の場合を 1 点、「あまり理解していない」の場合を 2 点、「どちらとも言えない」の場合を 3 点、「少し理解している」の場合を 4 点、「十分に理解している」の場合を 5 点として、項目別と学年別の平均値をとって分析する。また、項目差と学年差があるかどうかについては ANOVA で検証した。

次に、漢語動名詞指導に対する意識について、「漢語動名詞について受けた指導」、「受けた指導に対する感想」、「希望する指導」について分析する。協力者が回答した中国語の文を筆者が日本語に翻訳し、質的観察を行う。

11.3 結果と考察

11.3.1 RQ1 漢語動名詞基礎知識の運用能力

11.3.1.1 漢語動名詞の一般性

漢語動名詞の一般性について、正答率を求めた結果、以下ようになった。

図 2 漢語動名詞の一般性判断の正答率（学年別）

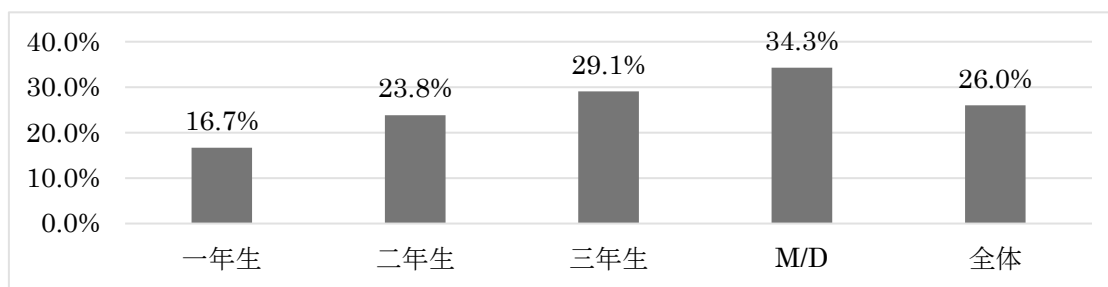
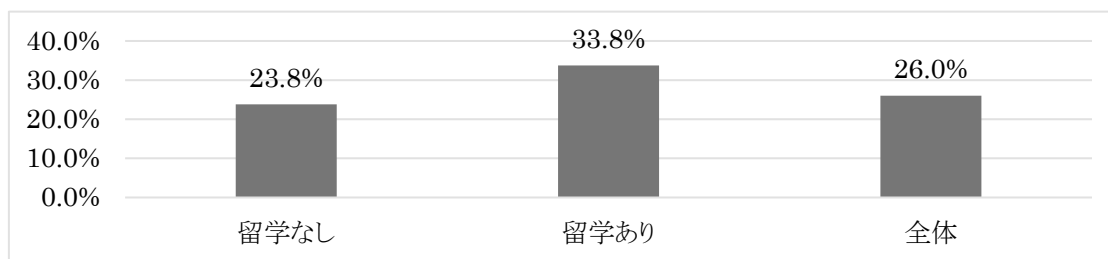


図 3 漢語動名詞の一般性判断の正答率（留学経験別）



まず、全体の正答率に注目すると、26.0%にとどまったことがわかった。これにより、CLJ が漢語動名詞の一般性についての理解度が非常に制約的であることが確認された。

次に、学年別の正答率に注目すると、一年生<二年生<三年生<M/D という順序関係になったことがわかった。一元配置 ANOVA を行った結果、学年要因の主効果が有意であることが確認された ($F(3, 76) = 3.354$, $\eta p^2 = .117$, $p = .023$)。また、多重比較 (Holm 法) により、一年生と M/D の間に有意差があったが、他の群間には有意差がなかった。これにより、CLJ の学年の上昇、すなわち習熟度の向上によって漢語動名詞の一般性に関する知識が増えることが確認されたが、その増加は二年生以降では顕著ではないことが明らかになった。すなわち、漢語動名詞の一般性に関する知識においては、教室での意識的・体系的学習の効果が必ずしも十分ではないことが示された。

最後に、留学経験別の正答率に注目すると、留学あり>留学なしという順序関係になったと見えるが、 t 検定を行った結果、留学経験要因の主効果が有意ではなかった ($t = 3.009$, $p = .086$, $ns.$)。これにより、漢語動名詞の一般性について、留学経験の有無による影響がないことが確認された。CLJ が留学しても正答率が向上しないことから、漢語動名詞の一般性に関する知識は、自然環境でのインプットだけでは習得しにくいと考えられる。

以上より、漢語動名詞の一般性に対する理解度を向上させるには、自然なインプットだけに頼るのではなく、教室環境において形式的に指導することが有効であると考えられる。また、これまでの指導においては、一般性に関する知識の指導が不足しているか、または問題が存在している可能性があると言えるであろう。

さらに、個別語の正答率を見てみよう。

表 5 個別語の一般性の正答率

一般的	正答率	やや一般的	正答率	一般的でない	正答率
発展する	44.10%	貢献する	39.60%	修飾する	14.20%
利用する	43.90%	支配する	37.10%	捕獲する	9.50%
維持する	40.20%	証明する	31.20%	感覚する	8.70%
終了する	36.80%	所属する	27.50%	変質する	7.50%
実施する	33.70%	感染する	27.40%	浸透する	5.90%
推進する	32.60%	策定する	19.30%	平均	9.2%
配慮する	27.70%	落札する	9.20%		
工夫する	23.50%	平均	27.3%		
平均	35.3%				

上表からわかるように、正答率がいずれも 5 割未満である。一元配置 ANOVA を行った結果、漢語動名詞の一般性の主効果が有意であり ($F=16.751, p<.001$)、一般的=やや一般的>一般的でないという順序関係になったことが確認された。これにより、CLJ は一般的でないものを一般的や、やや一般的なものに誤解しやすいことが明かになった。これについては、母語の影響と指導の影響が存在すると考えられる。母語の影響としては、中国語に存在しない語（「配慮」「策定」「落札」）や意味用法が異なる語（「工夫」）の正答率が低く、学習者はこれらを過少評価している。一方、中国語にも存在する「一般的でない」語は過剰評価される傾向が確認された。指導の影響としては、これらの語が中・上級段階で初めて導入されることが多いため、現代日本語で頻繁に使われるにもかかわらず、教育現場での導入が遅れることが指摘される。中国語の知識を活用して理解できる漢語も多く存在するため、重要な語彙をより早い段階で導入することが有効であると考えられる。

11.3.1.2 漢語動名詞の成立性

漢語動名詞の成立性について、正答率を求めた結果、以下のようになった。

図 4 漢語動名詞の成立性判断の正答率（学年別）

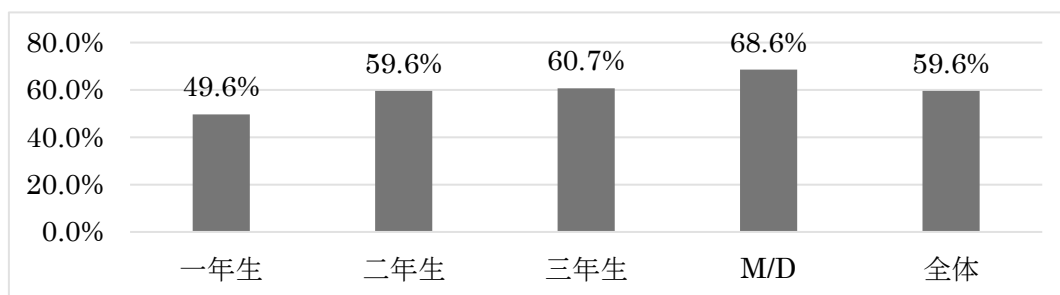
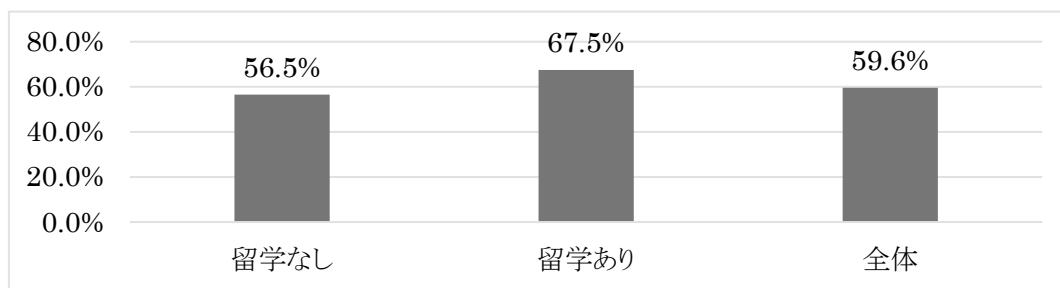


図 5 漢語動名詞の成立性判断の正答率（留学経験別）



まず、全体の正答率に注目すると、59.6%に到達し、一般性の正答率と比べると、3 割以上に高くなったことがわかった。

次に、学年別の正答率に注目すると、一年生<二年生<三年生<M/D という順序関係になったことがわかった。しかし、一元配置 ANOVA を行った結果、学年要因の主効果が有意ではなかったことが確認された ($F(3, 56) = 1.332$, $\eta p^2 = .067$, $p = .273$, $ns.$)。これにより、CLJ の習熟度の向上によって漢語動名詞の成立性に関する知識の変化が見られないことが確認された。すなわち、漢語動名詞の成立性に関する知識においては、教室での意識的・体系的学習の効果がないことが示された。

最後に、留学経験別の正答率に注目すると、留学有り>留学なしという順序関係になったと見えるが、 t 検定を行った結果、留学経験要因の主効果が有意ではなかった ($t = 1.385$, $p = .249$, $ns.$)。これにより、漢語動名詞の一般性について、留学経験の有無による影響がないことが確認された。

以上より、漢語動名詞の成立性については、CLJ が一般性よりも理解しやすいことが示されたが、実際にはこれまでの教室環境での指導も、自然環境でのインプットも有効ではないと言えるであろう。

以下、個別語の正答率を見てみよう。

表 6 個別語の正答率

存在する語	正答率	中国語品詞	存在しない語	正答率	中国語品詞
集中する	98.4%	動・形	*問題する	73.6%	名・形
対応する	87.4%	動・形	*原因する	65.7%	名
独創する	80.7%	動詞	*習慣する	56.9%	動・名
生活する	75.7%	名・動	*需要する	41.3%	動・名
低下する	70.1%	形容詞	*革命する	41.1%	形・動
意味する	57.6%	名詞	*適当する	36.0%	形
意見する	56.1%	名詞	*修訂する	4.2%	動
相当する	49.3%	動・形・副	平均	45.5%	
平均	71.9%				

まず、正答率に基づいて、存在する語と存在しない語の正答率を比較すると、存在する語の正答率が有意に高いことが確認された ($t=6.536$, $p=.024$)。これにより、CLJ は存在しない語に対して誤解が多いことが明らかであり、とくにコミュニケーションにおける誤解のリスクが存在するため、この点に留意する必要がある。

存在する語について、中国語で動詞や形容詞として使用される語の正答率が高い傾向が確認された。一方で、名詞用法のみの語については正答率が低かった。

これに対して、存在しない語の正答率について、中国語において主に名詞として使われる語（例：「原因」「問題」）の正答率が高かった。一方、動詞や形容詞として使われる語の正答率は低いことがわかった。これらの結果より、中国語における品詞の用法が学習者の理解度に影響を及ぼしていることが示唆される。したがって、漢語動名詞に対する指導においては、品詞用法に基づいた説明が重要であると考えられる。

11.3.2 RQ2 漢語動名詞の応用知識の運用能力

11.3.2.1 漢語動名詞の品詞用法

漢語動名詞の品詞用法について、正答率を求めた結果、以下のようになった。

図 6 漢語動名詞の品詞用法判断の正答率（学年別）

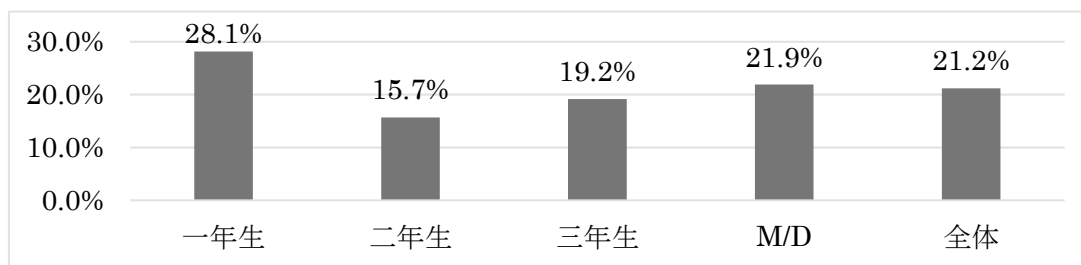
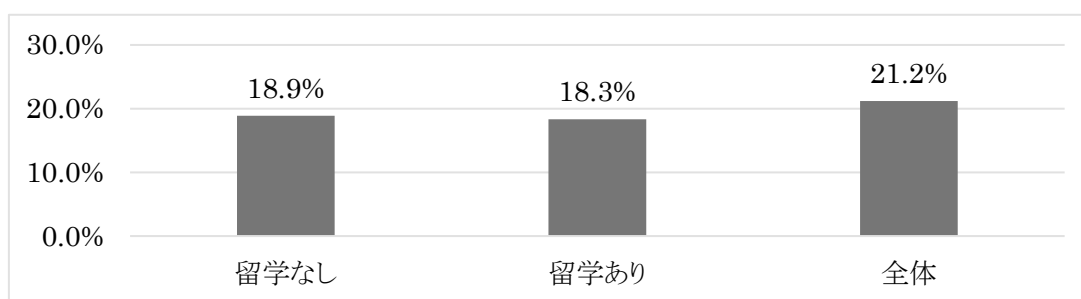


図 7 漢語動名詞の品詞用法判断の正答率（留学経験別）



まず、全体の正答率に注目すると、21.2%にとどまったことがわかった。これにより、CLJ が漢語動名詞の品詞用法についての理解度が非常に制約的であることが確認された。

次に、学年別の正答率に注目すると、二年生<三年生<一年生<M/D という順序関係になったことがわかった。しかし、一元配置 ANOVA を行った結果、学年要因の主効果が有意ではなかったことが確認された ($F(3, 56) = 1.045$, $\eta p^2 = .053$, $p = .380$, $ns.$)。これにより、CLJ の習熟度の向上によって漢語動名詞の品詞用法に関する知識の変化が見られないことが確認された。

最後に、留学経験別の正答率に注目すると、留学なし>留学ありという順序関係になったと見えるが、 t 検定を行った結果、留学経験要因の主効果が有意ではなかった ($t = 0.006$, $p = .941$, $ns.$)。

以上より、漢語動名詞の品詞用法に関する知識においては、今までの教室での意識的・体系的学習の効果もなく、自然環境でのインプットも有効的ではないことが確認された。

以下、個別語の正答率を見てみよう。

表 7 個別語の正答率

名詞性が高い		名詞性がやや高い		動詞性がやや高い		動詞性が高い	
漢語	正答率	漢語	正答率	漢語	正答率	漢語	正答率
活動	27.4%	指摘	27.2%	卒業	48.4%	反映	45.3%
調査	14.3%	回答	21.9%	終了	45.6%	発揮	45.3%
記録	5.6%	注意	16.2%	活躍	41.7%	強調	42.7%
練習	4.3%	連絡	9.8%	進行	39.8%	安心	34.8%
準備	2.8%	相談	4.2%	発売	34.7%	該当	14.6%
平均	10.9%	平均	15.9%	平均	42.0%	平均	36.5%

表 7 からは、名詞性が高いまたはやや高い漢語動名詞に比べ、動詞性が高いまたはやや高い漢語動名詞の正答率が有意に高いことが確認された ($F=12.056$, $p<.001$)。すなわち、CLJ は名詞としてよく使われる漢語動名詞の用法をうまく理解できていないことが確認された。これには、以下の 2 つの要因が影響していると考えられる。

一つ目は、日本語と中国語の品詞におけるズレが存在することである。例えば、「準備」は日本語では名詞としてよく使われるが、中国語では動詞としてよく使われる。このような品詞のズレが学習者の理解に影響を与えている。

二つ目は、多くの教材や辞書には、漢語動名詞が「サ変」や「Ⅲ類動詞」として分類されているため、動詞としての用法が強調され、名詞としての使い方が十分に教えられていないことである。

11.3.2.2 漢語動名詞の名詞修飾用法

漢語動名詞の名詞修飾用法について、正答率を求めた結果、以下のようになった。

図 8 漢語動名詞の名詞修飾判断の正答率（学年別）

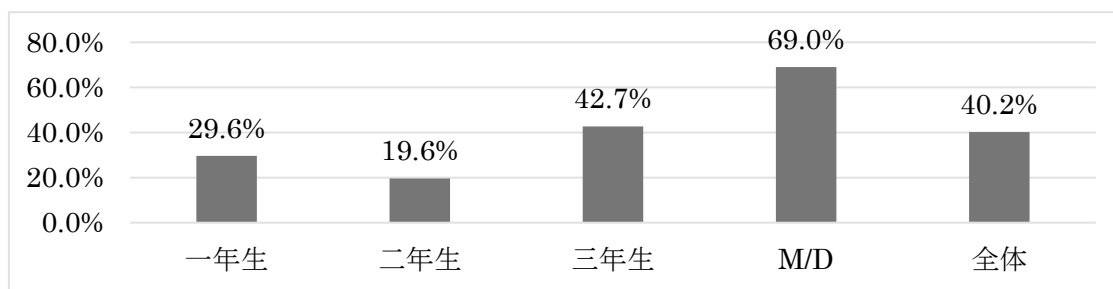
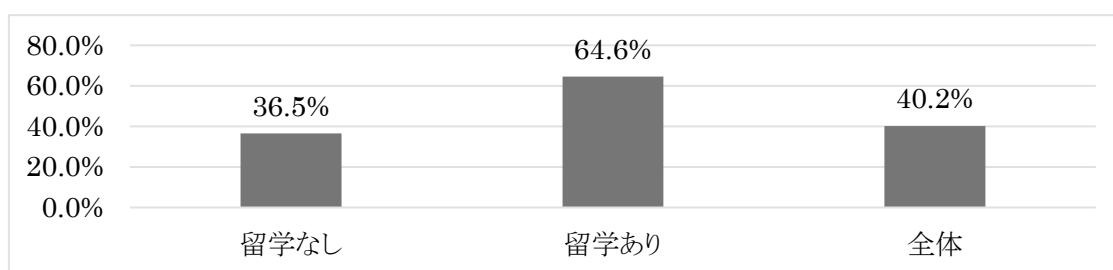


図 9 漢語動名詞の名詞修飾判断の正答率（留学経験別）



まず、全体の正答率に注目すると、40.2%にとどまったが、品詞用法よりもやや高くなったことがわかった。これにより、CLJ が漢語動名詞の名詞修飾用法についての理解度も制約的であることが確認された。

次に、学年別の正答率に注目すると、二年生<一年生<三年生<M/D という順序関係になったことがわかった。一元配置 ANOVA を行った結果、学年要因の主効果が有意であることが確認された ($F(3, 20) = 3.686$ 、 $\eta p^2 = .356$ 、 $p = .029$)。多重比較により、二年生と M/D の間に有意差があったが、他の群間には有意差がなかった。これにより、CLJ の学年の上昇、すなわち習熟度の向上によって漢語動名詞の名詞修飾用法に関する知識が増えることが確認されたが、その増加は顕著ではないことが明らかになった。すなわち、漢語動名詞の名詞修飾用法に関する知識においては、教室での意識的・体系的学習の効果があまり良くないことが示された。

最後に、留学経験別の正答率に注目すると、留学あり>留学なしという順序関係になったと見えるが、 t 検定を行った結果、留学経験要因の主効果が有意ではなかった ($t = 3.522$ 、 $p = .090$ 、 $ns.$)。これにより、漢語動名詞の名詞修飾用法について、留学経験の有無による影響がないことが確認された。品詞用法の場合と同じように、CLJ が留学しても正答率が向上しないことから、漢語動名詞の名詞修飾用法に関する知識は、自然環境でのインプッ

トだけでは習得しにくいと考えられる。

表 8 個別語の正答率

漢語	する	の	的	的な	な
準備	57.1%	20.4%	6.1%	14.3%	2.0%
決定	30.6%	18.4%	10.2%	32.7%	8.2%
増加	61.2%	22.4%	4.1%	12.2%	0.0%
安心	12.2%	16.3%	12.2%	24.5%	34.7%
理解	32.7%	46.9%	8.2%	8.2%	10.2%
調査	14.3%	71.4%	8.2%	6.1%	0.0%

表 8 からわかるように、正答率が 50%を超えたのは「準備（する書類）」と「調査（の結果）」のみであった。一方、「増加（の傾向）」や「理解（する範囲）」については「VN スル N」と「VN ノ N」の区別が理解されにくいことが確認された。「決定（的な役割）」や「安心（な農作物）」についても、同様に理解度が低い。この原因として、以下の 3 つの要因が考えられる。

一つ目は、母語である中国語には、名詞節内の修飾表現において、日本語ほど細かい区別がないため、影響を与えている可能性がある。例えば、中国語の“准备的文件”や“決定性（的）作用”“理解的范围”といった表現が、日本語の文型では厳密に区別されない。二つ目は、日本語の名詞節パターンが多様で、とくに初級者には理解が難しいということである。三つ目は、教材や指導において、具体的な例文や練習問題が不足している可能性がある。そのため、より効果的な指導には具体例を活用した練習問題の充実が必要であると考えられる。

11.3.2.3 類義語

類義語について、使用頻度の差・使用環境（S/W）の差・使用環境（C/O）の差・活用形の差・共起語の差の 5 つの側面から分析する。

まず、使用頻度の差・使用環境（S/W）の差・使用環境（C/O）の差・活用形の差について、正答率を求めた結果、以下ようになった。

図 10 使用頻度の差判断の正答率

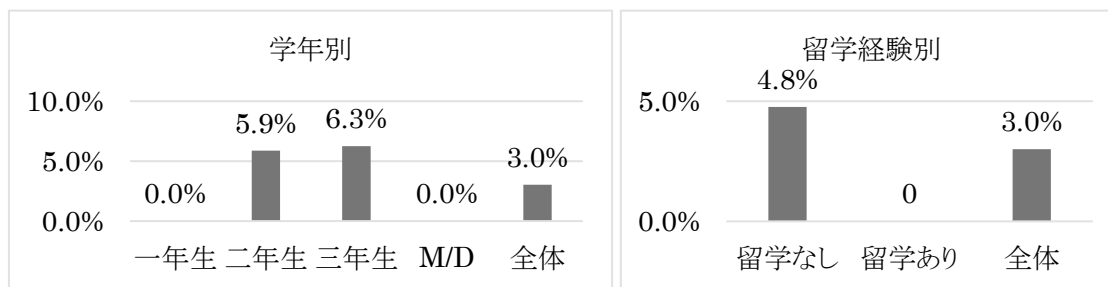


図 11 使用環境（S/W）の差判断の正答率

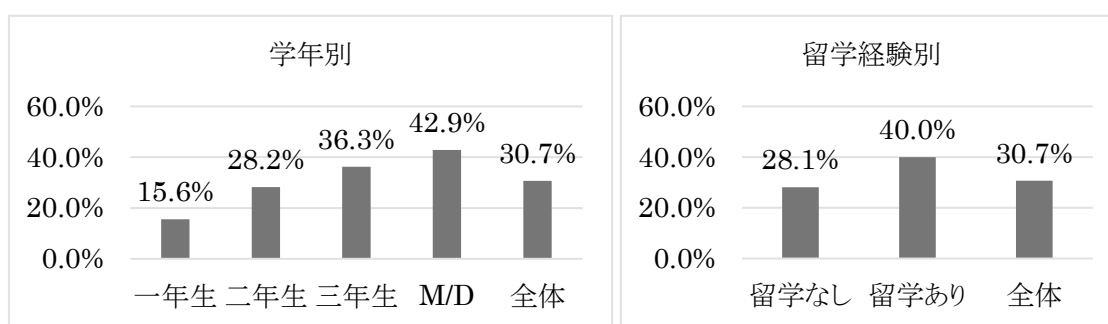


図 12 使用環境（C/O）の差判断の正答率

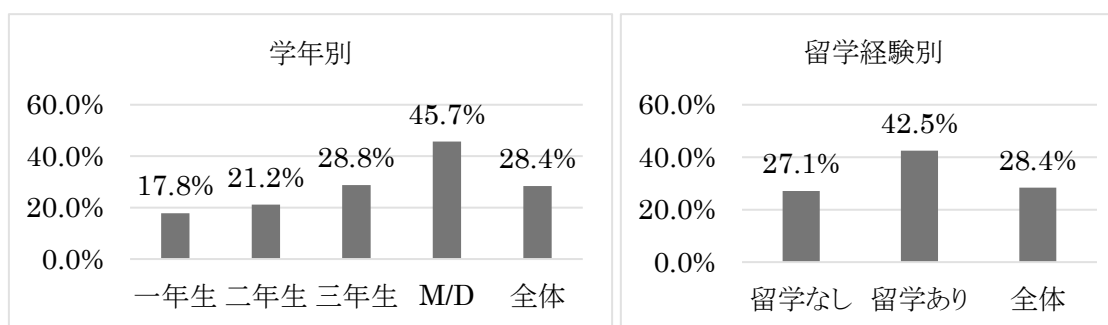
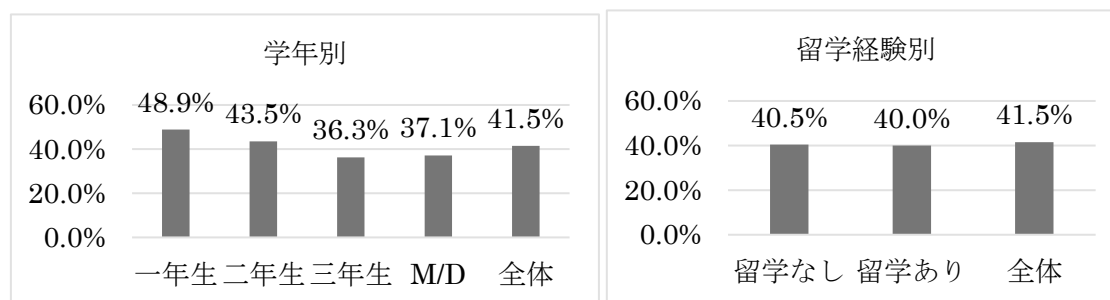


図 13 活用形の差判断の正答率



上記のいずれの項目について、一元配置 ANOVA を行った結果、学年要因の主効果が有意ではなかったことが確認された。また、 t 検定を行った結果、留学経験要因の主効果も有意ではなかった。

次に、CLJ が回答した共起目的語と母語話者が使用している共起目的語を以下のように示す。

表 9 共起目的語上位 10 語

動詞	学習者上位 10 語	母語話者上位 10 語	重複
利用する	時間、資源、日本語、本、廃物、辞書、ピアノ、地下鉄、知識、人の無知	サービス、インターネット、制度、機能、施設、衛星、技術、回線、ネットワーク、時間	0
使用する	時間、日本語、ピアノ、水、辞書、携帯、機械、コンピューター、本、道具	機、素材、ソフト、文字、電話、パソコン、言葉、兵器、カード、レンズ	0
活用する	動詞、人材、日本語、廃物、文法、知識、単語、技術、ピアノ、物資	制度、技術、資源、機能、インターネット、ネットワーク、it、能力、情報、コンピューター	1
使う	お金、日本語、頭、ペン、ピアノ、パソコン、携帯、英語、本、筆	気、言葉、金、ソフト、パソコン、機能、手、頭、機、語	5
用いる	技術、ピアノ、本、意見、日本語、インク、木、道具、人材、心	方法、法、言葉、技術、手段、手法、表現、データ、語、装置	1

表 9 からわかるように、CLJ と JNS によるそれぞれの上位 10 語の中の重複数は 0 語か

ら 5 語までわかるが、平均値をとると 1.4 語であった。すなわち、CLJ が考える典型的な共起目的語と母語話者が実際に多く使用している共起語の重なりは約 14%、非常に低いことが確認された。

表 10 共起副詞上位 5 語

動詞	学習者上位 5 語	母語話者上位 5 語	重複
利用する	もっと、しっかり、よく、ちゃんと、みっちり	良く、大いに、余り、初めて、是非	1
使用する	もっと、しっかり、よく、有効に、きちんと	良く、余り、全く、主に、初めて	1
活用する	もっと、しっかり、よく、有効に、十分に	大いに、十分、是非、どう、もっと	0
使う	もっと、しっかり、よく、常に、ちゃんと	良く、余り、どう、沢山、未だ	2
用いる	しっかり、もっと、よく、結局、とくと	良く、屢、余り、初めて、主に	1

表 10 からわかるように、CLJ と JNS によるそれぞれの上位 10 語の中の重複数は 0 語から 2 語までわかるが、平均値をとると 1 語であった。すなわち、CLJ が考える典型的な共起副詞と母語話者が実際に多く使用している共起語の重なりは約 20%、非常に低いことが確認された。

11.3.2.4 日中同形語

日中同形語について、正答率を求めた結果、以下のようになった。

図 14 日中同形語の正答率（学年別）

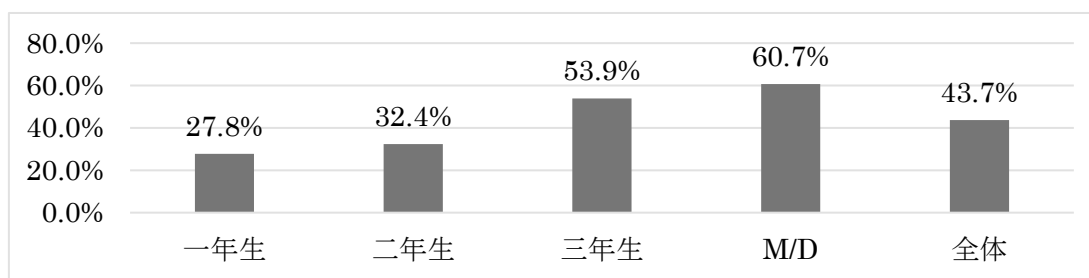
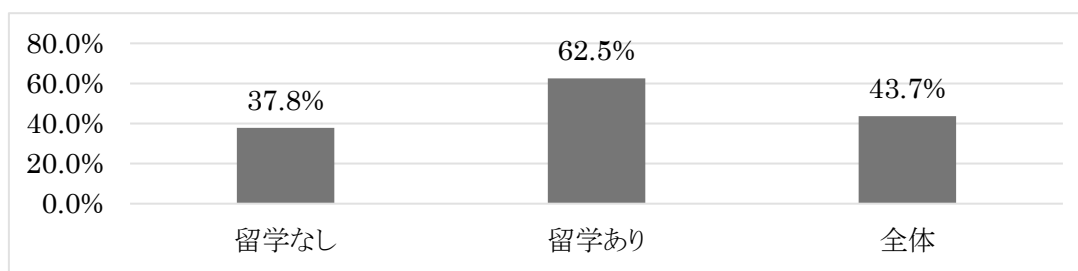


図 15 日中同形語の正答率（留学経験別）



まず、全体の正答率に注目すると、43.7%にとどまった。CLJ が漢語動名詞の日中同形語についての理解度も制約的であることが確認された。

次に、学年別の正答率に注目すると、一年生<二年生<三年生<M/D という順序関係になったことがわかった。一元配置の ANOVA を行った結果、学年要因の主効果が有意であることが確認された ($F(3, 28) = 3.793$, $\eta p^2 = .289$, $p = .021$)。しかし、多重比較 (Holm 法) により、いずれの群間にも有意差がなかった。これにより、CLJ の学年の上昇、すなわち習熟度の向上によって日中同形語に関する知識が増えることが確認されたが、その増加は顕著ではないことが明らかになった。

最後に、留学経験別の正答率に注目すると、留学あり>留学なしという順序関係になったと見えるが、 t 検定を行った結果、留学経験要因の主効果が有意ではなかった ($t = 4.097$, $p = .062$, ns.)。これにより、日中同形語について、留学経験の有無による影響がないことが確認された。

11.3.3 RQ3 漢語動名詞習得に対する自己評価および指導に対する意識

11.3.3.1 漢語動名詞習得に対する自己評価

まず、項目別に CLJ の自己評価の点数を見てみよう。

図 16 漢語動名詞習得に対する自己評価

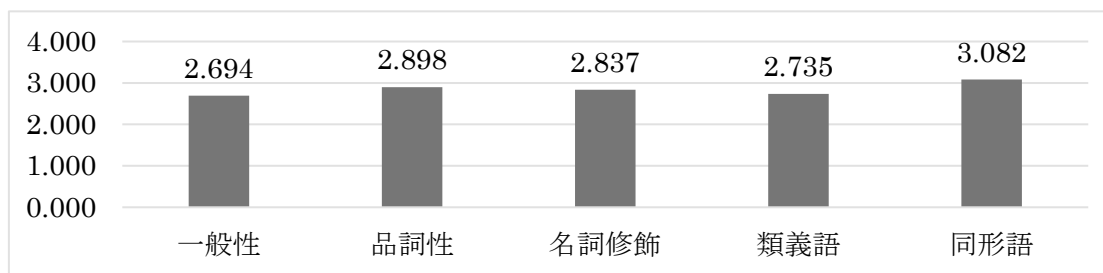


図 16 から見ると、CLJ の自己評価について、一般性<類義語<名詞修飾<品詞性<同形語という順序関係になったが、一元配置 ANOVA を行った結果、知識項目の主効果が有意ではなかったことが確認された ($F(4, 240) = 1.308$, $\eta p^2 = .021$, $p = .268$, $ns.$)。また、「日中同形語の使い分け」に対して自己評価の平均値は 3 点台にとどまっており、それ以外のいずれの項目に対しては 3 点台以下であったことが確認された。これにより、CLJ は自身の理解度について「どちらとも言えない」と感じていることがわかった。漢語動名詞の 6 つの側面を調査したにもかかわらず、いずれの項目でも回答スコアに差が出なかったことから、学習者は漢語動名詞の各側面の特性を正確に把握しておらず、漢語動名詞の運用能力を自ら正確に理解できていないことが示唆された。

次に、学年別に自己評価の点数を見てみよう。

図 17 一般性の評価

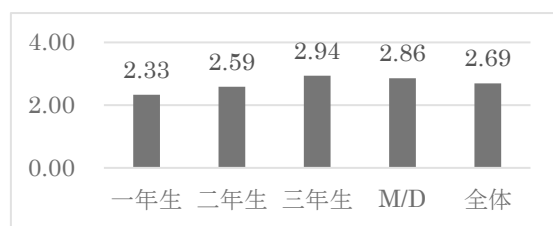


図 18 品詞性の評価

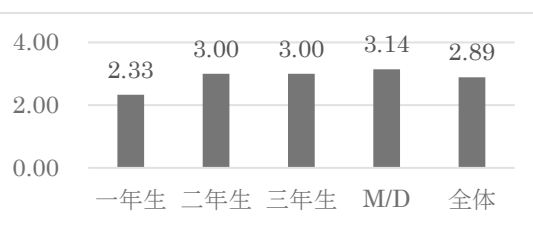


図 19 名詞修飾の評価

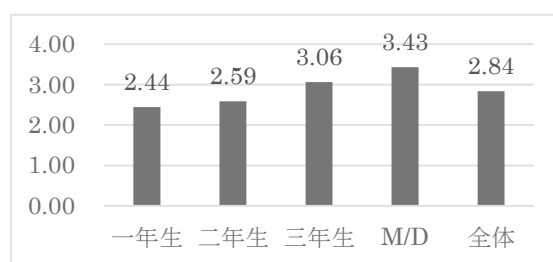


図 20 類義語の評価

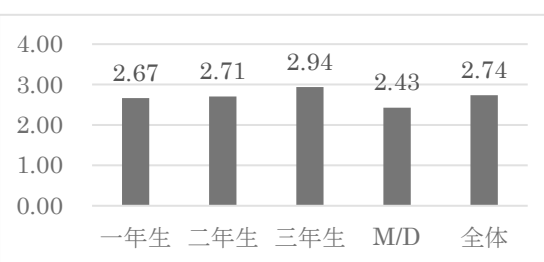
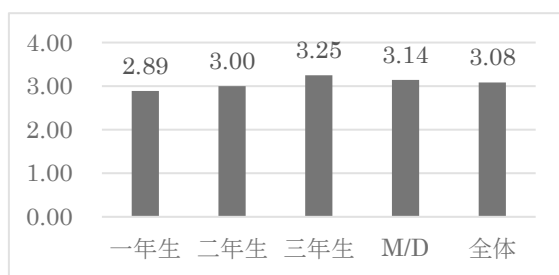


図 21 日中同形語の評価



上記のいずれの項目についても、一元配置の ANOVA を行った結果、学年の主効果が有意ではないことが確認された。すなわち、学年が上がっても、CLJ の漢語動名詞に関する知識に対する自己評価は基本的に変わらないことが明らかになった。すでに日本に留学している M/D 生においても、漢語動名詞の知識や運用能力に対して自信を持っていない者が多く存在することが確認された。これまでの漢語動名詞指導は、必ずしも理解度の向上に繋がっていない可能性がある。

11.3.3.2 漢語動名詞の指導に対する意識

以下に、CLJ が受けた漢語動名詞に関する指導の感想および希望する指導内容についてまとめる。

まず、協力者 49 名中、「漢語動名詞に関する指導を受けたことがある」と回答した者は 16 名のみであり、多くの学習者が指導を十分に受けていないと感じていることが明らかになった。

指導内容に関しては、漢語動名詞が複数の品詞を持つことは教えられているものの、サ変名詞としての使い方や具体的な意味の説明が不足しているとの指摘があった。また、一部の学習者は、語学学校で体系的な文法説明が行われず、同義語を中心とした説明が多いとの感想を述べている。

学習者が希望する指導内容としては、漢語動名詞と中国語の類似性を活用した区別の説明が求められている。同形語との比較や記憶を助ける工夫、さらに漢字の単独の読み方と漢字語における読み方の違いを明確に説明することを望む声も多い。また、具体的な使用例を通じた多角的な指導や、特定の文法や意味に焦点を当てた指導が必要とされている。学習者は、例文や実生活での具体的な用例を通して、実践的な理解を深めたいと考えている。

11.4 まとめ

本研究では、漢語動名詞の基礎知識と応用知識の理解度、および漢語動名詞の指導に対する意識の 3 つの観点から、CLJ の漢語動名詞知識の運用能力および意識を調査した。以下、本研究が得られた知見を簡潔にまとめる。

まず、RQ1「漢語動名詞基礎知識の運用能力」では、漢語動名詞の一般性と成立性について、CLJ の理解度はそれぞれ 2 割と 6 割程度にとどまっており、学年別と留学経験別の差も見られないことが明らかになった。

次に、RQ2「漢語動名詞の応用知識の運用能力」では、(1)品詞用法、(2)名詞修飾用法、(3)類義語の使い分け、(4)日中同形語の使い分けの 4 つの観点から CLJ の理解度を調査した。その結果、いずれの場合も、CLJ の正答率が 5 割以下にとどまっており、学年別と留学経験別の差も見られないことが明らかになった。

最後に、RQ3「漢語動名詞習得に対する自己評価および指導に対する意識」では、まず、CLJ の自己評価について、いずれの項目に対してもはっきりと判断できない状況にあり、学年別の差も見られないことが明らかになった。次に、漢語動名詞の指導に対する意識について、多くの学習者が指導を十分に受けていないと感じており、今までの漢語動名詞の指導が不十分であることが確認された。さらに、指導に対する希望を問うたところ、漢語動名詞の読み方・文法・意味・同形語の使い分けなど、多くの側面についてより具体的な実用例を通して指導が希望されていることがわかった。

本研究の調査により、従来の漢語動名詞指導に少なからず問題が存在し、より効果的で多面的な指導法の必要性が明らかになった。これらの知見は、今後、CLJ 向けの漢語動名詞の指導システムを開発する上で、一定の有用性を持つと言えるだろう。

もっとも、本研究にはいくつかの制約が存在する。1 点目は、今回の調査は協力者にアンケートフォームのリンクを送信して回答を得たため、その回答が正確に理解度を反映しているかどうか確認できないことである。2 点目は、今回収集したデータには、大学 4 年生のデータが欠落していることである。これらについては、さらに今後検討していきたい。

第 12 章 中国語母語の学習者を支援する漢語動名詞教材の方向性について

12.1 はじめに

12.1.1 ねらい

本論文の第Ⅱ部において、頻度論・品詞論・統語論・意味論といった各観点における漢語動名詞の用法上の特性や、さらに第Ⅲ部の分析を通して、中国語を母語とする日本語学習者（CLJ）の漢語動名詞使用に関する課題が明らかになった。すでに本論文の冒頭でも述べたように、現行の中国の日本語教育において、漢語動名詞そのものを対象とした単元や授業がほとんどなされていないことを考えれば、何らかの形で、本研究で明らかになった漢語動名詞の特徴を効果的に指導する教材や授業が必要になってくるだろう。

こうした可能性を探る基礎的研究として、本章では、実際に今回の研究で明らかになった頻度論・品詞論・統語論・意味論の観点を学習者に意識化させるための教材を試行的に作成してみる。

12.1.2 背景

コーパス研究から得られた知見を外国語教育に応用する際には、二つの方向性が考えられる。一つ目は、コーパスから得られた知見をそのまま教材として学習者に提示するものである。ここでは、英語と日本語についてそれぞれ一例を挙げる。

Cambridge English Corpus の研究に基づいて開発された英語教材である Touchstone シリーズ (McCarthy, McCarten, & Sandiford, 2014) では、特定の単語の使用例の中で、それぞれの意味がどの程度の割合で使われているのか、または、ある単語について頻度調査を行った結果、各語義がどの程度の割合で出現するのかといった情報を学習者に対して直接提示している。たとえば、「like」について言えば、上位 15 語に入る単語の一つであり、日常会話においては書き言葉よりも約 6 倍多用される。また、その意味や用法として、“To say something is similar”（何かが似ている）（34%）、“To highlight something”（何かを強調する）（18%）、“To mean other things, including the verb ‘like’”（その他）（17%）など、各用法の割合や使用例が記載されている (Student Book 4, p. 8)。

次に、『現代日本語書き言葉均衡コーパス』（BCCWJ）に基づく文法コロケーションハンドブック（中俣 2014）では、庵他（2000）で紹介される 93 の日本語文法項目を取り上げ、その各々について詳細な共起情報を示している。たとえば、「～うちに」であれば、前に来やすい動詞が「する（しない・している）」（15.20%）、「経つ（経たない）」

(4.48%)、「見る（見ている）」(4.11%) などであるというように、各文法項目と接続する語彙や、例文などが記載されている (pp.14-15)

確かに、上級者であれば、こうした手法によって、これまでの指導で明確にされていなかった内容が学習者に効果的に伝わるという効果は期待できるものの、初級者や中級者であれば、単に情報を羅列した教材を読んでいるだけでは理解が深まることは少ない。

コーパス利用のもう一つの方法は、学習者にコーパスデータやコーパスデータを加工した資料を見せ、学習者自身にデータからパターンや傾向を探させることによって、特定の語や文法項目の使い方を学習者に自ら発見させ、学習者に内在化させるというアプローチである。後者の手法は一般にデータ駆動型学習 (Data-driven learning: DDL, Johns, 1991) と呼ばれている。

DDL の効果については、英語教育においても日本語教育においても多くの研究がなされている (中條他 2009、寺嶋 2011、田辺他 2012、Lin2021、Satake2022、佐竹 2022)。佐竹は、『気づき』を促す様々な帰納的学習をすることができ、中級以上の英語学習者の自律性を育む上で非常に有益である」と、DDL の効果について述べている。

英語教育において、Lin (2021) は、関係代名詞の **who** と **whom** の機能的な違いを学習者が自ら発見し、理解を深めることができる。

図 1 Lin (2021) で示した DDL タスクの例

Please complete the items in the table below.

1	She is a busybody who likes talking and has cultivated her own style
2	His brother, who lives in the same house, spoke with Mr. Mandela
3	They may be irritable children who are generally difficult to care for as well as to feed
4	find the way to deal with people who say one thing in private and another in front of their supporters
5	A leader is generally a person who can motivate, influence, give good examples and guide
6	They had flown with the pilot, who also died, in the same plane to meetings in Arizona.
7	Jack made friends with a bear whom he nicknamed Bultitude.
8	There are several women whom the president is familiar with
9	he's waiting to greet Doreen, whom he hasn't seen for years.
10	Reza Aah was a man to whom no one dared to lie
11	I was particularly fortunate in having a co-author with whom I could work closely
12	he was reluctant to strike a deal with a man about whom he knew so little.

1: Observation: Read the example sentences. Write down any linguistic features/grammar patterns you observe.

2: Multiple-choice questions: Choose the best answer.

() 1. There are millions of Americans, including you and me, _____ from their work
(1) whom benefits (2) who benefits (3) who benefit (4) benefit

() 2. Sir, I have made you an honorable proposal for the hand of your daughter, ____ I
am in a position to support now.
(1) who's (2) whom (3) in whom (4) whose

3: Correction: Read the sentences below and judge whether the underlined part is grammatically correct. If yes, write O in the () provided. If no, write X in the () and revise it in the space provided.

() 1. They've made their views known to the pastor, who are also chairman of the playgroup.

() 2. At first I had no real suspicions, just a mild curiosity to see this young woman
about who Donald enthused.

4. Sentence creation: Please create two sentences of your own on the basis of your observations: one using *who* and the other *whom*.

このタスクでは、まず、コーパスから抽出したコンコーダンスラインが提示され、「これらの文における 'who' と 'whom' の機能的な違いを発見できますか？」という指示が与えられる。学習者は、個別またはグループで検討を行い、回答を共有した後、文の作成や多肢選択問題の解答、文法的な正誤判断などを通じて理解を確認することができる。これらの知識を明示的に説明して覚えさせるのではなく、学習者自身にコーパス要領から発見させることによって理解の深まりが期待される。

日本語教育においても、こうした教材開発の取り組みが進んでいる。たとえば、中條ら (2009) は、日英パラレルコーパス (内山・井佐原 2003) のデータと、二言語コンコーダンスプログラム ParaConc (Barlow 2004) を利用し、図 2 のように両言語のコンコーダンスラインを取得して学習者に提示している。その後、学習者はコンコーダンス画面を観察し、図 3 に示された単語レベルの概念・定義の確認、共起しやすい形容詞・名詞・複合

助詞の確認などに関する各問題に対する解答を見つけ出す作業を行う。

図 2 中條他（2009）で示した日英両言語のコンコーダンスライン

認識し、非常事態に断固とした対応をすべきだ。いずれも国家賠償、日本をはじめ各国の積極的な対応が望まれる。来年三月をめどに克服したような、政治の骨太な対応が望まれる。中東和平プロセスの資源保護を視野に入れた冷静な対応が望まれる。将来、世界の人口もある。その変化に立ち遅れない対応が求められる。この指針は、遺つて、二十一世紀の政策課題に対応するための基盤となりうるもの見直す。情勢の変化に柔軟に対応することも不可欠だろう。子守ていなかった新たな国際情勢に対応する必要が生じた以上、国際的有（みぞう）の経済危機への対応が遅れば、日本経済は沈没し、地域社会の中に、非常時への対応策の三つに分けて、必要な対応能力をいかに蓄えておくかが重を冒したというより、状況への対応能力を示したというのが実態。予知能力を向上し、確実に危機対応ができるような態勢を備え、まものだった。万一の場会の危機対応能力の向トは々かせない。文化	3 to heart and take resolute steps to deal with the extraordinary situation. In Since establishment of a network to cope with acid rain will become a trailbl needed such as that made in 1965 to deal with the seriously slumping securiti ple for Japan, but the country should deal with the matter with a cool head tow offer depositors. It is important to deal with the challenges changing technol the foundation for the government to deal with political tasks in the 21st Cen five years, but the government must respond flexibly to changes in the circum making it necessary for our nation to cope with the new international situation administration. But if it fails to respond in a timely fashion to this unprec into three types: urgent measures to cope with the seriously troubled economy, chance the capacity of communities to deal with emergencies. His stories in the

図 3 中條他（2009）で示した「対応」に関するタスク問題の一部

問題 1：次の文を読んで、内容が正しければ「正」に○を、間違っていれば「誤」に○をつけなさい。
・「対応」というのは、なにかに反対することである。正 誤
・「対応」というのは、二つの事が同一であることである。正 誤
・「対応」というのは、ある事が他の事に合わせることである。正 誤
問題 2：「対応」の前にはどんな言葉が来るでしょう。速さ・内容（説明）・量（形式・方法）の 3 つのタイプに分類して下線部に書き込みなさい。
グループ 1（速さ） グループ 2（内容説明） グループ 3（形式・方法）
_____ 対応 _____ 対応 _____ 対応
_____ 対応 _____ 対応 _____ 対応
問題 3：「～への対応」や「～に対応した～」という使い方はたくさんあります。データから 2 つずつ見つけて、下線部に書き込みなさい。
_____ への対応
_____ への対応
マルチメディア時代に対応した _____
グローバル化に対応した _____
問題 4：「対応」の前には、どのようなことばが使われるでしょうか。下の□から選びなさい。
変化 _____ 対応が必要だ。
国際ルール _____ 対応するため、
国際政治の現実 _____ 対応しなくてはならない。
□に從って □に即した □を踏まえて

この場合も、これらの知識を明示的に教えるより、タスクを通じて自ら発見することで理解が深まることが期待される。また、設問についても、正誤問題や穴埋め問題など、さまざまな工夫が施されており、学習者が順を追って問題を進めることで、データの解釈を独力で行えるように考えられている。

これらの例が示すように、DDL といっても、学習者全員にコンピュータを持参させ、コーパスデータを配り、コンコーダンスの使い方を教えて、一から全員に検索をさせる必要があるというわけではない。実際、何のトレーニングもしていない学習者に、コンコーダンスラインから重要な情報を取り出すように求めるのはややハードルが高すぎるだろう。そこで、上記で示した実践のように、最近では、コーパスデータの一部を教師が予め選定して学習者に提示し、あわせて、学習項目に学習者の注意を向けやすくするようなタスクを同時に与えることが一般的になっている。

こうした間接的な DDL、言い換えれば、教師補助付き DDL は有用なもので（中條他 2007、寺嶋 2011）、CLJ に対する漢語動名詞の指導にも効果的であると考えられる。この点をふまえ、本研究で開発する学習シートの中にも、こうした間接的な DDL のアプローチを部分的に取り入れたい。

12.2 リサーチデザイン

12.2.1 研究目的

本章では、第Ⅱ部および第Ⅲ部の第 9 章で得られた漢語動名詞に関わる知見を用い、CLJ のための漢語動名詞指導シートの開発を試みる。

真に学習者にとって効果的な学習シートを作成するには、試行版を実際に学習者に使用させ、教育効果を確認しつつ、指導の中で改善点を見出し、それらを反映させる形で、内容を不断に改善していくことが望ましい。

本章は、この準備作業として、試行的な学習シートを開発することを主たる目的とする。また、実地指導での使用ができないため、これに代わるものとして、実際に中国の大学で中国人日本語学習者に日本語を指導している現役の大学教員にインタビューを実施、教材の評価や改善点についてコメントを得ることとする。

12.2.2 研究手法

すでに述べたように、コーパス研究から得られた知見は、教材への直接反映、DDL 教材開発、という二つの方向に応用できる。本研究では、これらの二つの方向を組み合わせて学習シートを開発した。なお、学習シートは、解説シートと問題シートから構成される。以下、対象学習者、学習内容と目標、タスクの詳細、および検証手法について述べる。

まず、対象となる学習者は、大学の上級レベルの CLJ とする。実際、漢語動名詞は現行の中国における日本語教育体系では、独立した指導項目として扱われておらず、その意味では、初中級・上級ともに漢語動名詞学習が必要であるわけだが、初中級では語彙力が限定的であることから、漢語動名詞全体をまとめた学習の準備が必ずしも整っていない。そこで今回は上級学習者を主たる対象とした。また、漢語動名詞の特性は、頻度論、品詞論、統語論、意味論、さらには対照語彙論といった日本語の多様な側面と密接に関連しており、これら一通り学習し終えた上級者のほうが、教育効果は大きくなるだろう。

次に、教授内容については、本論文の第Ⅱ部および第Ⅲ部の第 9 章で得られた知見を整理し、解説シートにまとめる。その具体的な内容は以下のようになる。

表 1 各シートの内訳

	内訳	
Ⅰ 頻度論	当該章	第 4 章
	学習内容	高頻度・広範囲で使われる漢語動名詞
	学習目標	・ 漢語動名詞が多用されるジャンルの特徴を理解する。 ・ 高頻度・広範囲の漢語動名詞の分野特徴を理解する。
Ⅱ 品詞論	当該章	第 5 章
	学習内容	動詞性・名詞性によって漢語動名詞の 4 つの区分の相違
	学習目標	・ 漢語動名詞の品詞性によって統語・意味特性を理解する。 ・ 重要漢語動名詞を適切な形で使用できるようになる。
Ⅲ 統語論	当該章	第 6 章
	学習内容	漢語動名詞を含む「漢語+スル・シタ+名詞」「漢語+ノ+名詞」 「漢語+的・的ナ・ナ+名詞」の 3 つの連体修飾構造パターンの相違
	学習目標	・ 3 種の構造パターンの典型性を理解する。

		・各種の構造パターンで共起する名詞を通して、それぞれの意味的特性および文法的機能を理解する。
IV 意味論	当該章	第 7 章
	学習内容	類義漢語動名詞と類義和語動詞の相違
	学習目標	・類義語の使用頻度・使用環境・語義・共起語の相違点によって漢語動名詞の意味を理解する。
V 同形語	当該章	第 9 章
	学習内容	日中同形同義漢語動名詞の相違
	学習目標	・日中同形語の使用頻度・使用環境・語義・用法の相違点によって使い分けを理解する。

以上により、5 枚の解説シートが作成される。これらの各々につき、問題シートを作成する。今回は、試行的開発として、I～Vの各々について、2 問を作成する。1 問目は、学習者の受信理解に重点を置き、解説シートの内容を読んだ学習者が、解説シートで提示された内容に基づいた問題を出題する形にしている。2 問目は、学習者の産出能力に注目し、漢語動名詞の単純知識をふまえて、実際の使用状況を反映した言語産出が求められ、知識の十分な定着を目指す問題とする。たとえば、活用形やコロケーションに基づく文の完成や、もしくは既存の文を修正することで知識を活用する力を育むことを目的としている。なお、上記のⅢの 2 問目では、すでに述べた DDL 型の問題を組み込むこととする。

12.3 作成された学習シートの内容

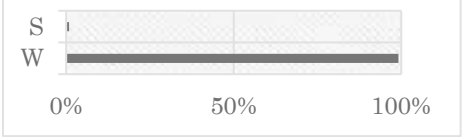
12.3.1 I 頻度論学習シート

頻度論に関しては、漢語動名詞の頻度が、ジャンルや分野によって異なることを学習者に理解させたい。この観点から以下のような解説シートと問題シートを考案した。まず、解説シートは以下のように示す。

下表に示すのは、現代日本語において最も高頻度で、かつ幅広く使用されている漢語動名詞の上位 10 語と、それぞれが話し言葉（S）と書き言葉（W）における使用比率、および多用されている媒体やジャンル上位 5 種です。

漢語動名詞	話し言葉と書き言葉での使用比率	多用されるジャンル上位 5 種

利用	S: ~5% W: ~95%	1.教科書・情報 2.白書・科学技術 3.教科書・理科 4.教科書・技術家庭 5.雑誌・工業
実施	S: ~5% W: ~95%	1.白書・農林水産 2.白書・環境 3.白書・国土交通 4.白書・安全 5.白書・教育
使用	S: ~5% W: ~95%	1.知恵袋・インターネット 2.書籍・技術工学 3.白書・科学技術 4.書籍・総記 5.教科書・情報
対応	S: ~15% W: ~85%	1.白書・教育 2.白書・農林水産 3.白書・国土教育 4.教科書・数学 5.知恵袋・インターネット
紹介	S: ~15% W: ~85%	1.教科書・外国語 2.ブログ・出会い 3.雑誌・産業 4.ブログ・コンピュータ 5.ブログ・地域
確認	S: ~25% W: ~75%	1.教科書・情報 2.知恵袋・Yahoo JAPAN 3.知恵袋・インターネット 4.雑誌・産業 5.教科書・技術家庭
増加	S: ~5% W: ~95%	1.白書・農林水産 2.白書・経済 3.白書・福祉 4.白書・安全 5.白書・科学技術
発生	S: ~5% W: ~95%	1.白書・安全 2.白書・環境 3.教科書・理科 4.白書・外交 5.雑誌・産業
表示	S: ~5% W: ~95%	1.教科書・情報 2.知恵袋・インターネット 3.書籍・総記 4.雑誌・工業 5.書籍・技術工学

作成		1.教科書・情報 2.書籍・総記 3.教科書・技術家庭 4.法律 5.知恵袋・インターネット

ここでは、漢語動名詞の頻度論に関する知識について、漢語動名詞のジャンル別頻度の表を見せた上で、学習者に漢語動名詞がいつでも、どこでも使えるものではなく、使いやすい場面とそうでない場面があることを意識付けたい。この点に学習者の意識を向けさせるため、第4章で抽出した重要漢語動名詞200語における上位10種の漢語動名詞を選択し、左側には話し言葉（S）と書き言葉（W）の頻度差を示す直観的に把握できる頻度グラフで、右側には各々の単語が多く使われるジャンルを例示している。

学習シートを効果的に学習できるようにするためには、教師がシートの学び方についても助言をすることが望ましい。たとえば、「頻度グラフをみながら、それぞれの漢語動名詞について、話し言葉と書き言葉のうち、頻度が高い方に丸を付けなさい」といった具体的な指示があれば、学習者はより学びやすくなるだろう。また、媒体・ジャンルの情報は、煩瑣であるため、教師が「全体を比較し、複数の漢語動名詞で上位の媒体・ジャンルになっているものは消して、特定の漢語動名詞と特強く結びついている媒体・ジャンルを探して丸を付けなさい」といった指示が必要かもしれない。こうした教師のサポートにより、単にシートを渡すだけでなく、学習者が主体的に学びに取り組むことができるようになるだろう。

この解説シートの標準学習時間は5分である。これの学習を終了した後に、学習者に取り組ませる問題シートは以下の通りである。

1. 現代日本語における漢語動名詞の使用頻度には使用される媒体やジャンルによって差が見られます。以下の5種で、それぞれ、漢語動名詞がどの程度使用されるか予想し、①～⑤から選んでください。

【ほとんど使わない ①……②……③……④……⑤ 特に多く使う】

- (1) 主として環境問題などについて書かれた公式の報告書 ()
- (2) 主として職場などでのビジネス目的での話し言葉 ()
- (3) 主としてコンピュータや情報技術を教えるテキストや教科書 ()

(4) 主として食事、家計など、日々の生活に直結する知識を教えるテキストや教科書 ()

(5) 主として健康管理、医療知識などに関連する情報を発信するブログ ()

模範解答：

(1) ⑤ (2) ① (3) ⑤ (4) ① (5) ②

2. 以下に示した漢語動名詞が最も多く使われる場面はどこでしょうか？正しいと思うものを選択しの①～④の中から選んでください。

(1) 推移 () (2) 規定 () (3) 相談 ()

(4) 連絡 () (5) 実施 () (6) 落札 ()

(7) 質問 () (8) 増加 () (9) 違反 ()

①経済や政治に関する社会科学的な話題が扱われている場面

②芸術、趣味、ファッション、学校、ビジネス、スポーツなど、幅広い話題が扱われている一般的場面

③ネットショッピングに関わる場面

④法律に関わる場面

模範解答：

(1) ① (2) ④ (3) ② (4) ② (5) ① (6) ③ (7) ② (8) ① (9) ④

まず、問題 1 は、現代日本語における漢語動名詞が、使用されるジャンルごとにどの程度使われるかを学習者に予測させることを目的としている。この問題を通して、学習者にジャンルごとの漢語動名詞の使用特性に対する理解が深まる。

次に、問題 2 では、さらに踏み込んで、漢語動名詞全体ではなく、個々の漢語動名詞を取り上げて、それらを最も多く使うことを考えさせる。なお、ここで選択した 9 つの漢語動名詞は、本論文の第 4 章 (4.3.4) でリストアップした各場面で最も多く出る語である。

この二つの問題によって、漢語動名詞全体として使いやすいものと使いにくいものがあること、さらには、個々の単語についてとくに使いやすいものがあるということを理解さ

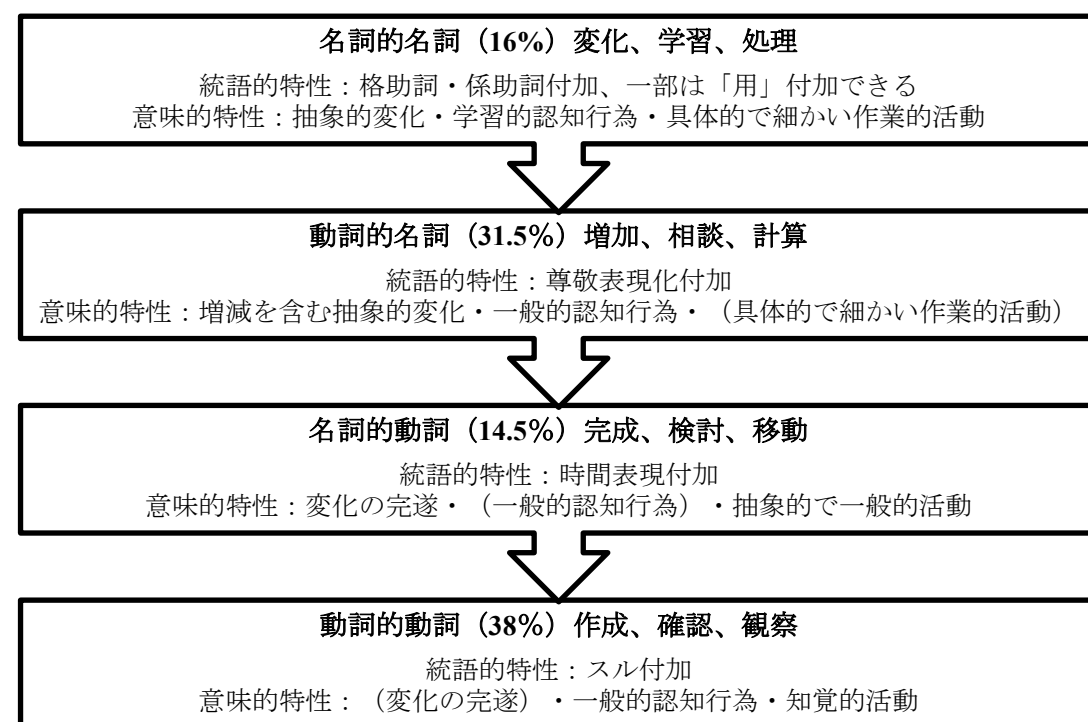
せるのがこのタスクのねらいである。

12.3.2 II 品詞論学習シート

品詞論において、漢語動名詞について重要なポイントは、形式的に動詞か名詞かしたものであるとしても、実際には名詞に近いものや動詞に近いものなど、その品詞性にある種の幅が存在するということである。この点を学習者に理解させるために、以下のような学習シートを考案した。まず、解説シートは以下の通りである。

漢語動名詞は、「する・できる・いたす・される」や、「～中」、「～後」、「～ください」「～になる」を付けられる場合は、動詞として使われ、動詞性が高いと言えます。例えば、「確認される」「活躍中」「到着しました」「ご注意ください」などがあります。一方、「が・を・に・は・も…」 「～用」などを付けられる場合は、名詞として使われます。例えば、「練習がする」「記録を見る」「活動に取り組まれる」などがあります。

また、漢語動名詞はその動詞性の強弱により、次の図に示したように名詞的名詞・動詞的名詞・名詞的動詞・動詞的動詞の4つのタイプに区分されます。それぞれのタイプは統語的特性と意味的特性が異なります。



例文：

【名詞的名詞】

- (1) 名義の**変更**ではなく、納税管理人を設定しただけでしょう。(名詞的名詞)
- (2) ロシヤ語の**学習**を始めた。(名詞的名詞)
- (3) 苦情の**処理**のための防止対策 (名詞的名詞)

【動詞的名詞】

- (4) アジア向け輸出の**増加** (動詞的名詞)
- (5) 閣議 (中国語：内閣会议) で御**相談**になったのでございますか。(動詞的名詞)
- (6) 単価を**計算**してください。(動詞的名詞)

【名詞的動詞】

- (7) 目的別のパーツ選択が**完成**後の満足度を左右する (名詞的動詞)
- (8) 初心者次の初級コースも**検討**中です。(名詞的動詞)
- (9) 船は**移動**中で、どのあたりにおちたのか見当もつかない。(名詞的動詞)

【動詞的動詞】

- (10) 手軽に文書を**作成**できる。(動詞的動詞)
- (11) 口頭発表の作法を**確認**します。(動詞的動詞)
- (12) 参加した子どもたちは熱心に**観察**していました。(動詞的動詞)

ここでは、漢語動名詞の品詞論に関する知識について、漢語動名詞は動詞性の強弱によって 4 つの品詞区分に分けられ、それぞれの統語特性、意味特性特性を示す。学習者に対し、どのような漢語動名詞が主に名詞として使用され、またどのような漢語動名詞が主に動詞として使用されるかについて意識を持たせることを目指したい。この点に学習者の意識を向けさせるため、第 5 章において名詞性・動詞性テストを統合した漢語動名詞の品詞分類の枠組みを解説シートで示した。また、それぞれの区分における典型的な例文を例示する。これらの例文は、コーパスでの用例を基に筆者が修正したものである。教師は、この枠組みを活用し、具体例を使って学習者に説明し、漢語動名詞の統語的・意味的な特徴を明確に理解できるようにする。

上記の解説シートの標準学習時間は 10 分である。この学習を終了した後に、学習者に取り組ませる問題シートは以下の通りである。

1. 解説シートの枠組みを参考に、下記の漢語動名詞がどのグループに分類されるかを考え、分類してみましょう。①・②・③・④から1つを選んでください。

①名詞的名詞 ②動詞的名詞 ③名詞的動詞 ④動詞的動詞

- (1) 変更 () (2) 増加 () (3) 完成 ()
(4) 学習 () (5) 認識 () (6) 確認 ()
(7) 処理 () (8) 移動 () (9) 観察 ()

模範解答：

- (1) ① (2) ② (3) ③ (4) ① (5) ② (6) ④
(7) ① (8) ③ (9) ④

2. かつこ内の漢語動名詞を使って、文を完成させましょう。

- (1) 能力_____ (発揮)。
(2) 心_____ (準備)。
(3) 彼の話聞いて_____ (安心)。
(4) ここでイベント_____ (開催)。
(5) 運動の重要性_____ (強調)。

模範解答：

- (1) 能力を発揮しています。
(2) 心の準備が整いました。
(3) 彼の話聞いて安心しました。
(4) ここでイベントを開催します。
(5) 運動の重要性を強調しています。

まず、問題 1 では、学習者に解説シートの品詞性枠組みを参考しつつ、個人で、あるいはペアによる相談で、これらの漢語動名詞がそれぞれどのグループに入るかを推測させる。このようにして、学習者は、漢語動名詞が一つのかたまりではないこと、品詞性と意味が混ざり合う形で、いくつかの内部的なグループに分かれることを、体験的に理解することができるだろう。

次に、問題 2 では、さらに踏み込んで、個々の漢語動名詞を取り上げて、それらを文の

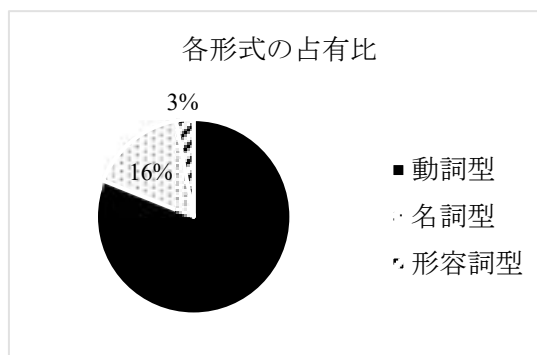
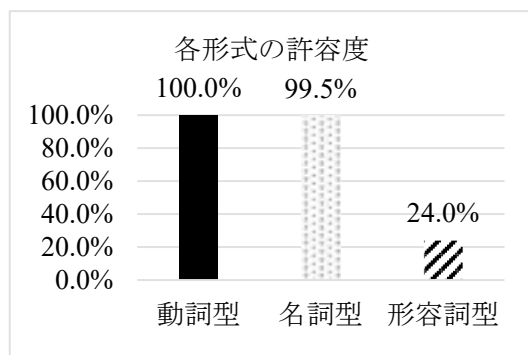
中で具体的にどのような形で使われるかについて考えさせる。

この二つのタスク問題を通じて、漢語動名詞には名詞性の高いものと動詞性の高いものが存在すること、それぞれの品詞タイプが異なる統語的特性および意味的特性を持つこと、さらに、各単語が文中でどのように使用されるかを理解させることが、このタスクのねらいである。

12.3.3 Ⅲ統語論学習シート

統語論において、漢語動名詞の重要なポイントは、連体修飾構造で修飾語として機能する際に、さまざまな形式で使われるということである。これらの形式には、典型性や意味特性にある程度の幅が存在する。この点を学習者に理解させるため、以下のような学習シートを考案した。まず、解説シートは以下のように示す。

漢語動名詞は、連体修飾構造において名詞を修飾する際に、「～スル・シタ+名詞」（動詞型）、「～ノ+名詞」（名詞型）、「～的・的ナ・ナ+名詞」（形容詞型）の 3 つの形式が存在します。下記の図を見てみよう。



※①各形式の許容度：漢語動名詞 200 種の中、動詞型・名詞型・形容詞型、それぞれ当該形式を取りうる語種の比率。例えば、200 種の漢語動名詞のうち、200 種が「～スル・シタ+名詞」で使用されるため、動詞型の許容度は 100%ということになります。

②各形式の占有比：いずれかのタイプの総出現頻度を 3 形式全体の総出現頻度で割ることで計算する比率。例えば、例：動詞型の占有比＝「～スル・シタ+名詞」の出現頻度/（「～スル・シタ+名詞」の出現頻度+「～ノ+名詞」の出現頻度+「～的・的ナ・ナ」の出現頻度）。

例文：

(1) (機械を) 利用**する**方法 (青春十八切符を) 利用**した**人 (将来の) 利用**の**ため

- (2) (事業を) 実施**する**ため (環境庁が) 実施**した**調査 (事業の) 実施**の**促進
- (3) (ロボットを) 使用**する**場合 (商品を) 使用**した**後 (施設の) 使用**の**方法
- (4) (サービスを) 選択**する**こと (この本を) 選択**した**理由 選択**の**範囲 選択**的**支出 選択**的**な動き
- (5) (インピーダンスを) 安定**する**ため 安定**した**利益 (天下の) 安定**の**ため 安定**的**供給 安定**的**な関係 安定**な**状態

ここでは、漢語動名詞の統語論に関する知識について、漢語動名詞が連体修飾構造において修飾語として使われる場合には 3 つの形式が存在し、それぞれの形式の典型性が示したグラフおよび用例を見せた上で、学習者に対して、漢語動名詞がどのような構造中で他の名詞を修飾することができるかについて意識をと持たせることを目指したい。教師は、グラフと例文を組み合わせ提示することで、学習者は漢語動名詞を含む連体修飾構造の使い方における文法的・意味的な特徴をより深く理解できるようになるだろう。

上記の解説シートの標準学習時間は 10 分である。この学習を終了した後に、学習者に取り組ませる問題シートは以下の通りである。

1. 次のかっこに入るもっとも自然なものを、①・②・③・④・⑤・⑥から 1 つを選んでください。

①する ②した ③の ④的 ⑤的な ⑥な

- (1) この地域では、高齢者の人口が年々増加 () 傾向を見せているため、福祉サービスの拡充が急務となっている。
- (2) この問題について詳細に調査 () 結果、新たな証拠が発見された。
- (3) 彼の代表 () 著作は、国際政治の複雑さをわかりやすく解説している。
- (4) 学習者の成績を向上させるために、教師は新しい教材を使って指導 () ための計画を立てた。
- (5) 新しい法律について、専門家たちは批判 () 意見を述べている。
- (6) 長期的な契約を結ぶためには、まず安定 () 条件を整えることが重要である。

模範解答：

- (1) ③ (2) ② (3) ⑤ (4) ① (5) ④ (6) ⑥

2. 下記の用例を観察しましょう。

【動詞型連体修飾構造】

- (1) 最良の環境とモデルを提供することになる。
- (2) 銀行について調査したところ、沢山の金がハイド名義で預金してあったのだ。
- (3) 学位を取得した後、すでに一人前の研究者となっていた
- (4) 交通事故によって入院した場合に保険金が出るものがあります
- (5) 基本方針を実行するための戦略
- (6) その人と相談した結果、その部門で彼を必要とする。

【形容詞型連体修飾構造】

- (1) 畜産物の安定的供給を確保していく
- (2) 学校経営の推進者として指導的な役割を果たす
- (3) マルクスの考えから相当な影響を受けることになった。
- (4) 養蚕業の安定的発展を図る
- (5) そこには決定的な違いがあると思います。
- (6) 新聞の将棋欄を読むだけでも相当な時間を要する。

上記の用例を見て、動詞型と形容詞型の意味的特徴と文中の機能を考えながら、以下の問題に答えてください。

2-1 動詞型と形容詞型における被修飾語をそれぞれ書きなさい。

動詞型：こと・ところ・()・()・()・()

形容詞型：供給・役割・（ ）・（ ）・（ ）・（ ）

2-2 上記の被修飾語はどのような意味の共通性を持っていますか？

動詞型

形容詞型

2-3 動詞型と形容詞型について、文の中で、主語や目的語として使われやすいのはどれですか？（ ）

①動詞型 ②形容詞型

2-4 連体修飾構造内の意味の重心は、修飾語にありますか、それとも被修飾語にありますか？

動詞型

形容詞型

2-5 以下の文に与えられた単語を適切な形にして空欄に入れ、文を完成させてください。

- (1) 調査____、顧客満足度が昨年に比べて大幅に向上していることが分かりました。(ところ)
- (2) その政策変更は、企業の成長に対して決定____を与えました。(影響)
- (3) 契約書の内容をよく確認____、サインをお願いいたします。(うえ)
- (4) この国の経済は、長期にわたる安定____を目指しています。(発展)
- (5) プロジェクトの完了には、相当____がかかると予想されています。(時間)

模範解答：

2-1 動詞型：こと、ところ、後、場合、ため、結果

形容詞型：供給、役割、影響、発展、違い、時間

2-2 動詞型：実質の意味が希薄する。

形容詞型：実質の意味を持つ。

2-3 ②

2-4 動詞型：被修飾語

形容詞型：修飾語

2-5 (1) したところ (2) 的な影響 (3) したうえ (4) 的な発展 (5) な時間

まず、問題 1 では、それぞれの連体修飾構造内の後接要素を穴埋め形式で回答させる。解説シートを学習した後、学習者にこれらの内容について正確に理解できるかどうかを自ら気づかせるのはこのタスクねらいである。

次に、問題 2 では、間接的な DDL アプローチを用いて、学習者にできるだけ多くの言語事例に触れる機会を提供することを目的とし、コーパスから典型的な用例を抽出し、学習者に観察させる形式で学習を進めている。なお、これらの用例は、コーパスでの用例を基に筆者が修正したものである。このタスクでは、意味的特性が対照的な動詞型と形容詞型の 2 つのパターンを選び、学習者に被修飾語の意味特性、連体修飾構造における文法的機能、そしてその構造内での意味重心を観察させ、回答を求める。このようなタスクを通して、学習者が自然に漢語動名詞の連体修飾構造に関する知識を効果的に定着させることが期待できる。

12.3.4 IV意味論学習シート

意味論において重要なポイントは、類義漢語動詞と類義和語動詞間には、使用頻度・使用環境・意味・コロケーション・活用形など、さまざまな面で差が存在するということがある。この点を学習者に理解させるため、以下のような学習シートを考案した。まず、解説シートは以下のように示す。

まず、現代日本語における「利用する」「使用する」「活用する」「使う」「用いる」の使用頻度を見ましょう。



動詞	使用頻度
利用	156.99
使用	103.98
活用	42.28
使う	1,448.40
用いる	102.88

次に、下記の表を見ましょう。5語の使用環境・意味記述・コロケーション・活用形に注意してください。

利用する	【口語】★★【文章語】★★★★☆ 【かたい文脈】★★★ 【くだけた文脈】★★★ 【意味】 ＜公共施設・人間関係・状況＞などのある目的、特に社会的活動のために役立てる。社会的な場面で多用。 ①施設・交通機関・サービスなどの機能を生かして役に立つように使う (38.0%) ②状況や物などの利点を生かして、利益や成果を得るために使う (99.0%) ③人・社会的な役割などを個人の利益や不正な行動のために使う。 (12.5%) ④通例その目的では使用されない身の周りのものや状況などを独創的なアイデアなどによって役立つように使う (10.0%) ⑤天然資源などを主として工業的手段によって人間の役に立つように使う (4.0%) 【活用形】 連用形 (47%) : 利用し、利用して

	連体形（23％）：（風力を）利用する（設置） 受動形（12％）：利用される 【置換】他の動詞とほぼ置換不能。 【例文】 1. タクシーを利用して会場に行く 2. 機会を利用する 3. ツールを利用する 4. 職務的立場を利用する 5. 廃物を利用する 6. 風力を利用する設置
使用する	【口語】★☆☆【文章語】★★★★★ 【かたい文脈】★☆☆【くだけた文脈】★★★★★ 【意味】 ある目的のために、＜物・道具・言語＞などを材料・手段として役立てる。個人的な場面で多用。 ①物事・場所・状況などを具体的な目的のために使う（99.0%） ②賃金を支払い、他人を労務に服させる（1.0%） 【活用形】 連用形（43％）：使用し、使用して 連体形（25％）：（洗剤を）使用する（場合） 受動形（19％）：使用される 【置換】基本的に「使う」との置き換えが可能。ただし、「気・頭・神経・体」など、人間の一部と共起できない。 【例文】 1. 新しい表現を使用します 2. 日本語を使用するコミュニケーション
活用する	【口語】★【文章語】★★★★☆ 【かたい文脈】★★★★☆【くだけた文脈】★☆☆ 【意味】 ＜手段・情報・機能＞などを効果的に役立てる。かたい文脈では社会的な場面で、くだけた文脈では個人的な場面で多用。 ①事物を持っている機能などを最大限に生かして効果的に使う（82.0%） ②人が持っている知識や能力などを様々な可能性を生み出すように使う（10.5%） ③休憩や空き時間などを効果的に使う（4.5%） ④文法用語（3.0%） 【活用】 連用形（53％）：活用し、活用して 連体形（21％）：（資源を）活用する（施設） 受動形（9％）：活用される

	【置換】かたい文脈で使われる場合に「用いる」との置き換えが可能。ただし、「活用」のほうが積極的なニュアンスを持つ。 【例文】 1. 資源を活用して開発する。 2. 英語力を活用する。 3. 休暇を活用して勉強する。
使う	【口語】★★★★★【文章語】★★ 【かたい文脈】★☆☆ 【くだけた文脈】★★★★★ 【意味】 ある目的のために、＜物・人間の一部分＞を材料・手段として役立てる。個人的な場面で多用。 ①事物をある目的のためにあやつる。（85.0%） ②ある目的のために身体（一部）を働かせる。（5.5%） ③時間や金銭などをある目的のために消費する。または、無駄に費やす。（4.0%） ④人を雇って働かせる。（3.0%） ⑤技術や外国語などをうまくあやつる。（1.5%） ⑥巧みによそおって偽りの状況を作り出す。（1.0%） 【活用】 連用形（47%）：使い、使って 受動形（22%）：使われる 連体形（13%）：（よく）使う（薬） 【置換】基本的に「使用する」との置き換えが可能。ただし、「気・頭・神経・体」など、人間の一部分と共起する場合、置き換え不能。 【例文】 1. この洗剤は広く使われる。 2. 野菜をこすときに使う道具 3. 神経を使う 4. お金を使う
用いる	【口語】☆【文章語】★★★★★ 【かたい文脈】★★★★★ 【くだけた文脈】★☆☆ 【意味】 ＜手段・情報・機能＞などの抽象的なものを役立てる。社会的な場面で多用。 ①事物を手段・道具として使う。（97.5%） ②巧みによそおって偽りの状況を作り出す。（1.5%） ③人の能力を評価して、職や地位につけ仕事をさせる。（0.5%） ④特定の目的や意図を込めて行為をする。（0.5%） 【活用】 連用形（48%）：用いて、用いた

	受動形（26％）：用いられる 連体形（14％）：用いる（形式） 【置換】かたい文脈での「活用」との置き換えが可能。 【例文】 1. 最新技術を用いて生産する。 2. 統計表で用いられる用語 3. 意を用いる

漢語動名詞の意味論に関する知識について、類義語セットの頻度差を表示するグラフを見せた上で、個々の語の具体的な情報を提示し、学習者にこれらの動詞の間には、どのような使用環境・意味記述・コロケーション・活用形での相違性が存在するかについて意識付けたい。教師はこのシートを提示しながら、類義語間には様々な相違点、また、これらの相違点の背後の原因について、学習者個人で、あるいはペアによる相談しながら理解できるように指導する。このプロセスを通じて、学習者が語の意味的な違いをより深く理解し、適切に使い分ける力を養うことが期待される。

上記の解説シートの標準学習時間は15分である。この学習を終了した後に、学習者に取り組ませる問題シートは以下の通りである。

1. 下記のかっこ内に①・②・③・④・⑤から最も適切なものを選んで入れてください。 ①利用する ②使用する ③活用する ④使う ⑤用いる (1) 立場を（ ） (2) 頭を（ ） (3) 廃物を（ ） (4) 資源を（ ） (5) 成果を（ ） (6) 定期券を（ ） (7) お金を（ ） (8) 技術を（ ） (9) 英語を（ ） (10) 意を（ ） (11) 素材を（ ） (12) 洗剤を（ ） 模範解答： (1) ① (2) ④ (3) ① (4) ① (5) ③ (6) ① (7) ④ (8) ③ (9) ② (10) ⑤ (11) ② (12) ④ 2. ①・②・③・④・⑤から1つを選んで、適切な形にして空欄に入れ、文を完成させてください。 ①利用する ②使用する ③活用する ④使う ⑤用いる

- (1) 欧米では脳死患者から提供された臓器を_____移植が広く行われていますが、日本の場合には脳死患者からの移植はまだ始まったばかりで、その数も十数例にとどまっています。
- (2) レシピはもちろん、_____素材や調味料の紹介もしています。
- (3) 他人に_____やすいので、やはり「犠牲」になってしまいがちな生きグセの持ち主といえるでしょう。
- (4) 賞味期限のもやしを_____、野菜炒めとラーメン？作って、兄さんが食べなかったら、せつないなあー
- (5) 今後これらの新しい技術を_____、より一層効率的かつ効果的につくり育てる漁業を推進していく必要がある。

模範解答：

- (1) ⑤ 用いた (2) ② 使用する (3) ① 利用され (4) ④ 使って (5) ③ 活用し

まず、問題の 1 では、類義語の意味範疇および典型的なコロケーションを考えさせることによって、学習者が類義漢語動詞と類義和語動詞の使い分けを意識することができるようになることを目指している。

次に、問題 2 では、これらの動詞がどのような文法的形態で活用されるかを比較し、それぞれの動詞が使われる際の文法的特性にも注目させる。このように、学習者が動詞間の違いを自ら発見し、より適切に使い分ける力を養うことが重要となる。

この二つのタスク問題を通して、漢語動名詞を含む類義語セットには、どれが高頻度で使われているのか、それぞれがどのような環境で使われるのか、また、どのような名詞や活用形と結合できるのかを理解させることを目指している。さらに、各単語が文中でどのように使用されているかを学習者に発見させることで、語彙の正確な使い分けと適切な文脈での使用を促すことが意図されている。

12.3.5 V 日中同形語学習シート

日中同形語に関しては、「準備」と「確認」をサンプル語として取り上げ、日中同形同義語の使用頻度の差・品詞パターンの差・コロケーションの差などを学習者に理解させるため、以下のような学習シートを考案した。まず、解説シートは以下の通りである。

I 準備（准备）

【意味】

〔名詞・他サ〕いざという時に備えて（起こりうる条件を予想して）同じ状況で軽く試みたり、必要な物をそろえておいたりすること。

（『新明解国語辞典』第八版）

※中国語の“准备”の意味とほぼ同等。

【使用頻度】

中国語の“准备”に比べ、日本語の「準備」は4割ほど少ない。

【品詞用法】

中国語の“准备”は動詞用法>名詞用法だが、日本語の「準備」は名詞用法>動詞用法

【コロケーション】

準備する：

～の連体形＋名詞：～こと、～もの

名詞＋ヲ＋～：ものを～、ことを～

…ために～：参加するために～

準備：

～＋を＋動詞：～をする、～を進める

～＋ノ＋準備：心の～、夕食の～

動詞連体形＋～：迎える～、行く～

～＋ノ＋名詞：～の段階、～の時間

～＋が＋形容詞：～が早い、～が忙しい

【注意】

中国語の“准备做某事”を表す場合、日本語で「準備する」ではなく「～ようと思う」や「つもりだ」に対応していることに注意してください。例：我准备一个人回家→1人で家に帰ろうと思います。

II 確認（确认）

【意味】

〔名詞・他サ〕確かにそうであることを認めること。

（『新明解国語辞典』第八版）

※中国語の“确认”の意味とほぼ同等。

【使用頻度】

中国語の“确认”に比べ、日本語の「確認」は9倍ほど多い

【品詞用法】

中国語の“确认”は日本語の「確認」と同じく動詞用法>名詞用法

【コロケーション】

確認する：

名詞＋を＋～：ことを～、内容を～、状況を～

確認：

名詞＋の＋～：内容の～、状況の～

～＋を＋動詞：～をする、～を行う、～を取る

以上に示したように、日中同形語に関する知識について、「準備」と「確認」の意味や使用上の注意点を提示し、学習者にこれら 2 語の具体的な用法と、中国語との相違点について意識させたい。

上記の解説シートの標準学習時間は 10 分である。この学習を終了した後に、学習者に取り組ませる問題シートを以下に示す。

1. 次の文の中で、正しい文には○、間違った文には×をつけてください。また、間違った文を正しく直してください。

- (1) 研究会に参加するために、会場を準備しました。() _____
- (2) 彼の発言の内容が正しいかどうか、すぐに確認を行ってください。() _____
- (3) 大切な文書の確認をとってから、サインをお願いします。() _____
- (4) 食事の準備をしている間に、来客がありました。() _____
- (5) 資料が不足していることを確認するために、準備が進めた。() _____

模範解答：

- (1) ○
- (2) × 彼の発言の内容が正しいかどうか、すぐに確認してください。
- (3) ○
- (4) × 大切な文書を確認してから、サインをお願いします。
- (5) × 資料が不足していることを確認するために、準備を進めた。

2. 次の中国語文を日本語に翻訳してください。ただし、中国語の“准备”や“确认”の意味に注意し、日本語に適切な形で表現してください。

- (1) 我准备明天早上出发。

- (2) 请确认一下您是否已支付。

- (3) 他准备了很多礼物送给朋友。

(4) 你确认一下我的订单是否有问题。

(5) 我们正在准备下个月的会议。

模範解答：

(1) 私は明日の朝出発する予定です。

“准备”はここでは「～するつもり」「～する予定」を意味しています。

(2) お支払い済みかどうか、ご確認ください。

“确认”はここでは「確認する」を意味しており、適切な日本語の表現として「ご確認ください」としました。

(3) 彼はたくさんの贈り物を友達にあげるために用意しました。

“准备了”は「準備した」を意味しますが、ここでは「用意しました」が自然な日本語表現です。

(4) 私の注文に問題がないかどうか、確認してください。

“确认”はここでは「確認する」を意味しており、適切な日本語の表現として「ご確認ください」としました。

(5) 私たちは来月の会議の準備を進めています。

“准备”はここでは「準備する」を意味しており、「準備を進めている」としました。

まず、問題 1 では、文が正しいかどうかの判断を通じて、学習者が日本語と中国語の文法的な違いを理解できるようにする。

次に、問題 2 では、翻訳を通じて、学習者が日中両言語間の違いや、これらの日中同形語が具体的にどのような文法形式で使われるかを理解し、より適切に使い分ける力を身につけることが重要である。

12.4 フィードバックの聴取

以上の学習シートの価値や改善点を明らかにするため、中国の大学の日本語教師に対するインタビューを実施した。協力者は中国語母語話者で、日本語学で博士号を取得している。帰国後大学で日本語教育の職に就き、10 年以上の指導経験を持つベテラン教員である。

今回のインタビューは、半構造化インタビュー法によって行った。半構造化インタビュ

ー (semi-structured interview) は、質的研究において最も活用されている手法である (伊藤、2008)。定められた質問項目に基づきながらも、自由な対話を許容するインタビュー形式である。インタビュアーは事前に質問項目を用意するが、回答者の反応に応じて柔軟に質問を追加したり、順序を変更したりする。この形式は、事前に設定された枠組みを基にしながらも、柔軟に対話を進め、対象者の詳細な意見、感情、経験を深く探ることを目的としている。事前に用意したインタビュー構造は以下の通りである。

表 2 インタビュー構造

	質問
1	・ 中国での指導歴 ・ 指導している学生のレベル ・ 使用している教科書
2	・ 今の指導でどの程度漢語動名詞を教えているか？ ・ 学生の漢語動名詞の知識量について教師として感じることはなにか？ ・ 学生が漢語動名詞の知識を増やす上で、教師として必要と考えていることはなにか？
3	・ 今回の学習シート全体に対する評価点
4	・ 今回の学習シート全体に対する疑問点や問題点
5	・ I についての具体的な改善提案
6	・ II についての具体的な改善提案
7	・ III についての具体的な改善提案
8	・ IV についての具体的な改善提案
9	・ V についての具体的な改善提案
10	・ こうしたシートを仮に使用するとした場合、どのような授業設計が考えられるか？

インタビューは 2024 年 10 月 14 日に zoom を用いたオンライン会議で実施した。なお、質疑と回答は主として日本語で行われたが、一部中国語で会話がなされた。それについては、筆者の責任で日本語に翻訳している。インタビュー音声転写の内容は付録 5 に参照したい。以下、質問順に従って学習シートの評価点と問題点についてそれぞれ概観していく。

12.4.1 全体評価

まず、本学習シートの全体について、主として以下のようなコメントが得られた。

- (1) 中国の日本語教育において、特定の学習項目に絞った教材というものは他にあまりなく、学習者に漢語動名詞の重要性を理解させるうえでは一定の意味があると思われる。
- (2) 機械的に何かを選ぶようなタスクは、学習者の自信につながり評価できる。
- (3) 全体としてグラフなどを多用していることは、学習者の理解につながるとされる。
- (4) 例文が多く示されていることも、学習者の理解を促進する可能性がある。
- (5) しかし、現在の中国の大学生の日本語学習の実態を考慮すると、この学習シートは難しすぎるのではないかと上級（大学の3・4年生）であっても、やや難しいという印象がある。
- (6) 特に4年生は年間で8週間しか授業がないため、新しい内容を学ぶのが難しく、今回の学習シートを4年生に使用することは難しい。

以上のうち、(1)～(4)は肯定的な意見であり、本学習シートのような教材が、中国語母語の上級日本語学習者の学習支援として一定の価値や有用性を持つことを裏付けるものであると言える。

一方で、全体的な課題として、難しすぎるという指摘がなされた。これについては、以下で示すように、中国人学習者には馴染みの薄い用語を使っていたり、問題の出し方が曖昧であったりすることが原因であると考えられる。これらについては改善の必要があると言えるだろう。

12.4.2 学習シートの具体的な改善提案

以上の全体的コメントに加え、協力者からは各トピックの解説シートおよび問題シートについて、様々な具体的な改善提案が示された。以下のようにまとめたい。

表2 協力者による改善提案

シート内容		具体的なコメント
I 頻度論	解説シート	・一般の学習者では理解しにくい日本語の用語（例えば「白書」、教科名や知恵袋の内容ジャンル名としての「情報」など）が含まれている。これらは、シートだけでは理解が困難で、教師が説明する必要があるが、そうした時間を確保することは難しい。

		・「白書」のように、中国人には馴染みの薄い概念を示したいのであれば、それらを簡単に説明した解説動画などをあらかじめ作って学生に見せる方が良いのではないかな？また、「白書」がどういうものが具体的にイメージできるよう、白書の中のテキストの見本などを3～4行ぐらいで示してはどうか？ ・「知恵袋」や「ブログ」などのように、情報量が多いものについては、ことばだけで説明するのではなく、図や表などの形で分かりやすく示してはどうか？
	問題シート	・シートに中国語訳を追加するのがよいのではないかな？
Ⅱ 品詞論	解説シート	・品詞性に関する知識には中国語の解説が必要であろう。 ・例文をグラフの中で示してはどうか？ ・「動詞的動詞」「動詞的名詞」「名詞的動詞」「動詞的動詞」などのような理解しにくい用語を避け、具体的な例文を示してはどうか？各々の単語の品詞特性や用法を自らまとめられるようにする。
	問題シート	・「最もよく使われる用法を選ぶべきである」という点を、問題の指示文でより詳しく説明するほうが良いのではないかな？ ・後ろに中国語のヒントを付けて、この文の意味を書かせるようにしてはどうだろうか。たとえば、2問目の文を完成させるという課題には、「(1) 能力_____ (発揮)。」の後ろに「(发挥能力)」のような中国語をヒントとして提示する。
Ⅲ 統語論	解説シート	・グラフの注釈（例：①各形式の許容度：漢語動名詞 200 種の中、動詞型・名詞型・形容詞型、それぞれ当該形式を取りうる語種の比率…）などは、日本語で読むのは困難である。こうした注釈は中国語で示してはどうか？
	問題シート	・この問題はそれほど抽象的ではないため、学生たちも楽しんで解くと思われる。難易度を考えると、最初に置いた方がみんなに受け入れやすいだろう。
Ⅳ 意味論	解説シート	・各語の使用環境の説明が学習者を混乱させる可能性がある。例文では、短い文ではなく、使用環境が明示された文を提示する方が良いのではないかな？
	問題シート	・各問題の後ろに中国語のヒントを付けたほうが良い。 ・類義語が多すぎて、どれを選べばよいかわからず、混乱することである。練習問題において、たとえば、「活用」と「用いる」の2語だけを取り上げて出題するほうが良いのではないかな？
Ⅴ 日中同形語	解説シート	・ここなぜ「準備」と「確認」をサンプルとして挙げるのか、説明した方が良いのではないかな？
	問題シート	・中日翻訳をさせるものがあるが、今の指示文では、中国語の“准备”や“确认”をすべて日本語の「準備」や「確認」と訳さなくてもよい、といった指示をすべきではないかな？

今回のインタビューの協力者は、中国語において10年以上の日本語指導歴を持つ教師であった。そのため、指摘はすべて具体的で、今の中国の日本語教育現状をふまえた具体的なものであった。指摘な点については、可能な限り取り入れることで、本学習シートが、実際に中国の日本語教育の指導現場で利用できるレベルになっていくのではないかと考えられる。

12.5 まとめ

今回のインタビューで得られた改善ポイントについて、以下のように整理する。

- (1) 学習シートの全体的な難度を下げる。
- (2) 教師が多く時間をかけて説明する必要がある内容を減らし、短い動画や例文、イラストなど、学生が自主的に理解しやすい形式で提示するようにする。
- (3) タスクを、易しい→難しいという順序で提示する。
- (4) 解説シートには、日本語で理解しにくい説明や注釈を中国語で示す。
- (5) 問題シートには、機械的な問題を増やすか、または中国語のヒントを付ける。

今後、これらの点について、改善を図り、この学習シートをより良いものにしていきたいと考える。なお、本章の最後に、IV意味論の学習シートを一例に取り上げ、協力者の助言に基づく教材の改善案を示しておきたい。

表3 IV意味論の解説シートの改善案（「利用する」と「用いる」を例として）

1. 以下に「利用する」「使用する」「活用する」「使う」「用いる」が現代日本語におけるそれぞれの使用頻度を見ましょう。(図略)。この図を見ると、5つの語の中で最も頻繁に使われるのは「使う」であり、それに続くのは「利用する」「使用する」「用いる」「活用する」という順序です。 2. 以下では、各語について、それぞれがどのような環境で使われているのか、どのような意味で使われているのか、どのような名詞と共起するのか、どのような活用形で使われているのかなどを見ていきましょう。 i 利用する 【この動詞はどのような意味で使われますか？】

＜公共施設・人間関係・状況＞などがある目的、特に社会的活動のために役立てる。社会的な場面で多用。

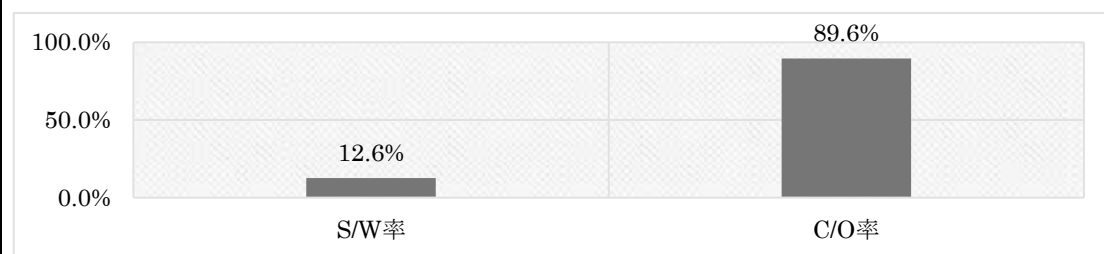
①施設・交通機関・サービスなどの機能を生かして役に立つように使う（38.0%）

（以下、略）

【この動詞がよくどのような名詞と一緒に使われますか？】

サービス、インターネット、制度、機能、施設、技術、衛星、回線、時間、ネットワーク

【この動詞はどのような環境で使われますか？】



注：①S/W率：該詞在口語（spoken: S）中的使用頻度与在書面語（written: W）中的使用頻度之比。表示該詞的口語性。如「利用する」的口語性只有 12.6%，表示該詞很少在口語中使用。

②C/O率：該詞在書面語中使用時，非正式場合（casual: C）中的使用頻度与正式場合（official: O）中的使用頻度之比。表示該詞的非正式性。如「利用する」的非正式性有 89.6%，表示該詞通常在正式場合使用，但在非正式場合也常常使用。

【この動詞はよくどのような活用形で使われますか？】

連用形（47%）：利用し、利用して

連体形（23%）：（風力を）利用する（設置）

受動形（12%）：利用される

【この動詞は他の動詞に置き換えられますか？】

他の動詞とほぼ置換不能。

【この動詞は具体的にどのように使われますか？】

①この無料のデザインツール、めっちゃ便利だから最近よく利用してます！誰でも簡単に利用できるの、おすすめです。

②このシステムは、効率的な業務運営を目的として広く利用されています。利用者は、各種データを迅速かつ正確に処理することが可能です。

ii 用いる

【この動詞はどのような意味で使われますか？】

<手段・情報・機能>などの抽象的なものを役立てる。社会的な場面で多用。

①事物を手段・道具として使う。(97.5%)

(以下、略)

【この動詞がよくどのような名詞と一緒に使われますか？】

方法、ことば、手法、技術、手段、表現、(英・日本・中国)語、データ、装置、用語

【この動詞はどのような環境で使われますか？】



【この動詞はよくどのような活用形で使われますか？】

連用形 (48%) : 用いて、用いた

受動形 (26%) : 用いられる

連体形 (14%) : 用いる (形式)

【この動詞は他の動詞に置き換えられますか？】

かたい文脈での「活用」との置き換えが可能。

【この動詞は具体的にどのように使われますか？】

①本研究では、データ分析の手法として、主成分分析を用いた。

②この技術は、医療分野における診断精度の向上を目的として広く用いられている。

解説シートについては、表 3 に示したように改善した。主な改善ポイントは以下の 4 点である。

(1) 各セッションの提示文をやわらかい表現に変更した（例えば、【意味】を【この動詞はどのような意味で使われますか？】に修正した）。

(2) 使用環境については、各語の口語性とくだけ度をグラフで示し、中国語の注釈を付け加えた。

(3) 高頻度で共起する名詞の上位 10 語を提示した。

(4) 例文は当該語の使用環境が分かりやすくなるように修正した。

次に、問題シートの改善案に示した。

表 4 IV 意味論の問題シートの改善案（「利用する」と「用いる」を例として）

1. 学習シートを参考にして、以下の名詞（句）は「利用する」とよく組み合わせるでしょうか？それとも「用いる」とよく組み合わせるでしょうか？①～⑩から選んで適切な空欄に入れてください。

①老人施設 ②現代技術 ③統計手法 ④新たな機能 ⑤地下鉄 ⑥専門用語 ⑦ケーブル ⑧スペイン語 ⑨アプリ ⑩収集したデータ

(1) ()・()・()・()・() を利用する

(2) ()・()・()・()・() を用いる

模範解答：

(1) ①・④・⑤・⑦・⑨

(2) ②・③・⑥・⑧・⑩

2. 以下の 2 つの文章を読み、「利用する」または「用いる」を適切な活用形にして空欄に入れ、文章を完成させてください。

(1) 本研究では、近代詩における象徴主義の影響を明らかにするために、テキスト分析の手法を_____作品を詳細に検討する。特に、メタファーの解釈には、フランス象徴主義の理論が頻繁に_____おり、その影響は日本文学にも強く現れている。これらの手法を_____先行研究を踏まえ、さらに新しい視点を導入することを試みる。

(2) 最近、よくスマホアプリを_____カロリー管理をしてるんだけど、すごく便利なんだよね。特に、「カロリーカウンター」ってアプリがよく_____いて、評判もいいみたい。食べたものを入力するだけで、栄養バランスまで教えてくれるアプリが、こんなに手軽に_____とは思わなかった。みんなも一度試してみるといいよ！

(3) このイベントでは、最新の AV 機器が効果的に_____いる。また、スマートフォンのアプリでは、音声ガイドや予約システムなどの便利な機能を_____ことができる。さらに、アンケート結果のデータを_____分析に基づき、今後のサービス向上が期待されている。

模範解答：

- (1) 用いて；用いられて；用いた
- (2) 利用して；利用されて；利用できる
- (3) 利用されて；利用する；用いた

問題シートについては、表 4 の右側に示したように改善した。主な改善ポイントは以下の 4 点である。

(1) 学習者が混乱しないよう、「利用する」と「用いる」の 2 語に絞り、対照的に問題を設計した。

(2) 解説シートの内容と組み合わせて、機械的な問題を設計した（1 問目）。

(3) 2 問目の文章を完成させる問題では、使用環境がわかりやすい文章を作成して出題した。

(4) 指示文には、より明確な指示を記載した（適切な形→適切な活用形）。

以上は、IV 意味論をサンプルとして取り上げ、協力者からのフィードバックを基に改善した学習シートである。ただし、今回の学習シートを用いた日本語教育現場での実践はまだ行われていない。今後、すべての学習シートを修正した上で、日本語教育の現場において、開発した学習シートの効果を実際に検証していきたいと考えている。

第 13 章 本研究で得られた知見および制約と課題

13.1 本研究で得られた知見

以上、本研究は、コーパス言語学の研究理念と研究手法に基づき、現代日本語の大規模コーパスを活用し、日本語学の観点から漢語動名詞の諸特性を詳細に調査・記述・整理した上で、各種の日本語学習者コーパスを活用し、学習者の抱える漢語動名詞の使用上の問題を考究した。これらをふまえ、最終的に、日本語学習者、とくに **CLJ** の漢語動名詞習得を支援しうる教材の在り方について基礎的検討を行った。分析対象とした漢語動名詞の量や、使用したコーパスの規模に関しては、今後さらに拡張する余地が残されているものの、本研究を通じて一定の意義のある知見が得られた。以下、各部および各章で行ったこと、また、明らかになった知見について簡潔にまとめる。

本論文は全 4 部、全 13 章で構成されている。第 I 部「研究の枠組み」には 3 つの章が含まれている。第 1 章「はじめに」では、漢語動名詞の定義、現代日本語における漢語動名詞の重要性、および日本語教育における漢語動名詞の重要性を確認し、本研究のねらいと構成を説明した。第 2 章「先行研究」では、本研究で扱う 6 つの具体的な研究課題に即して、漢語動名詞の先行研究が概観された。最後に、第 3 章「データと手法」では、本論文で使用したデータおよび統計手法について概説された。

第 II 部「言語学的視点に基づく漢語動名詞の特性分析」には 4 つの章が含まれている。これらの章では、日本語母語話者コーパスの調査を通して、漢語動名詞の使用特性を頻度論、品詞論、統語論、意味論の観点から検討した。

まず、第 4 章「頻度論から見た漢語動名詞」では、書き言葉と話し言葉を含む多様な現代日本語における漢語動名詞の使用実態を解明するとともに、「平均頻度×レンジ比率」という尺度に基づき、重要漢語動名詞 200 語を抽出した。なお、分野別の主要漢語動名詞のリストも作成し、漢語動名詞のジャンル特性を解明した。

次に、第 5 章「品詞論から見た漢語動名詞」では、書き言葉・話し言葉のコーパスデータを用い、動詞性判定テストと名詞性判定テストによって、重要漢語動名詞 200 種の品詞性を決定した。その後、品詞タイプごとの頻度調査を行うことで、それらを動詞的動詞・名詞的動詞・動詞的名詞・名詞的名詞の 4 つのグループに区分した。また、各品詞グループの統語的特性および意味的特性も解明した。

続く第 6 章「統語論から見た漢語動名詞―連体修飾用法に注目して」では、漢語動名詞が名詞節内で修飾語となる用法に注目して、漢語動名詞を含む動詞型（漢語+スル/シタ+名

詞)・名詞型(漢語+ノ+名詞)・形容詞型(漢語+的/的ナ/ナ+名詞)の3種の構造パターンの典型性や、各パターンの意味特性と選択要因を分析した。その結果、(1) 典型性については動詞型>名詞型>形容詞型の順になり、形容詞型が3種の構造パターンの中で例外的・特殊的事であること、(2) 動詞型と名詞型は主に文中で文法的機能を担うのに対し、形容詞型は主に名詞句を構成すること、(3) 動詞型と名詞型では修飾語に意味の重心があるのに対し、形容詞型では被修飾語に重心があること、(4) 漢語動名詞の意味分類タイプと日本語での品詞性が動詞型と名詞型の判定基準であること、(5) 語構成要素の品詞パターンが形容詞型と動詞型の判定基準であること、などが明らかになった。

第7章「意味論から見た漢語動名詞―類義動詞の使い分けに注目して―」では、書き言葉・話し言葉データを組み合わせ、(1) 使用頻度、(2) 使用環境、(3) 動詞活用形、(4) 動詞共起語、(5) 語義配列という5つの観点から、類義語セットである「使用」「利用」「活用」「使う」「用いる」の用法の解明を試みた。その結果、(1) 5語の使用頻度については、「使う」の頻度が圧倒的に高いが、同じ和語でも「用いる」の頻度はきわめて少ないこと、3種の漢語について言えば「利用」>「使用」>「活用」という頻度の順で少なくなり、とくに「活用」の頻度はきわめて低いこと、(2) 関連5語の口語性に関しては、「使う」>>「活用」>「利用」>「使用」>「用いる」という順序関係が認められたこと、(3) 書き言葉に限って、5語のくだけ度に関して、「使用」≒「使う」>「利用」>「用いる」≒「活用」という順序関係が認められたこと、(3) 動詞活用形については、和語と漢語間には違いが存在し、また、それぞれについてとくに使われやすい活用形があること、(4) 共起語については、文脈のかたさが目的語に影響しうること、また、意味が類似していても各語の具体的な使用場面は異なること、(5) 既存辞書における語義配列には使用実態とのズレが存在すること、などの知見が得られた。

以上の母語話者コーパスの調査をふまえ、第Ⅲ部「中国語を母語とする学習者の漢語動名詞使用傾向の解明」では学習者コーパスの分析を行った。第Ⅲ部には3つの章が含まれる。

まず、第8章「学習者の漢語動名詞全般使用の特徴」では、学習者コーパスを利用し、漢語動名詞使用の誤用率・産出量・語彙難度・特徴語という4点を主たる分析の観点とした上で、中国語を母語とする日本語学習者(CLJ)・韓国語を母語とする日本語学習者(KLJ)・英語を母語とする日本語学習者(ELJ)間の国際比較、CLJ全体とJNSの比較、CLJの各習熟度段階別の比較を順に行い、CLJの高頻度漢語動名詞使用の実態を探った。

その結果、(1) 国際比較について、a. 発話においても作文においても、CLJ の誤用率が最も多い、b. 漢語動名詞の総語数・多様性・語彙難度の不足は、CLJ だけではなく、日本語学習者全般に共通する課題である、c. 学習者の漢語動名詞使用は、L1 や各地域の日本語教育が影響しているが、共通している漢語動名詞も存在している、の 3 点が確認された。

(2) CLJ と JNS との比較について、a. CLJ が日本語を用いて発話・作文する際には、意識的に漢語動名詞の使用を回避している可能性がある、b. 豊富な漢字知識を有する CLJ であっても、JNS より平易な日本語漢語動名詞を多用している、c. CLJ は日中同形語を過剰に使用しているのに対し、中国語において存在していない漢語を過少に使用している、の 3 点が明らかになった。(3) 習熟度比較について、a. 習熟度の上昇に伴い、CLJ の誤用率の減少が遅い、b. 発話の場合、習熟度の上昇に伴い、CLJ の漢語動名詞使用の総語数と語彙多様性の上昇は遅れ、上級になっても JNS 水準に到達していない、c. 作文の場合、習熟度の上昇に伴い、CLJ の総語数の変化が見られなかったが、上級になるとより多様な漢語が使用できる、d. CLJ は習熟度の上昇につれて、より難しい漢語が産出できるようになったが、問題点はまだ存在している、e. CLJ は上級になっても、JNS に対して過剰・過少に使用する漢語動名詞も少なくない、の 5 点が明らかになった。

続く第 9 章「学習者の日中同形漢語動名詞の使用特徴」では、CLJ の日本語における漢語動名詞の使用問題が、母語知識に起因する可能性を検討した。一般日本語コーパス・一般中国語コーパス・学習者コーパスを用いて分析を行い、CLJ 作文において過剰使用が顕著である「準備」と、過少使用が顕著である「確認」の 2 語を取り上げ、各々の同形語である中国語の“准备”と“确认”と比較を行った。使用頻度、品詞別用法、コロケーションの 3 つの観点から調査を行い、CLJ の日本語使用における問題の一部が母語知識に起因するという仮説を探った。その結果、(1) 過剰・過少使用漢語動名詞における同形語について、a. CLJ は L1 の知識を活用できる同形語を過剰に使用していること、b. 作文よりも対話において同形語の過剰使用が顕著であること、c. 複雑な品詞用法を持つ同形同義の漢語動名詞を習得することが CLJ にとってとくに困難であること、の 3 点が確認された。(2) 使用頻度の差について、a. 同形同義語であっても、日中両言語間で使用頻度には差があること、b. L1 中国語での使用頻度が L1 日本語より多い場合、CLJ はその語を過剰に使用する傾向があること、c. 逆に L1 中国語での使用頻度が少ない場合、CLJ はその語を過少に使用する傾向があること、の 3 点が確認された。(3) 品詞用法の差について、a. 同形同義語であっても日中両言語間で品詞用法に違いがあること、b. 両言語間で品詞パターンが異

なる場合、CLJ の L2 使用に負の転移が生じやすいこと、c. 品詞パターンが類似している場合には正の転移が生じる可能性が高いこと、d. ただし、L2 の知識も品詞使用に影響を及ぼすこと、の 4 点が確認された。(4) コロケーションパターンの差について、a. 同形同義語であっても日中両言語間でコロケーションパターンや共起語に違いがあること、b. L1 におけるコロケーションパターンや共起語の範囲が L2 より広い場合、CLJ がその語を過剰に使用する可能性があること、c. 逆に L1 での範囲が L2 より狭い場合、過少に使用される可能性があること、の 4 点が確認された。

第 10 章「中国語と日本語における日中同形漢語動名詞の対応性」では、CLJ による同形漢語動名詞使用の困難さの原因をさらに探究するため、ベストセラーSF 小説『三体』とその中国語原典版をコーパス化したデータを用い、(1) 日本語版における漢語動名詞の使用状況と、その中で同形語、とくに同形同義語が占める比率、(2) 同形語、とくに同形同義語が使用されている場合、中国語原典版でも同一の語が使用されているかどうか、(3) 日本語版の漢語動名詞が中国語原典版においてどのような種類の表現に起因しているか、の 3 点に注目して調査を行った。その結果、(1) 日本語版に出現した 130 種漢語動名詞のうち、日中同形語の割合が 83%で、同形同義語の割合が 80%であり、一般的な日本語における傾向とほぼ一致していること、(2) 日本語版に出現した同形漢語動名詞のうち中国語原典版で使用されていた語との一致率は予想以上に低いこと、(3) 一致率が高い語には、共通する定型的な文脈で使用するものや、意味範囲が限定されているものが多い一方、一致率が低い語には、中国語において動補構造を持つものや、専門用語や固有名詞の一部として使用されるもの、内面的な思考や判断を表すものが多いこと、(4) 原典版における分散度が高い語には、内面的な思考や判断を表すものや、使用場面や文脈が幅広く多様な意味や用法が派生しやすいものが多い一方、分散度が低い語には、専門用語または固有名詞の一部として使用されるもの、具体的で限定的な意味や使用場面を持っており、表現が固定的であるものが多いこと、などが確認された。

最後に、第IV部「中国語を母語とする学習者向けの漢語動名詞指導の展望」では、テストとアンケートを組み合わせた調査フォームを用いて、CLJ の漢語動名詞の運用能力および意識の調査を行った上で、CLJ 向けの漢語動名詞の学習シートを試行的に開発した。第IV部では、2つの章が含まれている。

第 11 章「中国語母語話者の漢語動名詞の運用能力と意識」では、第III部で行った学習者コーパス調査の結果をより深く解釈するため、CLJ を対象に、漢語動名詞の基礎的・応用

的用法に関してどの程度の知識を持っているかをテストで調査した。また、これまでの漢語動名詞の学習経験や意識についてアンケートで調査を行った。その結果、(1) 漢語動名詞の一般性と成立性について、CLJ の理解度はそれぞれ 2 割と 6 割程度にとどまっており、学年別と留学経験別の差も見られないこと、(2) 漢語動名詞の品詞用法・名詞修飾用法・類義語の使い分け・日中同形語の使い分けについて、いずれの場合も、CLJ の正答率が 5 割以下にとどまっており、学年別と留学経験別の差も見られないこと、(3) CLJ の自己評価について、いずれの項目に対してもはっきりと判断できない状況にあり、学年別の差も見られないこと、(4) 漢語動名詞の指導に対する意識について、多くの学習者が指導を十分に受けていないと感じており、今までの漢語動名詞の指導が不十分であること、(5) 指導に対する希望を問うたところ、漢語動名詞の読み方・文法・意味・同形語の使い分けなど、多くの側面についてより具体的な実用例を通して指導を希望していること、などがわかった。

第 12 章「中国語母語話者を支援する漢語動名詞教材の方向性について」では、本研究で明らかになった頻度論、品詞論、統語論、意味論、および対照語彙論の観点から、上級レベルの CLJ 向けに漢語動名詞教材を試行的に作成した。その後、実際に中国語母語話者の日本語学習者に日本語を指導している現役の大学教員にインタビューを行い、開発した教材の利点や欠点を調査した。その結果、今回開発した学習シートは、中国語母語の上級日本語学習者に対する学習支援として一定の価値と有用性を持つことが確認された一方で、いくつかの課題も浮き彫りになった。協力者からのコメントにより、(1) 学習シートの全体的な難度を下げること、(2) 教師が多くの時間をかけて説明しなければならない内容を減らし、短い動画や例文、イラストなど、学生が自主的に理解しやすい形式で提示すること、(3) タスクを易しいものから難しいものへ順序立てて提示すること、(4) 解説シートには、日本語で理解しにくい説明や注釈を中国語で示すこと、(5) 問題シートには機械的な問題を増やすか、もしくは中国語のヒントを付けること、などの改善点が明らかになった。

第 13 章「本研究で得られた知見および制約と課題」では、以上の議論を総括し、本論文で得られた知見、また、制約と課題についてまとめた。

13.2 本論文の課題と今後の方向性

本研究では、日本語学および日本語教育学において十分に扱われてこなかった漢語動名詞に焦点を当て、コーパス言語学の手法を用いて、現代日本語におけるその位置づけや、

学習者の習得における問題点を多角的に検討してきた。多くの興味深い知見が得られたものの、まだ解決すべき課題も残されている。ここでは、(1) 調査に使用したデータの問題、(2) 研究対象の拡張、(3) 既存する教材との比較、(4) 学習者コーパス調査、(5) 学習シート効果検証、の 5 つについて述べていきたい。

まず、(1) 調査に使用したデータの問題について、本研究は、漢語動名詞の言語特性調査において、書き言葉では「現代日本語書き言葉均衡コーパス」(BCCWJ)を、話し言葉では「日本語日常会話コーパス」(CEJC)を使用し、また、日中同形語の使い分けについて調査した際に、中国語データとして Lancaster Corpus of Mandarin Chinese (LCMC) と The Spoken Chinese Corpus of L1-L1 (TSCC) を使用した。BCCWJ は書き言葉の多様な実態が捉えられる日本初の大規模均衡コーパスである一方、書籍ジャンルに偏っていることや、データの収集期間が統制されていないなど、データの均衡分布という点ではまだ問題点も残されている。CEJC は、日常会話をバランスよく収集したコーパスであり、世界初の日常的な会話場面を扱っているが、主にくだけた場面の会話に限定されているなどの課題も指摘されている。LCMC は現代中国語の書き言葉データを均衡的に収集したコーパスであるが、1989 年から 1993 年までに中国大陸で出版された出版物に限定されているため、データ量が少なく、また年代が古いという問題点が残されている。TSCC は非構造化インタビューを採用して収集した中国語話し言葉コーパスであるが、会話場面とデータ量が少ないなどの問題点が残されている。については、今後、他のコーパスや自作のデータベースを合わせて調査することで、本研究で得られた結果が再現性を持つかどうかを確認し、調査の範囲をさらに拡大していく必要がある。

次に、(2) 研究対象の拡張について、本研究では、意味論および日中対照の観点から調査を行う際に、サンプル語を設定して調査を実施した。しかし、サンプル語には限りがあり、得られた結論が他の語においても再現されるかどうかは確認できていない。この点に関して、今後は調査対象を拡大し、より多くのサンプル語を取り上げ、具体的な文脈の中でそれらがどのような意味機能を果たしているかを研究することで対応したいと考えている。

(3) 既存する教材との比較について、本研究では、頻度論・品詞論・統語論・意味論・対照語彙論などの観点から漢語動名詞の特性を明らかにしたが、既存の日本語教育用教材との体系的な比較はまだ十分に行われていない。今後の課題として、既存の教材がどのように漢語動名詞を扱っているかを詳細に分析し、本研究で解明された知見を基に、そ

の内容の充実度や効果を評価することが必要である。これにより、より効果的な指導方法や教材の開発に役立てることができると考えられる。また、既存教材における漢語動名詞の扱いが、学習者の習得プロセスにどのような影響を与えているのかを実証的に検討することも重要である。

(4) 学習者コーパス調査について、本研究では、横断コーパスを用いて学習者の漢語動名詞の使用特徴を調査した。しかし、横断的な調査だけでは、学習者の言語習得過程や時間の経過による変化を捉えることが難しいため、縦断的な調査も必要である。縦断調査を行うことで、学習者がどのように漢語動名詞を習得し、使用がどのように発展していくか、学習段階ごとの変化を詳細に把握することが可能となる。これにより、指導方法の改善や学習支援の効果的な提案ができると考えられる。

(5) 学習シート効果検証について、本研究では、各章の内容に対応した学習シートを提案した。しかし、これらの学習シートが実際の学習効果にどのような影響を与えるかについては、十分な検証が行われていない。今後の課題として、学習シートを使用した授業や学習環境において、その効果を検証する実験的研究が必要である。具体的には、学習者の理解度や習得度の向上、学習シートが学習プロセスに与える影響を定量的に評価し、フィードバックを得ることで、学習シートの改良および最適化を図ることが重要である。

残された課題は多いが、本研究で得られた知見を出発点として、さらなる研究の方向性を検討し、中国語を母語とする学習者のみならず、世界の日本語学習者が日本語の漢語知識の特性をよりよく理解し、それらを自然に運用できるように支援する方向性を探っていきたい。さらに、日本語教育に限らず、中国語における関連語彙の使用実態についても調査を行い、日本語を母語とする中国語学習者が円滑に中国語を習得できるよう、実践的な支援の道を探っていきたい。

参考文献

- 浅原正幸 (2020) 「Bayesian Linear Mixed Model による単語親密度推定と位相情報付与」
『自然言語処理』 27 (1) , 133-150.
- 浅原正幸・松本裕治 (2003) 『ipadic version 2.7.0 ユーザーズマニュアル』 奈良先端科学
技術大学院大学情報科学研究科自然言語処理学講座.
- 庵功雄 (2001) 『新しい日本語学入門：ことばのしくみを考える 第2版』 スリーエーネ
ットワーク.
- 庵功雄・松岡弘・中西久実子・山田敏弘・高梨信乃 (2000) 『初級を教える人のための日
本語文法ハンドブック』 スリーエーネットワーク.
- 石川慎一郎 (2020a) 「発話における副詞の使用」 迫田久美子・石川慎一郎・李在鎬 (編著)
(2020) 『日本語学習者コーパス I-JAS 入門：研究・教育にどう使うか』 (pp. 167-
184) くろしお出版
- 石川慎一郎 (2020b) 「日本語・中国語・韓国語・英語母語話者の日本語発話における形
容詞使用実態 —I-JAS に基づく調査—」 『国立国語研究所日本語学習者コーパス「I-
JAS」完成記念シンポジウム予稿集』 27-34.
- 石川慎一郎 (2021) 『ベーシックコーパス言語学 第二版』 ひつじ書房.
- 石川慎一郎・前田忠彦・山崎誠 (2010) 『言語研究のための統計入門』 くろしお出版.
- 王丹彤 (2021a) 「形態論的なボイスと語彙統語論的なボイス漢語動名詞『影響』を構成要
素とする場合—」 『岡山大学大学院社会文化科学研究科紀要』 51, 29-46.
- 王丹彤 (2021b) 「語彙統語論的なボイス：漢語動名詞と『あたえる』『うける』からなるボ
イス表現」 『言語文化学会論集』 56, 101-129.
- 沖森卓也・木村義之・田中牧郎・陳力衛・前田直子 (2011) 『図解日本の語彙』 三省堂.
- 小木曾智信・中村壮範 (2011) 『『現代日本語書き言葉均衡コーパス』形態論情報データベ
ースの設計と実装改訂版』 国立国語研究所.
- 大村舞・柏野和佳子・山崎誠 (2020) 『日本語日常会話コーパス』 モニター公開版の語彙』
国立国語研究所.
- 奥津敬一郎 (1974) 『生成日本文法論—名詞句の構造』 大修館.
- 影山太郎 (1993) 『文法と語形成』 ひつじ書房.
- 加藤重広 (2003) 『日本語修飾構造の語用論的研究』 ひつじ書房.
- 亀井孝・河野六郎・西田龍雄 (1996) 『言語学大辞典』 三省堂.

- 河住有希子（2005）「中国人学習者の漢字語彙使用に見られる問題点」『早稲田大学日本語教育研究』7, 53-65.
- 北原保雄（2007）『日本国語大辞典 第二版』小学館.
- 北原保雄（2020）『明鏡国語辞典 第三版』大修館書店.
- 呉人恵・趙虹（2008）「日本語の接尾辞『一的』の意味論および統語論的一考察」『富山大学人文学部紀要』, 49, 19-43.
- 桑原洋子（2017）「漢字 2 字熟語が漢語動名詞かどうかの判断に及ぼす語構成の影響：非漢字系中上級学習者対象の調査の結果から」『国際教育交流研究』1, 27-36.
- 国立国語研究所（1962）『現代雑誌九十種の用語用字第一分冊：総記および語彙表』秀英出版.
- 国立国語研究所（1984）「日本語教育のための基本語彙調査」秀英出版.
- 国立国語研究所（2004）『分類語彙表：増補改訂版』大日本図書.
- 国立国語研究所（2011）『＜現代日本語書き言葉均衡コーパス＞利用の手引き第 1.1 版』国立国語研究所.
- 国立国語研究所（2013）『『現代日本語書き言葉均衡コーパス』語彙表 ver.1.0』国立国語研究所.
- 国立国語研究所（2022）『『日本語日常会話コーパス』一設計・構築・特徴一』国立国語研究所.
- 国立国語研究所コーパス開発センター（2021）『『現代日本語書き言葉均衡コーパス』短単位語数表（Version 1.1）』国立国語研究所.
- 小林英樹（2004）『現代日本語の漢語動名詞の研究』ひつじ書房.
- 小林英樹（2023）「漢語サ変動詞の意味・用法の記述的研究－『奨励（する）』、『推奨（する）』などをめぐって－」『群馬大学共同教育学部紀要 人文・社会科学編』72, 19-26.
- 迫田久美子・石川慎一郎・李在鎬（2020）『日本語学習者コーパス I-JAS 入門：研究・教育にどう使うか』くろしお出版.
- 迫田久美子・小西円・佐々木藍子・須賀和香子・細井陽子（2016）「多言語母語の日本語学習者横断コーパス」『国語研プロジェクトレビュー』6 (3) , 93-110.
- 佐竹由帆（2020）「英作文における動詞-名詞コロケーション産出に対する DDL の効果」, 『英語コーパス学会大会予稿集 2022』. 73-78.
- 清水裕士（2016）「フリーの統計分析ソフト HAD：機能の紹介と統計学習・教育, 研究実践

- における利用方法の提案」『メディア・情報・コミュニケーション研究』 *1*, 59-73.
- 石立珣（2021）「動名詞の連体用法『VNノN』の使用実態と成立条件ー中国人日本語学習者の使用状況からー」『日本語教育』 *179*, 77-92.
- 周平・陳小芬（2016）『新編日語：第1冊（重排本）』上海外语教育出版社.
- 新村出（2018）『広辞苑 第七版（LogoVista 版）』岩波書店.
- スリーエーネットワーク（2012）『みんなの日本語初級 I』スリーエーネットワーク.
- 曹紅荃・八木豊・黒田史彦・仁科喜久子（2012）「学習者コーパス『なたね』の構築と応用の可能性」『第5回日本語教育とコンピュータ国際会議（Castel/J）予稿集』 1-4.
- 田辺和子・中條清美（2014）「日英新聞コーパス及び BCCWJ 比較に基づく二字漢語動名詞使用の分析」『日本女子大学紀要文学部』 *63*, 1-11.
- 田辺和子・中條清美・船戸はるな（2011）「新聞コーパスにおける二字漢語動名詞の動詞的・名詞的ふるまいについて」『日本女子大学紀要.文学部』 *61*, 19-32.
- 中国社会科学院語言研究所詞典編輯室（2016）.『現代漢語詞典』商務印書館.
- 中條清美・西垣知佳子・内堀朝子（2007）「パラレルコーパスを利用した文法発見学習の試み」『日本大学生産工学部研究報告 B 文系』 *40*, 33-46.
- 中條清美・田辺和子・木下謙朗・三橋麻子・西垣知佳（2009）「コーパスを活用した日本語教材作成の試み」『日本大学生産 工学部研究報告 B』第 42 巻, 日本大学生産工学部 生産工学研究所, 43-52 .
- 張建華（2021）「中国人中上級日本語学習者コーパスによる漢語サ変動詞の習得研究」『日中語彙研究』 *11*, 59-81.
- 張厚泉・許小明（2009）『新日本語教程』人民教育出版社.
- 張志剛（2014）『現代日本語の二字漢語動詞の自他』くろしお出版.
- 張晶鑫（2020）「日中翻訳における訳語枝分かれ率に基づく日本語オノマトペの難易度推定」『統計数理研究所共同研究リポート』 *435*, 69-86.
- 陳曉静（2014）「類義語としてのカタカナ語・漢語の意味の相違：『ケア』と『介護』の意味上の相違について」『立命館文学』 *637*, 1450-1438.
- 陳小芬・譚晶華（2014）『日語综合教程（第1冊）』上海外语教育出版社.
- 陳迪（2022）「書き言葉・話し言葉を含む 72 変種のコーパスデータの調査に基づく『重要漢語動名詞 200』の抽出の試み」『統計数理研究所共同研究リポート』 *456*, 21-41.
- 陳迪（2023a）「書き言葉・話し言葉コーパスデータに基づく高頻度漢語動名詞の品詞性の

- 再考：日本語教育の視点から」『言語資源ワークショップ発表論文集』 *1*, 215-232.
- 陳迪 (2023b) 「中国語を母語とする日本語学習者の発話における高頻度漢語動名詞の使用実態：「多言語母語の日本語学習者横断コーパス」を用いた調査」『統計数理研究所共同研究レポート』 *465*, 1-22.
- 陳迪 (2023c) 「日本語学習における語種の問題—類義動詞の使い分け指針を指導する教材の提案—」『信学技報』 *123* (326), 13-18.
- 陳迪 (2024a) 「中国語を母語とする日本語学習者による日中同形語使用の問題点：多様なコーパスデータを用いた調査」『Learner Corpus Studies in Asia and the World』 *6*, 147-168.
- 陳迪 (2024b) 「漢語動名詞を含む名詞節の構造パターンの分析—BCCWJ データに基づいて—」『言語資源ワークショップ 2024 発表論文集』 89-101.
- 陳毓敏 (2002) 「日本語二字漢字語彙とそれに対応する中国語二字漢字語彙は同じか。—台湾及び中国の中国語との比較」『言語文化と日本語教育』（お茶の水女子大学日本語文化学会） *24*, 40-53.
- 田忠魁・泉原省二・金相順 (1998) 『類義語使い分け辞典』 研究社.
- 寺嶋弘道 (2011) 「日本語教育におけるコーパスの応用：データ駆動型学習とその実践方法の考察」『ポリグロシア』 *20*, 91-103.
- 寺村秀夫 (1991) 『日本語のシンタクスと意味Ⅲ』 くろしお出版.
- 寺村秀夫 (1993) 『寺村秀夫論文集Ⅰ—日本語文法編—』 くろしお出版.
- 伝康晴・山田篤・小椋秀樹・小磯花絵・小木曾智信 (2008) 『UniDic version 1.3.9 ユーザーズマニュアル』 国立国語研究所.
- 鄧琪 (2020) 「中国語を母語とする日本語学習者の発話における漢語使用の実態—『多言語母語の日本語学習者横断コーパス』を用いた調査—」『統計数理研究所共同研究レポート』, *435*, 121-138.
- 鄧琪 (2021) 「非和語系語彙の連体修飾用法に対する一考察：異なる連体修飾標識の許容度に注目した計量調査」『統計数理研究所共同研究レポート』 *444*, 123-138.
- 鄧琪 (2022) 「コーパス調査に基づく現代日本語における非和語系語彙の用法解明と日本語教育への応用」神戸大学博士論文.
- 永澤済 (2007) 「漢語動詞の自他体系の近代から現代への変化」『日本語の研究』（日本語学会） *3* (4), 17-32.

- 永澤済（2010）「変化パターンからみる近現代漢語の品詞用法」『東京大学言語学論集』
30, 115-168.
- 中俣尚己（2014）『日本語教育のための 文法コロケーションハンドブック』くろしお出版.
- 西尾実・岩淵悦太郎・水谷静夫・柏野和佳子・星野和子・丸山直子（2019）『岩波国語辞
典 第八版（LogoVista 版）』岩波書店.
- 日本語文法学会（編）（2014）『日本語文法事典』大修館書店.
- 日本語学会（編）（2018）『日本語学大辞典（初版）』東京堂.
- 日本語記述文法研究会（2003）『現代日本語文法 1』くろしお出版.
- 長谷川拓也（2021）「V・N タイプ二字漢語動名詞における包摂関係を有する項の外部表示」
『言語情報科学』19, 1-17.
- 平尾得子（1990）「サ変動詞をめぐって」『待兼山論叢.日本語学篇』24, 57-73.
- 布施悠子・鈴木靖代（2021）「対話場面における中国人日本語学習者の「と思う」の習得
過程の一考察：『北京日本語学習者縦断コーパス（B-JAS）』のデータから」『国立国
語研究所論集』20, 95-113.
- 文化庁（1978）『中国語と対応する漢語』大蔵省印刷局.
- 松下達彦・陳夢夏・王雪竹・陳林柯（2020）「日中対照漢字語データベースの開発と応用」
『日本語教育』177, 62-76.
- 松村明・三省堂編修所（2019）『大辞林第四版（LogoVista 版）』三省堂.
- 間淵洋子（2015）「二字漢語名詞サ変用法の変化―『太陽コーパス』『BCCWJ』を用いて
―」『第7回コーパス日本語学ワークショップ予稿集』, 275-284.
- 間淵洋子（2016）「近現代漢語におけるサ変動詞用法の変化―形態論情報付きコーパスを
用いて―」『国際日本学研究論集』4, 17-36.
- 森山卓郎・渋谷勝己（2020）『明解日本語学辞典』三省堂.
- 山下直子・畑ゆかり・轟木靖子（2018）「日本語母語話者のカタカナ語と類義語の使い分
け：カタカナ語とその類義の和語・漢語の調査から」『香川大学教育学部研究報告第
I 部』149, 45-52.
- 山田孝雄（1940）『國語の中に於ける漢語の研究』明治書院.
- 山田忠雄・倉持保男・上野善道・山田明雄・井島正博・笹原宏之（2020）『新明解国語辞
典 第八版（LogoVista 版）』三省堂.
- 楊健（2021a）「自動詞専用の傾向を示す自他両用の二字漢語サ変動詞の他動詞用法」『神

- 戸市外国語大学研究科論集』 24,1-22.
- 楊健 (2021b) 「国語辞書において『自他両用』とされる二字漢語サ変動詞の用法」『神戸外大論叢』 74, 173-196.
- 羅蓮萍 (2009) 「『ナ形容詞』と『ノ形容詞』のイメージ：日本語母語話者の使用意識」『山口国文』, 32, 110-120.
- 李奇楠・押尾和美 (2009) 『総合日语 第一冊 修订版』 北京大学出版社.
- 李在鎬 (2013) . 「形状詞の『ナ』共起と『ノ』共起のコーパス基盤調査」『計量国語学』 29:3, 77-95.
- 李在鎬 (2017) 『文章を科学する』 ひつじ書房.
- 李在鎬 (2020) 「作文における産出量と語彙特徴」 迫田久美子・石川慎一郎・李在鎬 (編著) (2020) 『日本語学習者コーパス I-JAS 入門：研究・教育にどう使うか』 (pp.144-156) .くろしお出版.
- 李楓 (2013) 「現代日本語における汎用的漢語サ変動詞の抽出とその内部構成の検討」『第4回コーパス日本語学ワークショップ予稿集』 101-110.
- 李楓 (2014) 「漢語サ変動詞の卓立性の再考—動詞形・構文形比率を手掛かりとして—」『第6回コーパス日本語学ワークショップ予稿集』, 63-72.
- 李楓 (2016) 「現代日本語漢語サ変動詞の構造と用法—コーパス研究の日本語教育への応用—」 神戸大学博士論文.
- 林炫情・李在鎬・宮岡弥生・柴崎秀子・趙垺熙 (2012) 「言語処理技術を利用した日本語学習者作文コーパスの開発」『日本文化学報』 56, 129-142.
- Bahns, J., & Eldaw, M. (1993). Should we teach EFL students' collocations? *System*, 21(1), 101-114.
- Granger, S. (1996). From CA to CIA and back: An integrated approach to computerized bilingual and learner corpora. In K. Aijmer, B. Altenberg, & M. Johansson (Eds.), *Language in contrast: Text-based cross-linguistics studies* (pp.37-51). Lund University Press.
- Granger, S. (1998). The computer learner corpus: A versatile new source of data for SLA research. In S. Granger (Ed.), *Learner English on computer* (pp.3-18). Addison Wesley Longman.
- Hussein, R. F. (1990). Collocations: The missing link in vocabulary acquisition amongst

- EFL learners. *Papers and Studies in Contrastive Linguistics*, 26, 123-136.
- Ishikawa, S. (2017). Learners' acquisition and use of L2 Japanese vocabulary: Influence of L1 backgrounds and L2 proficiency levels: A learner corpus-based analysis. 『第2言語としての日本語の習得研究』 20,10-27.
- Li, L. (2021). *A spoken Chinese corpus: Development, description, and application in L2 studies*. [Unpublished doctoral dissertation]. Massy University.
- Lin, M. H. (2021). Effects of data-driven learning on college students of different grammar proficiencies: A preliminary empirical assessment in EFL classes. *SAGE Open*. <https://doi.org/10.1177/21582440211029936>
- Martin, S. (1975). *A reference grammar of Japanese*. Yale University Press.
- McCarthy, M., McCarten, J., & Sandiford, H. (2014). *Touchstone Level 4 : Student's book*. Cambridge University Press.
- McEnery, T., & Xiao, R. (2004). *The Lancaster corpus of mandarin Chinese*. Lancaster University.

付録1 [第4章] 現代日本語重要漢語動名詞リスト (全200語)

#	VN	W	S	WS	R	Im	#	VN	W	S	WS	R	Im
1	利用	205.0	9.9	185.8	1.0	180.5	101	主張	25.2	0.2	22.8	0.8	18.6
2	実施	210.1	0.0	189.4	0.8	157.4	102	達成	25.0	1.5	22.7	0.8	18.2
3	使用	116.3	0.9	104.9	0.9	99.0	103	心配	23.8	14.7	22.9	0.8	18.1
4	対応	102.9	16.9	94.4	1.0	91.8	104	無視	24.6	3.3	22.5	0.8	18.0
5	紹介	98.5	24.3	91.2	1.0	87.4	105	活躍	22.0	10.5	20.9	0.9	18.0
6	確認	88.5	34.5	83.2	1.0	79.7	106	交換	21.9	15.0	21.2	0.8	17.9
7	増加	112.6	0.0	101.5	0.7	75.8	107	連絡	20.2	32.8	21.4	0.8	17.8
8	発生	89.4	6.2	81.2	0.9	75.5	108	観察	23.7	0.9	21.5	0.8	17.5
9	表示	94.8	3.9	85.8	0.9	73.7	109	成長	23.0	6.8	21.4	0.8	17.5
10	作成	92.9	0.8	83.8	0.9	73.2	110	分析	24.4	4.3	22.4	0.8	17.3
11	説明	78.9	23.7	73.4	1.0	70.3	111	充実	22.7	2.4	20.7	0.8	17.2
12	参加	82.4	12.2	75.4	0.9	69.1	112	強化	26.3	0.6	23.7	0.7	17.0
13	推進	110.0	0.4	99.2	0.7	67.0	113	対処	25.2	0.0	22.8	0.7	17.0
14	発表	68.2	14.3	62.9	1.0	60.3	114	継続	22.1	4.0	20.3	0.8	16.9
15	存在	69.2	2.4	62.6	0.9	58.2	115	掲載	22.0	2.6	20.1	0.8	16.7
16	理解	61.9	10.4	56.8	1.0	54.4	116	設立	22.9	0.4	20.7	0.8	16.3
17	表現	67.5	3.1	61.2	0.9	53.4	117	適用	24.2	0.0	21.9	0.7	16.3
18	期待	60.9	10.6	55.9	0.9	52.8	118	強調	22.0	0.4	19.9	0.8	16.2
19	活用	62.4	2.6	56.5	0.9	52.5	119	経験	20.0	8.6	18.9	0.9	16.2
20	注意	64.5	6.2	58.7	0.9	52.1	120	活動	19.4	5.3	18.0	0.9	15.7
21	設定	60.8	10.1	55.8	0.9	51.9	121	失敗	19.5	22.2	19.8	0.8	15.6
22	設置	66.1	3.1	59.9	0.9	51.5	122	支援	25.6	0.0	23.0	0.7	15.6
23	開催	67.6	1.8	61.1	0.8	49.9	123	想像	20.5	9.7	19.4	0.8	15.3
24	減少	68.8	0.0	62.0	0.8	48.9	124	努力	19.3	4.1	17.8	0.8	15.1
25	変化	56.8	1.5	51.3	0.9	48.4	125	発達	18.5	5.8	17.3	0.9	14.8
26	購入	66.7	2.3	60.3	0.8	48.4	126	提案	18.2	4.7	16.8	0.9	14.7
27	提供	59.7	7.2	54.6	0.9	48.4	127	追加	19.0	4.9	17.6	0.8	14.7
28	比較	57.1	5.3	52.0	0.9	48.4	128	発行	18.9	8.6	17.9	0.8	14.6
29	検討	57.1	2.9	51.7	0.9	45.9	129	取得	21.8	0.8	19.8	0.7	14.5
30	結婚	56.0	44.6	54.9	0.8	45.6	130	学習	20.1	5.2	18.7	0.8	14.2
31	選択	53.8	9.4	49.5	0.9	45.3	131	独立	17.1	4.5	15.9	0.9	14.1
32	指定	53.3	3.4	48.4	0.9	44.3	132	調整	17.5	6.5	16.4	0.9	14.1
33	展開	49.4	6.5	45.2	0.9	40.1	133	電話	18.9	42.4	21.2	0.7	14.0

34	判断	45.8	5.5	41.8	0.9	39.4	134	更新	17.0	10.3	16.3	0.9	14.0
35	入力	56.1	11.0	51.6	0.7	38.5	135	増大	22.4	0.0	20.1	0.7	13.9
36	用意	43.1	30.4	41.9	0.9	37.1	136	卒業	14.7	31.7	16.4	0.8	13.8
37	検索	49.6	7.2	45.4	0.8	35.2	137	加入	21.2	0.4	19.2	0.7	13.8
38	質問	51.2	4.4	46.6	0.7	34.8	138	推移	25.7	0.9	23.3	0.6	13.8
39	確保	45.8	3.4	41.6	0.8	34.6	139	吸収	17.3	5.6	16.1	0.8	13.6
40	工夫	45.2	1.4	40.9	0.8	34.6	140	代表	19.1	0.6	17.2	0.8	13.6
41	実現	44.4	0.5	40.0	0.9	34.4	141	貢献	18.9	4.5	17.5	0.8	13.6
42	評価	41.5	8.8	38.2	0.9	33.9	142	回答	21.3	0.0	19.2	0.7	13.5
43	計算	39.3	19.7	37.4	0.9	33.2	143	我慢	19.1	13.4	18.5	0.7	13.3
44	開始	44.8	0.0	40.4	0.8	33.0	144	調査	16.2	7.9	15.4	0.8	13.0
45	変更	41.5	3.2	37.7	0.9	33.0	145	発売	18.9	0.9	17.1	0.8	13.0
46	発見	40.4	7.0	37.1	0.9	32.9	146	一致	17.6	3.0	16.2	0.8	13.0
47	登録	37.8	22.6	36.3	0.9	32.7	147	接続	20.7	0.8	18.8	0.7	13.0
48	注目	42.0	0.6	37.9	0.9	32.5	148	派遣	18.3	6.6	17.1	0.7	12.8
49	拡大	42.3	2.4	38.3	0.8	32.4	149	希望	17.8	1.7	16.2	0.8	12.6
50	規定	55.5	0.0	50.0	0.6	32.4	150	分解	16.8	4.3	15.6	0.8	12.3
51	導入	39.7	1.7	35.9	0.9	32.4	151	保護	15.9	0.9	14.4	0.8	12.2
52	決定	41.7	3.8	37.9	0.8	32.1	152	出席	17.4	1.2	15.8	0.8	12.0
53	相談	39.5	21.1	37.7	0.8	31.3	153	分類	16.2	0.6	14.7	0.8	12.0
54	完成	39.0	4.8	35.6	0.9	31.1	154	指導	15.6	4.7	14.5	0.8	11.6
55	指摘	38.9	1.5	35.2	0.9	30.8	155	反応	14.3	13.5	14.2	0.8	11.4
56	勉強	35.4	40.7	36.0	0.8	30.4	156	納得	14.0	13.4	14.0	0.8	11.2
57	構成	38.5	0.3	34.8	0.9	29.9	157	悪化	16.2	1.4	14.7	0.8	11.2
58	提出	37.9	3.8	34.5	0.8	29.2	158	解消	15.3	0.9	13.9	0.8	11.2
59	移動	31.7	33.2	31.9	0.9	29.2	159	運転	13.9	28.1	15.3	0.7	11.0
60	改善	38.7	1.3	35.0	0.8	29.1	160	印刷	13.1	18.3	13.6	0.8	10.7
61	保存	39.5	11.9	36.8	0.8	29.0	161	進行	15.3	0.4	13.8	0.8	10.7
62	整備	39.5	2.1	35.8	0.8	27.2	162	相当	16.9	2.2	15.5	0.7	10.7
63	解決	33.5	3.8	30.6	0.9	27.1	163	準備	12.2	24.3	13.4	0.8	10.6
64	開発	32.8	4.3	30.0	0.9	27.0	164	経過	15.4	0.0	13.8	0.8	10.5
65	整理	32.0	10.4	29.9	0.9	26.9	165	違反	17.4	1.9	15.9	0.7	10.5
66	考慮	34.7	0.4	31.4	0.9	26.9	166	出品	22.9	0.0	20.6	0.5	10.5
67	低下	40.0	0.0	36.0	0.7	26.9	167	反対	15.3	1.6	14.0	0.7	10.4
68	安定	29.4	13.2	27.8	1.0	26.6	168	記入	16.8	2.0	15.4	0.7	10.4

69	促進	44.4	0.4	40.1	0.7	26.5	169	感染	19.3	0.2	17.4	0.6	10.3
70	維持	33.7	1.5	30.6	0.8	25.4	170	提示	14.0	0.7	12.7	0.8	10.2
71	把握	30.5	6.5	28.2	0.9	25.4	171	証明	14.9	7.5	14.1	0.7	10.2
72	登場	32.3	2.0	29.3	0.8	24.8	172	落札	22.5	0.0	20.3	0.5	10.0
73	上昇	35.1	0.2	31.6	0.8	24.5	173	到着	15.7	2.1	14.3	0.7	9.9
74	予想	32.8	3.4	29.9	0.8	24.4	174	防止	15.3	0.0	13.8	0.7	9.7
75	成立	31.1	3.4	28.4	0.9	24.4	175	放送	15.5	1.2	14.1	0.7	9.7
76	終了	30.4	1.3	27.5	0.9	24.0	176	否定	13.8	5.1	12.9	0.7	9.6
77	反映	31.4	5.2	28.8	0.8	23.9	177	演奏	16.4	3.4	15.1	0.6	9.6
78	成功	30.6	6.8	28.2	0.8	23.9	178	改正	16.5	0.0	14.9	0.6	9.4
79	形成	33.9	0.0	30.6	0.8	23.3	179	請求	14.4	1.5	13.1	0.7	9.4
80	発展	30.3	1.6	27.5	0.8	23.2	180	応援	14.3	7.2	13.6	0.7	9.4
81	販売	28.9	4.2	26.5	0.9	23.1	181	入院	12.3	19.1	13.0	0.7	9.3
82	記載	31.9	0.8	28.8	0.8	22.7	182	出発	14.5	1.5	13.2	0.7	9.3
83	報告	27.0	11.6	25.5	0.9	22.6	183	苦勞	13.0	8.2	12.5	0.7	9.1
84	採用	31.6	1.3	28.6	0.8	22.6	184	訪問	14.4	1.3	13.1	0.7	9.0
85	記録	26.9	2.9	24.6	0.9	22.5	185	通過	12.0	3.8	11.2	0.8	9.0
86	重視	29.4	0.9	26.6	0.8	22.1	186	死亡	13.5	0.3	12.2	0.7	8.9
87	発揮	29.2	2.1	26.5	0.8	22.0	187	収集	14.0	0.4	12.7	0.7	8.9
88	意識	26.0	15.1	24.9	0.9	21.7	188	表明	15.1	0.0	13.6	0.6	8.8
89	安心	25.4	8.4	23.7	0.9	21.7	189	注文	12.4	7.6	11.9	0.7	8.7
90	認識	25.3	4.8	23.3	0.9	21.6	190	策定	22.2	0.0	20.0	0.4	8.7
91	処理	26.4	1.5	24.0	0.9	21.6	191	支給	14.1	0.8	12.8	0.7	8.6
92	撮影	29.3	2.9	26.7	0.8	21.4	192	制定	15.7	0.4	14.2	0.6	8.6
93	配慮	28.4	3.1	25.9	0.8	21.1	193	就職	11.3	14.2	11.6	0.7	8.5
94	練習	28.2	28.6	28.2	0.7	21.1	194	批判	14.4	0.0	13.0	0.6	8.4
95	意味	27.0	0.8	24.4	0.9	21.0	195	感謝	13.2	1.8	12.1	0.7	8.3
96	削除	31.6	2.5	28.7	0.7	20.2	196	施行	14.4	0.0	12.9	0.6	8.2
97	実行	26.4	0.3	23.8	0.8	19.5	197	所属	11.5	3.9	10.7	0.8	8.1
98	生活	24.5	4.7	22.6	0.9	19.4	198	支配	14.2	0.3	12.8	0.6	8.1
99	該当	27.2	0.4	24.6	0.8	19.4	199	共有	10.7	7.0	10.4	0.8	8.0
100	集中	22.7	11.0	21.6	0.9	19.1	200	合格	11.8	1.2	10.7	0.7	7.9

付録2 [第10章]『三体』日本語版と中国語原典版における漢語動名詞

漢語動名詞	日本語	中国語
科学	科学境界	科学边界
科学	先生が最近、〈科学境界〉の会員と接触したかどうかです	最近你与‘科学边界’学会的成员有过接触
科学	「〈科学フロンティア〉は世界的に大きな影響力のある学術組織	‘科学边界’是一个在国际学术界很有影响的学术组织
科学	後者の数名は、基礎科学の高名な研究者だった。	其中有几位还是很有名望的科学家，而且是研究基础科学的。
科学	エリート科学者	科学界高层
科学	高名な科学者です	著名学者。
科学	〈科学境界〉	‘科学边界’学会
科学	〈科学フロンティア〉の現状	它的情况
科学	〈科学フロンティア〉	‘科学边界’
科学	〈科学フロンティア〉	‘科学边界’
科学	科学の方法	科学的方法
科学	科学の限界	科学的局限性
科学	科学が自然を解明する深さや精度に限界があるかどうか	科学对自然界的认知在深度和精度上是否存在一条底线
科学	そこから先へはもう進めないという壁が、科学にあるかどうか	底线之下是科学进入不了的
科学	〈科学フロンティア〉	‘科学边界’
科学	〈科学フロンティア〉	‘科学边界’
科学	〈科学フロンティア〉	‘科学边界’
科学	〈科学フロンティア〉	科学底线
科学	科学の限界	科学底线
科学	〈科学フロンティア〉	‘科学边界’
科学	〈科学フロンティア〉	‘科学边界’
科学	〈科学フロンティア〉	‘科学边界’
科学	エリート科学者	顶尖学者
科学	科学者の助け	知识界的帮助
科学	科学者たち	那些学者
科学	〈科学フロンティア〉	‘科学边界’
会議	きょうの午後、ある重要な会議があつて	下午有一个重要会议
会議	その会議に汪教授をお連れするよう、上から言われているのです	首长让我们来邀请您
会議	今回の会議に先生がいらっしゃらないと大問題になる。	这次会议上不能没有您
会議	会議を延期してでも先生を待つほかないんです	我们只有把会议延期等您了
会議	会議は大ホールで行われていたが	会议是在一个大厅里举行的
会議	臨時につくられた会議用テーブルの上にも書類やゴミが散らかっている	临时拼凑的会议桌上也是堆满了文件和杂物

会議	汪森同様にこの会議に招聘された専門家たちだと判明した	其他的人都是和他一样参加会议的专家学者
会議	さっさと会議を終わりにしてくれ、と。	快他妈的结束吧！
会議	この会議に連れてきたのは、こんな話をするためか？	让我来开会就是为这事儿？
会議	では会議をはじめる	会议开始
会議	会議に出席している同志全員のために、最新状況を共有しよう	首先把当前情况向与会的同志们介绍一下。
会議	この点は、会議に参加している専門家のみなさんにもご理解いただきたい。	这点也请到会的专家学者们谅解
会議	会議に出席している警察関係者数名が小声で叱責し	与会的另外几名警官都在低声制止史强
会議	会議終了後に、全員よく読んでおいてほしい	各位会后可以仔细看看
会議	会議に参加いただいてありがとうございました	感谢您能来参加这次会议
会議	会議で話していたことは、軍とどんな関係が？	刚才您说的那些，与军方有什么关系？
教授	「申し訳ありません、汪教授。こちらは史強隊長です」	“哦，对不起，汪教授。这是我们史强队长。”
教授	汪教授、おうかがいしたいのは、	“汪教授，我们是想了解一下
教授	汪教授、どうか誤解しないでください	汪教授，请别误会。
教授	「教授」と呼びかけ、丁重に挨拶してきたが	向汪森打招呼
教授	「教授、あんたの専門はたしか、一種の……新素材だっけ？」	“汪教授，你好像是在研究什么……新材料？”
教授	「汪教授。この名簿を見て、なにか気づかれることは？」	“汪教授，看到这份名单，您有什么印象？”
教授	丁儀博士、楊冬の遺書を教授に見せていただけますか。	丁仪博士，您能否把杨冬的遗书给汪教授看一下？
教授	教授、あなたは最近、彼らからのアプローチを受けている。	汪教授，他们最近与您有联系
教授	汪教授、彼らの誘いを受け入れて、〈科学フロンティア〉に入ってもらえませんか。	“汪教授，我们希望您接受邀请，加入‘科学边界’学会
教授	「汪教授、〈科学フロンティア〉は国際的なエリート科学者で構成される組織だ。	汪教授，‘科学边界’是一个由国际顶尖学者构成的组织
教授	とはいえ、教授の意思は尊重したい。もし同意されなくても、無理はない	不过我们也尊重您的意愿，如果不同意，我们也是能够理解的。”
教授	汪教授、わかりました。もう時間はとらせません。	好的，汪教授，那我们就不再耽误您的时间了
教授	「教授、きっと訊きたいことが山ほどあると思う」	“汪教授，你一定有很多问题要问。”
教授	教授、これまでに、人生が一変するような経験をしたことは？	汪教授，你的人生中有重大的变故吗？

出席	学者や専門家が何名か 出席します	要请几位学者和专家 参加
出席	出席者 のほとんどが疲れきった表情を浮かべ	与会者 大多神情疲惫
出席	出席者 の半数は軍人だった	与会者 有一半是军人
出席	新顔の汪森のために 出席者 の簡単な紹介があり	经过简单的介绍
出席	テーブルを囲む 出席者 の表情を見渡して	从 所有人的 脸上
出席	出席者 の中には、史強の姿もあった。	汪森看到了史强
出席	会議に 出席している 同志全員	与会的 同志们
出席	会議に 出席している 警察関係者数名	与会的 另外几名警官
組織	「〈科学フロンティア〉は世界的に大きな影響力のある学術 組織	‘科学边界’是一个在国际学术界很有影响的学术 组织
組織	合法的な学術 組織	合法的学术 组织
組織	ある 組織 を使ってべつの 組織 をつぶしたとか	用一帮 黑道势力 去收拾另一帮
組織	ある 組織 を使ってべつの 組織 をつぶしたとか	用一帮黑道势力去收拾 另一帮
組織	いったいこれがどういう 組織 なのか、いまだにわからない	我们连这个 机构 到底是干什么的都不知道。
組織	物理学の世界のゆるやかな国際的学術 組織 だ。	是一个松散的国际性学术 组织 。
組織	この 組織 は科学者のあいだでよく知られています。	不过这个 组织 在学术界很有名。
組織	〈科学フロンティア〉は国際的なエリート科学者で構成される 組織 だ。	‘科学边界’是一个由国际顶尖学者构成的 组织
研究	ナノテクノロジー 研究 センターの所長	超导中心领导
研究	後者の数名は、基礎科学の高名な 研究者 だった。	其中几位还是很有名望的 科学家 ，而且是研究基础科学的。
研究	三人とも、物理学の最前線で 研究している 高名な科学者です	我知道其中的三人，都是物理学最前沿的著名学者。
研究	ナノテクノロジー 研究 センター所長	纳米 研究 中心主任
研究	球電の 研究 過程	在对球状闪电的 研究 中
研究	これは物理学 研究 の最前線が大きな壁にぶつかっていることの表れです。	现代物理学的发展，似乎隐隐约约地触到了这条底线。
研究	かつて三菱電機の 研究室 でナノマテリアルの開発にたずさわっていた。	她曾在三菱电机的一家 实验室 从事纳米材料研究
研究	わたしの専門は応用 研究 なので、理論的な分野の知識レベルはたかが知れている。	我是搞应用 研究 的，在这方面水平不高，主要是听他们讨论和争论。
理解	軍人のほうが武装警察ならまだしも 理解 できるが、この二人は陸軍士官だった。	如果那两个军人是武警还算 正常 ，但这是两名陆军军官。
理解	この点は、会議に参加している専門家のみなさんにも ご理解 いただきたい。	这点也请到会的专家学者们 谅解

理解	われわれのような物理学の素人には、 そもそも 理解しえない ことかもしれない。	也可能对我们这些非专业人士根本就 说不清 。
理解	彼女のがいちばん簡潔で、たぶんいちばん 理解しやすい	她的最简短，也最有 概括性 。
理解	われわれの 理解する ところによれば	据我们 了解
理解	どうかご 理解いただきたい 。	希望您能 理解 。
理解	ようやく、帰っていいと言われたのだと 理解した 。	才 明白 他该离开了。
説明	自分のような新参者に対して、将軍がくわしい背景 説明 をするつもりがなさそうだという点だった。	首长好像并没有打算向他这样的新人 介绍 来龙去脉
説明	これ以上の 説明 資料はお渡しできない	我们不可能给你们介绍更多的 背景 资料。”
説明	プロジェクトのチーフ・エンジニアが彼女に随行し、下にも置かぬ態度でなにやら 説明している 。	因为总工程师陪同着她，在向她 介绍 着什么，一副很尊敬的样子。
説明	しかし、その理由をひとことで 説明することはむずかしい 。	但原因本身在这里很难 说清
説明	〈科学フロンティア〉の現状について、くわしく 説明していただきたい 」	能进一步 介绍 一下它的情况吗？
関係	公安 関係 の情報以外は、ほとんどなにも知らされていない」	除了公安 方面 的事务，几乎什么都不让他知道。
関係	魚の話？ ナノマテリアルの話？ いやいや、どちらとも 関係ない	鱼？ 纳米材料？ 不、不，与那些都没 关系 。
関係	会議に出席している警察 関係 者数名が小声で叱責し、史強を黙らせようとした。	与会的另外几名警官都在低声制止史强。
関係	世界に三台しかない、最新の高エネルギー粒子加速器の完成後、実験によって得られた結果に 関係 するもので、高度に専門的な話になるから、ここでは議論しない。	有一些相关的具体信息与世界上三台新的高能加速器建成后取得的实验结果 有关 ，很专业，我们就不在这里讨论了。
関係	わたしは〈科学フロンティア〉となんの 関係 ありませんが	我与‘科学边界’没有任何 直接联系
関係	「会議で話していたことは、軍とどんな 関係 が？」	“刚才您说的那些，与军方有什么 关系 ？”
関係	「戦争は軍と大いに 関係 があつて当然だろう」	“战争与军方当然有 关系 。”
担当	残る二名はどちらも CIA の 担当官 で、どうやらオブザーバーとして参加しているらしい。	另外两人居然是美国中央情报局的 官员 ，在这里的职务是什么观察员
担当	以前おれが 担当した 殺人事件では、女房が夫のアレをちょん切ったんだが	我 办过 一个杀人案，一个娘们儿把她丈夫的那玩意儿割下来了。
担当	CIA の 担当官 が流暢な標準語で言った。	一位中情局的 情报官员 用标准的普通话说了
担当	担当者 の名前	联系人 的姓名

存在	情報が等しく共有されるような軍事行動は 存在しない 。	没有任何一个军事行动是信息对等的
存在	風景すべてが、もともと彼女のために 存在していた ように見えた。	仿佛这一切本来就是为她而 存在
存在	これまでも、これから、物理学は 存在しない 。	物理学从来就没有 存在 过，将来也不会存在。
存在	「物理学が…… 存在しない ？」	物理学…… 不存在 ？
自殺	たてつづけに 自殺している	先后 自杀
自殺	彼女は最後の 自殺者 だ	她是最后一位 自杀者
自殺	彼らは全員、同じひとつの理由から 自殺した 。	促使他们 自杀 的原因是相同的。
自殺	自殺した 学者のほとんどが〈科学フロンティア〉となんらかのつながりを持ち、そのうち数名は実際に会員だった。	这些 自杀 的学者大部分与‘科学边界’有过联系，有些还是它的成员。
自殺	自殺した 学者先生は、いまでももう、多すぎるくらいたくさんいる。	已经有这么多书呆子 寻了短见
自殺	科学者たちが 自殺した 原因はまだわかっていないが	那些学者 自杀 的原因还没有搞清楚。
自殺	すくなくともおれは、くだらねえ話を吹き込まれて 自殺したり なんかしないね。	我总不至于听人家忽悠几句就去 寻短见 。
自殺	わたしなら 自殺し かねない？	那你是说我会？
司令	そんなやつがどうして作戦 司令 センターに入れたんだ？」	“这种人怎么能进作战中心？”
司令	作戦 司令 センターとはいったいなんだろう？	作战中心？那是什么？
司令	ここがあのだ士官の言う作戦 司令 センターなのかどうかはわからないが	汪淼不知道这是否就是那名军官所说的作战中心
司令	警察は作戦 司令 センターの設立当初から関わっている。	警方从作战中心成立之初就一直参与
加速	高エネルギー粒子 加速器 プロジェクト“中華二号”	“中华二号”高能 加速器 项目
加速	二百億元を投じたこの 加速器 が完成したら	这个投资二百亿的 加速器 建成后
加速	良湘の高エネルギー粒子 加速器 建設現場で、丁儀と会ったことがある。	汪淼这才想起自己在良湘的高能 加速器 工地中也见过丁仪
加速	最新の高エネルギー粒子 加速器	新的高能 加速器
伝導	汪淼は、高エネルギー粒子加速器プロジェクト“中華二号”で、超 伝導 部門のナノスケール・コンポーネントの責任者をつとめていた。	汪淼是“中华二号”高能加速器项目纳米构件部分的负责人。
伝導	構図の中心となる要素は、彼らがいままさに建設工事を進めている超 伝導 コイルだった。	构图的主体就是他们正在安装的 超导 线圈

伝導	工事用のひさしの陰になっているおかげで、超 伝導 コイルの冷酷で無骨な質感がさらに強調されている。	金属巨怪淹没在临时施工顶棚的阴影里，更透出那冷峻、粗糙的质感
想像	想像 の中で、汪森は、記憶に焼きついた彼女の姿を谷の奥に配置した。	汪森在 想像 中把那个萦绕在他脑海中的身影叠印到画面上，让她位于山谷的深处，看上去很小很小
想像	汪森は 想像 の中で、自分が撮ったほかの写真にも彼女の姿を置き、あるときは写真の空に彼女の二つの瞳を重ねてみた。	他又依次在 想像 中将那个身影叠印到另外几幅作品上，有时还将她那双眼睛作为照片上空旷苍穹的背景
想像	すると、その写真もたちまち命を吹き込まれて、汪森が 想像した こともなかった美を獲得した。	那些画面也都苏醒过来，展现出一种汪森从未 想像 过的美。
接触	先生が最近、〈科学境界〉の会員と 接触した かどうかです。	最近你与‘科学边界’学会的成员有过 接触 ，是吧？
接触	合法的な学術組織に 接触して なにが悪い？	这样一个合法的学术组织，我怎么就不能 接触 了呢？
接触	そこと 接触する のが悪いなんて言っていないだろ？	我们说不让你 接触 了吗？
接触	〈科学フロンティア〉との 接触 は、申玉菲と知り合ったのがはじまりです。	我与‘科学边界’的 接触 是从认识申玉菲开始的
実験	いちばん最初に実施されるのは、彼女が提唱する超弦理論モデルの検証 実験 になる。	第一次运行的可能就是验证她提出的一个超弦模型。
実験	世界に三台しかない、最新の高エネルギー粒子加速器の完成後、 実験 によって得られた結果に関するもので	有一些相关的具体信息与世界上三台新的高能加速器建成后取得的 实验 结果有关
実験	実験 で検証することも、ますますむずかしくなっている。	实验 验证也越来越难
行動	人質の身の危険もかえりみずに勝手な 行動 を起こし	他不顾人质的死活擅自 行动
行動	情報が等しく共有されるような軍事 行動 は存在しない。	没有任何一个军事 行动 是信息对等的
行動	この 行動 が無責任なのはわかっています。	我知道自己 这样做 是不负责任的
工事	構図の中心となる要素は、彼らがいままさに建設 工事 を進めている超伝導コイルだった。	构图的主体就是他们正在 安装 的超导线圈
工事	そのコイルは二、三階分の高さがあり、 工事 はまだ半分しか終わっていない。	那线圈有三层楼高， 安装 到一半
工事	工事 用のひさしの陰になっているおかげで、超伝導コイルの冷酷で無骨な質感がさらに強調されている。	金属巨怪淹没在临时 施工 顶棚的阴影里，更透出那冷峻、粗糙的质感
共有	まずは、会議に出席している同志全員のために、最新状況を 共有 しよう	首先把当前情况向与会的同志们 介绍 一下。

共有	情報は上下の別なく均等に共有させていただきます	信息 对等 ！
共有	情報が等しく共有されるような軍事行動は存在しない。	没有任何一个军事行动是信息 对等 的
連絡	ナノテクノロジー研究センターの所長には上から連絡が行っています。	首长已经向超导中心领导打了 招呼 。
連絡	四名のうち二名は軍人で、それぞれ米国の空軍大佐と英国の陸軍大佐で、ともに NATO 軍の連絡将校だという。	其中的两个人也是军人，分别是美军空军上校和英国陆军上校，职务是北约 联络员
乱暴	汪森は、史強が常偉思のような階級の高い相手に対しても 乱暴 な口調で話しかけたことに驚いたが、少将の返答はさらに驚きだった。	史强敢对常伟思这样级别的首长这么说话，汪森有些吃惊，而后者的反击更犀利。
乱暴	全身から煙草のにおいがするうえ、話し方が 乱暴 で、しかも声が大きい。汪森がもっとも嫌いなタイプの人間だった。	浑身烟味，说话 粗声大嗓 ，是最令汪森反感的那类人
返事	汪森の 返事 も待たず、となりの若い警官に指示して警察手帳を提示させた。	不等汪森 回答 ，他就向旁边那位年轻人示意了一下，后者向汪森出示了警官证
返事	汪森は 返事 をしなかったが	见汪森没有 反应
反応	まるで、写真の中の世界が、彼女のちっぽけな姿に気づいて、それに 反応 したかのようだった。	仿佛照片中的世界认出了那个身影
反応	顔を伏せたまま沈黙していたが、しばらくしてようやく 反応 し、テーブル越しに、白い封筒を汪森にさしだした。	那个一直低着头沉默的人半天才有所 反应 ，掏出一个白色的信封隔着桌子递给汪森
発言	そのついでとばかりに挙手して 発言 を求め、常偉思が許可するより早く口を開いた。	他抓住这个机会举手要求 发言 ，没等常伟思表态就大声说道
発言	警察を代表して 発言 しているつもりか？	你能代表警方吗？
洞察	汪森はあっさり考えを見抜かれたことに動揺しつつも、史強の持つ鋭い 洞察 力に感心した。	在迷惑的同时，汪森对史强的 观察 力留下了些印象。
洞察	だが、 洞察 力はたしかにずば抜けている。	但确实是个狠角色。
戦闘	地球上のあらゆる 戦闘 地域の中でも、	“在全球各 战区
戦闘	“ 戦闘 地域”というただならぬ言葉に、汪森は困惑した。	“ 战区 ”这个不寻常的术语令汪森迷惑
質問	あなたがたの 質問 に答える必要はない	我没必要回答你们的 问题
質問	なんとかそれを押さえつけて 質問 に答えた。	但他还是克制着回答了这个问题
参加	残る二名はどちらも CIA の担当官で、どうやらオブザーバーとして 参加 しているらしい。	另外两人居然是美国中央情报局的官员，在这里的职务是什么观察员。
参加	この点は、会議に 参加 している専門家のみなさんにもご理解いただきたい。	这点也请 到会 的专家学者们谅解

参加	入会したら、議論に参加することが一種の義務になる。	但那样的话，参加这样的研讨会就变成了一项义务
参加	会議に参加いただきありがとうございました」	谢谢您能来参加这次会议
作業	作業着の襟もとにのぞく白く美しい首筋を照らしている	照着工作服领口上白皙的脖颈
作業	芸術の世界から現実に戻った汪森は、その女性が一般の作業員ではないことに気づいた。	汪森从艺术中回到现实，发现那位女性不是一般的工作人员
交流	さまざまな学会や物理学者同士の交流を通じて生まれた	这个组织就是在这一年国际物理学界频繁的学术会议和交流活动中逐渐诞生的
交流	それは合法的な学術交流によるものだ	也是通过合法的学术交流途径。
交流	彼らとの交流で視野が広がるような気がして、だんだん興味が湧いてきました。	自己感觉同他们交流，思想开阔了许多，渐渐变得很投入了
検証	彼女が提唱する超弦理論モデルの検証実験になる。	第一次运行的可能就是验证她提出的一个超弦模型。
検証	実験で検証することも、ますますむずかしくなっている。	实验验证也越来越难
建設	構図の中心となる要素は、彼らがいままさに建設工事を進めている超伝導コイルだった。	构图的主体就是他们正在安装的超导线圈
建設	良湘の高エネルギー粒子加速器建設現場で、丁儀と会ったことがある。	汪森这才想起自己在良湘的高能加速器工地中也见过丁仪
経験	おまえをここに呼んだのは、都市警備の経験を買ったからだ。	我调你来，是看重你在城市警务方面的经验
経験	きっと楊冬は、子どものころになにかトラウマになるようなつらい経験をして、そのせいで自閉的な性格になったんじゃないかな	我觉得她童年一定有什么不寻常的经历，以致得了自闭症。
経験	史強はあんな気性の男だが、経験豊富な警察官でね。	史强就那种脾气，其实他是一名很有经验的刑警和反恐专家。
経験	教授、これまでに、人生が一変するような経験をしたことは？	汪教授，你的人生中有重大的变故吗？
経験	その出来事からあと、世界がそれまでとはまったく違う場所になってしまうような経験	这变故突然完全改变了你的生活，对你来说，世界在一夜之间变得完全不同。
議論	すなわち、もう議論は出つくした。さっさと会議を終わりにしてくれ、と。	我们已经尽力了，快他妈的结束吧！
議論	高度に専門的な話になるから、ここでは議論しない。	很专业，我们就不在这里讨论了。
議論	とはいえ、議論のテーマは純粹に理論的なものです。	但讨论的话题仅限于此，都是天马行空的纯理论，没有什么特别的。
議論	入会したら、議論に参加することが一種の義務になる。	但那样的话，参加这样的研讨会就变成了一项义务
感謝	このときばかりは、汪森は史強に感謝した。	刹那间，汪森居然对大史有了那么一丝感激。

感謝	さきほどの感謝の念は消え失せ、汪森はまた、史強に不快感を抱いたが、なんとかそれを押さえつけて質問に答えた。	大史又令汪森像吃了苍蝇一样难受，刚才那一丝感激消失得无影无踪。
完成	二百億円を投じたこの加速器が完成したら	这个投资二百亿的加速器建成后
完成	世界に三台しかない、最新の高エネルギー粒子加速器の完成後、実験によって得られた結果に関係するもので	有一些相关的具体信息与世界上三台新的高能加速器建成后取得的实验结果有关
確認	それを確認しようとしている。	试图确定
確認	しかし、新興宗教流のマインドコントロールや、違法薬物の使用などの犯罪的行為は確認できなかった。	但没有发现诸如邪教精神控制或使用违禁药物这类的犯罪行为。
会話	会話の内容	谈话内容
影響	〈科学フロンティア〉は世界的に大きな影響力のある学術組織で	‘科学边界’是一个在国际学术界很有影响的学术组织
影響	〈科学フロンティア〉が彼ら物理学者に影響を与えていたとしても、それは合法的な学術交流によるものだ。	即使‘科学边界’对那些学者产生过影响，也是通过合法的学术交流途径。
挨拶	「教授」と呼びかけ、丁寧に挨拶してきたが、わざとらしい作り笑いが癪に障った。	向汪森打招呼，但那一脸傻笑让汪森愉快不起来。
挨拶	それに常少将は、短い挨拶の中で、二度”同志”と言った。	在常将军这简短的开场白中，他两次提到了“同志们”
冷凍	冷凍庫に入かみそりってたティラピアさ。	冰箱里冷冻的罗非鱼！
利用	聞いてるよ。すごい強度なんだろう。犯罪に利用できると思うか？	我听说过，那玩意儿强度很高，不会被用于犯罪吧？
要望	要望があります。	我提个要求
予定	「午後は予定がある」	“我下午很忙。”
問答	「なにが目的なんだ！」汪森は怒りの声をあげ、近所の家から人が出てくるほどの押し問答になった。	“你要干什么！”汪森愤怒地质问，这争吵引得邻居们也探出头来，想看看出了什么事。
魅了	眼前に現れた光景に、汪森は魅了された。	他突然被眼前的一幅构图吸引了。
返答	少将の返答はさらに驚きだった。	而后者的反击更犀利。
服用	おとといの晩、睡眠薬を大量に服用して死んだ。	前天晚上，服过量安眠药。
武装	軍人のほうが武装警察ならまだしも理解できるが、この二人は陸軍士官だった。	如果那两个军人是武警还算正常，但这是两名陆军军官。
反対	きのうの無礼な態度とは反対に	他倒是一反昨天的粗鲁
反対	おれは最初から、このプランに反対だったからな。	这样挺好，我压根儿就不同意这个方案。
判明	新顔の汪森のために出席者の簡単な紹介があり、残りのメンバーは、警察側	经过简单的介绍，他知道还有少部分警方人员，其他的人都是和他一样参加会

	の人間と、汪森同様にこの会議に招聘された専門家たちだと 判明した 。	议的专家学者，其中几位还是很有名望的科学家，而且是研究基础科学的。
判別	ジョークのつもりかどうか 判別 できなかった。	汪森 看不出 他是不是开玩笑。
発展	現代物理学の 発展 は	现代物理学的 发展
発見	この物理学者は、球電の研究過程でマクロ原子を 発見 し、その名を世界に轟かせた。	这名物理学家因在对球状闪电的研究中 发现 宏原子而闻名于世。
配置	想像の中で、汪森は、記憶に焼きついた彼女の姿を谷の奥に 配置した 。	汪森在想象中把那个萦绕在他脑海中的身影叠印到画面上，让她 位于 山谷的深处，看上去很小很小
排除	しかもあんたたちは、警察を 排除する つもりだ。	而且，你们正在把警方 排挤 出去
納得	この元軍人を常偉思が連れてきた理由が、いまようやく 納得 できた。	现在，汪森知道常伟思把他以前的这个战士调来是 有道理的
認定	われわれが調査すべき第一の対象は、〈科学境界〉だ。ユネスコは二〇〇五年を世界物理年に 認定した 。	我们首先要调查的是‘科学边界’学会。联合国教科文组织将2005年 定为 世界物理年
動揺	汪森はあっさり考えを見抜かれたことに 動揺 しつつも、史強の持つ鋭い洞察力に感心した。	在 迷惑 的同时，汪森对史强的观察力留下了些印象。
電話	「住所と 電話 番号を渡しとけ。おい、おまえ、午後に顔を出すんだぞ」と汪森に向かって言った。	“给他地址和 电话 ，下午去走一趟。”
徹夜	どうやらゆうべは 徹夜 だったらしいことがうかがえた。	好像 熬了一夜 。
提唱	彼女が 提唱する 超弦理論モデルの検証実験になる。	验证她 提出 的一个超弦模型。
提示	となりの若い警官に指示して警察手帳を 提示 させた。	他就向旁边那位年轻人示意了一下，后者向汪森 出示 了警官证
提供	それに関して、最新の情報を 提供 していただけるでしょうか	我们想 了解 一些情况。
提供	ただ情報を 提供 してくれればいい。われわれには、いまのところ、それ以外にルートがない	只是 提供 一些情况，我们也没有别的渠道。
提案	少将、要望があります。以前も 提案した とおり、情報は上下の別なく均等に共有させていただきたい	首长，我提个要求，以前 提过 的——信息对等！
追放	悪業の報いで何ヵ月も停職になって、公安部隊から 追放される 寸前だったくせに。	你因为自己的恶劣行为已被停职好几个月了，马上就要被 清除出 公安队伍。
沈黙	呼びかけられた人物は、それまでと同様、顔を伏せたまま 沈黙 していたが、しばらくしてようやく反応し、テーブル越しに、白い封筒を汪森にさしだした。	那个一直低着头 沉默 的人半天才有所反应，掏出一个白色的信封隔着桌子递给汪森

調査	われわれが調査すべき第一の対象は、〈科学境界〉だ。	我们首先要调查的是‘科学边界’学会。
調査	それを調査するとなれば、きわめて複雑で、注意を要する問題になる。	对它的调查是一件极其复杂和敏感的事
注意	ナノテクノロジー研究センター所長の声に、汪森はびくっとしたが、所長が注意した相手は汪森ではなく、若いエンジニアのひとりだった。	汪森吓了一跳，然后发现纳米研究中心主任说的不是他，而是一名年轻工程师，后者也和自己一样呆呆地望着那个身影。
注意	それを調査するとなれば、きわめて複雑で、注意を要する問題になる。	对它的调查是一件极其复杂和敏感的事
着火	煙草をくわえてライターで着火し、顔を上げようとしめない。	况且那人同时还在点烟，头都不抬一下。
代表	警察を代表して発言しているつもりか？	你能代表警方吗？
体现	大工業時代のゴミの山さながら、非人間的な技術の冷酷さと鋼鉄の野蛮さを体现している。	仿佛一堆大工业时代的垃圾，显示出一种非人性的技术的冷酷和钢铁的野蛮。
戦争	戦時？どこに戦争がある？	战争时期？战争在哪儿？
戦争	「戦争は軍と大いに関係があって当然だろう」	“战争与军方当然有关系。”
戦争	しかし、その戦争はどこに？	可战争在哪儿？
設立	警察は作戦司令センターの設立当初から関わっている。	警方从作战中心成立之初就一直参与
接続	電源コードと接続ケーブルがごちゃごちゃにからまっていた。	电线和网线纠缠着散在地上
制限	彼の任務の範囲は厳しく制限されている。	对他限制挺严
随行	プロジェクトのチーフ・エンジニアが彼女に随行し、下にも置かぬ態度でなにやら説明している。	因为总工程师陪同着她，在向她介绍着什么，一副很尊敬的样子。
睡眠	睡眠薬を大量に服用して死んだ。	服过量安眠药。
進行	議事を進行しているのは常偉思という陸軍少将で、出席者の半数は軍人だった。	主持会议的是一位叫常伟思的陆军少将，与会者有一半是军人。
上下	情報は上下の別なく均等に共有させていただきたい	信息对等！
紹介	新顔の汪森のために出席者の簡単な紹介があり	经过简单的介绍
招聘	汪森同様にこの会議に招聘された専門家たちだと判明した。	其他的人都是和他一样参加会议的专家学者
承知	それは承知しています。ナノテクノロジー研究センターの所長には上から連絡が行っています。	这我们清楚，首长已经向超导中心领导打了招呼。
署名	署名すら残さず、楊冬は死んでしまった。	连签字都没有，她就走了。
従事	ひとつだけははっきりしているのは、ここで業務に従事する人々が、ほかのこ	有一点他可以肯定：这里在处理的事情，已经让人们顾不上其他了。

	とをかえりみる余裕がないほど忙しいということだった。	
終了	会議 終了 後に、全員よく読んでおいてほしい	各位会后可以仔细看看
収納	ラックに 収納する 手間を惜しんでサーバの上に載せられたルータがいくつもあり、プリンタ用紙もあちこちに散乱している。	一大摞网络交换机没有 安在 机架内，而是随手堆放在服务器上
取材	でなきゃ、どうしてメディアの 取材 に応じないんです？	她这人是不是有什么心理障碍，要不怎么会从来不上 媒体 呢？
実施	二百億円を投じたこの加速器が完成したら、いちばん最初に 実施される のは、彼女が提唱する超弦理論モデルの検証実験になる。	这个投资二百亿的加速器建成后，第一次 运行 的可能就是验证她提出的一个超弦模型。
叱責	会議に出席している警察関係者数名が小声で 叱責し 、史強を黙らせようとした。	与会的另外几名警官都在低声 制止 史強。
自嘲	汪淼は、冗談交じりの憶測を 自嘲 気味に口にした。	汪淼说，多少有一些 酸葡萄 心理。
示唆	現代物理学の発展は、すでにこういう境界線に触れたことを 示唆している ようですが	现代物理学的发展，似乎隐隐约约地触到了这条底线。
施設	番地だけで、団体名の表札が出ていないことから、ここが軍の 施設 で、警察のものではないことがわかった。	从那只有门牌号码没有单位名牌的大门，汪淼知道这里是军方而不是警方的 地盘 。
指名	少将がじきじきに 指名した んだ。	首长 点名 要他
指示	汪淼の返事も待たず、となりの若い警官に 指示して 警察手帳を提示させた。そして、煙草に火がつくなり、部屋へ入ろうとした。	不等汪淼回答，他就向旁边那位年轻人 示意 了一下，后者向汪淼出示了警官证，他点完烟后就直接向屋里闯。
思考	そこで、新たな 思考 のルートを切り開こうとしているのが〈科学フロンティア〉です。	‘科学边界’试图开辟一条新的 思维 途径
始末	去年なんか、拷問で容疑者を病院送りにする 始末 だ。それで停職を食らってる…」	去年又搞刑讯逼供，使一名嫌疑人致残，因此被停职了……”
使用	しかし、新興宗教流のマインドコントロールや、違法薬物の 使用 などの犯罪的行為は確認できなかった。	但没有发现诸如邪教精神控制或 使用 违法药物这类的犯罪行为。
散乱	ラックに収納する手間を惜しんでサーバの上に載せられたルータがいくつもあり、プリンタ用紙もあちこちに 散乱している 。	一大摞网络交换机没有安在机架内，而是 随手堆放 在服务器上
散歩	芝生の上で犬を 散歩させる 人がいれば、遊んでいる子どもたちの姿も	草坪上有人在 遛狗 ，还有几个孩子在玩耍
惨殺	案の定、一家三人が犯人に 惨殺され た。	结果导致一家三口 惨死 在罪犯手中

撮影	風景写真マニアの汪森は、 撮影した ときの構図の美しさという観点から現実の風景を見る癖があった。	作为一名风景摄影爱好者，现实的场景经常在他眼中形成一幅幅艺术构图。
混乱	汪森はその 混乱 ぶりに驚いた。	汪森一进去就对这里的 纷乱 吃惊不小。
困惑	“戦闘地域、”というただならぬ言葉に、汪森は 困惑した 。	“战区”这个不寻常的术语令汪森 迷惑
拷問	去年なんか、 拷問 で容疑者を病院送りにする始末だ。	去年又搞 刑讯逼供 ，使一名嫌疑人致残
攻撃	最近、敵の 攻撃 は明らかに激しさを増している。目標はあいかわらず、エリート科学者だ。	最近，敌人的 攻击 明显加强了，目标仍是科学界高层
好感	汪森ははじめ、警官二人に 好感 が持てなかった。	汪森第一眼就对来找他的警察没有 好感 。
交換	それに、もし文字資料やメールアドレスを 交換 していれば――	如果 交换 过文字资料或电子邮件的话…
誤解	汪教授、どうか 誤解 しないでください	汪教授，请别 误会 。
誤解	誤解 してもらっては困る。	你 误会 了
結論	すべての証拠が示す 結論 はひとつ。	一切的一切都导向这样一个 结果
警備	おまえをここに呼んだのは、都市 警備 の経験を買ったからだ。	我调你来，是看重你在城市 警务 方面的经验
禁煙	「うちは 禁煙 なので」	“请不要在我家里抽烟。”
強調	工事用のひさしの陰になっているおかげで、超伝導コイルの冷酷で無骨な質感がさらに 強調 されている。	金属巨怪淹没在临时施工顶棚的阴影里， 更 透出那冷峻、粗糙的质感
共通	テーブルを囲む出席者の表情を見渡して、汪森は、 共通した 心の叫びを読みとった。	从所有人的脸上，汪森都读出了一句话
許可	常偉思が 許可 するより早く口を開いた。	没等常伟思 表态 就大声说道
挙手	そのついでとばかりに 挙手 して発言を求め	他抓住这个机会 举手 要求发言
休憩	その日の午後、良湘の現場で短い 休憩 をとっていたとき、眼前に現れた光景に、汪森は魅了された。	那天下午在良湘的工地上，一次短暂的 休息 中，他突然被眼前的一幅构图吸引了。
記憶	想像の中で、汪森は、 記憶 に焼きついた彼女の姿を谷の奥に配置した。	汪森在想象中把那个萦绕在他 脑海 中的身影叠印到画面上，让她位于山谷的深处，看上去很小很小
獲得	すると、その写真もたちまち命を吹き込まれて、汪森が想像したこともなかった美を 獲得 した。	那些画面也都苏醒过来， 展现 出一种汪森从未想象过的美。
解明	科学が自然を 解明 する深さや精度に限界があるかどうか	试图确定科学对自然界的 认知 在深度和精度上是否存在一条底线
憶測	冗談交じりの 憶測 を自嘲気味に口にした。	多少有一些酸葡萄心理。
延期	会議を 延期 しても先生を待つほかないんです	我们只有把会议 延期 等您了。

印刷	大きなフォントで印刷されているリストは、中国語と英語の両方で姓名が記されていたが、即席でつくられたもののように見えた。	是用大号字打印的，名单显然拟得很仓促，中文和英文姓名都有。
一覧	汪淼は書類のいちばん上にあった一覧を手にとった。	汪淼抽出文件中最上面的那张纸，
一喝	「大史！」常偉思が大きな声で史強を一喝した。	“大史！”常伟思厉声制止了他。
意味	「どういう意味だ？」	“什么意思？”
意識	彼の意識の中では、その二文字は色さえ違って見えた。	在他的潜意识中，那两个字的色彩与上面几行字是不同的。

付録3 [第11章] 調査フォーム(ベータ版)

关于汉语动名词的调查问卷

【背景调查】

1. 姓名
2. 邮箱地址
3. 最高学历

选项	小计	比例
博士	0	0%
硕士	3	75%
本科	1	25%
高中	0	0%
初中	0	0%
小学及以下	0	0%
本题有效填写人次	4	

4. 专业（本科/硕士/博士）
5. 您学习日语学了多少年了？

选项	小计	比例
1年以内	0	0%
1~2年	0	0%
2~3年	0	0%
3~4年	0	0%
4~5年	0	0%
5~6年	2	50%
6年以上	2	50%
本题有效填写人次	4	

6. 您【主要】是在哪里学习的日语？

选项	小计	比例
初、高中	0	0%
大学	2	50%
语言学校（包括各种商业培训机构）	0	0%
自学	2	50%
其他	0	0%
本题有效填写人次	4	

7. 您在学习日语的时候，主要使用的教科书是什么？

选项	小计	比例
中日交流标准日本语	2	50%
みんなの日本語	0	0%
综合日语	0	0%
新编日语	0	0%
基础日语综合教程	0	0%
いろどり 生活の日本語	0	0%
其他	3	75%
本题有效填写人次	4	

8. 您的日语能力考试（JLPT）的级别是？

选项	小计	比例
我没有考过 JLPT	0	0%
N5	0	0%
N4	0	0%

N3	0	0%
N2	0	0%
N1	4	100%
本题有效填写人次	4	

9. 您有过在日留学的经历吗？如果有的话，您留学了多少个月？

10. 您有过在日生活的经历吗？如果有的话，您在日生活了多少个月？

11. 日语学习有各种各样的方法。您在学习日语的时候，通常在多大程度上使用以下的方法？请选择对应数字。

(1) 使用日语教科书或辅助教材学习日语。

选项	小计	比例
我完全不使用	0	0%
我不怎么使用	2	50%
我也不清楚	0	0%
我有时候会使用	1	25%
我经常使用	1	25%
本题有效填写人次	4	

(2) 使用词典（包括电子词典或电子设备上的词典应用软件）学习日语。

选项	小计	比例
我完全不使用	0	0%
我不怎么使用	0	0%
我也不清楚	1	25%
我有时候会使用	0	0%
我经常使用	3	75%
本题有效填写人次	4	

如果您使用词典（包括电子词典或电子设备上的词典应用软件）学习日语，请写出您所使用的词典的名称。

（3）通过阅读日语的小说、报纸、杂志学习日语。

选项	小计	比例
我完全不使用	0	0%
我不怎么使用	1	25%
我也不清楚	0	0%
我有时候会使用	2	50%
我经常使用	1	25%
本题有效填写人次	4	

（4）通过观看日本的电视节目、动画片、电视剧、电影等学习日语。

选项	小计	比例
我完全不使用	0	0%
我不怎么使用	0	0%
我也不清楚	2	50%
我有时候会使用	0	0%
我经常使用	2	50%
本题有效填写人次	4	

（5）通过写日记或作文等学习日语。

选项	小计	比例
我完全不使用	2	50%
我不怎么使用	1	25%
我也不清楚	1	25%

我有时候会使用	0	0%
我经常使用	0	0%
本题有效填写人次	4	

(6) 通过【使用社交软件】用日语表达自己的意见、感想，或与日本人聊天学习日语。

选项	小计	比例
我完全不使用	1	25%
我不怎么使用	0	0%
我也不清楚	0	0%
我有时候会使用	3	75%
我经常使用	0	0%
本题有效填写人次	4	

(7) 通过【面对面】与日本人老师或朋友聊天学习日语。

选项	小计	比例
我完全不使用	0	0%
我不怎么使用	2	50%
我也不清楚	0	0%
我有时候会使用	2	50%
我经常使用	0	0%
本题有效填写人次	4	

(8) 通过使用 chatGPT 等 AI 工具学习日语。

选项	小计	比例
我完全不使用	2	50%
我不怎么使用	2	50%

我也不清楚	0	0%
我有时候会使用	0	0%
我经常使用	0	0%
本题有效填写人次	4	

(9) 如果您还使用过其他的方法学习日语，请写出这种方法。

(10) 如果您还使用了其他方法，您在多大程度上使用这种方法？

选项	小计	比例
我完全不使用	1	25%
我不怎么使用	0	0%
我也不清楚	0	0%
我有时候会使用	1	25%
我经常使用	0	0%
(空)	2	50%
本题有效填写人次	4	

【汉语动名词相关知识调查】

请填写现在的时间（格式：__时__分__秒）

现代日语中有一类汉字词，像「努力」「勉強」一样，既可以单独作为名词使用，又可以在后面附加「する」作为动词使用（「努力する」「勉強する」）。这样的汉字词可以被称为“汉语动名词”。请回答以下关于汉语动名词的题目。

1. 下列词中，您认为在日语中存在的词请选○，在日语中不存在的词请选 x。

(1) 永遠する

选项	小计	比例

○	0	0%
x	4	100%
本题有效填写人次	4	

(2) 需要する

选项	小计	比例
○	2	50%
x	2	50%
本题有效填写人次	4	

(3) 掃除する

选项	小计	比例
○	4	100%
x	0	0%
本题有效填写人次	4	

(4) 革命する

选项	小计	比例
○	2	50%
x	2	50%
本题有效填写人次	4	

(5) 修訂する

选项	小计	比例
○	3	75%
x	1	25%

本题有效填写人次	4	

(6) 集中する

选项	小计	比例
○	4	100%
x	0	0%
本题有效填写人次	4	

(7) 問題する

选项	小计	比例
○	0	0%
x	4	100%
本题有效填写人次	4	

(8) 対応する

选项	小计	比例
○	4	100%
x	0	0%
本题有效填写人次	4	

(9) 意味する

选项	小计	比例
○	3	75%
x	1	25%
本题有效填写人次	4	

(10) 適切する

选项	小计	比例
○	0	0%
x	4	100%
本题有效填写人次	4	

(11) 習慣する

选项	小计	比例
○	0	0%
x	4	100%
本题有效填写人次	4	

(12) 相当する

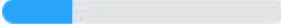
选项	小计	比例
○	4	100%
x	0	0%
本题有效填写人次	4	

(13) 生活する

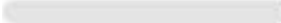
选项	小计	比例
○	4	100%
x	0	0%
本题有效填写人次	4	

(14) 低下する

选项	小计	比例
○	3	75%

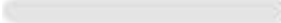
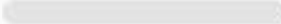
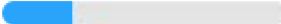
x	1	 25%
本题有效填写人次	4	

(15) 複雑する

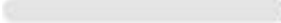
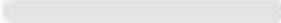
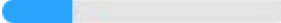
选项	小计	比例
○	0	 0%
x	4	 100%
本题有效填写人次	4	

2. 在现代日语中，汉语动名词的使用频率有很大差异。您认为下列词在现在的日语中使用得有多频繁，请根据您的判断进行选择。

(1) 使用する

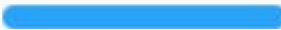
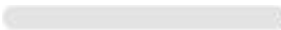
选项	小计	比例
使用得很少	0	 0%
使用得比较少	0	 0%
难以判断	1	 25%
使用得比较频繁	0	 0%
使用得很频繁	3	 75%
本题有效填写人次	4	

(2) 浸透する

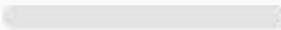
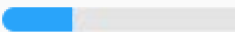
选项	小计	比例
使用得很少	0	 0%
使用得比较少	0	 0%
难以判断	1	 25%

使用得比较频繁	2	 50%
使用得很频繁	1	 25%
本题有效填写人次	4	

(3) 整備する

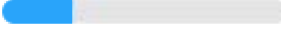
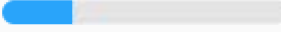
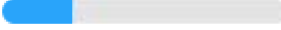
选项	小计	比例
使用得很少	0	 0%
使用得比较少	0	 0%
难以判断	0	 0%
使用得比较频繁	4	 100%
使用得很频繁	0	 0%
本题有效填写人次	4	

(4) 享受する

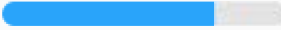
选项	小计	比例
使用得很少	1	 25%
使用得比较少	0	 0%
难以判断	1	 25%
使用得比较频繁	1	 25%
使用得很频繁	1	 25%
本题有效填写人次	4	

(5) 行使する

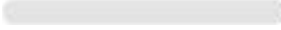
选项	小计	比例
使用得很少	1	 25%
使用得比较少	0	 0%

难以判断	1	 25%
使用得比较频繁	1	 25%
使用得很频繁	1	 25%
本题有效填写人次	4	

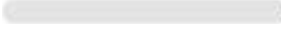
(6) 感覺する

选项	小计	比例
使用得很少	0	 0%
使用得比较少	3	 75%
难以判断	0	 0%
使用得比较频繁	0	 0%
使用得很频繁	1	 25%
本题有效填写人次	4	

(7) 承継する

选项	小计	比例
使用得很少	0	 0%
使用得比较少	1	 25%
难以判断	2	 50%
使用得比较频繁	1	 25%
使用得很频繁	0	 0%
本题有效填写人次	4	

(8) 拡大する

选项	小计	比例
使用得很少	0	 0%

使用得比较少	0	0%
难以判断	2	50%
使用得比较频繁	0	0%
使用得很频繁	2	50%
本题有效填写人次	4	

(9) 入力する

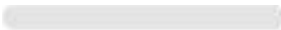
选项	小计	比例
使用得很少	0	0%
使用得比较少	0	0%
难以判断	0	0%
使用得比较频繁	0	0%
使用得很频繁	4	100%
本题有效填写人次	4	

(10) 集中する

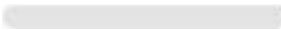
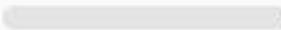
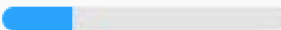
选项	小计	比例
使用得很少	0	0%
使用得比较少	0	0%
难以判断	0	0%
使用得比较频繁	0	0%
使用得很频繁	4	100%
本题有效填写人次	4	

(11) 腫脹する

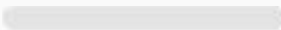
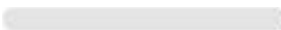
选项	小计	比例

使用得很少	0	 0%
使用得比较少	2	 50%
难以判断	1	 25%
使用得比较频繁	0	 0%
使用得很频繁	1	 25%
本题有效填写人次	4	

(12) 工夫する

选项	小计	比例
使用得很少	0	 0%
使用得比较少	0	 0%
难以判断	0	 0%
使用得比较频繁	1	 25%
使用得很频繁	3	 75%
本题有效填写人次	4	

(13) 配慮する

选项	小计	比例
使用得很少	0	 0%
使用得比较少	0	 0%
难以判断	0	 0%
使用得比较频繁	0	 0%
使用得很频繁	4	 100%
本题有效填写人次	4	

(14) 設定する

选项	小计	比例
使用得很少	0	0%
使用得比较少	0	0%
难以判断	0	0%
使用得比较频繁	0	0%
使用得很频繁	4	100%
本题有效填写人次	4	

(15) 苦心する

选项	小计	比例
使用得很少	0	0%
使用得比较少	1	25%
难以判断	2	50%
使用得比较频繁	1	25%
使用得很频繁	0	0%
本题有效填写人次	4	

(16) 淘汰する

选项	小计	比例
使用得很少	3	75%
使用得比较少	1	25%
难以判断	0	0%
使用得比较频繁	0	0%
使用得很频繁	0	0%
本题有效填写人次	4	

(17) 認識する

选项	小计	比例
使用得很少	0	0%
使用得比较少	0	0%
难以判断	0	0%
使用得比较频繁	0	0%
使用得很频繁	4	100%
本题有效填写人次	4	

(18) 修飾する

选项	小计	比例
使用得很少	0	0%
使用得比较少	0	0%
难以判断	1	25%
使用得比较频繁	2	50%
使用得很频繁	1	25%
本题有效填写人次	4	

(19) 推進する

选项	小计	比例
使用得很少	0	0%
使用得比较少	0	0%
难以判断	0	0%
使用得比较频繁	1	25%
使用得很频繁	3	75%
本题有效填写人次	4	

(20) 対応する

选项	小计	比例
使用得很少	0	0%
使用得比较少	0	0%
难以判断	0	0%
使用得比较频繁	0	0%
使用得很频繁	4	100%
本题有效填写人次	4	

3. 所谓汉语动名词，至少具有动词和名词两种性质。关于以下的词语，您认为它们在使用时哪种词性最强？请根据您的判断进行选择。

(1) 活躍

选项	小计	比例
名词性很强	1	25%
名词性较强	0	0%
动词性较强	1	25%
动词性很强	2	50%
本题有效填写人次	4	

(2) 卒業

选项	小计	比例
名词性很强	1	25%
名词性较强	1	25%
动词性较强	2	50%
动词性很强	0	0%

本题有效填写人次	4	

(3) 回答

选项	小计	比例
名词性很强	1	25%
名词性较强	2	50%
动词性较强	0	0%
动词性很强	1	25%
本题有效填写人次	4	

(4) 注意

选项	小计	比例
名词性很强	0	0%
名词性较强	0	0%
动词性较强	2	50%
动词性很强	2	50%
本题有效填写人次	4	

(5) 活動

选项	小计	比例
名词性很强	0	0%
名词性较强	1	25%
动词性较强	2	50%
动词性很强	1	25%
本题有效填写人次	4	

(6) 連絡

选项	小计	比例
名词性很强	0	0%
名词性较强	0	0%
动词性较强	2	50%
动词性很强	2	50%
本题有效填写人次	4	

(7) 調査

选项	小计	比例
名词性很强	0	0%
名词性较强	2	50%
动词性较强	0	0%
动词性很强	2	50%
本题有效填写人次	4	

(8) 相談

选项	小计	比例
名词性很强	0	0%
名词性较强	0	0%
动词性较强	2	50%
动词性很强	2	50%
本题有效填写人次	4	

(9) 該当

选项	小计	比例
名词性很强	1	25%

名词性较强	1	25%
动词性较强	0	0%
动词性很强	2	50%
本题有效填写人次	4	

(10) 反映

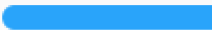
选项	小计	比例
名词性很强	0	0%
名词性较强	1	25%
动词性较强	1	25%
动词性很强	2	50%
本题有效填写人次	4	

(11) 指摘

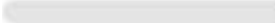
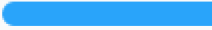
选项	小计	比例
名词性很强	0	0%
名词性较强	1	25%
动词性较强	2	50%
动词性很强	1	25%
本题有效填写人次	4	

(12) 発売

选项	小计	比例
名词性很强	0	0%
名词性较强	0	0%
动词性较强	1	25%

动词性很强	3	 75%
本题有效填写人次	4	

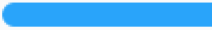
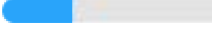
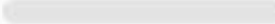
(13) 練習

选项	小计	比例
名词性很强	0	 0%
名词性较强	0	 0%
动词性较强	1	 25%
动词性很强	3	 75%
本题有效填写人次	4	

(14) 準備

选项	小计	比例
名词性很强	1	 25%
名词性较强	1	 25%
动词性较强	1	 25%
动词性很强	1	 25%
本题有效填写人次	4	

(15) 記錄

选项	小计	比例
名词性很强	0	 0%
名词性较强	3	 75%
动词性较强	1	 25%
动词性很强	0	 0%
本题有效填写人次	4	

4. 在汉语动名词后接上“する”、“の”、“的”、“的な”、“な”这五个名词修饰要素之一，可以用来修饰名词或名词性短语。但是，并不是所有汉语动名词都适合后接这五个名词修饰要素。关于以下的句子或短语，请选择您认为在括号中填入最自然的选项。

(1) 予備審査のために準備（ ）書類

选项	小计	比例
する	3	75%
の	0	0%
的	0	0%
的な	1	25%
な	0	0%
本题有效填写人次	4	

(2) 現代の禅の言説を構築するのに決定（ ）役割を果たしたのは西田と京都学派である。

选项	小计	比例
する	0	0%
の	0	0%
的	1	25%
的な	3	75%
な	0	0%
本题有效填写人次	4	

(3) 最近のデータ分析によると、都市部における健康志向の食品に対する需要が増加（ ）傾向にあり、市場への新たな影響をもたらしていることが確認されました。

选项	小计	比例

する	4	100%
の	0	0%
的	0	0%
的な	0	0%
な	0	0%
本题有效填写人次	4	

(4)「高松産ごじまん品」とは、高松市内で生産された安全・安心（ ）農産物のことです。

选项	小计	比例
する	0	0%
の	0	0%
的	0	0%
的な	1	25%
な	3	75%
本题有效填写人次	4	

(5) 私の理解（ ）範囲で、注目すべき成果を列举してみよう。

选项	小计	比例
する	2	50%
の	2	50%
的	0	0%
的な	0	0%
な	0	0%
本题有效填写人次	4	

(6) 調査（ ）結果から見ると、消費者の意識に変化が見られ、環境に配慮した商品への関心が高まっていることが明らかになった。

选项	小计	比例
する	1	25%
の	3	75%
的	0	0%
的な	0	0%
な	0	0%
本题有效填写人次	4	

5. 日语中存在很多的近义词。这些近义词虽然在意义上相似，但在使用频率、使用环境、活用形式以及搭配词等方面存在差异。请回答以下关于下列近义词组的问题。

[利用、使用、活用、使う、用いる]

(1) 关于上述 5 个词，如果基于在现代日语中的使用频率进行排序，您会如何排列这些词？

选项	第 1 位	第 2 位	第 3 位	第 4 位	第 5 位
使う	4 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)
利用	0 (0%)	1 (25%)	2 (50%)	1 (25%)	0 (0%)
用いる	0 (0%)	1 (25%)	1 (25%)	1 (25%)	1 (25%)
活用	0 (0%)	1 (25%)	0 (0%)	2 (50%)	1 (25%)
使用	0 (0%)	1 (25%)	1 (25%)	0 (0%)	2 (50%)

(2) 关于上述 5 个词，它们是在口语中更常使用，还是在书面语中更常使用？

利用

选项	小计	比例
在口语中很常用	0	0%

在口语中比较常用	1	25%
在口语和书面语中都常用	1	25%
在书面语中比较常用	1	25%
在书面语中很常用	1	25%
本题有效填写人次	4	

使用

选项	小计	比例
在口语中很常用	0	0%
在口语中比较常用	0	0%
在口语和书面语中都常用	1	25%
在书面语中比较常用	2	50%
在书面语中很常用	1	25%
本题有效填写人次	4	

活用

选项	小计	比例
在口语中很常用	0	0%
在口语中比较常用	0	0%
在口语和书面语中都常用	1	25%
在书面语中比较常用	3	75%
在书面语中很常用	0	0%
本题有效填写人次	4	

使う

选项	小计	比例

在口语中很常用	3	75%
在口语中比较常用	1	25%
在口语和书面语中都常用	0	0%
在书面语中比较常用	0	0%
在书面语中很常用	0	0%
本题有效填写人次	4	

用いる

选项	小计	比例
在口语中很常用	0	0%
在口语中比较常用	2	50%
在口语和书面语中都常用	1	25%
在书面语中比较常用	0	0%
在书面语中很常用	1	25%
本题有效填写人次	4	

(3) 关于上述 5 个词，它们是在非正式场合中更常使用，还是在正式场合中更常使用？

利用

选项	小计	比例
在非正式场合很常用	0	0%
在非正式场合比较常用	1	25%
在非正式场合和正式场合都常用	1	25%
在正式场合比较常用	2	50%
在正式场合很常用	0	0%
本题有效填写人次	4	

使用

选项	小计	比例
在非正式场合很常用	0	0%
在非正式场合比较常用	0	0%
在非正式场合和正式场合都常用	1	25%
在正式场合比较常用	2	50%
在正式场合很常用	1	25%
本题有效填写人次	4	

活用

选项	小计	比例
在非正式场合很常用	0	0%
在非正式场合比较常用	0	0%
在非正式场合和正式场合都常用	2	50%
在正式场合比较常用	2	50%
在正式场合很常用	0	0%
本题有效填写人次	4	

使う

选项	小计	比例
在非正式场合很常用	2	50%
在非正式场合比较常用	0	0%
在非正式场合和正式场合都常用	2	50%
在正式场合比较常用	0	0%
在正式场合很常用	0	0%

本题有效填写人次	4	

用いる

选项	小计	比例
在非正式场合很常用	0	0%
在非正式场合比较常用	2	50%
在非正式场合和正式场合都常用	0	0%
在正式场合比较常用	1	25%
在正式场合很常用	1	25%
本题有效填写人次	4	

(5) 上述 5 个词在作为动词使用时，各自最常使用的活用形式是哪一个？

利用する

选项	小计	比例
終止形：利用する	2	50%
連用形：利用し / 利用して	1	25%
連体形：利用する+名詞	0	0%
未然形-される：利用される	1	25%
本题有效填写人次	4	

使用する

选项	小计	比例
終止形：使用する	2	50%
連用形：使用し / 使用して	0	0%
連体形：使用する+名詞	1	25%
未然形-される：使用される	1	25%

本题有效填写人次	4	

活用する

选项	小计	比例
終止形：活用する	1	25%
連用形：活用し / 活用して	3	75%
連体形：活用する+名詞	0	0%
未然形-される：活用される	0	0%
本题有效填写人次	4	

使う

选项	小计	比例
終止形：使う	1	25%
連用形：使い / 使って	3	75%
連体形：使う+名詞	0	0%
未然形-れる：使われる	0	0%
本题有效填写人次	4	

用いる

选项	小计	比例
終止形：用いる	2	50%
連用形：用い / 用いて	1	25%
連体形：用いる+名詞	1	25%
未然形-れる：用いられる	0	0%
本题有效填写人次	4	

(6) 请在（ ）中填入可以作为动词宾语的合适的名词。

例：（日本語） / （ピアノ）を練習する

（ ） / （ ）を利用する

（ ） / （ ）を使用する

（ ） / （ ）を活用する

（ ） / （ ）を使う

（ ） / （ ）を用いる

(7) 请在（ ）中填入合适的副词。

例：（もっと） / （しっかり）練習する

（ ） / （ ）利用する

（ ） / （ ）使用する

（ ） / （ ）活用する

（ ） / （ ）使う

（ ） / （ ）用いる

6. 请选择与以下中文句子中划线词相对应的日语

(1) 再遇到今天这样教授无理取闹的情况，马缔一定应付不来，绝对需要一位在对外交涉方面协助马缔的人才。

选项	小计	比例
処理する	0	0%
対処する	0	0%
対応する	4	100%
応付する	0	0%
本题有效填写人次	4	

(2) “核对例句”的环节需要一一检查例句是否符合释义、从原著上引用时是否准确无误。

选项	小计	比例
核对する	0	0%
照合する	1	25%

認識する	0	0%
確認する	3	75%
本题有效填写人次	4	

(3) 那么，‘しま（shima）’这个词又怎么解释？

选项	小计	比例
説明する	2	50%
理解する	0	0%
解釈する	2	50%
明白する	0	0%
本题有效填写人次	4	

(4) 他和丽美的关系，用“冤家”来形容最恰当不过了。

选项	小计	比例
表示する	0	0%
表明する	0	0%
形容する	0	0%
表現する	4	100%
本题有效填写人次	4	

(5) 我很期待下次的样品。

选项	小计	比例
希望する	0	0%
期待する	4	100%
期望する	0	0%
願望する	0	0%

本题有效填写人次	4	

(6) 我的同学给我准备了生日蛋糕。

选项	小计	比例
準備する	0	0%
考慮する	0	0%
装備する	0	0%
用意する	4	100%
本题有效填写人次	4	

(7) 证实是否为本入。

选项	小计	比例
証明する	0	0%
証拠する	0	0%
確認する	4	100%
認識する	0	0%
本题有效填写人次	4	

(8) 马缔立即为“真心”一词制作了新的词例收集卡。

选项	小计	比例
制作する	0	0%
製作する	0	0%
整備する	0	0%
作成する	4	100%
本题有效填写人次	4	

请填写现在的时间（格式：__时__分__秒）

【汉语动名词指导意识调查】

1. 日语中的各种汉语动名词，根据其使用频率有常用和不常用之分。您认为自己对这一点掌握到了什么程度？

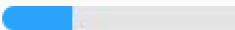
选项	小计	比例
我没有掌握	1	25%
我掌握得不太好	1	25%
说不好我掌握了没有	2	50%
我基本掌握了	0	0%
我掌握得很好	0	0%
本题有效填写人次	4	

2. 日语中的各种汉语动名词，根据其词性可以分为更常作为动词使用的词，和更常作为名词使用的词。您认为自己对这一点掌握到了什么程度？

选项	小计	比例
我没有掌握	2	50%
我掌握得不太好	0	0%
说不好我掌握了没有	1	25%
我基本掌握了	1	25%
我掌握得很好	0	0%
本题有效填写人次	4	

3. 日语中的汉语动名词在作为修饰语修饰名词成分时，其后接的要素会有所不同（「する」「の」「的」「的な」「な」）。您认为自己对如何选择名词后接要素这一点掌握到了什么程度？

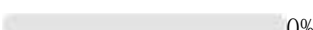
选项	小计	比例
我没有掌握	0	0%

我掌握得不太好	2	 50%
说不好我掌握了没有	1	 25%
我基本掌握了	1	 25%
我掌握得很好	0	 0%
本题有效填写人次	4	

4. 日语中的汉语动名词在作为修饰语修饰名词成分时，其后续的要素会有所不同（「する」「の」「的」「的な」「な」）。您认为自己如何选择后续要素这一点掌握到了什么程度？

选项	小计	比例
我没有掌握	0	 0%
我掌握得不太好	2	 50%
说不好我掌握了没有	0	 0%
我基本掌握了	2	 50%
我掌握得很好	0	 0%
本题有效填写人次	4	

5. 日语中的汉语动名词在日语中有很多近义词，这些近义词有语种（汉语词、和语词、外来语词）、词义、使用频率、使用环境、搭配上的不同。您认为自己对这一点掌握到了什么程度？

选项	小计	比例
我没有掌握	0	 0%
我掌握得不太好	2	 50%
说不好我掌握了没有	1	 25%
我基本掌握了	1	 25%
我掌握得很好	0	 0%
本题有效填写人次	4	

6. 日语的汉语动名词中有很多词在中文中也存在，可以被称为中日同形词。您认为您对正确区别使用中日同形词这一点掌握到了什么程度？

选项	小计	比例
我没有掌握	0	0%
我掌握得不太好	2	50%
说不好我掌握了没有	2	50%
我基本掌握了	0	0%
我掌握得很好	0	0%
本题有效填写人次	4	

7. 您接受过有关上述汉语动名词知识的指导吗？

选项	小计	比例
我接受过	0	0%
我没有接受过	4	100%
本题有效填写人次	4	

8. 如果您接受过相关指导，请写出是什么样的指导。并且，您认为这种指导怎么样？

9. 您希望接受的汉语动名词的指导是什么样的？请具体写出 2~3 句话。

【对该调查的评价】

1. 您对以上自己的关于汉语动名词知识的问题的回答有多大的信心？

选项	小计	比例
非常没有信心	1	25%
有一点儿信心	0	0%
说不好	3	75%
有比较大的信心	0	0%
非常有信心	0	0%
本题有效填写人次	4	

2. 您觉得自己在回答哪一道题的时候最没有信心？
3. 您觉得此问卷中有您无法理解，或不太理解的问题表述吗？

付録 4 [第 11 章] 調査フォーム(正式版)

关于汉语动名词的调查问卷

【背景调查】

1. 姓名

2. 邮箱地址

3. 最高学历

选项	小计	比例
博士	0	0%
硕士	4	6.78%
本科	41	69.49%
高中	13	22.03%
初中	1	1.69%
小学及以下	0	0%
本题有效填写人次	59	

4. 专业

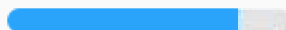
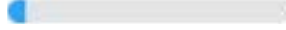
5. 如果您是本科/硕士/博士在读学生，请回答您目前是几年级。

6. 您学习日语学了多少年了？

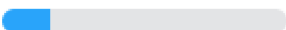
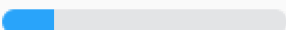
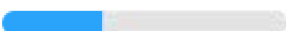
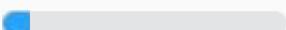
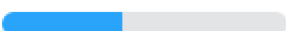
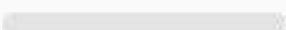
选项	小计	比例
1 年以内	6	10.17%
1~2 年	20	33.9%
2~3 年	21	35.59%
3~4 年	6	10.17%
4~5 年	2	3.39%
5~6 年	1	1.69%

6 年以上	3	 5.08%
本题有效填写人次	59	

7.您【主要】是在哪里学习的日语？

选项	小计	比例
初、高中	5	 8.47%
大学	48	 81.36%
语言学校（包括各种商业培训机构）	4	 6.78%
自学	2	 3.39%
其他	0	 0%
本题有效填写人次	59	

8.您在学习日语的时候，主要使用的教科书是什么？

选项	小计	比例
中日交流标准日本语	10	 16.95%
みんなの日本語	11	 18.64%
综合日语	21	 35.59%
新编日语	6	 10.17%
基础日语综合教程	25	 42.37%
いろどり 生活の日本語	0	 0%
其他	17	 28.81%
本题有效填写人次	59	

9.您的日语能力考试（JLPT）的级别是？

选项	小计	比例
我没有考过 JLPT	33	 55.93%

N5	0	0%
N4	1	1.69%
N3	2	3.39%
N2	13	22.03%
N1	10	16.95%
本题有效填写人次	59	

10.您有过在日留学的经历吗？如果有的话，您到目前为止留学过多少个月？

11.您有过在日生活的经历吗？如果有的话，您到目前为止生活过多少个月？（在日生活经历包括留学、工作等经历）

12.日语学习有各种各样的方法。您在学习日语的时候，通常在多大程度上使用以下的方法？

(1) 通过上日语课学习日语。

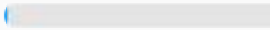
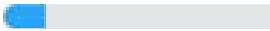
选项	小计	比例
我完全不使用	2	3.39%
我不怎么使用	1	1.69%
我也不清楚	0	0%
我有时候会使用	11	18.64%
我经常使用	45	76.27%
本题有效填写人次	59	

(2) 通过使用日语教科书或辅助教材学习日语。

选项	小计	比例
我完全不使用	0	0%
我不怎么使用	2	3.39%
我也不清楚	2	3.39%
我有时候会使用	19	32.2%

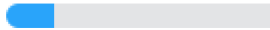
我经常使用	36	 61.02%
本题有效填写人次	59	

(3) 使用词典（包括电子词典或电子设备上的词典应用软件）学习日语。

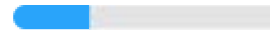
选项	小计	比例
我完全不使用	1	 1.69%
我不怎么使用	1	 1.69%
我也不清楚	9	 15.25%
我有时候会使用	14	 23.73%
我经常使用	34	 57.63%
本题有效填写人次	59	

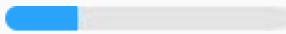
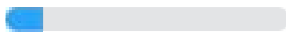
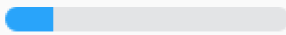
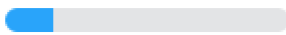
如果您使用词典（包括电子词典或电子设备上的词典应用软件）学习日语，请写出您所使用的词典的名称。

(4) 通过阅读日语的小说、报纸、杂志学习日语。

选项	小计	比例
我完全不使用	3	 5.08%
我不怎么使用	16	 27.12%
我也不清楚	10	 16.95%
我有时候会使用	25	 42.37%
我经常使用	5	 8.47%
本题有效填写人次	59	

(5) 通过使用 chatGPT 等 AI 工具学习日语。

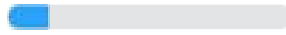
选项	小计	比例
我完全不使用	16	 27.12%

我不怎么使用	15	 25.42%
我也不清楚	8	 13.56%
我有时候会使用	10	 16.95%
我经常使用	10	 16.95%
本题有效填写人次	59	

(6) 通过观看日本的电视节目、动画片、电视剧、电影等学习日语。

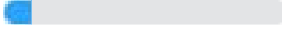
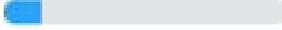
选项	小计	比例
我完全不使用	3	 5.08%
我不怎么使用	2	 3.39%
我也不清楚	4	 6.78%
我有时候会使用	24	 40.68%
我经常使用	26	 44.07%
本题有效填写人次	59	

(7) 通过写日记或作文等学习日语。

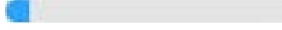
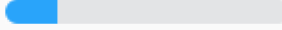
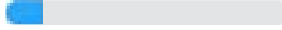
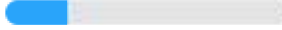
选项	小计	比例
我完全不使用	12	 20.34%
我不怎么使用	13	 22.03%
我也不清楚	9	 15.25%
我有时候会使用	21	 35.59%
我经常使用	4	 6.78%
本题有效填写人次	59	

(8) 通过【使用社交软件】用日语表达自己的意见、感想，或与日本人聊天学习日语。

选项	小计	比例

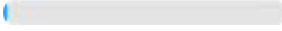
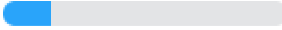
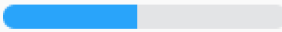
我完全不使用	6	 10.17%
我不怎么使用	18	 30.51%
我也不清楚	8	 13.56%
我有时候会使用	23	 38.98%
我经常使用	4	 6.78%
本题有效填写人次	59	

(9) 通过【面对面】与日本人老师或朋友聊天学习日语。

选项	小计	比例
我完全不使用	5	 8.47%
我不怎么使用	11	 18.64%
我也不清楚	8	 13.56%
我有时候会使用	22	 37.29%
我经常使用	13	 22.03%
本题有效填写人次	59	

(10) 如果您还使用过其他的方法学习日语，请写出这种方法。

(11) 如果您还使用了其他方法，您在多大程度上使用这种方法？

选项	小计	比例
我完全不使用	1	 1.69%
我不怎么使用	1	 1.69%
我也不清楚	10	 16.95%
我有时候会使用	12	 20.34%
我经常使用	7	 11.86%
(空)	28	 47.46%
本题有效填写人次	59	

【汉语动名词相关知识调查】

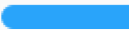
现代日语中有一类汉字词，比如像「努力」「勉強」这样的词，既可以单独作为名词使用，又可以在后面附加「する」作为动词使用（「努力する」「勉強する」）。这样的汉字词可以被称为“汉语动名词”。请回答以下关于汉语动名词的题目。

1. 下列词中，您认为在现代日语中存在的词请选○，在现代日语中不存在的词请选 x。

(1) 意見する

选项	小计	比例
○	33	 55.93%
x	26	 44.07%
本题有效填写人次	59	

(2) 需要する

选项	小计	比例
○	32	 54.24%
x	27	 45.76%
本题有效填写人次	59	

(3) 独創する

选项	小计	比例
○	47	 79.66%
x	12	 20.34%
本题有效填写人次	59	

(4) 革命する

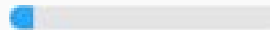
选项	小计	比例

○	35	 59.32%
x	24	 40.68%
本题有效填写人次	59	

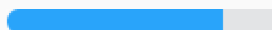
(5) 修訂する

选项	小计	比例
○	57	 96.61%
x	2	 3.39%
本题有效填写人次	59	

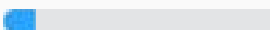
(6) 集中する

选项	小计	比例
○	54	 91.53%
x	5	 8.47%
本题有效填写人次	59	

(7) 問題する

选项	小计	比例
○	14	 23.73%
x	45	 76.27%
本题有效填写人次	59	

(8) 対応する

选项	小计	比例
○	52	 88.14%
x	7	 11.86%

本题有效填写人次	59	

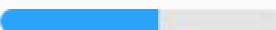
(9) 意味する

选项	小计	比例
○	32	 54.24%
x	27	 45.76%
本题有效填写人次	59	

(10) 適當する

选项	小计	比例
○	35	 59.32%
x	24	 40.68%
本题有效填写人次	59	

(11) 習慣する

选项	小计	比例
○	26	 44.07%
x	33	 55.93%
本题有效填写人次	59	

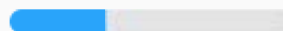
(12) 相当する

选项	小计	比例
○	28	 47.46%
x	31	 52.54%
本题有效填写人次	59	

(13) 生活する

选项	小计	比例
○	43	 72.88%
x	16	 27.12%
本题有效填写人次	59	

(14) 低下する

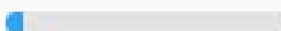
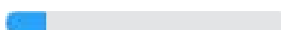
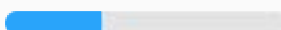
选项	小计	比例
○	39	 66.1%
x	20	 33.9%
本题有效填写人次	59	

(15) 原因する

选项	小计	比例
○	24	 40.68%
x	35	 59.32%
本题有效填写人次	59	

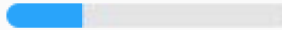
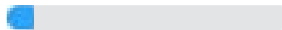
2.在现代日语中，有些汉语动名词在任何场合都很常用，有些汉语动名词则很少被使用，或者只在极为有限的场合中使用。您认为下列汉语动名词在日语中有多常用？请根据您的判断进行选择。

(1) 利用する

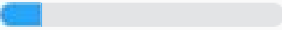
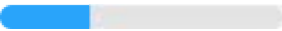
选项	小计	比例
使用得很少	2	 3.39%
使用得比较少	4	 6.78%
难以判断	9	 15.25%
使用得比较频繁	20	 33.9%

使用得很频繁	24	 40.68%
本题有效填写人次	59	

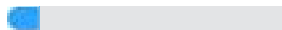
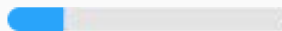
(2) 浸透する

选项	小计	比例
使用得很少	7	 11.86%
使用得比较少	16	 27.12%
难以判断	14	 23.73%
使用得比较频繁	16	 27.12%
使用得很频繁	6	 10.17%
本题有效填写人次	59	

(3) 実施する

选项	小计	比例
使用得很少	1	 1.69%
使用得比较少	9	 15.25%
难以判断	8	 13.56%
使用得比较频繁	22	 37.29%
使用得很频繁	19	 32.2%
本题有效填写人次	59	

(4) 感染する

选项	小计	比例
使用得很少	7	 11.86%
使用得比较少	12	 20.34%
难以判断	14	 23.73%

使用得比较频繁	17	28.81%
使用得很频繁	9	15.25%
本题有效填写人次	59	

(5) 証明する

选项	小计	比例
使用得很少	2	3.39%
使用得比较少	7	11.86%
难以判断	13	22.03%
使用得比较频繁	18	30.51%
使用得很频繁	19	32.2%
本题有效填写人次	59	

(6) 感觉する

选项	小计	比例
使用得很少	5	8.47%
使用得比较少	10	16.95%
难以判断	14	23.73%
使用得比较频繁	21	35.59%
使用得很频繁	9	15.25%
本题有效填写人次	59	

(7) 所属する

选项	小计	比例
使用得很少	6	10.17%
使用得比较少	13	22.03%

难以判断	14	23.73%
使用得比较频繁	17	28.81%
使用得很频繁	9	15.25%
本题有效填写人次	59	

(8) 発展する

选项	小计	比例
使用得很少	3	5.08%
使用得比较少	5	8.47%
难以判断	8	13.56%
使用得比较频繁	19	32.2%
使用得很频繁	24	40.68%
本题有效填写人次	59	

(9) 貢献する

选项	小计	比例
使用得很少	3	5.08%
使用得比较少	6	10.17%
难以判断	9	15.25%
使用得比较频繁	24	40.68%
使用得很频繁	17	28.81%
本题有效填写人次	59	

(10) 終了する

选项	小计	比例
使用得很少	5	8.47%

使用得比较少	9	15.25%
难以判断	8	13.56%
使用得比较频繁	18	30.51%
使用得很频繁	19	32.2%
本题有效填写人次	59	

(11) 捕獲する

选项	小计	比例
使用得很少	8	13.56%
使用得比较少	14	23.73%
难以判断	20	33.9%
使用得比较频繁	11	18.64%
使用得很频繁	6	10.17%
本题有效填写人次	59	

(12) 工夫する

选项	小计	比例
使用得很少	9	15.25%
使用得比较少	7	11.86%
难以判断	17	28.81%
使用得比较频繁	14	23.73%
使用得很频繁	12	20.34%
本题有效填写人次	59	

(13) 配慮する

选项	小计	比例

使用得很少	5	8.47%
使用得比较少	6	10.17%
难以判断	11	18.64%
使用得比较频繁	21	35.59%
使用得很频繁	16	27.12%
本题有效填写人次	59	

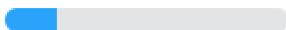
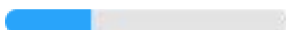
(14) 落札する

选项	小计	比例
使用得很少	14	23.73%
使用得比较少	15	25.42%
难以判断	19	32.2%
使用得比较频繁	8	13.56%
使用得很频繁	3	5.08%
本题有效填写人次	59	

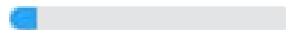
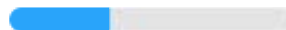
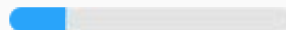
(15) 変質する

选项	小计	比例
使用得很少	7	11.86%
使用得比较少	19	32.2%
难以判断	18	30.51%
使用得比较频繁	10	16.95%
使用得很频繁	5	8.47%
本题有效填写人次	59	

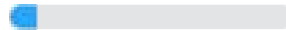
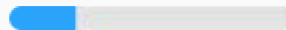
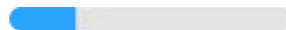
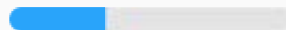
(16) 支配する

选项	小计	比例
使用得很少	2	 3.39%
使用得比较少	5	 8.47%
难以判断	11	 18.64%
使用得比较频繁	23	 38.98%
使用得很频繁	18	 30.51%
本题有效填写人次	59	

(17) 策定する

选项	小计	比例
使用得很少	6	 10.17%
使用得比较少	15	 25.42%
难以判断	21	 35.59%
使用得比较频繁	12	 20.34%
使用得很频繁	5	 8.47%
本题有效填写人次	59	

(18) 修飾する

选项	小计	比例
使用得很少	6	 10.17%
使用得比较少	14	 23.73%
难以判断	14	 23.73%
使用得比较频繁	20	 33.9%
使用得很频繁	5	 8.47%
本题有效填写人次	59	

(19) 推進する

选项	小计	比例
使用得很少	3	5.08%
使用得比较少	9	15.25%
难以判断	14	23.73%
使用得比较频繁	18	30.51%
使用得很频繁	15	25.42%
本题有效填写人次	59	

(20) 維持する

选项	小计	比例
使用得很少	2	3.39%
使用得比较少	7	11.86%
难以判断	10	16.95%
使用得比较频繁	20	33.9%
使用得很频繁	20	33.9%
本题有效填写人次	59	

3.所谓汉语动名词，至少具有动词和名词两种性质。关于下列词语，您认为它们在使用时哪种词性最强？请根据您的判断进行选择。

(1) 活躍

选项	小计	比例
名词性很强	7	11.86%
名词性较强	16	27.12%
动词性较强	23	38.98%
动词性很强	13	22.03%

本题有效填写人次	59	

(2) 卒業

选项	小计	比例
名词性很强	4	6.78%
名词性较强	12	20.34%
动词性较强	28	47.46%
动词性很强	15	25.42%
本题有效填写人次	59	

(3) 回答

选项	小计	比例
名词性很强	8	13.56%
名词性较强	13	22.03%
动词性较强	19	32.2%
动词性很强	19	32.2%
本题有效填写人次	59	

(4) 注意

选项	小计	比例
名词性很强	2	3.39%
名词性较强	6	10.17%
动词性较强	25	42.37%
动词性很强	26	44.07%
本题有效填写人次	59	

(5) 活動

选项	小计	比例
名词性很强	14	23.73%
名词性较强	22	37.29%
动词性较强	14	23.73%
动词性很强	9	15.25%
本题有效填写人次	59	

(6) 連絡

选项	小计	比例
名词性很强	4	6.78%
名词性较强	5	8.47%
动词性较强	26	44.07%
动词性很强	24	40.68%
本题有效填写人次	59	

(7) 調査

选项	小计	比例
名词性很强	7	11.86%
名词性较强	9	15.25%
动词性较强	22	37.29%
动词性很强	21	35.59%
本题有效填写人次	59	

(8) 相談

选项	小计	比例
名词性很强	5	8.47%

名词性较强	3	5.08%
动词性较强	22	37.29%
动词性很强	29	49.15%
本题有效填写人次	59	

(9) 該当

选项	小计	比例
名词性很强	10	16.95%
名词性较强	22	37.29%
动词性较强	20	33.9%
动词性很强	7	11.86%
本题有效填写人次	59	

(10) 反映

选项	小计	比例
名词性很强	4	6.78%
名词性较强	7	11.86%
动词性较强	27	45.76%
动词性很强	21	35.59%
本题有效填写人次	59	

(11) 指摘

选项	小计	比例
名词性很强	6	10.17%
名词性较强	14	23.73%
动词性较强	23	38.98%

动词性很强	16	27.12%
本题有效填写人次	59	

(12) 発売

选项	小计	比例
名词性很强	6	10.17%
名词性较强	12	20.34%
动词性较强	23	38.98%
动词性很强	18	30.51%
本题有效填写人次	59	

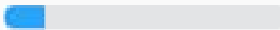
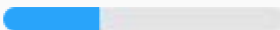
(13) 練習

选项	小计	比例
名词性很强	2	3.39%
名词性较强	9	15.25%
动词性较强	23	38.98%
动词性很强	25	42.37%
本题有效填写人次	59	

(14) 準備

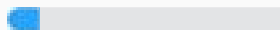
选项	小计	比例
名词性很强	2	3.39%
名词性较强	8	13.56%
动词性较强	24	40.68%
动词性很强	25	42.37%
本题有效填写人次	59	

(15) 記録

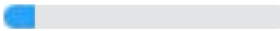
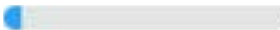
选项	小计	比例
名词性很强	4	 6.78%
名词性较强	9	 15.25%
动词性较强	26	 44.07%
动词性很强	20	 33.9%
本题有效填写人次	59	

4.请选择与以下中文句子中划线词相对应的日语

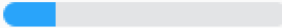
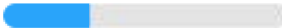
(1) 再遇到今天这样教授无理取闹的情况，马缔一定应付不来，绝对需要一位在对外交涉方面协助马缔的人才。

选项	小计	比例
処理する	12	 20.34%
対処する	15	 25.42%
対応する	25	 42.37%
応付する	7	 11.86%
本题有效填写人次	59	

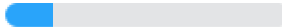
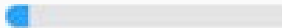
(2) “核对例句”的环节需要一一检查例句是否符合释义、从原著上引用时是否准确无误。

选项	小计	比例
核对する	7	 11.86%
照合する	16	 27.12%
認識する	4	 6.78%
確認する	32	 54.24%
本题有效填写人次	59	

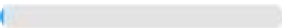
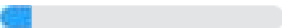
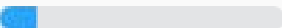
(3) 那么, ‘しま (shima)’这个词又怎么解释?

选项	小计	比例
説明する	26	 44.07%
理解する	11	 18.64%
解釈する	18	 30.51%
明白する	4	 6.78%
本题有效填写人次	59	

(4) 他和丽美的关系, 用“冤家”来形容最恰当不过了。

选项	小计	比例
表示する	10	 16.95%
表明する	5	 8.47%
形容する	14	 23.73%
表現する	30	 50.85%
本题有效填写人次	59	

(5) 我很期待下次的样品。

选项	小计	比例
希望する	1	 1.69%
期待する	43	 72.88%
期望する	7	 11.86%
願望する	8	 13.56%
本题有效填写人次	59	

(6) 我的同学给我准备了生日礼物。

选项	小计	比例

準備する	25		42.37%
考慮する	5		8.47%
装備する	3		5.08%
用意する	26		44.07%
本题有效填写人次	59		

(7) 我很了解他的脾气。

选项	小计	比例
納得する	14	23.73%
理解する	11	18.64%
同意する	4	6.78%
了解する	30	50.85%
本题有效填写人次	59	

(8) 马缔立即为“真心”一词制作了新的词例收集卡。

选项	小计	比例
制作する	6	10.17%
製作する	30	50.85%
整備する	6	10.17%
作成する	17	28.81%
本题有效填写人次	59	

5.在汉语动名词后接上「する」、「の」、「的」、「的な」、「な」这五个要素之一，就可以放在名词之前用来修饰或限定名词或名词性短语。比如，「申請する人」「離婚の話」「安定的な供給」等。但是，并不是所有汉语动名词都适合后续这五个要素。关于以下的句子或短语，请选择您认为在括号中填入最自然的选项。

(1) 予備審査のために準備 () 書類

选项	小计	比例
する	33	55.93%
の	13	22.03%
的	4	6.78%
的な	7	11.86%
な	2	3.39%
本题有效填写人次	59	

(2) 現代の禅の言説を構築するのに決定 () 役割を果たしたのは西田と京都学派である。

选项	小计	比例
する	15	25.42%
の	10	16.95%
的	5	8.47%
的な	23	38.98%
な	6	10.17%
本题有效填写人次	59	

(3) 最近のデータ分析によると、都市部における健康志向の食品に対する需要が増加 () 傾向にあり、市場への新たな影響をもたらしていることが確認されました。

选项	小计	比例
する	35	59.32%
の	12	20.34%
的	4	6.78%
的な	8	13.56%

な	0	0%
本题有效填写人次	59	

(4)「高松産ごじまん品」とは、高松市内で生産された安全・安心（ ）農産物のことです。

选项	小计	比例
する	7	11.86%
の	10	16.95%
的	6	10.17%
的な	14	23.73%
な	22	37.29%
本题有效填写人次	59	

(5) 私の理解（ ）範囲で、注目すべき成果を列举してみよう。

选项	小计	比例
する	22	37.29%
の	25	42.37%
的	4	6.78%
的な	5	8.47%
な	3	5.08%
本题有效填写人次	59	

(6) 調査（ ）結果から見ると、消費者の意識に変化が見られ、環境に配慮した商品への関心が高まっていることが明らかになった。

选项	小计	比例
する	8	13.56%

の	42	 71.19%
的	4	 6.78%
的な	5	 8.47%
な	0	 0%
本题有效填写人次	59	

6. 日语中存在很多的近义词。这些近义词虽然在意义上相似，但在使用频率、使用环境、活用形式以及搭配词等方面存在差异。请回答以下关于下列近义词组的问题。

[利用、使用、活用、使う、用いる]

(1) 关于上述 5 个词，如果基于在现代日语中的使用频率进行排序，您会如何排列这些词？

[排序题]

选项	综合得分	第 1 位	第 2 位	第 3 位	第 4 位	第 5 位	小计
使う	3.81	35(68.63%)	9(17.65%)	2(3.92%)	3(5.88%)	2(3.92%)	51
利用	3.36	14(25.93%)	19(35.19%)	14(25.93%)	3(5.56%)	4(7.41%)	54
活用	2.24	5(9.26%)	8(14.81%)	7(12.96%)	20(37.04%)	14(25.93%)	54
使用	2.2	4(7.69%)	7(13.46%)	15(28.85%)	11(21.15%)	15(28.85%)	52
用いる	2.03	1(1.92%)	8(15.38%)	13(25%)	14(26.92%)	16(30.77%)	52

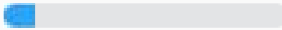
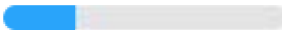
(2) 关于上述 5 个词，它们是在口语中更常使用，还是在书面语中更常使用？

利用

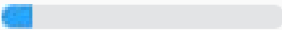
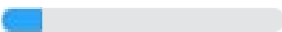
选项	小计	比例
在口语中很常用	4	 6.78%
在口语中比较常用	10	 16.95%
在口语和书面语中都常用	13	 22.03%
在书面语中比较常用	16	 27.12%

在书面语中很常用	16	 27.12%
本题有效填写人次	59	

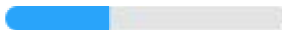
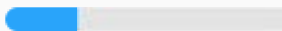
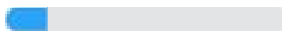
使用

选项	小计	比例
在口语中很常用	4	 6.78%
在口语中比较常用	7	 11.86%
在口语和书面语中都常用	12	 20.34%
在书面语中比较常用	21	 35.59%
在书面语中很常用	15	 25.42%
本题有效填写人次	59	

活用

选项	小计	比例
在口语中很常用	2	 3.39%
在口语中比较常用	7	 11.86%
在口语和书面语中都常用	13	 22.03%
在书面语中比较常用	28	 47.46%
在书面语中很常用	9	 15.25%
本题有效填写人次	59	

使う

选项	小计	比例
在口语中很常用	22	 37.29%
在口语中比较常用	15	 25.42%
在口语和书面语中都常用	9	 15.25%

在书面语中比较常用	5	8.47%
在书面语中很常用	8	13.56%
本题有效填写人次	59	

用いる

选项	小计	比例
在口语中很常用	4	6.78%
在口语中比较常用	12	20.34%
在口语和书面语中都常用	14	23.73%
在书面语中比较常用	18	30.51%
在书面语中很常用	11	18.64%
本题有效填写人次	59	

(3) 关于上述 5 个词，它们是在非正式场合中更常使用，还是在正式场合中更常使用？

利用

选项	小计	比例
在非正式场合很常用	6	10.17%
在非正式场合比较常用	5	8.47%
在非正式场合和正式场合都常用	17	28.81%
在正式场合比较常用	20	33.9%
在正式场合很常用	11	18.64%
本题有效填写人次	59	

使用

选项	小计	比例
在非正式场合很常用	7	11.86%

在非正式场合比较常用	3	5.08%
在非正式场合和正式场合都常用	17	28.81%
在正式场合比较常用	23	38.98%
在正式场合很常用	9	15.25%
本题有效填写人次	59	

活用

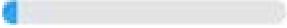
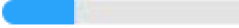
选项	小计	比例
在非正式场合很常用	3	5.08%
在非正式场合比较常用	8	13.56%
在非正式场合和正式场合都常用	14	23.73%
在正式场合比较常用	24	40.68%
在正式场合很常用	10	16.95%
本题有效填写人次	59	

使う

选项	小计	比例
在非正式场合很常用	23	38.98%
在非正式场合比较常用	16	27.12%
在非正式场合和正式场合都常用	10	16.95%
在正式场合比较常用	5	8.47%
在正式场合很常用	5	8.47%
本题有效填写人次	59	

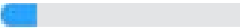
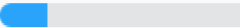
用いる

选项	小计	比例

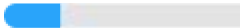
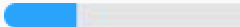
在非正式场合很常用	3	 5.08%
在非正式场合比较常用	16	 27.12%
在非正式场合和正式场合都常用	15	 25.42%
在正式场合比较常用	13	 22.03%
在正式场合很常用	12	 20.34%
本题有效填写人次	59	

(5) 上述 5 个词在作为动词使用时，各自最常使用的活用形式是哪一个？

利用する

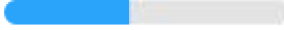
选项	小计	比例
終止形：利用する	16	 27.12%
連用形：利用し／利用して	25	 42.37%
連体形：利用する+名詞	8	 13.56%
未然形-される：利用される	10	 16.95%
本题有效填写人次	59	

使用する

选项	小计	比例
終止形：使用する	19	 32.2%
連用形：使用し／使用して	13	 22.03%
連体形：使用する+名詞	12	 20.34%
未然形-される：使用される	15	 25.42%
本题有效填写人次	59	

活用する

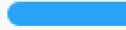
选项	小计	比例

終止形：活用する	26	 44.07%
連用形：活用し／活用して	17	 28.81%
連体形：活用する+名詞	6	 10.17%
未然形・される：活用される	10	 16.95%
本题有效填写人次	59	

使う

选项	小计	比例
終止形：使う	14	 23.73%
連用形：使い／使って	32	 54.24%
連体形：使う+名詞	9	 15.25%
未然形・れる：使われる	4	 6.78%
本题有效填写人次	59	

用いる

选项	小计	比例
終止形：用いる	8	 13.56%
連用形：用い／用いて	25	 42.37%
連体形：用いる+名詞	15	 25.42%
未然形・れる：用いられる	11	 18.64%
本题有效填写人次	59	

(6) 请在 () 中填入可以作为动词宾语合适的名词。有些名词可以与多个动词搭配, 所以填入的与各个动词相搭配的名词是重复的也没关系。

例：(日本語)／(ピアノ)を練習する

()／()を利用する

() / () を使用する

() / () を活用する

() / () を使う

() / () を用いる

(7) 请在 () 中填入合适的副词。有些副词可以与多个动词搭配，所以填入的与各个动词相搭配的副词是重复的也没关系。

例：(もっと) / (しっかり) 練習する

() / () 利用する

() / () 使用する

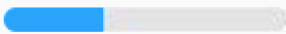
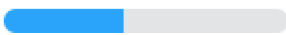
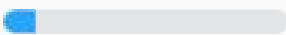
() / () 活用する

() / () 使う

() / () 用いる

【汉语动名词指导意识调查】

1. 日语中的各种汉语动名词，根据其使用频率有常用和不常用之分。您认为自己对这一点掌握到了什么程度？

选项	小计	比例
我没有掌握	5	 8.47%
我掌握得不太好	21	 35.59%
说不好我掌握了没有	25	 42.37%
我基本掌握了	7	 11.86%
我掌握得很好	1	 1.69%
本题有效填写人次	59	

2.日语中的各种汉语动名词，根据其词性可以分为更常作为动词使用的词，和更常作为名词使用的词。您认为自己对这一点掌握到了什么程度？

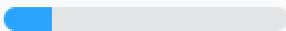
选项	小计	比例
我没有掌握	5	8.47%
我掌握得不太好	15	25.42%
说不好我掌握了没有	24	40.68%
我基本掌握了	13	22.03%
我掌握得很好	2	3.39%
本题有效填写人次	59	

3.日语中的汉语动名词放在名词之前修饰或限定名词或名词性短语时，其后接的要素会有所不同（「する」「の」「的」「的な」「な」）。您认为自己对如何选择后接要素这一点掌握到了什么程度？

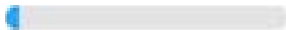
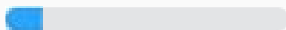
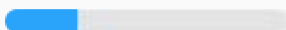
选项	小计	比例
我没有掌握	5	8.47%
我掌握得不太好	18	30.51%
说不好我掌握了没有	21	35.59%
我基本掌握了	14	23.73%
我掌握得很好	1	1.69%
本题有效填写人次	59	

4.日语中的汉语动名词在日语中有很多近义词，这些近义词有语种（汉语词、和语词、外来语词）、词义、使用频率、使用环境、搭配上的不同。您认为自己对这一点掌握到了什么程度？

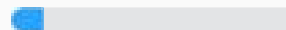
选项	小计	比例
我没有掌握	4	6.78%
我掌握得不太好	21	35.59%

说不好我掌握了没有	23	 38.98%
我基本掌握了	10	 16.95%
我掌握得很好	1	 1.69%
本题有效填写人次	59	

5.日语的汉语动名词中有很多词在中文中也存在，可以被称为中日同形词。您认为您对正确区别使用中日同形词这一点掌握到了什么程度？

选项	小计	比例
我没有掌握	3	 5.08%
我掌握得不太好	8	 13.56%
说不好我掌握了没有	31	 52.54%
我基本掌握了	15	 25.42%
我掌握得很好	2	 3.39%
本题有效填写人次	59	

6.您在日语课上学过「努力する」「勉強する」等这类可以加「する」的汉字词吗？或者，您在课本或教辅书上看到过这类词的解释和例句吗？

选项	小计	比例
我学过/我看到过	52	 88.14%
我没有学过/我没有看到过	7	 11.86%
本题有效填写人次	59	

7.如果您学过或看过，老师/课本/教辅书是如何解释这类汉字词的用法的？您认为这些解释怎么样？

8.您希望接受的汉语动名词的指导是什么样的？请具体写出 2~3 句话。

付録 5 [第 12 章]学習シートに関するインタビュー

- ・インタビュー実施日：2024 年 10 月 14 日
- ・インタビュー方法：zoom を用いたオンライン会議
- ・質疑と回答は主として日本語で行われたが、一部中国語で会話がなされた。それについては、筆者の責任で日本語に翻訳している。

1	・ 中国での指導歴 ・ 指導している学生のレベル ・ 使用している教科書
	中国での指導歴、2017 年からなので、今年で 8 年目かな。指導している学生のレベルは、最初 2017 年から 19 年くらいまでは 3 年生。今まではずっと 2 年生を教えているので、レベル的には 3 年生は N2 くらい、2 年生は N4 から N3 くらいかな。使用している教科書。今の教科書は『新經典日本語』です。
2	・ 今の指導でどの程度漢語動名詞を教えているか？ ・ 学生の漢語動名詞の知識量について教師として感じることはなにか？ ・ 学生が漢語動名詞の知識を増やす上で、教師として必要と考えていることはなにか？
	意識して教えたことはないです。新出単語のリストに出てくる場合に限って教えています。学生の漢語動名詞の知識量について、教師として感じることは多分学生は何も意識を持っていないかもしれません。 現在の学生はあまり自分から学ぼうとしないんです。どう言えばいいのでしょうか？つまり、教師が意識的に教えないと、学生は自分で意識して学ぼうとはしないんです。
3	・ 今回の学習シート全体に対する評価点
	この学習シートは、まずどのレベルの学生を対象にしているんですか？（上級レベルですね。）それだと、3 年生か 4 年生ですね。でも、4 年生には問題があって、4 年生は授業が 8 週間しかなく、ほとんど授業を受けないんです。1 年間で 32 週の授業がある中で、3 年生までが普通で、4 年生は 8 週間だけしか授業がないんです。そしてほとんどが卒論指導や卒論の執筆がメインです。だから、4 年生はもうとくに新しいことを学ぶのは難しく、この表は 4 年生にはあまり使えないかもしれ

	ません。今、1クラスに20～30人いますが、毎年3年生の時にN1に合格するのは1～2人だけです。だから、大部分の学生はN2からN3のレベルに集中しているでしょう。このシステムを使って評価するには、確かにとても良いですね。
4	・今回の学習シート全体に対する疑問点や問題点
	ただ、最初に問題があるのは、私たちが研究を行う際にジャンルのことを気にかけることです。学生たちは、学ぶことにどんな必要性があるのかを感じていないかもしれません。例えば、「白書」と「安全」という二つがあったとして、どちらを選べばいいのか？そういったことですね。「安全」や「国土交通」などの分野で、それらをどう区別して使うのか、なぜ学ぶ必要があるのか？学生たちの目標意識が強くなければ、このシステムを意識的に使おうとしないかもしれません。 （もし教師が解説シートを使って教える際に、例えば「白書」にはどのような特徴があるかを説明することができれば、白書は公式で正式な政府の報告書だということを学生に理解させられると思います。そして、法律とはどんな特徴を持っているか、雑誌にはどんな特徴があるかを説明して、学生が理解できるようにする。それぞれの単語が、どのような場面で使われるかを説明できるようになると良いでしょう。） 一つの前提として、今の授業は基本的に教科書に沿って進められていて、研究の課題としては「漢語動名詞」などを扱いますが、その他の教師たちは、この方面の知識が十分でないかもしれません。彼らは漢語動名詞についての知識を持っていないでしょう。もう一つは、授業のカリキュラムが決まっている中で、貴重な授業時間を割いて「ジャンル」について説明するのは難しいかもしれません。その授業時間はとても限られています。以前、3年生の後期から「科学日本語」「文献読解」「科学日本語翻訳」のような科目がありましたが、その中で、どう説明したらいいか、そんなに細かくは取り扱っていません。例えば「新エネルギー」や「環境保護」など、一部の白書や教育白書の種類は、科学日本語ではほとんど扱われていません。あるいは、現在の教科書ではあまり触れられていないのです。だから、教科書にはこのような種類が含まれていないでしょう。これに関しては、同時にこれらすべてを1つの授業に盛り込むことは難しいです。そういった授業は存在していないように感じます。 もう一つの問題は、教師自体がその分野の知識を持っていないことです。さらに、この表をどのように活用したいのか、授業の導入で教師が説明して、学生が回答する形式なのか、それとも別の方法なのか？

	正直なところ、それをそのまま学生に使わせるのは難しいですし、大部分の教師もそのことを知らないでしょうが、他の人もそれを行っているのを見たことがあります。日本人にとっては、社会的な知識基盤があれば、このような分類を知ることができるかもしれませんが、しかし、中国の学生に見せたとしても、彼らはまだ理解できていないでしょう。
5	・ I についての具体的な改善提案
	ジャンルごとに、新聞や白書から抜粋した短い文章を追加するような形式です。例えば、豆知識みたいな感じで、そんなに長くなくていいです。とくに多くなくてもよくて、画面上にその文章が出てきて、その中に単語が出てきた場合には、その単語に下線を引くような形です。そして、その後に単語の使用頻度を表に示すと、学生たちはまず直感的にその単語の使われ方や登場するシーンを把握することができ、その上で「この単語はこういう場面で使われるんだな」と考えるようになりますと思います。その単語もそうですね。学生たちは今、小さい動画を見るのが好きですよ。文章に文字があり、簡単な図やイラストのようなものを加えるといいかもしれません。ただ、全てに絵を入れる必要はなくて、一部の教材では豆知識のような形式で説明文がついていますよね。導入の文章もそんなに長くなくていいです。3～4行でもいいくらいです。例えば、何かから抜粋して、それを一目見ればその文章がどのジャンル（例えば情報系か白書系か）に属するか、少し印象を持てるようになると思います。そして、シートに中国語訳を追加すればいいと思います。
6	・ II についての具体的な改善提案
	品詞性に関する知識は中国語の解説が必要です。 これらの例をこの図と融合させることはできますか？それとも図を壊してしまえますか？直接そのまま載せるとすぐに理解できるかもしれませんが、そうでなければページを行ったり来たりすることになりますね。前後を絶えず確認しなければならなくなります。 私は「動詞性名詞」があまり理解できません。最初にこうやって見た場合、それがどうやって動詞性名詞だと分かるのでしょうか？補足して完全な文にした方がいいのでは？ （問題シートについては）もし上の内容を見た後にやるのであれば、多くの人が記憶に頼って答えると思います。それが名詞性動詞としても使え、名詞性名詞としても使える場合はありますか？もしこれらの単語だけを見ると、二通りの使い方があっていいのではないですか？学生に最もよく使われるものを選ばせればいいのでは？最も

	典型的なものです。この内容を問題の指示文にもう少し詳しく書いた方がいいですね。 助詞を少し決めてあげると、学生はその後の形式が分かるようになるでしょう。 後ろに中国語のヒントを付けて、この文の意味を書かせるようにしてはどうですか。例えば、ここでは受動態とかを考えずに、すべて普通の時制や態で書けばいいんです。
7	・Ⅲについての具体的な改善提案
	背景を少し加えるのはどうでしょうか？例えば、この図の下に注釈を追加するとか。（その注釈は中国語で書いた方がいいんじゃないですか？）私もそう思います。学生たちは、長い日本語の説明を読む気にはならないでしょう。たとえば、2024年の研究結果や、研究中の内容について少しだけ触れるくらいでいいですよ？ 例文ですね。例文は分類に対応していないんですか？それとも学生に見せるだけでいいですか？（見せるだけです。これは分類に対応していませんが、教師が説明することを期待しています。） 4番目と5番目の最後の2つを、別の形式で強調して、5つのグループの違いがわかるようにできませんか？この問題はそんなに抽象的ではないので、学生たちもこの問題は楽しんで解くと思います。難易度的に、最初に置いた方がみんなに受け入れやすい気がします。 最初の2つの問題を見たら、学生たちは混乱してしまい、先に進む気にならないかもしれません。でも、この問題は、普段の教科書の学習方法と少し関連しているので、学生たちにも馴染みやすいです。しかも、この問題は簡単すぎませんか？動詞形でどの名詞を修飾しているかを書き出すだけなので、学生たちは文の中から直接探すことができます。学生たちにとっては、とても簡単で、探し出すのも喜んでやるでしょう。自信もつくでしょうね。その問題はとても人気が出るはずです。前の問題についてもう少し考えてみて、学生が興味を引けるようにして、読み進める気にさせられるようにしましょう。
8	・Ⅳについての具体的な改善提案
	最初に説明を入れるのはどうでしょう？例えば、「以下は何々に基づいて作成したシステムです」とか、「このシステムは何のために設計されたのか」を簡単に述べるなど。もし学生に直接見せるなら、その説明を追加する必要がありますね。まずはシステムを作る、それが大事ですね。後で時間ができたら、学生にやらせてみま

しょう。私は今、12 ページにある解説シートを見えています。最初に、この表は文章か口語かは関係なく使うんですか？全体の使用量を見えています。なぜこのいくつかの単語を比較するんですか？

だから、彼らに知ってほしいのは、和語だからといって必ずしもよく使われるわけではなく、漢語の言葉が少ないけれど、和語動詞だからといって必ずしもよく使われるわけではないということです。

でも、この表を見たら、例えば「使う」がたくさん使われているように見えるかもしれません。そして、下の問題を解いても、「使う」を選びたくなるかもしれません。例えば、9 番目の問題では「使う」を選びたかったけど、あなたの答えは違っていた。(実際にもっと使われるのは「使用する」です。)

例えば「資源」や「廃物」に、「使う」という単語があれば、なぜ使えないのでしょうか？

まだはっきりしていませんが、例えば「使用する」と「使う」を並べて問題を作るといいかもしれません。学生が少しずつ感じ取れるようにします。例えば、「「使う」はもっと口語的で、「使用する」はもっとフォーマルな場面で使われる」など、なぜそれを使うのかが少しわかるように。

そうでないと、学生は答えを見た後も「なぜこの答えなのか、問題の意味は何だったのか」わからなくなってしまう。「考える余地がなかったし、間違っていたかどうかもわからなかった」と感じるでしょう。

その問題はあまり学生に学習の成果を与えられないので、どう修正したらいいかわかりませんが、そんな感じがします。典型を選べと言われても、学生は結局覚えていないかもしれません。彼らはどちらが正しいのかに悩むだけで、最終的に納得できないんです。

もしくは、「用いる」は基本的に書面語でしか使われないと教えるのも良いでしょう。口語ではあまり使われませんよね。

その下の例文では、単語だけでなく、文全体を使って、例えば長い文章で書かせるとか、そうすればその文全体が書面語で使われるものだとわかります。

「定期券」なら、駅の案内の文や説明文などを例文に使い、その定期券の使用方法を書いた文を見せれば、学生はすぐに「これは書面語だ」とわかるでしょう。そして、システムを使って確認すれば、その文がより明確になると思います。

もう一つの問題は、同義語が多すぎて、どれを選んでいいかわからず、混乱することです。こういう感覚はありますか？「活用」は区別がつくけれど、「用いる」と

	「利用する」については、選択肢を提供して、その違いを実際に感じ取らせることができます。 わかりました。練習問題の中にすべてを入れる必要はないですね。 大部分は入れなくて良いです。そうですね、2つ選択肢を与えて、どちらかを選ばせる方が良いです。例えば、2つ目の問題で「用いる」と「利用する」からどちらかを選ばせるようにするなど。 シチュエーションと意味を組み合わせ、2つの中からどちらが適切かを選ばせる方がやりやすいですね。そうです。第2問は5つの選択肢から選ぶ形式で、第1問は2つから選ぶという形ですね。そして、第2問では受動態の問題も含まれているので、中国語で説明を少し書いた方がいいのではないのでしょうか？ 見た目は同じに見えますね。とくに3番目の問題は学生にとって少し難しいかもしれません。「利用される」「簡単に利用される」などは、すぐには思いつかないかもしれませんね。やはり中国語で少し説明を加えた方が、分かりやすくなると思います。
9	・ Vについての具体的な改善提案
	「日中同形語の学習シート」についてですが、この2つの単語を選んだ理由は何ですか？ 中日で使用頻度が大きく異なるからですか？ (いえ、この2つは、学習者が作文で最も間違いやすい単語として調査で判明したものです。) そのことを学生に教えないんですか？ 例えば解説部分で説明するとか。学生に伝えるべきですね。 選んだ理由を加えるんですね？ (前章でこの2つを比較の対象にしたため、最終的なシステムにもこの2つを選んでいます。) 実際に教材に使用する際は、全ての日中同形語をこのように比較する必要があります。) すべてそうやって比較するんですね？ (はい、将来的にはそうなります。) それは大規模なプロジェクトですね。解説システムを読んで問題を解こうとしましたが、最初にどのように直せばよいのか分からなくなっていました。最初の解答を見ないと、どこに間違いがあるのか分かりません。 それも可能です。 直すべきかどうか迷いますね。

	その使い方が動詞寄りであるからですね？あなたは日語では名詞性が強いと言っていないでしたか？その通りです。ここで矛盾しませんか？ ここで意味を区別する必要があるんですか？主語を選ぶ必要がありますか？意味を区別する必要はありません。主語が学生で、その答え方を見えます。 でも、前の解説でそのように言っていましたか？主語によって名詞性か動詞性を選ぶといった説明がありましたか？ 今のところ、そういった説明はありません。追加した方がいいですか？ そうです。でも、学習者の作文調査を行った際、よく間違っていたのは... この問題、間違いですか？あなたが書いた答えは意味としては合っていますが。初期の目的とは少し違っているかもしれませんね。17 ページのシステムには、漢語では「比」は動詞ですが、日本語では名詞として使われることが多いと書いてあります。それを名詞のまま使うようにしたいんですか？ 最初の問題では、答えが「脳頸病」ではなくても合っていると判定されている。 この問題はそのままにしておいてください。 最初に少し迷ったのは、すぐに動揺したからではないでしょうか？この問題はダメです。直したほうが良さそうです。 第 5 問での修正は、動詞の格助詞に関するものでしたね？ この問題に疑問はありませんが、2 問目は中国語から日本語に変えたので、この 2 つの単語の意味を確認する必要がありましたね？そうです。例えば 1 問目では、「私は出発の準備をした」と書いてあるけれど、日本語では「準備する」という言葉は使えないということです。 上にも書いてありますが、その場面では日本語では「利益」などを使います。 そうですね。問題文をもう少し明確にした方がいいです。 もう一度言い直しますか？ みんなにちゃんと説明して、正しい日本語を使うようにしてほしい。全ての単語を「準備」と「確認」に当てはめる必要はなく、その点を考えさせるべきだと思う。問題には注意が必要だが、どの方向に注意すべきかがみんなには分からないという印象を受けた。
10	・ こうしたシートを仮に使用するとした場合、どのような授業設計が考えられるか？

	現状を踏まえると、最終的に中国の大学生向けの学習シートは、中級レベル（大学2年生や3年生）の学生を主な対象とするのが適切だと考えられます。授業後の復習や総まとめに使える自習教材として、そういった方向に修正することができます。

謝辞

本論文の執筆にあたり、多くの方々に多大なご支援を賜りました。この場を借りて、厚く御礼申し上げます。

まず、指導教員である石川慎一郎先生に、心より感謝申し上げます。博士後期課程の研究生として入学して以来の3年半にわたり、研究活動全般において丁寧かつ熱心なご指導と温かいご支援を賜りました。先生からは、知識や研究手法にとどまらず、研究者としての心構えや実践的な知見も多く学ぶことができました。特に、困難に直面した際には、励ましのお言葉や的確なアドバイスをいただき、大きな支えとなりました。石川先生のご指導は、私の研究人生におけるかけがえのない財産です。改めて深く御礼申し上げます。

次に、柏木治美先生、木原恵美子先生、グリア・ティモシー先生、朱春躍先生、大和知史先生、佐藤健先生、芹澤円先生、陳曉先生、高橋康德先生には、集団指導・コロキウムをはじめ、多くの機会でご貴重なコメントや助言をいただきました。そして、統計数理研究所の研究会、言語資源ワークショップ、計量国語学会、語彙研究会大会では、発表の機会をいただき、統計数理研究所の前田忠彦先生には統計手法のご指導を、語彙研究会会長の田島毓堂先生には語彙研究の立場からのご助言を、計量国語学会会長の山崎誠先生、国立国語研究所の柏野和佳子先生と松下達彦先生には、コーパス言語学の立場から専門的な御教示をいただきました。心より感謝いたします。

また、上述の語彙研究会より令和5年度「公益信託田島毓堂語彙研究基金」研究助成をいただき、漢語動名詞の言語特性調査を完了することができました。また、公益財団法人ロータリー米山記念奨学会からの奨学金のおかげで、生活費の心配なく研究に専念することができました。心より感謝申し上げます。

なお、中国人日本語学習者のデータ収集とインタビューにご協力いただいた中国西安理工大学の李楓先生、調査に協力してくださった中国の学部生の皆様、神戸大学大学院および同志社大学大学院の留学生の皆様にも深く感謝いたします。

最後に、研究室の先輩方、後輩の皆様、両親、友人に心より感謝申し上げます。そして、いつも支えてくださった推しの皆様には、特別な感謝の意を表します。「頑張らんでもええ、でも負けんな!」という言葉は、私の心に深く響き、何度も励まされました。本当にありがとうございました。